

MD6430A
ネットワークデータアナライザ
取扱説明書
リモートコントロール

第6版

安全にお使い頂くための重要事項は
MD6430A ネットワークデータアナライザ取扱説明書本体に
記載してありますのでそちらをお読みください。
本書は製品とともに保管してください。

アンリツ株式会社

管理番号 : M-W1543AW-6.0

MD6430A ネットワークデータアナライザ
取扱説明書
リモートコントロール

1999 年 3 月 12 日（初版）
2001 年 1 月 18 日（第 6 版）

-
- ・ 予告なしに本書の内容を変更することがあります。
 - ・ 許可なしに本書の一部または全部を転載することを禁じます。

Copyright © 1999-2001, ANRITSU CORPORATION
Printed in Japan

商標

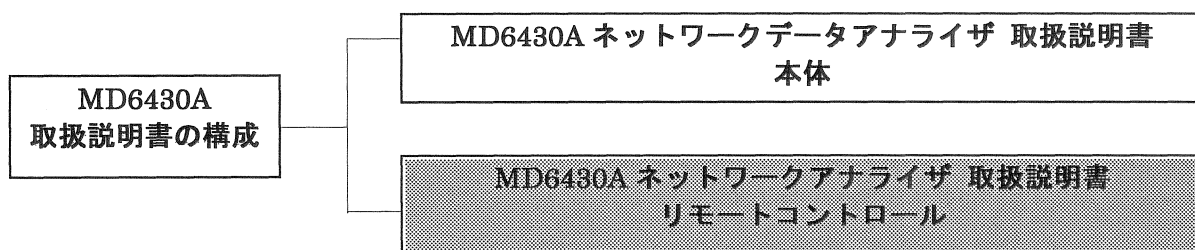
Microsoft, Visual Basic, Windows95 は
米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

(空白)

はじめに

取扱説明書の構成

取扱説明書は本体とリモートコントロールの 2 冊で構成されています。目的に合わせてご利用ください。



- **MD6430A ネットワークデータアナライザ取扱説明書 本体**
MD6430A の概要，使用前の準備，パネルの説明，規格，性能および操作方法を解説します。
- **MD6430A ネットワークデータアナライザ取扱説明書 リモートコントロール**
外部インタフェースによる制御，およびプログラム例について解説します。
外部インタフェースには，RS-232C（標準装備）と，GPIB（オプション 01）が用意されています。

目 次

はじめに	1
1 章 概要	1-1
1.1 リモート制御機能	1-2
1.2 システムアップ例	1-3
2 章 リモートインタフェースの接続と設定	2-1
2.1 RS-232C インタフェース	2-2
2.1.1 RS-232C ケーブルの接続	2-2
2.1.2 RS-232C の設定	2-4
2.2 GPIB インタフェース（本体オプション 01）	2-5
2.2.1 GPIB ケーブルの接続	2-5
2.2.2 GPIB の設定	2-7
2.2.3 GPIB インタフェースファンクション	2-8
3 章 イニシャル設定	3-1
3.1 デバイスの初期化	3-2
3.2 電源投入時のデバイスの状態	3-3
4 章 デバイスメッセージの概要	4-1
4.1 デバイスメッセージリスト	4-2
4.2 入力フォーマット	4-3
4.3 出力フォーマット	4-7
4.4 共通コマンド	4-9
5 章 リモートコマンド階層	5-1
5.1 コマンド一覧	5-2
5.1.1 SYSTem サブシステム	5-3
5.1.2 SOURce サブシステム	5-6
5.1.3 SENSE サブシステム	5-10
5.1.4 DISPlay サブシステム	5-13
5.1.5 CALCulate サブシステム	5-16
5.1.6 TEST サブシステム	5-17
5.1.7 STATus サブシステム	5-17
6 章 リモートコマンドフォーマット	6-1
6.1 SCPI の概要	6-2
6.1.1 コマンドの詳細説明の読み方	6-3
6.1.2 コマンド記述法	6-4
6.2 SYSTem サブシステム	6-5
6.3 SOURce サブシステム	6-74
6.4 SENSE サブシステム	6-122
6.5 DISPlay サブシステム	6-165

6.6	CALCulate サブシステム	6-207
6.7	TEST サブシステム.....	6-234
6.8	STATus サブシステム	6-238
7	章 ステータス報告	7-1
7.1	MD6430A のステータスレジスタの構成	7-2
7.2	IEEE488.2 規定ステータスレジスタ	7-4
7.3	SCPI 規定ステータスレジスタ	7-6
7.4	MD6430A 固有ステータスレジスタ	7-8
8	章 エラーメッセージ	8-1
8.1	コマンドエラー	8-2
8.2	実行エラー	8-3
8.3	装置固有エラー	8-4
8.4	問い合わせエラー	8-4
9	章 サンプルプログラム	9-1
9.1	作成環境・概要	9-2
9.2	サンプルプログラム動作詳細	9-3
9.2.1	フローチャート	9-4
9.3	サンプルプログラム及びサンプルプログラム・ソースのセットアップ.....	9-6
9.4	サンプルプログラムの実行	9-7
9.5	画面の説明	9-10
9.6	プログラムの構成.....	9-14
9.7	サンプルプログラム本器設定条件.....	9-18
9.8	ソースプログラム.....	9-20
付 録	付-1	
付録 A	コマンドの一覧表	1
A.1	MD6430A 画面.....	1
A.2	Setup 主画面	2
A.3	Interface 主画面	8
A.4	Measure 主画面	11
A.5	Analyze 主画面.....	20
A.6	正面パネル・その他	24

1章 概要

1.1 リモート制御機能

MD6430A ネットワーク データ アナライザは、外部コントローラと接続することにより、リモートの制御や自動測定を行うことができます。なお、リモートインタフェースとして RS-232C（標準装備）と GPIB（オプション 01）を装備し、リモート制御コマンドとして SCPI（Standard Commandes for Programable Instruments）を採用しています。

以下にリモート/ローカルの状態遷移を示します。

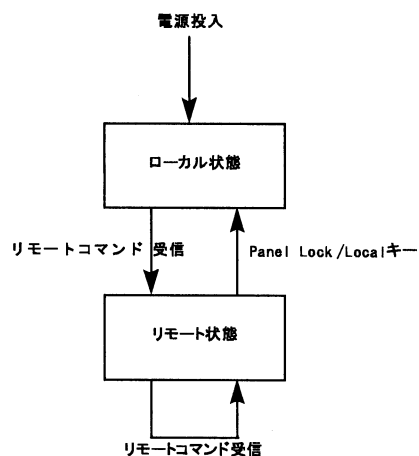


図 1.1-1 リモート/ローカルの状態遷移

- リモート状態では、タッチパネル、Quick キー、Print Now キー、カーソルキーによる操作が無効になります。

1.2 システムアップ例

リモート制御機能を用いたシステムアップの例を下に示します。

■ ホストコンピュータ制御

ホストコンピュータを接続して、自動計測システムを構成できます。

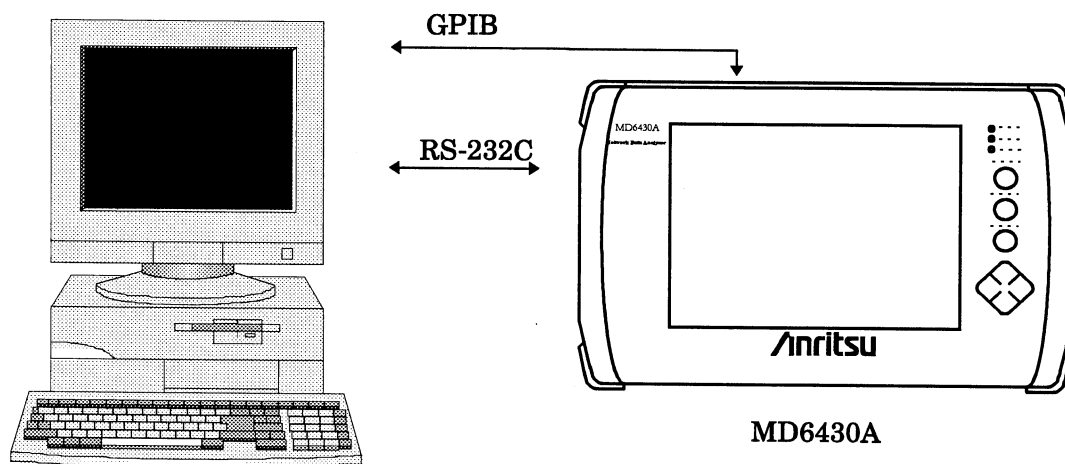


図 1.2-1 ホストコンピュータ制御

(空白)

2章 リモートインタフェースの接続と設定

2.1 RS-232C インタフェース

2.1.1 RS-232C ケーブルの接続

RS-232C ケーブル接続用のコネクタは、右側面に取り付けられています。RS-232C ケーブルの接続は、必ず電源を投入する前に行ってください。ご使用になるコントローラがD-sub9pin の場合(IBM-PC/AT 等)は、図 2.1-2のような結線を、D-sub25pin の場合(PC9801 など)は、図 2.1-3のような結線を行ってください。

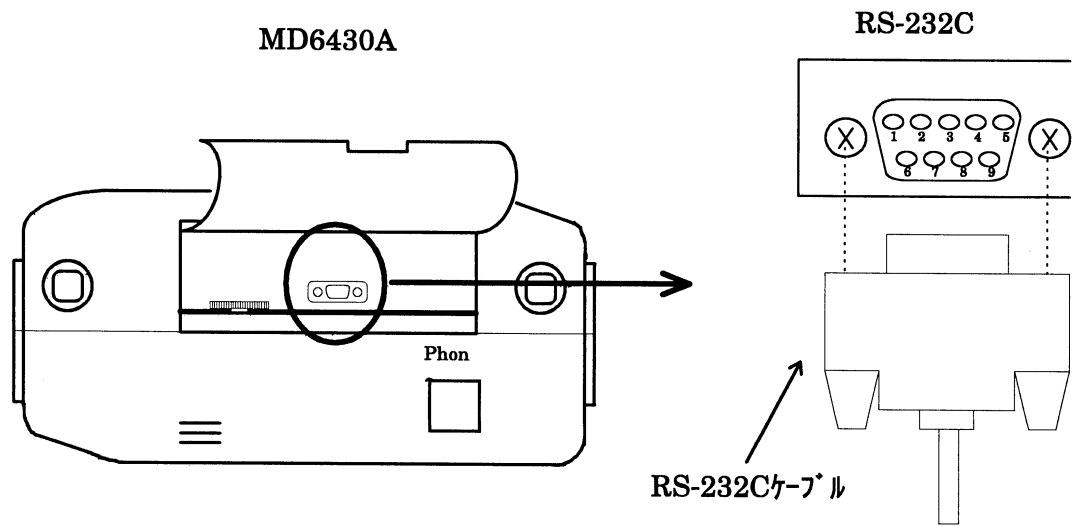


図 2.1-1 RS-232C ケーブルの接続

表 2.1-1 RS-232C ピン配置

No	I/O	Name
1	I	DCD (CD) Carrier Detect
2	I	RXD (RD) Receive Data
3	O	TXD (SD) Send Data
4	O	DTR (ER) Equipment Ready
5	-	SG Signal Ground
6	I	DSR (SR) Data Set Ready
7	O	RTS (RS) Request to Send
8	I	CTS (CS) Clear to Send
9	-	-

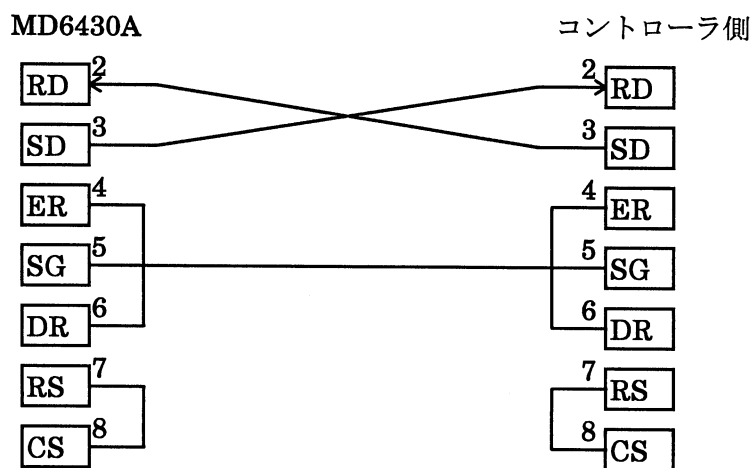


図 2.1-2 D-sub9pin との接続

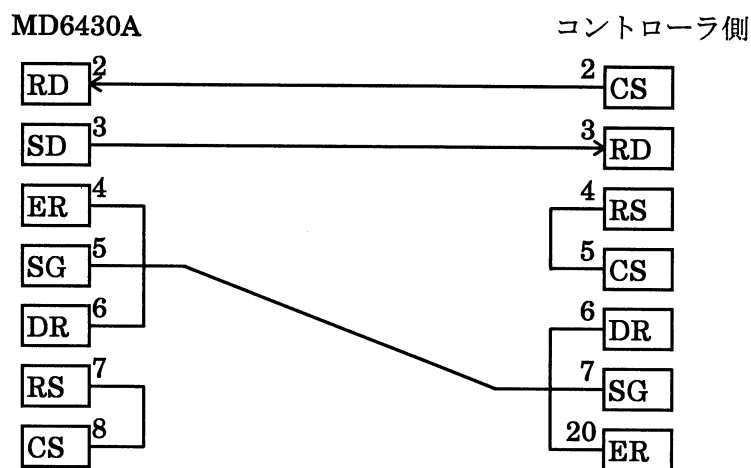


図 2.1-3 D-sub25pin との接続

2.1.2 RS-232C の設定

リモートインタフェースとして RS-232C を使用する場合は、装置をローカル状態にしており、下記に示す設定を、本器の画面で行ってください。設定は装置がローカル状態であれば、常時変更できます。

表 2.1-2 RS-232C の設定

設定内容	設定項目	設定範囲	初期値
ボーレートの設定	Speed	300, 600, 1200, 2400, 4800, 9600, 19200	9600
キャラクタ長の設定	Character length	8bit, 7bit	8bit
パリティの設定	Parity	None, Even, Odd	None
ストップビット長の設定	Stop Bit	2bit, 1bit	1bit
フロー制御の設定	Flow Control	Ready/Busy, X-ON/X-OFF	X-ON/X-OFF

上記の設定は Setup:System 画面で行います。以下に設定の手順を説明します。

1. Setup:System 画面を開きます。

Remote Interface を RS-232C に設定します。

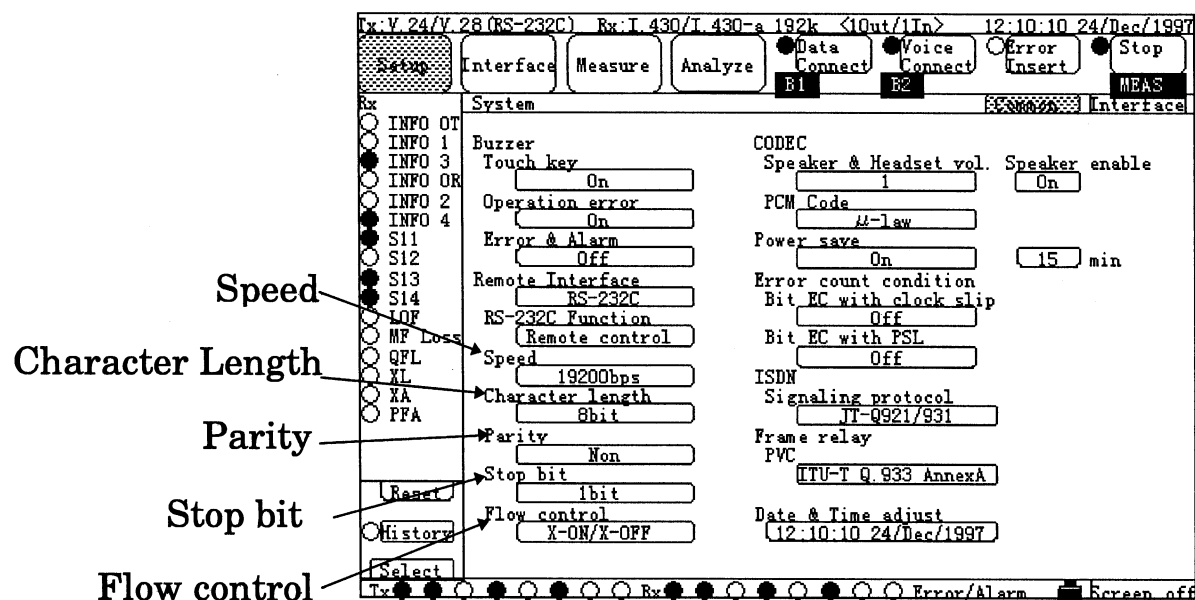


図 2.1-4 Setup:System 画面の Common

2. 各項目ごとに、ご使用する環境に合わせて設定してください。

2.2 GPIB インタフェース (本体オプション 01)

2.2.1 GPIB ケーブルの接続

GPIB ケーブル接続用のコネクタは、上面パネルに取り付けられています。GPIB ケーブルの接続は、必ず電源を投入する前に行ってください。外部コントローラと接続する場合は、必ず MD6430A オプション 01 専用 GPIB ケーブル (J1026A) を使用して下さい。

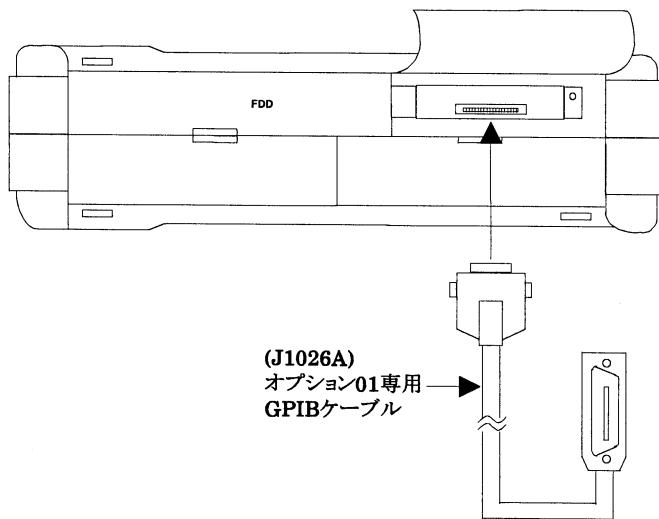


図 2.2-1 GPIB ケーブルの接続

表 2.2-1 GPIB ピン配置 (IEEE488 規格)

No	名称	No	名称	No	名称
1	DIO1 Data Input Output1	9	IFC Interface Clear	17	REN Remote Enable
2	DIO2 Data Input Output2	10	SRQ Service Request	18	GND
3	DIO3 Data Input Output3	11	ATN Attention	19	GND
4	DIO4 Data Input Output4	12	GND	20	GND
5	EOI END or Identify	13	DIO5 Data Input Output5	21	GND
6	DAV Data Varied	14	DIO6 Data Input Output6	22	GND
7	NRFD Not Ready For Data	15	DIO7 Data Input Output7	23	GND
8	NDAC Not Data Accepted	16	DIO8 Data Input Output8	24	GND

※信号線はすべて input/output 可

MD6430Aの GPIBコネクタ側		IEEE488 コネクタ側
1	DIO1	1
2	DIO2	2
3	DIO3	3
4	DIO4	4
5	EOI	5
6	DAV	6
7	NRFD	7
8	NDAC	8
9	IFC	9
10	SRQ	10
11	ATN	11
12	GND	12
13	DIO5	13
14	DIO6	14
15	DIO7	15
16	DIO8	16
17	REN	17
18	GND	18
19	GND	19
20	GND	20
21	GND	21
22	GND	22
23	GND	23
24	GND	24
25		
26		

図 2.2-2 オプション 01 専用 GPIB ケーブル (J1026A) 接線図

2.2.2 GPIB の設定

リモートインタフェースとして GPIB を使用する場合は、本器をローカル状態にしておき、下記に示す設定を、本器の画面で行ってください。設定は本器がローカル状態であれば、常時変更できます。

表 2.2-2 GPIB の設定

設定内容	設定項目	設定範囲	初期値
装置番号	Address	0～30	1

上記の設定は Setup:System 画面で行います。以下に設定の手順を説明します。

1. Setup:System 画面を開きます。
Remote Interface を GPIB に設定します。

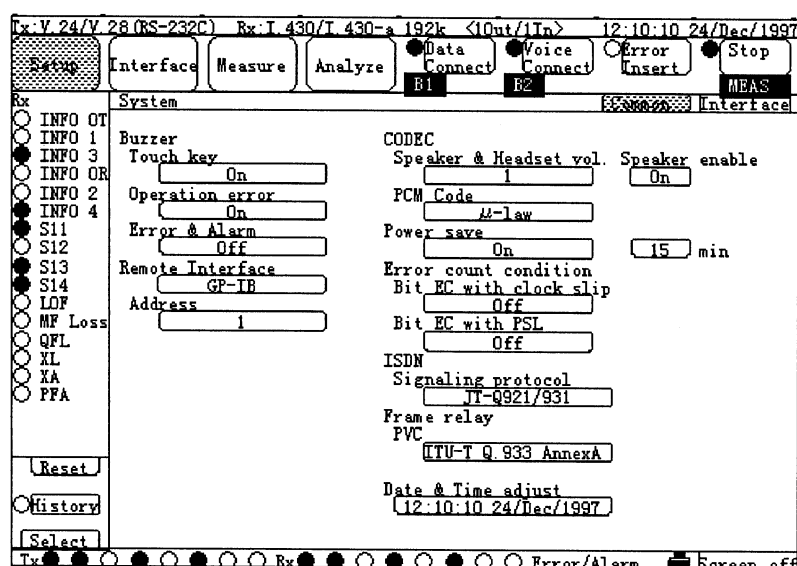


図 2.2-3 Setup:System 画面の Common

2. ご使用する環境に合わせて設定してください。

2.2.3 GPIB インタフェースファンクション

本器はデバイスとしての機能を持ち、コントローラとしての機能は持っていません。そのためインタフェースファンクションはIEEE488.2 規定に対して下の表のようになります。

コード	インタフェースファンクション	IEEE488.2規定
SH1	ソースハンドシェイクの全機能あり	全機能標準装備
AH1	アクセプタハンドシェイクの全機能あり	全機能標準装備
T6	基本的トーカ機能あり シリアルポール機能あり トークオンリモード機能あり MLAによるトーカ解除機能あり	デバイスはT5、T6、TE5、TE6いずれかのサブセットを有すること。
L4	基本的リスナ機能あり リスンオンリモード機能なし MTAによるリスナ解除機能あり	デバイスはL3、L4、LE3、LE4いずれかのサブセットを有すること。
SR1	サービスリクエストの全機能あり	全機能標準装備
RL1	リモート・ローカルの全機能あり	RL0(機能無し)またはRL1(全機能)
PP0	パラレルポール機能無し	PP0(機能無し)またはPP1(全機能)
DC1	デバイスクリアの全機能あり	全機能標準装備
DT1	デバイストリガの全機能あり	DT0(機能無し)またはDT1(全機能)
C0	システムコントローラの機能無し	C0(機能無し)もしくはC4とC5、またはC7、C9、C11のいずれか。

2.2.4 バスコマンド

バスコマンド：バスのモードがコマンドモードの時(ATNラインが”L”の時)に送られるインタフェース内部通信のことです。

バスコマンドの一覧を下表に示します。

バスコマンド	動 作
DCL(Device clear)	GPIBバスに接続されている全装置のメッセージ交換を初期化します。
SDC(Selected Device Clear)	アドレスされた装置のメッセージ交換を初期化します。動作はDLCと同じです。
GET(Group Execute Trigger)	Start/Stopキーが押された場合と同じ動作を行ないます。
IFC(Interface Clear)	インタフェースを初期化します。

2.2.5 バスの初期化

IFC	IFC ステートメントによるバスの初期化
概 要	コントローラからの IFC メッセージによって、バスに接続されたすべてのインタフェース機能を初期化します。
機 能	IFC ラインを約 100 μ s の間アクティブ状態にし、GPIB バスラインに接続されているすべてのデバイスのインタフェース機能を初期化します。 IFC は、システムコントローラのみが送信できます。

2.2.6 メッセージの初期化

DCL, SDC	DCL, SDC バスコマンドによるメッセージ交換の初期化
概 要	GPIB バスコマンド DCL によって GPIB 上の全デバイス, またはバスコマンド SDC によって指定したデバイスのメッセージ交換の初期化やオペレーションが終了したことを, コントローラへ報告する機能を無効にします。
機 能	GPIB 上の全デバイス, または指定したデバイスだけの、メッセージ交換に関する初期化を行ないます。 パネルの設定状態を変える必要はないが、他のプログラムの実行などで、デバイス内部のメッセージ交換に関する部分がコントローラから制御するためには不適当な状態になっている場合に、メッセージ交換を初期化します。メッセージ交換を初期化することによって、コントローラから新しい命令を送ることができます。

DCL : GPIB 上のすべてのデバイスに対するメッセージ交換を初期化します。
SDC : 指定したデバイスに対するメッセージ交換を初期化します。

(空白)

3章 イニシャル設定

3.1 デバイスの初期化

本器では下記のコマンドによって、デバイスの初期化を行います。このコマンドでは IEEE488.2 の定める初期化の第 3 レベル（デバイスの初期化）で初期化を行います。

- *RST 共通コマンド

■ *RST 共通コマンドによるデバイスの初期化

*RST は IEEE488.2 共通コマンドの一つです。

*RST コマンドによってデバイスは下記の状態になります。

- デバイス固有の機能を過去の使用来歴にかかわらずある既知の状態へ戻します。本器では電源スイッチを ON し直した状態と同じ状態へ戻します。

注

*RST コマンドは下記事項には影響を与えません。

1. 出力キュー
 2. サービスリクエスト・イネーブルレジスタ
 3. 標準イベントステータス・イネーブルレジスタ
 4. Power-on-status-clear フラグ設定
 5. デバイスの規格に影響する構成データ
-

3.2 電源投入時のデバイスの状態

電源投入時の本器の状態について説明します。

電源が投入されると下記の状態になります。

1. 最後に電源を **OFF** したときの状態に設定されます。
2. 入力バッファと出力キューは、クリアされます。
3. 構文解析部，実行制御部，応答作成部はリセットされます。

(空白)

4章 デバイスメッセージの概要

4.1 デバイスメッセージリスト

デバイスメッセージは、システムインタフェースを通してコントローラとデバイス間で送受されるデータメッセージで、プログラムメッセージとレスポンスメッセージがあります。プログラムメッセージはコントローラからデバイスへ転送される ASCII データメッセージです。レスポンスメッセージはデバイスからコントローラへ転送される ASCII データメッセージです。プログラムメッセージ、レスポンスメッセージにはそれぞれ次の種類があります。

表 4.1-1 デバイスメッセージリスト

プログラムメッセージ	レスポンスメッセージ
<ul style="list-style-type: none">● プログラムコマンド<ul style="list-style-type: none">・装置固有コマンド（詳細は 6 章）・IEEE488.2 共通コマンド（詳細は 4.4）● プログラム問い合わせ（詳細は 6 章）	<ul style="list-style-type: none">● ステータスメッセージ（詳細は 7 章）● レスポンスメッセージ（詳細は 6 章）

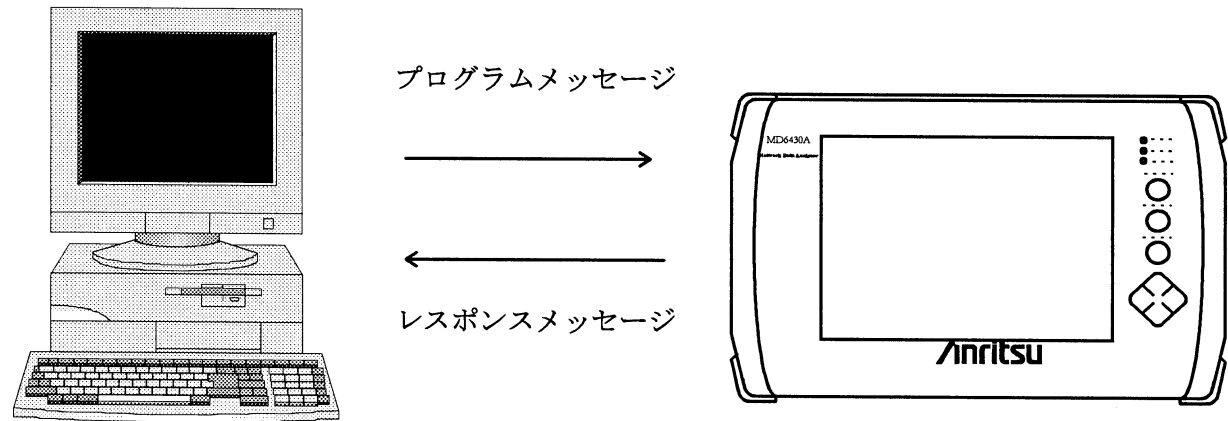


図 4.1-1 デバイスメッセージリスト

また、上述したメッセージはデバイスの入出力バッファを介してやり取りされます。

■ 入力バッファ

入力バッファは、DAB(プログラムメッセージや問い合わせメッセージ)を構文解析する前に一時的に蓄えておく FIFO(First in First out)タイプのメモリエリアです。本器の入力バッファサイズは 510kbyte あります。

■ 出力バッファ

本器には、出力バッファはありません。問い合わせコマンドを受け取るとただちに、レスポンスメッセージが出力されます。

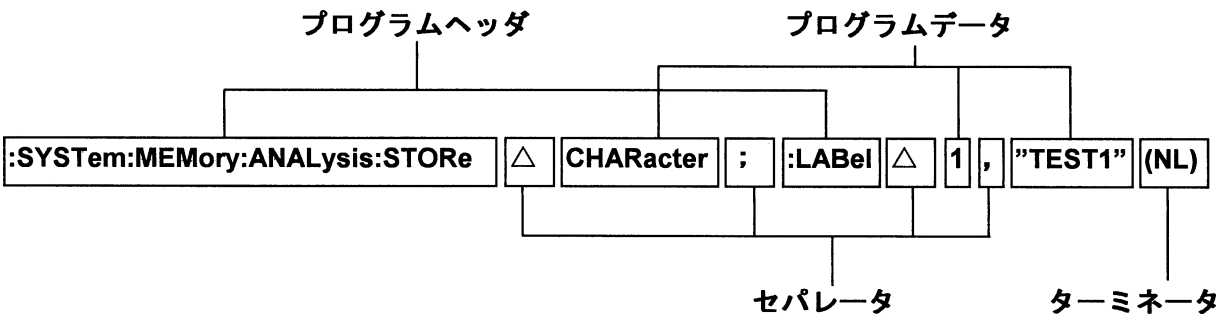
4.2 入力フォーマット

本器のコマンドは SCPI に準拠しているのと共に、IEEE488.2 に準拠しています。IEEE488.2 では、プログラムメッセージを機能要素のシーケンスとして規定しています。

機能要素とは、機能を表すことのできる最小レベルの単位で、大きく分けてセパレータ、ターミネータ、プログラムヘッダ、プログラムデータの4つに分けられます。

例：コントローラから装置へプログラムメッセージ

":SYSTem:MEMory:ANALysis:STORe CHARacter ; :LABel 1,"TEST1""(NL)を送った場合
(分析&プログラマブルデータ保持メモリへキャラクタパターンを保存し、
名前を設定するコマンド)



ここでは、本器のコマンドのフォーマットを4つの分類ごとに説明します。
(説明中の△はスペースを表します。)

- **セパレータ**
セパレータは下表のように3つの機能要素を含んでいます。

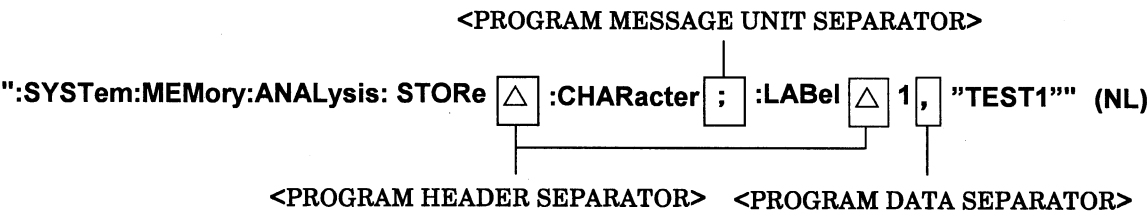


表 4.2-1 セパレータのタイプ

機能要素	説明
<PROGRAM MESSAGE UNIT SEPARATOR>	複数の<PROGRAM MESSAGE UNIT>要素を分割します。 0 個以上のスペース+セミコロンで表します。
<PROGRAM DATA SEPARATOR>	複数のプログラムデータ要素を分割します。 0 個以上のスペース+コンマ+0 個以上のスペースで表します。
<PROGRAM HEADER SEPARATOR>	プログラムヘッダとプログラムデータ要素を分割します。 1 個以上のスペースで表します。

■ ターミネータ

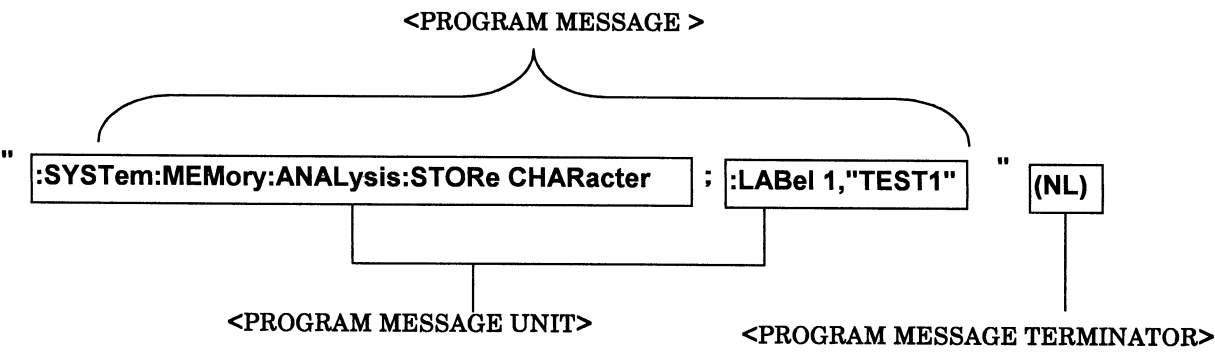


表 4.2-2 ターミネータのタイプ

機能要素	説明
<PROGRAM MESSAGE TERMINATOR>	<PROGRAM MESSAGE> の最後に付加し，一つ以上の<PROGRAM MESSAGE UNIT>のシーケンスを終了させます。LF or EOI or LF+EOI で表します。(EOI は， GPIB インタフェース使用の場合に有効です。)

■ プログラムヘッダ

プログラムヘッダは下表のように2つの機能要素を含んでいます。

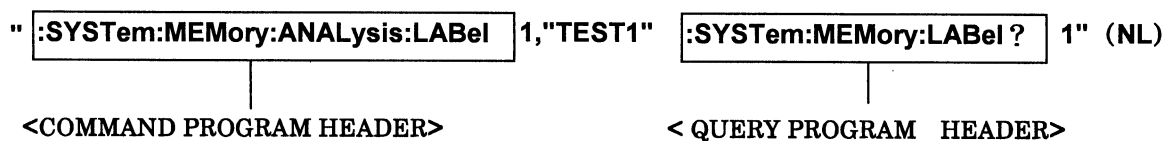
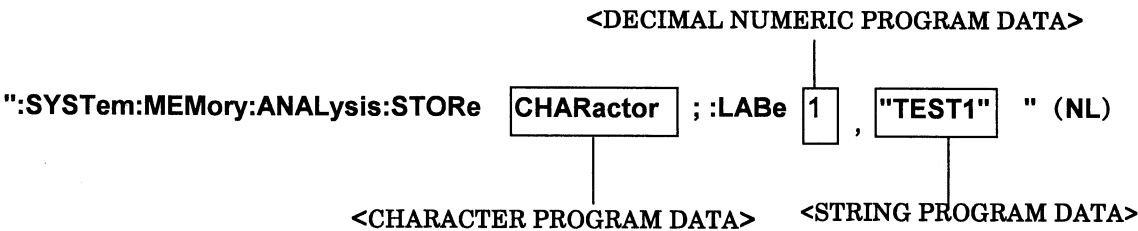


表 4.2-3 プログラムヘッダのタイプ

機能要素	説明
<COMMAND PROGRAM HEADER>	<p>コントローラがデバイスを制御するコマンドです。 本器の<COMMAND PROGRAM HEADER>はコード化文法として、<common command program header>と、<compound command program header>を使用しています。</p> <p><common command program header> IEEE488.2 の共通コマンドがこの文法を使用しています。 例： *RST</p> <p><compound command program header> 装置固有コマンド (SCPI) がこの文法を使用しています。 例： <u>:SYSTem:MEMory:ANALysis:LABel 1,"TEST1"</u></p>
<QUERY PROGRAM HEADER>	<p>コントローラがデバイスからレスポンスメッセージを受信するため、あらかじめデバイスへ送る問い合わせ用のコマンドです。ヘッダの末尾には問い合わせインジケータ?が付けられます。 本器の<QUERY PROGRAM HEADER>はコード化文法として、<common query program header>と、<compound query program header>を使用しています。</p> <p><common query program header> IEEE488.2 の共通問い合わせコマンドがこの文法を使用しています 例： *IDN?</p> <p><compound query program header> 装置固有問い合わせコマンド (SCPI) がこの文法を使用しています。 例： <u>:SYSTem:MEMory:ANALysis:LABel? 1</u></p>

■ プログラムデータ

本器のプログラムデータは下表のように 4 つの機能要素を含んでいます。
コマンドの詳細説明では、装置固有のパラメータタイプに対応した SCPI 規定のプログラムデータのタイプを記述しています。



MD6430A で使用するプログラムデータのタイプを以下に示します。

表 4.2-4 プログラムデータのタイプ

機能要素	説明
<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>	10 進数を表します。特別な数値形式として MINimum, MAXimum などの<CHARACTER PROGRAM DATA> も含まれます。 例： 整数 005, +5, 5, -5 固定小数点 12.345, .05, +0.05, 12.
<BOOLEAN PROGRAM DATA> (SCPI で定義)	論理値を表します。OFF または 0 が偽, ON または 1 が真に対応します。設定のさいは 0/1 でも OFF/ON でも使用できますが、問い合わせに対するレスポンスは 0 か 1 となります。
<STRING PROGRAM DATA>	文字列を表します。シングルコーティションかダブルコーティションで囲んだ ASCII 文字の文字列です。 ロングフォーム, ショートフォームどちらでも使用できます。
<CHARACTER PROGRAM DATA>	キャラクタデータを表します。設定内容に対応した短い文字列で表現されます。ロングフォーム, ショートフォームどちらでも使用できます。

- SCPI では<CHARACTER PROGRAM DATA>と<STRING PROGRAM DATA>の文字列にショートフォームとロングフォームがあります。ショートフォームはロングフォームの省略形で、コマンドの説明では、文字列中の大文字部分として表現しています。
- ショートフォームとロングフォームはどちらを用いても同じ機能として解釈されます。また、説明文中は大文字と小文字の区別をしていますが、実際には大文字／小文字の区別はありません。

例： :SYSTem:MEMory:ANALysis:STORe CHARacter (ロングフォーム)
 :SYST:MEM:ANAL:STOR CHAR (ショートフォーム)

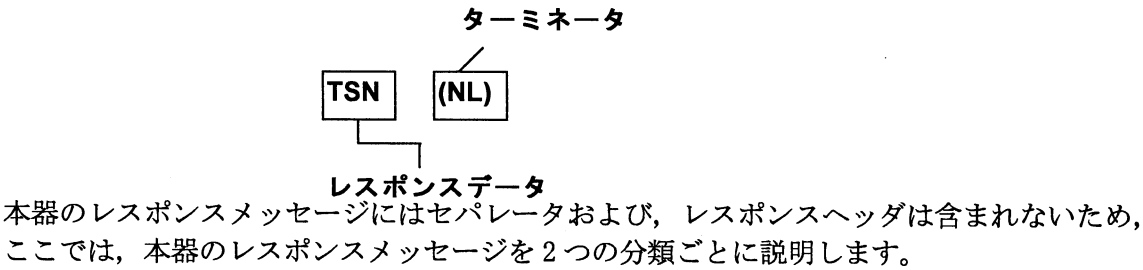
- 本器において<STRING RESPONSE DATA>がビット型の場合で、異なる長さをパラメータに代入した場合、以下のような設定が行われます。
 - ・有効長よりパラメータの方が長い場合は右詰で有効なビット数だけ設定されます。
 - ・有効長よりパラメータの方が短い場合は右詰で設定され、左の余りのビットは前の設定が残ります。

4.3 出力フォーマット

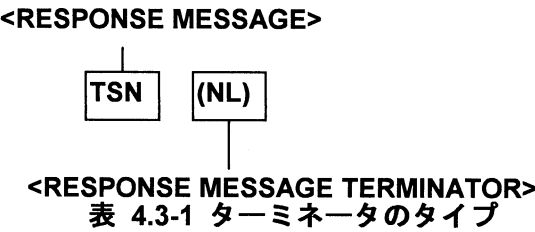
本器のコマンドは SCPI に準拠しているのと共に、IEEE488.2 に準拠しています。
IEEE488.2 では、レスポンスメッセージをプログラムメッセージと同様に機能要素のシーケンスとして規定しています。

機能要素は、大きく分けてセパレータ、ターミネータ、レスポンスヘッダ、レスポンスデータの 4 つに分けられます。

例：測定用タイムスロットの設定状態を問い合わせるコマンド，
:SENSe:TELeom:TSLot?
を送ったときのレスポンス TSN の場合。



■ ターミネータ

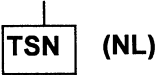


機能要素	説明
<RESPONSE MESSAGE TERMINATOR>	<RESPONSE MESSAGE>の最後に付加し、メッセージの転送を完了させます。 共通コマンド TRM により、LF もしくは、CR+LF から選べます。 GPIB インタフェースの場合、EOI も付加されます。

■ レスポンスデータ

本器のレスポンスデータは下表のように 3 つの機能要素を含んでいます。
コマンドの詳細説明では、装置固有のレスポンスタイプに対応した SCPI 規定のレスポンスデータの形式を記述しています。

<CHARACTER RESPONSE DATA>



問い合わせコマンドに対応するレスポンスの形式を以下に示します。

表 4.3-2 レスポンスのタイプ

機能要素	説明
<STRING RESPONSE DATA>	""で囲まれたストリングが返されます。 ストリングの内容にショートフォームとロングフォームがある場合にはショートフォームが返されます。 レスポンスフォーマットは表 6.6-2 (6-219) を参照。
<CHARACTER RESPONSE DATA>	キャラクタのショートフォームが返されます。
<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>	指数なしの実数の 10 進数値を返します。

- 本器において<STRING RESPONSE DATA>が可変ビット型の場合は、有効なビット長に合わせて、文字列の長さが変わります。クエリの項目が無効のときは、その項目の最大長で '-----'を返却します"

4.4 共通コマンド

本章では、本器でサポートする IEEE488.2 共通コマンドの説明します。
本器のサポートする共通コマンドは、すべてシーケンシャルコマンドです。

IEEE488.2 共通コマンドを機能グループ別に下表に示します。

表 4.4-1 IEEE488.2 共通コマンドリスト

グループ	グループ別機能	ニーモニック
システムデータ	接続されているデバイス固有の情報、たとえば、そのデバイスの製造メーカー名・形名・シリアル番号などのデータを知ることができます。	*IDN?
内部オペレーション	デバイス内部の制御：(1)デバイスをレベル 3 でリセット(2)デバイス内部のセルフテストとエラー有無の検知, (3)測定条件の保存：読み出し	*RST *TST? *SAV *RCL
同期	デバイスとコントローラの同期を(1)サービスリクエスト待ち(2)デバイスの出力キュー応答待ちにより行います。なお、本器のコマンドはすべてシーケンシャルコマンドです。	*OPC *OPC? *WAI
ステータス&イベント	ステータスバイトは、ステータス・サマリメッセージによって構成されています。そのメッセージの個々のサマリビットは、標準イベントレジスタ、出力キュー、および拡張イベントレジスタまたは拡張キューから供給されます。そこで、これらのレジスタやキューにあるデータをセット・クリア・有効化・無効化、さらにはレジスタの設定状況を問い合わせによって知るため、4 個のコマンド、5 個の問い合わせが用意されています。	*CLS *ESE *ESE? *ESR? *SRE *SRE? *STB? *PSC *PSC?
デバイストリガ	IEEE488.1 の GET(Group Execute Trigger バスコマンド)と、同一の動作を行います。	*TRG
オプションの確認	デバイスが実装しているオプション機能の問い合わせを行います。	*OPT?

表 4.4-2 本器でサポートする IEEE488.2 共通コマンド一覧

No.	ニーモニック	コマンド・フルスペル名
1	*IDN?	Identification Query
2	*RST	Reset Command
3	*TST?	Self Test Query
4	*OPC	Operation Complete Command
5	*OPC?	Operation Complete Query
6	*WAI	Wait Continue Command
7	*CLS	Clear Status Command
8	*ESE	Standard Event Status Enable Command
9	*ESE?	Standard Event Status Enable Query
1 0	*ESR?	Standard Event Status Register Query
1 1	*SRE	Service Request Enable Command
1 2	*SRE?	Service Request Enable Query
1 3	*STB?	Read Status Byte Query
1 4	*TRG	Trigger Command
1 5	*PSC	Power On Status Clear Command
1 6	*PSC?	Power On Status Clear Query
1 7	*SAV	Save Command
1 8	*RCL	Recall Command
1 9	*OPT?	Option Identification Query
2 0	LLO	Local Lock Out
2 1	GTL	Go To Local
2 2	TRM	Terminator

1	Identification Query
コマンド名	*IDN?
機能	製品のメーカー名、形式などを報告します。
レスポンス	<ARBITRARY ASCII RESPONSE DATA> <製品メーカー名>,<形名>,<シリアル番号>,<ファームウェアレビジョン番号>
使用例	<ファームウェアレビジョン番号>が 1.00 の場合。 >*IDN? <ANRITSU,MD6430A,0,1.00 ※本器では, ANRITSU,MD6430A,0,**** ※**** = 0.00～99.99

2	Reset Command
コマンド名	*RST
機能	電源スイッチを ON し直した状態と同じ状態に戻します。 このとき、測定内容はクリアされますが、設定内容は保持したままとします。 工場出荷時の設定に戻すには、SCPI コマンド:SYSTem:MEMory:RECall 0 で行います。
パラメータ	なし
使用例	>*RST

3	Self Test Query
コマンド名	*TST?
機能	自己診断の結果を返送します。 本器では常に"0"を返送します。
レスポンス	<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA> 0:エラーなし 1:エラー発生
使用例	>*TST? <0

4	Operation Complete Command
コマンド名	*OPC
機能	事前の命令実行が終了すると、標準イベントステータスレジスタのビット 0 (オペレーション終了ビット)を設定します。
パラメータ	なし
使用例	>*RCL 1;*OPC

4章 デバイスメッセージの概要

5	Operation Complete Query
コマンド名	*OPC?
機能	事前の命令実行が終了すると、1 を返します。シーケンシャル処理の同期に使用します。
レスポンス	<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA> 1
使用例	>*RCL 1;*OPC? <1

6	Wait Continue Command
コマンド名	*WAI
機能	事前の命令実行が終了するまで、次の命令実行の開始を待たせます。 (オーバーラップコマンドをシーケンシャルコマンドとして実行します。) 本機能は、事前の命令に対してだけ有効となります。
パラメータ	なし
使用例	>*WAI

7	Clear Status Command
コマンド名	*CLS
機能	出力キューとその MAV サマリメッセージを除くすべてのステータス構造をクリアします。 ただし、イネーブルレジスタおよび、Transition フィルタはクリアされません。 *CLS を<PROGRAM MESSAGE TERMINATOR>の直後で、かつ<Query MESSAGE UNIT>要素の前に送出したときは、出力キュー、MAV ビット共にクリアします。
パラメータ	なし
使用例	>*CLS

8	Standard Event Status Enable Command
コマンド名	*ESE
機能	標準イベントステータスイネーブルレジスタのビット中で enable にしたいビットの総和をパラメータとします。enable を 1, disable を 0 とします。 本器のレジスタ構成は、「7.1 MD6430A のステータスレジスタの構成」を参照してください。 標準イベントステータスイネーブルレジスタの設定および、クリアを行います。
パラメータ	<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA> 0~255 の整数値
使用例	標準イベントステータスイネーブルレジスタのビット 2,4 を設定する場合。 >*ESE 20

9	Standard Event Status Enable Query
コマンド名	*ESE?
機能	標準イベントステータスイネーブルレジスタの現在値の問い合わせを行います。
レスポンス	<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA> 0～255 の整数値
使用例	>*ESE? <20

1 0	Standard Event Status Register Query
コマンド名	*ESR?
機能	標準イベントステータスレジスタおよびビットの総和をレスポンスとします。 本器のレジスタ構成は、「7.1 MD6430A のステータスレジスタの構成」を参照してください。 標準イベントステータスレジスタの現在値の問い合わせを行います。
レスポンス	<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
使用例	コマンドエラーがあったとき。 >*ESR? <32

1 1	Service Request Enable Command
コマンド名	*SRE
機能	サービスリクエストイネーブルレジスタのビット中で enable にしたいビットの総和をパラメータとします。enable を 1, disable を 0 とします。 本器のレジスタ構成は、「7.1 MD6430A のステータスレジスタの構成」を参照。 サービスリクエストイネーブルレジスタの設定および、クリアを行います。
パラメータ	<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA> 0～255 の整数値
使用例	サービスリクエストイネーブルレジスタのビット 2,4 を設定する場合。 >*SRE 20

1 2	Standard Event Status Register Query
コマンド名	*SRE?
機能	サービスリクエストイネーブルレジスタおよびビットの総和をレスポンスとします。 本器のレジスタ構成は、「7.1 MD6430A のステータスレジスタの構成」を参照してください。 サービスリクエストイネーブルレジスタの現在値の問い合わせを行います。
レスポンス	<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
使用例	>*SRE? <32

4章 デバイスメッセージの概要

1 3	Read Status Byte Query
コマンド名	*STB?
機能	ステータスバイトレジスタのビットの総和をレスポンスとします。 本器のレジスタ構成は、「7.1 MD6430A のステータスレジスタの構成」を参照してください。 MSS(Master Summary Status)ビットを含む、ステータスバイトレジスタの現在値の問い合わせを行います。
レスポンス	<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
使用例	エラー／イベントキューが空でない場合。 >*STB? <4

1 4	Trigger Command
コマンド名	*TRG
機能	IEEE488.1 の GET(Group Execute Trigger バスコマンド)と、同一の動作を行います。 本器では、*TRG コマンドを受信すると、測定をスタート又は、リスタートします。 エラー／アラーム測定画面、遅延時間測定画面、周波数測定画面、デジタルレベル画面では、測定をスタートまたは、リスタートします。 ワードパターントレース画面では、トレーススタートまたは、リスタートします。 セルフテスト画面では、セルフテストのスタートまたは、リスタートを行います。 なお、このとき、画面の移動は行いません。
パラメータ	なし
使用例	>*TRG

1 5	Power On Status Clear Command
コマンド名	*PSC <numeric>
機能	標準イベントステータスの各イネーブルレジスタを、電源 ON 時にクリアするかどうかを決定します。 <numeric>が 1 のときは、イネーブルレジスタをクリアし、0 のときは、クリアしません。
パラメータ	<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA> 0: パワーONステータスクリアフラグを偽に設定 1: パワーONステータスクリアフラグを真に設定
使用例	偽に設定する場合。 >*PSC 0

1 6	Power On Status Clear Query
コマンド名	*PSC?
機能	パワーON ステータスクリアフラグの真／偽の問い合わせを行います。
レスポンス	<numeric> = <NR1 NUMERIC RESPONSE DATA> 0:パワーONステータスクリアフラグが偽 1:パワーONステータスクリアフラグが真
使用例	>*PSC? <0

1 7	Save Command
コマンド名	*SAV <numeric>
機能	指定された番号のメモリに現在の装置の設定を書き込みます。 セーブされたステートの範囲は、*RST コマンドによって影響されるステートの範囲と同じです。 同じ機能を持つ SCPI コマンドとして、:SYSTem:MEMory:STORe があります。
パラメータ	<numeric> = <DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA> 1～10 (ステップ値: 1)
使用例	>*SAV 1

1 8	Recall Command
コマンド名	*RCL <numeric>
機能	指定された番号のメモリの呼び出しを行い、それによって装置を以前の状態に戻します。 同じ機能を持つ SCPI コマンドとして、:SYSTem:MEMory:RECall があります。
パラメータ	<numeric> = <DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA> 0～10 (ステップ値: 1)
使用例	>*RCL 1

4章 デバイスメッセージの概要

1 9	Option Identification Query
コマンド名	*OPT?
機能	実装されているオプションリストを報告します。 メインフレーム、インタフェースの順に、ユニットの形名の後にオプション番号を コンマで区切って報告します。
レスポンス	<p><CHARACTER ASCII RESPONSE DATA> <本体のオプション>[,<本体のオプション>]…,<インタフェースの形名>, <インタフェースのオプション>[,<インタフェースのオプション>]…</p> <p>本体のオプションに対応したキャラクタ GPIB : OPT01 オプションなし : 0</p> <p>インタフェース型名 全インタフェース対応 : MU643000A 日本版 : MU643000B 欧州版 : MU643000C 建設省伝送装置 ST フレーム仕様準拠品 : MU643000K</p> <p>インタフェースのオプションに対応したキャラクタ JT-Q921/Q931 ISDN Signalling : OPT01 ETSI ISDN Signalling : OPT02 CAS/FAS : OPT22 オプションなし : 0</p>
使用例	本体オプション無しで、日本+欧州版インタフェースと JT-Q921/Q931 ISDN Signalling が装備されている場合。 >*OPT? <0,MU643000A,OPT01

2 0	Local Lock Out
コマンド名	LLO
機能	ローカルでの処理を受け付けないようにします。 RS-232C インタフェースの場合に有効です。
使用例	>LLO

2 1	Go To Local
コマンド名	GTL
機能	ローカル動作に復帰させます。 RS-232C インタフェースの場合に有効です。
使用例	>GTL

2 2	Terminator
コマンド名	TRM <DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
機能	レスポンスターミネータの指定を行います。デフォルトは"LF"です。 電源投入時はデフォルトとなります。
パラメータ	<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA> 0 :LF 1 :CR+LF
使用例	レスポンスターミネータを"CR+LF"に指定する場合。 >TRM 1

(空白)

5章 リモートコマンド階層

5.1 コマンド一覧

本器の装置固有コマンドは、SCPI に準拠しています

SCPI では装置の機能を、サブシステムと呼ばれる大分類に分けてコマンドを構成しています。それぞれのサブシステムの下に詳細機能に対応するコマンドを作成し、コマンド **Tree** を構成します。

次ページより、本器のコマンド **Tree** を一覧表示します。尚、装置固有のリモートコマンドは、全てシェンシャルコマンドです。

- *1).....呼制御オプション (opt-01 及び opt-02) に関するコマンドを示しています。
呼制御オプションなしのときは、**Hardware missing(-241)**とします。
この場合、クエリコマンドでは、レスポンスデータなしとし、**Hardware missing(-241)**とします。
- *2).....インタフェースユニットに関するコマンドを示しています。
インタフェースユニットの種類により、コマンドの実行ができなくなることを示します。
実行後は、**Hardware missing(-241)**とします。
- *3).....インタフェースユニットに関するコマンドを示しています。
インタフェースユニットの種類により、使用できなくなるパラメータが含まれていることを示します。使用できないパラメータの実行は、**Hardware missing(-241)**とします。
- *4).....インタフェースユニットに関するコマンドを示しています。
インタフェースユニットの種類により、設定できるプログラムデータの値の範囲が変わることを示しています。
- *5).....CAS/FAS オプション (opt-22) に関するコマンドを示しています。
CAS/FAS オプションなしのときは、**Hardware missing(-241)**とします。
この場合、クエリコマンドでは、レスポンスデータなしとし、**Hardware missing(-241)**とします。

5.1.1 SYSTem サブシステム

SYSTem サブシステムは、メモリ、ブザー、プリンタ、フロッピーディスク等の制御を行います。

:SYSTem	:IOUtput	[:TYPE]		<type>	
		[:TYPE]?			
	:PRINt	:POU		<boolean>	
		:POU?			
		:IDATa	[:TYPE]	<type>	
			[:TYPE]?		
			:PERiod	<numeric>,<suffix>	
			:PERiod?		
		:MCONdition		<boolean>	
		:MCONdition?			
		:ERRor	:SET	<boolean>	
			:SET?		
			:UNIT	<unit>	
			:UNIT?		
			:THReshold	:EC <ecount>	
				:EC?	
				:ER <erate>	
				:ER?	
		:SQUelch		<boolean>	
		:SQUelch?			
		:ALARm	:SET	<boolean>	
			:SET?		
		:LDATa	:SET	<boolean>	
			:SET?		
		:ILDCondition	:ERRor	<boolean>	
			:ERRor?		
			:ALARm	<boolean>	
			:ALARm?		
			:PERFormanc e	<boolean>	
			:PERFormanc e?		
			:HDLc	<boolean>	
			:HDLc?		
		:EALarm	:CHARacter	:PRINt <print>	
				:PRINt?	
		:WTRace	:PDATa	:PRINt <print>	
				:PRINt?	
		:ANALyze	:EALogging	:PRINt <print>	
				:PRINt?	
			:EAHistogram	:PRINt <print>	
				:PRINt?	
			:TDATa	:PRINt <print>	
				:PRINt?	
			:PMONitor	:PRINt <print>	
				:PRINt?	
			:RECall	:EALogging :PRINt <print>	
				:PRINt?	
			:EAHistogram	:PRINt <print>	
				:PRINt?	
			:TDATa	:PRINt <print>	
				:PRINt?	
			:PMONitor	:PRINt <print>	
				:PRINt?	
		:COPY	:STARt		

5章 リモートコマンド階層

			:STOP		
			:STATe?		
	:MEMory	:RECall		<numeric>	
		:STORe		<numeric>	
		:REStore		<numeric>	
		:CLEar		<numeric>	
		:LABel		<numeric>,<title>	
		:LABel?		<numeric>	
		:INITial			
		:ANALysis	:RECall	<numeric>	
			:STORe	<atype>	
			:CLEar	<numeric>	
			:LABel	<numeric>,<title>	
			:LABel?	<numeric>	
			:AClear		
	:MMEMory	:RECall		<dtype>,<file_name>	
		:STORe		<dtype>,<file_name>	
		:DELeTe		<file_name>	
		:MDIRectory		<dir_name>	
		:REName		<src_file>,<dst_file>	
		:INITialize			
		:CATalog?		<numeric>	
		:CDIRectory		<dir_name>	
	:DATE			<numeric1>,<numeric2>,<numeric3>	
	:DATE?				
	:TIME			<numeric1>,<numeric2>,<numeric3>	
	:TIME?				
	:BUZZer	:TKEY		<boolean>	
		:TKEY?			
		:OERRor		<boolean>	
		:OERRor?			
		:EALarm		<boolean>	
		:EALarm?			
	:CODEc	:SVOLume		<numeric>	
		:SVOLume?			
		:SENable		<boolean>	
		:SENable?			
		:PCODE		<pcode>	
		:PCODE?			
	:PSAVe	[:SET]		<boolean>	
		[:SET]?			
		:PERiod		<numeric>	
		:PERiod?			
	:ECOunt	:BCLock		<boolean>	
		:BCLock?			
		:BPSL		<boolean>	
		:BPSL?			
	:FRELay	:PVC		<pvc>	
		:PVC?			
	:INTerface	:VXTCmos	:TIMPedance	<timpedance>	
			:TIMPedance?		
			:DTCE	<dtce>	
			:DTCE?		
		:K64	:TINTer	<tinter>	
			:TINTer?		
		:K192	:TMODE	<tmode>	*1
			:TMODE?		*1
			:CONNection	<connection>	*1
			:CONNection?		*1

		:TEI	<tei>	*1
		:TEI?		*1
		:TVALue	<tvalue>	*1
		:TVALue?		*1
		:TIMPedance	<timpedance>	
		:TIMPedance?		
		:PFEed	<pfeed>	
		:PFEed?		
		:CLOop	<boolean>	*1
		:CLOop?		*1
		:MFRame	<boolean>	
		:MFRame?		
		:IDATa	:RNUMber <rnumber>	*1
			:RNUMber?	*1
			:RSUBaddress <rsubadd>	*1
			:RSUBaddress?	*1
			:RCHannel <rchannel>	*1
			:RCHannel?	*1
			:LSUBaddress <lsubadd>	*1
			:LSUBaddress?	*1
			:LCHannel <lchannel>	*1
			:LCHannel?	*1
		:IVOice	:RNUMber <rnumber>	*1
			:RNUMber?	*1
			:RSUBaddress <rsubadd>	*1
			:RSUBaddress?	*1
			:RCHannel <rchannel>	*1
			:RCHannel?	*1
			:LSUBaddress <lsubadd>	*1
			:LSUBaddress?	*1
			:LCHannel <lchannel>	*1
			:LCHannel?	*1
	:M1_5	:TMODE	<tmode>	*1,*2
		:TMODE?		*1,*2
		:CLOop	<boolean>	*1,*2
		:CLOop?		*1,*2
		:IDATa	:RNUMber <rnumber>	*1,*2
			:RNUMber?	*1,*2
			:RSUBaddress <rsubadd>	*1,*2
			:RSUBaddress?	*1,*2
			:RCHannel <rchannel>	*1,*2
			:RCHannel?	*1,*2
			:RHCHannel0 <rchannel0>	*1,*2
			:RHCHannel0?	*1,*2
			:LSUBaddress <lsubadd>	*1,*2
			:LSUBaddress?	*1,*2
			:LCHannel <lchannel>	*1,*2
			:LCHannel?	*1,*2
			:LHCHannel0 <lchannel0>	*1,*2
			:LHCHannel0?	*1,*2
		:IVOice	:RNUMber <rnumber>	*1,*2
			:RNUMber?	*1,*2
			:RSUBaddress <rsubadd>	*1,*2
			:RSUBaddress?	*1,*2
			:RCHannel <rchannel>	*1,*2
			:RCHannel?	*1,*2
			:LSUBaddress <lsubadd>	*1,*2
			:LSUBaddress?	*1,*2
			:LCHannel <lchannel>	*1,*2

			:LCHannel?		*1,*2
		:M2	:TMODe	<tmode>	*1
			:TMODe?		*1
			:IMPedance	<impedance>	
			:IMPedance?		
			:CLOop	<boolean>	*1
			:CLOop?		*1
			:IDATa	:RNUMber <rnumber>	*1
				:RNUMber?	*1
				:RSUBaddress <rsubadd>	*1
				:RSUBaddress?	*1
				:RCHannel <rchannel>	*1
				:RCHannel?	*1
				:RHCHannel0 <rchannel0>	*1
				:RHCHannel0?	*1
				:LSUBaddress <lsubadd>	*1
				:LSUBaddress?	*1
				:LCHannel <lchannel>	*1
				:LCHannel?	*1
				:LHCHannel0 <lhchannel0>	*1
				:LHCHannel0?	*1
			:IVOice	:RNUMber <rnumber>	*1
				:RNUMber?	*1
				:RSUBaddress <rsubadd>	*1
				:RSUBaddress?	*1
				:RCHannel <rchannel>	*1
				:RCHannel?	*1
				:LSUBaddress <lsubadd>	*1
				:LSUBaddress?	*1
				:LCHannel <lchannel>	*1
				:LCHannel?	*1
	:ISDN	:SPRotocol	<protocol>		*1
		:SPRotocol?			*1
	:DCONnect	:ISTart			*1
		:STOP			*1
		:STATe?			*1
	:VCONnect	:ISTart			*1
		:PSTart			*1
		:STOP			
		:STATe?			
	:ERRor?				
	:VERSion?				
	:BATTeRy?				

5.1.2 SOURce サブシステム

SOURce サブシステムは、送信側の測定条件設定や制御を行います。

:SOURce	:TELEcom	:INTeRface		<interface>	*3
		:INTeRface?			
		:TIMing		<timing>	
		:TIMing?			
		:IFSsource		<ifsource>	
		:IFSsource?			
		:SSBit		<boolean>	
		:SSBit?			
		:BRATe		<brate>	
		:BRATe?			

		:DLEn ^g th		<dlength>	
		:DLEn ^g th?			
		:PARity		<parity>	
		:PARity?			
		:STBit		<stbit>	
		:STBit?			
		:BSYNc		<boolean>	
		:BSYNc?			
		:SCONtrol		<scontrol>	
		:SCONtrol?			
		:CODE		<code>	*3
		:CODE?			
		:FRAMe		<frame>	*3
		:FRAMe?			
		:SKB8		<boolean>	
		:SKB8?			
		:TSLot	:[:TYPE]	<tslot>	*3
			:[:TYPE]?		
			:TSN	<numeric>	*4
			:TSN?		
			:HGN	<numeric>	*2
			:HGN?		*2
			:DCHannel	<dchannel>	
			:DCHannel?		
			:DBRate	<dbrate>	
			:DBRate?		
			:DBRN	<numeric>	*4
			:DBRN?		
			:HCHannel0	<hchannel0>	*3
			:HCHannel0?		
			:TSASsign	<numeric1>,<numeric2>],...<numeric N>]	*4
			:TSASsign?		
			:ATSassign		
			:CTSassign		
		:CHANnel		<channel>	*2
		:CHANnel?			*2
		:DFRame	:[:TYPE]	<dframe>	
			:[:TYPE]?		
			:XCHannel50	<numeric>	
			:XCHannel50?		
			:XASSign50	<numeric1>,<numeric2>],...<numeric 80>]	
			:XASSign50?		
			:AXASSign50		
			:CXASSign50		
		:MUX		<boolean>	
		:MUX?			
		:BASSign		<numeric>	
		:BASSign?			
		:BIT1		<bit>	
		:BIT1?			
		:BIT8		<bit>	
		:BIT8?			
		:ESIBit		<esibit>	
		:ESIBit?			
		:BSTeal		<boolean>	*2
		:BSTeal?			*2
		:QBIT		<qbit>	
		:QBIT?			

		:SABit		<sabit>	
		:SABit?			
		:SPBit		<spbit>	*2
		:SPBit?			*2
		:SBIT		<numeric>,<sbit>	*2
		:SBIT?		<numeric>	*2
		:TSFRame16		<tsframe16>	
		:TSFRame16?			
		:SIGBit		<sigbit>	*3
		:SIGBit?			
		:VCHannel1		<boolean>	
		:VCHannel1?			
		:VTSLot		<numeric>	*4
		:VTSLot?			
		:VCHannel2		<vchannel2>	
		:VCHannel2?			
		:ITSLOT		<itslot>	
		:ITSLOT?			
		:CHARacter	:STADdress	<numeric>	
			:STADdress?		
			:SPADdress	<numeric>	
			:SPADdress?		
			:BOUNDary	<boundary>	
			:BOUNDary?		
			:SHIFt	<shift>	
			:INVert		
			:REVerse		
			:DATA	<address>,<worddata>	
			:DATA?	<address>	
			:MDATa	<address1>,<address2>,<worddata>	
			:MDATa?	<address1>,<address2>	
			:ALL0		
			:ALL1		
		:FRELay	:DLCI	<numeric>	
			:DLCI?		
			:ITIMe	<numeric>	
			:ITIMe?		
		:ERRor	:TYPE	<type>	
			:TYPE?		
			:ERATe	[:TYPE]	<type>
				[:TYPE]?	
				:RATE	<m>,<n>
				:RATE?	
			:STARt		
			:STOP		
			:STATe?		
		:FERRor			
		:ALARm	:AIS	<boolean>	
			:AIS?		
			:SA	<boolean>	*2
			:SA?		*2
			:RAI	<boolean>	
			:RAI?		
			:XA	<boolean>	
			:XA?		
			:HAIS	<boolean>	*2
			:HAIS?		*2
			:BAIS	<boolean>	*2
			:BAIS?		*2

		:SIGNaI	:ER	<boolean>	
			:ER?		
			:RS	<boolean>	
			:RS?		
			:LLB	<boolean>	
			:LLB?		
			:RLB	<boolean>	
			:RLB?		
			:C	<boolean>	
			:C?		
			:IFT0	<boolean>	
			:IFT0?		
		:WTRace	:ICoDe	<icode>	
			:ICoDe?		
			:SDATa	<sdata>	
			:SDATa?		
			:SMETHod	<smethod>	
			:SMETHod?		
			:STADdress	<numeric>	
			:STADdress?		
			:SPADdress	<numeric>	
			:SPADdress?		
			:BOUNdary	<boundary>	
			:BOUNdary?		
			:SHIFt	<shift>	
			:INVert		
			:REVerse		
			:DATA	<address>,<worddata>	
			:DATA?	<address>	
			:MDATA	<address1>,<address2>,<worddata>	
			:MDATA?	<address1>,<address2>	
			:ALL0		
			:ALL1		
			:TDATa		
			:STARt		
			:STOP		
			:STATe?		
		:CAS	:SIGBit	<numeric>,<sbit>	*5
			:SIGBit?	<numeric>	*5
		:FAS	:DLBit	<boolean>	*5
			:DLBit?		*5
			:DLBit	:PATtern	<dlbit> *5
				:PATtern?	*5
			:SMF1	:SA4	<sabit> *5
				:SA4?	*5
				:SA5	<sabit> *5
				:SA5?	*5
				:SA6	<sabit> *5
				:SA6?	*5
				:SA7	<sabit> *5
				:SA7?	*5
				:SA8	<sabit> *5
				:SA8?	*5
			:SMF2	:SA4	<sabit> *5
				:SA4?	*5
				:SA5	<sabit> *5
				:SA5?	*5
				:SA6	<sabit> *5
				:SA6?	*5

				:SA7	<sabit>	*5
				:SA7?		*5
				:SA8	<sabit>	*5
				:SA8?		*5
			:SABit	<sabit>		*5
			:SABit?			*5

5.1.3 SENSEe サブシステム

SENSe サブシステムは、受信側の測定条件設定や制御を行います。

:SENSe	:MTYPE			<mtype>	
	:MTYPE?				
	:TELeom	:INTerface		<interface>	*3
		:INTerface?			
		:TIMing		<timing>	
		:TIMing?			
		:SSBit		<boolean>	
		:SSBit?			
		:BRATe		<brate>	
		:BRATe?			
		:DLENgth		<dlength>	
		:DLENgth?			
		:PARity		<parity>	
		:PARity?			
		:BSYNc		<boolean>	
		:BSYNc?			
		:CODE		<code>	*3
		:CODE?			
		:FRAMe		<frame>	*3
		:FRAMe?			
		:SKB8		<boolean>	
		:SKB8?			
		:TSLot	[:TYPE]	<tslot>	*3
			[:TYPE]?		
			:TSN	<numeric>	*4
			:TSN?		
			:HGN	<numeric>	*2
			:HGN?		*2
			:DCHannel	<dchannel>	
			:DCHannel?		
			:DBRate	<dbrate>	
			:DBRate?		
			:DBRN	<numeric>	*4
			:DBRN?		
			:HCHannel0	<hchannel0>	*4
			:HCHannel0?		
			:TSASsign	<numeric1>,[<numeric2>],... [<numericN>]	*4
			:TSASsign?		
			:ATSassign		
			:CTSassign		
		:CHANnel		<channel>	*2
		:CHANnel?			*2
		:DFRame	[:TYPE]	<dframe>	
			[:TYPE]?		
			:XCHannel50	<numeric>	
			:XCHannel50?		

			:XASSign50	<numeric1>,<numeric2>,... <numeric80>		
			:XASSign50?			
			:AXASSign50			
			:CXASSign50			
		:DEMUX		<boolean>		
		:DEMUX?				
		:BASSign		<numeric>		
		:BASSign?				
		:BIT1		<bit>		
		:BIT1?				
		:BIT8		<bit>		
		:BIT8?				
		:BSTeal		<boolean>		*2
		:BSTeal?				*2
		:VCHannel1		<boolean>		
		:VCHannel1?				
		:TSN		<numeric>		*4
		:TSN?				
		:VCHannel2		<vchannel2>		
		:VCHannel2?				
		:ILEvel		<ilevel>		
		:ILEvel?				
	:MEASure	:RESet				
		:STIME?				
		:ELAPsed?				
		:FRESet				
		:BRESet				
		:EALarm	:START			
			:STOP			
			:STATE?			
			:TPATtern	<tpattern>		
			:TPATtern?			
			:WORD8	<word8>		
			:WORD8?			
			:PINVert	<boolean>		
			:PINVert?			
			:PTHReshold	<pthreshold>		
			:PTHReshold?			
			:EDETect	<edetect>		
			:EDETect?			
			:BLENght	<blength>		
			:BLENght?			
			:TYPE	<mmode>		
			:TYPE?			
			:PERiod	<day>,<hour>,<minute>,<second>		
			:PERiod?			
			:BTIME	:SET	<boolean>	
				:SET?		
				:START	<year>,<month>,<day>,<hour>,<minute>,<second>	
				:START?		
				:MSLave	<mslave>	
				:MSLave?		
			:OPATtern	<boolean>		
			:OPATtern?			
				:PATtern	<opattern>	
				:PATtern?		
			:LLINe	<boolean>		

			:LLIne?	
			:HLIne	<hline>
			:HLIne?	
			:HRESolution	<gres>
			:HRESolution?	
			:HFDetect	<boolean>
			:HFDetect?	
			:FRDetect	<boolean>
			:FRDetect?	
		:FRELay	:START	
			:STOP	
			:STATe?	
		:DELay	:START	
			:STOP	
			:STATe?	
			:TYPE	<type>
			:TYPE?	
			:INTerval	<interval>
			:INTerval?	
			:STTRigger	<trigger>,<point>
			:STTRigger?	
			:SPTRigger	<trigger>,<point>
			:SPTRigger?	
		:FREQuency	:START	
			:STOP	
			:STATe?	
			:LINE	<line>
			:LINE?	
			:GTIME	<gtime>
			:GTIME?	
			:INTerval	<interval>
			:INTerval?	
		:DLEVel	:START	
			:STOP	
			:STATe?	
			:LSElect	<dlline>
			:LSElect?	
			:PCODE	<pcode>
			:PCODE?	
		:WTRace	:START	
			:STOP	
			:STATe?	
			:TLIne	<tline>
			:TLIne?	
			:STTRigger	<sttrigger>
			:STTRigger?	
			:STPattern	<stpattern>
			:STPattern?	
			:SPTRigger	<sptrigger>
			:SPTRigger?	
			:SPPattern	<sppattern>
			:SPPattern?	
			:TBYTe	<numeric>
			:TBYTe?	
			:SDELay	<numeric>
			:SDELay?	
		:PMONitor	:START	
			:STOP	
			:STATe?	

		:CLEar	
--	--	--------	--

5.1.4 DISPlay サブシステム

DISPlay サブシステムは、画面に関する制御を行います。

:DISPlay	:DSElect	[:NAME]		<dselect>	
		[:NAME]?			
	:SYSTem	[:NAME]		<system>	
		[:NAME]?			
		:ITYPE		<itype>	*3
		:ITYPE?			
	:FDISK	:SCRoll		<scroll>	
	:INTerface	:TX	:BPAGe		
			:NPAGe		
			:STATe?		
		:RX	:BPAGe		
			:NPAGe		
			:STATe?		
	:EALarm	[:NAME]		<ealarm>	
		[:NAME]?			
		:MTIME		<mtime>	
		:MTIME?			
		:CHARacter	:EMODE	<emode>	
			:EMODE?		
			:DMODE	<dmode>	
			:DMODE?		
			:ADDRess	<numeric>	
			:ADDRess?		
			:SCRoll	<scroll>	
		:RESult	[:TYPE]	<type>	
			[:TYPE]?		
			:MODE	<rmode>	
			:MODE?		
			:RDISplay	<vtype>,<rdisplay>	
			:RDISplay?	<vtype>	
			:MORE	<vtype>,<pdisplay>	
			:MORE?	<vtype>	
			:ZOOM	<vtype>,<item1>,<item2>,<item3>	*3
			:ZOOM?	<vtype>	
		ASINs	:MORE		*2
		ASINs	:MORE?		*2
		:FAS	:SElect		*5
			:SElect?		*5
			:TXPause	<boolean>	*5
			:TXPause?		*5
			:RXPause	<boolean>	*5
			:RXPause?		*5
	:FRELay	:MTIME		<mtime>	
		:MTIME?			
		ASINs	:MORE		*2
		ASINs	:MORE?		*2
	DELay	ASINs	:MORE		*2
		ASINs	:MORE?		*2
	FREQuency	ASINs	:MORE		*2
		ASINs	:MORE?		*2
	DLEVel	ASINs	:MORE		*2
		ASINs	:MORE?		*2
	:WTRace	[:NAME]		<wtrace>	

		[NAME]?			
		:PRGMdata	:EMODE	<emode>	
			:EMODE?		
			:DMODE	<dmode>	
			:DMODE?		
			:ADDRESS	<numeric>	
			:ADDRESS?		
			:SCROLL	<scroll>	
		ASINs	MORE		*2
		ASINs	MORE?		*2
	:ANALYSIS	[NAME]		<analysis>	
		[NAME]?			
		:EALogging	:SCROLL	<scroll>	
		:EAHistogram	:ALARM1	<alarm>	*3
			:ALARM1?		
			:ALARM2	<alarm>	*3
			:ALARM2?		
			:ALARM3	<alarm>	*3
			:ALARM3?		
			:UNIT	<unit>	
			:UNIT?		
			:MDISplay	<boolean>	
			:MDISplay?		
			:SEARCh	<search>	
			:GSTime	<year>,<month>,<day>,<hour>,<minute>,<second>	
			:GSTime?		
			:INTERval	<interval>	
			:INTERval?		
			:SCROLL	<scroll>	
		:TDATa	:DMODE1	<display>	
			:DMODE1?		
			:DMODE2	<code>	
			:DMODE2?		
			:BOUNDary	<boundary>	
			:BOUNDary?		
			:INVert	<boolean>	
			:INVert?		
			:REVerse	<boolean>	
			:REVerse?		
			:SHIFt	<numeric>	
			:SHIFt?		
			:ADDRESS	<numeric>	
			:ADDRESS?		
			:SCROLL	<scroll>	
			:TSEarch		
			:SSEarch		
		:PMONitor	:SCROLL	<scroll>	
		:RECall	:NAME?		
			:TYPE?		
			:EALogging	:SCROLL	<scroll>
			:EAHistogram	:ALARM1	<alarm> *3
				:ALARM1?	
				:ALARM2	<alarm> *3
				:ALARM2?	
				:ALARM3	<alarm> *3
				:ALARM3?	
			:UNIT	<unit>	
			:UNIT?		
			:MDISplay	<boolean>	

				:MDISplay?		
				:SEARch	<search>	
				:GSTime	<year>,<month>, <day>,<hour>, <minute>,<second>	
				:GSTime?		
				:INTerval	<interval>	
				:INTerval?		
				:SCRoll	<scroll>	
			:TDATa	:DMODE1	<display>	
				:DMODE1?		
				:DMODE2	<code>	
				:DMODE2?		
				:BOUNdary	<boundary>	
				:BOUNdary?		
				:INVert	<boolean>	
				:INVert?		
				:REVerse	<boolean>	
				:REVerse?		
				:SHIFt	<numeric>	
				:SHIFt?		
				:ADDRess	<numeric>	
				:ADDRess?		
				:SCRoll	<scroll>	
				:TSEarch		
				:SSEarch		
			:PMONitor	:SCRoll	<scroll>	
	:MONitor	:SElect				
		:SElect?				
		:HISTory			<boolean>	
		:HISTory?				
	:SCRoff	:STARt				
		:STOP				
		:STATe?				

5.1.5 CALCulate サブシステム

CALCulate サブシステムは、パフォーマンス測定の設定や、測定結果の表示を行います。

:CALCulate	:TELEcom	:PERFormance	:TYPE	<perform>			
			:TYPE?				
			:TTHReshold	:ES	:SET	<boolean>	
					:SET?		
					:S1	<numeric>	
					:S1?		
					:S2	<numeric>	
					:S2?		
				:SES	:SET	<boolean>	
					:SET?		
					:S1	<numeric>	
					:S1?		
					:S2	<numeric>	
					:S2?		
				:US	:SET	<boolean>	
					:SET?		
					:S1	<numeric>	
					:S1?		
					:S2	<numeric>	
					:S2?		
			:RTHReshold	:ES	:SET	<boolean>	
					:SET?		
					:S1	<numeric>	
					:S1?		
					:S2	<numeric>	
					:S2?		
				:SES	:SET	<boolean>	
					:SET?		
					:S1	<numeric>	
					:S1?		
					:S2	<numeric>	
					:S2?		
				:US	:SET	<boolean>	
					:SET?		
					:S1	<numeric>	
					:S1?		
					:S2	<numeric>	
					:S2?		
					:S2?		
	:DATA?			<string>			
	:MDATa	:[:RESult]?		<rmode>			
		:SET		<item1>[,<item2>]...[,<item22>]			
		:SET?					
	:ANALysis	:EALogging	:DATA?	<start>,<stop>			
		:EAHistogram	:DATA?	<numeric1>,<numeric2>,<numeric3>,<numeric4>,<numeric5>,<numeric6>,<number>			
		:PMONitor	:DATA?	<start>,<stop>			
		:TDAa	:DATA?	<address1>,<address2>			
			:NUMBer?				
			:STRigger?				
		:RECall	:EALogging	:DATA?	<start>,<stop>		
			:EAHistogram	:DATA?	<numeric1>,<numeric2><numeric3>,<numeric4><numeric5>,<numeric6><number>		
			:TDAa	:DATA?	<address1>,<address2>		

				:NUMBer?	
				:STRigger?	
			:PMONitor	:DATA? <start>,<stop>	
	:MONitor	:SALarm?		<string>	
		:DATA?			
		:COMMon?		<result>	
		:SBIT?		<result>	*5
		:FAS?		<result>	*5

5.1.6 TEST サブシステム

TEST サブシステムは、セルフテストに関する制御を行います。

:TEST	:TMODe			<tmode>	
	:TMODe?				
	:TITem			<titem>	*3
	:TITem?				
	:STATe?				
	:STARt				
	:STOP				
	:ECODE?			<block>	
	:RESult?				

5.1.7 STATus サブシステム

STATus サブシステムは、ステータスレジスタの制御を行います。

:STATus	:PRESet				
	:QUEStionable	[:EVENTt]?			
		:CONDition?			
		:ENABle		<numeric>	
		:ENABle?			
		:PTRansition		<numeric>	
		:PTRansition?			
		:NTRansition		<numeric>	
		:NTRansition?			
		:TELeCom	[:EVENTt]?		
			:CONDition?		
			:ENABle	<numeric>	
			:ENABle?		
			:PTRansition	<numeric>	
			:PTRansition?		
			:NTRansition	<numeric>	
			:NTRansition?		
			:MEASure	[:EVENTt]?	
				:CONDition?	
				:ENABle	<numeric>
				:ENABle?	
				:PTRansition	<numeric>
				:PTRansition?	
				:NTRansition	<numeric>
				:NTRansition?	
			:EALarm	[:EVENTt]?	
				:CONDition?	
				:ENABle	<numeric>

5章 リモートコマンド階層

				:ENABle?		
				:PTRansition	<numeric>	
				:PTRansition?		
				:NTRansition	<numeric>	
				:NTRansition?		
				:ERRor	[:EVENT]?	
					:CONDition?	
					:ENABle	<numeric>
					:ENABle?	
					:PTRansition	<numeric>
					:PTRansition?	
					:NTRansition	<numeric>
					:NTRansition?	
				:TXALarm	[:EVENT]?	
					:CONDition?	
					:ENABle	<numeric>
					:ENABle?	
					:PTRansition	<numeric>
					:PTRansition?	
					:NTRansition	<numeric>
					:NTRansition?	
				:RXALarm	[:EVENT]?	
					:CONDition?	
					:ENABle	<numeric>
					:ENABle?	
					:PTRansition	<numeric>
					:PTRansition?	
					:NTRansition	<numeric>
					:NTRansition?	
				:TXALarm2	[:EVENT]?	
					:CONDition?	
					:ENABle	<numeric>
					:ENABle?	
					:PTRansition	<numeric>
					:PTRansition?	
					:NTRansition	<numeric>
					:NTRansition?	
				:RXALarm2	[:EVENT]?	
					:CONDition?	
					:ENABle	<numeric>
					:ENABle?	
					:PTRansition	<numeric>
					:PTRansition?	
					:NTRansition	<numeric>
					:NTRansition?	
				:FRELay	[:EVENT]?	
					:CONDition?	
					:ENABle	<numeric>
					:ENABle?	
					:PTRansition	<numeric>
					:PTRansition?	
					:NTRansition	<numeric>
					:NTRansition?	
				:DELay	[:EVENT]?	
					:CONDition?	
					:ENABle	<numeric>
					:ENABle?	
					:PTRansition	<numeric>
					:PTRansition?	

				:NTRansition	<numeric>	
				:NTRansition?		
			:FREQuency	[:EVENTt]?		
				:CONDition?		
				:ENABle	<numeric>	
				:ENABle?		
				:PTRansition	<numeric>	
				:PTRansition?		
				:NTRansition	<numeric>	
				:NTRansition?		
			:MONitor	[:EVENTt]?		
				:CONDition?		
				:ENABle	<numeric>	
				:ENABle?		
				:PTRansition	<numeric>	
				:PTRansition?		
				:NTRansition	<numeric>	
				:NTRansition?		
				:SALarm1	[:EVENTt]?	
					:CONDition?	
					:ENABle	<numeric>
					:ENABle?	
					:PTRansition	<numeric>
					:PTRansition?	
					:NTRansition	<numeric>
					:NTRansition?	
				:SALarm2	[:EVENTt]?	
					:CONDition?	
					:ENABle	<numeric>
					:ENABle?	
					:PTRansition	<numeric>
					:PTRansition?	
					:NTRansition	<numeric>
					:NTRansition?	
				:SALarm3	[:EVENTt]?	
					:CONDition?	
					:ENABle	<numeric>
					:ENABle?	
					:PTRansition	<numeric>
					:PTRansition?	
					:NTRansition	<numeric>
					:NTRansition?	
				:SALarm4	[:EVENTt]?	
					:CONDition?	
					:ENABle	<numeric>
					:ENABle?	
					:PTRansition	<numeric>
					:PTRansition?	
					:NTRansition	<numeric>
					:NTRansition?	
				:SALarm5	[:EVENTt]?	
					:CONDition?	
					:ENABle	<numeric>
					:ENABle?	
					:PTRansition	<numeric>
					:PTRansition?	
					:NTRansition	<numeric>
					:NTRansition?	
				:COMMon	[:EVENTt]?	

					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?		
				:SALarm6	[:EVENTt]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?		
				:SALarm7	[:EVENTt]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?		
			:CONNection	[:EVENTt]?			
				:CONDition?			
				:ENABle	<numeric>		
				:ENABle?			
				:PTRansition	<numeric>		
				:PTRansition?			
				:NTRansition	<numeric>		
				:NTRansition?			
			:TXCas	[:EVENTt]?			
				:CONDition?			
				:ENABle	<numeric>		
				:ENABle?			
				:PTRansition	<numeric>		
				:PTRansition?			
				:NTRansition	<numeric>		
				:NTRansition?			
				:TXSBit1	[:EVENTt]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?		
				:TXSBit2	[:EVENTt]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?		
				:TXSBit3	[:EVENTt]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		

					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?		
				:TXSBit4	[:EVENT]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?		
				:TXSBit5	[:EVENT]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?		
				:TXSBit6	[:EVENT]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?		
				:TXSBit7	[:EVENT]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?		
				:TXSBit8	[:EVENT]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?		
				:TXSBit9	[:EVENT]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?		
				:TXSBit10	[:EVENT]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?		

5章 リモートコマンド階層

				:NTRansition?	<numeric>	
			:RXCas	[.EVENTt]?		
				:CONDition?		
				:ENABle	<numeric>	
				:ENABle?		
				:PTRansition	<numeric>	
				:PTRansition?		
				:NTRansition	<numeric>	
				:NTRansition?		
				:RXSBit1	[.EVENTt]?	
					:CONDition?	
					:ENABle	<numeric>
					:ENABle?	
					:PTRansition	<numeric>
					:PTRansition?	
					:NTRansition	<numeric>
					:NTRansition?	
				:RXSBit2	[.EVENTt]?	
					:CONDition?	
					:ENABle	<numeric>
					:ENABle?	
					:PTRansition	<numeric>
					:PTRansition?	
					:NTRansition	<numeric>
					:NTRansition?	
				:RXSBit3	[.EVENTt]?	
					:CONDition?	
					:ENABle	<numeric>
					:ENABle?	
					:PTRansition	<numeric>
					:PTRansition?	
					:NTRansition	<numeric>
					:NTRansition?	
				:RXSBit4	[.EVENTt]?	
					:CONDition?	
					:ENABle	<numeric>
					:ENABle?	
					:PTRansition	<numeric>
					:PTRansition?	
					:NTRansition	<numeric>
					:NTRansition?	
				:RXSBit5	[.EVENTt]?	
					:CONDition?	
					:ENABle	<numeric>
					:ENABle?	
					:PTRansition	<numeric>
					:PTRansition?	
					:NTRansition	<numeric>
					:NTRansition?	
				:RXSBit6	[.EVENTt]?	
					:CONDition?	
					:ENABle	<numeric>
					:ENABle?	
					:PTRansition	<numeric>
					:PTRansition?	
					:NTRansition	<numeric>
					:NTRansition?	
				:RXSBit7	[.EVENTt]?	
					:CONDition?	

					:ENABLE	<numeric>	
					:ENABLE?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?		
				:RXSBit8	[:EVENT]?		
					:CONDition?		
					:ENABLE	<numeric>	
					:ENABLE?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?		
				:RXSBit9	[:EVENT]?		
					:CONDition?		
					:ENABLE	<numeric>	
					:ENABLE?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?		
				:RXSBit10	[:EVENT]?		
					:CONDition?		
					:ENABLE	<numeric>	
					:ENABLE?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?	<numeric>	
			:TXFas1	[:EVENT]?			
				:CONDition?			
				:ENABLE	<numeric>		
				:ENABLE?			
				:PTRansition	<numeric>		
				:PTRansition?			
				:NTRansition	<numeric>		
				:NTRansition?			
				:TXFBit0	[:EVENT]?		
					:CONDition?		
					:ENABLE	<numeric>	
					:ENABLE?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?	<numeric>	
				:TXFBit1	[:EVENT]?		
					:CONDition?		
					:ENABLE	<numeric>	
					:ENABLE?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?	<numeric>	
				:TXFBit2	[:EVENT]?		
					:CONDition?		
					:ENABLE	<numeric>	
					:ENABLE?		
					:PTRansition	<numeric>	

5章 リモートコマンド階層

					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?	<numeric>	
				:TXFBit3	[:EVENT]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?	<numeric>	
				:TXFBit4	[:EVENT]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?	<numeric>	
				:TXFBit5	[:EVENT]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?	<numeric>	
				:TXFBit6	[:EVENT]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?	<numeric>	
				:TXFBit7	[:EVENT]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?	<numeric>	
				:TXFBit8	[:EVENT]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?	<numeric>	
				:TXFBit9	[:EVENT]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?	<numeric>	
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?	<numeric>	

			:TXFBit10	[[:EVENT]?]		
				:CONDition?		
				:ENABle	<numeric>	
				:ENABle?		
				:PTRansition	<numeric>	
				:PTRansition?		
				:NTRansition	<numeric>	
				:NTRansition?	<numeric>	
			:TXFBit11	[[:EVENT]?]		
				:CONDition?		
				:ENABle	<numeric>	
				:ENABle?		
				:PTRansition	<numeric>	
				:PTRansition?		
				:NTRansition	<numeric>	
				:NTRansition?	<numeric>	
			:TXFBit12	[[:EVENT]?]		
				:CONDition?		
				:ENABle	<numeric>	
				:ENABle?		
				:PTRansition	<numeric>	
				:PTRansition?		
				:NTRansition	<numeric>	
				:NTRansition?	<numeric>	
			:TXFBit13	[[:EVENT]?]		
				:CONDition?		
				:ENABle	<numeric>	
				:ENABle?		
				:PTRansition	<numeric>	
				:PTRansition?		
				:NTRansition	<numeric>	
				:NTRansition?	<numeric>	
			:TXFBit14	[[:EVENT]?]		
				:CONDition?		
				:ENABle	<numeric>	
				:ENABle?		
				:PTRansition	<numeric>	
				:PTRansition?		
				:NTRansition	<numeric>	
				:NTRansition?	<numeric>	
		:TXFas2	[[:EVENT]?]			
			:CONDition?			
			:ENABle	<numeric>		
			:ENABle?			
			:PTRansition	<numeric>		
			:PTRansition?			
			:NTRansition	<numeric>		
			:NTRansition?			
			:TXFBit15	[[:EVENT]?]		
				:CONDition?		
				:ENABle	<numeric>	
				:ENABle?		
				:PTRansition	<numeric>	
				:PTRansition?		
				:NTRansition	<numeric>	
				:NTRansition?	<numeric>	
			:TXFBit16	[[:EVENT]?]		
				:CONDition?		
				:ENABle	<numeric>	

					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?	<numeric>	
				:TXFBit17	[:EVENT]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?	<numeric>	
				:TXFBit18	[:EVENT]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?	<numeric>	
				:TXFBit19	[:EVENT]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?	<numeric>	
			:RXFas1	[:EVENT]?			
				:CONDition?			
				:ENABle	<numeric>		
				:ENABle?			
				:PTRansition	<numeric>		
				:PTRansition?			
				:NTRansition	<numeric>		
				:NTRansition?			
				:RXFBit0	[:EVENT]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?	<numeric>	
				:RXFBit1	[:EVENT]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?	<numeric>	
				:RXFBit2	[:EVENT]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		

					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?	<numeric>	
				:RXFBit3	[:EVENT]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?	<numeric>	
				:RXFBit4	[:EVENT]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?	<numeric>	
				:RXFBit5	[:EVENT]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?	<numeric>	
				:RXFBit6	[:EVENT]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?	<numeric>	
				:RXFBit7	[:EVENT]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?	<numeric>	
				:RXFBit8	[:EVENT]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?	<numeric>	
				:RXFBit9	[:EVENT]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?	<numeric>	
				:RXFBit10	[:EVENT]?		

					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?	<numeric>	
				:RXFBit11	[.:EVENTt]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?	<numeric>	
				:RXFBit12	[.:EVENTt]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?	<numeric>	
				:RXFBit13	[.:EVENTt]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?	<numeric>	
				:RXFBit14	[.:EVENTt]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?	<numeric>	
				:RXFas2	[.:EVENTt]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?		
				:RXFBit15	[.:EVENTt]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?	<numeric>	
				:RXFBit16	[.:EVENTt]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		

					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?	<numeric>	
				:RXFBit17	[:EVENT]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?	<numeric>	
				:RXFBit18	[:EVENT]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?	<numeric>	
				:RXFBit19	[:EVENT]?		
					:CONDition?		
					:ENABle	<numeric>	
					:ENABle?		
					:PTRansition	<numeric>	
					:PTRansition?		
					:NTRansition	<numeric>	
					:NTRansition?	<numeric>	
	:OPERation	[:EVENT]?					
		:CONDition?					
		:ENABle		<numeric>			
		:ENABle?					
		:PTRansition		<numeric>			
		:PTRansition?					
		:NTRansition		<numeric>			
		:NTRansition?					
		:INSTrument	[:EVENT]?				
			:CONDition?				
			:ENABle	<numeric>			
			:ENABle?				
			:PTRansition	<numeric>			
			:PTRansition?				
			:NTRansition	<numeric>			
			:NTRansition?				
			:BATTery	[:EVENT]?			
				:CONDition?			
				:ENABle	<numeric>		
				:ENABle?			
				:PTRansition	<numeric>		
				:PTRansition?			
				:NTRansition	<numeric>		
				:NTRansition?			

(空白)

6章 リモートコマンドフォーマット

6.1 SCPI の概要

本器では、リモート制御を行うためのコマンドとして SCPI(Standard Commands for Programmable Instruments)を採用しています。

ここでは、SCPI の概要、コマンド体型について説明します。なお、コマンドの使用例、レスポンスの例は下記のように記述します。

＞プログラムメッセージ (プログラムコマンド、問い合わせコマンド)

＜ レスポンス

■ 概要

SCPI は SCPI コンソシアムによって定義された、ハードウェアに依存しない装置コマンド言語です。

SCPI の目的は、自動測定器(ATE)のプログラム開発期間をより短くすることで、そのために、装置コントロールやデータの取り扱いなどのプログラミング環境に一貫性を持たせています。また、同機種間や、同じ機能を持つ異機種間に互換性があり、同じ機能を持つ装置を制御する場合には、まったく等しい制御で行えるという特徴を持っています。

■ コマンド構造

```
:SOURce
  :TELeom
    :INTerface          <type>
    :INTerface?
```

図 6.1-1 SCPI コマンドの Tree の例

SCPI コマンドは階層構造に基づいています。コマンドは関連する機能ごとにグルーピングされていて、それぞれに"サブシステム"と呼ばれる階層構造を構成しています。

本取扱説明書ではサブシステムをそれぞれ上図のようなコマンド Tree で表しています。Tree の中には、同じヘッダが現れる場合がありますが、そのヘッダが存在する位置によってそれぞれ異なる機能に対応しています。そのため、コマンドは使用するヘッダまでのフルパスで記述する必要があります。

例： SOURce サブシステム

SOURce は最も高いレベルのノード

TELeom は 2 番目のレベルのノード

INTerface,INTerface?は 共に 3 番目のレベルのノード

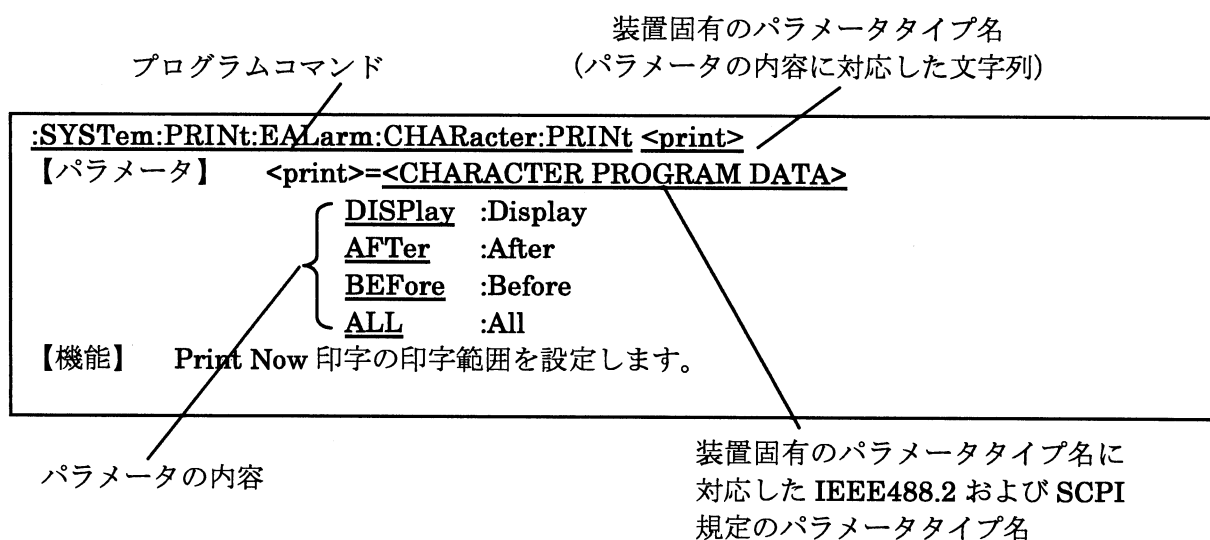
<type>は INTerface のパラメータタイプ

6.1.1 コマンドの詳細説明の読み方

以降の節からコマンドの詳細について説明します。ここではその読み方、注意点について説明します。

- コマンドの説明の順序
コマンドの詳細は、サブシステムごとに分類され、前章のコマンド **Tree** の並び順で記述します。画面や機能とコマンドの対応は「付録 A コマンドの一覧表」を参照してください。
- プログラムコマンドの例
下の例のコマンドを送る場合は、下記のようになります。

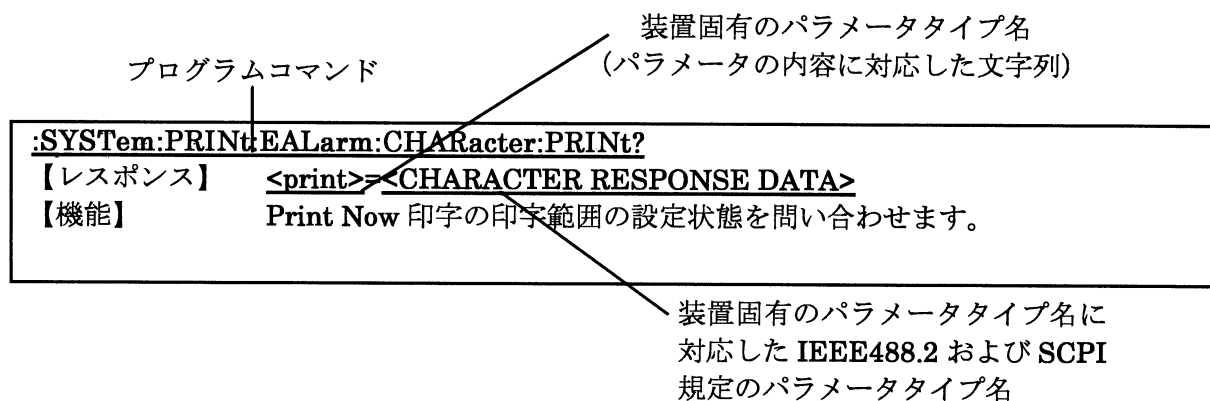
:SYSTem:PRINt:EALarm:CHARacter:PRINt <print>



- 問い合わせコマンドの例
レスポンスの内容は、対応するプログラムコマンドが存在する場合は、省略します。下の例のコマンドを送る場合および、レスポンスは、下記のようになります。

:SYSTem:PRINt:EALarm:CHARacter:PRINt?

レスポンス : DISP



6.1.2 コマンド記述法

:SOURce:TELEcom:INTerface <Interface> <Interface> = V24,V35,V36,RS449...
 :SOURce:TELEcom:INTerface?

前章で示したコマンド **Tree** はそれぞれ上記のコマンドとなります。
 下にコマンドの記述に関する規定を説明します。

■ コマンドフォーマット

コマンドは' :'から始まります。またコマンドはヘッダとヘッダを' :'で連結して構成しています。

■ ヘッダの省略形式

ヘッダにはショートフォームとロングフォームがあります。ショートフォームはロングフォームの省略形でヘッダの中の大文字の部分です。

コマンドはショートフォーム、ロングフォームのどちらを用いても同じコマンドとして解釈されます。(ショート、ロングを混ぜて用いることもできます。)

コマンドを説明するさいにはショートとロングの区別のために大文字と小文字が使用していますが、実際には大小文字の区別はありません。

(SOURCE, Source, source の3つは同じヘッダとして解釈されます。)

例：	ロングフォーム	:SOURCE:TELECOM:INTERFACAE V24
	ショートフォーム	:SOUR:TEL:INT V24
	ロング+ショート	:SOUR:TELEcom:INT V24

■ オプションノード

[]はオプションノードを表します。[]で囲まれたヘッダは省略してもよく、省略したものとしなないものは、同じコマンドとして解釈されます。

例：	ヘッダを省略しない場合	:DISPlay:SYSTem:NAME SSCommon
	ヘッダを省略した場合	:DISPlay:SYSTem SSCommon

■ コマンドセパレータ

コマンドとパラメータの間には必ず1つ以上スペースが必要です。また、2つ以上のパラメータは、', 'で区切る必要があります。

■ コマンドの複合

コマンドは下記の例のように';'で複合することができます。2つ目のコマンドは1つ目のコマンドの最下位階層と同じレベルとして参照されます。

そのため、例1のように2つ目のコマンドをフルパスで記述することもできますが、例2のようにINT から上位のヘッダを省略して記述することもできます。

例1	:	SOURce:TELEcom:INTerface:V24;	SOURce:TELEcom:INTerface?
例2	:	SOURce:TELEcom:INTerface:V24;	INTerface?

6.2 SYSTem サブシステム

:SYSTem:IOUtpu[:TYPE] <type>

【パラメータ】 <type>=<STRING PROGRAM DATA>
 "OUT1:IN1":1Out/1In
 "IN1" :1In
 "IN2" :2In

【機能】 入出力の切り替えを設定します。

【対応画面】 Setup:Input/Output 画面の Input/Output

【使用例】 > :SYSTem:IOUtpu "OUT1:IN1"

:SYSTem:IOUtpu[:TYPE]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <type>=<STRING RESPONSE DATA>
 :SYSTem:IOUtpu[:TYPE]と同じです。

【機能】 入出力の切り替えの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:Input/Output 画面の Input/Output

【使用例】 > :SYSTem:IOUtpu[:TYPE]?
 < "OUT1:IN1"

:SYSTem:PRINt:POUT <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
 OFF or 0 :Off
 ON or 1 :On

【機能】 外部プリンタ出力 On/Offを設定します。

【対応画面】 Setup:Print 画面の Print out

【使用例】 > :SYSTem:PRINt:POUT 0

:SYSTem:PRINt:POUT?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 :SYSTem:PRINt:POUTと同じです。

【機能】 外部プリンタ出力 On/Offの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:Print 画面の Print out

【使用例】 > :SYSTem:PRINt:POUT?
 < 0

:SYSTem:PRINT:IDATa[:TYPE] <type>

【パラメータ】 <type>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
OFF :Off
INDividual :Individual
ACCumulate:Accumulate
【機能】 中間データ印字を設定します。
【対応画面】 Setup:Print 画面の Intermediate data
【使用例】 > :SYSTem:PRINT:IDATa OFF

:SYSTem:PRINT:IDATa[:TYPE]?

【パラメータ】 なし。
【レスポンス】 <type>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
:SYSTem:PRINT:IDATa[:TYPE]と同じです。
【機能】 中間データ印字の設定状態を問い合わせます。
【対応画面】 Setup:Print 画面の Intermediate data
【使用例】 > :SYSTem:PRINT:IDATa?
< OFF

:SYSTem:PRINT:IDATa:PERiod <numeric>,<suffix>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
1~99 (ステップ 1)
<suffix>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
SEC :s
MIN :min
HOUR :hour
DAY :day
【機能】 中間データ印字周期を設定します。
【対応画面】 Setup:Print 画面の Intermediate data
【使用例】 > :SYSTem:PRINT:IDATa:PERiod 1,SEC

:SYSTem:PRINT:IDATa:PERiod?

【パラメータ】 なし。
【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
:SYSTem:PRINT:IDATa:PERiodと同じです。
<suffix>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
:SYSTem:PRINT:IDATa:PERiodと同じです。
【機能】 中間データ印字周期の設定状態を問い合わせます。
【対応画面】 Setup:Print 画面の Intermediate data
【使用例】 > :SYSTem:PRINT:IDATa:PERiod?
< 1,SEC

:SYSTem:PRINt:MCONdition <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
 OFF or 0 :Off
 ON or 1 :On

【機能】 測定条件印字の On/Off を設定します。

【対応画面】 Setup:Print 画面の Measuring condition

【使用例】 > :SYSTem:PRINt:MCONdition 0

:SYSTem:PRINt:MCONdition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 :SYSTem:PRINt:MCONdition と同じです。

【機能】 測定条件印字の On/Off の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:Print 画面の Measuring condition

【使用例】 > :SYSTem:PRINt:MCONdition?
 < 0

:SYSTem:PRINt:ERROr:SET <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
 OFF or 0 :Off
 ON or 1 :On

【機能】 エラーデータ 1 秒印字の On/Off を設定します。

【対応画面】 Setup:Print 画面の Error occurrence

【使用例】 > :SYSTem:PRINt:ERROr:SET 0

:SYSTem:PRINt:ERROr:SET?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 :SYSTem:PRINt:ERROr:SET と同じです。

【機能】 エラーデータ 1 秒印字の On/Off の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:Print 画面の Error occurrence

【使用例】 > :SYSTem:PRINt:ERROr:SET?
 < 0

:SYSTem:PRINt:ERRor:UNIT <unit>

【パラメータ】 <unit>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
 COUNT :Count
 RATE :Rate
 【機能】 エラーデータ 1 秒印字形式を設定します。
 【対応画面】 Setup:Print 画面の Unit
 【使用例】 > :SYSTem:PRINt:ERRor:UNIT COUNT

:SYSTem:PRINt:ERRor:UNIT?

【パラメータ】 なし。
 【レスポンス】 <unit>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
 :SYSTem:PRINt:ERRor:UNIT と同じです。
 【機能】 エラーデータ 1 秒印字形式の設定状態を問い合わせます。
 【対応画面】 Setup:Print 画面の Unit
 【使用例】 > :SYSTem:PRINt:ERRor:UNIT?
 < COUN

:SYSTem:PRINt:ERRor:THReshold:EC <ecount>

【パラメータ】 <ecount>=<STRING PROGRAM DATA>
 "OFF" :Off
 "1" :> 1
 "10" :> 10
 "100" :> 100
 "1000" :>1000
 【機能】 エラーカウンツレシヨルド値を設定します。
 【対応画面】 Setup:Print 画面の Threshold
 【使用例】 > :SYSTem:PRINt:ERRor:THReshold:EC "OFF"

:SYSTem:PRINt:ERRor:THReshold:EC?

【パラメータ】 なし。
 【レスポンス】 <ecount>=<STRING RESPONSE DATA>
 :SYSTem:PRINt:ERRor:THReshold:EC と同じです。
 【機能】 エラーカウンツレシヨルド値の設定状態を問い合わせます。
 【対応画面】 Setup:Print 画面の Threshold
 【使用例】 > :SYSTem:PRINt:ERRor:THReshold:EC?
 < "OFF"

:SYSTem:PRINT:ERROR:THReshold:ER <erate>

【パラメータ】 <erate>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

OFF :Off
 R1E_3 :>1E-3
 R1E_4 :>1E-4
 R1E_5 :>1E-5
 R1E_6 :>1E-6

【機能】 エラーレートスレシヨルド値を設定します。

【対応画面】 Setup:Print 画面の Threshold

【使用例】 > :SYSTem:PRINT:ERROR:THReshold:ER "OFF"

:SYSTem:PRINT:ERROR:THReshold:ER?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <erate>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SYSTem:PRINT:ERROR:THReshold:ER と同じです。

【機能】 エラーレートスレシヨルド値の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:Print 画面の Threshold

【使用例】 > :SYSTem:PRINT:ERROR:THReshold:ER?
 < "OFF"

:SYSTem:PRINT:SQUelch <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>

OFF or 0 :Off
 ON or 1 :On

【機能】 連続エラー/アラーム発生時の印字停止の On/Off を設定します。

【対応画面】 Setup:Print 画面の Print save

【使用例】 > :SYSTem:PRINT:SQUelch 0

:SYSTem:PRINT:SQUelch?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:SYSTem:PRINT:SQUelch と同じです。

【機能】 連続エラー/アラーム発生時の印字停止の On/Off の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:Print 画面の Print save

【使用例】 > :SYSTem:PRINT:SQUelch?
 < 0

:SYSTem:PRINT:ALARm:SET <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>

OFF or 0 :Off

ON or 1 :On

【機能】 アラームデータ 1 秒印字の On/Off を設定します。

【対応画面】 Setup:Print 画面の Alarm occurrence

【使用例】 > :SYSTem:PRINT:ALARm:SET 0

:SYSTem:PRINT:ALARm:SET?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:SYSTem:PRINT:ALARm:SET と同じです。

【機能】 アラームデータ 1 秒印字の On/Off の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:Print 画面の Alarm occurrence

【使用例】 > :SYSTem:PRINT:ALARm:SET?

< 0

:SYSTem:PRINT:LDATa:SET <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>

OFF or 0 :Off

ON or 1 :On

【機能】 測定中間/終了データ印字の On/Off を設定します。

【対応画面】 Setup:Print 画面の Last data

【使用例】 > :SYSTem:PRINT:LDATa:SET 0

:SYSTem:PRINT:LDATa:SET?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:SYSTem:PRINT:ALARm:SET と同じです。

【機能】 測定中間/終了データ印字の On/Off の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:Print 画面の Last data

【使用例】 > :SYSTem:PRINT:LDATa:SET?

< 0

:SYSTem:PRINT:ILDCondition:ERRor <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
 OFF or 0 :Off
 ON or 1 :On

【機能】 測定中間/終了エラーデータ印字の On/Off を設定します。
 【対応画面】 Setup:Print 画面の Error
 【使用例】 > :SYSTem:PRINT:ILDCondition:ERRor 0

:SYSTem:PRINT:ILDCondition:ERRor?

【パラメータ】 なし。
 【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 :SYSTem:PRINT:ILDCondition:ERRor と同じです。
 【機能】 測定中間/終了エラーデータ印字の On/Off の設定状態を問い合わせます。
 【対応画面】 Setup:Print 画面の Error
 【使用例】 > :SYSTem:PRINT:ILDCondition:ERRor?
 < 0

:SYSTem:PRINT:ILDCondition:ALARm <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
 OFF or 0 :Off
 ON or 1 :On
 【機能】 測定中間/終了アラームデータ印字の On/Off を設定します。
 【対応画面】 Setup:Print 画面の Alarm
 【使用例】 > :SYSTem:PRINT:ILDCondition:ALARm 0

:SYSTem:PRINT:ILDCondition:ALARm?

【パラメータ】 なし。
 【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 :SYSTem:PRINT:ILDCondition:ALARm と同じです。
 【機能】 測定中間/終了アラームデータ印字の On/Off の設定状態を問い合わせます。
 【対応画面】 Setup:Print 画面の Alarm
 【使用例】 > :SYSTem:PRINT:ILDCondition:ALARm?
 < 0

:SYSTem:PRINT:ILDCondition:PERFormance <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
 OFF or 0 :Off
 ON or 1 :On
 【機能】 測定中間/終了パフォーマンスデータ印字の On/Off を設定します。
 【対応画面】 Setup:Print 画面の Performance
 【使用例】 > :SYSTem:PRINT:ILDCondition:PERFormance 0

:SYSTem:PRINt:ILDCCondition:PERFormance?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 :SYSTem:PRINt:ILDCCondition:PERFormance と同じです。
- 【機能】 測定中間/終了パフォーマンスデータ印字の On/Off の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Setup:Print 画面の Performance
- 【使用例】 > :SYSTem:PRINt:ILDCCondition:PERFormance?
 < 0

:SYSTem:PRINt:ILDCCondition:HDLC <boolean>

- 【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
 OFF or 0 :Off
 ON or 1 :On
- 【機能】 測定中間/終了 HDLC エラーデータ印字の On/Off を設定します。
- 【対応画面】 Setup:Print 画面の HDLC Frame error
- 【使用例】 > :SYSTem:PRINt:ILDCCondition:HDLC 0

:SYSTem:PRINt:ILDCCondition:HDLC?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 :SYSTem:PRINt:ILDCCondition:HDLC と同じです。
- 【機能】 測定中間/終了 HDLC エラーデータ印字の On/Off の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Setup:Print 画面の HDLC Frame error
- 【使用例】 > :SYSTem:PRINt:ILDCCondition:HDLC?
 < 0

:SYSTem:PRINt:EALarm:CHARacter:PRINt <print>

- 【パラメータ】 <print>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
 DISPlay :Display
 AFTer :After
 BEFore :Before
 ALL :All
- 【機能】 Print Now 印字の印字範囲を設定します。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Character:Print
- 【使用例】 > :SYSTem:PRINt:EALarm:CHARacter:PRINt DISPlay

:SYSTem:PRINt:EALarm:CHARacter:PRINt?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <print>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
 :SYSTem:PRINt:EALarm:CHARacter:PRINt と同じです。
- 【機能】 Print Now 印字の印字範囲の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Character:Print
- 【使用例】 > :SYSTem:PRINt:EALarm:CHARacter:PRINt?
 < DISP

:SYSTem:PRINT:WTRace:PDATa:PRINT <print>

【パラメータ】 <print>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

DISPlay :Display

AFTer :After

BEFore :Before

ALL :All

【機能】 Print Now 印字の印字範囲を設定します。

【対応画面】 Measure:Word trace 画面の PRGM Data:Print

【使用例】 > :SYSTem:PRINT:WTRace:PDATa:PRINT DISPlay

:SYSTem:PRINT:WTRace:PDATa:PRINT?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <print>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SYSTem:PRINT:WTRace:PDATa:PRINT と同じです。

【機能】 Print Now 印字の印字範囲の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Word trace 画面の PRGM Data:Print

【使用例】 > :SYSTem:PRINT:WTRace:PDATa:PRINT?

< DISP

:SYSTem:PRINT:ANALyze:EALogging:PRINT <print>

【パラメータ】 <print>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

DISPlay :Display

AFTer :After

BEFore :Before

ALL :All

【機能】 Print Now 印字の印字範囲を設定します。

【対応画面】 Analyze:Error/Alarm 画面の Logging:Print

【使用例】 > :SYSTem:PRINT:ANALyze:EALogging:PRINT DISPlay

:SYSTem:PRINT:ANALyze:EALogging:PRINT?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <print>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SYSTem:PRINT:ANALyze:EALogging:PRINT と同じです。

【機能】 Print Now 印字の印字範囲の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Analyze:Error/Alarm 画面の Logging:Print

【使用例】 > :SYSTem:PRINT:ANALyze:EALogging:PRINT?

< DISP

:SYSTem:PRINT:ANALyze:EAHistogram:PRINT <print>

【パラメータ】 <print>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

DISPlay :Display

AFter :After

BEFore :Before

ALL :All

【機能】 Print Now 印字の印字範囲を設定します。

【対応画面】 Analyze:Error/Alarm 画面の Histogram:Print

【使用例】 > :SYSTem:PRINT:ANALyze:EAHistogram:PRINT DISPlay

:SYSTem:PRINT:ANALyze:EAHistogram:PRINT?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <print>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SYSTem:PRINT:ANALyze:EAHistogram:PRINT と同じです。

【機能】 Print Now 印字の印字範囲の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Analyze:Error/Alarm 画面の Histogram:Print

【使用例】 > :SYSTem:PRINT:ANALyze:EAHistogram:PRINT?

< DISP

:SYSTem:PRINT:ANALyze:TDAa:PRINT <print>

【パラメータ】 <print>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

DISPlay :Display

AFter :After

BEFore :Before

ALL :All

【機能】 Print Now 印字の印字範囲を設定します。

【対応画面】 Analyze:Trace data 画面の Print

【使用例】 > :SYSTem:PRINT:ANALyze:TDAa:PRINT DISPlay

:SYSTem:PRINT:ANALyze:TDAa:PRINT?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <print>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SYSTem:PRINT:ANALyze:TDAa:PRINT と同じです。

【機能】 Print Now 印字の印字範囲の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Analyze:Trace data 画面の Print

【使用例】 > :SYSTem:PRINT:ANALyze:TDAa:PRINT?

< DISP

:SYSTem:PRINt:ANALyze:PMONitor:PRINt <print>

【パラメータ】 <print>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

DISPlay :Display

AFter :After

BEFore :Before

ALL :All

【機能】 Print Now 印字の印字範囲を設定します。

【対応画面】 Analyze:Protocol monitor 画面の Print

【使用例】 > :SYSTem:PRINt:ANALyze:PMONitor:PRINt DISPlay

:SYSTem:PRINt:ANALyze:PMONitor:PRINt?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <print>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SYSTem:PRINt:ANALyze:PMONitor:PRINt と同じです。

【機能】 Print Now 印字の印字範囲の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Analyze:Protocol monitor 画面の Print

【使用例】 > :SYSTem:PRINt:ANALyze:PMONitor:PRINt DISPlay

:SYSTem:PRINt:ANALyze:RECall:EALogging:PRINt <print>

【パラメータ】 <print>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

DISPlay :Display

AFter :After

BEFore :Before

ALL :All

【機能】 Print Now 印字の印字範囲を設定します。

【対応画面】 Analyze:Recall(E/A Logging)画面の Print

【制約】 データが無い場合、実行エラーとします。

【使用例】 > :SYSTem:PRINt:ANALyze:RECall:EALogging:PRINt DISPlay

:SYSTem:PRINt:ANALyze:RECall:EALogging:PRINt?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <print>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SYSTem:PRINt:ANALyze:RECall:EALogging:PRINt と同じです。

ただし、データが無い場合は<print>=<STRING RESPONSE DATA>とし、
"No Data"を返します。

【機能】 Print Now 印字の印字範囲の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Analyze:Recall(E/A Logging)画面の Print

【使用例】 > :SYSTem:PRINt:ANALyze:RECall:EALogging:PRINt?

< DISP

:SYSTem:PRINt:ANALyze:RECall:EAHistogram:PRINt <print>

【パラメータ】 <print>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

DISPlay :Display

AFTer :After

BEFore :Before

ALL :All

【機能】 Print Now 印字の印字範囲を設定します。

【対応画面】 Analyze:Recall(E/A Histgrm)画面の Print

【制約】 データが無い場合、実行エラーとします。

【使用例】 > :SYSTem:PRINt:ANALyze:RECall:EAHistogram:PRINt DISPlay

:SYSTem:PRINt:ANALyze:RECall:EAHistogram:PRINt?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <print>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SYSTem:PRINt:ANALyze:RECall:EAHistogram:PRINt と同じです。

ただし、データが無い場合は<print>=<STRING RESPONSE DATA>とし、
"No Data"を返します。

【機能】 Print Now 印字の印字範囲の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Analyze:Recall(E/A Histgrm)画面の Print

【使用例】 > :SYSTem:PRINt:ANALyze:RECall:EAHistogram:PRINt?

< DISP

:SYSTem:PRINt:ANALyze:RECall:TDATa:PRINt <print>

【パラメータ】 <print>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

DISPlay :Display

AFTer :After

BEFore :Before

ALL :All

【機能】 Print Now 印字の印字範囲を設定します。

【対応画面】 Analyze:Recall(Trace data)画面の Print

【制約】 データが無い場合、実行エラーとします。

【使用例】 > :SYSTem:PRINt:ANALyze:RECall:TDATa:PRINt DISPlay

:SYSTem:PRINt:ANALyze:RECall:TDATa:PRINt?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <print>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SYSTem:PRINt:ANALyze:RECall:TDATa:PRINt と同じです。

ただし、データが無い場合は<print>=<STRING RESPONSE DATA>とし、
"No Data"を返します。

【機能】 Print Now 印字の印字範囲の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Analyze:Recall(Trace data)画面の Print

【使用例】 > :SYSTem:PRINt:ANALyze:RECall:TDATa:PRINt?

< DISP

:SYSTem:PRINT:ANALyze:RECall:PMONitor:PRINT <print>

【パラメータ】 <print>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

DISPlay :Display

AFTer :After

BEFore :Before

ALL :All

【機能】 Print Now 印字の印字範囲を設定します。

【対応画面】 Analyze:Recall(Protocol monitor)画面の Print

【制約】 データが無い場合、実行エラーとします。

【使用例】 > :SYSTem:PRINT:ANALyze:RECall:PMONitor:PRINT DISPlay

:SYSTem:PRINT:ANALyze:RECall:PMONitor:PRINT?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <print>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SYSTem:PRINT:ANALyze:RECall:PMONitor:PRINT と同じです。

ただし、データが無い場合は<print>=<STRING RESPONSE DATA>とし、
"No Data"を返します。

【機能】 Print Now 印字の印字範囲の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Analyze:Recall(Protocol monitor)画面の Print

【使用例】 > :SYSTem:PRINT:ANALyze:RECall:TDATa:PRINT?

< DISP

:SYSTem:PRINT:COPY:START

- 【パラメータ】 なし。
【機能】 Print Now 印字の実行開始を設定します。
【対応画面】 Print Now キー
【制約】 Print Now 印字実行中の場合、本機能は無視され実行エラーとします。
【使用例】 > :SYSTem:PRINT:COPY:START

:SYSTem:PRINT:COPY:STOP

- 【パラメータ】 なし。
【機能】 Print Now 印字の実行停止を設定します。
【対応画面】 Print Now キー
【使用例】 > :SYSTem:PRINT:COPY:STOP

:SYSTem:PRINT:COPY:STATe?

- 【パラメータ】 なし。
【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
0 :印字終了または未印字
1 :印字中
【機能】 Print Now 印字の実行状態を問い合わせます。
【対応画面】 なし。
【使用例】 > :SYSTem:PRINT:COPY:STATe?
< 1

:SYSTem:MEMory:RECall <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
0~10 (ステップ 1)
【機能】 測定条件保持メモリの Recall を設定します。
【対応画面】 Setup:Memory 画面の Measurement condition
【使用例】 > :SYSTem:MEMory:RECall 1

:SYSTem:MEMory:STORe <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
1~10 (ステップ 1)
【機能】 測定条件保持メモリの Store を設定します。
【対応画面】 Setup:Memory 画面の Measurement condition
【使用例】 > :SYSTem:MEMory:STORe 1

:SYSTem:MEMory:REStore <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
1~10 (ステップ 1)
【機能】 測定条件保持メモリの Restore を設定します。
【対応画面】 Setup:Memory 画面の Measurement condition
【使用例】 > :SYSTem:MEMory:REStore 1

:SYSTem:MEMory:CLEar <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
1~10 (ステップ 1)
- 【機能】 測定条件保持メモリの Clear を設定します。
- 【対応画面】 Setup:Memory 画面の Measurement condition
- 【使用例】 > :SYSTem:MEMory:CLEar 1

:SYSTem:MEMory:LABel <numeric>,<title>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
1~10 (ステップ 1)
- <title>=<STRING PROGRAM DATA>
"メモリの名前"
- 【機能】 測定条件保持メモリの名前を設定します。
- 【対応画面】 Setup:Memory 画面の Measurement condition
- 【使用例】 測定条件保持メモリ 1 に TEST1 という名前を設定する場合
> :SYSTem:MEMory:LABel 1,"TEST1"

:SYSTem:MEMory:LABel? <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
:SYSTem:MEMory:LABel と同じです。
- 【レスポンス】 <title>=<STRING RESPONSE DATA>
:SYSTem:MEMory:LABel と同じです。
ただし、データが存在しない場合は, "*****"
- 【機能】 測定条件保持メモリの名前を問い合わせます。
- 【対応画面】 Setup:Memory 画面の Measurement condition
- 【使用例】 測定条件保持メモリ 1 から TEST1 という名前を問い合わせる場合
> :SYSTem:MEMory:LABel? 1
< "TEST1"

:SYSTem:MEMory:INITial

- 【パラメータ】 なし。
- 【機能】 全測定条件保持メモリの Initial を設定します。
- 【対応画面】 Setup:Memory 画面の Measurement condition
- 【使用例】 > :SYSTem:MEMory:INITial

:SYSTem:MEMory:ANALysis:RECall <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
1~10 (ステップ 1)
- 【機能】 分析&プログラマブルデータ保持メモリの Recall を設定します。
- 【対応画面】 Setup:Memory 画面の Analyze & Programmable data
- 【使用例】 > :SYSTem:MEMory:ANALysis:RECall 1

:SYSTem:MEMory:ANALysis:STORe <atype>

- 【パラメータ】 <atype>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
- | | |
|-------------|----------------------|
| CHARacter | : キャラクタパターンデータ |
| EALogging | : Error/Alarm ログデータ |
| EAHistogram | : Error/Alarm グラフデータ |
| PROGram | : プログラムデータ |
| TRACe | : トレースデータ |
| PMONitor | : プロトコルモニタ |
- 【機能】 分析&プログラマブルデータ保持メモリの Store を設定します。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Character:Store
Analyze:Error/Alarm 画面の Logging:Store
Analyze:Error/Alarm 画面の Histogram:Store
Measure:Word trace 画面の PRGM DataStore
Analyze:Trace data 画面の Store
Analyze:Protocol monitor 画面の Store
- 【使用例】 > :SYSTem:MEMory:ANALysis:STORe CHARacter

:SYSTem:MEMory:ANALysis:CLEar <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
1~10 (ステップ 1)
- 【機能】 分析&プログラマブルデータ保持メモリの Clear を設定します。
- 【対応画面】 Setup:Memory 画面の Analyze & Programmable data
- 【使用例】 > :SYSTem:MEMory:ANALysis:CLEar 1

:SYSTem:MEMory:ANALysis:LABel <numeric>,<title>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
1~10 (ステップ 1)
- <title>=<STRING PROGRAM DATA>
"メモリの名前"
- 【機能】 分析&プログラマブルデータ保持メモリの名前を設定します。
- 【対応画面】 Setup:Memory 画面の Analyze & Programmable data
- 【使用例】 分析&プログラマブルデータ保持メモリ 1 に TEST1 という名前を設定する場合
> :SYSTem:MEMory:ANALysis:LABel 1,"TEST1"

:SYSTem:MEMory:ANALysis:LABel? <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

:SYSTem:MEMory:ANALysis:LABel と同じです。

【レスポンス】 <atype>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

CHARacter : キャラクタパターンデータ

EALogging : Error/Alarm ログデータ

EAHistogram : Error/Alarm グラフデータ

PROGram : プログラムデータ

TRACe : トレースデータ

PMONitor : プロトコルモニタ

NONE : データが存在しない場合

<title>=<STRING RESPONSE DATA>

:SYSTem:MEMory:ANALysis:LABel と同じです。

ただし、データが存在しない場合は、"*****"

【機能】 分析&プログラマブルデータ保持メモリのデータ種別と名前を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:Memory 画面の Analyze & Programmable data

【使用例】 分析&プログラマブルデータ保持メモリ 1 からキャラクタパターンデータの TEST1 という名前を問い合わせる場合

> :SYSTem:MEMory:ANALysis:LABel? 1

< CHAR,"TEST1"

:SYSTem:MEMory:ANALysis:AClear

【パラメータ】 なし。

【機能】 全分析&プログラマブルデータ保持メモリの Clear all を設定します。

【対応画面】 Setup:Memory 画面の Analyze & Programmable data

【使用例】 > :SYSTem:MEMory:ANALysis:AClear

:SYSTem:MMEMory:RECall <dtype>,<file_name>

【パラメータ】 <dtype>=<STRING PROGRAM DATA>

"CONDition"	:測定条件データ (Binary)
"CHARacter:BINary"	:キャラクタパターンデータ (Binary)
"CHARacter:TEXT"	:キャラクタパターンデータ (Text)
"EALogging:BINary"	:Error/Alarm ログデータ (Binary)
"REALogging:BINary"	:Error/Alarm ログデータ (Recall) (Binary)
"EAHistogram:BINary"	:Error/Alarm グラフデータ (Binary)
"REAHistogram:BINary"	:Error/Alarm グラフデータ (Recall) (Binary)
"PROGram:BINary"	:プログラムデータ (Binary)
"PROGram:TEXT"	:プログラムデータ (Text)
"TRACe:BINary"	:トレースデータ (Binary)
"RTRace:BINary"	:トレースデータ (Recall) (Binary)
"PMONitor:TEXT"	:プロトコルモニタデータ (Text)

<file_name>=<STRING PROGRAM DATA>

"ファイルの名前"

大小文字の区別なし。拡張子を含みます。

最大 12 文字 (" (ダブルコーテーション) は含みません)。

【機能】 FD のファイル読み込みを設定します。

【対応画面】 Setup:Floppy disk 画面の Load

【制約】 自己診断動作中は、実行エラー"Setting conflict"となります。

【使用例】 測定条件データの TEST_001.CND というファイルを読み込む場合

> :SYSTem:MMEMory:RECall "CONDition","TEST_001.CND"

:SYSTem:MMEMory:STORe <dtype>,<file_name>

【パラメータ】 <dtype>=<STRING PROGRAM DATA>

"CONDition"	:測定条件データ (Binary)
"CHARacter:BINary"	:キャラクタパターンデータ (Binary)
"CHARacter:TEXT"	:キャラクタパターンデータ (Text)
"EALogging:BINary"	:Error/Alarm ログデータ (Binary)
"EALogging:TEXT"	:Error/Alarm ログデータ (Text)
"REALogging:BINary"	:Error/Alarm ログデータ (Recall) (Binary)
"REALogging:TEXT"	:Error/Alarm ログデータ (Recall) (Text)
"EAHistogram:BINary"	:Error/Alarm グラフデータ (Binary)
"EAHistogram:TEXT"	:Error/Alarm グラフデータ (Text)
"REAHistogram:BINary"	:Error/Alarm グラフデータ (Recall) (Binary)
"REAHistogram:TEXT"	:Error/Alarm グラフデータ (Recall) (Text)
"PROGram:BINary"	:プログラムデータ (Binary)
"PROGram:TEXT"	:プログラムデータ (Text)
"TRACe:BINary"	:トレースデータ (Binary)
"TRACe:TEXT"	:トレースデータ (Text)
"RTRace:BINary"	:トレースデータ (Recall) (Binary)
"RTRace:TEXT"	:トレースデータ (Recall) (Text)
"PMONitor:TEXT"	:プロトコルモニタデータ (Text)
"RPMonitor:TEXT"	:プロトコルモニタデータ (Recall) (Text)

<file_name>=<STRING PROGRAM DATA>

"ファイルの名前"

大小文字の区別なし。拡張子を含みます。

最大 12 文字 (""は含みません)。

【機能】 FD へのファイル書き込みを設定します。

【対応画面】 Setup:Floppy disk 画面の Save

【制約】 自己診断動作中は、実行エラー"Setting conflict"となります。

【使用例】 測定条件データを TEST_001.CND というファイルに書き込む場合
 > :SYSTem:MMEMory:STORe "CONDition","TEST_001.CND"

:SYSTem:MMEMory:DELeTe <file_name>

【パラメータ】 <file_name>=<STRING PROGRAM DATA>

"ファイル/ディレクトリの名前"

大小文字の区別なし。ファイルの場合、拡張子を含みます。

最大 12 文字 (""は含みません)。

【機能】 FD のファイル/ディレクトリ削除を設定します。

【対応画面】 Setup:Floppy disk 画面の Delete

【制約】 自己診断動作中は、実行エラー"Setting conflict"となります。

【使用例】 カレントディレクトリにある TEST_01.CND というファイルを削除する場合
 > :SYSTem:MMEMory:DELeTe "TEST_01.CND"

:SYSTem:MMEMory:MDIRectory <dir_name>

【パラメータ】 <dir_name>=<STRING PROGRAM DATA>

"ディレクトリの名前"

大小文字の区別なし。

最大 12 文字 (""は含みません)。

【機能】 FD のディレクトリ作成を設定します。

【対応画面】 Setup:Floppy disk 画面の Makedir

【制約】 自己診断動作中は、実行エラー"Setting conflict"となります。

【使用例】 カレントディレクトリに MD6430A というディレクトリを作成する場合
> :SYSTem:MMEMory:MDIRectory "MD6430A"

:SYSTem:MMEMory:REName <src_file>,<dst_file>

【パラメータ】 <dir_name>=<STRING PROGRAM DATA>

"元ファイル/ディレクトリの名前"

大小文字の区別なし。

最大 12 文字 (""は含みません)。

<dst_file>=<STRING PROGRAM DATA>

"先ファイル/ディレクトリの名前"

大小文字の区別なし。

最大 12 文字 (""は含みません)。

【機能】 FD のファイル/ディレクトリの改名を設定します。

【対応画面】 Setup:Floppy disk 画面の Rename

【制約】 自己診断動作中は、実行エラー"Setting conflict"となります。

【使用例】 カレントディレクトリにある TEST01.CND というファイルを TEST02.CND に
改名する場合
> :SYSTem:MMEMory:REName "TEST01.CND","TEST02.CND"

:SYSTem:MMEMory:INITialize

【パラメータ】 なし。

【機能】 FD の初期化を設定します。

【対応画面】 Setup:Floppy disk 画面の Format

【制約】 自己診断動作中は、実行エラー"Setting conflict"となります。

【使用例】 > :SYSTem:MMEMory:INITialize

:SYSTem:MMEMory:CATalog? <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

表示データの先頭行番号。

最も日付けの新しいファイルまたはディレクトリを行番号 1 とします。

1~200 (ステップ 1)

【レスポンス】 <use_byte>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

使用容量

0~1457664

<free_byte>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

空き容量

0~1457664

<current_dir>=<STRING RESPONSE DATA>

"カレントディレクトリの名前"

文字列長は 1~255 文字です。

<current_file>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

カレントディレクトリ上の全ファイル/ディレクトリ数

0~200

<file_entry>=<STRING RESPONSE DATA>

カレントディレクトリのファイル/ディレクトリ情報。

各ファイル/ディレクトリ毎に以下の情報を出力します。

日付けの新しい順に出力します。

ただし、ディレクトリはファイルより優先されて出力します。

<file_name> :ファイル/ディレクトリ名。

大文字 (ファイル名は括弧子を含みます。ディレクトリ名は<>で囲みます)

<file_size> :ファイルのサイズ (6-219, 「表 6.6-2 レスポンスタイプの内

容」の Form1)

<data_time> :ファイルの時分 日/月/年

(注) FD 情報が読み出せない場合

0,0,"-----",0,"-----",-----"

【機能】 FD の情報を問い合わせます。

1 度に出力可能なファイル/ディレクトリの情報は最大 4 個とします。

【対応画面】 Setup:Floppy disk 画面

【使用例】 > :SYSTem:MMEMory:CATalog? 1

< 1024,1456640,"¥",35,

"<DELAY_01>-----,

<DELAY_02>-----,

TEST_001.CND, 256,10:30 31/Dec/1998 ,

TEST_002.CND, 256,10:22 31/Dec/1998"

:SYSTEM:MMEMory:CDIRectory <dir_name>

- 【パラメータ】 <dir_name>=<STRING PROGRAM DATA>
 "ディレクトリの名前"
 大小文字の区別なし。相対パス/フルパスのどちらでも指定可。
 文字列長は1～255文字とし、""は不可。
- 【機能】 FDのディレクトリの移動を設定します。
- 【対応画面】 Setup:Floppy disk 画面
- 【制約】 自己診断動作中は、実行エラー"Setting conflict"となります。
- 【使用例】 ルートディレクトリにあるMD6430Aというディレクトリに移動する場合
 :SYSTEM:MMEMory:CDIRectory "YMD6430A"
 カレントディレクトリにあるMD6430Aというディレクトリに移動する場合
 :SYSTEM:MMEMory:CDIRectory "MD6430A"

:SYSTEM:DATE <numeric1>,<numeric2>,<numeric3>

- 【パラメータ】 <numeric1>,<numeric2>,<numeric3>=
 <DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 1997～2096 (ステップ1) :<numeric1>
 1～12 (ステップ1) :<numeric2>
 1～31 (ステップ1) :<numeric3>
- 【機能】 現在日付けを設定します。
- 【対応画面】 Setup:System 画面の Common:Date & Time adjust
- 【使用例】 現在日付けを1998年12月31日にする場合
 > :SYSTEM:DATE 1998,12,31

:SYSTEM:DATE?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric1>,<numeric2>,<numeric3>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 :SYSTEM:DATEと同じです。
- 【機能】 現在日付けを問い合わせます。
- 【対応画面】 Setup:System 画面の Common:Date & Time adjust
- 【使用例】 > :SYSTEM:DATE?
 < 1998,12,31

:SYSTEM:TIME <numeric1>,<numeric2>,<numeric3>

- 【パラメータ】 <numeric1>,<numeric2>,<numeric3>=
 <DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 0～23 (ステップ1) :<numeric1>
 0～59 (ステップ1) :<numeric2>
 0～59 (ステップ1) :<numeric3>
- 【機能】 現在時間を設定します。
- 【対応画面】 Setup:System 画面の Common:Date & Time adjust
- 【使用例】 現在時間を14時0分0秒にする場合
 > :SYSTEM:TIME 14,0,0

:SYSTem:TIME?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric1>,<numeric2>,<numeric3>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
:SYSTem:TIME と同じです。

【機能】 現在時間を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Common:Date & Time adjust

【使用例】 > :SYSTem:TIME?
< 14,0,0**:SYSTem:BUZZer:TKEY <boolean>**【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
OFF or 0 :Off
ON or 1 :On

【機能】 ブザー（タッチ音）の On/Off を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Common:Touch key

【使用例】 > :SYSTem:BUZZer:TKEY 0

:SYSTem:BUZZer:TKEY?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
:SYSTem:BUZZer:TKEY と同じです。

【機能】 ブザー（タッチ音）の On/Off の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Common:Touch key

【使用例】 > :SYSTem:BUZZer:TKEY?
< 0**:SYSTem:BUZZer:OERRor <boolean>**【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
OFF or 0 :Off
ON or 1 :On

【機能】 ブザー（操作エラー）の On/Off を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Common:Operation error

【使用例】 > :SYSTem:BUZZer:OERRor 0

:SYSTem:BUZZer:OERRor?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
:SYSTem:BUZZer:OERRor と同じです。

【機能】 ブザー（操作エラー）の On/Off の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Common:Operation error

【使用例】 > :SYSTem:BUZZer:OERRor?
< 0

:SYSTem:BUZZer:EALarm <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>

OFF or 0 :Off

ON or 1 :On

【機能】 ブザー（エラー/アラーム用）の On/Off を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Common:Error & Alarm

【使用例】 > :SYSTem:BUZZer:EALarm 0

:SYSTem:BUZZer:EALarm?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:SYSTem:BUZZer:EALarm と同じです。

【機能】 ブザー（エラー/アラーム用）の On/Off の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Common:Error & Alarm

【使用例】 > :SYSTem:BUZZer:EALarm?

< 0

:SYSTem:CODeC:SVOLume <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

1~8（ステップ1）

【機能】 スピーカおよびヘッドセットの音量を設定します。（コーデック用）

【対応画面】 Setup:System 画面の Common:Speaker & Headset vol.

【使用例】 > :SYSTem:CODeC:SVOLume 1

:SYSTem:CODeC:SVOLume?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:SYSTem:CODeC:SVOLume と同じです。

【機能】 スピーカおよびヘッドセットの音量の設定状態を問い合わせます。
（コーデック用）

【対応画面】 Setup:System 画面の Common:Speaker & Headset vol.

【使用例】 > :SYSTem:CODeC:SVOLume?

< 1

:SYSTem:CODeC:SEnAble <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>

OFF or 0 :Off

ON or 1 :On

【機能】 スピーカの On/Off を設定します。（コーデック用）

【対応画面】 Setup:System 画面の Common:Speaker enable

【使用例】 > :SYSTem:BUZZer:EALarm 0

:SYSTem:CODeC:SEnAble?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:SYSTem:CODeC:SEnAble と同じです。

【機能】 スピーカの On/Off の設定状態を問い合わせます。（コーデック用）

【対応画面】 Setup:System 画面の Common:Speaker enable

【使用例】 > :SYSTem:CODeC:SEnAble?

< 0

:SYSTem:CODeC:PCoDe <pcode>

【パラメータ】 <pcode>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

ALAW :A-law

ULAW : μ -law

【機能】 符号則を設定します。（コーデック用）

【対応画面】 Setup:System 画面の Common:PCM Code

【使用例】 > :SYSTem:CODeC:PCoDe ALAW

:SYSTem:CODeC:PCoDe?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <pcode>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SYSTem:CODeC:PCoDe と同じです。

【機能】 符号則の設定状態を問い合わせます。（コーデック用）

【対応画面】 Setup:System 画面の Common:PCM Code

【使用例】 > :SYSTem:CODeC:PCoDe?

< ALAW

:SYSTem:PSAVe[:SET] <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>

OFF or 0 :Off

ON or 1 :On

【機能】 パワーセーブ機能の On/Off を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Common:Power save

【使用例】 > :SYSTem:PSAVe 0

:SYSTem:PSAVe[:SET]?

【パラメータ】 なし。
 【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 :SYSTem:PSAVe[:SET]と同じです。
 【機能】 パワーセーブ機能の On/Off の設定状態を問い合わせます。
 【対応画面】 Setup:System 画面の Common:Power save
 【使用例】 > :SYSTem:PSAVe?
 < 0

:SYSTem:PSAVe:PERiod <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 1~99 (ステップ 1)
 【機能】 パワーセーブ実行開始までの時間 (min) を設定します。
 【対応画面】 Setup:System 画面の Common:Power save
 【使用例】 > :SYSTem:PSAVe:PERiod 1

:SYSTem:PSAVe:PERiod?

【パラメータ】 なし。
 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 :SYSTem:PSAVe:PERiod と同じです。
 【機能】 パワーセーブ実行開始までの時間 (min) の設定状態を問い合わせます。
 【対応画面】 Setup:System 画面の Common:Power save
 【使用例】 > :SYSTem:PSAVe:PERiod?
 < 1

:SYSTem:ECOut:BCLock <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
 OFF or 0 :Off
 ON or 1 :On
 【機能】 クロックスリップ中のビットエラーカウント有/無を設定します。
 【対応画面】 Setup:System 画面の Common:Bit EC with clock slip
 【使用例】 > :SYSTem:ECOut:BCLock 0

:SYSTem:ECOut:BCLock?

【パラメータ】 なし。
 【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 :SYSTem:ECOut:BCLock と同じです。
 【機能】 クロックスリップ中のビットエラーカウント有/無の設定状態を問い合わせます。
 【対応画面】 Setup:System 画面の Common:Bit EC with clock slip
 【使用例】 > :SYSTem:ECOut:BCLock?
 < 0

:SYSTem:ECOut:BPSL <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>

OFF or 0 :Off

ON or 1 :On

【機能】 パターン同期外れ中のビットエラーカウント有/無を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Common:Bit EC with PSL

【使用例】 > :SYSTem:ECOut:BPSL 0

:SYSTem:ECOut:BPSL?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:SYSTem:ECOut:BPSL と同じです。

【機能】 パターン同期外れ中のビットエラーカウント有/無の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Common:Bit EC with PSL

【使用例】 > :SYSTem:ECOut:BPSL?

< 0

:SYSTem:FRE Lay:PVC <pvc>

【パラメータ】 <pvc>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

OFF :Off

ITUT :ITU-T Q.933 AnnexA

【機能】 フレームリレーPVC 確認手順を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Common:PVC

【使用例】 > :SYSTem:FRE Lay:PVC ITUT

:SYSTem:FRE Lay:PVC?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <pvc>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SYSTem:FRE Lay:PVC と同じです。

【機能】 フレームリレーPVC 確認手順の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Common:PVC

【使用例】 > :SYSTem:FRE Lay:PVC?

< ITUT

:SYSTem:INTErface:VXTCmos:TIMPedance <timpedance>

【パラメータ】 <timpedance>=<STRING PROGRAM DATA>

"HIGH" :High

"75" :75 Ω

【機能】 TTL/CMOS 終端インピーダンスを設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:V/X/TTL/CMOS:Term impedance

【使用例】 > :SYSTem:INTErface:VXTCmos:TIMPedance "HIGH"

:SYSTem:INTErface:VXTCmos:TIMPedance?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <timpedance>=<STRING RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTErface:VXTCmos:TIMPedance と同じです。

【機能】 TTL/CMOS 終端インピーダンスの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:V/X/TTL/CMOS:Term impedance

【使用例】 > :SYSTem:INTErface:VXTCmos:TIMPedance?

< "HIGH"

:SYSTem:INTErface:VXTCmos:DTCE <dtce>

【パラメータ】 <dtce>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

DTE :to DTE

DCE :to DCE

【機能】 接続先が DTE か DCE の切り替えを設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:V/X/TTL/CMOS:to DTE/DCE

【使用例】 > :SYSTem:INTErface:VXTCmos:DTCE DTE

:SYSTem:INTErface:VXTCmos:DTCE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <dtce>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTErface:VXTCmos:DTCE と同じです。

【機能】 接続先が DTE か DCE の切り替えの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:V/X/TTL/CMOS:to DTE/DCE

【使用例】 > :SYSTem:INTErface:VXTCmos:DTCE?

< DTE

:SYSTem:INTerface:K64:TINTer <tinter>

【パラメータ】 <tinter>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

CODirectional :Codirectional

CCLock :Centralized clock

【機能】 G.703 64k インタフェースタイプを設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.703 64k:Type of Interface

【制約】 使用するインタフェースユニットにより、使用できないパラメータがあります。

MU643000A : 全パラメータ使用可

MU643000B/K : CODirectional 使用不可

MU643000C : 全パラメータ使用可

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K64:TINTer CODirectional

:SYSTem:INTerface:K64:TINTer?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <dtce>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:K64:TINTer と同じです。

【機能】 G.703 64k インタフェースタイプの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.703 64k:Type of Interface

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K64:TINTer?

< COD

:SYSTem:INTerface:K192:TMODe <tmode>

【パラメータ】 <tmode>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

LEASe :Lease

PUBLIC :Public

【機能】 I.430/I.430-a 192k 測定モードを設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:I.430/I.430-a 192k:Test mode

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
(実行エラー)

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K192:TMODe LEASe

:SYSTem:INTerface:K192:TMODe?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <tmode>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:K192:TMODe と同じです。

【機能】 I.430/I.430-a 192k 測定モードの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:I.430/I.430-a 192k:Test mode

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが返ります。

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K192:TMODe?

< LEAS

:SYSTem:INTerface:K192:CONNection <connection>

【パラメータ】 <connection>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

PP :P to P

PM :P to M

【機能】 I.430/I.430-a 192k の接続形態を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:I.430/I.430-a 192k:Connection

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
(実行エラー)

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K192:CONNection PP

:SYSTem:INTerface:K192:CONNection?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <connection>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:K192:CONNection と同じです。

【機能】 I.430/I.430-a 192k の接続形態の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:I.430/I.430-a 192k:Connection

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが返ります。

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K192:CONNection?
< PP

:SYSTem:INTerface:K192:TEI <tei>

【パラメータ】 <tei>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

MANual :Manual

AUTO :Auto

【機能】 I.430/I.430-a 192k TEI 管理を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:I.430/I.430-a 192k:TEI

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
(実行エラー)

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K192:TEI MANual

:SYSTem:INTerface:K192:TEI?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <tei>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:K192:TEI と同じです。

【機能】 I.430/I.430-a 192k TEI 管理の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:I.430/I.430-a 192k:TEI

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが返ります。

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K192:TEI?
< MAN

:SYSTem:INTerface:K192:TVALue <tvalue>

【パラメータ】 <tvalue>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
0~63 (ステップ 1)

【機能】 I.430/I.430-a 192k TEI 値を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:I.430/I.430-a 192k:TEI Value

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
(実行エラー)

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K192:TVALue 1

:SYSTem:INTerface:K192:TVALue?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <tvalue>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
:SYSTem:INTerface:K192:TVALue と同じです。

【機能】 I.430/I.430-a 192k TEI 値の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:I.430/I.430-a 192k:TEI Value

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが返ります。

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K192:TVALue?
< 1

:SYSTem:INTerface:K192:TIMPedance <timpedance>

【パラメータ】 <timpedance>=<STRING PROGRAM DATA>
"OPEN" :Open
"50" :50 Ω
"100" :100 Ω

【機能】 I.430/I.430-a 192k 終端インピーダンスを設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:I.430/I.430-a 192k:Term impedance

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K192:TIMPedance "OPEN"

:SYSTem:INTerface:K192:TIMPedance?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <timpedance>=<STRING RESPONSE DATA>
:SYSTem:INTerface:K192:TIMPedance と同じです。

【機能】 I.430/I.430-a 192k 終端インピーダンスの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:I.430/I.430-a 192k:Term impedance

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K192:TIMPedance?
< "OPEN"

:SYSTem:INTerface:K192:PFEed <pfeed>

【パラメータ】 <pfeed>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

NORMal :Normal

RESTRicted :Restricted

【機能】 I.430/I.430-a 192k 給電スレシヨルド値を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:I.430/I.430-a 192k:Power feed threshold

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K192:PFEed NORMal

:SYSTem:INTerface:K192:PFEed?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <pfeed>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:K192:PFEed と同じです。

【機能】 I.430/I.430-a 192k 給電スレシヨルド値の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:I.430/I.430-a 192k:Power feed threshold

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K192:PFEed?

< NORM

:SYSTem:INTerface:K192:CLOop <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>

OFF or 0 :Off

ON or 1 :On

【機能】 I.430/I.430-a 192k 着信ループを設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:I.430/I.430-a 192k:Call loop

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
(実行エラー)

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K192:CLOop OFF

:SYSTem:INTerface:K192:CLOop?

パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:K192:CLOop と同じです。

【機能】 I.430/I.430-a 192k 着信ループの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:I.430/I.430-a 192k:Call loop

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが返ります。

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K192:CLOop?

< 0

:SYSTem:INTerface:K192:MFRame <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
 OFF or 0 :Off
 ON or 1 :On

【機能】 I.430/I.430-a 192k マルチフレームを設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:I.430/I.430-a 192k:Multiframe

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K192:CLOop ON

:SYSTem:INTerface:K192:MFRame?

パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 :SYSTem:INTerface:K192:CLOop と同じです。

【機能】 I.430/I.430-a 192k 着信ループの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:I.430/I.430-a 192k:Multiframe

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K192:CLOop?
 < 1

:SYSTem:INTerface:K192:IDATa:RNUMber <rnumber>

【パラメータ】 <rnumber>=<STRING PROGRAM DATA>
 "相手先番号"

最大 15 桁。0~9, *, # および -。

数字が一桁もない場合は、無効状態"*****"になります。

【機能】 I.430/I.430-a 192k 相手先番号（測定データ用）を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:I.430/I.430-a 192k:ISDN Data:Remote Number

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
 （実行エラー）

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K192:IDATa:RNUMber "0462-21-1111"

:SYSTem:INTerface:K192:IDATa:RNUMber?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <rnumber>=<STRING RESPONSE DATA>
 :SYSTem:INTerface:K192:IDATa:RNUMber と同じです。

【機能】 I.430/I.430-a 192k 相手先番号（測定データ用）の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:I.430/I.430-a 192k:ISDN Data:Remote Number

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが返ります。

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K192:IDATa:RNUMber?
 < "0462-21-1111"

:SYSTem:INTerface:K192:IDATa:RSUBAddress <rsubadd>

【パラメータ】 <rsubadd>=<STRING PROGRAM DATA>

"相手先サブアドレス"

最大 19 桁。0～9, *および#。

数字が一桁もない場合は、無効状態："*****"になります。

【機能】 I.430/I.430-a 192k 相手先サブアドレス（測定データ用）を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:I.430/I.430-a 192k:ISDN Data:Remote Subaddress

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
(実行エラー)

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K192:IDATa:RSUBAddress "1234"

:SYSTem:INTerface:K192:IDATa:RSUBAddress?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <rsubadd>=<STRING RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:K192:IDATa:RSUBAddress と同じです。

【機能】 I.430/I.430-a 192k 相手先サブアドレス（測定データ用）の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:I.430/I.430-a 192k:ISDN Data:Remote Subaddress

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが返ります。

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K192:IDATa:RSUBAddress?
< "1234"

:SYSTem:INTerface:K192:IDATa:RCHannel <rchannel>

【パラメータ】 <rchannel>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

ANY :Any

B1 :B1

B2 :B2

【機能】 I.430/I.430-a 192k 発呼チャネル（測定データ用）を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:I.430/I.430-a 192k:ISDN Data:Remote Channel

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
(実行エラー)

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K192:IDATa:RCHannel ANY

:SYSTem:INTerface:K192:IDATa:RCHannel?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <rchannel>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:K192:IDATa:RCHannel と同じです。

【機能】 I.430/I.430-a 192k 発呼チャネル（測定データ用）の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:I.430/I.430-a 192k:ISDN Data:Remote Channel

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが返ります。

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K192:IDATa:RCHannel?
< ANY**:SYSTem:INTerface:K192:IDATa:LSUBAddress <lsubadd>**

【パラメータ】 <lsubadd>=<STRING PROGRAM DATA>

"着信判定用サブアドレス"

最大 19 桁。0～9。

数字が一桁もない場合は、無効状態 "*****" になります。

【機能】 I.430/I.430-a 192k 着信判定用サブアドレス（測定データ用）を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:I.430/I.430-a 192k:ISDN Data:Local Subaddress

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
(実行エラー)

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K192:IDATa:LSUBAddress "1234"

:SYSTem:INTerface:K192:IDATa:LSUBAddress?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <lsubadd>=<STRING RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:K192:IDATa:LSUBAddress と同じです。

【機能】 I.430/I.430-a 192k 着信判定用サブアドレス（測定データ用）の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:I.430/I.430-a 192k:ISDN Data:Local Subaddress

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが返ります。

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K192:IDATa:LSUBAddress?
< "1234"

:SYSTem:INTerface:K192:IDATa:LCHannel <lchannel>

【パラメータ】 <lchannel>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

ANY :Any

B1 :B1

B2 :B2

NONE :None

【機能】 I.430/I.430-a 192k 着信判定用チャネル（測定データ用）を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:I.430/I.430-a 192k:ISDN Data:Local Channel

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
（実行エラー）

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K192:IDATa:LCHannel ANY

:SYSTem:INTerface:K192:IDATa:LCHannel?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <lchannel>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:K192:IDATa:LCHannel と同じです。

【機能】 I.430/I.430-a 192k 着信判定用チャネル（測定データ用）の設定状態を
問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:I.430/I.430-a 192k:ISDN Data:Local Channel

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが返ります。

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K192:IDATa:LCHannel?
< ANY

:SYSTem:INTerface:K192:IVoice:RNUMber <rnumber>

【パラメータ】 <rnumber>=<STRING PROGRAM DATA>

"相手先番号"

最大 15 桁。0~9, *, #および-。

数字が一桁もない場合は、無効状態"*****"になります。

【機能】 I.430/I.430-a 192k 相手先番号（音声通話用）を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:I.430/I.430-a 192k:ISDN Voice:Remote Number

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
（実行エラー）

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K192:IVoice:RNUMber "0462-21-1111"

:SYSTem:INTerface:K192:IVoice:RNUMber?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <rnumber>=<STRING RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:K192:IVoice:RNUMber と同じです。

【機能】 I.430/I.430-a 192k 相手先番号（音声通話用）の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:I.430/I.430-a 192k:ISDN Voice:Remote Number

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが返ります。

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K192:IVoice:RNUMber?

< "0462-21-1111"

:SYSTem:INTerface:K192:IVoice:RSUBAddress <rsubadd>

【パラメータ】 <rsubadd>=<STRING PROGRAM DATA>

"相手先サブアドレス"

最大 19 桁。0～9, *および#。

数字が一桁もない場合は、無効状態"*****"になります。

【機能】 I.430/I.430-a 192k 相手先サブアドレス（音声通話用）を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:I.430/I.430-a 192k:ISDN Voice:Remote Subaddress

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。（実行エラー）

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K192:IVoice:RSUBAddress "1234"

:SYSTem:INTerface:K192:IVoice:RSUBAddress?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <rsubadd>=<STRING RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:K192:IVoice:RSUBAddress と同じです。

【機能】 I.430/I.430-a 192k 相手先サブアドレス（音声通話用）の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:I.430/I.430-a 192k:ISDN Voice:Remote Subaddress

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが返ります。

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K192:IVoice:RSUBAddress?

< "1234"

:SYSTem:INTerface:K192:IVoice:RCHannel <rchannel>

【パラメータ】 <rchannel>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

ANY :Any

B1 :B1

B2 :B2

【機能】 I.430/I.430-a 192k 発呼チャネル（音声通話用）を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:I.430/I.430-a 192k:ISDN Voice:Remote Channel

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
（実行エラー）

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K192:IVoice:RCHannel ANY

:SYSTem:INTerface:K192:IVoice:RCHannel?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <rchannel>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:K192:IVoice:RCHannel と同じです。

【機能】 I.430/I.430-a 192k 発呼チャネル（音声通話用）の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:I.430/I.430-a 192k:ISDN Voice:Remote Channel

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが返ります。

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K192:IVoice:RCHannel?
< ANY

:SYSTem:INTerface:K192:IVoice:LSUBaddress <lsubadd>

【パラメータ】 <lsubadd>=<STRING PROGRAM DATA>

"着信判定用サブアドレス"

最大 19 桁。0～9。

数字が一桁もない場合は、無効状態 "*****" になります。

【機能】 I.430/I.430-a 192k 着信判定用サブアドレス（音声通話用）を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:I.430/I.430-a 192k:ISDN Voice:Local Subaddress

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
（実行エラー）

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K192:IVoice:LSUBaddress "1234"

:SYSTem:INTerface:K192:IVoice:LSUBaddress?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <lsubadd>=<STRING RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:K192:IVoice:LSUBaddress と同じです。

【機能】 I.430/I.430-a 192k 着信判定用サブアドレス（音声通話用）の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:I.430/I.430-a 192k:ISDN Voice:Local Subaddress

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが返ります。

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K192:IVoice:LSUBaddress?
< "1234"

:SYSTem:INTerface:K192:IVoice:LCHannel <lchannel>

【パラメータ】 <lchannel>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

ANY :Any

B1 :B1

B2 :B2

NONE :None

【機能】 I.430/I.430-a 192k 着信判定用チャネル（音声通話用）を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:I.430/I.430-a 192k:ISDN Voice:Local Channel

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
（実行エラー）

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K192:IVoice:LCHannel ANY

:SYSTem:INTerface:K192:IVoice:LCHannel?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <lchannel>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:K192:IVoice:LCHannel と同じです。

【機能】 I.430/I.430-a 192k 着信判定用チャネル（音声通話用）の設定状態を
問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:I.430/I.430-a 192k:ISDN Voice:Local Channel

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータはなく、実
行エラーが返ります。

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:K192:IVoice:LCHannel?

< ANY

:SYSTem:INTerface:M1_5:TMODe <tmode>

【パラメータ】 <tmode>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

LEASE :Lease

PUBLIC :Public

【機能】 G.704/I.431 1.544M 測定モードを設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 1.544M:Test mode

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
（実行エラー）

使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。

MU643000A : 使用可

MU643000B/K : 使用可

MU643000C : 使用不可（実行エラー）

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M1_5:TMODe LEASE

:SYSTem:INTerface:M1_5:TMODe?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <tmode>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
 :SYSTem:INTerface:M1_5:TMODe と同じです。
- 【機能】 G.704/I.431 1.544M 測定モードの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 1.544M:Test mode
- 【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、もしくはインタフェースユニットによりコマンドを実行できない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが返ります。
- 【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M1_5:TMODe?
 < LEAS

:SYSTem:INTerface:M1_5:CLOOp <boolean>

- 【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
 OFF or 0 :Off
 ON or 1 :On
- 【機能】 G.704/I.431 1.544M 着信ループを設定します。
- 【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 1.544M:Call loop
- 【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
 (実行エラー)
 使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。
 MU643000A : 使用可
 MU643000B/K : 使用可
 MU643000C : 使用不可 (実行エラー)
- 【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M1_5:CLOOp OFF

:SYSTem:INTerface:M1_5:CLOOp?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 :SYSTem:INTerface:M1_5:CLOOp と同じです。
- 【機能】 G.704/I.431 1.544M 着信ループの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 1.544M:Call loop
- 【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、もしくはインタフェースユニットによりコマンドを実行できない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが返ります。
- 【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M1_5:CLOOp?
 < 0

:SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:RNUMber <rnumber>

【パラメータ】 <rnumber>=<STRING PROGRAM DATA>

"相手先番号"

最大 15 桁。0～9, *, # および -。

数字が一桁もない場合は、無効状態 "*****" になります。

【機能】 G.704/I.431 1.544M 相手先番号（測定データ用）を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 1.544M:ISDN Data:Remote Number

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
(実行エラー)

使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。

MU643000A : 使用可

MU643000B/K : 使用可

MU643000C : 使用不可（実行エラー）

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:RNUMber "0462-21-1111"

:SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:RNUMber?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <rnumber>=<STRING RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:RNUMber と同じです。

【機能】 G.704/I.431 1.544M 相手先番号（測定データ用）の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 1.544M:ISDN Data:Remote Number

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、もしくはインタフェースユニットによりコマンドを実行できない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが返ります。

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:RNUMber?

< "0462-21-1111"

:SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:RSUBAddress <rsubadd>

【パラメータ】 <rsubadd>=<STRING PROGRAM DATA>

"相手先サブアドレス"

最大 19 桁。0～9, *および#。

数字が一桁もない場合は、無効状態"*****"になります。

【機能】 G.704/I.431 1.544M 相手先サブアドレス（測定データ用）を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 1.544M:ISDN Data:Remote Subaddress

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
(実行エラー)

使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。

MU643000A : 使用可

MU643000B/K : 使用可

MU643000C : 使用不可（実行エラー）

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:RSUBAddress "1234"

:SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:RSUBAddress?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <rsubadd>=<STRING RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:RSUBAddress と同じです。

【機能】 G.704/I.431 1.544M 相手先サブアドレス（測定データ用）の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 1.544M:ISDN Data:Remote Subaddress

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、もしくはインタフェースユニットによりコマンドを実行できない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが返ります。

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:RSUBAddress?
< "1234"

:SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:RCHannel <rchannel>**【パラメータ】** <rchannel>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

ANY	:Any	B13	:B13
B1	:B1	B14	:B14
B2	:B2	B15	:B15
B3	:B3	B16	:B16
B4	:B4	B17	:B17
B5	:B5	B18	:B18
B6	:B6	B19	:B19
B7	:B7	B20	:B20
B8	:B8	B21	:B21
B9	:B9	B22	:B22
B10	:B10	B23	:B23
B11	:B11	H0	:H0
B12	:B12		

【機能】 G.704/I.431 1.544M 発呼チャネル（測定データ用）を設定します。**【対応画面】** Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 1.544M:ISDN Data:Remote Channel**【制約】** 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
（実行エラー）

使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。

MU643000A	: 使用可
MU643000B/K	: 使用可
MU643000C	: 使用不可（実行エラー）

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:RCHannel ANY**:SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:RCHannel?****【パラメータ】** なし。**【レスポンス】** <rchannel>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:RCHannel と同じです。

【機能】 G.704/I.431 1.544M 発呼チャネル（測定データ用）の設定状態を問い合わせます。**【対応画面】** Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 1.544M:ISDN Data:Remote Channel**【制約】** 呼制御オプションがインストールされていない場合、もしくはインタフェースユニットによりコマンドを実行できない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが返ります。**【使用例】** > :SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:RCHannel?
< ANY

:SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:RHCHannel0 <rchannel0>

【パラメータ】 <rchannel0>=<STRING PROGRAM DATA>

"010203040506":01-02-03-04-05-06

"070809101112":07-08-09-10-11-12

"131415161718":13-14-15-16-17-18

【機能】 G.704/I.431 1.544M 発呼チャネル（H0 チャネル，測定データ用）を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 1.544M:ISDN Data:Remote H0 channel

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
（実行エラー）

使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。

MU643000A : 使用可

MU643000B/K : 使用可

MU643000C : 使用不可（実行エラー）

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:RHCHannel0 "010203040506"

:SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:RHCHannel0?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <rchannel0>=<STRING RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:RHCHannel0 と同じです。

【機能】 G.704/I.431 1.544M 発呼チャネル（H0 チャネル，測定データ用）の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 1.544M:ISDN Data:Remote H0 channel

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、もしくはインタフェースユニットによりコマンドを実行できない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが返ります。

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:RHCHannel0?
< "010203040506"

:SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:LSUBAddress <lsubadd>

【パラメータ】 <lsubadd>=<STRING PROGRAM DATA>

"着信判定用サブアドレス"

最大 19 桁。0～9。

数字が一桁もない場合は、無効状態 "*****" になります。

【機能】 G.704/I.431 1.544M 着信判定用サブアドレス（測定データ用）を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の

Interface:G.704/I.431 1.544M:ISDN Data:Local Subaddress

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
(実行エラー)

使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。

MU643000A : 使用可

MU643000B/K : 使用可

MU643000C : 使用不可（実行エラー）

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:LSUBAddress "1234"

:SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:LSUBAddress?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <lsubadd>=<STRING RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:LSUBAddress と同じです。

【機能】 G.704/I.431 1.544M 着信判定用サブアドレス（測定データ用）の設定状態を
問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の

Interface:G.704/I.431 1.544M:ISDN Data:Local Subaddress

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、もしくはインタフェースユニ
ットによりコマンドを実行できない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが
返ります。

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:LSUBAddress?
< "1234"

:SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:LCHannel <lchannel>

【パラメータ】 <lchannel>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

ANY	:Any	B13	:B13
B1	:B1	B14	:B14
B2	:B2	B15	:B15
B3	:B3	B16	:B16
B4	:B4	B17	:B17
B5	:B5	B18	:B18
B6	:B6	B19	:B19
B7	:B7	B20	:B20
B8	:B8	B21	:B21
B9	:B9	B22	:B22
B10	:B10	B23	:B23
B11	:B11	H0	:H0
B12	:B12	NONE	:None

【機能】 G.704/I.431 1.544M 着信判定用チャンネル（測定データ用）を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 1.544M:ISDN Data:Local Channel

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
（実行エラー）

使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。

MU643000A	:使用可
MU643000B/K	:使用可
MU643000C	:使用不可（実行エラー）

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:LCHannel ANY

:SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:LCHannel?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <lchannel>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:LCHannel と同じです。

【機能】 G.704/I.431 1.544M 着信判定用チャンネル（測定データ用）の設定状態を
問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 1.544M:ISDN Data:Local Channel

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、もしくはインタフェースユニ
ットによりコマンドを実行できない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが
返ります。

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:LCHannel?
< ANY

:SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:LHCHannel0 <lchannel0>**【パラメータ】** <lchannel0>=<STRING PROGRAM DATA>

"010203040506" :01-02-03-04-05-06

"070809101112" :07-08-09-10-11-12

"131415161718" :13-14-15-16-17-18

【機能】 G.704/I.431 1.544M 着信判定用チャネル（H0 チャネル，測定データ用）を設定します。**【対応画面】** Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 1.544M:ISDN Data:Local H0 channel**【制約】** 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。（実行エラー）

使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。

MU643000A : 使用可

MU643000B/K : 使用可

MU643000C : 使用不可（実行エラー）

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:LHCHannel0 "010203040506"**:SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:LHCHannel0?****【パラメータ】** なし。**【レスポンス】** <lchannel0>=<STRING RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:LHCHannel0 と同じです。

【機能】 G.704/I.431 1.544M 着信判定用チャネル（H0 チャネル，測定データ用）の設定状態を問い合わせます。**【対応画面】** Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 1.544M:ISDN Data:Local H0 channel**【制約】** 呼制御オプションがインストールされていない場合、もしくはインタフェースユニットによりコマンドを実行できない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが返ります。**【使用例】** > :SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:LHCHannel0?
< "010203040506"

:SYSTem:INTerface:M1_5:IVoice:RNUMber <rnumber>

【パラメータ】 <rnumber>=<STRING PROGRAM DATA>

"相手先番号"

最大 15 桁。0～9, *, #および

数字が一桁もない場合は、無効状態"*****"になります。

【機能】 G.704/I.431 1.544M 相手先番号（音声通話用）を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 1.544M:ISDN Voice:Remote Number

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
(実行エラー)

使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。

MU643000A : 使用可

MU643000B/K : 使用可

MU643000C : 使用不可（実行エラー）

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M1_5:IVoice:RNUMber "0462-21-1111"

:SYSTem:INTerface:M1_5:IVoice:RNUMber?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <rnumber>=<STRING RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:M1_5:IVoice:RNUMber と同じです。

【機能】 G.704/I.431 1.544M 相手先番号（音声通話用）の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 1.544M:ISDN Voice:Remote Number

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、もしくはインタフェースユニットによりコマンドを実行できない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが返ります。

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M1_5:IVoice:RNUMber?
< "0462-21-1111"

:SYSTem:INTerface:M1_5:IVoice:RSUBAddress <rsubadd>

【パラメータ】 <rsubadd>=<STRING PROGRAM DATA>

"相手先サブアドレス"

最大 19 桁。0～9, *および#。

数字が一桁もない場合は、無効状態"*****"になります。

【機能】 G.704/I.431 1.544M 相手先サブアドレス（音声通話用）を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 1.544M:ISDN Voice:Remote Subaddress

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
(実行エラー)

使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。

MU643000A : 使用可

MU643000B/K : 使用可

MU643000C : 使用不可（実行エラー）

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M1_5:IVoice:RSUBAddress "1234"

:SYSTem:INTerface:M1_5:IVoice:RSUBAddress?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <rsubadd>=<STRING RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:M1_5:IVoice:RSUBAddress と同じです。

【機能】 G.704/I.431 1.544M 相手先サブアドレス（音声通話用）の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 1.544M:ISDN Voice:Remote Subaddress

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、もしくはインタフェースユニットによりコマンドを実行できない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが返ります。

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M1_5:IVoice:RSUBAddress?
< "1234"

:SYSTem:INTerface:M1_5:IVoice:RCHannel <rchannel>

【パラメータ】 <rchannel>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

ANY :Any	B13 :B13
B1 :B1	B14 :B14
B2 :B2	B15 :B15
B3 :B3	B16 :B16
B4 :B4	B17 :B17
B5 :B5	B18 :B18
B6 :B6	B19 :B19
B7 :B7	B20 :B20
B8 :B8	B21 :B21
B9 :B9	B22 :B22
B10 :B10	B23 :B23
B11 :B11	
B12 :B12	

【機能】 G.704/I.431 1.544M 発呼チャネル（音声通話用）を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 1.544M:ISDN Voice:Remote Channel

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
（実行エラー）

使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。

MU643000A	: 使用可
MU643000B/K	: 使用可
MU643000C	: 使用不可（実行エラー）

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M1_5:IVoice:RCHannel ANY

:SYSTem:INTerface:M1_5:IVoice:RCHannel?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <rchannel>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:M1_5:IVoice:RCHannel と同じです。

【機能】 G.704/I.431 1.544M 発呼チャネル（音声通話用）の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 1.544M:ISDN Voice:Remote Channel

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、もしくはインタフェースユニットによりコマンドを実行できない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが返ります。

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M1_5:IVoice:RCHannel?
< ANY

:SYSTem:INTerface:M1_5:IVoice:LSUBAddress <lsubadd>

【パラメータ】 <lsubadd>=<STRING PROGRAM DATA>

"着信判定用サブアドレス"

最大 19 桁。0～9。

数字が一桁もない場合は、無効状態 "*****" になります。

【機能】 G.704/I.431 1.544M 着信判定用サブアドレス（音声通話用）を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 1.544M:ISDN Voice:Local Subaddress

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
(実行エラー)

使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。

MU643000A : 使用可

MU643000B/K : 使用可

MU643000C : 使用不可（実行エラー）

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M1_5:IVoice:LSUBAddress "1234"

:SYSTem:INTerface:M1_5:IVoice:LSUBAddress?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <lsubadd>=<STRING RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:M1_5:IVoice:LSUBAddress と同じです。

【機能】 G.704/I.431 1.544M 着信判定用サブアドレス（音声通話用）の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 1.544M:ISDN Voice:Local Subaddress

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、もしくはインタフェースユニットによりコマンドを実行できない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが返ります。

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M1_5:IVoice:LSUBAddress?
< "1234"

:SYSTem:INTerface:M1_5:IVoice:LCHannel <lchannel>**【パラメータ】** <lchannel>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

ANY	:Any	B13	:B13
B1	:B1	B14	:B14
B2	:B2	B15	:B15
B3	:B3	B16	:B16
B4	:B4	B17	:B17
B5	:B5	B18	:B18
B6	:B6	B19	:B19
B7	:B7	B20	:B20
B8	:B8	B21	:B21
B9	:B9	B22	:B22
B10	:B10	B23	:B23
B11	:B11	NONE	:None
B12	:B12		

【機能】 G.704/I.431 1.544M 着信判定用チャネル（音声通話用）を設定します。**【対応画面】** Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 1.544M:ISDN Voice:Local Channel**【制約】** 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
（実行エラー）

使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。

MU643000A	:使用可
MU643000B/K	:使用可
MU643000C	:使用不可（実行エラー）

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M1_5:IVoice:LCHannel ANY**:SYSTem:INTerface:M1_5:IVoice:LCHannel?****【パラメータ】** なし。**【レスポンス】** <lchannel>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:M1_5:IVoice:LCHannel と同じです。

【機能】 G.704/I.431 1.544M 着信判定用チャネル（音声通話用）の設定状態を
問い合わせます。**【対応画面】** Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 1.544M:ISDN Voice:Local Channel**【制約】** 呼制御オプションがインストールされていない場合、もしくはインタフェースユニ
ットによりコマンドを実行できない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが
返ります。**【使用例】** > :SYSTem:INTerface:M1_5:IVoice:LCHannel?
< ANY

:SYSTem:INTerface:M2:TMODe <tmode>

【パラメータ】 <tmode>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

LEASe :Lease

PUBLic :Public

【機能】 G.704/I.431 2.048M 測定モードを設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 2.048M:Test mode

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
(実行エラー)

使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。

MU643000A : 使用可

MU643000B/K : 使用不可 (実行エラー)

MU643000C : 使用可

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M2:TMODe LEASe

:SYSTem:INTerface:M2:TMODe?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <tmode>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:M2:TMODe と同じです。

【機能】 G.704/I.431 2.048M 測定モードの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 2.048M:Test mode

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが返ります。

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M2:TMODe?

< LEAS

:SYSTem:INTerface:M2:IMPedance <impedance>

【パラメータ】 <impedance>=<STRING PROGRAM DATA>

"75" :75 Ω

"120" :120 Ω

【機能】 G.704/I.431 2.048M 入出力インピーダンスを設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 2.048M:Impedance

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M2:IMPedance "75"

:SYSTem:INTerface:M2:IMPedance?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <impedance>=<STRING RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:M2:IMPedance と同じです。

【機能】 G.704/I.431 2.048M 入出力インピーダンスの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 2.048M:Impedance

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M2:IMPedance?

< "75"

:SYSTem:INTerface:M2:CLoop <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>

OFF or 0 :Off

ON or 1 :On

【機能】 G.704/I.431 2.048M 着信ループを設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 2.048M:Call loop

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
(実行エラー)

使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。

MU643000A : 使用可

MU643000B/K : 使用不可 (実行エラー)

MU643000C : 使用可

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M2:CLoop OFF

:SYSTem:INTerface:M2:CLoop?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <clloop>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:M2:CLoop と同じです。

【機能】 G.704/I.431 2.048M 着信ループの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 2.048M:Call loop

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが返ります。

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M2:CLoop?

< 0

:SYSTem:INTerface:M2:IDATa:RNUMber <rnumber>

【パラメータ】 <rnumber>=<STRING PROGRAM DATA>

"相手先番号"

最大 15 桁。0~9, *, #および-

数字が一桁もない場合は、無効状態"*****"になります。

【機能】 G.704/I.431 2.048M 相手先番号 (測定データ用) を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 2.048M:ISDN Data:Remote Number

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
(実行エラー)

使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。

MU643000A : 使用可

MU643000B/K : 使用不可 (実行エラー)

MU643000C : 使用可

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M2:IDATa:RNUMber "0462-21-1111"

:SYSTem:INTerface:M2:IDATa:RNUMber?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <rnumber>=<STRING RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:M2:IDATa:RNUMber と同じです。

【機能】 G.704/I.431 2.048M 相手先番号（測定データ用）の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 2.048M:ISDN Data:Remote Number

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが返ります。

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M2:IDATa:RNUMber?

< "0462-21-1111"

:SYSTem:INTerface:M2:IDATa:RSUBaddress <rsubadd>

【パラメータ】 <rsubadd>=<STRING PROGRAM DATA>

"相手先サブアドレス"

最大 19 桁。0～9, *および#。

数字が一桁もない場合は、無効状態"*****"になります。

【機能】 G.704/I.431 2.048M 相手先サブアドレス（測定データ用）を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 2.048M:ISDN Data:Remote Subaddress

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。（実行エラー）

使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。

MU643000A : 使用可

MU643000B/K : 使用不可（実行エラー）

MU643000C : 使用可

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M2:IDATa:RSUBaddress "1234"

:SYSTem:INTerface:M2:IDATa:RSUBaddress?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <rsubadd>=<STRING RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:M2:IDATa:RSUBaddress と同じです。

【機能】 G.704/I.431 2.048M 相手先サブアドレス（測定データ用）の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 2.048M:ISDN Data:Remote Subaddress

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが返ります。

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M2:IDATa:RSUBaddress?

< "1234"

:SYSTem:INTerface:M2:IDATa:RCHannel <rchannel>

【パラメータ】 <rchannel>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

ANY :Any	B17 :B17
B1 :B1	B18 :B18
B2 :B2	B19 :B19
B3 :B3	B20 :B20
B4 :B4	B21 :B21
B5 :B5	B22 :B22
B6 :B6	B23 :B23
B7 :B7	B24 :B24
B8 :B8	B25 :B25
B9 :B9	B26 :B26
B10 :B10	B27 :B27
B11 :B11	B28 :B28
B12 :B12	B29 :B29
B13 :B13	B30 :B30
B14 :B14	B31 :B31
B15 :B15	H0 :H0

【機能】 G.704/I.431 2.048M 発呼チャネル（測定データ用）を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 2.048M:ISDN Data:Remote Channel

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
（実行エラー）

使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。

MU643000A	: 使用可
MU643000B/K	: 使用不可（実行エラー）
MU643000C	: 使用可

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M2:IDATa:RCHannel ANY

:SYSTem:INTerface:M2:IDATa:RCHannel?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <rchannel>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:M2:IDATa:RCHannel と同じです。

【機能】 G.704/I.431 2.048M 発呼チャネル（測定データ用）の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 2.048M:ISDN Data:Remote Channel

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが返ります。

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M2:IDATa:RCHannel?
< ANY

:SYSTem:INTerface:M2:IDATa:RHCHannel0 <rhchannel0>

【パラメータ】 <rhchannel0>=<STRING PROGRAM DATA>

"010203171819":01-02-03 17-18-19

"040506202122":04-05-06 20-21-22

"070809232425":07-08-09 23-24-25

"101112262728":10-11-12 26-27-28

"131415293031":13-14-15 29-30-31

"010711172327":01-07-11 17-23-27

"030915192531":03-09-15 19-25-31

"040812202428":04-08-12 20-24-28

"051013212629":05-10-13 21-26-29

"020614182230":02-06-14 18-22-30

【機能】 G.704/I.431 2.048M 発呼チャネル (H0 チャネル, 測定データ用) を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 2.048M:ISDN Data:Remote H0 channel

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
(実行エラー)

使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。

MU643000A : 使用可

MU643000B/K : 使用不可 (実行エラー)

MU643000C : 使用可

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M2:IDATa:RHCHannel0 "010203171819"

:SYSTem:INTerface:M2:IDATa:RHCHannel0?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <rhchannel0>=<STRING RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:M2:IDATa:RHCHannel0 と同じです。

【機能】 G.704/I.431 2.048M 発呼チャネル (H0 チャネル, 測定データ用) の
設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 2.048M:ISDN Data:Remote H0 channel

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが返ります。

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M2:IDATa:RHCHannel0?

< "010203171819"

:SYSTem:INTerface:M2:IDATa:LSUBaddress <lsubadd>

【パラメータ】 <lsubadd>=<STRING PROGRAM DATA>

"着信判定用サブアドレス"

最大 19 桁。0～9。

数字が一桁もない場合は、無効状態 "*****" になります。

【機能】 G.704/I.431 2.048M 着信判定用サブアドレス（測定データ用）を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 2.048M:ISDN Data:Local Subaddress

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
(実行エラー)

使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。

MU643000A : 使用可

MU643000B/K : 使用不可 (実行エラー)

MU643000C : 使用可

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M2:IDATa:LSUBaddress "1234"

:SYSTem:INTerface:M2:IDATa:LSUBaddress?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <lsubadd>=<STRING RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:M2:IDATa:LSUBaddress と同じです。

【機能】 G.704/I.431 2.048M 着信判定用サブアドレス（測定データ用）の 設定状態を
問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 2.048M:ISDN Data:Local Subaddress

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが返ります。

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M2:IDATa:LSUBaddress?
< "1234"

:SYSTem:INTErface:M2:IDATa:LCHannel <lchannel>**【パラメータ】** <lchannel>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

ANY	:Any	B17	:B17
B1	:B1	B18	:B18
B2	:B2	B19	:B19
B3	:B3	B20	:B20
B4	:B4	B21	:B21
B5	:B5	B22	:B22
B6	:B6	B23	:B23
B7	:B7	B24	:B24
B8	:B8	B25	:B25
B9	:B9	B26	:B26
B10	:B10	B27	:B27
B11	:B11	B28	:B28
B12	:B12	B29	:B29
B13	:B13	B30	:B30
B14	:B14	B31	:B31
B15	:B15	H0	:H0
		NONE	:None

【機能】 G.704/I.431 2.048M 着信判定用チャネル（測定データ用）を設定します。**【対応画面】** Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 2.048M:ISDN Data:Local Channel**【制約】** 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
（実行エラー）

使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。

MU643000A : 使用可

MU643000B/K : 使用不可（実行エラー）

MU643000C : 使用可

【使用例】 > :SYSTem:INTErface:M2:IDATa:LCHannel ANY**:SYSTem:INTErface:M2:IDATa:LCHannel?****【パラメータ】** なし。**【レスポンス】** <lchannel>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTErface:M2:IDATa:LCHannel と同じです。

【機能】 G.704/I.431 2.048M 着信判定用チャネル（測定データ用）の設定状態を
問い合わせます。**【対応画面】** Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 2.048M:ISDN Data:Local Channel**【制約】** 呼制御オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータはなく、実
行エラーが返ります。**【使用例】** > :SYSTem:INTErface:M2:IDATa:LCHannel?

< ANY

:SYSTem:INTErface:M2:IDATa:LHCHannel0 <lhchannel0>

【パラメータ】 <lhchannel0>=<STRING PROGRAM DATA>

"010203171819"	:01-02-03 17-18-19
"040506202122"	:04-05-06 20-21-22
"070809232425"	:07-08-09 23-24-25
"101112262728"	:10-11-12 26-27-28
"131415293031"	:13-14-15 29-30-31
"010711172327"	:01-07-11 17-23-27
"030915192531"	:03-09-15 19-25-31
"040812202428"	:04-08-12 20-24-28
"051013212629"	:05-10-13 21-26-29
"020614182230"	:02-06-14 18-22-30

【機能】 G.704/I.431 2.048M 着信判定用チャンネル（H0 チャンネル，測定データ用）を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 2.048M:ISDN Data:Local H0 channel

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。（実行エラー）
使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。

MU643000A	: 使用可
MU643000B/K	: 使用不可（実行エラー）
MU643000C	: 使用可

【使用例】 > :SYSTem:INTErface:M2:IDATa:LHCHannel0 "010203171819"

:SYSTem:INTErface:M2:IDATa:LHCHannel0?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <lhchannel0>=<STRING RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTErface:M2:IDATa:LHCHannel0 と同じです。

【機能】 G.704/I.431 2.048M 着信判定用チャンネル（H0 チャンネル，測定データ用）の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 2.048M:ISDN Data:Local H0 channel

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータはなく，実行エラーが返ります。

【使用例】 > :SYSTem:INTErface:M2:IDATa:LHCHannel0?
< "010203171819"

:SYSTem:INTerface:M2:IVoice:RNUMber <rnumber>

【パラメータ】 <rnumber>=<STRING PROGRAM DATA>

"相手先番号"

最大 15 桁。0～9, *, #および-。

数字が一桁もない場合は、無効状態"*****"になります。

【機能】 G.704/I.431 2.048M 相手先番号（音声通話用）を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 2.048M:ISDN Voice:Remote Number

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
(実行エラー)

使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。

MU643000A : 使用可

MU643000B/K : 使用不可（実行エラー）

MU643000C : 使用可

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M2:IVoice:RNUMber "0462-21-1111"

:SYSTem:INTerface:M2:IVoice:RNUMber?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <rnumber>=<STRING RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:M2:IVoice:RNUMber と同じです。

【機能】 G.704/I.431 2.048M 相手先番号（音声通話用）の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 2.048M:ISDN Voice:Remote Number

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが返ります。

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M2:IVoice:RNUMber?

< "0462-21-1111"

:SYSTem:INTerface:M2:IVoice:RSUBaddress <rsubadd>

【パラメータ】 <rsubadd>=<STRING PROGRAM DATA>

"相手先サブアドレス"

最大 19 桁。0～9, *および#。

数字が一桁もない場合は、無効状態"*****"になります。

【機能】 G.704/I.431 2.048M 相手先サブアドレス（音声通話用）を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 2.048M:ISDN Voice:Remote Subaddress

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
(実行エラー)

使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。

MU643000A : 使用可

MU643000B/K : 使用不可（実行エラー）

MU643000C : 使用可

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M2:IVoice:RSUBaddress "1234"

:SYSTem:INTerface:M2:IVoice:RSUBAddress?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <rsubadd>=<STRING RESPONSE DATA>
 :SYSTem:INTerface:M2:IVoice:RSUBAddress と同じです。
- 【機能】 G.704/I.431 2.048M 相手先サブアドレス（音声通話用）の設定状態を
 問い合わせます。
- 【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 2.048M:ISDN Voice:Remote
 Subaddress
- 【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータはなく、実
 行エラーが返ります。
- 【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M2:IVoice:RSUBAddress?
 < "1234"

:SYSTem:INTerface:M2:IVoice:RCHannel <rchannel>

- 【パラメータ】 <rchannel>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

ANY	:Any	B17	:B17
B1	:B1	B18	:B18
B2	:B2	B19	:B19
B3	:B3	B20	:B20
B4	:B4	B21	:B21
B5	:B5	B22	:B22
B6	:B6	B23	:B23
B7	:B7	B24	:B24
B8	:B8	B25	:B25
B9	:B9	B26	:B26
B10	:B10	B27	:B27
B11	:B11	B28	:B28
B12	:B12	B29	:B29
B13	:B13	B30	:B30
B14	:B14	B31	:B31
B15	:B15		
- 【機能】 G.704/I.431 2.048M 発呼チャネル（音声通話用）を設定します。
- 【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 2.048M:ISDN Voice:Remote Channel
- 【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
 （実行エラー）
 使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。

MU643000A	: 使用可
MU643000B/K	: 使用不可（実行エラー）
MU643000C	: 使用可
- 【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M2:IVoice:RCHannel ANY

:SYSTem:INTerface:M2:IVoice:RCHannel?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <rchannel>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:M2:IVoice:RCHannel と同じです。

【機能】 G.704/I.431 2.048M 発呼チャネル（音声通話用）の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 2.048M:ISDN Voice:Remote Channel

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが返ります。

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M2:IVoice:RCHannel?

< ANY

:SYSTem:INTerface:M2:IVoice:LSUBaddress <lsubadd>

【パラメータ】 <lsubadd>=<STRING PROGRAM DATA>

"着信判定用サブアドレス"

最大 19 桁。0～9。

数字が一桁の場合は、無効状態 "*****" になります。

【機能】 G.704/I.431 2.048M 着信判定用サブアドレス（音声通話用）を設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 2.048M:ISDN Voice:Local Subaddress

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。（実行エラー）

使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。

MU643000A : 使用可

MU643000B/K : 使用不可（実行エラー）

MU643000C : 使用可

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M2:IVoice:LSUBaddress "1234"

:SYSTem:INTerface:M2:IVoice:LSUBaddress?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <lsubadd>=<STRING RESPONSE DATA>

:SYSTem:INTerface:M2:IVoice:LSUBaddress と同じです。

【機能】 G.704/I.431 2.048M 着信判定用サブアドレス（音声通話用）の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 2.048M:ISDN Voice:Local Subaddress

【使用例】 > :SYSTem:INTerface:M2:IVoice:LSUBaddress?

< "1234"

:SYSTem:INTerface:M2:IVoice:LCHannel <lchannel>

- 【パラメータ】** <lchannel>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
- | | | | |
|-----|------|------|-------|
| ANY | :Any | B17 | :B17 |
| B1 | :B1 | B18 | :B18 |
| B2 | :B2 | B19 | :B19 |
| B3 | :B3 | B20 | :B20 |
| B4 | :B4 | B21 | :B21 |
| B5 | :B5 | B22 | :B22 |
| B6 | :B6 | B23 | :B23 |
| B7 | :B7 | B24 | :B24 |
| B8 | :B8 | B25 | :B25 |
| B9 | :B9 | B26 | :B26 |
| B10 | :B10 | B27 | :B27 |
| B11 | :B11 | B28 | :B28 |
| B12 | :B12 | B29 | :B29 |
| B13 | :B13 | B30 | :B30 |
| B14 | :B14 | B31 | :B31 |
| B15 | :B15 | NONE | :None |
- 【機能】** G.704/I.431 2.048M 着信判定用チャネル（音声通話用）を設定します。
- 【対応画面】** Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 2.048M:ISDN Voice:Local Channel
- 【制約】** 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
（実行エラー）
使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。
- | | |
|-------------|---------------|
| MU643000A | : 使用可 |
| MU643000B/K | : 使用不可（実行エラー） |
| MU643000C | : 使用可 |
- 【使用例】** > :SYSTem:INTerface:M2:IVoice:LCHannel ANY

:SYSTem:INTerface:M2:IVoice:LCHannel?

- 【パラメータ】** なし。
- 【レスポンス】** <lchannel>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
:SYSTem:INTerface:M2:IVoice:LCHannel と同じです。
- 【機能】** G.704/I.431 2.048M 着信判定用チャネル（音声通話用）の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】** Setup:System 画面の Interface:G.704/I.431 2.048M:ISDN Voice:Local Channel
- 【制約】** 呼制御オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが返ります。
- 【使用例】** > :SYSTem:INTerface:M2:IVoice:LCHannel?
< ANY

:SYSTem:ISDN:SPRotocol <protocol>

【パラメータ】 <protocol>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

JT :JT-Q921/Q931

ETSI :ETSI

【機能】 ISDN 発着呼プロトコルを設定します。

【対応画面】 Setup:System 画面の Common:ISDN

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
(実行エラー)

【使用例】 > :SYSTem:ISDN:SPRotocol JT

:SYSTem:ISDN:SPRotocol?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <lchannel>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SYSTem:ISDN:SPRotocol と同じです。

【機能】 ISDN 発着呼プロトコルの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:System 画面の Common:ISDN

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータはなく、実行エラーが返ります。

【使用例】 > :SYSTem:ISDN:SPRotocol?

< JT

:SYSTem:DConnect:IStart

【パラメータ】 なし。

【機能】 ISDN データ用発信を設定します。

【対応画面】 動作指示ボタン用エリア

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
(実行エラー)

発信中の場合、本機能は無視され実行エラーとします。

【使用例】 > :SYSTem:DConnect:IStart

:SYSTem:DConnect:STOP

【パラメータ】 なし。

【機能】 ISDN データ用切断を設定します。

【対応画面】 動作指示ボタン用エリア

【使用例】 > :SYSTem:DConnect:STOP

:SYSTem:DCONnect:STATe?

【パラメータ】 なし。
 【レスポンス】 <ctype>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

NULL	:未接続状態		
RINGing	:接続途中状態		
ACTive	:接続状態		
<pchannel>=<CHARACTER RESPONSE DATA>			
NULL:発呼チャンネルなし	B11 :B11 発呼接続中	B22 :B22 発呼接続中	
B1 :B1 発呼接続中	B12 :B12 発呼接続中	B23 :B23 発呼接続中	
B2 :B2 発呼接続中	B13 :B13 発呼接続中	B24 :B24 発呼接続中	
B3 :B3 発呼接続中	B14 :B14 発呼接続中	B25 :B25 発呼接続中	
B4 :B4 発呼接続中	B15 :B15 発呼接続中	B26 :B26 発呼接続中	
B5 :B5 発呼接続中	B16 :B16 発呼接続中	B27 :B27 発呼接続中	
B6 :B6 発呼接続中	B17 :B17 発呼接続中	B28 :B28 発呼接続中	
B7 :B7 発呼接続中	B18 :B18 発呼接続中	B29 :B29 発呼接続中	
B8 :B8 発呼接続中	B19 :B19 発呼接続中	B30 :B30 発呼接続中	
B9 :B9 発呼接続中	B20 :B20 発呼接続中	B31 :B31 発呼接続中	
B10 :B10 発呼接続中	B21 :B21 発呼接続中	H0 :H0 発呼接続中	
<nchannel>=<CHARACTER RESPONSE DATA>			
NULL:着呼チャンネルなし	B11 :B11 着呼接続中	B22 :B22 着呼接続中	
B1 :B1 着呼接続中	B12 :B12 着呼接続中	B23 :B23 着呼接続中	
B2 :B2 着呼接続中	B13 :B13 着呼接続中	B24 :B24 着呼接続中	
B3 :B3 着呼接続中	B14 :B14 着呼接続中	B25 :B25 着呼接続中	
B4 :B4 着呼接続中	B15 :B15 着呼接続中	B26 :B26 着呼接続中	
B5 :B5 着呼接続中	B16 :B16 着呼接続中	B27 :B27 着呼接続中	
B6 :B6 着呼接続中	B17 :B17 着呼接続中	B28 :B28 着呼接続中	
B7 :B7 着呼接続中	B18 :B18 着呼接続中	B29 :B29 着呼接続中	
B8 :B8 着呼接続中	B19 :B19 着呼接続中	B30 :B30 着呼接続中	
B9 :B9 着呼接続中	B20 :B20 着呼接続中	B31 :B31 着呼接続中	
B10 :B10 着呼接続中	B21 :B21 着呼接続中	H0 :H0 着呼接続中	

【機能】 ISDN データ用接続状態を問い合わせます。
 【対応画面】 動作指示ボタン用エリア
 【使用例】 > :SYSTem:DCONnect:STATe?
 < ACT,NULL,B2

:SYSTem:VCONnect:IStart

【パラメータ】 なし。

【機能】 ISDN 音声用発信を設定します。

【対応画面】 動作指示ボタン用エリア

【制約】 呼制御オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
(実行エラー)

発信中の場合、本機能は無視され実行エラーとします。

【使用例】 > :SYSTem:VCONnect:IStart

:SYSTem:VCONnect:PSTart

【パラメータ】 なし。

【機能】 ISDN 音声用着信を設定します。

【対応画面】 動作指示ボタン用エリア

【制約】 着信中の場合、本機能は無視され実行エラーとします。

【使用例】 > :SYSTem:VCONnect:PSTart

:SYSTem:VCONnect:STOP

【パラメータ】 なし。

【機能】 ISDN 音声用切断を設定します。

【対応画面】 動作指示ボタン用エリア

【使用例】 > :SYSTem:VCONnect:STOP

:SYSTem:VCONnect:STATe?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <ctype>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

NULL :未接続状態
RINGing :接続途中状態
ACTive :接続状態

<pchannel>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

NULL:発呼チャンネルなし	B11:B11 発呼接続中	B22:B22 発呼接続中
B1 :B1 発呼接続中	B12:B12 発呼接続中	B23:B23 発呼接続中
B2 :B2 発呼接続中	B13:B13 発呼接続中	B24:B24 発呼接続中
B3 :B3 発呼接続中	B14:B14 発呼接続中	B25:B25 発呼接続中
B4 :B4 発呼接続中	B15:B15 発呼接続中	B26:B26 発呼接続中
B5 :B5 発呼接続中	B16:B16 発呼接続中	B27:B27 発呼接続中
B6 :B6 発呼接続中	B17:B17 発呼接続中	B28:B28 発呼接続中
B7 :B7 発呼接続中	B18:B18 発呼接続中	B29:B29 発呼接続中
B8 :B8 発呼接続中	B19:B19 発呼接続中	B30:B30 発呼接続中
B9 :B9 発呼接続中	B20:B20 発呼接続中	B31:B31 発呼接続中
B10:B10 発呼接続中	B21:B21 発呼接続中	

<nchannel>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

NULL:着呼チャンネルなし	B11:B11 着呼接続中	B22:B22 着呼接続中
B1 :B1 着呼接続中	B12:B12 着呼接続中	B23:B23 着呼接続中
B2 :B2 着呼接続中	B13:B13 着呼接続中	B24:B24 着呼接続中
B3 :B3 着呼接続中	B14:B14 着呼接続中	B25:B25 着呼接続中
B4 :B4 着呼接続中	B15:B15 着呼接続中	B26:B26 着呼接続中
B5 :B5 着呼接続中	B16:B16 着呼接続中	B27:B27 着呼接続中
B6 :B6 着呼接続中	B17:B17 着呼接続中	B28:B28 着呼接続中
B7 :B7 着呼接続中	B18:B18 着呼接続中	B29:B29 着呼接続中
B8 :B8 着呼接続中	B19:B19 着呼接続中	B30:B30 着呼接続中
B9 :B9 着呼接続中	B20:B20 着呼接続中	B31:B31 着呼接続中
B10:B10 着呼接続中	B21:B21 着呼接続中	

【機能】 ISDN 音声用接続状態を問い合わせます。

【対応画面】 動作指示ボタン用エリア

【使用例】 > :SYSTem:VCONnect:STATe?

< ACT, NULL, B2

6.3 SOURce サブシステム

:SOURce:TELecom:INTerface <interface>

【パラメータ】 <interface>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

V24	:V.24/V.28(RS-232C)
V35	:V.35
V36	:V.36
RS449	:RS-449
X20	:X.20(RS-423)
X21	:X.21(RS-422)
TCMos	:TTL/CMOS
K64	:G.703 64k
K192	:I.430/I.430-a 192k
M1_5	:G.704/I.431 1.544M
M2	:G.704/I.431 2.048M
CMIM2	:2M CMI
M6	:G.704 6.312M
THRough	:Through

【機能】 送信インタフェース種別を設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Interface

【制約】 使用するインタフェースユニットにより，使用できないパラメータがあります。

MU643000A	: 全パラメータ使用可
MU643000B/K	: M2 使用不可
MU643000C	: M1_5,CMIM2,M6 使用不可

【使用例】 > :SOURce:TELecom:INTerface V24

:SOURce:TELecom:INTerface?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <interface>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SOURce:TELecom:INTerface と同じです。

【機能】 送信インタフェース種別の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Interface

【使用例】 > :SOURce:TELecom:INTerface?

< V24

:SOURce:TELEcom:TIMing <timing>

【パラメータ】 <timing>=<STRING PROGRAM DATA>

"ASYNc" :Async
 "ST1" :ST1
 "ST2" :ST2
 "ST2:INV":ST2(INV)
 "S" :S
 "S:INV" :S(INV)
 "RT" :RT
 "RT:INV" :RT(INV)

【機能】 同期/非同期モードやタイミングクロックを設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Timing

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:TIMing "ASYNc"

:SOURce:TELEcom:TIMing?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <timing>=<STRING RESPONSE DATA>

:SOURce:TELEcom:TIMing と同じです。

【機能】 同期/非同期モードやタイミングクロックの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Timing

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:TIMing?

< "ASYN"

:SOURce:TELEcom:IFSource <ifsource>

【パラメータ】 <ifsource>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

SELF :Self
 EXT :Ext(64k+8k)
 RD :RD

【機能】 内部クロック源を設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Timing

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:IFSource SELF

:SOURce:TELEcom:IFSource?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <ifsource>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SOURce:TELEcom:IFSource と同じです。

【機能】 内部クロック源の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Timing

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:IFSource?

< SELF

:SOURce:TELEcom:SSBit <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>

OFF or 0 :Off

ON or 1 :On

【機能】 スタート/ストップビット付加を設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Start/Stop bit

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:SSBit 0

:SOURce:TELEcom:SSBit?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:SOURce:TELEcom:SSBit と同じです。

【機能】 スタート/ストップビット付加の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Start/Stop bit

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:SSBit?

< 0

:SOURce:TELEcom:BRATe <brate>

【パラメータ】 <brate>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

50~10000000 :50bit/s~10000000bit/s (ステップ 5bit/s)

【機能】 内部クロック周波数を設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Bit rate

【制約】 <brate>が有効な設定値以外のときは、その値以下の最も近い有効な設定値とします。
ただし、その値以下の最も近い有効な設定値が存在しないときには、その値以上の最も近い有効な設定値とします。

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:BRATe 50

:SOURce:TELEcom:BRATe?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <brate>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:SOURce:TELEcom:BRATe と同じです。

【機能】 内部クロック周波数の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Bit rate

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:BRATe?

< 50

:SOURce:TELEcom:DLENgth <dlength>

【パラメータ】 <dlength>=<STRING PROGRAM DATA>

"BIT5" :5bit

"BIT6" :6bit

"BIT7" :7bit

"BIT8" :8bit

【機能】 データ長を設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Data length

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:DLENgth "BIT5"

:SOURce:TELEcom:DLENgth?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <dlength>=<STRING RESPONSE DATA>
:SOURce:TELEcom:DLENgth と同じです。

【機能】 データ長の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Data length

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:DLENgth?
< "BIT5"

:SOURce:TELEcom:PARity <parity>

【パラメータ】 <parity>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

NONE :None

ODD :Odd

EVEN :Even

【機能】 パリティを設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Parity

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:PARity NONE

:SOURce:TELEcom:PARity?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <parity>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
:SOURce:TELEcom:PARity と同じです。

【機能】 パリティの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Parity

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:PARity?
< NONE

:SOURce:TELEcom:STBit <stbit>

【パラメータ】 <stbit>=<STRING PROGRAM DATA>

"BIT1" :1bit

"BIT1_5":1.5bit

"BIT2" :2bit

【機能】 ストップビットを設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Stop bit

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:STBit "BIT1"

:SOURce:TELEcom:STBit?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <stbit>=<STRING RESPONSE DATA>

:SOURce:TELEcom:STBit と同じです。

【機能】 ストップビットの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Stop bit

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:STBit?

< "BIT1"

:SOURce:TELEcom:BSYNc <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>

OFF or 0 :Off

ON or 1 :On

【機能】 B 線を使ったバイト同期を設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Byte sync

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:BSYNc 0

:SOURce:TELEcom:BSYNc?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:SOURce:TELEcom:BSYNc と同じです。

【機能】 B 線を使ったバイト同期の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Byte sync

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:BSYNc?

< 0

:SOURce:TELEcom:SCONtrol <scontrol>

【パラメータ】 <scontrol>=<STRING PROGRAM DATA>
 "ALWays" :Always
 "CS:ON" :CS-On
 "C:ON" :C-On
 【機能】 送信コントロールを設定します。
 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Send control
 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:SCONtrol "ALWays"

:SOURce:TELEcom:SCONtrol?

【パラメータ】 なし。
 【レスポンス】 <scontrol>=<STRING RESPONSE DATA>
 :SOURce:TELEcom:SCONtrol と同じです。
 【機能】 送信コントロールの設定状態を問い合わせます。
 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Send control
 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:SCONtrol?
 < "ALW"

:SOURce:TELEcom:CODE <code>

【パラメータ】 <code>=<STRING PROGRAM DATA>
 "AMI" :AMI
 "B8ZS" :B8ZS
 "HDB3" :HDB3
 【機能】 伝送符号を設定します。
 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Code
 【制約】 使用するインタフェースユニットによって、使用できないパラメータがあります。
 MU643000A : 全パラメータ使用可
 MU643000B/K : "HDB3"使用不可
 MU643000C : "B8ZS"使用不可
 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:CODE "AMI"

:SOURce:TELEcom:CODE?

【パラメータ】 なし。
 【レスポンス】 <code>=<STRING RESPONSE DATA>
 :SOURce:TELEcom:CODE と同じです。
 【機能】 伝送符号の設定状態を問い合わせます。
 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Code
 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:CODE?
 < "AMI"

:SOURce:TELEcom:FRAMe <frame>

【パラメータ】 <frame>=<STRING PROGRAM DATA>

"MFP24:G704" :24MFP(G.704)
 "MFP24:NTT" :24MFP(NTT)
 "MFP16:B30+D":16MFP(30B+D)
 "MFP16:B31" :16MFP(31B)
 "MFP12:G704" :12MFP(G.704)
 "MFP2:B30+D" :2MFP(30B+D)
 "MFP2:B31" :2MFP(31B)
 "ST" :ST
 "PBX" :PBX
 "CRV" :CRV
 "MFP4:G704" :4MFP(G.704)
 "UNFRame" :Unframe
 "ST12:G704" :12ST(G.704)
 "ST24:G704" :24ST(G.704)
 "ST24:NTT" :24ST(NTT)
 "ST4:G704" :4ST(G.704)

【機能】 フレームフォーマットを設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Frame

【制約】 使用するインタフェースユニットによって、使用できないパラメータがあります。

MU643000A	: "ST12:G704","ST24:G704","ST24:NTT","ST4:G704" 使用不可
MU643000B	: "MFP16:B30+D","MFP16:B31","MFP2:B30+D", "MFP2:B31","ST12:G704","ST24:G704","ST24:NTT", "ST4:G704"使用不可
MU643000C	: "MFP24:G704","MFP12:G704","MFP24:NTT", "PBX","CRV","ST","MFP4:G704","ST12:G704", "ST24:G704","ST24:NTT","ST4:G704"使用不可
MU643000K	: "MFP16:B30+D","MFP16:B31","MFP2:B30+D", "MFP2:B31"使用不可

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:FRAMe "MFP24:G704"

:SOURce:TELEcom:FRAMe?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <frame>=<STRING RESPONSE DATA>

:SOURce:TELEcom:FRAMe と同じです。

【機能】 フレームフォーマットの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Frame

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:FRAMe?

< "MFP24:G704"

:SOURce:TELEcom:SKB8 <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
 OFF or 0 :Off
 ON or 1 :On

【機能】 Ext(64k+8k)の入力信号を使用したバイト同期を設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:8k byte sync

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:SKB8 0

:SOURce:TELEcom:SKB8?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 :SOURce:TELEcom:SKB8 と同じです。

【機能】 Ext(64k+8k)の入力信号を使用したバイト同期の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:8k byte sync

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:SKB8?
 < 0

:SOURce:TELEcom:TSLot[:TYPE] <tslot>

【パラメータ】 <tslot>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

TSN :TSn
 H0 :H0
 H11 :H11
 H12 :H12
 ANY :Any
 DLBit :DL bit
 DCH :Dch
 SABit :Sa bit
 SPBit :SP bit
 THRough :Through
 HGN :HGn
 ALLHg :All HG

【機能】 測定用タイムスロットを設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Time slot

【制約】 使用するインタフェースユニットによって、使用できないパラメータがあります。

MU643000A : 全パラメータ使用可
 MU643000B/K : H12,SABit 使用不可
 MU643000C : DLBit, SPBit, HGN, ALLHg 使用不可

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:TSLot TSN

:SOURce:TELEcom:TSLot[:TYPE]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <tslot>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
 :SOURce:TELEcom:TSLot[:TYPE]と同じです。

【機能】 測定用タイムスロットの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Time slot

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:TSLot?
 < TSN

:SOURce:TELEcom:TSLot:TSN <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 1～98 (ステップ 1) : MU643000A
 1～98 (ステップ 1) : MU643000B/K
 1～31 (ステップ 1) : MU643000C
- 【機能】 測定用タイムスロットを設定します。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Time slot
- 【制約】 使用しているインタフェースユニットにより、設定できる値が変わります。
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:TSLot:TSN 1

:SOURce:TELEcom:TSLot:TSN?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 :SOURce:TELEcom:TSLot:TSN と同じです。
- 【機能】 測定用タイムスロットの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Time slot
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:TSLot:TSN?
 < 1

:SOURce:TELEcom:TSLot:HGN <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 1～16 (ステップ 1)
- 【機能】 測定用タイムスロット内のハンドリンググループを設定します。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Time slot
- 【制約】 使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。
 MU643000A : 使用可
 MU643000B/K : 使用可
 MU643000C : 使用不可
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:TSLot:HGN 1

:SOURce:TELEcom:TSLot:HGN?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 :SOURce:TELEcom:TSLot:HGN と同じです。
- 【機能】 測定用タイムスロット内のハンドリンググループの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Time slot
- 【制約】 :SOURce:TELEcom:TSLot:HGN と同じです。
 使用不可によるコマンドの実行後は、レスポンスは送出されないで、実行エラーとなります。
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:TSLot:HGN?
 < 1

:SOURce:TELecom:TSLot:DCHannel <dchannel>

【パラメータ】 <dchannel>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

B1 :B1

B2 :B2

B12 :B1+B2

D :D

THRough :Through

【機能】 I.430/I.430-a 192k 測定用チャンネルを設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Data channel

【使用例】 > :SOURce:TELecom:TSLot:DCHannel B1

:SOURce:TELecom:TSLot:DCHannel?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <dchannel>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SOURce:TELecom:TSLot:DCHannel と同じです。

【機能】 I.430/I.430-a 192k 測定用チャンネルの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Data channel

【使用例】 > :SOURce:TELecom:TSLot:DCHannel?

< B1

:SOURce:TELecom:CHANnel <channel>

【パラメータ】 <channel>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

SBIT :ST bit

CH1 :CH1

CH2 :CH2

CH3 :CH3

CH4 :CH4

CH5 :CH5

CH6 :CH6

ALLCh :All CH

INFO:Info

【機能】 測定用チャンネルを設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Channel

【制約】 使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。

MU643000A :使用可

MU643000B/K :使用可

MU643000C :使用不可

【使用例】 > :SOURce:TELecom:CHANnel SBIT

:SOURce:TELEcom:CHANnel?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <channel>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
:SOURce:TELEcom:CHANnel と同じです。
- 【機能】 測定用チャンネルの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Channel
- 【制約】 :SOURce:TELEcom:CHANnel と同じです。
使用不可によるコマンドの実行後は、レスポンスは送出されないで、実行エラーとなります。
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:CHANnel?
< SBIT

:SOURce:TELEcom:TSLot:DBRate <dbrate>

- 【パラメータ】 <dbrate>=<STRING PROGRAM DATA>
- | | |
|--------------|--------------|
| "K64" | :64k×n |
| "K56_17" | :56k(1-7)×n |
| "K56_28" | :56k(2-8)×n |
| "K32" | :32kbit/s |
| "K16" | :16kbit/s |
| "K8" | :8kbit/s |
| "K48" | :48kbit/s |
| "K9_6" | :9.6kbit/s |
| "K4_8" | :4.8kbit/s |
| "K2_4" | :2.4kbit/s |
| "K0_6" | :600bit/s |
| "DSIGnaling" | :Signaling |
| "M1_544" | :1.544Mbit/s |
| "X50:ANY" | :X.50 Any |
- 【機能】 測定用データビットレートを設定します。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Data bit rate
- 【制約】 使用するインタフェースユニットによって、使用できないパラメータがあります。
- | | |
|-------------|----------------|
| MU643000A | : 全パラメータ使用可 |
| MU643000B/K | : "M1_544"使用不可 |
| MU643000C | : 全パラメータ使用可 |
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:TSLot:DBRate "K64"

:SOURce:TELEcom:TSLot:DBRate?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <dbrate>=<STRING RESPONSE DATA>
:SOURce:TELEcom:TSLot:DBRate と同じです。
- 【機能】 測定用データビットレートの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Data bit rate
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:TSLot:DBRate?
< "K64"

:SOURce:TELEcom:TSLot:DBRN <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

1~98 (ステップ 1) : MU643000A

1~98 (ステップ 1) : MU643000B/K

1~31 (ステップ 1) : MU643000C

【機能】 測定用データビットレートを設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Data bit rate

【制約】 使用するインタフェースユニットにより、設定できる値が変わります。

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:TSLot:DBRN 1

:SOURce:TELEcom:TSLot:DBRN?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:SOURce:TELEcom:TSLot:DBRate と同じです。

【機能】 測定用データビットレートの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Data bit rate

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:TSLot:DBRN?

< 1

:SOURce:TELEcom:TSLot:HCHannel0 <hchannel0>

【パラメータ】 <hchannel0>=<STRING PROGRAM DATA>

"010203040506" :01-02-03-04-05-06

"070809101112" :07-08-09-10-11-12

"131415161718" :13-14-15-16-17-18

"192021222324" :19-20-21-22-23-24

"010203171819" :01-02-03 17-18-19

"040506202122" :04-05-06 20-21-22

"070809232425" :07-08-09 23-24-25

"101112262728" :10-11-12 26-27-28

"131415293031" :13-14-15 29-30-31

"010711172327" :01-07-11 17-23-27

"030915192531" :03-09-15 19-25-31

"040812202428" :04-08-12 20-24-28

"051013212629" :05-10-13 21-26-29

"020614182230" :02-06-14 18-22-30

MU643000A 及び
MU643000B 使用時
使用可

MU643000A 及び
MU643000C 使用時
使用可

【機能】 H0 チャンネルを設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:H0 Channel

【制約】 使用しているインタフェースにより、使用できないパラメータがあります。

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:TSLot:HCHannel0 "010203040506"

:SOURce:TELEcom:TSLot:HCHannel0?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <hchannel0>=<STRING RESPONSE DATA>

:SOURce:TELEcom:TSLot:HCHannel0 と同じです。

【機能】 H0 チャンネルの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:H0 Channel

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:TSLot:HCHannel0?

< "010203040506"

:SOURce:TELEcom:TSLot:TSASsign <numeric1>[,<numeric2>]...[,<numericN>]

【パラメータ】 <numeric1~N>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

N=1~98 (ステップ 1) : MU643000A

N=1~98 (ステップ 1) : MU643000B/K

N=1~31 (ステップ 1) : MU643000C

【機能】 分散配置スロットを設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Time slot assign

【制約】 使用するインタフェースにより、設定できるパラメータ数が変わります。

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:TSLot:TSASsign 1,2,3,4

:SOURce:TELEcom:TSLot:TSASsign?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric1~98>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:SOURce:TELEcom:TSLot:TSASsign と同じです。

【機能】 分散配置スロットの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Time slot assign

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:TSLot:TSASsign?

< 1,2,3,4

:SOURce:TELEcom:TSLot:ATSassign

【パラメータ】 なし。

【機能】 分散配置スロットの全選択を設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Time slot assign

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:TSLot:ATSassign

:SOURce:TELEcom:TSLot:CTSassign

【パラメータ】 なし。

【機能】 分散配置スロットの全選択解除を設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Time slot assign

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:TSLot:CTSassign

:SOURce:TELEcom:DFRame[:TYPE] <dframe>

【パラメータ】 <dframe>=<STRING PROGRAM DATA>

"X50:MFP20" :X.50-20MFP

"X50:MFP80" :X.50-80MFP

"UNIVERSal" :Universal

【機能】 データフレームを設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Data frame

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:DFRame "X50:MFP20"

:SOURce:TELEcom:DFRame[:TYPE]?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <dframe>=<STRING RESPONSE DATA>
:SOURce:TELEcom:DFRame[:TYPE]と同じです。
- 【機能】 データフレームの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Data frame
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:DFRame?
< "X50:MFP20"

:SOURce:TELEcom:DFRame:XCHannel50 <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
1~80 (ステップ 1)
- 【機能】 X.50 フレーム測定用データチャンネルを設定します。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:X.50 Data channel
- 【制約】 使用しているインタフェースユニットにより、設定できる値が変わります。
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:DFRame:XCHannel50 1

:SOURce:TELEcom:DFRame:XCHannel50?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
:SOURce:TELEcom:DFRame:XCHannel50 と同じです。
- 【機能】 X.50 フレーム測定用データチャンネルの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:X.50 Data channel
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:DFRame:XCHannel50?
< 1

:SOURce:TELEcom:DFRame:XASSign50 <numeric1>[,<numeric2>]...[,<numeric80>]

- 【パラメータ】 <numeric1~80>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
1~80 (ステップ 1)
- 【機能】 X.50 分散配置チャンネルを設定します。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:X.50 Assign
- 【制約】 使用しているインタフェースユニットにより、設定できる値が変わります。
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:DFRame:XASSign50 1,2,3,4

:SOURce:TELEcom:DFRame:XASSign50?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric1~80>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
:SOURce:TELEcom:DFRame:XASSign50 と同じです。
- 【機能】 X.50 分散配置チャンネルの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:X.50 Assign
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:DFRame:XASSign50?
< 1,2,3,4

:SOURce:TELEcom:DFRame:AXASSign50

- 【パラメータ】 なし。
- 【機能】 X.50 分散配置チャンネルの全選択を設定します。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:X.50 Assign
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:DFRame:AXASSign50

:SOURce:TELecom:DFRame:CXASsign50

【パラメータ】 なし。
 【機能】 X.50 分散配置チャネルの全選択解除を設定します。
 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:X.50 Assign
 【使用例】 > :SOURce:TELecom:DFRame:CXASsign50

:SOURce:TELecom:MUX <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
 OFF or 0 :Off
 ON or 1 :On
 【機能】 MUX 機能の On/Off を設定します。
 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:MUX
 【使用例】 > :SOURce:TELecom:MUX 0

:SOURce:TELecom:MUX?

【パラメータ】 なし。
 【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 :SOURce:TELecom:MUX と同じです。
 【機能】 MUX 機能の On/Off の設定状態を問い合わせます。
 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:MUX
 【使用例】 > :SOURce:TELecom:MUX?
 < 0

:SOURce:TELecom:BASSign <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 1～8 (ステップ 1)
 【機能】 測定用データチャネルを設定します。
 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Bit assign
 【使用例】 > :SOURce:TELecom:BASSign 1

:SOURce:TELecom:BASSign?

【パラメータ】 なし。
 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 :SOURce:TELecom:BASSign と同じです。
 【機能】 測定用データチャネルの設定状態を問い合わせます。
 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Bit assign
 【使用例】 > :SOURce:TELecom:BASSign?
 < 1

:SOURce:TELecom:BIT1 <bit>

【パラメータ】 <bit>=<STRING PROGRAM DATA>
 "0" :0
 "1" :1
 "01" :0/1(Alt)
 【機能】 タイムスロットビット 1 を設定します。
 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:1st bit
 【使用例】 > :SOURce:TELecom:BIT1 "0"

:SOURce:TELEcom:BIT1?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <bit>=<STRING RESPONSE DATA>
:SOURce:TELEcom:BIT1 と同じです。
- 【機能】 タイムスロットビット 1 の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:1st bit
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:BIT1?
< "0"

:SOURce:TELEcom:BIT8 <bit>

- 【パラメータ】 <bit>=<STRING PROGRAM DATA>
"0" :0
"1" :1
"01" :0/1(Alt)
- 【機能】 タイムスロットビット 8 を設定します。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:8th bit
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:BIT8 "0"

:SOURce:TELEcom:BIT8?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <bit>=<STRING RESPONSE DATA>
:SOURce:TELEcom:BIT8 と同じです。
- 【機能】 タイムスロットビット 8 の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:8th bit
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:BIT8?
< "0"

:SOURce:TELEcom:ESIBit <esibit>

- 【パラメータ】 <esibit>=<STRING PROGRAM DATA>
"AUTO" :Auto
"00" :00
"01" :01
"10" :10
"11" :11
- 【機能】 E/Si ビットを設定します。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:E/Si bit
- 【制約】 使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。
MU643000A : 使用可
MU643000B/K : 使用不可（実行エラー）
MU643000C : 使用可
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:ESIBit "AUTO"

:SOURce:TELeom:ESIBit?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <esibit>=<STRING RESPONSE DATA>
:SOURce:TELeom:ESIBit と同じです。
- 【機能】 E/Si ビットの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:E/Si bit
- 【制約】 :SOURce:TELeom:ESIBit と同じです。
使用不可によるコマンドの実行後は、レスポンスは送出されず、実行エラーとなります。
- 【使用例】 > :SOURce:TELeom:ESIBit?
< "AUTO"

:SOURce:TELeom:BSTeal <boolean>

- 【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
OFF or 0 :Off
ON or 1 :On
- 【機能】 シグナリングビットを設定します。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Bit steal
- 【制約】 使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。
MU643000A :使用可
MU643000B/K :使用可
MU643000C :使用不可（実行エラー）
- 【使用例】 > :SOURce:TELeom:BSTeal 0

:SOURce:TELeom:BSTeal?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
:SOURce:TELeom:BSTeal と同じです。
- 【機能】 シグナリングビットの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Bit steal
- 【制約】 :SOURce:TELeom:BSTeal と同じです。
使用不可によるコマンドの実行後は、レスポンスは送出されないで、実行エラーとなります。
- 【使用例】 > :SOURce:TELeom:BSTeal?
< 0

:SOURce:TELeom:QBIT <qbit>

- 【パラメータ】 <qbit>=<STRING PROGRAM DATA>
"0000"~"1111"
- 【機能】 Q ビットを設定します。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Q bit
- 【使用例】 > :SOURce:TELeom:QBIT "0000"

:SOURce:TELEcom:QBIT?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <qbit>=<STRING RESPONSE DATA>
:SOURce:TELEcom:QBIT と同じです。
- 【機能】 Q ビットの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Q bit
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:QBIT?
< "0000"

:SOURce:TELEcom:SABit <sabit>

- 【パラメータ】 <sabit>=<STRING PROGRAM DATA>
"00000"~"11111"
- 【機能】 Sa ビットを設定します。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Sa bit
- 【制約】 使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。
MU643000A : 使用可
MU643000B/K : 使用不可（実行エラー）
MU643000C : 使用可
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:SABit "00000"

:SOURce:TELEcom:SABit?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <sabit>=<STRING RESPONSE DATA>
:SOURce:TELEcom:SABit と同じです。
- 【機能】 Sa ビットの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Sa bit
- 【制約】 :SOURce:TELEcom:SABit と同じです。
使用不可によるコマンドの実行後は、レスポンスは送出されないで、実行エラーとなります。
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:SABit?
< "00000"

:SOURce:TELEcom:SPBit <spbit>

- 【パラメータ】 <spbit>=<STRING PROGRAM DATA>
"000"~"111"
- 【機能】 SP ビットを設定します。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:SP bit
- 【制約】 使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。
MU643000A : 使用可
MU643000B/K : 使用可
MU643000C : 使用不可（実行エラー）
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:SPBit "000"

:SOURce:TELecom:SPBit?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <spbit>=<STRING RESPONSE DATA>
:SOURce:TELecom:SPBit と同じです。
- 【機能】 SP ビットの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:SP bit
- 【制約】 :SOURce:TELecom:SPBit と同じです。
使用不可によるコマンドの実行後は、レスポンスは送出されないで、実行エラーとなります。
- 【使用例】 > :SOURce:TELecom:SPBit?
< "000"

:SOURce:TELecom:SBIT <numeric>,<sbit>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
1~16 (ステップ 1)
<sbit>=<STRING PROGRAM DATA>
"000000"~"111111"
"00000"~"11111"
- 【機能】 送出 ST bit を設定します。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:ST bit
- 【制約】 <sbit>が 6 桁入力待ち時に 1 桁が入力("N")された場合, "*****N"とします。ただし, "*****"は前の設定値とします。
<sbit>が 5 桁入力待ち時に 6 桁が入力("NOPQRS")された場合, "OPQRS"とします。
使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。
MU643000A : 使用可
MU643000B/K : 使用可
MU643000C : 使用不可
- 【使用例】 HG1 に 111111(Bin)を設定する場合
> :SOURce:TELecom:SBIT 1,"111111"

:SOURce:TELecom:SBIT? <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
:SOURce:TELecom:SBIT と同じです。
- 【レスポンス】 <sbit>=<STRING PROGRAM DATA>
:SOURce:TELecom:SBIT と同じです。
- 【機能】 送出 ST bit の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:ST bit
- 【制約】 :SOURce:TELecom:SBIT と同じです。
使用不可によるコマンドの実行後は、レスポンスは送出されないで、実行エラーとなります。
- 【使用例】 HG1 から 111111(Bin)を問い合わせる場合
> :SOURce:TELecom:SBIT? 1
<"111111"

:SOURce:TELeom:TSFRame16 <tsframe16>

【パラメータ】 <tsframe16>=<STRING PROGRAM DATA>
"0000"~"1111"

【機能】 タイムスロット 16 フレーム 0 パターンを設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:TS16 Frame0 xyxx

【制約】 使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。

MU643000A : 使用可
MU643000B/K : 使用不可 (実行エラー)
MU643000C : 使用可

【使用例】 > :SOURce:TELeom:TSFRame16 "0000"

:SOURce:TELeom:TSFRame16?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <tsframe16>=<STRING RESPONSE DATA>

:SOURce:TELeom:TSFRame16 と同じです。

【機能】 タイムスロット 16 フレーム 0 パターンの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:TS16 Frame0 xyxx

【制約】 :SOURce:TELeom:TSFRame16 と同じです。

使用不可によるコマンドの実行後は、レスポンスは送出されないで、実行エラーとなります。

【使用例】 > :SOURce:TELeom:TSFRame16?
< "0000"

:SOURce:TELeom:SIGBit <sigbit>

【パラメータ】 <sigbit>=<STRING PROGRAM DATA>
"0000"~"1111"
"00"~"11"
"0"~"1"

【機能】 シグナリング情報ビットを設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Sig. Bit

【制約】 <sigbit>が 4 桁入力待ち時に 1 桁が入力("N")された場合、 "***N"とします。ただし、 "***"は前の設定値とします。

<sigbit>が 1 桁入力待ち時に 4 桁が入力("NOPQ")された場合、 "Q"とします。

使用しているインタフェースユニットにより、使用できないパラメータがあります。

MU643000A : 全パラメータ使用可
MU643000B/K : 全パラメータ使用可
MU643000C : "0000"~"1111"パラメータのみ使用

【使用例】 > :SOURce:TELeom:SIGBit "0000"

:SOURce:TELeom:SIGBit?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <sigbit>=<STRING RESPONSE DATA>

:SOURce:TELeom:SIGBit と同じです。

【機能】 シグナリング情報ビットの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Sig. Bit

【制約】 本項目が無効の場合、4 桁の値("NNNN")を返します。

【使用例】 > :SOURce:TELeom:SIGBit?
< "0000"

:SOURce:TELEcom:VCHannel1 <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>

OFF or 0 :Off

ON or 1 :On

【機能】 音声用チャネル使用有無を設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Voice channel

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:VCHannel1 1

:SOURce:TELEcom:VCHannel1?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:SOURce:TELEcom:VCHannel1 と同じです。

【機能】 音声用チャネル使用有無の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Voice channel

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:VCHannel1?

< 1

:SOURce:TELEcom:VTSLot <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

1~98 (ステップ 1) : MU643000A

1~98 (ステップ 1) : MU643000B/K

1~31 (ステップ 1) : MU643000C

【機能】 音声用チャネルを設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:TSn

【制約】 使用しているインタフェースにより、設定できる値が変わります。

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:VTSLot 1

:SOURce:TELEcom:VTSLot?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:SOURce:TELEcom:TSN と同じです。

【機能】 音声用チャネルの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:TSn

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:VTSLot?

< 1

:SOURce:TELEcom:VCHannel2 <vchannel2>

【パラメータ】 <vchannel2>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

B1 :B1

B2 :B2

NONE :None

【機能】 I.430/I.430-a 192k 音声用チャネルを設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Voice channel

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:VCHannel2 B1

:SOURce:TELeom:VCHannel2?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <vchannel2>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
:SOURce:TELeom:VCHannel2 と同じです。
- 【機能】 I.430/I.430-a 192k 音声用チャネルの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Voice channel
- 【使用例】 > :SOURce:TELeom:VCHannel2?
< B1

:SOURce:TELeom:ITSLot <itslot>

- 【パラメータ】 <itslot>=<STRING PROGRAM DATA>
"00000000"~"11111111"
- 【機能】 アイドルタイムスロットを設定します。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Idle time slot
- 【使用例】 > :SOURce:TELeom:ITSLot "00000000"

:SOURce:TELeom:ITSLot?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <itslot>=<STRING RESPONSE DATA>
:SOURce:TELeom:ITSLot と同じです。
- 【機能】 アイドルタイムスロットの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Tx:Idle time slot
- 【使用例】 > :SOURce:TELeom:ITSLot?
< "00000000"

:SOURce:TELeom:CHARacter:STADdress <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
0~2046 (ステップ 1)
- 【機能】 キャラクタパターン先頭アドレスを設定します。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Character:Start address
- 【使用例】 > :SOURce:TELeom:CHARacter:STADdress 0

:SOURce:TELeom:CHARacter:STADdress?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
:SOURce:TELeom:CHARacter:STADdress と同じです。
- 【機能】 キャラクタパターン先頭アドレスの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Character:Start address
- 【使用例】 > :SOURce:TELeom:CHARacter:STADdress?
< 0

:SOURce:TELeom:CHARacter:SPADdress <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
0~2047 (ステップ 1)
- 【機能】 キャラクタパターン最終アドレスを設定します。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Character:Stop address
- 【使用例】 > :SOURce:TELeom:CHARacter:SPADdress 1

:SOURce:TELEcom:CHARacter:SPADdress?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
:SOURce:TELEcom:CHARacter:SPADdress と同じです。
- 【機能】 キャラクタパターン最終アドレスの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Character:Stop address
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:CHARacter:SPADdress?
< 1

:SOURce:TELEcom:CHARacter:BOUNDary <boundary>

- 【パラメータ】 <boundary>=<STRING PROGRAM DATA>
"BIT4" :4bit
"BIT5" :5bit
"BIT6" :6bit
"BIT7" :7bit
"BIT8" :8bit
- 【機能】 使用ビット数を設定します。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Character:Boundary
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:CHARacter:BOUNDary "BIT5"

:SOURce:TELEcom:CHARacter:BOUNDary?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <boundary>=<STRING RESPONSE DATA>
:SOURce:TELEcom:CHARacter:BOUNDary と同じです。
- 【機能】 データ長の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Character:Boundary
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:CHARacter:BOUNDary?
< "BIT5"

:SOURce:TELEcom:CHARacter:SHIFt <shift>

- 【パラメータ】 <shift>=<STRING PROGRAM DATA>
"-7" :-7 "+1" :+1
"-6" :-6 "+2" :+2
"-5" :-5 "+3" :+3
"-4" :-4 "+4" :+4
"-3" :-3 "+5" :+5
"-2" :-2 "+6" :+6
"-1" :-1 "+7" :+7
- 【機能】 バイト単位のビットシフトを設定します。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Character:Shift
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:CHARacter:SHIFt "-7"

:SOURce:TELEcom:CHARacter:INVert

- 【パラメータ】 なし。
 【機能】 論理反転を設定します。
 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Character:Invert
 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:CHARacter:INVert

:SOURce:TELEcom:CHARacter:REVerse

- 【パラメータ】 なし。
 【機能】 MSB/LSB の反転を設定します。
 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Character:Reverse
 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:CHARacter:REVerse

:SOURce:TELEcom:CHARacter:DATA <address>,<worddata>

- 【パラメータ】 <address>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 0~1023 (ステップ 1)
 Boundary=8bit として計算したときのアドレスです。
 <worddata>=<STRING PROGRAM DATA>
 "00"~"FF"
 Boundary に関係なく、8bit 入力です。
 【機能】 キャラクタパターンを設定します。
 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Character
 【使用例】 アドレス 0 に FF(H)を設定する場合
 > :SOURce:TELEcom:CHARacter:DATA 0,"FF"

:SOURce:TELEcom:CHARacter:DATA? <address>

- 【パラメータ】 <address>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 :SOURce:TELEcom:CHARacter:DATA と同じです。
 【レスポンス】 <worddata>=<STRING RESPONSE DATA>
 :SOURce:TELEcom:CHARacter:DATA と同じです。
 【機能】 キャラクタパターンの設定状態を問い合わせます。
 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Character
 【使用例】 アドレス 0 から FF(H)を問い合わせる場合
 > :SOURce:TELEcom:CHARacter:DATA? 0
 < "FF"

:SOURCE:TELEcom:CHARacter:MDATa <address1>,<address2>,<worddata>

- 【パラメータ】 <address1>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
0~1023 (ステップ 1)
Boundary=8bit として計算したときのアドレスです。
<address2>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
0~1023 (ステップ 1)
Boundary=8bit として計算したときのアドレスです。
<worddata>=<STRING PROGRAM DATA>
"XX0[,XX1]...[,XX1023]" (XX0~XX1023:00~FF)
Boundary に関係なく, 8bit 入力です。
- 【機能】 指定範囲のキャラクタパターンを設定します。
- 【対応画面】 Measure>Error/Alarm 画面の Character
- 【制約】 <address1>≤<address2>で, かつ<address2><<Address1>+158 とします。
- 【使用例】 アドレス 0~5 に 001122334455(H)を設定する場合
> :SOURCE:TELEcom:CHARacter:MDATa 0,5,"00,11,22,33,44,55"

:SOURCE:TELEcom:CHARacter:MDATa? <address1>,<address2>

- 【パラメータ】 <address1>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
:SOURCE:TELEcom:CHARacter:MDATa と同じです。
<address2>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
:SOURCE:TELEcom:CHARacter:MDATa と同じです。
- 【レスポンス】 <worddata>=<STRING RESPONSE DATA>
:SOURCE:TELEcom:CHARacter:MDATa と同じです。
- 【機能】 指定範囲のキャラクタパターンの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure>Error/Alarm 画面の Character
- 【制約】 <address1>≤<address2>とします。
- 【使用例】 アドレス 0~5 から 001122334455(H)を問い合わせる場合
> :SOURCE:TELEcom:CHARacter:MDATa? 0,5
< "00,11,22,33,44,55"

:SOURCE:TELEcom:CHARacter:ALL0

- 【パラメータ】 なし。
- 【機能】 全ビット 0 を設定します。
- 【対応画面】 Measure>Error/Alarm 画面の Character
- 【使用例】 > :SOURCE:TELEcom:CHARacter:ALL0

:SOURCE:TELEcom:CHARacter:ALL1

- 【パラメータ】 なし。
- 【機能】 全ビット 1 を設定します。
- 【対応画面】 Measure>Error/Alarm 画面の Character
- 【使用例】 > :SOURCE:TELEcom:CHARacter:ALL1

:SOURce:TELEcom:FRELAY:DLCI <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
16~991 (ステップ 1)
- 【機能】 試験パケット用 DLCI 値を設定します。
- 【対応画面】 Measure:Frame relay 画面の DLCI
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:FRELAY:DLCI 16

:SOURce:TELEcom:FRELAY:DLCI?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
:SOURce:TELEcom:FRELAY:DLCI と同じです。
- 【機能】 試験パケット用 DLCI 値の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Frame relay 画面の DLCI
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:FRELAY:DLCI?
< 16

:SOURce:TELEcom:FRELAY:ITIME <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
5~30 (ステップ 1)
- 【機能】 試験パケットの送出間隔 (s) を設定します。
- 【対応画面】 Measure:Frame relay 画面の Interval time
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:FRELAY:ITIME 5

:SOURce:TELEcom:FRELAY:ITIME?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
:SOURce:TELEcom:FRELAY:ITIME と同じです。
- 【機能】 試験パケットの送出間隔 (s) の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Frame relay 画面の Interval time
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:FRELAY:ITIME?
< 16

:SOURce:TELEcom:ERROR:TYPE <type>

- 【パラメータ】 <type>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
BIT :Bit
BCODE :Bit + Code
CODE :Code
- 【機能】 エラー付加種別を設定します。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:ERR type
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:ERROR:TYPE BIT

:SOURce:TELEcom:ERRor:TYPE?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <type>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
:SOURce:TELEcom:ERRor:TYPE と同じです。
- 【機能】 エラー付加種別の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:ERR type
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:ERRor:TYPE ?
< BIT

:SOURce:TELEcom:ERRor:ERATe[:TYPE] <type>

- 【パラメータ】 <type>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
SINGle :Single
REPeat :Repeat(1s)
CYCLic :Cyclic
- 【機能】 エラー付加タイミングを設定します。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:Ins. rate
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:ERRor:ERATe SINGle

:SOURce:TELEcom:ERRor:ERATe[:TYPE]?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <type>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
:SOURce:TELEcom:ERRor:ERATe[:TYPE]と同じです。
- 【機能】 エラー付加タイミングの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:Ins. rate
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:ERRor:ERATe[:TYPE]?
< SING

:SOURce:TELEcom:ERRor:ERATe:RATE <m>,<n>

- 【パラメータ】 <m>=<STRING PROGRAM DATA>
"1" :1.0 "3" :3.0
"1_1" :1.1 "4" :4.0
"1_3" :1.3 "5" :5.0
"1_5" :1.5 "6" :6.0
"1_7" :1.7 "7" :7.0
"2" :2.0 "8" :8.0
"2_5" :2.5 "9" :9.0
<n>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
1~7 (ステップ 1)
- 【機能】 エラー付加レート (mE-n) を設定します。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:Ins. rate
- 【使用例】 エラー付加レートに 1.0E-3 を設定する場合
> :SOURce:TELEcom:ERRor:ERATe:RATE "1",3

:SOURce:TELEcom:ERRor:ERATe:RATE?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<m>=<STRING RESPONSE DATA>**
 :SOURce:TELEcom:ERRor:ERATe:RATE と同じです。
<n>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 :SOURce:TELEcom:ERRor:ERATe:RATE と同じです。
- 【機能】 エラー付加レート (mE-n) の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure>Error/Alarm 画面の Cond.1:Ins. rate
- 【使用例】 エラー付加レートから 1.0E-3 を問い合わせる場合
 > :SOURce:TELEcom:ERRor:ERATe:RATE?
 < "1",3

:SOURce:TELEcom:ERRor:START

- 【パラメータ】 なし。
- 【機能】 エラー付加開始を設定します。
- 【対応画面】 Measure>Error/Alarm 画面の Cond.1:ERR
- 【制約】 エラー付加中の場合、本機能は無視され実行エラーとします。
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:ERRor:START

:SOURce:TELEcom:ERRor:STOP

- 【パラメータ】 なし。
- 【機能】 エラー付加停止を設定します。
- 【対応画面】 Measure>Error/Alarm 画面の Cond.1:ERR
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:ERRor:STOP

:SOURce:TELEcom:ERRor:STATe?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 0 :エラー付加停止
 1 :エラー付加中
- 【機能】 エラー付加状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 なし。
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:ERRor:STATe?
 < 1

:SOURce:TELEcom:FERRor

- 【パラメータ】 なし。
- 【機能】 フレームリレー測定の DT シーケンスに対するエラー付加を指示します。
- 【対応画面】 Measure:Frame relay 画面の FR ERR Insert
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:FERRor

:SOURce:TELEcom:ALARm:AIS <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
OFF or 0 :Off
ON or 1 :On

【機能】 AIS の付加 On/Off を設定します。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Alarm/Signal Ins.

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:ALARm:AIS 1

:SOURce:TELEcom:ALARm:AIS?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
:SOURce:TELEcom:ALARm:AIS と同じです。

【機能】 AIS の付加 On/Off の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Alarm/Signal Ins.

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:ALARm:AIS?
< 1

:SOURce:TELEcom:ALARm:SA <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
OFF or 0 :Off
ON or 1 :On

【機能】 SA の付加 On/Off を設定します。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Alarm/Signal Ins.

【制約】 使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。
MU643000A : 使用可
MU643000B/K : 使用可
MU643000C : 使用不可 (実行エラー)

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:ALARm:SA 1

:SOURce:TELEcom:ALARm:SA?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
:SOURce:TELEcom:ALARm:SA と同じです。

【機能】 SA の付加 On/Off の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Alarm/Signal Ins.

【制約】 :SOURce:TELEcom:ALARm:SA と同じです。
使用不可によるコマンドの実行後は、レスポンスは送出されないで、実行エラーとなります。

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:ALARm:SA?
< 1

:SOURce:TELEcom:ALARm:RAI <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
 OFF or 0 :Off
 ON or 1 :On

【機能】 RAI の付加 On/Off を設定します。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Alarm/Signal Ins.

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:ALARm:RAI 1

:SOURce:TELEcom:ALARm:RAI?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 :SOURce:TELEcom:ALARm:RAI と同じです。

【機能】 RAI の付加 On/Off の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Alarm/Signal Ins.

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:ALARm:RAI?
 < 1

:SOURce:TELEcom:ALARm:XA <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
 OFF or 0 :Off
 ON or 1 :On

【機能】 XA の付加 On/Off を設定します。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Alarm/Signal Ins.

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:ALARm:XA 1

:SOURce:TELEcom:ALARm:XA?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 :SOURce:TELEcom:ALARm:XA と同じです。

【機能】 XA の付加 On/Off の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Alarm/Signal Ins.

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:ALARm:XA?
 < 1

:SOURce:TELEcom:ALARm:HAIS <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>

OFF or 0 :Off

ON or 1 :On

【機能】 HG AIS の付加 On/Off を設定します。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Alarm/Signal Ins.

【制約】 使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。

MU643000A : 使用可

MU643000B/K : 使用可

MU643000C : 使用不可 (実行エラー)

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:ALARm:HAIS 1

:SOURce:TELEcom:ALARm:HAIS?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:SOURce:TELEcom:ALARm:HAIS と同じです。

【機能】 HG AIS の付加 On/Off の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Alarm/Signal Ins.

【制約】 :SOURce:TELEcom:ALARm:HAIS と同じです。

使用不可によるコマンドの実行後は、レスポンスは送出されないで、実行エラーとなります。

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:ALARm:HAIS?

< 1

:SOURce:TELEcom:ALARm:BAIS <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>

OFF or 0 :Off

ON or 1 :On

【機能】 BAIS の付加 On/Off を設定します。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Alarm/Signal Ins.

【制約】 使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。

MU643000A : 使用可

MU643000B/K : 使用可

MU643000C : 使用不可 (実行エラー)

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:ALARm:BAIS 1

:SOURce:TELEcom:ALARm:BAIS?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
:SOURce:TELEcom:ALARm:BAIS と同じです。
- 【機能】 BAIS の付加 On/Off の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Alarm/Signal Ins.
- 【制約】 :SOURce:TELEcom:ALARm:BAIS と同じです。
使用不可によるコマンドの実行後は、レスポンスは送出されないで、実行エラーとなります。
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:ALARm:BAIS?
< 1

:SOURce:TELEcom:SIGNAL:ER <boolean>

- 【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
OFF or 0 :Off
ON or 1 :On
- 【機能】 ER の付加 On/Off を設定します。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Alarm/Signal Ins.
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:SIGNAL:ER 1

:SOURce:TELEcom:SIGNAL:ER?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
:SOURce:TELEcom:SIGNAL:ER と同じです。
- 【機能】 ER の付加 On/Off の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Alarm/Signal Ins.
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:SIGNAL:ER?
< 1

:SOURce:TELEcom:SIGNAL:RS <boolean>

- 【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
OFF or 0 :Off
ON or 1 :On
- 【機能】 RS の付加 On/Off を設定します。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Alarm/Signal Ins.
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:SIGNAL:RS 1

:SOURce:TELEcom:SIGNAL:RS?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
:SOURce:TELEcom:SIGNAL:RS と同じです。
- 【機能】 RS の付加 On/Off の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Alarm/Signal Ins.
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:SIGNAL:RS?
< 1

:SOURce:TELEcom:SIGNal:LLB <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
 OFF or 0 :Off
 ON or 1 :On

【機能】 LLB の付加 On/Off を設定します。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Alarm/Signal Ins.

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:SIGNal:LLB 1

:SOURce:TELEcom:SIGNal:LLB?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 :SOURce:TELEcom:SIGNal:LLB と同じです。

【機能】 LLB の付加 On/Off の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Alarm/Signal Ins.

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:SIGNal:LLB?
 < 1

:SOURce:TELEcom:SIGNal:RLB <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
 OFF or 0 :Off
 ON or 1 :On

【機能】 RLB の付加 On/Off を設定します。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Alarm/Signal Ins.

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:SIGNal:RLB 1

:SOURce:TELEcom:SIGNal:RLB?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 :SOURce:TELEcom:SIGNal:RLB と同じです。

【機能】 RLB の付加 On/Off の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Alarm/Signal Ins.

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:SIGNal:RLB?
 < 1

:SOURce:TELEcom:SIGNal:C <boolean>

- 【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
 OFF or 0 :Off
 ON or 1 :On
- 【機能】 C の付加 On/Off を設定します。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Alarm/Signal Ins.
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:SIGNal:C 1

:SOURce:TELEcom:SIGNal:C?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 :SOURce:TELEcom:SIGNal:C と同じです。
- 【機能】 C の付加 On/Off の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Alarm/Signal Ins.
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:SIGNal:C?
 < 1

:SOURce:TELEcom:SIGNal:IFT0 <boolean>

- 【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
 OFF or 0 :Off
 ON or 1 :On
- 【機能】 IFT0 の付加 On/Off を設定します。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Alarm/Signal Ins.
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:SIGNal:IFT0 1

:SOURce:TELEcom:SIGNal:IFT0?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 :SOURce:TELEcom:SIGNal:IFT0 と同じです。
- 【機能】 IFT0 の付加 On/Off の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Alarm/Signal Ins.
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:SIGNal:IFT0?
 < 1

:SOURce:TELEcom:WTRace:ICode <icode>

【パラメータ】 <icode>=<STRING PROGRAM DATA>

"00000000"～"11111111"

"0000000"～"1111111"

"000000"～"111111"

"00000"～"11111"

【機能】 アイドル時に送出されるコードを設定します。

【対応画面】 Measure:Word trace 画面の Condition:Idle code

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:WTRace:ICode "00000000"

:SOURce:TELEcom:WTRace:ICode?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <icode>=<STRING RESPONSE DATA>

:SOURce:TELEcom:WTRace:ICode と同じです。

【機能】 アイドル時に送出されるコードの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Word trace 画面の Condition:Idle code

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:WTRace:ICode?

< "00000000"

:SOURce:TELEcom:WTRace:SDATa <sdata>

【パラメータ】 <sdata>=<STRING PROGRAM DATA>

"PROGram" :Program

"FPATtern" :FOX Pattern

【機能】 送出パターンを設定します。

【対応画面】 Measure:Word trace 画面の Condition:Send data

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:WTRace:SDATa "PROGram"

:SOURce:TELEcom:WTRace:SDATa?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <sdata>=<STRING RESPONSE DATA>

:SOURce:TELEcom:WTRace:SDATa と同じです。

【機能】 送出パターンの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Word trace 画面の Condition:Send data

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:WTRace:SDATa?

< "PROG"

:SOURce:TELEcom:WTRace:SMETHod <smethod>

【パラメータ】 <smethod>=<STRING PROGRAM DATA>
 "MANual" :Manual
 "SHOT1" :1 Shot

【機能】 パターン送出方法を設定します。

【対応画面】 Measure:Word trace 画面の Condition:Send method

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:WTRace:SMETHod "MANual"

:SOURce:TELEcom:WTRace:SMETHod?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <smethod>=<STRING RESPONSE DATA>
 :SOURce:TELEcom:WTRace:SMETHod と同じです。

【機能】 パターン送出方法の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Word trace 画面の Condition:Send method

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:WTRace:SMETHod?
 < "MAN"

:SOURce:TELEcom:WTRace:STADdress <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 0~262142 (ステップ 1)
 Boundary=4bit として計算したときのアドレスです。

【機能】 プログラムパターン先頭アドレスを設定します。

【対応画面】 Measure:Word trace 画面の PRGM Data:Start address

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:WTRace:STADdress 0

:SOURce:TELEcom:WTRace:STADdress?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 :SOURce:TELEcom:WTRace:STADdress と同じです。

【機能】 プログラムパターン先頭アドレスの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Word trace 画面の PRGM Data:Start address

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:WTRace:STADdress?
 < 0

:SOURce:TELEcom:WTRace:SPADdress <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 0~262143 (ステップ 1)
 Boundary=4bit として計算したときのアドレスです。

【機能】 プログラムパターン最終アドレスを設定します。

【対応画面】 Measure:Word trace 画面の PRGM Data:Stop address

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:WTRace:SPADdress 1

:SOURce:TELEcom:WTRace:SPADdress?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
:SOURce:TELEcom:WTRace:SPADdress と同じです。
- 【機能】 プログラムパターン最終アドレスの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Word trace 画面の PRGM Data:Stop address
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:WTRace:SPADdress?
< 1

:SOURce:TELEcom:WTRace:BOUNDary <boundary>

- 【パラメータ】 <boundary>=<STRING PROGRAM DATA>
"BIT4" :4bit
"BIT5" :5bit
"BIT6" :6bit
"BIT7" :7bit
"BIT8" :8bit
- 【機能】 使用ビット数を設定します。
- 【対応画面】 Measure:Word trace 画面の PRGM Data:Boundary
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:WTRace:BOUNDary "BIT5"

:SOURce:TELEcom:WTRace:BOUNDary?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <boundary>=<STRING RESPONSE DATA>
:SOURce:TELEcom:WTRace:BOUNDary と同じです。
- 【機能】 使用ビット数の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Word trace 画面の PRGM Data:Boundary
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:WTRace:BOUNDary?
< "BIT5"

:SOURce:TELEcom:WTRace:SHIFt <shift>

- 【パラメータ】 <shift>=<STRING PROGRAM DATA>
"-7" :-7 "+1" :+1
"-6" :-6 "+2" :+2
"-5" :-5 "+3" :+3
"-4" :-4 "+4" :+4
"-3" :-3 "+5" :+5
"-2" :-2 "+6" :+6
"-1" :-1 "+7" :+7
- 【機能】 ビットシフトを設定します。
- 【対応画面】 Measure:Word trace 画面の PRGM Data:Shift
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:WTRace:SHIFt "-7"

:SOURce:TELEcom:WTRace:INVert

- 【パラメータ】 なし。
 【機能】 論理反転を設定します。
 【対応画面】 Measure:Word trace 画面の PRGM Data:Invert
 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:WTRace:INVert

:SOURce:TELEcom:WTRace:REVerse

- 【パラメータ】 なし。
 【機能】 MSB/LSB の反転を設定します。
 【対応画面】 Measure:Word trace 画面の PRGM Data:Reverse
 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:WTRace:REVerse

:SOURce:TELEcom:WTRace:DATA <address>,<worddata>

- 【パラメータ】 <address>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 0~131071 (ステップ 1)
 Boundary = 8bit として計算したときのアドレスです。
 <worddata>=<STRING PROGRAM DATA>
 "00"~"FF"
 Boundary に関係なく、8bit 入力です。
 【機能】 ワードパターンを設定します。(Boundary=8bit 固定)
 【対応画面】 Measure:Word trace 画面の PRGM Data
 【使用例】 アドレス 0 に FF(H)を設定する場合
 > :SOURce:TELEcom:WTRace:DATA 0,"FF"

:SOURce:TELEcom:WTRace:DATA? <address>

- 【パラメータ】 <address>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 :SOURce:TELEcom:WTRace:DATA と同じです。
 【レスポンス】 <worddata>=<STRING RESPONSE DATA>
 :SOURce:TELEcom:WTRace:DATA と同じです。
 【機能】 ワードパターンの設定状態を問い合わせます。
 【対応画面】 Measure:Word trace 画面の PRGM Data
 【使用例】 アドレス 0 から FF(H)を問い合わせる場合
 > :SOURce:TELEcom:WTRace:DATA? 0
 < "FF"

:SOURce:TELEcom:WTRace:MDATa <address1>,<address2>,<worddata>

- 【パラメータ】 <address1>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
0~131071 (ステップ 1)
Boundary = 8bit として計算したときのアドレスです。
<address2>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
0~131071 (ステップ 1)
Boundary = 8bit として計算したときのアドレスです。
<worddata>=<STRING PROGRAM DATA>
"XX0[,XX1]...[,XX131070]" (XX0~XX131070:00~FF)
Boundary に関係なく, 8bit 入力です。
- 【機能】 指定範囲のワードパターンを設定します。(Boundary=8bit 固定)
- 【対応画面】 Measure:Word trace 画面の PRGM Data
- 【制約】 <address1> ≤ <address2> で, かつ <address2> < <Address1>+158 とします。
- 【使用例】 アドレス 0~5 に 001122334455(H)を設定する場合
> :SOURce:TELEcom:WTRace:MDATa 0,5,"00,11,22,33,44,55"

:SOURce:TELEcom:WTRace:MDATa? <address1>,<address2>

- 【パラメータ】 <address1>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
:SOURce:TELEcom:WTRace:MDATa と同じです。
<address2>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
:SOURce:TELEcom:WTRace:MDATa と同じです。
- 【レスポンス】 <worddata>=<STRING RESPONSE DATA>
:SOURce:TELEcom:WTRace:MDATa と同じです。
- 【機能】 指定範囲のワードパターンの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Word trace 画面の PRGM Data
- 【制約】 <address1> ≤ <address2> とします。
- 【使用例】 アドレス 0~5 から 00,11,22,33,44,55(H)を問い合わせる場合
> :SOURce:TELEcom:WTRace:MDATa? 0,5
< "00,11,22,33,44,55"

:SOURce:TELEcom:WTRace:ALL0

- 【パラメータ】 なし。
- 【機能】 全ビット 0 を設定します。
- 【対応画面】 Measure:Word trace 画面の PRGM Data
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:WTRace:ALL0

:SOURce:TELEcom:WTRace:ALL1

- 【パラメータ】 なし。
- 【機能】 全ビット 1 を設定します。
- 【対応画面】 Measure:Word trace 画面の PRGM Data
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:WTRace:ALL1

:SOURce:TELEcom:WTRace:TDAa

- 【パラメータ】 なし。
 【機能】 トレースデータからプログラムデータへのコピーを設定します。
 【対応画面】 Measure:Word trace 画面の PRGM Data:Trace data ->
 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:WTRace:TDAa

:SOURce:TELEcom:WTRace:STARt

- 【パラメータ】 なし。
 【機能】 Word trace 測定のプログラムパターン送出開始を設定します。
 【対応画面】 動作指示ボタン用エリア
 【制約】 プログラムパターン送出中の場合、
 本機能は無視され実行エラーとします。
 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:WTRace:STARt

:SOURce:TELEcom:WTRace:STOP

- 【パラメータ】 なし。
 【機能】 Word trace 測定のプログラムパターン送出停止を設定します。
 【対応画面】 動作指示ボタン用エリア
 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:WTRace:STOP

:SOURce:TELEcom:WTRace:STATe?

- 【パラメータ】 なし。
 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 0 :プログラムパターン送出停止
 1 :プログラムパターン送出中
 【機能】 Word trace 測定のプログラムパターン送出状態を問い合わせます。
 【対応画面】 なし。
 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:WTRace:STATe?
 < 1

:SOURce:TELEcom:CAS:SIGBit <numeric>, <sigbit>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

1~30 (ステップ 1)

<sigbit>=<STRING PROGRAM DATA>

“0000”~“1111”

“00”~“11”

“0”~“1”

【機能】 送出シグナリングビットを設定します。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の CAS:Signaling bit sending

【制約】 CAS/FAS オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。

(実行エラー)

<sigbit>が 4 桁入力待ち時に 1 桁が入力 (“N”) された場合、“***N”とします。

ただし、“***”は前の

設定値とします。

<sigbit>が 1 桁入力待ち時に 4 桁が入力 (“NOPQ”) された場合、“Q”とします。

【使用例】 CH01 に 1111(Bin)を設定する場合

> :SOURce:TELEcom:CAS:SIGBit 1, "1111"

:SOURce:TELEcom:CAS:SIGBit? <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

:SOURce:TELEcom:CAS:SIGBit と同じです。

【レスポンス】 <sigbit>=<STRING RESPONSE DATA>

:SOURce:TELEcom:CAS:SIGBit と同じです。

【機能】 送出シグナリングビットの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の CAS:Signaling bit sending

【制約】 CAS/FAS オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータではなく、

実行エラーが返ります。

本項目が無効の場合、4 桁の値 (“NNNN”) を返します。

【使用例】 CH01 から 1111(Bin)を問い合わせる場合

> :SOURce:TELEcom:CAS:SIGBit? 1

< "1111"

:SOURce:TELEcom:FAS:DLBit <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>

OFF or 0

ON or 1

【機能】 DL ビットの ON/OFF を設定します。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の FAS:Tx sending

【制約】 CAS/FAS オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。

(実行エラー)

【使用例】 > :SOURce:TELEcom:FAS:DLBit 0

:SOURce:TELEcom:FAS:DLBit?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<boolean>=<BOOLEAN RESPONSE DATA>**
 :SOURce:TELEcom:FAS:DLBit と同じです。
- 【機能】 DL ビットの ON/OFF の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の FAS:Tx sending
- 【制約】 CAS/FAS オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータではなく、実行エラーが返ります。
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:FAS:DLBit?
 < 0

:SOURce:TELEcom:FAS:DLBit:PATtern <dlbit>

- 【パラメータ】 **<dlbit>=<STRING PROGRAM DATA>**
 "0000000000000000"~"1111111111111111"
- 【機能】 DL ビットを設定します。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の FAS:Tx sending
- 【制約】 CAS/FAS オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
 (実行エラー)
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:FAS:DLBit:PATtern "1111111101010100"

:SOURce:TELEcom:FAS:DLBit:PATtern?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<dlbit>=<STRING RESPONSE DATA>**
 :SOURce:TELEcom:FAS:DLBit:PATtern と同じです。
- 【機能】 DL ビットの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の FAS:Tx sending
- 【制約】 CAS/FAS オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータではなく、実行エラーが返ります。
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:FAS:DLBit:PATtern?
 < "1111111101010100"

:SOURce:TELEcom:FAS:SMF1:SA4 <sabit>

- 【パラメータ】 **<sabit>=<STRING PROGRAM DATA>**
 "0000"~"1111"
- 【機能】 SSM ビット (SMF1, Sa4) を設定します。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の FAS:Tx sending
- 【制約】 CAS/FAS オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
 (実行エラー)
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:FAS:SMF1:SA4 "0000"

:SOURce:TELEcom:FAS:SMF1:SA4?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <sabit>=<STRING RESPONSE DATA>
:SOURce:TELEcom:FAS:SMF1:SA4 と同じです。
- 【機能】 SSM ビット (SMF1, Sa4) の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の FAS:Tx sending
- 【制約】 CAS/FAS オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータではなく、実行エラーが返ります。
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:FAS:SMF1:SA4?
< "0000"

:SOURce:TELEcom:FAS:SMF1:SA5 <sabit>

- 【パラメータ】 <sabit>=<STRING PROGRAM DATA>
"0000"~"1111"
- 【機能】 SSM ビット (SMF1, Sa5) を設定します。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の FAS:Tx sending
- 【制約】 CAS/FAS オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
(実行エラー)
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:FAS:SMF1:SA5 "0000"

:SOURce:TELEcom:FAS:SMF1:SA5?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <sabit>=<STRING RESPONSE DATA>
:SOURce:TELEcom:FAS:SMF1:SA5 と同じです。
- 【機能】 SSM ビット (SMF1, Sa5) の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の FAS:Tx sending
- 【制約】 CAS/FAS オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータではなく、実行エラーが返ります。
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:FAS:SMF1:SA5?
< "0000"

:SOURce:TELEcom:FAS:SMF1:SA6 <sabit>

- 【パラメータ】 <sabit>=<STRING PROGRAM DATA>
"0000"~"1111"
- 【機能】 SSM ビット (SMF1, Sa6) を設定します。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の FAS:Tx sending
- 【制約】 CAS/FAS オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
(実行エラー)
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:FAS:SMF1:SA6 "0000"

:SOURce:TELEcom:FAS:SMF1:SA6?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<sabit>=<STRING RESPONSE DATA>**
:SOURce:TELEcom:FAS:SMF1:SA6 と同じです。
- 【機能】 SSM ビット (SMF1, Sa6) の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の FAS:Tx sending
- 【制約】 CAS/FAS オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータではなく、実行エラーが返ります。
- 【使用例】 **> :SOURce:TELEcom:FAS:SMF1:SA6?**
< "0000"

:SOURce:TELEcom:FAS:SMF1:SA7 <sabit>

- 【パラメータ】 **<sabit>=<STRING PROGRAM DATA>**
"0000"~"1111"
- 【機能】 SSM ビット (SMF1, Sa7) を設定します。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の FAS:Tx sending
- 【制約】 CAS/FAS オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
(実行エラー)
- 【使用例】 **> :SOURce:TELEcom:FAS:SMF1:SA7 "0000"**

:SOURce:TELEcom:FAS:SMF1:SA7?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<sabit>=<STRING RESPONSE DATA>**
:SOURce:TELEcom:FAS:SMF1:SA7 と同じです。
- 【機能】 SSM ビット (SMF1, Sa7) の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の FAS:Tx sending
- 【制約】 CAS/FAS オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータではなく、実行エラーが返ります。
- 【使用例】 **> :SOURce:TELEcom:FAS:SMF1:SA7?**
< "0000"

:SOURce:TELEcom:FAS:SMF1:SA8 <sabit>

- 【パラメータ】 **<sabit>=<STRING PROGRAM DATA>**
"0000"~"1111"
- 【機能】 SSM ビット (SMF1, Sa8) を設定します。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の FAS:Tx sending
- 【制約】 CAS/FAS オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
(実行エラー)
- 【使用例】 **> :SOURce:TELEcom:FAS:SMF1:SA8 "0000"**

:SOURce:TELEcom:FAS:SMF1:SA8?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <sabit>=<STRING RESPONSE DATA>
:SOURce:TELEcom:FAS:SMF1:SA8 と同じです。
- 【機能】 SSM ビット (SMF1, Sa8) の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の FAS:Tx sending
- 【制約】 CAS/FAS オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータではなく、実行エラーが返ります。
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:FAS:SMF1:SA8?
< "0000"

:SOURce:TELEcom:FAS:SMF2:SA4 <sabit>

- 【パラメータ】 <sabit>=<STRING PROGRAM DATA>
"0000"~"1111"
- 【機能】 SSM ビット (SMF2, Sa4) を設定します。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の FAS:Tx sending
- 【制約】 CAS/FAS オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
(実行エラー)
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:FAS:SMF2:SA4 "0000"

:SOURce:TELEcom:FAS:SMF2:SA4?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <sabit>=<STRING RESPONSE DATA>
:SOURce:TELEcom:FAS:SMF2:SA4 と同じです。
- 【機能】 SSM ビット (SMF2, Sa4) の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の FAS:Tx sending
- 【制約】 CAS/FAS オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータではなく、実行エラーが返ります。
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:FAS:SMF2:SA4?
< "0000"

:SOURce:TELEcom:FAS:SMF2:SA5 <sabit>

- 【パラメータ】 <sabit>=<STRING PROGRAM DATA>
"0000"~"1111"
- 【機能】 SSM ビット (SMF2, Sa5) を設定します。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の FAS:Tx sending
- 【制約】 CAS/FAS オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
(実行エラー)
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:FAS:SMF2:SA5 "0000"

:SOURce:TELEcom:FAS:SMF2:SA5?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <sabit>=<STRING RESPONSE DATA>
 :SOURce:TELEcom:FAS:SMF2:SA5 と同じです。
- 【機能】 SSM ビット (SMF2, Sa5) の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の FAS:Tx sending
- 【制約】 CAS/FAS オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータではなく、実行エラーが返ります。
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:FAS:SMF2:SA5?
 < "0000"

:SOURce:TELEcom:FAS:SMF2:SA6 <sabit>

- 【パラメータ】 <sabit>=<STRING PROGRAM DATA>
 "0000"~"1111"
- 【機能】 SSM ビット (SMF2, Sa6) を設定します。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の FAS:Tx sending
- 【制約】 CAS/FAS オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
 (実行エラー)
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:FAS:SMF2:SA6 "0000"

:SOURce:TELEcom:FAS:SMF2:SA6?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <sabit>=<STRING RESPONSE DATA>
 :SOURce:TELEcom:FAS:SMF2:SA6 と同じです。
- 【機能】 SSM ビット (SMF2, Sa6) の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の FAS:Tx sending
- 【制約】 CAS/FAS オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータではなく、実行エラーが返ります。
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:FAS:SMF2:SA6?
 < "0000"

:SOURce:TELEcom:FAS:SMF2:SA7 <sabit>

- 【パラメータ】 <sabit>=<STRING PROGRAM DATA>
 "0000"~"1111"
- 【機能】 SSM ビット (SMF2, Sa7) を設定します。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の FAS:Tx sending
- 【制約】 CAS/FAS オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
 (実行エラー)
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:FAS:SMF2:SA7 "0000"

:SOURce:TELEcom:FAS:SMF2:SA7?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<sabit>=<STRING RESPONSE DATA>**
 :SOURce:TELEcom:FAS:SMF2:SA7 と同じです。
- 【機能】 SSM ビット (SMF2, Sa7) の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の FAS:Tx sending
- 【制約】 CAS/FAS オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータではなく、実行エラーが返ります。
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:FAS:SMF2:SA7?
 < "0000"

:SOURce:TELEcom:FAS:SMF2:SA8 <sabit>

- 【パラメータ】 **<sabit>=<STRING PROGRAM DATA>**
 "0000"~"1111"
- 【機能】 SSM ビット (SMF2, Sa8) を設定します。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の FAS:Tx sending
- 【制約】 CAS/FAS オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
 (実行エラー)
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:FAS:SMF2:SA8 "0000"

:SOURce:TELEcom:FAS:SMF2:SA8?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<sabit>=<STRING RESPONSE DATA>**
 :SOURce:TELEcom:FAS:SMF2:SA8 と同じです。
- 【機能】 SSM ビット (SMF2, Sa8) の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の FAS:Tx sending
- 【制約】 CAS/FAS オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータではなく、実行エラーが返ります。
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:FAS:SMF2:SA8?
 < "0000"

:SOURce:TELEcom:FAS:SABit <sabit>

- 【パラメータ】 **<sabit>=<STRING PROGRAM DATA>**
 "00000"~"11111"
- 【機能】 Sa ビットを設定します。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の FAS:Tx sending
- 【制約】 CAS/FAS オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
 (実行エラー)
- 【使用例】 > :SOURce:TELEcom:FAS:SABit "00000"

:SOURce:TELecom:FAS:SABit?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <sabit>=<STRING RESPONSE DATA>
:SOURce:TELecom:FAS:SABit と同じです。

【機能】 Sa ビットの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の FAS:Tx sending

【制約】 CAS/FAS オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータではなく、実行エラーが返ります。

【使用例】 > :SOURce:TELecom:FAS:SABit?
< "00000"

6.4 SENSE サブシステム

:SENSe:MTYPE <mtype>

【パラメータ】 <mtype>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

EALarm	:Error/Alarm
FRELay	:Frame relay
DELaY	:Delay
FREQuency	:Frequency
DLEVel	:Digital level
WTRace	:Word trace

【機能】 測定モードを設定します。

【対応画面】 Measure 画面切り替えウインドウ

【使用例】 > :SENSe:MTYPE EALarm

:SENSe:MTYPE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <mtype>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SENSe:MTYPE と同じです。

【機能】 測定モードの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure 画面切り替えウインドウ

【使用例】 > :SENSe:MTYPE?

< EAL

:SENSe:TELEcom:INTerface <interface>**【パラメータ】** <interface>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

V24 :V.24/V.28(RS-232C)
 V35 :V.35
 V36 :V.36
 RS449 :RS-449
 X20 :X.20(RS-423)
 X21 :X.21(RS-422)
 TCMos :TTL/CMOS
 K64 :G.703 64k
 K192 :I.430/I.430-a 192k
 M1_5 :G.704/I.431 1.544M
 M2 :G.704/I.431 2.048M
 CMIM2 :2M CMI
 M6 :G.704 6.312M
 SAME :Same
 SLOop :Self loop

【機能】 受信インタフェース種別を設定します。**【対応画面】** Interface:Interface 画面の Rx:Interface**【制約】** 使用するインタフェースユニットにより、使用できないパラメータがあります。

MU643000A :全パラメータ使用可
 MU643000B/K :M2 使用不可
 MU643000C :M1_5,CMIM2,M6 使用不可

【使用例】 > :SENSe:TELEcom:INTerface V24**:SENSe:TELEcom:INTerface?****【パラメータ】** なし。**【レスポンス】** <interface>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SENSe:TELEcom:INTerface と同じです。

【機能】 受信インタフェース種別の設定状態を問い合わせます。**【対応画面】** Interface:Interface 画面の Rx:Interface**【使用例】** > :SENSe:TELEcom:INTerface?

< V24

:SENSe:TELecom:TIMing <timing>

【パラメータ】 <timing>=<STRING PROGRAM DATA>

"ASYNc" :Async
 "ST" :ST
 "S" :S
 "S:INV" :S(INV)
 "RT" :RT
 "RT:INV" :RT(INV)

【機能】 同期/非同期モードやタイミングクロックを設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Timing

【使用例】 > :SENSe:TELecom:TIMing "ASYNc"

:SENSe:TELecom:TIMing?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <timing>=<STRING RESPONSE DATA>

:SENSe:TELecom:TIMing と同じです。

【機能】 同期/非同期モードやタイミングクロックの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Timing

【使用例】 > :SENSe:TELecom:TIMing?

< "ASYN"

:SENSe:TELecom:SSBit <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>

OFF or 0 :Off
 ON or 1 :On

【機能】 スタート/ストップビット検出を設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Start/Stop bit

【使用例】 > :SENSe:TELecom:SSBit 0

:SENSe:TELecom:SSBit?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:SENSe:TELecom:SSBit と同じです。

【機能】 スタート/ストップビット検出の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Start/Stop bit

【使用例】 > :SENSe:TELecom:SSBit?

< 0

:SENSe:TELeCom:BRATe <brate>

【パラメータ】 <brate>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

50	:50 bit/s	3600	:3600 bit/s
75	:75 bit/s	4800	:4800 bit/s
100	:100 bit/s	7200	:7200 bit/s
110	:110 bit/s	8000	:8000 bit/s
150	:150 bit/s	9600	:9600 bit/s
200	:200 bit/s	12000	:12000 bit/s
255	:255 bit/s	12800	:12800 bit/s
300	:300 bit/s	14400	:14400 bit/s
400	:400 bit/s	16000	:16000 bit/s
500	:500 bit/s	16800	:16800 bit/s
510	:510 bit/s	19200	:19200 bit/s
600	:600 bit/s	28800	:28800 bit/s
770	:770 bit/s	32000	:32000 bit/s
800	:800 bit/s	38400	:38400 bit/s
1000	:1000 bit/s	46000	:46000 bit/s
1200	:1200 bit/s	48000	:48000 bit/s
1600	:1600 bit/s	50000	:50000 bit/s
1800	:1800 bit/s	56000	:56000 bit/s
2000	:2000 bit/s	56600	:56600 bit/s
2400	:2400 bit/s	64000	:64000 bit/s
2560	:2560 bit/s	72000	:72000 bit/s
3000	:3000 bit/s	76800	:76800 bit/s
3200	:3200 bit/s	115200	:115200 bit/s

【機能】 内部クロック周波数を設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Bit rate

【制約】 <brate>が有効な設定値以外のときは、その値以下の最も近い有効な設定値とします。ただし、その値以下の最も近い有効な設定値が存在しないときには、その値以上の最も近い有効な設定値とします。

【使用例】 > :SENSe:TELeCom:BRATe 50

:SENSe:TELeCom:BRATe?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <brate>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:SENSe:TELeCom:BRATe と同じです。

【機能】 内部クロック周波数の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Bit rate

【使用例】 > :SENSe:TELeCom:BRATe?

< 50

:SENSe:TELeom:DLENgth <dlength>

【パラメータ】 <dlength>=<STRING PROGRAM DATA>

"BIT5" :5bit

"BIT6" :6bit

"BIT7" :7bit

"BIT8" :8bit

【機能】 データ長を設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Data length

【使用例】 > :SENSe:TELeom:DLENgth "BIT5"

:SENSe:TELeom:DLENgth?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <dlength>=<STRING RESPONSE DATA>

:SENSe:TELeom:DLENgth と同じです。

【機能】 データ長の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Data length

【使用例】 > :SENSe:TELeom:DLENgth?
< "BIT5"

:SENSe:TELeom:PARity <parity>

【パラメータ】 <parity>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

NONE :None

ODD :Odd

EVEN :Even

【機能】 パリティを設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Parity

【使用例】 > :SENSe:TELeom:PARity NONE

:SENSe:TELeom:PARity?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <parity>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SENSe:TELeom:PARity と同じです。

【機能】 パリティの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Parity

【使用例】 > :SENSe:TELeom:PARity?
< NONE

:SENSe:TELEcom:BSYNc <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>

OFF or 0 :Off

ON or 1 :On

【機能】 B 線を使ったバイト同期を設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Byte sync

【使用例】 > :SENSe:TELEcom:BSYNc 0

:SENSe:TELEcom:BSYNc?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:SENSe:TELEcom:BSYNc と同じです。

【機能】 B 線を使ったバイト同期の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Byte sync

【使用例】 > :SENSe:TELEcom:BSYNc?

< 0

:SENSe:TELEcom:CODE <code>

【パラメータ】 <code>=<STRING PROGRAM DATA>

"AMI" :AMI

"B8ZS" :B8ZS

"HDB3" :HDB3

【機能】 伝送符号を設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Code

【制約】 使用するインタフェースユニットにより、使用できないパラメータがあります。

MU643000A : 全パラメータ使用可

MU643000B/K : "HDB3"使用不可

MU643000C : "B8ZS"使用不可

【使用例】 > :SENSe:TELEcom:CODE "AMI"

:SENSe:TELEcom:CODE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <code>=<STRING RESPONSE DATA>

:SENSe:TELEcom:CODE と同じです。

【機能】 伝送符号の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Code

【使用例】 > :SENSe:TELEcom:CODE?

< "AMI"

:SENSe:TELeCom:FRAMe <frame>

【パラメータ】 <frame>=<STRING PROGRAM DATA>

```
"MFP24:G704" :24MFP(G.704)
"MFP24:NTT" :24MFP(NTT)
"MFP16:B30+D":16MFP(30B+D)
"MFP16:B31" :16MFP(31B)
"MFP12:G704" :12MFP(G.704)
"MFP2:B30+D" :2MFP(30B+D)
"MFP2:B31" :2MFP(31B)
"PBX" :PBX
"CRV" :CRV
"MFP4:G704" :4MFP(G.704)
"UNFRame" :Unframe
"ST12:G704" :12ST(G.704)
"ST24:G704" :24ST(G.704)
"ST24:NTT" :24ST(NTT)
"ST" :ST
"ST4:G704" :4ST(G.704)
```

【機能】 フレームフォーマットを設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Frame

【制約】 使用するインタフェースユニットにより、使用できないパラメータがあります。

```
MU643000A : "ST12:G704","ST24:G704","ST24:NTT","ST4:G704"
              使用不可
MU643000B : "MFP16:B30+D","MFP16:B31","MFP2:B30+D",
              "MFP2:B31","ST12:G704","ST24:G704","ST24:NTT",
              "ST4:G704"使用不可
MU643000C : "MFP24:G704","MFP12:G704","MFP24:NTT",
              "PBX","CRV","ST","MFP4:G704","ST12:G704",
              "ST24:G704","ST24:NTT","ST4:G704"使用不可
MU643000K : "MFP16:B30+D","MFP16:B31","MFP2:B30+D",
              "MFP2:B31"使用不可
```

【使用例】 > :SENSe:TELeCom:FRAMe "MFP24:G704"

:SENSe:TELeCom:FRAMe?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <frame>=<STRING RESPONSE DATA>

:SENSe:TELeCom:FRAMe と同じです。

【機能】 フレームフォーマットの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Frame

【使用例】 > :SENSe:TELeCom:FRAMe?

< "MFP24:G704"

:SENSe:TELecom:SKB8 <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>

OFF or 0 :Off

ON or 1 :On

【機能】 Ext(64k+8k)の入力信号を使用したバイト同期を設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:8k byte sync

【使用例】 > :SENSe:TELecom:SKB8 0

:SENSe:TELecom:SKB8?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:SENSe:TELecom:SKB8 と同じです。

【機能】 Ext(64k+8k)の入力信号を使用したバイト同期の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:8k byte sync

【使用例】 > :SENSe:TELecom:SKB8?

< 0

:SENSe:TELecom:TSLot[:TYPE] <tslot>

【パラメータ】 <tslot>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

TSN :TSn

H0 :H0

H11 :H11

H12 :H12

ANY :Any

DLBit :DL bit

DCH :Dch

SABit :Sa bit

SPBit :SP bit

HGN :HGn

ALLHg :All HG

【機能】 測定用タイムスロットを設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Time slot

【制約】 使用するインタフェースユニットにより、使用できないパラメータがあります。

MU643000A : 全パラメータ使用可

MU643000B/K : H12,SABit 使用不可

MU643000C : DLBit,SPBit,HGN,ALLHg 使用不可

【使用例】 > :SENSe:TELecom:TSLot TSN

:SENSe:TELecom:TSLot[:TYPE]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <tslot>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SENSe:TELecom:TSLot[:TYPE]と同じです。

【機能】 測定用タイムスロットの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Time slot

【使用例】 > :SENSe:TELecom:TSLot?

< TSN

:SENSe:TELEcom:TSLot:TSN <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 1～98（ステップ1）：MU643000A
 1～98（ステップ1）：MU643000B/K
 1～31（ステップ1）：MU643000C
- 【機能】 測定用タイムスロットを設定します。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Time slot
- 【制約】 使用しているインタフェースにより，設定できる値が変わります。
- 【使用例】 > :SENSe:TELEcom:TSLot 1

:SENSe:TELEcom:TSLot:TSN?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 :SENSe:TELEcom:TSLot[:TYPE]と同じです。
- 【機能】 測定用タイムスロットの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Time slot
- 【使用例】 > :SENSe:TELEcom:TSLot?
 < 1

:SENSe:TELEcom:TSLot:HGN <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 1～16（ステップ1）
- 【機能】 測定用タイムスロットを設定します。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Time slot
- 【制約】 使用するインタフェースユニットにより，コマンドが使用できなくなります。
 MU643000A : 使用可
 MU643000B/K : 使用可
 MU643000C : 使用不可
- 【使用例】 > :SENSe:TELEcom:TSLot:HGN 1

:SENSe:TELEcom:TSLot:HGN?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 :SENSe:TELEcom:TSLot:HGN と同じです。
- 【機能】 測定用タイムスロットの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Time slot
- 【使用例】 > :SENSe:TELEcom:TSLot:HGN?
 < 1

:SENSe:TELEcom:TSLot:DCHannel <dchannel>

【パラメータ】 <dchannel>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

B1 :B1

B2 :B2

B12 :B1+B2

D :D

【機能】 I.430/I.430-a 192k 測定用チャネルを設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Data channel

【使用例】 > :SENSe:TELEcom:TSLot:DCHannel B1

:SENSe:TELEcom:TSLot:DCHannel?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <dchannel>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SENSe:TELEcom:TSLot:DCHannel と同じです。

【機能】 I.430/I.430-a 192k 測定用チャネルの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Data channel

【使用例】 > :SENSe:TELEcom:TSLot:DCHannel?

< B1

:SENSe:TELEcom:CHANnel <channel>

【パラメータ】 <channel>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

SBIT :ST bit

CH1 :CH1

CH2 :CH2

CH3 :CH3

CH4 :CH4

CH5 :CH5

CH6 :CH6

ALLCh :All CH

INFO :Info

【機能】 測定用チャネルを設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Channel

【制約】 使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。

MU643000A : 使用可

MU643000B/K : 使用可

MU643000C : 使用不可

【使用例】 > :SENSe:TELEcom:CHANnel SBIT

:SENSe:TELEcom:CHANnel?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <channel>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
:SENSe:TELEcom:CHANnel と同じです。
- 【機能】 測定用チャンネルの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Channel
- 【制約】 :SOURce:TELEcom:CHANnel と同じです。
使用不可によるコマンドの実行後は、レスポンスは送出されないで、実行エラーとなります。
- 【使用例】 > :SENSe:TELEcom:CHANnel?
< SBIT

:SENSe:TELEcom:TSLot:DBRate <dbrate>

- 【パラメータ】 <dbrate>=<STRING PROGRAM DATA>
- | | |
|--------------|--------------|
| "K64" | :64k×n |
| "K56_17" | :56k(1-7)×n |
| "K56_28" | :56k(2-8)×n |
| "K32" | :32kbit/s |
| "K16" | :16kbit/s |
| "K8" | :8kbit/s |
| "K48" | :48kbit/s |
| "K9_6" | :9.6kbit/s |
| "K4_8" | :4.8kbit/s |
| "K2_4" | :2.4kbit/s |
| "K0_6" | :600bit/s |
| "DSIGnaling" | :Signaling |
| "M1_544" | :1.544Mbit/s |
| "X50:ANY" | :X.50 Any |
- 【機能】 測定用データビットレートを設定します。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Data bit rate
- 【制約】 使用するインタフェースユニットによって、使用できないパラメータがあります。
MU643000A : 全パラメータ使用可
MU643000B/K : "M1_544"使用不可
MU643000C : 全パラメータ使用可
- 【使用例】 > :SENSe:TELEcom:TSLot:DBRate "K64"

:SENSe:TELEcom:TSLot:DBRate?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <dbrate>=<STRING RESPONSE DATA>
:SENSe:TELEcom:TSLot:DBRate と同じです。
- 【機能】 測定用データビットレートの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Data bit rate
- 【使用例】 > :SENSe:TELEcom:TSLot:DBRate?
< "K64"

:SENSe:TELEcom:TSLot:DBRN <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

1~98 (ステップ 1) : MU643000A

1~98 (ステップ 1) : MU643000B/K

1~31 (ステップ 1) : MU643000C

【機能】 測定用データビットレートを設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Data bit rate

【制約】 使用するインタフェースユニットにより、設定できる値が変わります。

【使用例】 > :SENSe:TELEcom:TSLot:DBRN 1

:SENSe:TELEcom:TSLot:DBRN?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:SENSe:TELEcom:TSLot:DBRate と同じです。

【機能】 測定用データビットレートの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Data bit rate

【使用例】 > :SENSe:TELEcom:TSLot:DBRN?

< 1

:SENSe:TELEcom:TSLot:HCHannel0 <hchannel0>

【パラメータ】 <hchannel0>=<STRING PROGRAM DATA>

"010203040506" :01-02-03-04-05-06

"070809101112" :07-08-09-10-11-12

"131415161718" :13-14-15-16-17-18

"192021222324" :19-20-21-22-23-24

"010203171819" :01-02-03 17-18-19

"040506202122" :04-05-06 20-21-22

"070809232425" :07-08-09 23-24-25

"101112262728" :10-11-12 26-27-28

"131415293031" :13-14-15 29-30-31

"010711172327" :01-07-11 17-23-27

"030915192531" :03-09-15 19-25-31

"040812202428" :04-08-12 20-24-28

"051013212629" :05-10-13 21-26-29

"020614182230" :02-06-14 18-22-30

MU643000A,
MU643000B
使用時に使用可

MU643000A,
MU643000C
使用時に使用可

【機能】 H0 チャンネルを設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:H0 Channel

【制約】 使用しているインタフェースユニットにより、使用できないパラメータがあります。

【使用例】 > :SENSe:TELEcom:TSLot:HCHannel0 "010203040506"

:SENSe:TELEcom:TSLot:HCHannel0?

- 【パラメータ】 なし。
【レスポンス】 <hchannel0>=<STRING RESPONSE DATA>
 :SENSe:TELEcom:TSLot:HCHannel0 と同じです。
【機能】 H0 チャネルの設定状態を問い合わせます。
【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:H0 Channel
【使用例】 > :SENSe:TELEcom:TSLot:HCHannel0?
 < "010203040506"

:SENSe:TELEcom:TSLot:TSASsign <numeric1>[,<numeric2>]...[,<numericN>]

- 【パラメータ】 <numeric1~N>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 1~98 (ステップ 1) : MU643000A
 1~98 (ステップ 1) : MU643000B/K
 1~31 (ステップ 1) : MU643000C
【機能】 分配配置スロットを設定します。
【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Time slot assign
【制約】 使用するインタフェースユニットにより、設定できるパラメータ数が変わります。
【使用例】 > :SENSe:TELEcom:TSLot:TSASsign 1,2,3,4

:SENSe:TELEcom:TSLot:TSASsign?

- 【パラメータ】 なし。
【レスポンス】 <numeric1~98>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 :SENSe:TELEcom:TSLot:TSASsign と同じです。
【機能】 分配配置スロットの設定状態を問い合わせます。
【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Time slot assign
【使用例】 > :SENSe:TELEcom:TSLot:TSASsign?
 < 1,2,3,4

:SENSe:TELEcom:TSLot:ATSassign

- 【パラメータ】 なし。
【機能】 分配配置スロットの全選択を設定します。
【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Time slot assign
【使用例】 > :SENSe:TELEcom:TSLot:ATSassign

:SENSe:TELEcom:TSLot:CTSassign

- 【パラメータ】 なし。
【機能】 分配配置スロットの全選択解除を設定します。
【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Time slot assign
【使用例】 > :SENSe:TELEcom:TSLot:CTSassign

:SENSe:TELEcom:DFRame[:TYPE] <dframe>

- 【パラメータ】 <dframe>=<STRING PROGRAM DATA>
 "X50:MFP20" :X.50-20MFP
 "X50:MFP80" :X.50-80MFP
 "UNIVersal" :Universal
- 【機能】 データフレームを設定します。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Data frame
- 【使用例】 > :SENSe:TELEcom:DFRame "X50:MFP20"

:SENSe:TELEcom:DFRame[:TYPE]?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <dframe>=<STRING RESPONSE DATA>
 :SENSe:TELEcom:DFRame[:TYPE]と同じです。
- 【機能】 データフレームの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Data frame
- 【使用例】 > :SENSe:TELEcom:DFRame?
 < "X50:MFP20"

:SENSe:TELEcom:DFRame:XChannel50 <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 1~80 (ステップ 1)
- 【機能】 X.50 フレーム測定用データチャネルを設定します。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:X.50 Data channel
- 【制約】 使用しているインタフェースユニットにより、設定できる値が変わります。
- 【使用例】 > :SENSe:TELEcom:DFRame:XChannel50 1

:SENSe:TELEcom:DFRame:XChannel50?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 :SENSe:TELEcom:DFRame:XChannel50と同じです。
- 【機能】 X.50 フレーム測定用データチャネルの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:X.50 Data channel
- 【使用例】 > :SENSe:TELEcom:DFRame:XChannel50?
 < 1

:SENSe:TELEcom:DFRame:XASSign50 <numeric1>[,<numeric2>]...[,<numeric80>]

- 【パラメータ】 <numeric1~80>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 1~80 (ステップ 1)
- 【機能】 X.50 分散配置チャネルを設定します。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:X.50 Assign
- 【制約】 使用しているインタフェースユニットにより、設定できるパラメータ数が変わります。
- 【使用例】 > :SENSe:TELEcom:DFRame:XASSign50 1,2,3,4

:SENSe:TELEcom:DFRame:XASSign50?

- 【パラメータ】 なし。
 【レスポンス】 <numeric1~N>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 :SENSe:TELEcom:DFRame:XASSign50 と同じです。
 【機能】 X.50 分散配置チャネルの設定状態を問い合わせます。
 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:X.50 Assign
 【使用例】 > :SENSe:TELEcom:DFRame:XASSign50?
 < 1,2,3,4

:SENSe:TELEcom:DFRame:AXASSign50

- 【パラメータ】 なし。
 【機能】 X.50 分散配置チャネルの全選択を設定します。
 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:X.50 Assign
 【使用例】 > :SENSe:TELEcom:DFRame:AXASSign50

:SENSe:TELEcom:DFRame:CXASSign50

- 【パラメータ】 なし。
 【機能】 X.50 分散配置チャネルの全選択解除を設定します。
 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:X.50 Assign
 【使用例】 > :SENSe:TELEcom:DFRame:CXASSign50

:SENSe:TELEcom:DEMux <boolean>

- 【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
 OFF or 0 :Off
 ON or 1 :On
 【機能】 DEMUX 機能の On/Off を設定します。
 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:DEMux
 【使用例】 > :SENSe:TELEcom:DEMux 0

:SENSe:TELEcom:DEMux?

- 【パラメータ】 なし。
 【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 :SENSe:TELEcom:DEMux と同じです。
 【機能】 DEMUX 機能の On/Off の設定状態を問い合わせます。
 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:DEMux
 【使用例】 > :SENSe:TELEcom:DEMux?
 < 0

:SENSe:TELecom:BASSign <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 1～8 (ステップ 1)
- 【機能】 測定用データチャネルを設定します。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Bit assign
- 【使用例】 > :SENSe:TELecom:BASSign 1

:SENSe:TELecom:BASSign?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 :SENSe:TELecom:BASSign と同じです。
- 【機能】 測定用データチャネルの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Bit assign
- 【使用例】 > :SENSe:TELecom:BASSign?
 < 1

:SENSe:TELecom:BIT1 <bit>

- 【パラメータ】 <bit>=<STRING PROGRAM DATA>
 "0" :0
 "1" :1
 "01" :0/1(Alt)
- 【機能】 タイムスロットビット 1 を設定します。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:1st bit
- 【使用例】 > :SENSe:TELecom:BIT1 "0"

:SENSe:TELecom:BIT1?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <bit>=<STRING RESPONSE DATA>
 :SENSe:TELecom:BIT1 と同じです。
- 【機能】 タイムスロットビット 1 の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:1st bit
- 【使用例】 > :SENSe:TELecom:BIT1?
 < "0"

:SENSe:TELeCom:BIT8 <bit>

- 【パラメータ】 <bit>=<STRING PROGRAM DATA>
 "0" :0
 "1" :1
 "01" :0/1(Alt)
 【機能】 タイムスロットビット 8 を設定します。
 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:8th bit
 【使用例】 > :SENSe:TELeCom:BIT8 "0"

:SENSe:TELeCom:BIT8?

- 【パラメータ】 なし。
 【レスポンス】 <bit>=<STRING RESPONSE DATA>
 :SENSe:TELeCom:BIT8 と同じです。
 【機能】 タイムスロットビット 8 の設定状態を問い合わせます。
 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:8th bit
 【使用例】 > :SENSe:TELeCom:BIT8?
 < "0"

:SENSe:TELeCom:BSTeal <boolean>

- 【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
 OFF or 0 :Off
 ON or 1 :On
 【機能】 シグナリングビットを設定します。
 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Bit steal
 【制約】 使用するインタフェースユニットにより、コマンドが使用できなくなります。
 MU643000A :使用可
 MU643000B/K :使用可
 MU643000C :使用不可（実行エラー）
 【使用例】 > :SENSe:TELeCom:BSTeal 0

:SENSe:TELeCom:BSTeal?

- 【パラメータ】 なし。
 【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 :SENSe:TELeCom:BSTeal と同じです。
 【機能】 シグナリングビットの設定状態を問い合わせます。
 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Bit steal
 【制約】 :SENSe:TELeCom:BSTeal と同じです。
 使用不可によるコマンドの実行後は、レスポンスは送出されず、実行エラーとなります。
 【使用例】 > :SENSe:TELeCom:BSTeal?
 < 0

:SENSe:TELEcom:VCHannel1 <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>

OFF or 0 :Off

ON or 1 :On

【機能】 音声用チャネル使用有無を設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Voice channel

【使用例】 > :SENSe:TELEcom:VCHannel1 1

:SENSe:TELEcom:VCHannel1?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:SENSe:TELEcom:VCHannel1 と同じです。

【機能】 音声用チャネル使用有無の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Voice channel

【使用例】 > :SENSe:TELEcom:VCHannel1?

< 1

:SENSe:TELEcom:TSN <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

1~98 (ステップ 1) : MU643000A

1~98 (ステップ 1) : MU643000B/K

1~31 (ステップ 1) : MU643000C

【機能】 音声用チャネルを設定します。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:TSn

【制約】 使用しているインタフェースユニットにより、設定できる値が変わります。

【使用例】 > :SENSe:TELEcom:VCHannel 1

:SENSe:TELEcom:TSN?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:SENSe:TELEcom:TSN と同じです。

【機能】 音声用チャネルの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:TSn

【使用例】 > :SENSe:TELEcom:TSN?

< 1

:SENSe:TELEcom:VCHannel2 <vchannel2>

【パラメータ】 <vchannel2>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
 B1 :B1
 B2 :B2
 NONE :None
 【機能】 I.430/I.430-a 192k 音声用チャネルを設定します。
 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Voice channel
 【使用例】 > :SENSe:TELEcom:VCHannel2 B1

:SENSe:TELEcom:VCHannel2?

【パラメータ】 なし。
 【レスポンス】 <vchannel2>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
 :SENSe:TELEcom:VCHannel2 と同じです。
 【機能】 I.430/I.430-a 192k 音声用チャネルの設定状態を問い合わせます。
 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Voice channel
 【使用例】 > :SENSe:TELEcom:VCHannel2?
 < B1

:SENSe:TELEcom:ILEVel <ilevel>

【パラメータ】 <ilevel>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
 MAIN :Main
 MONitor :Monitor
 BRIDge :Bridge
 【機能】 入力レベルを設定します。
 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Input level
 【使用例】 > :SENSe:TELEcom:ILEVel MAIN

:SENSe:TELEcom:ILEVel?

【パラメータ】 なし。
 【レスポンス】 <ilevel>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
 :SENSe:TELEcom:ILEVel と同じです。
 【機能】 入力レベルの設定状態を問い合わせます。
 【対応画面】 Interface:Interface 画面の Rx:Input level
 【使用例】 > :SENSe:TELEcom:ILEVel?
 < MAIN

:SENSe:MEASure:RESet

【パラメータ】 なし。
 【機能】 信号線/アラームモニタのヒストリリセットを設定します。
 【対応画面】 信号線/アラームモニタ表示エリア
 【使用例】 > :SENSe:MEASure:RESet

:SENSe:MEASure:STIme?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <year>,<month>,<day>,<hour>,<minute>,<second>=

<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1997~2096 (ステップ 1) :<year>

1~12 (ステップ 1) :<month>

1~31 (ステップ 1) :<day>

0~23 (ステップ 1) :<hour>

0~59 (ステップ 1) :<minute>

0~59 (ステップ 1) :<second>

【機能】 測定開始時間を問い合わせます。

【対応画面】 なし。

【制約】 測定が開始されていない場合は、9999,99,99,99,99,99 がレスポンスとなります。

【使用例】 測定開始時間が 1999 年 9 月 23 日 8 時 49 分 11 秒の場合

> :SENSe:MEASure:STIme?

< 1999,9,23,8,49,11

:SENSe:MEASure:ELAPsed?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <day>,<hour>,<minute>,<second>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

0~99 (ステップ 1) :<day>

0~23 (ステップ 1) :<hour>

0~59 (ステップ 1) :<minute>

0~59 (ステップ 1) :<second>

【機能】 測定経過時間を問い合わせます。

【対応画面】 なし。

【制約】 測定が開始されていない場合は、99,99,99,99 がレスポンスとなります。

【使用例】 測定経過時間が 23 日 8 時 49 分 11 秒間の場合

> :SENSe:MEASure:ELAPsed?

< 23,8,49,11

:SENSe:MEASure:FRESet

【パラメータ】 なし。

【機能】 FECN アラーム表示のリセットを設定します。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面および Measure:Frame relay 画面の FECN Reset

【使用例】 > :SENSe:MEASure:FRESet

:SENSe:MEASure:BRESet

【パラメータ】 なし。

【機能】 BECN アラーム表示のリセットを設定します。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面および Measure:Frame relay 画面の BECN Reset

【使用例】 > :SENSe:MEASure:BRESet

:SENSe:MEASure:EALarm:STARt

- 【パラメータ】 なし。
【機能】 Error/Alarm の測定開始を設定します。
【対応画面】 動作指示ボタン用エリア
【制約】 測定中の場合、本機能は無視され実行エラーとします。
【使用例】 > :SENSe:MEASure:EALarm:STARt

:SENSe:MEASure:EALarm:STOP

- 【パラメータ】 なし。
【機能】 Error/Alarm の測定停止を設定します。
【対応画面】 動作指示ボタン用エリア
【使用例】 > :SENSe:MEASure:EALarm:STOP

:SENSe:MEASure:EALarm:STATe?

- 【パラメータ】 なし。
【レスポンス】 <state>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
 STOP :PSL 同期確立待ちおよびプログラムスタート待ち以外の
 測定終了または未測定
 PRGWait :プログラムスタート待ち
 PSLWait :PSL 同期確立待ち
 STARt :測定中
【機能】 Error/Alarm の測定状態を問い合わせます。
【対応画面】 なし。
【使用例】 > :SENSe:MEASure:EALarm:STATe?
 < STOP

:SENSe:MEASure:EALarm:TPATtern <tpattern>

【パラメータ】 <tpattern>=<STRING PROGRAM DATA>

"PRBS6"	:PRBS6
"PRBS7"	:PRBS7
"PRBS9"	:PRBS9
"PRBS11"	:PRBS11
"PRBS15"	:PRBS15
"PRBS19"	:PRBS19
"PRBS20"	:PRBS20
"RPRBS20"	:RPRBS20
"PRBS23"	:PRBS23
"QRSS"	:QRSS
"WORD8"	:Word8
"1_1"	:1:1
"ALL1"	:All-1
"ALL0"	:All-0
"CHARacter"	:Character

【機能】 測定パターンを設定します。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:Test pattern

【使用例】 > :SENSe:MEASure:EALarm:TPATtern "PRBS6"

:SENSe:MEASure:EALarm:TPATtern?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <tpattern>=<STRING RESPONSE DATA>

:SENSe:MEASure:EALarm:TPATtern と同じです。

【機能】 測定パターンの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:Test pattern

【使用例】 > :SENSe:MEASure:EALarm:TPATtern?

< "PRBS6"

:SENSe:MEASure:EALarm:WORD8 <word8>

【パラメータ】 <word8>=<STRING PROGRAM DATA>

"00000000"~"11111111"

"0000000"~"1111111"

"000000"~"111111"

"00000"~"11111"

【機能】 測定パターンを設定します。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:Test pattern

【制約】 <word8>が 8 桁入力待ち時に 4 桁が入力("NOPQ")された場合, "****NOPQ"とします。ただし, "****"は前の設定値とします。
<word8>が 4 桁入力待ち時に 8 桁が入力("NOPQRSTU")された場合, "RSTU"とします。

【使用例】 > :SENSe:MEASure:EALarm:WORD8 "00000000"

:SENSe:MEASure:EALarm:WORD8?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <word8>=<STRING RESPONSE DATA>
:SENSe:MEASure:EALarm:WORD8 と同じです。
- 【機能】 測定パターンの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:Test pattern
- 【使用例】 > :SENSe:MEASure:EALarm:WORD8?
< "00000000"

:SENSe:MEASure:EALarm:PINVert <boolean>

- 【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
OFF or 0 :Off
ON or 1 :On
- 【機能】 PRBS パターンのビット反転を設定します。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:PRBS Invert
- 【使用例】 > :SENSe:MEASure:EALarm:PINVert 0

:SENSe:MEASure:EALarm:PINVert?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
:SENSe:MEASure:EALarm:PINVert と同じです。
- 【機能】 PRBS パターンのビット反転の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:PRBS Invert
- 【使用例】 > :SENSe:MEASure:EALarm:PINVert?
< 0

:SENSe:MEASure:EALarm:PTHReshold <pthreshold>

- 【パラメータ】 <pthreshold>=<STRING PROGRAM DATA>
- | | | | |
|-----------------|----------------|-----------------|----------------|
| "AUTO" | :Auto | "1_0E03:1_0E04" | :1.0E03/1.0E04 |
| "10:100" | :10/100 | "2_0E03:1_0E04" | :2.0E03/1.0E04 |
| "20:100" | :20/100 | "2_5E03:1_0E04" | :2.5E03/1.0E04 |
| "25:100" | :25/100 | "1_0E04:3_0E04" | :1.0E04/3.0E04 |
| "100:300" | :100/300 | "1_0E04:1_0E05" | :1.0E04/1.0E05 |
| "100:1_0E03" | :100/1.0E03 | "2_0E04:1_0E05" | :2.0E04/1.0E05 |
| "200:1_0E03" | :200/1.0E03 | "2_5E04:1_0E05" | :2.5E04/1.0E05 |
| "250:1_0E03" | :250/1.0E03 | "1_0E05:3_0E05" | :1.0E05/3.0E05 |
| "1_0E03:3_0E03" | :1.0E03/3.0E03 | | |
- 【機能】 パターン同期外れの検出スレシヨルド値を設定します。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:PSL Threshold
- 【使用例】 > :SENSe:MEASure:EALarm:PTHReshold "AUTO"

:SENSe:MEASure:EALarm:PTHReshold?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <pthreshold>=<STRING RESPONSE DATA>
 :SENSe:MEASure:EALarm:PTHReshold と同じです。
- 【機能】 パターン同期外れの検出スレシヨルド値の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:PSL Threshold
- 【使用例】 > :SENSe:MEASure:EALarm:PTHReshold?
 < "AUTO"

:SENSe:MEASure:EALarm:EDETECT <edetect>

- 【パラメータ】 <edetect>=<STRING PROGRAM DATA>
- | | |
|-------------|-------------|
| "BIT" | :Bit |
| "CRC" | :CRC |
| "FRAMe" | :Frame |
| "X50:FRAMe" | :X.50 Frame |
| "PARity" | :Parity |
| "CODE" | :Code |
| "EBIT" | :E bit |
| "1_8" | :1/8 |
- 【機能】 検出エラー種別を設定します。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:Error detect
- 【制約】 使用するインタフェースユニットによって、使用できないパラメータがあります。
- | | |
|-------------|--------------|
| MU643000A | : 全パラメータ使用可 |
| MU643000B/K | : "EBIT"使用不可 |
| MU643000C | : 全パラメータ使用可 |
- 【使用例】 > :SENSe:MEASure:EALarm:EDETECT "BIT"

:SENSe:MEASure:EALarm:EDETECT?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <edetect>=<STRING RESPONSE DATA>
 :SENSe:MEASure:EALarm:EDETECT と同じです。
- 【機能】 検出エラー種別の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:Error detect
- 【使用例】 > :SENSe:MEASure:EALarm:EDETECT?
 < "BIT"

:SENSe:MEASure:EALarm:BLENgtH <blength>

【パラメータ】 <blength>=<STRING PROGRAM DATA>

"1_0E01"	:1.0E01	"256"	:256
"1_0E02"	:1.0E02	"512"	:512
"1_0E03"	:1.0E03	"1024"	:1024
"1_0E04"	:1.0E04	"2048"	:2048
"1_0E05"	:1.0E05	"4096"	:4096
"1_0E06"	:1.0E06	"8192"	:8192
"32"	:32	"16384"	:16384
"64"	:64	"32768"	:32768
"128"	:128	"65536"	:65536

【機能】 測定ブロック長を設定します。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:Block length

【使用例】 > :SENSe:MEASure:EALarm:BLENgtH "1_0E01"

:SENSe:MEASure:EALarm:BLENgtH?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <blength>=<STRING RESPONSE DATA>

:SENSe:MEASure:EALarm:BLENgtH と同じです。

【機能】 測定ブロック長の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:Block length

【使用例】 > :SENSe:MEASure:EALarm:BLENgtH?

< "1_0E01"

:SENSe:MEASure:EALarm:TYPE <mmode>

【パラメータ】 <mmode>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

SINGle :Single

REPeat :Repeat

MANual :Manual

【機能】 測定モードを設定します。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:Mode

【使用例】 > :SENSe:MEASure:EALarm:TYPE SINGle

:SENSe:MEASure:EALarm:TYPE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <mmode>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SENSe:MEASure:EALarm:TYPE と同じです。

【機能】 測定モードの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:Mode

【使用例】 > :SENSe:MEASure:EALarm:TYPE?

< SING

:SENSe:MEASure:EALarm:PERiod <day>,<hour>,<minute>,<second>

【パラメータ】 <day>,<hour>,<minute>,<second>=

<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

0~31 (ステップ 1) :<day>

0~23 (ステップ 1) :<hour>

0~59 (ステップ 1) :<minute>

0~59 (ステップ 1) :<second>

【機能】 測定ゲーティングピリオドの時間を設定します。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:Mode

【使用例】 測定ゲーティングピリオドの時間が 3 日 12 時 30 分 00 秒の場合
> :SENSe:MEASure:EALarm:PERiod 3,12,30,0

:SENSe:MEASure:EALarm:PERiod?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <day>,<hour>,<minute>,<second>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:SENSe:MEASure:EALarm:PERiod と同じです。

【機能】 測定ゲーティングピリオドの時間の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:Mode

【使用例】 測定ゲーティングピリオドの時間が 3 日 12 時 30 分 00 秒の場合
> :SENSe:MEASure:EALarm:PERiod?
< 3,12,30,0

:SENSe:MEASure:EALarm:BTIme:SET <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>

OFF or 0 :Off

ON or 1 :On

【機能】 プログラムスタートの On/Off を設定します。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:Program start

【使用例】 > :SENSe:MEASure:EALarm:BTIme:SET 0

:SENSe:MEASure:EALarm:BTIme:SET?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:SENSe:MEASure:EALarm:BTIme:SET と同じです。

【機能】 プログラムスタートの On/Off の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:Program start

【使用例】 > :SENSe:MEASure:EALarm:BTIme:SET?
< 0

:SENSe:MEASure:EALarm:BTIMe:STARt <year>,<month>,<day>,<hour>,<minute>,<second>

【パラメータ】 <year>,<month>,<day>,<hour>,<minute>,<second>=

<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

1997~2096 (ステップ 1) :<year>

1~12 (ステップ 1) :<month>

1~31 (ステップ 1) :<day>

0~23 (ステップ 1) :<hour>

0~59 (ステップ 1) :<minute>

0~59 (ステップ 1) :<second>

【機能】 自動測定開始する時刻を設定します。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:Program start

【使用例】 自動測定開始する時刻が 1998 年 10 月 3 日 12 時 30 分 00 秒の場合
> :SENSe:MEASure:EALarm:BTIMe:STARt 1998,10,3,12,30,0

:SENSe:MEASure:EALarm:BTIMe:STARt?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <year>,<month>,<day>,<hour>,<minute>,<second>=

<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:SENSe:MEASure:EALarm:BTIMe:STARt と同じです。

【機能】 自動測定開始する時刻の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:Program start

【使用例】 自動測定開始する時刻が 1998 年 10 月 3 日 12 時 30 分 00 秒の場合
> :SENSe:MEASure:EALarm:BTIMe:STARt?
< 1998,10,3,12,30,0

:SENSe:MEASure:EALarm:BTIMe:MSLave <mslave>

【パラメータ】 <mslave>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

MASTer:Master

SLAVe :Slave

【機能】 プログラムスタートの発呼側/着呼側を設定します。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:Master/Slave

【使用例】 > :SENSe:MEASure:EALarm:BTIMe:MSLave MASTer

:SENSe:MEASure:EALarm:BTIMe:MSLave?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <mslave>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SENSe:MEASure:EALarm:BTIMe:MSLave と同じです。

【機能】 プログラムスタートの発呼側/着呼側の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:Master/Slave

【使用例】 > :SENSe:MEASure:EALarm:BTIMe:MSLave?
< MAST

:SENSe:MEASure:EALarm:OPATtern <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
 OFF or 0
 ON or 1

【機能】 オクテットパターン一致検出の ON/OFF を設定します。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:Octet pattern

【使用例】 > :SENSe:MEASure:EALarm:OPATtern 0

:SENSe:MEASure:EALarm:OPATtern?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<BOOLEAN RESPONSE DATA>
 :SENSe:MEASure:EALarm:OPATtern と同じです。

【機能】 オクテットパターン一致検出の ON/OFF の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:Octet pattern

【使用例】 > :SENSe:MEASure:EALarm:OPATtern?
 < 0

:SENSe:MEASure:EALeas:OPATtern:PATtern <opattern>

【パラメータ】 <opattern> = <STRING PROGRAM DATA>
 "00000000" ~ "11111111"
 "0000000" ~ "1111111"
 "000000" ~ "111111"
 "00000" ~ "11111"

【機能】 オクテットパターン一致検出のためのパターンを設定します。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:Octet pattern

【使用例】 >:SENSe:MEASure:EALeas:OPATtern:PATtern "00000000"

:SENSe:MEASure:EALeas:OPATtern:PATtern?

【パラメータ】 なし

【レスポンス】 <opattern> = <STRING RESPONSE DATA>
 :SENSe:MEASure:EALeas:OPATtern:PATtern と同じです。

【機能】 オクテットパターン一致検出のためのパターンの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:Octet pattern

【使用例】 > :SENSe:MEASure:EALeas:OPATtern:PATtern ?
 < "00000000"

:SENSe:MEASure:EALarm:LLINe <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>

OFF or 0 :Off

ON or 1 :On

【機能】 ログデータ作成の On/Off を設定します。

【対応画面】 Measure>Error/Alarm 画面の Cond.1:Logging Line

【使用例】 > :SENSe:MEASure:EALarm:LLINe 0

:SENSe:MEASure:EALarm:LLINe?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:SENSe:MEASure:EALarm:LLINe と同じです。

【機能】 ログデータ作成の On/Off の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure>Error/Alarm 画面の Cond.1:Logging Line

【使用例】 > :SENSe:MEASure:EALarm:LLINe?

< 0

:SENSe:MEASure:EALarm:HLINe <hline>

【パラメータ】 <hline>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

OFF :Off

TX :Tx

RX :Rx

【機能】 グラフデータ作成の On/Off および対象線を設定します。

【対応画面】 Measure>Error/Alarm 画面の Cond.1:Histogram line

【使用例】 > :SENSe:MEASure:EALarm:HLINe OFF

:SENSe:MEASure:EALarm:HLINe?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <hline>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SENSe:MEASure:EALarm:HLINe と同じです。

【機能】 グラフデータ作成の On/Off および対象線の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure>Error/Alarm 画面の Cond.1:Histogram line

【使用例】 > :SENSe:MEASure:EALarm:HLINe?

< OFF

:SENSe:MEASure:EALarm:HRESolution <gres>

【パラメータ】 <gres>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

SEC1 :1s

MIN1 :1min

MIN15 :15min

MIN60 :60min

【機能】 グラフデータ作成時の時間軸分解能を設定します。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:Histogram resolution

【使用例】 > :SENSe:MEASure:EALarm:HRESolution SEC1

:SENSe:MEASure:EALarm:HRESolution?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <gres>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SENSe:MEASure:EALarm:HRESolution と同じです。

【機能】 グラフデータ作成時の時間軸分解能の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:Histogram resolution

【使用例】 > :SENSe:MEASure:EALarm:HRESolution?

< SEC1

:SENSe:MEASure:EALarm:HFDetect <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>

OFF or 0 :Off

ON or 1 :On

【機能】 HDLC フレーム検出の On/Off を設定します。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:HDLC Frame detect

【使用例】 > :SENSe:MEASure:EALarm:HFDetect 0

:SENSe:MEASure:EALarm:HFDetect?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:SENSe:MEASure:EALarm:HFDetect と同じです。

【機能】 HDLC フレーム検出の On/Off の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:HDLC Frame detect

【使用例】 > :SENSe:MEASure:EALarm:HFDetect?

< 0

:SENSe:MEASure:EALarm:FRDetect <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
OFF or 0 :Off
ON or 1 :On

【機能】 Frame relay フレームの On/Off を設定します。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:Frame relay detect

【使用例】 > :SENSe:MEASure:EALarm:FRDetect 0

:SENSe:MEASure:EALarm:FRDetect?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
:SENSe:MEASure:EALarm:FRDetect と同じです。

【機能】 Frame relay フレームの On/Off の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Cond.1:Frame relay detect

【使用例】 > :SENSe:MEASure:EALarm:FRDetect?
< 0

:SENSe:MEASure:FRE Lay:START

【パラメータ】 なし。

【機能】 Frame relay の測定開始を設定します。

【対応画面】 動作指示ボタン用エリア

【制約】 測定中の場合、本機能は無視され実行エラーとします。

【使用例】 > :SENSe:MEASure:FRE Lay:START

:SENSe:MEASure:FRE Lay:STOP

【パラメータ】 なし。

【機能】 Frame relay の測定停止を設定します。

【対応画面】 動作指示ボタン用エリア

【使用例】 > :SENSe:MEASure:FRE Lay:STOP

:SENSe:MEASure:FRE Lay:STATe?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <state>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
STOP :リンク待ち以外の測定終了または未測定
LNKWait :リンク待ち
START :測定中

【機能】 Frame relay の測定状態を問い合わせます。

【対応画面】 なし。

【使用例】 > :SENSe:MEASure:FRE Lay:STATe?
< STOP

:SENSe:MEASure:DElay:STARt

- 【パラメータ】 なし。
 【機能】 Delay の測定開始を設定します。
 【対応画面】 動作指示ボタン用エリア
 【制約】 測定中の場合、本機能は無視され実行エラーとします。
 【使用例】 > :SENSe:MEASure:DElay:STARt

:SENSe:MEASure:DElay:STOP

- 【パラメータ】 なし。
 【機能】 Delay の測定停止を設定します。
 【対応画面】 動作指示ボタン用エリア
 【使用例】 > :SENSe:MEASure:DElay:STOP

:SENSe:MEASure:DElay:STATe?

- 【パラメータ】 なし。
 【レスポンス】 <state>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
 STOP :測定終了または未測定
 PSLWait :PSL 同期確立待ち
 STARt :測定中
 【機能】 Delay の測定状態を問い合わせます。
 【対応画面】 なし。
 【使用例】 > :SENSe:MEASure:DElay:STATe?
 < STOP

:SENSe:MEASure:DElay:TYPE <type>

- 【パラメータ】 <type>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
 LDElay :Line interval delay
 TDElay :Transmit delay
 【機能】 測定種別を設定します。
 【対応画面】 Measure:Delay 画面の Type
 【使用例】 > :SENSe:MEASure:DElay:TYPE LDElay

:SENSe:MEASure:DElay:TYPE?

- 【パラメータ】 なし。
 【レスポンス】 <type>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
 :SENSe:MEASure:DElay:TYPE と同じです。
 【機能】 測定種別の設定状態を問い合わせます。
 【対応画面】 Measure:Delay 画面の Type
 【使用例】 > :SENSe:MEASure:DElay:TYPE?
 < LDElay

:SENSe:MEASure:DELaY:INTerval <interval>

【パラメータ】 <interval>=<STRING PROGRAM DATA>

"OFF" :Off

"SEC0_5" :0.5s

"SEC1" :1.0s

"SEC5" :5.0s

【機能】 トランスミットディレイ測定時の測定周期を設定します。

【対応画面】 Measure:Delay 画面の Interval

【使用例】 > :SENSe:MEASure:DELaY:INTerval "OFF"

:SENSe:MEASure:DELaY:INTerval?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <interval>=<STRING RESPONSE DATA>

:SENSe:MEASure:DELaY:INTerval と同じです。

【機能】 トランスミットディレイ測定時の測定周期の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Delay 画面の Interval

【使用例】 > :SENSe:MEASure:DELaY:INTerval?

< "OFF"

:SENSe:MEASure:DELaY:STTRigger <trigger>,<point>

【パラメータ】 <trigger>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

ER :ER C :C

DR :DR I :I

RS :RS IFOT :IFOT

CS :CS IF1 :IF1

CD :CD IF3 :IF3

CI :CI IFOR :IFOR

TI :TI IF2 :IF2

LLB :LLB IF4 :IF4

RLB :RLB

<point>=<STRING PROGRAM DATA>

"ON_OFF" :On->Off

"OFF_ON" :Off->On

【機能】 ラインインターバルディレイ測定時の開始トリガを設定します。

【対応画面】 Measure:Delay 画面の Start trigger

【使用例】 > :SENSe:MEASure:DELaY:STTRigger ER,"ON_OFF"

:SENSe:MEASure:DElay:STTRigger?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <trigger>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
:SENSe:MEASure:DElay:STTRigger と同じです。

<point>=<STRING RESPONSE DATA>

:SENSe:MEASure:DElay:STTRigger と同じです。

【機能】 ラインインターバルディレイ測定時の開始トリガの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Delay 画面の Start trigger

【使用例】 > :SENSe:MEASure:DElay:STTRigger?
< ER,"ON_OFF"**:SENSe:MEASure:DElay:SPTRigger <trigger>,<point>**

【パラメータ】 <trigger>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

ER	:ER	C	:C
DR	:DR	I	:I
RS	:RS	IFOT	:IFOT
CS	:CS	IF1	:IF1
CD	:CD	IF3	:IF3
CI	:CI	IFOR	:IFOR
TI	:TI	IF2	:IF2
LLB	:LLB	IF4	:IF4
RLB	:RLB		

<point>=<STRING PROGRAM DATA>

"ON_OFF" :On->Off

"OFF_ON" :Off->On

【機能】 ラインインターバルディレイ測定時の停止トリガを設定します。

【対応画面】 Measure:Delay 画面の Stop trigger

【使用例】 > :SENSe:MEASure:DElay:SPTRigger ER,"ON_OFF"

:SENSe:MEASure:DElay:SPTRigger?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <trigger>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
:SENSe:MEASure:DElay:SPTRigger と同じです。

<point>=<STRING RESPONSE DATA>

:SENSe:MEASure:DElay:SPTRigger と同じです。

【機能】 ラインインターバルディレイ測定時の停止トリガの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Delay 画面の Stop trigger

【使用例】 > :SENSe:MEASure:DElay:SPTRigger?
< ER,"ON_OFF"

:SENSe:MEASure:FREQuency:STARt

- 【パラメータ】 なし。
【機能】 Frequency の測定開始を設定します。
【対応画面】 動作指示ボタン用エリア
【制約】 測定中の場合、本機能は無視され実行エラーとします。
【使用例】 > :SENSe:MEASure:FREQuency:STARt

:SENSe:MEASure:FREQuency:STOP

- 【パラメータ】 なし。
【機能】 Frequency の測定停止を設定します。
【対応画面】 動作指示ボタン用エリア
【使用例】 > :SENSe:MEASure:FREQuency:STOP

:SENSe:MEASure:FREQuency:STATe?

- 【パラメータ】 なし。
【レスポンス】 <state>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
 STOP :測定終了または未測定
 STARt :測定中
【機能】 Frequency の測定状態を問い合わせます。
【対応画面】 なし。
【使用例】 > :SENSe:MEASure:FREQuency:STATe?
 < STOP

:SENSe:MEASure:FREQuency:LINE <line>

【パラメータ】 <line>=<STRING PROGRAM DATA>

```

"ST1"      :ST1
"ST2"      :ST2
"RT"       :RT
"S"        :S
"ST"       :ST
"RT:TX"    :RT(Tx)
"RT:RX"    :RT(Rx)

```

【機能】 測定の対象線を設定します。

【対応画面】 Measure:Frequency 画面の Line

【使用例】 > :SENSe:MEASure:FREQuency:LINE "ST1"

:SENSe:MEASure:FREQuency:LINE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <line>=<STRING RESPONSE DATA>

:SENSe:MEASure:FREQuency:LINE と同じです。

【機能】 測定の対象線の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Frequency 画面の Line

【使用例】 > :SENSe:MEASure:FREQuency:LINE?
< "ST1"

:SENSe:MEASure:FREQuency:GTIMe <gtime>

【パラメータ】 <gtime>=<STRING PROGRAM DATA>

```

"SEC0_1"   :0.1s
"SEC1"     :1.0s
"SEC10"    :10.0s

```

【機能】 ゲートタイムを設定します。

【対応画面】 Measure:Frequency 画面の Gate time

【使用例】 > :SENSe:MEASure:FREQuency:GTIMe "SEC0_1"

:SENSe:MEASure:FREQuency:GTIMe?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <gtime>=<STRING RESPONSE DATA>

:SENSe:MEASure:FREQuency:GTIMe と同じです。

【機能】 ゲートタイムの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Frequency 画面の Gate time

【使用例】 > :SENSe:MEASure:FREQuency:GTIMe?
< "SEC0_1"

:SENSe:MEASure:FREQuency:INTerval <interval>

【パラメータ】 <interval>=<STRING PROGRAM DATA>

"OFF" :Off

"SEC0_5" :0.5s

"SEC1" :1.0s

"SEC5" :5.0s

【機能】 測定周期を設定します。

【対応画面】 Measure:Frequency 画面の Interval

【使用例】 > :SENSe:MEASure:FREQuency:INTerval "OFF"

:SENSe:MEASure:FREQuency:INTerval?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <interval>=<STRING RESPONSE DATA>

:SENSe:MEASure:FREQuency:INTerval と同じです。

【機能】 測定周期の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Frequency 画面の Interval

【使用例】 > :SENSe:MEASure:FREQuency:INTerval?

< "OFF"

:SENSe:MEASure:DLEVel:START

【パラメータ】 なし。

【機能】 Digital level の測定開始を設定します。

【対応画面】 動作指示ボタン用エリア

【制約】 測定中の場合、本機能は無視され実行エラーとします。

【使用例】 > :SENSe:MEASure:DLEVel:START

:SENSe:MEASure:DLEVel:STOP

【パラメータ】 なし。

【機能】 Digital level の測定停止を設定します。

【対応画面】 動作指示ボタン用エリア

【使用例】 > :SENSe:MEASure:DLEVel:STOP

:SENSe:MEASure:DLEVel:STATe?

【パラメータ】 なし。
 【レスポンス】 <state>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
 STOP :測定終了または未測定
 START :測定中
 【機能】 Digital level の測定状態を問い合わせます。
 【対応画面】 なし。
 【使用例】 > :SENSe:MEASure:DLEVel:STATe?
 < STOP

:SENSe:MEASure:DLEVel:LSElect <dlline>

【パラメータ】 <dlline>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
 TX :Tx
 RX :Rx
 【機能】 測定の対象線を設定します。
 【対応画面】 Measure:Digital level 画面の Line select
 【使用例】 > :SENSe:MEASure:DLEVel:LSElect TX

:SENSe:MEASure:DLEVel:LSElect?

【パラメータ】 なし。
 【レスポンス】 <dlline>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
 :SENSe:MEASure:DLEVel:LSElect と同じです。
 【機能】 測定の対象線の設定状態を問い合わせます。
 【対応画面】 Measure:Digital level 画面の Line select
 【使用例】 > :SENSe:MEASure:DLEVel:LSElect?
 < TX

:SENSe:MEASure:DLEVel:PCODE <pcode>

【パラメータ】 <pcode>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
 ULAW : μ -law
 ALAW :A-law
 【機能】 PCM コードを設定します。
 【対応画面】 Measure:Digital level 画面の PCM Code
 【使用例】 > :SENSe:MEASure:DLEVel:PCODE ULAW

:SENSe:MEASure:DLEVel:PCODE?

【パラメータ】 なし。
 【レスポンス】 <pcode>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
 :SENSe:MEASure:DLEVel:PCODE と同じです。
 【機能】 PCM コードの設定状態を問い合わせます。
 【対応画面】 Measure:Digital level 画面の PCM Code
 【使用例】 > :SENSe:MEASure:DLEVel:PCODE?
 < ULAW

:SENSe:MEASure:WTRace:START

- 【パラメータ】 なし。
- 【機能】 Word trace 測定のパターントレース開始を設定します。
- 【対応画面】 動作指示ボタン用エリア
- 【制約】 プログラムパターン送出中の場合、本機能は無視され実行エラーとします。
- 【使用例】 > :SENSe:MEASure:WTRace:START

:SENSe:MEASure:WTRace:STOP

- 【パラメータ】 なし。
- 【機能】 Word trace 測定のパターントレース停止を設定します。
- 【対応画面】 動作指示ボタン用エリア
- 【使用例】 > :SENSe:MEASure:WTRace:STOP

:SENSe:MEASure:WTRace:STATe?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <state>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
 - STOP :スタートトリガ待ち以外の測定終了または未測定
 - STWait :スタートトリガ待ち
 - START :測定中
- 【機能】 Word trace の測定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 なし。
- 【使用例】 > :SENSe:MEASure:WTRace:STATe?
< STOP

:SENSe:MEASure:WTRace:TLine <tline>

- 【パラメータ】 <tline>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
 - TX :Tx
 - RX :Rx
- 【機能】 トレースするラインを設定します。
- 【対応画面】 Measure:Word trace 画面の Condition:Trace line
- 【使用例】 > :SENSe:MEASure:WTRace:TLine TX

:SENSe:MEASure:WTRace:TLine?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <tline>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
 - :SENSe:MEASure:WTRace:TLine と同じです。
- 【機能】 トレースするラインの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Word trace 画面の Condition:Trace line
- 【使用例】 > :SENSe:MEASure:WTRace:TLine?
< TX

:SENSe:MEASure:WTRace:STTRigger <sttrigger>

【パラメータ】 <sttrigger>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

SCODE :Sync code

MANual :Manual

【機能】 トレース開始トリガを設定します。

【対応画面】 Measure:Word trace 画面の Condition:Start trigger

【使用例】 > :SENSe:MEASure:WTRace:STTRigger SCODE

:SENSe:MEASure:WTRace:STTRigger?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <sttrigger>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SENSe:MEASure:WTRace:STTRigger と同じです。

【機能】 トレース開始トリガの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Word trace 画面の Condition:Start trigger

【使用例】 > :SENSe:MEASure:WTRace:STTRigger?

< SCOD

:SENSe:MEASure:WTRace:STPattern <stpattern>

【パラメータ】 <stpattern>=<STRING PROGRAM DATA>

"00000000"~"11111111","XXXXXXXX"

"0000000"~"1111111","XXXXXXX"

"000000"~"111111","XXXXXX"

"00000"~"11111","XXXXX"

【機能】 トレース開始コードを設定します。

【対応画面】 Measure:Word trace 画面の Condition:Pattern

【使用例】 > :SENSe:MEASure:WTRace:STPattern "XXXX0011"

:SENSe:MEASure:WTRace:STPattern?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <stpattern>=<STRING RESPONSE DATA>

:SENSe:MEASure:WTRace:STPattern と同じです。

【機能】 トレース開始コードの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Word trace 画面の Condition:Pattern

【使用例】 > :SENSe:MEASure:WTRace:STPattern?

< "XXXX0011"

:SENSe:MEASure:WTRace:SPTRigger <sptrigger>

【パラメータ】 <sptrigger>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

MANual :Manual

CODE :Code

NCODE :Not code

BYTE :Byte

【機能】 トレース停止トリガを設定します。

【対応画面】 Measure:Word trace 画面の Condition:Stop trigger

【使用例】 > :SENSe:MEASure:WTRace:SPTRigger MANual

:SENSe:MEASure:WTRace:SPTRigger ?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <sptrigger>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:SENSe:MEASure:WTRace:SPTRigger と同じです。

【機能】 トレース停止トリガの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Word trace 画面の Condition:Stop trigger

【使用例】 > :SENSe:MEASure:WTRace:SPTRigger ?

< MAN

:SENSe:MEASure:WTRace:SPPattern <sppattern>

【パラメータ】 <sppattern>=<STRING PROGRAM DATA>

"00000000"~"11111111","XXXXXXXX"

"0000000"~"1111111","XXXXXXX"

"000000"~"111111","XXXXXX"

"00000"~"11111","XXXXX"

【機能】 トレース停止コードを設定します。

【対応画面】 Measure:Word trace 画面の Condition:Pattern

【使用例】 > :SENSe:MEASure:WTRace:SPPattern "XXXX0011"

:SENSe:MEASure:WTRace:SPPattern?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <sppattern>=<STRING RESPONSE DATA>

:SENSe:MEASure:WTRace:SPPattern と同じです。

【機能】 トレース停止コードの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Word trace 画面の Condition:Pattern

【使用例】 > :SENSe:MEASure:WTRace:SPPattern?

< "XXXX0011"

:SENSe:MEASure:WTRace:TBYTe <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
10~131068 (ステップ 1)
- 【機能】 トレースバイトを設定します。
- 【対応画面】 Measure:Word trace 画面の Condition:Trace byte
- 【使用例】 > :SENSe:MEASure:WTRace:TBYTe 10

:SENSe:MEASure:WTRace:TBYTe?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
:SENSe:MEASure:WTRace:TBYTe と同じです。
- 【機能】 トレースバイトの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Word trace 画面の Condition:Trace byte
- 【使用例】 > :SENSe:MEASure:WTRace:TBYTe?
< 10

:SENSe:MEASure:WTRace:SDElay <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
0~8000 (ステップ 1)
- 【機能】 ストップディレイを設定します。
- 【対応画面】 Measure:Word trace 画面の Condition:Stop delay
- 【使用例】 > :SENSe:MEASure:WTRace:SDElay 0

:SENSe:MEASure:WTRace:SDElay?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
:SENSe:MEASure:WTRace:SDElay と同じです。
- 【機能】 ストップディレイの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Word trace 画面の Condition:Stop delay
- 【使用例】 > :SENSe:MEASure:WTRace:SDElay?
< 0

:SENSe:MEASure:PMONitor:START

- 【パラメータ】 なし。
【機能】 プロトコルモニタ開始を設定します。
【対応画面】 Analyze:Protocol monitor 画面
【制約】 プロトコルモニタ中の場合、本機能は無視され実行エラーとします。
【使用例】 > :SENSe:MEASure:PMONitor:START

:SENSe:MEASure:PMONitor:STOP

- 【パラメータ】 なし。
【機能】 プロトコルモニタ停止を設定します。
【対応画面】 Analyze:Protocol monitor 画面
【使用例】 > :SENSe:MEASure:PMONitor:STOP

:SENSe:MEASure:PMONitor:STATe?

- 【パラメータ】 なし。
【レスポンス】 <state>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
 STOP :プロトコルモニタ停止中
 START :プロトコルモニタ中
【機能】 プロトコルモニタ状態を問い合わせます。
【対応画面】 なし。
【使用例】 > :SENSe:MEASure:PMONitor:STATe?
 < STOP

:SENSe:MEASure:PMONitor:CLEar

- 【パラメータ】 なし。
【機能】 プロトコルモニタデータのクリアします。
【対応画面】 Analyze:Protocol monitor 画面
【使用例】 > :SENSe:MEASure:PMONitor:CLEar

6.5 DISPlay サブシステム

:DISPlay:DSElect[:NAME] <dselect>

【パラメータ】	<dselect>=<STRING PROGRAM DATA>	
	"SETup:IOUtput"	:Setup:Input/Output 画面
	"SETup:MEMory"	:Setup:Memory 画面
	"SETup:SYSTem"	:Setup:System 画面
	"SETup:PRINt"	:Setup:Print 画面
	"SETup:FDISK"	:Setup:Floppy disk 画面
	"SETup:SELFtest"	:Setup:Selftest 画面
	"SETup:OREVision"	:Setup:Option/Revision 画面
	"INTerface"	:Interface:Interface 画面
	"MEASure:EALarm"	:Measure:Error/Alarm 画面
	"MEASure:FRELay"	:Measure:Frame relay 画面
	"MEASure:DELaY"	:Measure:Delay 画面
	"MEASure:FREQuency"	:Measure:Frequency 画面
	"MEASure:DLEVel"	:Measure:Digital level 画面
	"MEASure:WTRace"	:Measure:Word trace 画面
	"ANALyze:EALarm"	:Analyze:Error/Alarm 画面
	"ANALyze:TDAaT"	:Analyze:Trace data 画面
	"ANALyze:PMONitor"	:Analyze:Protocol monitor 画面
	"ANALyze:RECall"	:Analyze:Recall 画面
【機能】	表示副画面を選択します。	
【対応画面】		
【使用例】	> :DISPlay:DSElect "SETup:IOUtput"	

:DISPlay:DSElect[:NAME]?

【パラメータ】	なし。
【レスポンス】	<dselect>=<STRING RESPONSE DATA> :DISPlay:DSElect[:NAME]と同じです。
【機能】	表示副画面を問い合わせます。
【対応画面】	
【使用例】	> :DISPlay:DSElect? < "SET:IOU"

:DISPlay:SYSTem[:NAME] <system>

【パラメータ】	<system>=<CHARACTER PROGRAM DATA>	
	SSCommon	:Setup:System(Common)画面
	SSINterface	:Setup:System(Interface)画面
【機能】	Setup:System 画面での表示拡張画面を選択します。	
【対応画面】	Setup:System 画面	
【使用例】	> :DISPlay:SYSTem SSCommon	

:DISPlay:SYSTem[:NAME]?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <system>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
:DISPlay:SYSTem[:NAME]と同じです。
- 【機能】 Setup:System 画面での表示拡張画面を問い合わせます。
- 【対応画面】 Setup:System 画面
- 【使用例】 > :DISPlay:SYSTem?
< SSC

:DISPlay:SYSTem:ITYPE <itype>

- 【パラメータ】 <itype>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
VXTCmos :V/X/TTL/CMOS
K64 :G.703 64k
K192 :I.430/I.430-a 192k
M1_5 :G.704/I.431 1.544M
M2 :G.704/I.431 2.048M
- 【機能】 インタフェース種別による画面切り替えを設定します。
- 【対応画面】 Setup:System 画面の Interface type
- 【制約】 使用しているインタフェースユニットにより、使用できないパラメータがあります。
MU643000A : 全パラメータ使用可
MU643000B/K : M2 使用不可
MU643000C : M1_5 使用不可
また、呼制御オプション opt-01 または opt-02 が組み込まれていない場合は、M1_5 は使用できません。
- 【使用例】 > :DISPlay:SYSTem:ITYPE VXTCmos

:DISPlay:SYSTem:ITYPE?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <itype>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
:DISPlay:SYSTem:ITYPE と同じです。
- 【機能】 インタフェース種別による画面切り替えの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Setup:System 画面の Interface type
- 【使用例】 > :DISPlay:SYSTem:ITYPE?
< VXTC

:DISPlay:FDISK:SCRoll <scroll>

【パラメータ】 <scroll>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

BPAGe	:ファイル/ディレクトリの上改ページスクロール	
NPAGe	:ファイル/ディレクトリの下改ページスクロール	
UMOVe	:画面の上1行スクロール.....	
DMOVe	:画面の下1行スクロール.....	

【機能】 ファイル/ディレクトリの表示位置を設定します。

【対応画面】 Setup:Floppy disk 画面

【使用例】 > :DISPlay:FDISK:SCRoll BPAGe

:DISPlay:INTerface:TX:BPAGe

【パラメータ】 なし。

【機能】 画面の次ページ改ページスクロールを設定します。

【対応画面】 Interface 画面の Tx

【使用例】 > :DISPlay:INTerface:TX:BPAGe

:DISPlay:INTerface:TX:NPAGe

【パラメータ】 なし。

【機能】 画面の前ページ改ページスクロールを設定します。

【対応画面】 Interface 画面の Tx

【使用例】 > :DISPlay:INTerface:TX:NPAGe

:DISPlay:INTerface:TX:STATe?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <dtype>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

PAGE1	:低速 Tx 画面(1)か高速 Tx 画面(1)
PAGE2	:高速 Tx 画面(2)
PAGE3	:高速 Tx 画面(3)
PAGE4	:高速 Tx 画面(4)
PAGE5	:高速 Tx 画面(5)
PAGE6	:高速 Tx 画面(6)

【機能】 現在表示されている Interface 画面を問い合わせます。

【対応画面】 Interface 画面の Tx

【使用例】 > :DISPlay:INTerface:TX:STATe?

< PAGE3

:DISPlay:INTerface:RX:BPAGe

【パラメータ】 なし。

【機能】 画面の次ページ改ページスクロールを設定します。

【対応画面】 Interface 画面の Rx

【使用例】 > :DISPlay:INTerface:RX:BPAGe

:DISPlay:INTErface:RX:NPAGe

- 【パラメータ】 なし。
 【機能】 画面の前ページ改ページスクロールを設定します。
 【対応画面】 Interface 画面の Rx
 【使用例】 > :DISPlay:INTErface:RX:NPAGe

:DISPlay:INTErface:RX:STATe?

- 【パラメータ】 なし。
 【レスポンス】 <dtype>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
 PAGE1 :低速 Rx 画面(1)か高速 Rx 画面(1)
 PAGE2 :高速 Rx 画面(2)
 PAGE3 :高速 Rx 画面(3)
 PAGE4 :高速 Rx 画面(4)
 PAGE5 :高速 Rx 画面(5)
 PAGE6 :高速 Rx 画面(6)
 【機能】 現在表示されている Interface 画面を問い合わせます。
 【対応画面】 Interface 画面の Rx
 【使用例】 > :DISPlay:INTErface:RX:STATe?
 < PAGE1

:DISPlay:EALarm[:NAME] <ealarm>

- 【パラメータ】 <ealarm>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
 MEC1 :Measure:Error/Alarm(Cond.1)画面
 MEC2 :Measure:Error/Alarm(Cond.2)画面
 MECharacter :Measure:Error/Alarm(Character)画面
 MEResult :Measure:Error/Alarm(Result)画面
 MECas :Measure:Error/Alarm(CAS)画面
 MEFas :Measure:Error/Alarm(FAS)画面
 【機能】 Measure:Error/Alarm 画面での表示拡張画面を選択します。
 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面
 【使用例】 > :DISPlay:EALarm MEC1

:DISPlay:EALarm[:NAME]?

- 【パラメータ】 なし。
 【レスポンス】 <ealarm>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
 :DISPlay:EALarm[:NAME]と同じです。
 【機能】 Measure:Error/Alarm 画面での表示拡張画面を問い合わせます。
 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面
 【使用例】 > :DISPlay:EALarm?
 < MEC1

:DISPlay:EALarm:MTIME <mtime>

- 【パラメータ】 <mtime>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
 STIME :Start time
 ETIME :Elapsed time
- 【機能】 測定時刻の表示を選択します。
- 【対応画面】 Measure>Error/Alarm 画面
- 【使用例】 > :DISPlay:EALarm:MTIME STIME

:DISPlay:EALarm:MTIME?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <mtime>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
 :DISPlay:EALarm:MTIME と同じです。
- 【機能】 測定時刻の表示を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure>Error/Alarm 画面
- 【使用例】 > :DISPlay:EALarm:MTIME?
 < STIM

:DISPlay:EALarm:CHARacter:EMODE <emode>

- 【パラメータ】 <emode>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
 HEX :Hex
 ASCii :ASCII
- 【機能】 入力方式を設定します。
- 【対応画面】 Measure>Error/Alarm 画面の Character>Edit mode
- 【使用例】 > :DISPlay:EALarm:CHARacter:EMODE HEX

:DISPlay:EALarm:CHARacter:EMODE?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <emode>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
 :DISPlay:EALarm:CHARacter:EMODE と同じです。
- 【機能】 入力方式の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure>Error/Alarm 画面の Character>Edit mode
- 【使用例】 > :DISPlay:EALarm:CHARacter:EMODE?
 < HEX

:DISPlay:EALarm:CHARacter:DMODE <dmode>

【パラメータ】 <dmode>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

OFF :Off
 HEX :Hex
 ASCii :ASCII
 EDIC :EBCDIC
 EDIK :EBCDIK
 JIS8 :JIS8
 EBCD :EBCD
 BAUDot :Baudot

【機能】 表示方式を設定します。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Character:Display mode

【使用例】 > :DISPlay:EALarm:CHARacter:DMODE HEX

:DISPlay:EALarm:CHARacter:DMODE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <dmode>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:DISPlay:EALarm:CHARacter:DMODE と同じです。

【機能】 表示方式の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Character:Display mode

【使用例】 > :DISPlay:EALarm:CHARacter:DMODE?

< HEX

:DISPlay:EALarm:CHARacter:ADDRess <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

0~2047 (ステップ 1)

【機能】 表示開始アドレスを設定します。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Character

【使用例】 > :DISPlay:EALarm:CHARacter:ADDRess 0

:DISPlay:EALarm:CHARacter:ADDRess?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:DISPlay:EALarm:CHARacter:ADDRess と同じです。

【機能】 表示開始アドレスの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Character

【使用例】 > :DISPlay:EALarm:CHARacter:ADDRess?

< 0

:DISPlay:EALarm:CHARacter:SCRoll <scroll>

【パラメータ】 <scroll>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

BPAGe	:キャラクタパターンの上改ページスクロール...	
NPAGe	:キャラクタパターンの下改ページスクロール...	
UMOVe	:キャラクタパターンの上1行スクロール.....	
DMOVe	:キャラクタパターンの下1行スクロール.....	

【機能】 キャラクタパターンの表示位置を設定します。

【対応画面】 Measure>Error/Alarm 画面の Character

【使用例】 > :DISPlay:EALarm:CHARacter:SCRoll BPAGe

:DISPlay:EALarm:RESult[:TYPE] <type>

【パラメータ】 <type>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

ALL	:All
ZOOM	:Zoom

【機能】 結果表示形式を設定します。

【対応画面】 Measure>Error/Alarm 画面の Result:Type

【使用例】 > :DISPlay:EALarm:RESult ALL

:DISPlay:EALarm:RESult[:TYPE]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <type>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:DISPlay:EALarm:RESult[:TYPE]と同じです。

【機能】 結果表示形式の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure>Error/Alarm 画面の Result:Type

【使用例】 > :DISPlay:EALarm:RESult?

< ALL

:DISPlay:EALarm:RESult:MODE <rmode>

【パラメータ】 <rmode>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
 CURRent :Current
 LAST :Last

【機能】 測定結果表示モードを設定します。

【対応画面】 Measure>Error/Alarm 画面の Result:Display data

【使用例】 > :DISPlay:EALarm:RESult:MODE CURRent

:DISPlay:EALarm:RESult:MODE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <rmode>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
 :DISPlay:EALarm:RESult:MODE と同じです。

【機能】 測定結果表示モードの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure>Error/Alarm 画面の Result:Display data

【使用例】 > :DISPlay:EALarm:RESult:MODE?
 < CURR

:DISPlay:EALarm:RESult:RDISplay <vtype>,<rdisplay>

【パラメータ】 <vtype>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
 LEFT :左側の測定結果表示
 RIGHT :右側の測定結果表示
 <rdisplay>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
 TERRor :Tx Error
 TALarm :Tx Alarm
 RERRor :Rx Error
 RALarm :Rx Alarm

【機能】 測定結果表示を設定します。

【対応画面】 Measure>Error/Alarm 画面の Result

【使用例】 > :DISPlay:EALarm:RESult:RDISplay LEFT,TERRor

:DISPlay:EALarm:RESult:RDISplay? <vtype>

【パラメータ】 <vtype>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
 :DISPlay:EALarm:RESult:RDISplay と同じです。

【レスポンス】 <rdisplay>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
 :DISPlay:EALarm:RESult:RDISplay と同じです。

【機能】 測定結果表示の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure>Error/Alarm 画面の Result

【使用例】 > :DISPlay:EALarm:RESult:RDISplay? LEFT
 < TERR

:DISPlay:EALarm:RESult:MORE <vtype>,<pdisplay>

【パラメータ】 <vtype>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
 LEFT :左側の測定結果表示
 RIGHT :右側の測定結果表示
 <pdisplay>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
 OFF :Off
 G821 :Error performance (G.821)
 G826 :Error performance (G.826)
 M2100 :Error performance (M.2100)
 HDLCD :HDLC Frame
 【機能】 エラー測定結果表示を設定します。
 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Result
 【使用例】 > :DISPlay:EALarm:RESult:MORE LEFT,OFF

:DISPlay:EALarm:RESult:MORE? <vtype>

【パラメータ】 <vtype>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
 :DISPlay:EALarm:RESult:MORE と同じです。
 【レスポンス】 <pdisplay>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
 :DISPlay:EALarm:RESult:MORE と同じです。
 【機能】 エラー測定結果表示の設定状態を問い合わせます。
 【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の Result
 【使用例】 > :DISPlay:EALarm:RESult:MORE? LEFT
 < OFF

:DISPlay:EALarm:RESult:ZOOM <vtype>,<item1>,<item2>,<item3>

【パラメータ】 <vtype>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

LEFT :左側の測定結果表示

RIGHT :右側の測定結果表示

<item1>,<item2>,<item3>=<STRING PROGRAM DATA>

"OFF"	:Off	"G826:BBER"	:G.826 BBER
"EC"	:Error count	"G826:US"	:G.826 US
"ER"	:Error rate	"G826:AT"	:G.826 AT
"BEC"	:Block error count	"M2100:ES"	:M.2100 ES
"BER"	:Block error rate	"M2100:SES"	:M.2100 SES
"ES"	:ES	"M2100:US"	:M.2100 US
"EFS"	:EFS	"M2100:AT"	:M.2100 AT
"CSC"	:Clock slip count	"M2100:TEST"	:M.2100 TEST
"CSS"	:Clock slip second	"BFC"	:Bad frame count
"CEC"	:Character error count	"AFC"	:Abort frame count
"PC"	:PSL Count	"AA"	:All alarm
"G821:ES2"	:G.821 ES	"PF"	:Power fail
"G821:EFS2"	:G.821 EFS	"PSL"	:PSL
"G821:SES2"	:G.821 SES	"OPD"	:OPD
"G821:US2"	:G.821 US	"FLGL"	:FLGL
"G821:DM2"	:G.821 DM	"ALL0"	:ALL0
"G821:AT2"	:G.821 AT	"ALL1"	:ALL1
"G821:ES"	:G.821 %ES	"LOS"	:LOS
"G821:ES3"	:G.821 AnD%ES	"LOF"	:LOF
"G821:EFS"	:G.821 %EFS	"MLOSs"	:MF Loss
"G821:SES"	:G.821 %SES	"AIS"	:AIS
"G821:US"	:G.821 %US	"SA"	:SA
"G821:DM"	:G.821 %DM	"XL"	:XL
"G821:AT"	:G.821 %AT	"XA"	:XA
"G826:EB"	:G.826 EB	"RAI"	:RAI
"G826:ES"	:G.826 ES	"DISC"	:Disconnection
"G826:SES"	:G.826 SES	"SLOF"	:ST LOF
"G826:BBE"	:G.826 BBE	"HAIS"	:HG AIS
"G826:ESR"	:G.826 ESR	"BAIS"	:BAIS
"G826:SESR"	:G.826 SESR		

【機能】 ズーム表示項目を設定します。

【対応画面】 Measure>Error/Alarm 画面の Result

【制約】 使用しているインタフェースにより、使用できないパラメータがあります。

MU643000A : 全パラメータ使用可

MU643000B/K : 全パラメータ使用可

MU643000C : "SA", "SLOF", "HAIS", "BAIS"使用不可

呼制御オプション opt-01 または opt-02 が組み込まれていない場合, "DISC"は使用できません。

【使用例】 > :DISPlay:EALarm:RESult:ZOOM LEFT,"EC","ER","BEC"

:DISPlay:EALarm:RESult:ZOOM? <vtype>

- 【パラメータ】 <vtype>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
 :DISPlay:EALarm:RESult:ZOOM と同じです。
- 【レスポンス】 <item1>,<item2>,<item3>=<STRING RESPONSE DATA>
 :DISPlay:EALarm:RESult:ZOOM と同じです。
- 【機能】 ズーム表示項目の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure>Error/Alarm 画面の Result
- 【使用例】 > :DISPlay:EALarm:RESult:ZOOM? LEFT
 < "EC","ER","BEC"

:DISPlay:EALarm:ASINs:MORe

- 【パラメータ】 なし。
- 【機能】 Alarm/Signal Ins.画面の改ページスクロールを設定します。
- 【対応画面】 Measure>Error/Alarm 画面の Alarm/Signal Ins.
- 【制約】 使用するインタフェースにより、コマンドが使用できなくなります。
- | | |
|-------------|---------------|
| MU643000A | : 使用可 |
| MU643000B/K | : 使用可 |
| MU643000C | : 使用不可(実行エラー) |
- 【使用例】 > :DISPlay:EALarm:ASINs:MORe

:DISPlay:EALarm:ASINs:MORe?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <more>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
 PAGE1 : Alarm/Signal Ins.画面(1)
 PAGE2 : Alarm/Signal Ins.画面(2)
- 【機能】 現在表示されている Alarm/Signal Ins.画面を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure>Error/Alarm 画面の Alarm/Signal Ins.
- 【制約】 :DISPlay:EALarm:ASINs:MORe と同じです。
 使用不可によるコマンドの実行後は、レスポンスは送出されないで、実行エラーとなります。
- 【使用例】 > :DISPlay:EALarm:ASINs:MORe?
 < PAGE1

:DISPlay:EALarm:FAS:SElect

- 【パラメータ】 なし。
- 【機能】 Measure>Error/Alarm(FAS)画面の表示を設定します。
- 【対応画面】 Measure>Error/Alarm(FAS)画面
- 【制約】 CAS/FAS オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
(実行エラー)
- 【使用例】 > :DISPlay:EALarm:FAS:SElect

:DISPlay:EALarm:FAS:SElect?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <select>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
TXSend :Tx sending
TXMonitor :Tx monitoring
RXMonitor :Rx monitoring
- 【機能】 Measure>Error/Alarm(FAS)画面の表示の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure>Error/Alarm(FAS)画面
- 【制約】 CAS/FAS オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータではなく、実行エラーが返ります。
- 【使用例】 > :DISPlay:EALarm:FAS:SElect?
< TXS

:DISPlay:EALarm:FAS:TXPause <boolean>

- 【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
OFF or 0 :Off
ON or 1 :On
- 【機能】 Measure>Error/Alarm(FAS)画面における Tx monitoring のポーズ表示を設定します。
- 【対応画面】 Measure>Error/Alarm(FAS)画面の Tx monitoring
- 【制約】 CAS/FAS オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
(実行エラー)
- 【使用例】 > :DISPlay:EALarm:FAS:TXPause 0

:DISPlay:EALarm:FAS:TXPause?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
:DISPlay:EALarm:FAS:TXPause と同じです
- 【機能】 Measure>Error/Alarm(FAS)画面における Tx monitoring のポーズ表示の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure>Error/Alarm(FAS)画面の Tx monitoring
- 【制約】 CAS/FAS オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータではなく、実行エラーが返ります。
- 【使用例】 > :DISPlay:EALarm:FAS:TXPause?
< 0

:DISPlay:EALarm:FAS:RXPause <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>

OFF or 0 :Off

ON or 1 :On

【機能】 Measure>Error/Alarm(FAS)画面における Rx monitoring のポーズ表示を設定します。

【対応画面】 Measure>Error/Alarm(FAS)画面の Rx monitoring

【制約】 CAS/FAS オプションがインストールされていない場合、コマンドは使用できません。
(実行エラー)

【使用例】 > :DISPlay:EALarm:FAS:RXPause 0

:DISPlay:EALarm:FAS:RXPause?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:DISPlay:EALarm:FAS:RXPause と同じです

【機能】 Measure>Error/Alarm(FAS)画面における Rx monitoring のポーズ表示の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure>Error/Alarm(FAS)画面の Rx monitoring

【制約】 CAS/FAS オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータではなく、実行エラーが返ります。

【使用例】 > :DISPlay:EALarm:FAS:RXPause?

< 0

:DISPlay:FRE Lay:MTIME <mtime>

【パラメータ】 <mtime>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

STIME :Start time

ETIME :Elapsed time

【機能】 測定時刻の表示を選択します。

【対応画面】 Measure:Frame relay 画面

【使用例】 > :DISPlay:FRE Lay:MTIME STIME

:DISPlay:FRE Lay:MTIME?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <mtime>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:DISPlay:FRE Lay:MTIME と同じです。

【機能】 測定時刻の表示を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Frame relay 画面

【使用例】 > :DISPlay:FRE Lay:MTIME?

< STIM

:DISPlay:FRELAY:ASINs:MORe

- 【パラメータ】 なし。
- 【機能】 Alarm/Signal Ins.画面の改ページスクロールを設定します。
- 【対応画面】 Measure:Frame relay 画面の Alarm/Signal Ins.
- 【制約】 使用するインタフェースにより、コマンドが使用できなくなります。
- | | |
|-------------|---------------|
| MU643000A | : 使用可 |
| MU643000B/K | : 使用可 |
| MU643000C | : 使用不可(実行エラー) |
- 【使用例】 > :DISPlay:FRELAY:ASINs:MORe

:DISPlay:FRELAY:ASINs:MORe?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <more>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
- | | |
|-------|--------------------------|
| PAGE1 | : Alarm/Signal Ins.画面(1) |
| PAGE2 | : Alarm/Signal Ins.画面(2) |
- 【機能】 現在表示されている Alarm/Signal Ins.画面を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Frame relay 画面の Alarm/Signal Ins.
- 【制約】 :DISPlay:FRELAY:ASINs:MORe と同じです。
- 使用不可によるコマンドの実行後は、レスポンスは送出されないで、実行エラーとなります。
- 【使用例】 > :DISPlay:FRELAY:ASINs:MORe?
< PAGE1

:DISPlay:DElay:ASINs:MORe

- 【パラメータ】 なし。
- 【機能】 Alarm/Signal Ins.画面の改ページスクロールを設定します。
- 【対応画面】 Measure:Delay 画面の Alarm/Signal Ins.
- 【制約】 使用するインタフェースにより、コマンドが使用できなくなります。
- | | |
|-------------|---------------|
| MU643000A | : 使用可 |
| MU643000B/K | : 使用可 |
| MU643000C | : 使用不可(実行エラー) |
- 【使用例】 > :DISPlay:DElay:ASINs:MORe

:DISPlay:DElay:ASINs:MORe?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <more>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
- | | |
|-------|--------------------------|
| PAGE1 | : Alarm/Signal Ins.画面(1) |
| PAGE2 | : Alarm/Signal Ins.画面(2) |
- 【機能】 現在表示されている Alarm/Signal Ins.画面を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Delay 画面の Alarm/Signal Ins.
- 【制約】 :DISPlay:DElay:ASINs:MORe と同じです。
- 使用不可によるコマンドの実行後は、レスポンスは送出されないで、実行エラーとなります。
- 【使用例】 > :DISPlay:DElay:ASINs:MORe?
< PAGE1

:DISPlay:FREQuency:ASINs:MORe

- 【パラメータ】 なし。
- 【機能】 Alarm/Signal Ins.画面の改ページスクロールを設定します。
- 【対応画面】 Measure:Frequency 画面の Alarm/Signal Ins.
- 【制約】 使用するインタフェースにより、コマンドが使用できなくなります。
- | | |
|-------------|---------------|
| MU643000A | : 使用可 |
| MU643000B/K | : 使用可 |
| MU643000C | : 使用不可(実行エラー) |
- 【使用例】 > :DISPlay:FREQuency:ASINs:MORe

:DISPlay:FREQuency:ASINs:MORe?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <more>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
- | | |
|-------|--------------------------|
| PAGE1 | : Alarm/Signal Ins.画面(1) |
| PAGE2 | : Alarm/Signal Ins.画面(2) |
- 【機能】 現在表示されている Alarm/Signal Ins.画面を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Frequency 画面の Alarm/Signal Ins.
- 【制約】 :DISPlay:FREQuency:ASINs:MORe と同じです。
使用不可によるコマンドの実行後は、レスポンスは送出されないで、実行エラーとなります。
- 【使用例】 > :DISPlay:FREQuency:ASINs:MORe?
< PAGE1

:DISPlay:DLEVel:ASINs:MORe

- 【パラメータ】 なし。
- 【機能】 Alarm/Signal Ins.画面の改ページスクロールを設定します。
- 【対応画面】 Measure:Digital level 画面の Alarm/Signal Ins.
- 【制約】 使用するインタフェースにより、コマンドが使用できなくなります。
- | | |
|-------------|---------------|
| MU643000A | : 使用可 |
| MU643000B/K | : 使用可 |
| MU643000C | : 使用不可(実行エラー) |
- 【使用例】 > :DISPlay:DLEVel:ASINs:MORe

:DISPlay:DLEVel:ASINs:MORe?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <more>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
- | | |
|-------|--------------------------|
| PAGE1 | : Alarm/Signal Ins.画面(1) |
| PAGE2 | : Alarm/Signal Ins.画面(2) |
- 【機能】 現在表示されている Alarm/Signal Ins.画面を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Digital level 画面の Alarm/Signal Ins.
- 【制約】 :DISPlay:DLEVel:ASINs:MORe と同じです。
使用不可によるコマンドの実行後は、レスポンスは送出されないで、実行エラーとなります。
- 【使用例】 > :DISPlay:DLEVel:ASINs:MORe?
< PAGE1

:DISPlay:WTRace[:NAME] <wtrace>

- 【パラメータ】 <wtrace>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
 MWCondition :Measure:Word trace(Condition)画面
 MWpData :Measure:Word trace(PRGM Data)画面
- 【機能】 Measure:Word trace 画面での表示拡張画面を選択します。
- 【対応画面】 Measure:Word trace 画面
- 【使用例】 > :DISPlay:WTRace MWCondition

:DISPlay:WTRace[:NAME]?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <wtrace>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
 :DISPlay:WTRace[:NAME]と同じです。
- 【機能】 Measure:Word trace 画面での表示拡張画面を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Word trace 画面
- 【使用例】 > :DISPlay:WTRace?
 < MWC

:DISPlay:WTRace:PRGMdata:EMODE <emode>

- 【パラメータ】 <emode>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
 HEX :Hex
 BIN :Bin
 ASCii :ASCII
- 【機能】 入力方式を設定します。
- 【対応画面】 Measure:Word trace 画面の PRGM Data>Edit mode
- 【使用例】 > :DISPlay:WTRace:PRGMdata:EMODE HEX

:DISPlay:WTRace:PRGMdata:EMODE?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <emode>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
 :DISPlay:WTRace:PRGMdata:EMODEと同じです。
- 【機能】 入力方式の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure:Word trace 画面の PRGM Data>Edit mode
- 【使用例】 > :DISPlay:WTRace:PRGMdata:EMODE?
 < HEX

:DISPlay:WTRace:PRGMdata:DMODE <dmode>

【パラメータ】 <dmode>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

OFF :Off
 HEX :Hex
 ASCii :ASCII
 EDIC :EBCDIC
 EDIK :EBCDIK
 JIS8 :JIS8
 EBCD :EBCD
 BAUDot :Baudot

【機能】 表示方式を設定します。

【対応画面】 Measure:Word trace 画面の PRGM Data:Display mode

【使用例】 > :DISPlay:WTRace:PRGMdata:DMODE HEX

:DISPlay:WTRace:PRGMdata:DMODE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <dmode>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:DISPlay:WTRace:PRGMdata:DMODE と同じです。

【機能】 表示方式の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Word trace 画面の PRGM Data:Display mode

【使用例】 > :DISPlay:WTRace:PRGMdata:DMODE?

< HEX

:DISPlay:WTRace:PRGMdata:ADDRESS <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

0~262143 (ステップ 1)

【機能】 表示開始アドレスを設定します。

【対応画面】 Measure:Word trace 画面の PRGM Data

【使用例】 > :DISPlay:WTRace:PRGMdata:ADDRESS 0

:DISPlay:WTRace:PRGMdata:ADDRESS?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:DISPlay:WTRace:PRGMdata:ADDRESS と同じです。

【機能】 表示開始アドレスの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Word trace 画面の PRGM Data

【使用例】 > :DISPlay:WTRace:PRGMdata:ADDRESS?

< 0

:DISPlay:WTRace:PRGMdata:SCRoll <scroll>

【パラメータ】 <scroll>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

BPAGe :プログラムパターンの上改頁スクロール Ⓐ

NPAGe :プログラムパターンの下改頁スクロール Ⓑ

UMOVE :プログラムパターンの上1行スクロール Ⓐ

DMOVE :プログラムパターンの下1行スクロール Ⓑ

【機能】 キャラクタパターンの表示位置を設定します。

【対応画面】 Measure:Word trace 画面の PRGM Data

【使用例】 > :DISPlay:WTRace:PRGMdata:SCRoll BPAGe

:DISPlay:WTRace:ASINs:MORe

【パラメータ】 なし。

【機能】 Alarm/Signal Ins.画面の改ページスクロールを設定します。

【対応画面】 Measure:Word trace 画面の Alarm/Signal Ins.

【制約】 使用するインタフェースにより、コマンドが使用できなくなります。

MU643000A :使用可

MU643000B/K :使用可

MU643000C :使用不可(実行エラー)

【使用例】 > :DISPlay:WTRace:ASINs:MORe

:DISPlay:WTRace:ASINs:MORe?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <more>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

PAGE1 : Alarm/Signal Ins.画面(1)

PAGE2 : Alarm/Signal Ins.画面(2)

【機能】 現在表示されている Alarm/Signal Ins.画面を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Word trace 画面の Alarm/Signal Ins.

【制約】 :DISPlay:WTRace:ASINs:MORe と同じです。

使用不可によるコマンドの実行後は、レスポンスは送出されないで、実行エラーとなります。

【使用例】 > :DISPlay:WTRace:ASINs:MORe?

< PAGE1

:DISPlay:ANALysis[:NAME] <analysis>

【パラメータ】 <analysis>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
 AELogging :Analyze:Error/Alarm(Logging)画面
 AEHistogram :Analyze:Error/Alarm(Histogram)画面
 【機能】 Analyze:Error/Alarm 画面での表示拡張画面を選択します。
 【対応画面】 Analyze:Error/Alarm 画面
 【使用例】 > :DISPlay:ANALysis AELogging

:DISPlay:ANALysis[:NAME]?

【パラメータ】 なし。
 【レスポンス】 <analysis>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
 :DISPlay:ANALysis[:NAME]と同じです。
 【機能】 Analyze:Error/Alarm 画面での表示拡張画面を問い合わせます。
 【対応画面】 Analyze:Error/Alarm 画面
 【使用例】 > :DISPlay:ANALysis?
 < AEL

:DISPlay:ANALysis:EALogging:SCRoll <scroll>

【パラメータ】 <scroll>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
 TPAGe :ログデータの先頭位置へ移動……………
 LPAGe :ログデータの最終位置へ移動……………
 BPAGe :ログデータの上方向へ半画面スクロール
 NPAGe :ログデータの下方向へ半画面スクロール
 UMOVe :ログデータの上1行スクロール……………
 DMOVe :ログデータの下1行スクロール……………
 【機能】 ログデータの表示位置を設定します。
 【対応画面】 Analyze:Error/Alarm 画面の Logging
 【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:EALogging:SCRoll BPAGe

:DISPlay:ANALysis:EAHistogram:ALARm1 <alarm>

【パラメータ】 <alarm>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

OFF	:Off	AIS	:AIS
ALL	:All	SA	:SA
PF	:P-fail	XL	:XL
PSL	:PSL	XA	:XA
OPD	:OPD	RAI	:RAI
FLGL	:FLGL	DISC	:Discon.
ALL0	:ALL0	MFULl	:M-Full
ALL1	:ALL1	SLOF	:ST LOF
LOS	:LOS	HAIS	:HGAIS
LOF	:LOF	BAIS	:BAIS
MLOS	:MF Loss		

- 【機能】 表示アラーム項目(Alarm1)を設定します。
- 【対応画面】 Analyze>Error/Alarm 画面の Histogram
- 【制約】 使用しているインタフェースユニットにより、使用できないパラメータがあります。
- | | |
|-------------|-----------------------------|
| MU643000A | : 全パラメータ使用可 |
| MU643000B/K | : 全パラメータ使用可 |
| MU643000C | : SA, SLOF, HAIS, BAIS 使用不可 |
- 呼制御オプション opt-01 または opt-02 が組み込まれていない場合、DISC は使用できません。
- 【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:EAHistogram:ALARm1 ALL

:DISPlay:ANALysis:EAHistogram:ALARm1?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <alarm>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

 :DISPlay:ANALysis:EAHistogram:ALARm1 と同じです。

【機能】 表示アラーム項目(Alarm1)の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Analyze>Error/Alarm 画面の Histogram

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:EAHistogram:ALARm1?
 < ALL

:DISPlay:ANALysis:EAHistogram:ALARm2 <alarm>**【パラメータ】** <alarm>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

OFF	:Off	AIS	:AIS
ALL	:All	SA	:SA
PF	:P-fail	XL	:XL
PSL	:PSL	XA	:XA
OPD	:OPD	RAI	:RAI
FLGL	:FLGL	DISC	:Discon.
ALL0	:ALL0	MFULL	:M-Full
ALL1	:ALL1	SLOF	:ST LOF
LOS	:LOS	HAIS	:HGAIS
LOF	:LOF	BAIS	:BAIS
MLOS	:MF Loss		

【機能】 表示アラーム項目(Alarm2)を設定します。**【対応画面】** Analyze:Error/Alarm 画面の Histogram**【制約】** 使用しているインタフェースユニットにより、使用できないパラメータがあります。

MU643000A : 全パラメータ使用可

MU643000B/K : 全パラメータ使用可

MU643000C : SA, SLOF, HAIS, BAIS 使用不可

呼制御オプション opt-01 または opt-02 が組み込まれていない場合, DISC は使用できません。

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:EAHistogram:ALARm2 ALL**:DISPlay:ANALysis:EAHistogram:ALARm2?****【パラメータ】** なし。**【レスポンス】** <alarm>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:DISPlay:ANALysis:EAHistogram:ALARm2 と同じです。

【機能】 表示アラーム項目(Alarm2)の設定状態を問い合わせます。**【対応画面】** Analyze:Error/Alarm 画面の Histogram**【使用例】** > :DISPlay:ANALysis:EAHistogram:ALARm2?

< ALL

:DISPlay:ANALysis:EAHistogram:ALARm3 <alarm>

【パラメータ】 <alarm>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

OFF	:Off	AIS	:AIS
ALL	:All	SA	:SA
PF	:P-fail	XL	:XL
PSL	:PSL	XA	:XA
OPD	:OPD	RAI	:RAI
FLGL	:FLGL	DISC	:Discon.
ALL0	:ALL0	MFULL	:M-Full
ALL1	:ALL1	SLOF	:ST LOF
LOS	:LOS	HAIS	:HGAIS
LOF	:LOF	BAIS	:BAIS
MLOS	:MF Loss		

【機能】 表示アラーム項目(Alarm3)を設定します。

【対応画面】 Analyze>Error/Alarm 画面の Histogram

【制約】 使用しているインタフェースユニットにより、使用できないパラメータがあります。

MU643000A	: 全パラメータ使用可
MU643000B/K	: 全パラメータ使用可
MU643000C	: SA, SLOF, HAIS, BAIS 使用不可

呼制御オプション opt-01 または opt-02 が組み込まれていない場合, DISC は使用できません。

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:EAHistogram:ALARm3 ALL

:DISPlay:ANALysis:EAHistogram:ALARm3?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <alarm>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:DISPlay:ANALysis:EAHistogram:ALARm3 と同じです。

【機能】 表示アラーム項目(Alarm3)の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Analyze>Error/Alarm 画面の Histogram

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:EAHistogram:ALARm3?

< ALL

:DISPlay:ANALysis:EAHistogram:UNIT <unit>

【パラメータ】 <unit>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
 COUNT :Count
 RATE :Rate
 【機能】 表示エラー形式を設定します。
 【対応画面】 Analyze>Error/Alarm 画面の Histogram
 【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:EAHistogram:UNIT COUNT

:DISPlay:ANALysis:EAHistogram:UNIT?

【パラメータ】 なし。
 【レスポンス】 <unit>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
 :DISPlay:ANALysis:EAHistogram:UNIT と同じです。
 【機能】 表示エラー形式の設定状態を問い合わせます。
 【対応画面】 Analyze>Error/Alarm 画面の Histogram
 【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:EAHistogram:UNIT?
 < COUN

:DISPlay:ANALysis:EAHistogram:MDISplay <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
 OFF or 0 :Off
 ON or 1 :On
 【機能】 マーカ表示の On/Off を設定します。
 【対応画面】 Analyze>Error/Alarm 画面の Histogram:Marker
 【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:EAHistogram:MDISplay ON

:DISPlay:ANALysis:EAHistogram:MDISplay?

【パラメータ】 なし。
 【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 :DISPlay:ANALysis:EAHistogram:MDISplay と同じです。
 【機能】 マーカ表示の On/Off の設定状態を問い合わせます。
 【対応画面】 Analyze>Error/Alarm 画面の Histogram:Marker
 【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:EAHistogram:MDISplay?
 < 1

:DISPlay:ANALysis:EAHistogram:SEARch <search>

【パラメータ】 <search>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
 BSEarch :Search <
 FSEarch :Search >
 【機能】 エラー/アラーム発生点の前方向/後方向検索を設定します。
 【対応画面】 Analyze>Error/Alarm 画面の Histogram:Search
 【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:EAHistogram:SEARch FSEarch

:DISPlay:ANALysis:EAHistogram:GSTime <year>,<month>,<day>,<hour>,<minute>,<second>

【パラメータ】 <year>,<month>,<day>,<hour>,<minute>,<second>=

<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

1997~2096 (ステップ 1) :<year>
 1~12 (ステップ 1) :<month>
 0~31 (ステップ 1) :<day>
 0~23 (ステップ 1) :<hour>
 0~59 (ステップ 1) :<minute>
 0~59 (ステップ 1) :<second>

【機能】 表示開始時刻を設定します。

【対応画面】 Analyze>Error/Alarm 画面の Histogram

【使用例】 表示開始時刻が 1998 年 10 月 3 日 12 時 30 分 00 秒の場合
 > :DISPlay:ANALysis:EAHistogram:GSTime 1998,10,3,12,30,0

:DISPlay:ANALysis:EAHistogram:GSTime?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <year>,<month>,<day>,<hour>,<minute>,<second>=

<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:DISPlay:ANALysis:EAHistogram:GSTime と同じです。
 ただし、データが無い場合は 9999,99,99,99,99,99 を返す。

【機能】 表示開始時刻の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Analyze>Error/Alarm 画面の Histogram

【使用例】 表示開始時刻が 1998 年 10 月 3 日 12 時 30 分 00 秒の場合
 > :DISPlay:ANALysis:EAHistogram:GSTime?
 < 1998,10,3,12,30,0

:DISPlay:ANALysis:EAHistogram:INTErval <interval>

【パラメータ】 <interval>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

SEC1 :1s
 MIN1 :1min
 MIN15 :15min
 MIN60 :60min

【機能】 グラフデータの時間軸間隔を設定します。

【対応画面】 Analyze>Error/Alarm 画面の Histogram

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:EAHistogram:INTErval SEC1

:DISPlay:ANALysis:EAHistogram:INTErval?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <interval>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:DISPlay:ANALysis:EAHistogram:INTErval と同じです。

【機能】 グラフデータの時間軸間隔の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Analyze>Error/Alarm 画面の Histogram

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:EAHistogram:INTErval?
 < SEC1

:DISPlay:ANALysis:EAHistogram:SCRoll <scroll>

【パラメータ】 <scroll>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

TPAGe	:グラフの測定開始へ移動……………	
LPAGe	:グラフの測定停止へ移動……………	
BPAGe	:グラフの左方向へ半画面スクロール…	
NPAGe	:グラフの右方向へ半画面スクロール…	
LSCRoll	:グラフの左方向へ1ラインスクロール…	
RSCRoll	:グラフの右方向へ1ラインスクロール…	
LMOVe	:マーカの左移動……………	
RMOVe	:マーカの右移動……………	

【機能】 グラフの表示位置を設定します。

【対応画面】 Analyze:Error/Alarm 画面の Histogram

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:EAHistogram:SCRoll BPAGe

:DISPlay:ANALysis:TDATa:DMODE1 <display>

【パラメータ】 <display>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

HEX	:Hex
BIN	:Bin

【機能】 入力方式を設定します。

【対応画面】 Analyze:Trace data 画面の Display Mode1

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:TDATa:DMODE1 HEX

:DISPlay:ANALysis:TDATa:DMODE1?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <display>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:DISPlay:ANALysis:TDATa:DISPlay と同じです。

【機能】 入力方式の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Analyze:Trace data 画面の Display Mode1

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:TDATa:DMODE1?
< HEX

:DISPlay:ANALysis:TDATa:DMODE2 <code>

【パラメータ】 <code>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

OFF	:Off
ASCii	:ASCII
EDIC	:EBCDIC
EDIK	:EBCDIK
JIS8	:JIS8
EBCD	:EBCD
BAUDot	:Baudot

【機能】 表示文字コードを設定します。

【対応画面】 Analyze:Trace data 画面の Display Mode2

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:TDATa:DMODE2 ASCii

:DISPlay:ANALysis:TDAa:DMODE2?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <code>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
:DISPlay:ANALysis:TDAa:CODE と同じです。

【機能】 表示文字コードの設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Analyze:Trace data 画面の Display Mode2

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:TDAa:DMODE2?
< ASC

:DISPlay:ANALysis:TDAa:BOUNDary <boundary>

【パラメータ】 <boundary>=<STRING PROGRAM DATA>
"BIT4" :4bit
"BIT5" :5bit
"BIT6" :6bit
"BIT7" :7bit
"BIT8" :8bit

【機能】 使用ビット数を設定します。

【対応画面】 Analyze:Trace data 画面の Boundary

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:TDAa:BOUNDary "BIT5"

:DISPlay:ANALysis:TDAa:BOUNDary?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boundary>=<STRING RESPONSE DATA>
:DISPlay:ANALysis:TDAa:BOUNDary と同じです。

【機能】 使用ビット数の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Analyze:Trace data 画面の Boundary

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:TDAa:BOUNDary?
< "BIT5"

:DISPlay:ANALysis:TDAa:INVert <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
OFF or 0 :Off
ON or 1 :On

【機能】 論理反転を設定します。

【対応画面】 Analyze:Trace data 画面の Invert

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:TDAa:INVert 1

:DISPlay:ANALysis:TDATa:INVert?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
:DISPlay:ANALysis:TDATa:INVert と同じです。
- 【機能】 論理反転の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Analyze:Trace data 画面の Invert
- 【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:TDATa:INVert?
< 1

:DISPlay:ANALysis:TDATa:REVerse <boolean>

- 【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
OFF or 0 :Off
ON or 1 :On
- 【機能】 MSB/LSB の反転を設定します。
- 【対応画面】 Analyze:Trace data 画面の Reverse
- 【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:TDATa:REVerse 1

:DISPlay:ANALysis:TDATa:REVerse?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
:DISPlay:ANALysis:TDATa:REVerse と同じです。
- 【機能】 MSB/LSB の反転の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Analyze:Trace data 画面の Reverse
- 【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:TDATa:REVerse?
< 1

:DISPlay:ANALysis:TDATa:SHIFt <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
0~7 (ステップ 1)
- 【機能】 バイト単位のビットシフトを設定します。
- 【対応画面】 Analyze:Trace data 画面の Shift
- 【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:TDATa:SHIFt 0

:DISPlay:ANALysis:TDATa:SHIFt?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
:DISPlay:ANALysis:TDATa:SHIFt と同じです。
- 【機能】 バイト単位のビットシフトの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Analyze:Trace data 画面の Shift
- 【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:TDATa:SHIFt?
< 0

:DISPlay:ANALysis:TDAa:ADDReSS <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
0~262143 (ステップ 1)
- 【機能】 表示開始アドレスを設定します。
- 【対応画面】 Analyze:Trace data 画面
- 【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:TDAa:ADDReSS 0

:DISPlay:ANALysis:TDAa:ADDReSS?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
:DISPlay:ANALysis:TDAa:ADDReSS と同じです。
- 【機能】 表示開始アドレスの設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Analyze:Trace data 画面
- 【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:TDAa:ADDReSS?
< 0

:DISPlay:ANALysis:TDAa:SCRoll <scroll>

- 【パラメータ】 <scroll>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
- | | | |
|-------|--------------------------|---|
| BPAGe | :トレースデータの上改ページスクロール.. |  |
| NPAGe | :トレースデータの下改ページスクロール.. |  |
| UMOVe | :トレースデータの上 1 行スクロール..... |  |
| DMOVe | :トレースデータの下 1 行スクロール..... |  |
- 【機能】 トレースデータの表示位置を設定します。
- 【対応画面】 Analyze:Trace data 画面
- 【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:TDAa:SCRoll BPAGe

:DISPlay:ANALysis:TDAa:TSEarch

- 【パラメータ】 なし。
- 【機能】 トレースデータのストップトリガのサーチを設定します。
- 【対応画面】 Analyze:Trace data 画面の Trigger search
- 【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:TDAa:TSEarch

:DISPlay:ANALysis:TDAa:SSEarch

- 【パラメータ】 なし。
- 【機能】 トレースデータの停止位置のサーチを設定します。
- 【対応画面】 Analyze:Trace data 画面の Stop search
- 【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:TDAa:SSEarch

:DISPlay:ANALysis:PMONitor:SCRoll <scroll>

【パラメータ】 <scroll>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

TPAGe	:プロトコルモニタデータの先頭位置へ移動	
LPAGe	:プロトコルモニタデータの最終位置へ移動	
BPAge	:プロトコルモニタデータの上方向へ半画面スクロール	
NPAge	:プロトコルモニタデータの下方向へ半画面スクロール	
UMOVe	:プロトコルモニタデータの上1行スクロール	
DMOVe	:プロトコルモニタデータの下1行スクロール	

【機能】 プロトコルモニタデータの表示位置を設定します。

【対応画面】 Analyze:Protocol monitor 画面

【制約】 データが無い場合は実行エラーとします。

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:PMONitor:SCRoll BPAge

:DISPlay:ANALysis:RECall:NAME?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <ranalysis>=<STRING PROGRAM DATA>

"リコールデータ名称"

ただし、リコールデータが無い場合は"No Data"を返します。

リコールデータ名称がない場合は" "を返します。

【機能】 リコールデータ名称を問い合わせます。

【対応画面】 Analyze:Recall 画面

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:RECall:NAME?

< "ISDN Error Test"

:DISPlay:ANALysis:RECall:TYPE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <rtype>=<STRING RESPONSE DATA>

"EAL" :E/A Logging

"EAH" :E/A Histgrm

"TDAT" :Trace data

ただし、データが無い場合は"No Data"を返します。

【機能】 リコールデータ種別を問い合わせます。

【対応画面】 Analyze:Recall 画面

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:RECall:TYPE?

< "EAL"

:DISPlay:ANALysis:RECall:EALogging:SCRoll <scroll>

【パラメータ】 <scroll>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

TPAGe	:ログデータ(Recall)の先頭位置へ移動	
LPAGe	:ログデータ(Recall)の最終位置へ移動	
BPAge	:ログデータ(Recall)の上方向へ半画面スクロール	
NPAge	:ログデータ(Recall)の下方向へ半画面スクロール	
UMOVe	:ログデータ(Recall)の上1行スクロール	
DMOVe	:ログデータ(Recall)の下1行スクロール	

【機能】 ログデータ(Recall)の表示位置を設定します。

【対応画面】 Analyze:Recall 画面の E/A Logging

【制約】 データが無い場合、実行エラーとします。

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:RECall:EALogging:SCRoll BPAge

:DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:ALARm1 <alarm>

【パラメータ】 <alarm>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

OFF :Off	AIS :AIS
ALL :All	SA :SA
PF :P-fail	XL :XL
PSL :PSL	XA :XA
OPD :OPD	RAI :RAI
FLGL :FLGL	DISC :Discon.
ALL0 :ALL0	MFULl:M-Full
ALL1 :ALL1	SLOF :ST LOF
LOS :LOS	HAIS :HGAIS
LOF :LOF	BAIS :BAIS
MLOS :MF Loss	

【機能】 表示アラーム項目(Recall, Alarm1)を設定します。

【対応画面】 Analyze:Recall 画面の E/A Histgrm

【制約】 データが無い場合、実行エラーとします。

使用しているインタフェースユニットにより、使用できないパラメータがあります。

MU643000A : 全パラメータ使用可

MU643000B/K : 全パラメータ使用可

MU643000C : SA, SLOF, HAIS, BAIS 使用不可

また、呼制御オプション opt-01 または opt-02 が組み込まれていない場合、DISC は使用できません。

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:ALARm1 ALL

:DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:ALARm1?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <alarm>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:ALARm1 と同じです。

ただし、データが無い場合は<alarm>=<STRING RESPONSE DATA>とし、"No Data"を返します。

【機能】 表示アラーム項目(Recall, Alarm1)の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Analyze:Recall 画面の E/A Histgrm

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:ALARm1?

< ALL

:DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:ALARm2 <alarm>

【パラメータ】 <alarm>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

OFF :Off	AIS :AIS
ALL :All	SA :SA
PF :P-fail	XL :XL
PSL :PSL	XA :XA
OPD :OPD	RAI :RAI
FLGL :FLGL	DISC :Discon.
ALL0 :ALL0	MFULL:M-Full
ALL1 :ALL1	SLOF :ST LOF
LOS :LOS	HAIS :HGAIS
LOF :LOF	BAIS :BAIS
MLOS :MF Loss	

【機能】 表示アラーム項目(Recall, Alarm2)を設定します。

【対応画面】 Analyze:Recall 画面の E/A Histgrm

【制約】 データが無い場合、実行エラーとします。

使用しているインタフェースユニットにより、使用できないパラメータがあります。

MU643000A : 全パラメータ使用可

MU643000B/K : 全パラメータ使用可

MU643000C : SA, SLOF, HAIS, BAIS 使用不可

また、呼制御オプション opt-01 または opt-02 が組み込まれていない場合、DISC は使用できません。

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:ALARm2 ALL

:DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:ALARm2?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <alarm>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:ALARm2 と同じです。

ただし、データが無い場合は<alarm>=<STRING RESPONSE DATA>とし、
"No Data"を返します。

【機能】 表示アラーム項目(Recall, Alarm2)の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Analyze:Recall 画面の E/A Histgrm

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:ALARm2?

< ALL

:DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:ALARm3 <alarm>

【パラメータ】 <alarm>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

OFF :Off	AIS :AIS
ALL :All	SA :SA
PF :P-fail	XL :XL
PSL :PSL	XA :XA
OPD :OPD	RAI :RAI
FLGL :FLGL	DISC :Discon.
ALL0 :ALL0	MFULl:M-Full
ALL1 :ALL1	SLOF :ST LOF
LOS :LOS	HAIS :HGAIS
LOF :LOF	BAIS :BAIS
MLOS :MF Loss	

【機能】 表示アラーム項目(Recall, Alarm3)を設定します。

【対応画面】 Analyze:Recall 画面の E/A Histgrm

【制約】 データが無い場合、実行エラーとします。

使用しているインタフェースユニットにより、使用できないパラメータがあります。

MU643000A : 全パラメータ使用可

MU643000B/K : 全パラメータ使用可

MU643000C : SA, SLOF, HAIS, BAIS 使用不可

また、呼制御オプション opt-01 または opt-02 が組み込まれていない場合、DISC は使用できません。

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:ALARm3 ALL

:DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:ALARm3?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <alarm>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:ALARm3 と同じです。

ただし、データが無い場合は<alarm>=<STRING RESPONSE DATA>とし、

"No Data"を返します。

【機能】 表示アラーム項目(Recall, Alarm3)の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Analyze:Recall 画面の E/A Histgrm

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:ALARm3?

< ALL

:DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:UNIT <unit>

【パラメータ】 <unit>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

COUNT :Count

RATE :Rate

【機能】 表示エラー形式(Recall)を設定します。

【対応画面】 Analyze:Recall 画面の E/A Histgrm

【制約】 データが無い場合、実行エラーとします。

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:UNIT COUNT

:DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:UNIT?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <unit>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:DISPlay:ANALysis:EAHistogram:UNIT と同じです。

ただし、データが無い場合は<unit>=<STRING RESPONSE DATA>とし、
"No Data"を返します。

【機能】 表示エラー形式(Recall)の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Analyze:Recall 画面の E/A Histgrm

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:UNIT?

< COUN

:DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:MDISplay <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>

OFF or 0 :Off

ON or 1 :On

【機能】 マーカ表示の On/Off(Recall)を設定します。

【対応画面】 Analyze:Recall 画面の E/A Histgrm:Marker

【制約】 データが無い場合、実行エラーとします。

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:MDISplay ON

:DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:MDISplay?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:MDISplay と同じです。

ただし、データが無い場合は<STRING RESPONSE DATA>とし、
"No Data"を返します。

【機能】 マーカ表示の On/Off(Recall)の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Analyze:Recall 画面の E/A Histgrm:Marker

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:MDISplay?

< 1

:DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:SEARch <search>

【パラメータ】 <search>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

BSEarch :Search <

FSEarch :Search >

【機能】 エラー/アラーム発生点の前方向/後方向検索(Recall)を設定します。

【対応画面】 Analyze:Recall 画面の E/A Histgrm:Search

【制約】 データが無い場合、実行エラーとします。

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:SEARch FSEarch

:DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:GSTime

<year>,<month>,<day>,<hour>,<minute>,<second>

【パラメータ】 <year>,<month>,<day>,<hour>,<minute>,<second>=

<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

1997~2096 (ステップ 1) :<year>

1~12 (ステップ 1) :<month>

1~31 (ステップ 1) :<day>

0~23 (ステップ 1) :<hour>

0~59 (ステップ 1) :<minute>

0~59 (ステップ 1) :<second>

【機能】 表示開始時刻(Recall)を設定します。

【対応画面】 Analyze:Recall 画面の E/A Histgrm

【制約】 データが無い場合、実行エラーとします。

【使用例】 表示開始時刻が 1998 年 10 月 3 日 12 時 30 分 00 秒の場合

> :DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:GSTime 1998,10,3,12,30,0

:DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:GSTime?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <year>,<month>,<day>,<hour>,<minute>,<second>=

<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:GSTime と同じです。

ただし、データが無い場合は 9999,99,99,99,99,99 を返します。

【機能】 表示開始時刻(Recall)の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Analyze:Recall 画面の E/A Histgrm

【使用例】 表示開始時刻が 1998 年 10 月 3 日 12 時 30 分 00 秒の場合

> :DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:GSTime?

< 1998,10,3,12,30,0

:DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:INTERval <interval>

【パラメータ】 <interval>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

SEC1 :1s

MIN1 :1min

MIN15:15min

MIN60:60min

【機能】 グラフデータの時間軸間隔(Recall)を設定します。

【対応画面】 Analyze:Recall 画面の E/A Histgrm

【制約】 データが無い場合、実行エラーとします。

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:INTERval SEC1

:DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:INTERval?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <interval>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:INTERval と同じです。

ただし、データが無い場合は<interval>=<STRING RESPONSE DATA>

とし、"No Data"を返します。

【機能】 グラフデータの時間軸間隔(Recall)の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Analyze:Recall 画面の E/A Histgrm

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:INTERval?

< SEC1

:DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:SCRoll <scroll>

【パラメータ】 <scroll>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

TPAGe :グラフの測定開始へ移動 

LPAGe :グラフの測定停止へ移動 

BPAGe :グラフの左方向へ半画面スクロール 

NPAGe :グラフの右方向へ半画面スクロール 

LMOVE :マーカの左移動 

RMOVE :マーカの右移動 

【機能】 グラフの表示位置(Recall)を設定します。

【対応画面】 Analyze:Recall 画面の E/A Histgrm

【制約】 データが無い場合、実行エラーとします。

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:SCRoll BPAGe

:DISPlay:ANALysis:RECall:TDATa:DMODE1 <display>

【パラメータ】 <display>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

HEX :Hex

BIN :Bin

【機能】 表示方式(Recall)を設定します。

【対応画面】 Analyze:Recall 画面の Trace data:Display Mode1

【制約】 データが無い場合、実行エラーとします。

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:RECall:TDATa:DMODE1 HEX

:DISPlay:ANALysis:RECall:TDATa:DMODE1?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <display>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:DISPlay:ANALysis:RECall:TDATa:DISPlay と同じです。

ただし、データが無い場合は<display>=<STRING RESPONSE DATA>
とし、"No Data"を返します。

【機能】 表示方式(Recall)の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Analyze:Recall 画面の Trace data:Display Mode1

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:RECall:TDATa:DMODE1?

< HEX

:DISPlay:ANALysis:RECall:TDATa:DMODE2 <code>

【パラメータ】 <code>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

OFF :Off

ASCii :ASCII

EDIC :EBCDIC

EDIK :EBCDIK

JIS8 :JIS8

EBCD :EBCD

BAUDot :Baudot

【機能】 表示文字コード(Recall)を設定します。

【対応画面】 Analyze:Recall 画面の Trace data:Display Mode2

【制約】 データが無い場合、実行エラーとします。

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:RECall:TDATa:DMODE2 ASCii

:DISPlay:ANALysis:RECall:TDAa:DMODE2?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <code>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:DISPlay:ANALysis:RECall:TDAa:CODE と同じです。

ただし、データが無い場合は<code>=<STRING RESPONSE DATA>とし、
"No Data"を返します。

【機能】 表示文字コード(Recall)の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Analyze:Recall 画面の Trace data:Display Mode2

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:RECall:TDAa:DMODE2?
< ASC**:DISPlay:ANALysis:RECall:TDAa:BOUNDary <boundary>**

【パラメータ】 <boundary>=<STRING PROGRAM DATA>

"BIT4" :4bit

"BIT5" :5bit

"BIT6" :6bit

"BIT7" :7bit

"BIT8" :8bit

【機能】 使用ビット数(Recall)を設定します。

【対応画面】 Analyze:Recall 画面の Trace data:Boundary

【制約】 データが無い場合、実行エラーとします。

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:RECall:TDAa:BOUNDary "BIT5"

:DISPlay:ANALysis:RECall:TDAa:BOUNDary?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boundary>=<STRING RESPONSE DATA>

:DISPlay:ANALysis:RECall:TDAa:BOUNDary と同じです。

ただし、データが無い場合は"No Data"を返します。

【機能】 使用ビット数(Recall)の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Analyze:Recall 画面の Trace data:Boundary

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:RECall:TDAa:BOUNDary?
< "BIT5"

:DISPlay:ANALysis:RECall:TDATa:INVert <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
OFF or 0 :Off
ON or 1 :On

【機能】 論理反転(Recall)を設定します。

【対応画面】 Analyze:Recall 画面の Trace data:Invert

【制約】 データが無い場合、実行エラーとします。

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:RECall:TDATa:INVert 1

:DISPlay:ANALysis:RECall:TDATa:INVert?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
:DISPlay:ANALysis:RECall:TDATa:INVert と同じです。
ただし、データが無い場合は<STRING RESPONSE DATA>とし、
"No Data"を返します。

【機能】 論理反転(Recall)の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Analyze:Recall 画面の Trace data:Invert

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:RECall:TDATa:INVert?
< 1

:DISPlay:ANALysis:RECall:TDATa:REVerse <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
OFF or 0 :Off
ON or 1 :On

【機能】 MSB/LSB の反転(Recall)を設定します。

【対応画面】 Analyze:Recall 画面の Trace data:Reverse

【制約】 データが無い場合、実行エラーとします。

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:RECall:TDATa:REVerse 1

:DISPlay:ANALysis:RECall:TDATa:REVerse?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
:DISPlay:ANALysis:RECall:TDATa:REVerse と同じです。
ただし、データが無い場合は<STRING RESPONSE DATA>とし、
"No Data"を返します。

【機能】 MSB/LSB の反転(Recall)の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Analyze:Recall 画面の Trace data:Reverse

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:RECall:TDATa:REVerse?
< 1

:DISPlay:ANALysis:RECall:TDAa:SHIFt <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
0~7 (ステップ 1)
- 【機能】 バイト単位のビットシフト(Recall)を設定します。
- 【対応画面】 Analyze:Recall 画面の Trace data:Shift
- 【制約】 データが無い場合, 実行エラーとします。
- 【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:RECall:TDAa:SHIFt 0

:DISPlay:ANALysis:RECall:TDAa:SHIFt?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
:DISPlay:ANALysis:RECall:TDAa:SHIFt と同じです。
ただし, データが無い場合は<numeric>=<STRING RESPONSE DATA>
とし, "No Data"を返します。
- 【機能】 バイト単位のビットシフト(Recall)の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Analyze:Recall 画面の Trace data:Shift
- 【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:RECall:TDAa:SHIFt?
< 0

:DISPlay:ANALysis:RECall:TDAa:ADDRess <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
0~262143 (ステップ 1)
- 【機能】 表示開始アドレス(Recall)を設定します。
- 【対応画面】 Analyze:Recall 画面の Trace data
- 【制約】 データが無い場合, 実行エラーとします。
- 【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:RECall:TDAa:ADDRess 0

:DISPlay:ANALysis:RECall:TDAa:ADDRess?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
:DISPlay:ANALysis:RECall:TDAa:ADDRess と同じです。
ただし, データが無い場合は<numeric>=<STRING RESPONSE DATA>
とし, "No Data"を返します。
- 【機能】 表示開始アドレス(Recall)の設定状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 Analyze:Recall 画面の Trace data
- 【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:RECall:TDAa:ADDRess?
< 0

:DISPlay:ANALysis:RECall:TDATa:SCRoll <scroll>

【パラメータ】 <scroll>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

BPAGe :トレースデータの上改ページスクロール… NPAGe :トレースデータの下改ページスクロール… UMOVE :トレースデータの上1行スクロール…… DMOVE :トレースデータの下1行スクロール…… 

【機能】 トレースデータの表示位置(Recall)を設定します。

【対応画面】 Analyze:Recall 画面の Trace data

【制約】 データが無い場合、実行エラーとします。

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:RECall:TDATa:SCRoll BPAGe

:DISPlay:ANALysis:RECall:TDATa:TSEarch

【パラメータ】 なし。

【機能】 トレースデータのストップトリガのサーチ(Recall)を設定します。

【対応画面】 Analyze:Recall 画面の Trace data:Trigger search

【制約】 データが無い場合、実行エラーとします。

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:RECall:TDATa:TSEarch

:DISPlay:ANALysis:RECall:TDATa:SSEarch

【パラメータ】 なし。

【機能】 トレースデータの停止位置のサーチ(Recall)を設定します。

【対応画面】 Analyze:Recall 画面の Trace data:Stop search

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:RECall:TDATa:SSEarch

:DISPlay:ANALysis:RECall:PMONitor:SCRoll <scroll>

【パラメータ】 <scroll>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

TPAGe :プロトコルモニタデータ (Recall) の先頭位置へ移動…… LPAGe :プロトコルモニタデータ (Recall) の最終位置へ移動…… BPAGe :プロトコルモニタデータ (Recall) の
上方向へ半画面スクロール…………… NPAGe :プロトコルモニタデータ (Recall) の
下方向へ半画面スクロール…………… UMOVE :プロトコルモニタデータ (Recall) の上1行スクロール… DMOVE :プロトコルモニタデータ (Recall) の下1行スクロール… 

【機能】 プロトコルモニタデータの表示位置を設定します。

【対応画面】 Analyze:Protocol monitor 画面 (Recall)

【制約】 データが無い場合は実行エラーとします。

【使用例】 > :DISPlay:ANALysis:RECall:PMONitor:SCRoll BPAGe

:DISPlay:MONitor:SElect

- 【パラメータ】 なし。
 【機能】 信号線/アラームモニタの表示を設定します。
 【対応画面】 信号線/アラームモニタ表示エリア
 【使用例】 > :DISPlay:MONitor:SElect

:DISPlay:MONitor:SElect?

- 【パラメータ】 なし。
 【レスポンス】 <select>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
 TX :Tx
 RX :Rx
 TXRX :Tx&Rx
 【機能】 信号線/アラームモニタの表示の設定状態を問い合わせます。
 【対応画面】 信号線/アラームモニタ表示エリア
 【使用例】 > :DISPlay:MONitor:SElect?
 < TX

:DISPlay:MONitor:HISTory <boolean>

- 【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
 OFF or 0 :Off
 ON or 1 :On
 【機能】 信号線/アラームモニタのヒストリ表示を設定します。
 【対応画面】 信号線/アラームモニタ表示エリア
 【使用例】 > :DISPlay:MONitor:HISTory 0

:DISPlay:MONitor:HISTory?

- 【パラメータ】 なし。
 【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 :DISPlay:MONitor:HISTory と同じです。
 【機能】 信号線/アラームモニタのヒストリ表示の設定状態を問い合わせます。
 【対応画面】 信号線/アラームモニタ表示エリア
 【使用例】 > :DISPlay:MONitor:HISTory?
 < 0

:DISPlay:SCROff:START

- 【パラメータ】 なし。
【機能】 スクリーンオフ機能開始を設定します。
【対応画面】 スクリーンオフボタン用エリア
【制約】 スクリーンオフ中の場合、本機能は無視され実行エラーとします。
【使用例】 > :DISPlay:SCROff:START

:DISPlay:SCROff:STOP

- 【パラメータ】 なし。
【機能】 スクリーンオフ機能停止を設定します。
【対応画面】 スクリーンオフボタン用エリア
【使用例】 > :DISPlay:SCROff:STOP

:DISPlay:SCROff:STATe?

- 【パラメータ】 なし。
【レスポンス】 <state>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
 SOFF :スクリーンオフ状態
 SON :スクリーンオン状態
【機能】 スクリーンオフ/オフの状態を問い合わせます。
【対応画面】 なし。
【使用例】 > :DISPlay:SCROff:STATe?
 < SON

6.6 CALCulate サブシステム

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TYPE <perform>

【パラメータ】 <perform>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

OFF :OFF

G821 :G.821

G826 :G.826

M2100 :M.2100

【機能】 パフォーマンス測定を設定します。

【対応画面】 Measure>Error/Alarm:Cond.2 画面の Performance

【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:TYPE G826

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TYPE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <perform>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TYPE と同じです。

【機能】 パフォーマンス測定の種類を問い合わせます。

【対応画面】 Measure>Error/Alarm:Cond.2 画面の Performance

【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:TYPE?

< M2100

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:ES:SET <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>

OFF or 0 :Off

ON or 1 :On

【機能】 M.2100 パフォーマンス測定、送信ラインのスレシヨルド判定(TxES)を行うかどうかを設定します。

【対応画面】 Measure>Error/Alarm:Cond.2 画面の Tx Threshold:ES

【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:ES:SET ON

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:ES:SET?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:ES:SET と同じです。

【機能】 M.2100 パフォーマンス測定、送信ラインのスレシヨルド判定(TxES)の設定を問い合わせます。

【対応画面】 Measure>Error/Alarm:Cond.2 画面の Tx Threshold:ES

【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:ES:SET?

< 1

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:ES:S1 <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
0~99999 (ステップ 1)
- 【機能】 M.2100 TxES の S1(スレシヨルドの下限值)を設定します。
- 【対応画面】 Measure>Error/Alarm:Cond.2 画面の Tx Threshold:ES:S1
- 【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:ES:S1 4

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:ES:S1?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:ES:S1 と同じです。
- 【機能】 M.2100 TxES の S1(スレシヨルドの下限值)を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure>Error/Alarm:Cond.2 画面の Tx Threshold:ES:S1
- 【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:ES:S1?
< 4

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:ES:S2 <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
0~99999 (ステップ 1)
- 【機能】 M.2100 TxES の S2(スレシヨルドの上限値)を設定します。
- 【対応画面】 Measure>Error/Alarm:Cond.2 画面の Tx Threshold:ES:S2
- 【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:ES:S2 9994

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:ES:S2?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:ES:S2 と同じです。
- 【機能】 M.2100 TxES の S2(スレシヨルドの上限値)を問い合わせます。
- 【対応画面】 Measure>Error/Alarm:Cond.2 画面の Tx Threshold:ES:S2
- 【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:ES:S2?
< 9994

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:SES:SET <boolean>

- 【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
OFF or 0 :Off
ON or 1 :On
- 【機能】 M.2100 パフォーマンス測定、送信ラインのスレシヨルド判定(TxSES)を行うかどうかを設定します。
- 【対応画面】 Measure>Error/Alarm:Cond.2 画面の Tx Threshold:SES
- 【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:SES:SET ON

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:SES:SET?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:SES:SET と同じです。

【機能】 M.2100 パフォーマンス測定、送信ラインのスレシヨルド判定(TxSES)の設定を問い合わせます。

【対応画面】 Measure>Error/Alarm:Cond.2 画面の Tx Threshold:SES

【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:SES:SET?
< 1**:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:SES:S1 <numeric>**【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
0~99999 (ステップ 1)

【機能】 M.2100 TxSES の S1(スレシヨルドの下限值)を設定します。

【対応画面】 Measure>Error/Alarm:Cond.2 画面の Tx Threshold:SES:S1

【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:SES:S1 15

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:SES:S1?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:SES:S1 と同じです。

【機能】 M.2100 TxSES の S1(スレシヨルドの下限值)を問い合わせます。

【対応画面】 Measure>Error/Alarm:Cond.2 画面の Tx Threshold:SES:S1

【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:SES:S1?
< 15**:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:SES:S2 <numeric>**【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
0~99999 (ステップ 1)

【機能】 M.2100 TxSES の S2(スレシヨルドの上限値)を設定します。

【対応画面】 Measure>Error/Alarm:Cond.2 画面の Tx Threshold:SES:S2

【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:SES:S2 99999

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:SES:S2?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:SES:S2 と同じです。

【機能】 M.2100 TxSES の S2(スレシヨルドの上限値)を問い合わせます。

【対応画面】 Measure>Error/Alarm:Cond.2 画面の Tx Threshold:SES:S2

【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:SES:S2?
< 99999

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:US:SET <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>

OFF or 0 :Off

ON or 1 :On

【機能】 M.2100 パフォーマンス測定、送信ラインのスレシヨルド判定(TxUS)を行うかどうかを設定します。

【対応画面】 Measure>Error/Alarm:Cond.2 画面の Tx Threshold:US

【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:US:SET ON

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:US:SET?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:US:SET と同じです。

【機能】 M.2100 パフォーマンス測定、送信ラインのスレシヨルド判定(TxES)の設定を問い合わせます。

【対応画面】 Measure>Error/Alarm:Cond.2 画面の Tx Threshold:US

【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:US:SET?

< 1

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:US:S1 <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

0~99999 (ステップ 1)

【機能】 M.2100 TxUS の S1(スレシヨルドの下限值)を設定します。

【対応画面】 Measure>Error/Alarm:Cond.2 画面の Tx Threshold:US:S1

【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:US:S1 4

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:US:S1?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:US:S1 と同じです。

【機能】 M.2100 TxES の S1(スレシヨルドの下限值)を問い合わせます。

【対応画面】 Measure>Error/Alarm:Cond.2 画面の Tx Threshold:US:S1

【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:US:S1?

< 4

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:US:S2 <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

0~99999 (ステップ 1)

【機能】 M.2100 TxUS の S2(スレシヨルドの上限値)を設定します。

【対応画面】 Measure>Error/Alarm:Cond.2 画面の Tx Threshold:US:S2

【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:US:S2 9994

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:US:S2?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:US:S2 と同じです。

【機能】 M.2100 TxUS の S2(スレシヨルドの上限値)を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm:Cond.2 画面の Tx Threshold:US:S2

【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:US:S2?
< 9994**:CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:ES:SET <boolean>**

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>

OFF or 0 :Off

ON or 1 :On

【機能】 M.2100 パフォーマンス測定、送信ラインのスレシヨルド判定(RxES)を行うかどうかを設定します。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm:Cond.2 画面の Rx Threshold:ES

【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:ES:SET ON

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:ES:SET?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:ES:SET と同じです。

【機能】 M.2100 パフォーマンス測定、受信ラインのスレシヨルド判定(RxES)の設定を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm:Cond.2 画面の Rx Threshold:ES

【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:ES:SET?
< 1**:CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:ES:S1 <numeric>**

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

0~99999 (ステップ 1)

【機能】 M.2100 RxES の S1(スレシヨルドの下限值)を設定します。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm:Cond.2 画面の Rx Threshold:ES:S1

【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:ES:S1 4

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:ES:S1?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:ES:S1 と同じです。

【機能】 M.2100 RxES の S1(スレシヨルドの下限值)を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm:Cond.2 画面の Rx Threshold:ES:S1

【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:ES:S1?
< 4

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:ES:S2 <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
0~99999 (ステップ 1)

【機能】 M.2100 RxES の S2(スレシヨルドの上限値)を設定します。

【対応画面】 Measure>Error/Alarm:Cond.2 画面の Rx Threshold:ES:S2

【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:ES:S2 9994

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:ES:S2?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:ES:S2 と同じです。

【機能】 M.2100 RxES の S2(スレシヨルドの上限値)を問い合わせます。

【対応画面】 Measure>Error/Alarm:Cond.2 画面の Rx Threshold:ES:S2

【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:ES:S2?
< 9994

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:SES:SET <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>
OFF or 0 :Off
ON or 1 :On

【機能】 M.2100 パフォーマンス測定、受信ラインのスレシヨルド判定(RxSES)を行うかどうかを設定します。

【対応画面】 Measure>Error/Alarm:Cond.2 画面の Rx Threshold:SES

【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:SES:SET ON

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:SES:SET?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:SES:SET と同じです。

【機能】 M.2100 パフォーマンス測定、受信ラインのスレシヨルド判定(RxSES)の設定を問い合わせます。

【対応画面】 Measure>Error/Alarm:Cond.2 画面の Rx Threshold:SES

【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:SES:SET?
< 1

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:SES:S1 <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
0~99999 (ステップ 1)

【機能】 M.2100 RxSES の S1(スレシヨルドの下限值)を設定します。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm:Cond.2 画面の Rx Threshold:SES:S1

【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:SES:S1 15

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:SES:S1?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:SES:S1 と同じです。

【機能】 M.2100 RxSES の S1(スレシヨルドの下限值)を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm:Cond.2 画面の Rx Threshold:SES:S1

【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:SES:S1?
< 15

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:SES:S2 <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
0~99999 (ステップ 1)

【機能】 M.2100 RxSES の S2(スレシヨルドの上限値)を設定します。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm:Cond.2 画面の Rx Threshold:SES:S2

【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:SES:S2 99999

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:SES:S2?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:SES:S2 と同じです。

【機能】 M.2100 RxSES の S2(スレシヨルドの上限値)を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm:Cond.2 画面の Rx Threshold:SES:S2

【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:SES:S2?
< 99999

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:US:SET <boolean>

【パラメータ】 <boolean>=<BOOLEAN PROGRAM DATA>

OFF or 0 :Off

ON or 1 :On

【機能】 M.2100 パフォーマンス測定、受信ラインのスレシヨルド判定(RxUS)を行うかどうかを設定します。

【対応画面】 Measure>Error/Alarm:Cond.2 画面の Rx Threshold:US

【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:US:SET ON

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:US:SET?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <boolean>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:US:SET と同じです。

【機能】 M.2100 パフォーマンス測定、受信ラインのスレシヨルド判定(RxUS)の設定を問い合わせます。

【対応画面】 Measure>Error/Alarm:Cond.2 画面の Rx Threshold:US

【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:US:SET?

< 1

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:US:S1 <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

0~99999 (ステップ 1)

【機能】 M.2100 RxUS の S1(スレシヨルドの下限值)を設定します。

【対応画面】 Measure>Error/Alarm:Cond.2 画面の Rx Threshold:US:S1

【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:US:S1 15

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:US:S1?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:US:S1 と同じです。

【機能】 M.2100 RxUS の S1(スレシヨルドの下限值)を問い合わせます。

【対応画面】 Measure>Error/Alarm:Cond.2 画面の Rx Threshold:US:S1

【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:US:S1?

< 15

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:US:S2 <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
0~99999 (ステップ 1)

【機能】 M.2100 RxUS の S2(スレシヨルドの上限値)を設定します。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm:Cond.2 画面の Rx Threshold:US:S2

【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:US:S2 99999

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:US:S2?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

:CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:US:S2 と同じです。

【機能】 M.2100 RxUS の S2(スレシヨルドの上限値)を問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm:Cond.2 画面の Rx Threshold:US:S2

【使用例】 > :CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:US:S2?
< 99999

:CALCulate:DATA? <string>

【パラメータ】 <string>=<STRING PROGRAM DATA>

"[CURRent:]<result>" :現在の測定結果

"LAST:<result>" :直前の測定結果

<result>の内容は「表 6.6-1 測定結果の問い合わせ内容」を参照してください。

【レスポンス】 <string>=<STRING RESPONSE DATA>

6-219ページ, 「表 6.6-2 レスポンスタイプの内容」を参照してください。

【機能】 パラメータに対応した測定結果を問い合わせます。

【対応画面】 Measure 画面の各測定結果画面

【使用例】 > :CALCulate:DATA? "CURRent:TX:EC"

または

:CALCulate:DATA? "TX:EC" (CURRent:は省略可)

< " 123456"

表 6.6-1 測定結果の問い合わせ内容

項 目		<result>	レスポンスフォーマット
Error/Alarm	Tx Error	Error count	"TX:EC"
		Error rate	"TX:ER"
		ES	"TX:ES"
		EFS	"TX:EFS"
	Tx G.821	G.821 ES	"TX:G821:ES2"
		G.821 EFS	"TX:G821:EFS2"
		G.821 SES	"TX:G821:SES2"
		G.821 US	"TX:G821:US2"
		G.821 DM	"TX:G821:DM2"
		G.821 AT	"TX:G821:AT2"
		G.821 %ES	"TX:G821:ES"
		G.821 AnD%ES	"TX:G821:ES3"
		G.821 %EFS	"TX:G821:EFS"
		G.821 %SES	"TX:G821:SES"
		G.821 %US	"TX:G821:US"
		G.821 %DM	"TX:G821:DM"
		G.821 %AT	"TX:G821:AT"
	Tx G.826	G.826 EB	"TX:G826:EB"
		G.826 ES	"TX:G826:ES"
		G.826 SES	"TX:G826:SES"
		G.826 BBE	"TX:G826:BBE"
		G.826 ESR	"TX:G826:ESR"
		G.826 SESR	"TX:G826:SESR"
		G.826 BBER	"TX:G826:BBER"
		G.826 US	"TX:G826:US"
		G.826 AT	"TX:G826:AT"
	Tx M.2100	M.2100 Tx ES	"TX:M2100:ES"
		M.2100 Tx SES	"TX:M2100:SES"
		M.2100 Tx US	"TX:M2100:US"
		M.2100 Tx AT	"TX:M2100:AT"
		M.2100 Tx TEST	"TX:M2100:TEST"
	Tx HDLC Frame	Bad frame count	"TX:BFC"
		Abort frame count	"TX:AFC"
	Tx Alarm	All alarm	"TX:AA"
		Power fail	"TX:PF"
		OPD	"TX:OPD"
		FLGL	"TX:FLGL"
		ALL0	"TX:ALL0"
		ALL1	"TX:ALL1"
		LOS	"TX:LOS"
		LOF	"TX:LOF"
		MF Loss	"TX:MLOSs"
		AIS	"TX:AIS"
		SA	"TX:SA"
		XL	"TX:XL"
		XA	"TX:XA"
		RAI	"TX:RAI"
		ST LOF	"TX:SLOF"
		HGAIS	"TX:HAIS"
		BAIS	"TX:BAIS"

項 目		<result>	リスト・フォーマット	
Error/Alarm	Rx Error	Error count	"RX:EC"	Form1
		Error rate	"RX:ER"	Form2
		Block error count	"RX:BEC"	Form1
		Block error rate	"RX:BER"	Form2
		ES	"RX:ES"	Form1
		EFS	"RX:EFS"	Form1
		Clock slip count	"RX:CSC"	Form1
		Clock slip second	"RX:CSS"	Form1
		Character error count	"RX:CEC"	Form1
		PSL Count	"RX:PC"	Form1
	Rx G.821	G.821 ES	"RX:G821:ES2"	Form1
		G.821 EFS	"RX:G821:EFS2"	Form1
		G.821 SES	"RX:G821:SES2"	Form1
		G.821 US	"RX:G821:US2"	Form1
		G.821 DM	"RX:G821:DM2"	Form1
		G.821 AT	"RX:G821:AT2"	Form1
		G.821 %ES	"RX:G821:ES"	Form3
		G.821 And%ES	"RX:G821:ES3"	Form3
		G.821 %EFS	"RX:G821:EFS"	Form3
		G.821 %SES	"RX:G821:SES"	Form3
		G.821 %US	"RX:G821:US"	Form3
		G.821 %DM	"RX:G821:DM"	Form3
		G.821 %AT	"RX:G821:AT"	Form3
		Rx G.826	G.826 EB	"RX:G826:EB"
	G.826 ES		"RX:G826:ES"	Form1
	G.826 SES		"RX:G826:SES"	Form1
	G.826 BBE		"RX:G826:BBE"	Form1
	G.826 ESR		"RX:G826:ESR"	Form2
	G.826 SESR		"RX:G826:SESR"	Form2
	G.826 BBER		"RX:G826:BBER"	Form2
	G.826 US		"RX:G826:US"	Form1
	G.826 AT		"RX:G826:AT"	Form1
Rx M.2100	M.2100 Rx ES	"RX:M2100:ES"	Form1	
	M.2100 Rx SES	"RX:M2100:SES"	Form1	
	M.2100 Rx US	"RX:M2100:US"	Form1	
	M.2100 Rx AT	"RX:M2100:AT"	Form1	
	M.2100 Rx TEST	"RX:M2100:TEST"	Form4	
Rx HDLC Frame	Bad frame count	"RX:BFC"	Form1	
	Abort frame count	"RX:AFC"	Form1	

6章 リモートコマンドフォーマット

項 目			<result>	レスポンスフォーマット
Error/Alarm	Rx Alarm	All alarm	"RX:AA"	Form1
		Power fail	"RX:PF"	Form1
		PSL	"RX:PSL"	Form1
		OPD	"RX:OPD"	Form1
		FLGL	"RX:FLGL"	Form1
		ALL0	"RX:ALL0"	Form1
		ALL1	"RX:ALL1"	Form1
		LOS	"RX:LOS"	Form1
		LOF	"RX:LOF"	Form1
		MF Loss	"RX:MLOSs"	Form1
		AIS	"RX:AIS"	Form1
		SA	"RX:SA"	Form1
		XL	"RX:XL"	Form1
		XA	"RX:XA"	Form1
		RAI	"RX:RAI"	Form1
		Disconnection	"RX:DISC"	Form4
		ST LOF	"RX:SLOF"	Form1
		HGAIS	"RX:HAIS"	Form1
		BAIS	"RX:BAIS"	Form1
Frame Relay		Test sequence count	"FRELay:TSC"	Form1
		Complete sequence count	"FRELay:CSC"	Form1
		Incomplete CR sequence count	"FRELay:ICRSc"	Form1
		Incomplete DT sequence count	"FRELay:IDTSc"	Form1
		Incomplete CQ sequence count	"FRELay:ICQSc"	Form1
		Receive CR packet count	"FRELay:RCRPc"	Form1
		Receive DT packet count	"FRELay:RDTPc"	Form1
		Receive CQ packet count	"FRELay:RCQPc"	Form1
		Bad frame count	"FRELay:BFC"	Form1
		Abort frame count	"FRELay:AFC"	Form1
Delay		Current	"DELay"	Form5
		Min.	"DELay:MIN"	Form5
		Max.	"DELay:MAX"	Form5
Frequency		Current	"FREQuency"	Form6
Digital level		Current	"DLEVel"	Form7

表 6.6-2 レスポンスタイプの内容

形 式	フォーマット	説 明
Form1 整数型	" XXXXXX"	0 ≤ 値 ≤ 999,999 の場合。9 文字中右詰め 6 文字。 > :CALCulate:DATA? "TX:EC" < " 892"
	" X.XXE+XX"	1.0E+06 ≤ 値 ≤ 9.9E+15 の場合。9 文字中右詰め 8 文字。 > :CALCulate:DATA? "TX:G821:ES2" < " 1.23E+07"
	">9.99E+15"	1.00E+16 ≤ 値 の場合。
	"-----"	問い合わせに該当するデータがない場合。
Form2 小数型	" 0.00E+00"	値=0 かつ、母数=1 の場合、。9 文字中右詰め 8 文字。
	" 0.00E-XX"	値=0 の場合。9 文字中右詰め 8 文字。
	"<1.00E-15"	値 ≤ 9.99E-16 の場合。
	" X.XXE-XX"	1.00E-15 ≤ 値 ≤ 9.99E-01 の場合。9 文字中右詰め 8 文字。 > :CALCulate:DATA? "TX:ER" < " 1.23E-05"
	" 1.00E+00"	値=1 の場合。9 文字中右詰め 8 文字。
	"-----"	問い合わせに該当するデータがない場合。
Form3 %型	"XXX.XX"	0.00 ~ 100.00 > :CALCulate:DATA? "TX:G821:ES" < " 1.23"
	"-----"	問い合わせに該当するデータがない場合。
Form4 判定型	" Acceptable"	12 文字右詰めで表現する。
	"Unacceptable"	M.2100 Test 時は" Acceptable","Unacceptable"," Degraded"
	" Degraded"	Alarm Disconnection 時は" Occured"," "
	" Occured"	" "
Form5 時間型	"-----"	問い合わせに該当するデータがない場合。
	"XXXXXX.XXX"	0.0001 ~ 10000.000 > :CALCulate:DATA? "DElay:CURRent" < " 123.456"
	" Timeout"	10000.001 ≤ 値 の場合。
Form6 周波数型	"-----"	問い合わせに該当するデータがない場合。
	"XXXXXX.XX"	Gate time = 100ms で、0.00 ≤ 値 ≤ 99999.99 の場合。 9 文字中右詰め 8 文字。 >:CALCulate:DATA? "FREQuency" < " 1234.56"
	"XXXXXX.XXX"	Gate time = 1s で 0.000 ≤ 値 ≤ 99999.999 の場合。 >:CALCulate:DATA? "FREQuency" < " 123.456"
	"XXXX.XXXXX"	Gate time = 10s で 0.0000 ≤ 値 ≤ 9999.9999 の場合。 >:CALCulate:DATA? "FREQuency" < " 123.4567"
	" Overflow"	上記の各上限値 < 値
	"-----"	問い合わせに該当するデータがない場合。

形 式	フォーマット	説 明
Form7 dBm 型	" +X.X"	0<値≤3.0dBm の場合。9 文字中右詰め。 > :CALCulate:DATA? "DLEVel" < " +2.3"
	" 0.0"	値=0 の場合。 9 文字中右詰め。
	" -XX.X"	-60.0dBm≤値<0 の場合。9 文字中右詰め。 > :CALCulate:DATA? "DLEVel" < " -45.6"
	" Overflow"	3.0dBm<値
	"Underflow"	値<-60.0dBm
	"-----"	問い合わせに該当するデータがない場合。

:CALCulate:MDATa[:RESult]? <rmode>

【パラメータ】 <rmode>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

CURRent :Current

LAST :Last

【レスポンス】 <year1>,<month1>,<day1>,<hour1>,<minute1>,<second1>,<day2>,<hour2>,<minute2>,<second2>,<response>,<response>,...,<response>

<year1>,<month1>,<day1>,<hour1>,<minute1>,<second1>=<

<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1997~2096 :<year1>

1~12 :<month1>

1~31 :<day1>

0~23 :<hour1>

0~59 :<minute1>

0~59 :<second1>

※データ無効時は、0,0,0,0,0,0 とします。

<day2>,<hour2>,<minute2>,<second2>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

0~99 :<day2>

0~23 :<hour2>

0~59 :<minute2>

0~59 :<second2>

※データ無効時は、0,0,0,0,0,0 とします。

<response>=<STRING RESPONSE DATA>

Measure 画面の測定結果 :6-216ページ, 表 6.6-1 (順序は表 6-1 の降り順)

信号線/アラームモニタ :CALCulate:MONitor:SALarm?の<boolean>と同じです。

受信データモニタ :CALCulate:MONitor:DATA8?と同じです。

共通アラームモニタ :CALCulate:MONitor:COMMon?と同じです。

シグナリングビットモニタ :CALCulate:MONitor:SBIT?と同じです。

フレームビットモニタ :CALCulate:MONitor:FAS?と同じです。

【機能】 :CALCulate:MDATa:SET で設定した測定結果を問い合わせます。

<response>の順序は上記の下り順となります。

測定データは、現在の測定モードに従います。

【対応画面】 Measure 画面の測定結果画面・シグナリングビットモニタ・フレームビットモニタ・信号線/アラームモニタ・受信データモニタ

【使用例】 測定開始時刻 1998 年 9 月 23 日 8 時 49 分 11 秒, 測定経過時間 18 日 5 時 23 分 29 秒の状態, :CALCulate:MDATa:SET で"TX:ERR"と"DATA"を選択して, 測定結果を問い合わせた場合

> :CALCulate:MDATa? CURRent

< 1998,9,23,8,49,11,18,5,23,29," 123456"," 1.23E-12",..., "00000000:11111111"

:CALCulate:MDATa:SET <item1>[,<item2>]...[,<item26>]

【パラメータ】 <item1>[,<item2>]...[,<item22>]=<STRING PROGRAM DATA>

"TX:ERR"	:Tx Error
"TX:G821"	:Tx G.821
"TX:G826"	:Tx G.826
"TX:M2100"	:Tx M.2100
"TX:HDLC"	:Tx HDLC Frame
"TX:ALAR"	:Tx Alarm
"RX:ERR"	:Rx Error
"RX:G821"	:Rx G.821
"RX:G826"	:Rx G.826
"RX:M2100"	:Rx M.2100
"RX:HDLC"	:Rx HDLC Frame
"RX:ALAR"	:Rx Alarm
"FRAME"	:Frame Relay
"DElay"	:Delay
"FREquency"	:Frequency
"DLEVel"	:Digital level
"TX:SALarm"	:信号線アラームモニタ (送信)
"RX:SALarm"	:信号線アラームモニタ (受信)
"TXRX:SALarm"	:信号線アラームモニタ (送受信)
"DATA"	:受信データモニタ
"TX:COMMon"	:共通アラームモニタ (送信)
"RX:COMMon"	:共通アラームモニタ (受信)
"TX:SBIT"	:シグナリングビットモニタ (送信)
"RX:SBIT"	:シグナリングビットモニタ (受信)
"TX:FBIT"	:フレームビットモニタ (送信)
"RX:FBIT"	:フレームビットモニタ (受信)

【機能】 :CALCulate:MDATa[:RESult]?に対する測定結果項目を設定します。

初期値は"TX:ERR","TX:ALAR","RX:ERR","RX:ALAR"

【対応画面】 Measure 画面の測定結果画面・シグナリングビットモニタ・フレームビットモニタ・信号線/アラームモニタ・受信データモニタ・共通アラームモニタ

【制約】 同じ項目が設定された場合、2つ目以降の項目は無視します。

:CALCulate:MDATa[:RESult]?の出力は本コマンドの設定パラメータ順となります。

【使用例】 > :CALCulate:MDATa:SET "TX:ERR","TX:ALAR","DATA","TX:COMM"

:CALCulate:MDATa:SET?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <item1>[,<item2>]...[,<item26>]=<STRING RESPONSE DATA>

:CALCulate:MDATa:SET と同じです。

【機能】 :CALCulate:MDATa[:RESult]?に対する測定結果項目の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Measure 画面の全測定結果画面・シグナリングビットモニタ・フレームビットモニタ・信号線/アラームモニタ・受信データモニタ・共通アラームモニタ

【使用例】 > :CALCulate:MDATa:SET?
< "TX:ERR","TX:ALAR","DATA","TX:COMM"

:CALCulate:ANALysis:EALogging:DATA? <start>,<stop>

【パラメータ】 <start>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

1～ (ステップ 1) :取得ログデータ先頭行

<stop>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

1～ (ステップ 1) :取得ログデータ最終行

-1 :ログの最終行までを取得

【レスポンス】 <ldata>=<STRING RESPONSE DATA>

"ログデータの内容 (1 行) "

ただし、ログデータが存在しない場合は"No Data"を返します。

【機能】 Error/Alarm 測定ログデータを問い合わせます。

【対応画面】 Analyze:Error/Alarm 画面の Logging

【制約】 <start> > <stop>の場合は<start>値のみを受け付けます。

<stop>がログの最終行より大きい場合は、ログ最終行の後に END が返却されます。

【使用例】 100～105 行のデータを読み出す場合で、102 行までしかなかった場合

> :CALCulate:ANALysis:EALogging:DATA? 100,105

< " 23:05:47 27/Sep/1998

" Error count

>9.99E15",

" PSL

Occur",

" END

"

:CALCulate:ANALysis:EAHistogram:DATA?

<numeric1>,<numeric2>,<numeric3>,<numeric4>,<numeric5>,<numeric6>,<number>

【パラメータ】 <DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

読み出しデータの開始年月日時分秒, データ数

<numeric1>~<numeric6> :開始年月日時分秒

<number> :データ数

【レスポンス】 <time>,<alarm1>,<alarm2>,<alarm3>,<error1>,<error2>[,<alarm1>,....]

<time>=<year>,<month>,<day>,<hour>,<minute>,<second>

読み出しデータの年月日時分秒

パラメータで指定した時間のデータがない場合, 指定時間以降で最も近い時間のデータを出力します。

<year>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

年 0,1997~2096

<month>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

月 0,1~12

<day>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

日 0,1~31

<hour>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

時 0~23

<minute>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

分 0~59

<second>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

秒 0~59

<alarm1>=<STRING RESPONSE DATA>

アラーム 1 の発生時間(s)

Form1 (DISC,MFUL1 時は Form4)

<alarm2>=<STRING RESPONSE DATA>

アラーム 2 の発生時間(s)

Form1 (DISC,MFUL1 時は Form4)

<alarm3>=<STRING RESPONSE DATA>

アラーム 3 の発生時間(s)

Form1 (DISC,MFUL1 時は Form4)

<error1>=<STRING RESPONSE DATA>

エラーカウント値

Form1

<error2>=<STRING RESPONSE DATA>

エラーレート値

Form2

※Form1, Form2, Form4 : 6-219ページ, 「表 6.6-2 レスポンスタイプの内容」を参照してください。

※データがない場合

<0,0,0,0,0,0,"-----","-----","-----","-----","-----">

【機能】 Error/Alarm の分析結果を問い合わせます。

分解能は測定時の分解能 (Measure 画面の Cond.1 の Histogram Resolution) に左右されます。

【対応画面】 Analyze>Error/Alarm 画面の Histogram

【制約】 最終データを越える場合は, 最終データの後に"END"が返却されます。

- 【使用例】 1998 年 10 月 11 日 1 時 23 分 45 秒から 3 本の分析データを読み出す場合
 > :CALCulate:ANALysis:EAHistogram:DATA? 1998,10,11,1,23,45,3
 < 1998,10,11,1,23,45,3," 0"," 0"," 0"," 0",
 " 0.00E-00"," 123456"," 123456"," 123456"," 123456"," 1.23E-12",
 ">9.99E+15",">9.99E+15",">9.99E+15",">9.99E+15","<1.00E-15"
- :CALCulate:ANALysis:TDAa:DATA? <address1>,<address2>
 【パラメータ】 <address1>,<address2>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 <address1> :取り込み開始アドレス
 <address2> :取り込み終了アドレス
 トレースデータ数より大きいアドレスが指定された場合は、最終アドレスま
 でを出力とします。
- 【レスポンス】 <address1>,<address2>,<tdate>
 <address1>,<address2>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 取り込み開始・終了アドレス。
 <tdate>=<STRING RESPONSE DATA>
 "00,11,23,AB,...,FF"(HEX 表示)
- 【機能】 ワードトレースのトレース結果の取り込みを行います。
- 【対応画面】 Analyze:Trace data 画面
- 【制約】 <address1> > <address2>の場合は<address1>値のみを受け付けます。
 トレースデータが存在しない場合は、<address1>,<address1>,""を返却します。
- 【使用例】 トレースデータ数が 20 しかない場合
 > :CALCulate:ANALysis:TDAa:DATA? 0,50
 < 0,19,"41,42,43,44,45,46,47,48,49,4A,4B,4C,4D,4E,4F,50,51,52,53,54"
- :CALCulate:ANALysis:TDAa:NUMBer?
 【パラメータ】 なし
- 【レスポンス】 <number>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 Boundary を 8bit としたときの値です。
- 【機能】 ワードトレースのトレースバイト数の問い合わせをします。
- 【対応画面】 Analyze:Trace data 画面
- 【制約】 ワードトレースが実行されていない場合は実行エラーとします。
- 【使用例】 > :CALCulate:ANALysis:TDAa:NUMBer?
 < 20
- :CALCulate:ANALysis:TDAa:STRigger?
 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <strigger>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 0~131070 :ストップトリガアドレス
 ただし、トリガアドレスがない場合は、"No Data"を返却します。
- 【機能】 ワードトレースのストップトリガアドレスの問い合わせをします。
- 【対応画面】 Analyze:Trace data 画面
- 【使用例】 > :CALCulate:ANALysis:TDAa:STRigger?
 < 143

:CALCulate:ANALysis:PMONitor:DATA? <start>,<stop>

- 【パラメータ】 <start>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 1～（ステップ 1） :取得プロトコルモニタデータ先頭行
 <stop>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 1～（ステップ 1） :取得プロトコルモニタデータ最終行
 -1 :プロトコルモニタデータの最終行までを取得
- 【レスポンス】 <ldata>=<STRING RESPONSE DATA>
 "プロトコルモニタデータの内容（1 行）"
 ただし、プロトコルモニタデータが存在しない場合は"No Data"を返します。
- 【機能】 プロトコルモニタの内容を問い合わせます。
- 【対応画面】 Analyze:Protocol monitor 画面
- 【制約】 <start> > <stop>の場合は<start>値だけを受け付けます。
 <stop>がプロトコルモニタデータの最終行より大きい場合は、プロトコルモニタデータ最終行の後に END が返却されます。
- 【使用例】 100～105 行のデータを読み出す場合で、102 行までしかなかった場合
 < " 009 12:35:07.1 < I STAT TEI= 0 CR= 12 ",
 " 00010203 04050607 08090A0B 0C0D0E0F ",
 " 10111213 14151617 18191 ",
 "END "

:CALCulate:ANALysis:RECall:EALogging:DATA? <start>,<stop>

- 【パラメータ】 <start>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 1～（ステップ 1） :取得ログデータ先頭行
 <stop>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 1～（ステップ 1） :取得ログデータ最終行
 -1 :ログの最終行までを取得
- 【レスポンス】 <ldata>=<STRING RESPONSE DATA>
 "ログデータの内容（1 行）"
 ただし、Recall データが E/A Logging ではない場合は、"No Data"が返却されます。
- 【機能】 Recall データのログデータを問い合わせます。
- 【対応画面】 Analyze:Recall 画面の E/A Logging
- 【制約】 <start> > <stop>の場合は<start>値だけを受け付けます。
 <stop>がログの最終行より大きい場合は、ログ最終行の後に END が返却されます。
- 【使用例】 100～105 行のデータを読み出す場合で、102 行までしかなかった場合
 > :CALCulate:ANALysis:RECall:EALogging:DATA? 100,105
 < " 23:05:47 27/Sep/1998 ",
 " Error count >9.99E15",
 " PSL Occur",
 " END "

:CALCulate:ANALysis:RECall:E/Histogram:DATA?

<numeric1>,<numeric2>,<numeric3>,<numeric4>,<numeric5>,<numeric6>,<number>

【パラメータ】 <DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

読み出しデータの開始年月日時分秒, データ数

<numeric1>~<numeric6> :開始年月日時分秒

<number> :データ数

【レスポンス】 <time>,<alarm1>,<alarm2>,<alarm3>,<error1>,<error2>
[,<alarm1>,<alarm2>,....]

<time>=<year>,<month>,<day>,<hour>,<minute>,<second>

読み出しデータの年月日時分秒

パラメータで指定した時間のデータがない場合, 指定時間以降で最も近い時間のデータを出力します。

<time>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

年 0,1997~2096

<month>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

月 0,1~12

<day>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

日 0,1~31

<hour>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

時 0~23

<minute>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

分 0~59

<second>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

秒 0~59

<alarm1>=<STRING RESPONSE DATA>

アラーム 1 の発生時間(s)

Form1 (DISC,MFUL1 時は Form4)

<alarm2>=<STRING RESPONSE DATA>

アラーム 2 の発生時間(s)

Form1 (DISC,MFUL1 時は Form4)

<alarm3>=<STRING RESPONSE DATA>

アラーム 3 の発生時間(s)

Form1 (DISC,MFUL1 時は Form4)

<error1>=<STRING RESPONSE DATA>

エラーカウント値

Form1

<error2>=<STRING RESPONSE DATA>

エラーレート値

Form2

※Form1,Form2,Form4 : 6-219ページ, 「表 6.6-2 レスポンスタイプの内容」を参照してください。ただし, Recall データが E/A Histogram ではない場合は, "No Data"が返却されます。

※データが無い場合

<0,0,0,0,0,"-----","-----","-----","-----","-----"

※最終データを越える場合は, 最終データの後に "END" が返却されます。

【機能】

E/A Histogram データの分析結果を問い合わせます。

分解能は Load ファイルの分解能 (Histogram Resolution) に左右されます。

【対応画面】

Analyze:Recall 画面の E/A Histogram

【使用例】 1998 年 10 月 11 日 1 時 23 分 45 秒から 3 本の分析データを読み出す場合
 > :CALCulate:ANALysis:RECall:EAHistogram:DATA? 1998,10,11,1,23,45,3
 < 1998,10,11,1,23,45,3," 0"," 0"," 0"," 0",
 " 0.00E-05"," 123456"," 123456"," 123456"," 123456"," 1.23E-12",
 ">9.99E+15",">9.99E+15",">9.99E+15",">9.99E+15","<1.00E-15"

:CALCulate:ANALysis:RECall:TDAa:DATA? <address1>,<address2>

【パラメータ】 <address1>,<address2>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

<address1> :取り込み開始アドレス

<address2> :取り込み終了アドレス

トレースデータ数より大きいアドレスが指定された場合は、
 最終アドレスまでを出力とします。

【レスポンス】 <address1>,<address2>,<tdata>

<address1>,<address2>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

取り込み開始・終了アドレス。

<tdata>=<STRING RESPONSE DATA>

"00,11,23,AB,...,FF"(HEX 表示)

ただし、Recall データが Trace Data ではない場合は、"No Data"が
 返却されます。

【機能】 ワードトレースのトレース結果の取り込みを行います。

【対応画面】 Analyze:Recall 画面の Trace data

【制約】 <address1> > <address2>の場合は<address1>値だけを受け付けます。
 トレースデータが存在しない場合は、<address1>,<address1>,""を返却します。

【使用例】 トレースデータ数が 20 しかない場合

> :CALCulate:ANALysis:RECall:TDAa:DATA? 0,50
 < 0,19,"41,42,43,44,45,46,47,48,49,4A,4B,4C,4D,4E,4F,50,51,52,53,54"

:CALCulate:ANALysis:RECall:TDAa:NUMBer?

【パラメータ】 なし

【レスポンス】 <number>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

Boundary を 8bit としたときの値です。

ただし、Recall データが Trace Data ではない場合は、"No Data"が
 返却されます。

【機能】 ワードトレースのトレースバイト数の問い合わせをします。

【対応画面】 Analyze:Recall 画面の Trace data

【制約】 ワードトレースが実行されていない場合は実行エラーとします。

【使用例】 > :CALCulate:ANALysis:RECall:TDAa:NUMBer?

< 20

:CALCulate:ANALysis:RECall:TDAa:STRigger?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <strigger>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

0~131070 :ストップトリガアドレス

ただし、Recall データが Trace Data ではない場合は、"No Data"が返却されます。

トリガアドレスがない場合は、"No Data"が返却されます。

【機能】 ワードトレースのストップトリガアドレスの問い合わせをします。

【対応画面】 Analyze:Recall 画面の Trace data

【使用例】 > :CALCulate:ANALysis:RECall:TDAa:STRigger?

< 143

:CALCulate:ANALysis:RECall:PMONitor:DATA? <start>,<stop>

【パラメータ】 <start>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

1~ (ステップ 1) :取得プロトコルモニタデータ先頭行

<stop>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

1~ (ステップ 1) :取得プロトコルモニタデータ最終行

-1 :プロトコルモニタデータの最終行までを取得

【レスポンス】 <ldata>=<STRING RESPONSE DATA>

"プロトコルモニタデータの内容 (1 行) "

ただし、プロトコルモニタデータが存在しない場合は"No Data"を返します。

【機能】 プロトコルモニタの内容を問い合わせます。

【対応画面】 Analyze:Recall (Protocol monitor) 画面

【制約】 <start>><stop>の場合は<start>値だけを受け付けます。

<stop>がプロトコルモニタデータの最終行より大きい場合は、プロトコルモニタデータ最終行の後に END が返却されます。

【使用例】 100~105 行のデータを読み出す場合で、102 行までしかなかった場合

```
< " 009 12:35:07.1 < I STAT      TEI= 0 CR= 12      ",
"                                00010203 04050607 08090A0B 0C0D0E0F ",
"                                10111213 14151617 18191      ",
"END"
```

:CALCulate:MONitor:SALarm? <string>

- 【パラメータ】 <string>=<STRING PROGRAM DATA>
 "[CURRent:]<line>:<result>" :現在の測定結果
 "HISTory:<line>:<result>" :History 結果
 <line>=<CHARACTOR PROGRAM DATA>
 TX :Tx
 RX :Rx
 TXRX :Tx&Rx
 <result>の内容は6-231ページ, 表 6.6-3を参照
- 【レスポンス】 <salarm>=<STRING RESPONSE DATA>
 "0" :アラーム未発生
 "1" :アラーム発生
 "." :無効な項目時
- 【機能】 信号線/アラームモニタの状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 信号線/アラームモニタ表示エリア
- 【使用例】 > :CALCulate:MONitor:SALarm? "HISTory:TX:SD"
 < "1"

表 6.6-3 モニタ結果の問い合わせ内容

項 目	<result>	項 目	<result>
SD	"SD"	MF Loss	"MLOSs"
RD	"RD"	QFL	"QFL"
ST1	"ST1"	SGA	"SGA"
ST2	"ST2"	SGB	"SGB"
RT	"RT"	SGC	"SGC"
ER	"ER"	SGD	"SGD"
DR	"DR"	RAI	"RAI"
RS	"RS"	ST LOF	"SLOF"
CS	"CS"	HG AIS	"HAIS"
CD	"CD"	BAIS	"BAIS"
CI	"CI"	ST bit1	"SBIT1"
TI	"TI"	ST bit2	"SBIT2"
LLB	"LLB"	ST bit3	"SBIT3"
RLB	"RLB"	ST bit4	"SBIT4"
T	"T"	ST bit5	"SBIT5"
R	"R"	ST bit6	"SBIT6"
C	"C"	SA4	"SA4"
I	"I"	SA5	"SA5"
S	"S"	SA6	"SA6"
B	"B"	SA7	"SA7"
LOS	"LOS"	SA8	"SA8"
AIS	"AIS"	E1	"E1"
XL	"XL"	Si1	"SI1"
XA	"XA"	E2	"E2"
PFA	"PFA"	Si2	"SI2"
INFO OT	"INFT0"	Y	"Y"
INFO 1	"INF1"	SIG	"SIG"
INFO 3	"INF3"	SA	"SA"
INFO OR	"INFR0"	X1	"X1"
INFO 2	"INF2"	X2	"X2"
INFO 4	"INF4"	X3	"X3"
S11	"S11"	Q11	"Q11"
S12	"S12"	Q12	"Q12"
S13	"S13"	Q13	"Q13"
S14	"S14"	Q14	"Q14"
LOF	"LOF"		

:CALCulate:MONitor:DATA?

【パラメータ】 なし

【レスポンス】 <data>=<STRING RESPONSE DATA>
 "<txpattern>:<rxpattern>"
 <txpattern>
 "00000000"~"11111111" : Input/Output が 1Out/1In か 2In の時
 "-----" : Input/Output が 1In の時, 無効の時
 <rxpattern>
 "00000000"~"11111111"
 "-----" : 無効の時

*)有効なビット長に合わせて, レスポンスの長さも変わります。

【機能】 受信データモニタを問い合わせます。

【対応画面】 受信データモニタ表示エリア

【使用例】 > :CALCulate:MONitor:DATA?
 < "01010101:10101010"

:CALCulate:MONitor:COMMon? <result>

【パラメータ】 <result>=<STRING PROGRAM DATA>
 "<line>:<result1>"
 <line>=<CHARACTOR PROGRAM DATA>
 TX :Tx
 RX :Rx
 <result1>=<CHARACTOR PROGRAM DATA>
 ALL1 :ALL1
 ALL0 :ALL0
 OPD :OPD
 FLGL :FLGL
 FRAL :FRAL
 PSL :PSL
 FECN :FECN
 BECN :BECN
 CLLM :CLLM

【レスポンス】 <common>=<STRING RESPONSE DATA>
 "0" :アラーム未発生
 "1" :アラーム発生
 "-" :無効な項目時

【機能】 共通アラームモニタの状態を問い合わせます。

【対応画面】 共通アラームモニタ表示エリア

【使用例】 > :CALCulate:MONitor:COMMon? "TX:ALL1"
 < 1

:CALCulate:MONitor:SBIT? <result>

【パラメータ】 <result>=<STRING PROGRAM DATA>
 "<line>:<channel>"
 <line>=<CHARACTOR PROGRAM DATA>
 TX :Tx
 RX :Rx
 <channel>=<CHARACTOR PROGRAM DATA>
 CH01~CH30 :CH01~CH30

【レスポンス】 <sigbit>=<STRING RESPONSE DATA>
 "0000"~"1111"
 "00"~"11"
 "0"~"1"
 "____" :無効の時

【機能】 シグナリングビットモニタを問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の CAS:Signaling bit monitoring

【制約】 CAS/FAS オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータではなく、実行エラーが返ります。

【使用例】 > :CALCulate:MONitor:SBIT? "Rx:CH01"
 < "1111"

:CALCulate:MONitor:FAS? <result>

【パラメータ】 <result>=<STRING PROGRAM DATA>
 "<line>:<fas>"
 <line>=<CHARACTOR PROGRAM DATA>
 TX :Tx
 RX :Rx
 <fas>=<CHARACTOR PROGRAM DATA>
 FRAME0~FRAME24 :フレーム 1~フレーム 24
 DL :DL ビット
 TS16 :TS16 Frame0

【レスポンス】 <monitor>=<STRING RESPONSE DATA>
 "0000000000000000"~"1111111111111111"
 "00000000"~"11111111"
 "00000"~"11111"
 "0"~"1"
 "-----" :無効の時

【機能】 フレームビットモニタを問い合わせます。

【対応画面】 Measure:Error/Alarm 画面の FAS:Tx/Rx monitoring

【制約】 CAS/FAS オプションがインストールされていない場合、レスポンスデータではなく、実行エラーが返ります。

【使用例】 > :CALCulate:MONitor:FAS? "Rx:DL"
 < "1111111100000000"

6.7 TEST サブシステム

:TEST:TMODe <tmode>
【パラメータ】 <tmode>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
ALL :All
INTerface :Interface
MEASure :Measure
INFO :INFO1 Send
【機能】 自己診断テストのテストモードを設定します。
【対応画面】 Setup:Selftest 画面の Test mode
【使用例】 > :TEST:TMODe ALL

:TEST:TMODe?
【パラメータ】 なし。
【レスポンス】 <tmode>=<CHARACTER RESPONSE DATA>
:TEST:TMODe と同じです。
【機能】 自己診断テストのテストモードの設定状態を問い合わせます。
【対応画面】 Setup:Selftest 画面の Test mode
【使用例】 > :TEST:TMODe?
< ALL

:TEST:TITem <titem>

【パラメータ】 <titem>=<CHARACTER PROGRAM DATA>

ALL	:All
V24	:V.24/V.28(RS-232C)
V35	:V.35
V36	:V.36
RS449	:RS-449
X20	:X.20(RS-423)
X21	:X.21(RS-422)
TCMos	:TTL/CMOS
K64	:G.703 64k
K192	:I.430/I.430-a 192k
M1_5	:G.704/I.431 1.544M
M2	:G.704/I.431 2.048M
CMIM2	:2M CMI
M6	:G.704 6.312M
CERRor	:Character error
FRELay	:Frame relay
TDELay	:Transmit delay
LIDelay	:Line Interval delay
FREQuency	:Frequency
DLEVel	:Digital level
WPATtern	:Word pattern
LAPD	:LAPD

【機能】 自己診断テストのテスト項目を設定します。

【対応画面】 Setup:Selftest 画面の Test item

【制約】 使用するインタフェースユニットによって、使用できないパラメータがあります。

MU643000A	: 全パラメータ使用可
MU643000B/K	: M2 使用不可
MU643000C	: M1_5,CMIM2,M6 使用不可

【使用例】 > :TEST:TITem "ALL"

:TEST:TITem?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <titem>=<CHARACTER RESPONSE DATA>

:TEST:TITem と同じです。

【機能】 自己診断テストのテスト項目の設定状態を問い合わせます。

【対応画面】 Setup:Selftest 画面の Test item

【使用例】 > :TEST:TITem?

< ALL

:TEST:STATe?

- 【パラメータ】 なし
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
0 : 測定終了または未測定
1 : 測定中
- 【機能】 自己診断テストの状態を問い合わせます。
- 【対応画面】 なし。
- 【使用例】 > :TEST:STATe?
< 0

:TEST:START

- 【パラメータ】 なし。
- 【機能】 自己診断テストの測定開始を設定します。
- 【対応画面】 動作指示ボタン用エリア
- 【制約】 測定中の場合、本機能は無視され実行エラーとします。
- 【使用例】 > :TEST:START

:TEST:STOP

- 【パラメータ】 なし。
- 【機能】 自己診断テストの測定停止を設定します。
- 【対応画面】 動作指示ボタン用エリア
- 【使用例】 > :TEST:STOP

:TEST:ECODE? <block>

- 【パラメータ】 <block>=<CHARACTER PROGRAM DATA>
 BLOCK0 :1~36 番目のエラーコードを表示します。
- 【レスポンス】 <string>=<STRING RESPONSE DATA>
 "XXNNN" XX :自己診断の項目を表す 2 文字の英数字
 NNN :エラーの内容を表す 3 桁の数値(8 進数)
 指定したブロックにデータが 1 つも無い場合は, "-----"を出力します。
 複数存在する場合は, カンマで区切られます。
 1 度に出力可能なエラーコードは最大 36 個です。
- 【機能】 自己診断テストの結果(エラーコード)を問い合わせます。
 エラーコードの詳細内容は 8 章を参照してください。
- 【対応画面】 Setup:Selftest 画面
- 【使用例】 > :TEST:ECODE? BLOCK0
 < "1A001,1B002,1C003,1D004"

:TEST:RESult?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <result>=<STRING RESPONSE DATA>
 Form4 (" Acceptable" :エラーなし,
 "Unacceptable" :エラーあり,
 "-----" :未測定または測定途中終了)
- 【機能】 自己診断テストの結果を問い合わせます。
- 【対応画面】 Setup:Selftest 画面
- 【使用例】 > :TEST:RESult?
 < "Unacceptable"

6.8 STATus サブシステム

:STATus:PRESet

【パラメータ】 なし

【機能】 ステータスレジスタを初期化します。
このコマンドによって影響を受けるレジスタは下記のとおりです。
・ S C P I 規定ステータスレジスタのトランジション, イネーブルレジスタ。
・ 装置固有ステータスレジスタのトランジション, イネーブルレジスタ。

【使用例】 > :STATus:PRESet

<QUEStionable Status Register>

TELEcom Status Register のサマリを供給します。

:STATus:QUEStionable[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
512 (Bit 9) TELEcom Status Register サマリ
セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Questionable ステータスレジスタでの Event レジスタの内容を
問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:EVENT?
または :STATus:QUEStionable?
< 512

:STATus:QUEStionable:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Questionable ステータスレジスタでの Condition レジスタの内容を
問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:CONDition?
< 512

:STATus:QUESTIONable:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは 0 を設定します。

【機能】

Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が QUESTIONable サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になったときに QUESTIONable サマリビットが真となります。

【使用例】

Bit9 をセットします。

> :STATus:QUESTIONable:ENABLE 512

:STATus:QUESTIONable:ENABLE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】

Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】

> :STATus:QUESTIONable:ENABLE?

< 512

:STATus:QUESTIONable:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは 0 を設定します。

【機能】

Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する QUESTIONable Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する QUESTIONable Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】

Bit9 をセットします。

> :STATus:QUESTIONable:PTRansition 512

:STATus:QUESTIONable:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】

Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】

> :STATus:QUESTIONable:PTRansition?

< 512

:STATus:QUEStionable:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは0を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する QUEStionable Condition Register のビットが1から0へ変化したときに、対応する QUEStionable Event Register のビットへ1が書き込まれます。

【使用例】 Bit9 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:NTRansition 512

:STATus:QUEStionable:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:NTRansition?

< 512

<TELEcom Status Register>

MEASure,ERRor,ALARm,CONNection Status Register のサマリを供給します。

:STATUS:QUESTionable:TELEcom[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	MEASure Status Register サマリ
2	(Bit 1)	EALarm Status Register サマリ
4	(Bit 2)	FRELay Status Register サマリ
8	(Bit 3)	DELay Status Register サマリ
16	(Bit 4)	FREQuency Status Register サマリ
32	(Bit 5)	MONitor Status Register サマリ
64	(Bit 6)	CONNection Status Register サマリ
128	(Bit 7)	TXCas Status Register サマリ
256	(Bit 8)	RXCas Status Register サマリ
512	(Bit 9)	TXFas1 Status Register サマリ
1024	(Bit10)	TXFas2 Status Register サマリ
2048	(Bit11)	RXFas1 Status Register サマリ
4096	(Bit12)	RXFas2 Status Register サマリ

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TELEcom ステータスレジスタでの Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATUS:QUESTionable:TELEcom:EVENT?

または :STATUS:QUESTionable:TELEcom?

< 9

:STATUS:QUESTionable:TELEcom:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TELEcom ステータスレジスタでの Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATUS:QUESTionable:TELEcom:CONDition?

< 9

:STATUS:QUESTionable:TELEcom:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が TELEcom サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になったときに TELEcom サマリビットが真となります。

【使用例】 Bit1 と Bit2 をセットします。

> :STATUS:QUESTionable:TELEcom:ENABLE 5

:STATus:QUEStionable:TELeCom:ENABle?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELeCom:ENABle?
 < 5

:STATus:QUEStionable:TELeCom:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とするときは 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する TELeCom Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する TELeCom Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 Bit0 と Bit1 をセットします。
 > :STATus:QUEStionable:TELeCom:PTRansition 3

:STATus:QUEStionable:TELeCom:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELeCom:PTRansition?
 < 3

:STATus:QUEStionable:TELeCom:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とするときは 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する TELeCom Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する TELeCom Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 Bit2 と Bit3 をセットします。
 > :STATus:QUEStionable:TELeCom:NTRansition 12

:STATus:QUEStionable:TELeCom:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELeCom:NTRansition?
 < 12

<MEASure Status Register>

測定状態などの表示を行います。

:STATus:QUESTionable:TELEcom:MEASure[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	Error/Alarm 測定中
2	(Bit 1)	Error/Alarm プログラムスタート待ち
4	(Bit 2)	Error/Alarm 同期確立待ち
8	(Bit 3)	Frame Relay 測定中
16	(Bit 4)	Frame Relay リンク待ち
32	(Bit 5)	Delay 測定中
64	(Bit 6)	Delay 測定の Line Interval のスタートトリガ待ち
128	(Bit 7)	Frequency 測定中
256	(Bit 8)	Digital level 測定中
512	(Bit 9)	Word Trace 送信中
1024	(Bit10)	Word Trace トレース中
2048	(Bit11)	Word Trace スタートトリガ待ち
4096	(Bit12)	Repeat 測定の終了
8192	(Bit13)	プロトコルモニタ中

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 MEASure ステータスレジスタでの Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:MEASure:EVENT?
または :STATus:QUESTionable:TELEcom:MEASure?
< 640

:STATus:QUESTionable:TELEcom:MEASure:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 MEASure ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:MEASure:CONDition?
< 640

:STATus:QUESTionable:TELEcom:MEASure:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。
mask に対応する Event Enable Register の状態が MEASure サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になったときに MEASure サマリビットが真となります。

【使用例】 Bit8 と Bit9 をセットします。
> :STATus:QUESTionable:TELEcom:MEASure:ENABLE 768

:STATus:QUESTionable:TELEcom:MEASure:ENABLE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:MEASure:ENABLE?
< 768

:STATus:QUESTionable:TELEcom:MEASure:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは 0 を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する MEASure Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する MEASure Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 Bit0～Bit5 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:MEASure:PTRansition 63

:STATus:QUESTionable:TELEcom:MEASure:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:MEASure:PTRansition?
< 63

:STATus:QUESTionable:TELEcom:MEASure:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは 0 を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する MEASure Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する MEASure Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 Bit0 と Bit5 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:MEASure:NTRansition 33

:STATus:QUESTionable:TELEcom:MEASure:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:MEASure:NTRansition?
< 33

<EALarm Status Register>

ERRor, TXALarm, RXALarm, TXALarm2, RXALarm2 Status Register のサマリを供給します。

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:EALarm[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1 (Bit 0) ERRor Status Register サマリ

2 (Bit 1) TXALarm Status Register サマリ

4 (Bit 2) RXALarm Status Register サマリ

8 (Bit 3) TXALarm2 Status Register サマリ

16 (Bit 4) RXALarm2 Status Register サマリ

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 EALarm ステータスレジスタでの Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:EALarm:EVENT?

または :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:EALarm?

< 1

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:EALarm:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 EALarm ステータスレジスタでの Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:EALarm:CONDition?

< 1

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:EALarm:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が EALarm サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になったときに EALarm サマリビットが真となります。

【使用例】 Bit0 と Bit1 をセットします。

> :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:EALarm:ENABLE 3

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:EALarm:ENABLE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:EALarm:ENABLE?

< 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは0を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する EALarm Condition Register のビットが0から1へ変化したときに、対応する EALarm Event Register のビットへ1が書き込まれます。

【使用例】 Bit0 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:PTRansition 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:PTRansition?

< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは0を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する EALarm Condition Register のビットが1から0へ変化したときに、対応する EALarm Event Register のビットへ1が書き込まれます。

【使用例】 Bit1 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:NTRansition 2

:STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:NTRansition?

< 2

<ERRor Status Register>

エラー発生状況の表示を行います。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:EALarm:ERRor[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	受信ライン・エラー発生
2	(Bit 1)	受信ライン・クロックスリップ発生
4	(Bit 2)	受信ライン・キャラクタ誤り発生
8	(Bit 3)	受信ライン・P S L発生
16	(Bit 4)	受信ライン・Bad Frame 発生
32	(Bit 5)	受信ライン・Abort Frame 発生
64	(Bit 6)	Not Used
128	(Bit 7)	送信ライン・エラー発生
256	(Bit 8)	Not Used
512	(Bit 9)	Not Used
1024	(Bit10)	Not Used
2048	(Bit11)	送信ライン・Bad Frame 発生
4096	(Bit12)	送信ライン・Abort Frame 発生

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 ERRor ステータスレジスタでの Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:EALarm:ERRor:EVENT?
または :STATus:QUEStionable:TELEcom:EALarm:ERRor?
< 8126

:STATus:QUEStionable:TELEcom:EALarm:ERRor:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 ERRor ステータスレジスタでの Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:EALarm:ERRor:CONDition?
< 8128

:STATus:QUEStionable:TELEcom:EALarm:ERRor:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が ERRor サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になったときに ERRor サマリビットが真となります。

【使用例】 Bit0~Bit12 をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:EALarm:ERRor:ENABLE 8191

:STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:ERRor:ENABle?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:ERRor:ENABle?
 < 8191

:STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:ERRor:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とするときは 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する Error Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する Error Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 Bit0～Bit5 をセットします。
 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:ERRor:PTRansition 63

:STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:ERRor:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:ERRor:PTRansition?
 < 63

:STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:ERRor:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とするときは 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する Error Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する Error Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 Bit7～Bit12 をセットします。
 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:ERRor:NTRansition 8064

:STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:ERRor:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:ERRor:NTRansition?
 < 8064

<TXALarm Status Register>

送信ラインのアラーム発生状況の表示を行います。

:STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:TXALarm[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	Power Fail 発生
2	(Bit 1)	PSL 発生
4	(Bit 2)	OPD 発生
8	(Bit 3)	FLGL 発生
16	(Bit 4)	ALL0 発生
32	(Bit 5)	ALL1 発生
64	(Bit 6)	LOS 発生
128	(Bit 7)	LOF 発生
256	(Bit 8)	MF loss 発生
512	(Bit 9)	AIS 発生
1024	(Bit10)	SA 発生
2048	(Bit11)	XL 発生
4096	(Bit12)	XA 発生
8192	(Bit13)	RAI 発生
16384	(Bit14)	Disconnection 発生

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXALarm ステータスレジスタでの Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:TXALarm:EVENT?

または :STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:TXALarm?

< 9

:STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:TXALarm:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXALarm ステータスレジスタでの Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:TXALarm:CONDition?

< 9

:STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:TXALarm:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が TXALarm サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に TXALarm サマリビットが真となります。

【使用例】 Bit1 と Bit2 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:TXALarm:ENABLE 6

:STATus:QUEStionable:TELEcom:EALarm:TXALarm:ENABLE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:EALarm:TXALarm:ENABLE?
< 6

:STATus:QUEStionable:TELEcom:EALarm:TXALarm:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは 0 を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXALarm Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する TXALarm Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 Bit0 と Bit1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:EALarm:TXALarm:PTRansition 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:EALarm:TXALarm:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:EALarm:TXALarm:PTRansition?
< 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:EALarm:TXALarm:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは 0 を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXALarm Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する TXALarm Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 Bit2 と Bit3 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:EALarm:TXALarm:NTRansition 12

:STATus:QUEStionable:TELEcom:EALarm:TXALarm:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:EALarm:TXALarm:NTRansition?
< 12

<RXALarm Status Register>

受信ラインのアラーム発生状況の表示を行います。

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:EALarm:RXALarm[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	Power Fail 発生
2	(Bit 1)	PSL 発生
4	(Bit 2)	OPD 発生
8	(Bit 3)	FLGL 発生
16	(Bit 4)	ALL0 発生
32	(Bit 5)	ALL1 発生
64	(Bit 6)	LOS 発生
128	(Bit 7)	LOF 発生
256	(Bit 8)	MF LOSS 発生
512	(Bit 9)	AIS 発生
1024	(Bit10)	SA 発生
2048	(Bit11)	XL 発生
4096	(Bit12)	XA 発生
8192	(Bit13)	RAI 発生
16384	(Bit14)	Disconnection 発生

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXALarm ステータスレジスタでの Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:EALarm:RXALarm:EVENT?

または :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:EALarm:RXALarm?

< 9

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:EALarm:RXALarm:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXALarm ステータスレジスタでの Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:EALarm:RXALarm:CONDition?

< 9

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:EALarm:RXALarm:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは0を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が RXALarm サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに1がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に RXALarm サマリビットが真となります。

【使用例】 Bit1 と Bit2 をセットします。

> :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:EALarm:RXALarm:ENABLE 6

:STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:RXALarm:ENABLE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:RXALarm:ENABLE?
< 6

:STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:RXALarm:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは 0 を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXALarm Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する RXALarm Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 Bit0 と Bit1 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:RXALarm:PTRansition 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:RXALarm:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:RXALarm:PTRansition?
< 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:RXALarm:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは 0 を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXALarm Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する RXALarm Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 Bit2 と Bit3 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:RXALarm:NTRansition 12

:STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:RXALarm:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:RXALarm:NTRansition?
< 12

<TXALarm2 Status Register>

エラー/アラーム測定において、送信ラインのアラーム発生状況の表示を行います。

:STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:TXALarm2[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1 (Bit 0) ST LOF 発生

2 (Bit 1) HG AIS 発生

4 (Bit 2) BAIS 発生

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXALarm2 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:TXALarm2:EVENT?

または :STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:TXALarm2?

< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:TXALarm2:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXALarm ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:TXALarm2:CONDition?

< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:TXALarm2:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が TXALarm2 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に TXALarm2 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:TXALarm2:ENABLE 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:TXALarm2:ENABLE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:TXALarm2:ENABLE?

< 3

:STATus:QUEStionable:TELecom:EALarm:TXALarm2:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は0を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXALarm2 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する TXALarm2 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 0 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELecom:EALarm:TXALarm2:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELecom:EALarm:TXALarm2:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:EALarm:TXALarm2:PTRansition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELecom:EALarm:TXALarm2:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は0を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXALarm2 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する TXALarm2 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELecom:EALarm:TXALarm2:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELecom:EALarm:TXALarm2:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:EALarm:TXALarm2:NTRansition?

< 2

<RXALarm2 Status Register>

エラー/アラーム測定において、受信ラインのアラーム発生状況の表示を行います。

:STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:RXALarm2[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1 (Bit 0) ST LOF 発生

2 (Bit 1) HG AIS 発生

4 (Bit 2) BAIS 発生

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXALarm2 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:RXALarm2:EVENT?

または :STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:RXALarm2?

< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:RXALarm2:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXALarm2 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:RXALarm2:CONDition?

< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:RXALarm2:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が RXALarm2 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に RXALarm2 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:RXALarm2:ENABLE 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:RXALarm2:ENABLE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:EALarm:RXALarm2:ENABLE?

< 3

:STATus:QUEStionable:TELecom:EALarm:RXALarm2:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
全ビットを偽とする時は0を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXALarm2 Condition Register のビットが0から1へ変化したときに、対応する RXALarm2 Event Register のビットへ1が書き込まれます。

【使用例】 ビット0をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELecom:EALarm:RXALarm2:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELecom:EALarm:RXALarm2:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:EALarm:RXALarm2:PTRansition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELecom:EALarm:RXALarm2:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
全ビットを偽とする時は0を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXALarm2 Condition Register のビットが1から0へ変化したときに、対応する RXALarm2 Event Register のビットへ1が書き込まれます。

【使用例】 ビット1をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELecom:EALarm:RXALarm2:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELecom:EALarm:RXALarm2:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:EALarm:RXALarm2:NTRansition?

< 2

<FRELay Status Register>

Frame Relay 測定の測定結果などの表示を行います。

:STATus:QUESTionable:TELEcom:FRELay[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	Test sequence count が発生
2	(Bit 1)	Complete sequence count が発生
4	(Bit 2)	Incomplete CR sequence count が発生
8	(Bit 3)	Incomplete DT sequence count が発生
16	(Bit 4)	Incomplete CQ sequence count が発生
32	(Bit 5)	Receave CR Packet count が発生
64	(Bit 6)	Receave DT Packet count が発生
128	(Bit 7)	Receave CQ Packet count が発生
256	(Bit 8)	Bad Frame が発生
512	(Bit 9)	About Frame が発生

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 FRELay ステータスレジスタでの Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:FRELay:EVENT?
または :STATus:QUESTionable:TELEcom:FRELay?
< 640

:STATus:QUESTionable:TELEcom:FRELay:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 FRELay ステータスレジスタでの Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:FRELay:CONDition?
< 640

:STATus:QUESTionable:TELEcom:FRELay:ENABLE <numeric>

パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。
mask に対応する Event Enable Register の状態が FRELay サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に FRELay サマリビットが真となります。

【使用例】 Bit8 と Bit9 をセットします。
> :STATus:QUESTionable:TELEcom:FRELay:ENABLE 768

:STATus:QUEStionable:TELEcom:FRELay:ENABle?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:FRELay:ENABle?**
< 768

:STATus:QUEStionable:TELEcom:FRELay:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とするときは 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する FRELay Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する FRELay Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 Bit0～Bit5 をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:FRELay:PTRansition 63

:STATus:QUEStionable:TELEcom:FRELay:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:FRELay:PTRansition?**
< 63

:STATus:QUEStionable:TELEcom:FRELay:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とするときは 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する FRELay Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する FRELay Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 Bit0 と Bit5 をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:FRELay:NTRansition 33

:STATus:QUEStionable:TELEcom:FRELay:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:FRELay:NTRansition?**
< 33

<Delay Status Register>

Delay 測定の測定結果の表示を行います。

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:DElay[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1 (Bit 0) データが到着

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 DElay ステータスレジスタでの Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:DElay:EVENT?

または :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:DElay?

< 0

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:DElay:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 DElay ステータスレジスタでの Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:DElay:CONDition?

< 0

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:DElay:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が DElay サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になったときに DElay サマリビットが真となります。

【使用例】 Bit0 をセットします。

> :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:DElay:ENABLE 1

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:DElay:ENABLE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:DElay:ENABLE?

< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:DElay:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは0を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する DELay Condition Register のビットが0から1へ変化したときに、対応する DELay Event Register のビットへ1が書き込まれます。

【使用例】 Bit0 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:DElay:PTRansition 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:DElay:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:DElay:PTRansition?

< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:DElay:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは0を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する DELay Condition Register のビットが1から0へ変化したときに、対応する DELay Event Register のビットへ1が書き込まれます。

【使用例】 Bit0 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:DElay:NTRansition 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:DElay:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:DElay:NTRansition?

< 1

<FREQuency Status Register>

Frequency 測定の測定結果の表示を行います。

:STATus:QUESTionable:TELEcom:FREQuency[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
1 (Bit 0) データが到着

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 FREQuency ステータスレジスタでの Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:FREQuency:EVENT?
または :STATus:QUESTionable:TELEcom:FREQuency?
< 0

:STATus:QUESTionable:TELEcom:FREQuency:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 FREQuency ステータスレジスタでの Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:FREQuency:CONDition?
< 0

:STATus:QUESTionable:TELEcom:FREQuency:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が FREQuency サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になったときに FREQuency サマリビットが真となります。

【使用例】 Bit0 をセットします。
> :STATus:QUESTionable:TELEcom:FREQuency:ENABLE 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:FREQuency:ENABLE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:FREQuency:ENABLE?
< 1

:STATus:QUEStionable:TELecom:FREQuency:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは0を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する FREQuency Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する FREQuency Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 Bit0 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELecom:FREQuency:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELecom:FREQuency:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:FREQuency:PTRansition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELecom:FREQuency:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは0を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する FREQuency Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する FREQuency Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 Bit0 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELecom:FREQuency:NTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELecom:FREQuency:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:FREQuency:NTRansition?

< 1

<MONitor Status Register>

SALarm* Status Register のサマリなどを供給します。(*=1~5)

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:MONitor[:EVENT] ?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	SALarm1 Status Register サマリ
2	(Bit 1)	SALarm2 Status Register サマリ
4	(Bit 2)	SALarm3 Status Register サマリ
8	(Bit 3)	SALarm4 Status Register サマリ
16	(Bit 4)	SALarm5 Status Register サマリ
32	(Bit 5)	COMMon Status Register サマリ
64	(Bit 6)	SALarm6 Status Register サマリ
128	(Bit 7)	SALarm7 Status Register サマリ

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 MONitor ステータスレジスタでの Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:MONitor:EVENT?

または :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:MONitor?

< 1

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:MONitor:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 MONitor ステータスレジスタでの Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:MONitor:CONDition?

< 1

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:MONitor:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が MONitor サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になったときに MONitor サマリビットが真となります。

【使用例】 Bit0 と Bit1 をセットします。

> :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:MONitor:ENABLE 3

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:MONitor:ENABLE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:MONitor:ENABLE?

< 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは0を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する MONitor Condition Register のビットが0から1へ変化したときに、対応する MONitor Event Register のビットへ1が書き込まれます。

【使用例】 Bit0 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:PTRansition 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:PTRansition?

< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは0を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する MONitor Condition Register のビットが1から0へ変化したときに、対応する MONitor Event Register のビットへ1が書き込まれます。

【使用例】 Bit1 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:NTRansition 2

:STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:NTRansition?

< 2

<SALarm1 Status Register>

V.24/V.28,V.35,V.36,RS-449 のときの信号線モニタの結果を示します。

:STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:SALarm1[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	SD が 1
2	(Bit 1)	RD が 1
4	(Bit 2)	ST1 が ON
8	(Bit 3)	ST2 が ON
16	(Bit 4)	RT が ON
32	(Bit 5)	ER が ON
64	(Bit 6)	DR が ON
128	(Bit 7)	RS が ON
256	(Bit 8)	CS が ON
512	(Bit 9)	CD が ON
1024	(Bit 10)	CI が ON
2028	(Bit 11)	TI が ON
4096	(Bit 12)	LLB が ON
8192	(Bit 13)	RLB が ON

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 SALarm1 ステータスレジスタでの Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:SALarm1:EVENT?

または :STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:SALarm1?

< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:SALarm1:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 SALarm1 ステータスレジスタでの Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:SALarm1:CONDition?

< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:SALarm1:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が SALarm1 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になったときに SALarm1 サマリビットが真となります。

【使用例】 Bit0 と Bit1 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:SALarm1:ENABLE 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:SALarm1:ENABLE?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:SALarm1:ENABLE?
 < 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:SALarm1:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とするときは 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する SALarm1 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する SALarm1 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 Bit0 をセットします。
 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:SALarm1:PTRansition 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:SALarm1:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:SALarm1:PTRansition?
 < 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:SALarm1:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とするときは 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する SALarm1 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する SALarm1 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 Bit1 をセットします。
 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:SALarm1:NTRansition 2

:STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:SALarm1:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:SALarm1:NTRansition?
 < 2

<SALarm2 Status Register>

X.20,X.21 のときの信号線モニタの結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm2[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	T が 1
2	(Bit 1)	R が 1
4	(Bit 2)	C が ON
8	(Bit 3)	I が ON
16	(Bit 4)	S が ON
32	(Bit 5)	B が ON

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 SALarm2 ステータスレジスタでの Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm2:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm2?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm2:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 SALarm2 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm2:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm2:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が SALarm2 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になったときに SALarm2 サマリビットが真となります。

【使用例】 Bit0 と Bit1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm2:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm2:ENABLE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm2:ENABLE?

< 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm2:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは0を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する SALarm2 Condition Register のビットが0から1へ変化したときに、対応する SALarm2 Event Register のビットへ1が書き込まれます。

【使用例】 Bit0 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm2:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm2:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm2:PTRansition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm2:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは0を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する SALarm2 Condition Register のビットが1から0へ変化したときに、対応する SALarm2 Event Register のビットへ1が書き込まれます。

【使用例】 Bit1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm2:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm2:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm2:NTRansition?

< 2

<SALarm3 Status Register>

I.430/I.430-a 192k のときの信号線モニタの結果を示します。

:STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:SALarm3[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	INFO 0T の状態
2	(Bit 1)	INFO 1 の状態
4	(Bit 2)	INFO 3 の状態
8	(Bit 3)	INFO 0R の状態
16	(Bit 4)	INFO 2 の状態
32	(Bit 5)	INFO 4 の状態
64	(Bit 6)	S11 が 1
128	(Bit 7)	S12 が 1
256	(Bit 8)	S13 が 1
512	(Bit 9)	S14 が 1
1024	(Bit 10)	Q11 が 1
2048	(Bit 11)	Q12 が 1
4096	(Bit 12)	Q13 が 1
8192	(Bit 13)	Q14 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 SALarm3 ステータスレジスタでの Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:SALarm3:EVENT?

または :STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:SALarm3?

< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:SALarm3:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 SALarm3 ステータスレジスタでの Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:SALarm3:CONDition?

< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:SALarm3:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が SALarm3 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に SALarm3 サマリビットが真となります。

【使用例】 Bit0 と Bit1 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:SALarm3:ENABLE 3

:STATus:QUESTionable:TELecom:MONitor:SALarm3:ENABLE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 **> :STATus:QUESTionable:TELecom:MONitor:SALarm3:ENABLE?**
< 3

:STATus:QUESTionable:TELecom:MONitor:SALarm3:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは 0 を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する SALarm3 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する SALarm3 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 Bit0 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELecom:MONitor:SALarm3:PTRansition 1

:STATus:QUESTionable:TELecom:MONitor:SALarm3:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 **> :STATus:QUESTionable:TELecom:MONitor:SALarm3:PTRansition?**
< 1

:STATus:QUESTionable:TELecom:MONitor:SALarm3:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは 0 を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する SALarm3 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する SALarm3 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 Bit1 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELecom:MONitor:SALarm3:NTRansition 2

:STATus:QUESTionable:TELecom:MONitor:SALarm3:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 **> :STATus:QUESTionable:TELecom:MONitor:SALarm3:NTRansition?**
< 2

<SALarm4 Status Register>

G.704/I.431 1.544M, G.704/I.431 2.048M, 2M CMI, G.704 6.312M のときの信号線モニタの結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm4[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	SGA が 1
2	(Bit 1)	SGB が 1
4	(Bit 2)	SGC が 1
8	(Bit 3)	SGD が 1
16	(Bit 4)	SA4 が 1
32	(Bit 5)	SA5 が 1
64	(Bit 6)	SA6 が 1
128	(Bit 7)	SA7 が 1
256	(Bit 8)	SA8 が 1
512	(Bit 9)	SIG が 1
1024	(Bit 10)	X1 が 1
2048	(Bit 11)	X2 が 1
4096	(Bit 12)	X3 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 SALarm4 ステータスレジスタでの Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm4:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm4?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm4:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 SALarm4 ステータスレジスタでの Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm4:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm4:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が SALarm4 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になったときに SALarm4 サマリビットが真となります。

【使用例】 Bit0 と Bit1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm4:ENABLE 3

:STATus:QUESTionable:TELecom:MONitor:SALarm4:ENABLE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELecom:MONitor:SALarm4:ENABLE?
< 3

:STATus:QUESTionable:TELecom:MONitor:SALarm4:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは 0 を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する SALarm4 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する SALarm4 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 Bit0 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELecom:MONitor:SALarm4:PTRansition 1

:STATus:QUESTionable:TELecom:MONitor:SALarm4:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELecom:MONitor:SALarm4:PTRansition?
< 1

:STATus:QUESTionable:TELecom:MONitor:SALarm4:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは 0 を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する SALarm4 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する SALarm4 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 Bit1 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELecom:MONitor:SALarm4:NTRansition 2

:STATus:QUESTionable:TELecom:MONitor:SALarm4:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELecom:MONitor:SALarm4:NTRansition?
< 2

<SALarm5 Status Register>

アラームの発生状況を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm5[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	LOS が発生
2	(Bit 1)	AIS が発生
4	(Bit 2)	XL が発生
8	(Bit 3)	XA が発生
16	(Bit 4)	PFA が発生
32	(Bit 5)	LOF が発生
64	(Bit 6)	MF Loss が発生
128	(Bit 7)	FA ビットの状態
256	(Bit 8)	RAI が発生
512	(Bit 9)	E1 が 1
1024	(Bit 10)	Si1 が 1
2048	(Bit 11)	E2 が 1
4096	(Bit 12)	Si2 が 1
8192	(Bit 13)	Y が 1
16384	(Bit 14)	SA が発生

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 SALarm5 ステータスレジスタでの Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm5:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm5?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm5:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 SALarm5 ステータスレジスタでの Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm5:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm5:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が SALarm5 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になったときに SALarm5 サマリビットが真となります。

【使用例】 Bit0 と Bit1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm5:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm5:ENABLE?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm5:ENABLE?**
< 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm5:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とするときは 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する SALarm5 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する SALarm5 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 Bit0 をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm5:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm5:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm5:PTRansition?**
< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm5:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とするときは 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する SALarm5 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する SALarm5 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 Bit1 をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm5:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm5:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm5:NTRansition?**
< 2

<COMMON Status Register>

アラームの発生状況を示します。

:STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:COMMON[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	送信ラインの指定タイムスロットが ALL1
2	(Bit 1)	送信ラインの指定タイムスロットが ALL0
4	(Bit 2)	送信ラインで OPD が発生
8	(Bit 3)	送信ラインで FLGL が発生
16	(Bit 4)	受信ラインの指定タイムスロットが ALL1
32	(Bit 5)	受信ラインの指定タイムスロットが ALL0
64	(Bit 6)	受信ラインで OPD が発生
128	(Bit 7)	受信ラインで FLGL が発生
256	(Bit 8)	PVC 確認手順確立待ち
512	(Bit 9)	受信ラインで PSL が発生
1024	(Bit 10)	受信ラインで FECN が発生
2048	(Bit 11)	受信ラインで BECN が発生
4096	(Bit 12)	受信ラインで CLLM が発生

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 COMMON ステータスレジスタでの Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:COMMON:EVENT?

または :STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:COMMON?

< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:COMMON:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 COMMON ステータスレジスタでの Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:COMMON:CONDition?

< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:COMMON:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が COMMON サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になったときに COMMON サマリビットが真となります。

【使用例】 Bit0 と Bit1 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:COMMON:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:COMMon:ENABle?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:COMMon:ENABle?**
< 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:COMMon:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とするときは 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する COMMon Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する COMMon Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 Bit0 をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:COMMon:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:COMMon:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:COMMon:PTRansition?**
< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:COMMon:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とするときは 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する COMMon Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する COMMon Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 Bit1 をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:COMMon:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:COMMon:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:COMMon:NTRansition?**
< 2

<SALarm6 Status Register>

G.704/I.431 1.544M,2M CMI,G.704 6.312M のときの信号線モニタの結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELecom:MONitor:SALarm6[:EVENTt]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1 (Bit 0) ST bit1 が 1
 2 (Bit 1) ST bit2 が 1
 4 (Bit 2) ST bit3 が 1
 8 (Bit 3) ST bit4 が 1
 16 (Bit 4) ST bit5 が 1
 32 (Bit 5) ST bit6 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 SALarm6 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:MONitor:SALarm6:EVENT?
 または :STATus:QUEStionable:TELecom:MONitor:SALarm6?
 < 1

:STATus:QUEStionable:TELecom:MONitor:SALarm6:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 SALarm6 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:MONitor:SALarm6:CONDition?
 < 1

:STATus:QUEStionable:TELecom:MONitor:SALarm6:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が SALarm6 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に SALarm6 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELecom:MONitor:SALarm6:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELecom:MONitor:SALarm6:ENABLE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:MONitor:SALarm6:ENABLE?
 < 3

:STATus:QUEStionable:TELecom:MONitor:SALarm6:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は0を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する SALarm6 Condition Register のビットが0から1へ変化したときに、対応する SALarm6 Event Register のビットへ1が書き込まれます。

【使用例】 ビット0をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELecom:MONitor:SALarm6:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELecom:MONitor:SALarm6:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:MONitor:SALarm6:PTRansition?

<1

:STATus:QUEStionable:TELecom:MONitor:SALarm6:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は0を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する SALarm6 Condition Register のビットが1から0へ変化したときに、対応する SALarm6 Event Register のビットへ1が書き込まれます。

【使用例】 ビット1をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELecom:MONitor:SALarm6:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELecom:MONitor:SALarm6:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:MONitor:SALarm6:NTRansition?

<2

<SALarm7 Status Register>

アラームモニタにおいて、アラームの発生状況を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm7[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1 (Bit 0) ST LOF が発生

2 (Bit 1) HG AIS が発生

4 (Bit 2) BAIS が発生

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 SALarm7 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm7:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm7?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm7:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 SALarm7 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm7:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm7:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が SALarm7 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に SALarm7 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm7:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm7:ENABLE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:MONitor:SALarm7:ENABLE?

< 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:SALarm7:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は0を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する SALarm7 Condition Register のビットが0から1へ変化したときに、対応する SALarm7 Event Register のビットへ1が書き込まれます。

【使用例】 ビット0をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:SALarm7:PTRansition 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:SALarm7:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:SALarm7:PTRansition?

< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:SALarm7:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は0を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する SALarm7 Condition Register のビットが1から0へ変化したときに、対応する SALarm7 Event Register のビットへ1が書き込まれます。

【使用例】 ビット1をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:SALarm7:NTRansition 2

:STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:SALarm7:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:MONitor:SALarm7:NTRansition?

< 2

<CONNECTION Status Register>

ISDN の発・着呼状態の表示を行います。

:STATus:QUESTIONable:TELEcom:CONNECTION[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	データ接続中
2	(Bit 1)	データ非接続中
4	(Bit 2)	データ発呼中
8	(Bit 3)	データ着呼中
16	(Bit 4)	Not Used
32	(Bit 5)	Not Used
64	(Bit 6)	音声接続中
128	(Bit 7)	音声非接続中
256	(Bit 8)	音声発呼中
512	(Bit 9)	音声着呼中

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 CONNECTION ステータスレジスタでの Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTIONable:EVENT?
または :STATus:QUESTIONable?
< 9

:STATus:QUESTIONable:TELEcom:CONNECTION:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 CONNECTION ステータスレジスタでの Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTIONable:CONDition?
< 9

:STATus:QUESTIONable:TELEcom:CONNECTION:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が CONNECTION サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になったときに CONNECTION サマリビットが真となります。

【使用例】 Bit1 と Bit2 をセットします。
> :STATus:QUESTIONable:TELEcom:CONNECTION:ENABLE 5

:STATus:QUESTionable:TELEcom:CONNection:ENABle?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:CONNection:ENABle?
 < 5

:STATus:QUESTionable:TELEcom:CONNection:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とするときは 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する CONNection Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する CONNection Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 Bit2 と Bit8 をセットします。
 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:CONNection:PTRansition 260

:STATus:QUESTionable:TELEcom:CONNection:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:CONNection:PTRansition?
 < 260

:STATus:QUESTionable:TELEcom:CONNection:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とするときは 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する CONNection Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する CONNection Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 Bit3 と Bit9 をセットします。
 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:CONNection:NTRansition 520

:STATus:QUESTionable:TELEcom:CONNection:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:CONNection:NTRansition?
 < 520

<TXCas Status Register>

TXSBit* Status Register のサマリなどを供給します。(*=1~10)

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	TXSBit1 Status Register サマリ
2	(Bit 1)	TXSBit2 Status Register サマリ
4	(Bit 2)	TXSBit3 Status Register サマリ
8	(Bit 3)	TXSBit4 Status Register サマリ
16	(Bit 4)	TXSBit5 Status Register サマリ
32	(Bit 5)	TXSBit6 Status Register サマリ
64	(Bit 6)	TXSBit7 Status Register サマリ
128	(Bit 7)	TXSBit8 Status Register サマリ
256	(Bit 8)	TXSBit9 Status Register サマリ
512	(Bit 9)	TXSBit10 Status Register サマリ

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXCas ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXCas ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:ENABle <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が TXCas サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に TXCas サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:ENABle 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:ENABLE?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:ENABLE?
 < 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXCas Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する TXCas Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:PTRansition 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:PTRansition?
 < 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXCas Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する TXCas Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:NTRansition 2

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:NTRansition?
 < 2

<TXSBit1 Status Register>

シグナリングビットモニタ（送信ラインの CH01～CH03）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit1[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	送信ラインの CH01 SgA が 1
2	(Bit 1)	送信ラインの CH01 SgB が 1
4	(Bit 2)	送信ラインの CH01 SgC が 1
8	(Bit 3)	送信ラインの CH01 SgD が 1
16	(Bit 4)	送信ラインの CH02 SgA が 1
32	(Bit 5)	送信ラインの CH02 SgB が 1
64	(Bit 6)	送信ラインの CH02 SgC が 1
128	(Bit 7)	送信ラインの CH02 SgD が 1
256	(Bit 8)	送信ラインの CH03 SgA が 1
512	(Bit 9)	送信ラインの CH03 SgB が 1
1024	(Bit 10)	送信ラインの CH03 SgC が 1
2048	(Bit 11)	送信ラインの CH03 SgD が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXSBit1 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit1:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit1?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit1:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXSBit1 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit1:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit1:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が TXSBit1 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に TXSBit1 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit1:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit1:ENABle?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit1:ENABle?
 < 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit1:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXSBit1 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する TXSBit1 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit1:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit1:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit1:PTRansition?
 < 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit1:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXSBit1 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する TXSBit1 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit1:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit1:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit1:NTRansition?
 < 2

<TXSBit2 Status Register>

シグナリングビットモニタ（送信ラインの CH04～CH06）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELecom:TXCas:TXSBit2[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	送信ラインの CH04 SgA が 1
2	(Bit 1)	送信ラインの CH04 SgB が 1
4	(Bit 2)	送信ラインの CH04 SgC が 1
8	(Bit 3)	送信ラインの CH04 SgD が 1
16	(Bit 4)	送信ラインの CH05 SgA が 1
32	(Bit 5)	送信ラインの CH05 SgB が 1
64	(Bit 6)	送信ラインの CH05 SgC が 1
128	(Bit 7)	送信ラインの CH05 SgD が 1
256	(Bit 8)	送信ラインの CH06 SgA が 1
512	(Bit 9)	送信ラインの CH06 SgB が 1
1024	(Bit 10)	送信ラインの CH06 SgC が 1
2048	(Bit 11)	送信ラインの CH06 SgD が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXSBit2 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:TXCas:TXSBit2:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELecom:TXCas:TXSBit2?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELecom:TXCas:TXSBit2:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXSBit2 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:TXCas:TXSBit2:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELecom:TXCas:TXSBit2:ENABle <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が TXSBit2 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に TXSBit2 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELecom:TXCas:TXSBit2:ENABle 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit2:ENABLE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit2:ENABLE?
< 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit2:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXSBit2 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する TXSBit2 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 0 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit2:PTRansition 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit2:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit2:PTRansition?
< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit2:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXSBit2 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する TXSBit2 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 1 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit2:NTRansition 2

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit2:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit2:NTRansition?
< 2

<TXSBit3 Status Register>

シグナリングビットモニタ（送信ラインの CH07～CH09）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit3[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	送信ラインの CH07 SgA が 1
2	(Bit 1)	送信ラインの CH07 SgB が 1
4	(Bit 2)	送信ラインの CH07 SgC が 1
8	(Bit 3)	送信ラインの CH07 SgD が 1
16	(Bit 4)	送信ラインの CH08 SgA が 1
32	(Bit 5)	送信ラインの CH08 SgB が 1
64	(Bit 6)	送信ラインの CH08 SgC が 1
128	(Bit 7)	送信ラインの CH08 SgD が 1
256	(Bit 8)	送信ラインの CH09 SgA が 1
512	(Bit 9)	送信ラインの CH09 SgB が 1
1024	(Bit 10)	送信ラインの CH09 SgC が 1
2048	(Bit 11)	送信ラインの CH09 SgD が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXSBit3 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit3:EVENT?
または :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit3?
< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit3:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXSBit3 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit3:CONDition?
< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit3:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が TXSBit3 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に TXSBit3 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit3:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit3:ENABle?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit3:ENABle?**
< 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit3:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXSBit3 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する TXSBit3 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit3:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit3:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit3:PTRansition?**
< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit3:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXSBit3 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する TXSBit3 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit3:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit3:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit3:NTRansition?**
< 2

<TXSBit4 Status Register>

シグナリングビットモニタ（送信ラインの CH10～CH12）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit4[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	送信ラインの CH10 SgA が 1
2	(Bit 1)	送信ラインの CH10 SgB が 1
4	(Bit 2)	送信ラインの CH10 SgC が 1
8	(Bit 3)	送信ラインの CH10 SgD が 1
16	(Bit 4)	送信ラインの CH11 SgA が 1
32	(Bit 5)	送信ラインの CH11 SgB が 1
64	(Bit 6)	送信ラインの CH11 SgC が 1
128	(Bit 7)	送信ラインの CH11 SgD が 1
256	(Bit 8)	送信ラインの CH12 SgA が 1
512	(Bit 9)	送信ラインの CH12 SgB が 1
1024	(Bit 10)	送信ラインの CH12 SgC が 1
2048	(Bit 11)	送信ラインの CH12 SgD が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXSBit4 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit4:EVENT?
または :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit4?
< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit4:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXSBit4 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit4:CONDition?
< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit4:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が TXSBit4 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に TXSBit4 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit4:ENABLE 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit4:ENABLE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit4:ENABLE?
< 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit4:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXSBit4 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する TXSBit4 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 0 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit4:PTRansition 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit4:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit4:PTRansition?
< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit4:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXSBit4 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する TXSBit4 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 1 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit4:NTRansition 2

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit4:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit4:NTRansition?
< 2

<TXSBit5 Status Register>

シグナリングビットモニタ（送信ラインの CH13～CH15）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit5[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	送信ラインの CH13 SgA が 1
2	(Bit 1)	送信ラインの CH13 SgB が 1
4	(Bit 2)	送信ラインの CH13 SgC が 1
8	(Bit 3)	送信ラインの CH13 SgD が 1
16	(Bit 4)	送信ラインの CH14 SgA が 1
32	(Bit 5)	送信ラインの CH14 SgB が 1
64	(Bit 6)	送信ラインの CH14 SgC が 1
128	(Bit 7)	送信ラインの CH14 SgD が 1
256	(Bit 8)	送信ラインの CH15 SgA が 1
512	(Bit 9)	送信ラインの CH15 SgB が 1
1024	(Bit 10)	送信ラインの CH15 SgC が 1
2048	(Bit 11)	送信ラインの CH15 SgD が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXSBit5 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit5:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit5?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit5:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXSBit5 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit5:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit5:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が TXSBit5 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に TXSBit5 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit5:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELecom:TXCas:TXSBit5:ENABle?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:TXCas:TXSBit5:ENABle?
< 3

:STATus:QUEStionable:TELecom:TXCas:TXSBit5:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXSBit5 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する TXSBit5 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 0 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELecom:TXCas:TXSBit5:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELecom:TXCas:TXSBit5:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:TXCas:TXSBit5:PTRansition?
< 1

:STATus:QUEStionable:TELecom:TXCas:TXSBit5:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXSBit5 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する TXSBit5 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELecom:TXCas:TXSBit5:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELecom:TXCas:TXSBit5:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:TXCas:TXSBit5:NTRansition?
< 2

<TXSBit6 Status Register>

シグナリングビットモニタ（送信ラインの CH16～CH18）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit6[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	送信ラインの CH16 SgA が 1
2	(Bit 1)	送信ラインの CH16 SgB が 1
4	(Bit 2)	送信ラインの CH16 SgC が 1
8	(Bit 3)	送信ラインの CH16 SgD が 1
16	(Bit 4)	送信ラインの CH17 SgA が 1
32	(Bit 5)	送信ラインの CH17 SgB が 1
64	(Bit 6)	送信ラインの CH17 SgC が 1
128	(Bit 7)	送信ラインの CH17 SgD が 1
256	(Bit 8)	送信ラインの CH18 SgA が 1
512	(Bit 9)	送信ラインの CH18 SgB が 1
1024	(Bit 10)	送信ラインの CH18 SgC が 1
2048	(Bit 11)	送信ラインの CH18 SgD が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXSBit6 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit6:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit6?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit6:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXSBit6 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit6:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit6:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が TXSBit6 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に TXSBit6 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit6:ENABLE 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit6:ENABle?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit6:ENABle?
 < 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit6:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXSBit6 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する TXSBit6 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit6:PTRansition 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit6:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit6:PTRansition?
 < 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit6:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXSBit6 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する TXSBit6 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit6:NTRansition 2

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit6:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit6:NTRansition?
 < 2

<TXSBit7 Status Register>

シグナリングビットモニタ（送信ラインの CH19～CH21）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit7[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	送信ラインの CH19 SgA が 1
2	(Bit 1)	送信ラインの CH19 SgB が 1
4	(Bit 2)	送信ラインの CH19 SgC が 1
8	(Bit 3)	送信ラインの CH19 SgD が 1
16	(Bit 4)	送信ラインの CH20 SgA が 1
32	(Bit 5)	送信ラインの CH20 SgB が 1
64	(Bit 6)	送信ラインの CH20 SgC が 1
128	(Bit 7)	送信ラインの CH20 SgD が 1
256	(Bit 8)	送信ラインの CH21 SgA が 1
512	(Bit 9)	送信ラインの CH21 SgB が 1
1024	(Bit 10)	送信ラインの CH21 SgC が 1
2048	(Bit 11)	送信ラインの CH21 SgD が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXSBit7 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit7:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit7?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit7:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXSBit7 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit7:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit7:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が TXSBit7 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に TXSBit7 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit7:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit7:ENABle?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit7:ENABle?**
< 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit7:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXSBit7 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する TXSBit7 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit7:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit7:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit7:PTRansition?**
< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit7:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXSBit7 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する TXSBit7 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit7:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit7:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit7:NTRansition?**
< 2

<TXSBit8 Status Register>

シグナリングビットモニタ（送信ラインの CH22～CH24）の結果を示します。

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:TXCas:TXSBit8[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	送信ラインの CH22 SgA が 1
2	(Bit 1)	送信ラインの CH22 SgB が 1
4	(Bit 2)	送信ラインの CH22 SgC が 1
8	(Bit 3)	送信ラインの CH22 SgD が 1
16	(Bit 4)	送信ラインの CH23 SgA が 1
32	(Bit 5)	送信ラインの CH23 SgB が 1
64	(Bit 6)	送信ラインの CH23 SgC が 1
128	(Bit 7)	送信ラインの CH23 SgD が 1
256	(Bit 8)	送信ラインの CH24 SgA が 1
512	(Bit 9)	送信ラインの CH24 SgB が 1
1024	(Bit 10)	送信ラインの CH24 SgC が 1
2048	(Bit 11)	送信ラインの CH24 SgD が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXSBit8 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:TXCas:TXSBit8:EVENT?

または :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:TXCas:TXSBit8?

< 1

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:TXCas:TXSBit8:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXSBit8 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:TXCas:TXSBit8:CONDition?

< 1

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:TXCas:TXSBit8:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が TXSBit8 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に TXSBit8 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:TXCas:TXSBit8:ENABLE 3

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXCas:TXSBit8:ENABle?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELecom:TXCas:TXSBit8:ENABle?
< 3

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXCas:TXSBit8:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXSBit8 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する TXSBit8 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 0 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELecom:TXCas:TXSBit8:PTRansition 1

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXCas:TXSBit8:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELecom:TXCas:TXSBit8:PTRansition?
< 1

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXCas:TXSBit8:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXSBit8 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する TXSBit8 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 1 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELecom:TXCas:TXSBit8:NTRansition 2

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXCas:TXSBit8:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELecom:TXCas:TXSBit8:NTRansition?
< 2

<TXSBit9 Status Register>

シグナリングビットモニタ（送信ラインの CH25～CH27）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit9[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	送信ラインの CH25 SgA が 1
2	(Bit 1)	送信ラインの CH25 SgB が 1
4	(Bit 2)	送信ラインの CH25 SgC が 1
8	(Bit 3)	送信ラインの CH25 SgD が 1
16	(Bit 4)	送信ラインの CH26 SgA が 1
32	(Bit 5)	送信ラインの CH26 SgB が 1
64	(Bit 6)	送信ラインの CH26 SgC が 1
128	(Bit 7)	送信ラインの CH26 SgD が 1
256	(Bit 8)	送信ラインの CH27 SgA が 1
512	(Bit 9)	送信ラインの CH27 SgB が 1
1024	(Bit 10)	送信ラインの CH27 SgC が 1
2048	(Bit 11)	送信ラインの CH27 SgD が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXSBit9 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit9:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit9?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit9:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXSBit9 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit9:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit9:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が TXSBit9 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に TXSBit9 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit9:ENABLE 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit9:ENABLE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit9:ENABLE?
< 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit9:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXSBit9 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する TXSBit9 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 0 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit9:PTRansition 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit9:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit9:PTRansition?
< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit9:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXSBit9 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する TXSBit9 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 1 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit9:NTRansition 2

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit9:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXCas:TXSBit9:NTRansition?
< 2

<TXSBit10 Status Register>

シグナリングビットモニタ（送信ラインの CH28～CH30）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit10[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	送信ラインの CH28 SgA が 1
2	(Bit 1)	送信ラインの CH28 SgB が 1
4	(Bit 2)	送信ラインの CH28 SgC が 1
8	(Bit 3)	送信ラインの CH28 SgD が 1
16	(Bit 4)	送信ラインの CH29 SgA が 1
32	(Bit 5)	送信ラインの CH29 SgB が 1
64	(Bit 6)	送信ラインの CH29 SgC が 1
128	(Bit 7)	送信ラインの CH29 SgD が 1
256	(Bit 8)	送信ラインの CH30 SgA が 1
512	(Bit 9)	送信ラインの CH30 SgB が 1
1024	(Bit 10)	送信ラインの CH30 SgC が 1
2048	(Bit 11)	送信ラインの CH30 SgD が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXSBit10 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit10:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit10?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit10:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXSBit10 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit10:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit10:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が TXSBit10 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に TXSBit10 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit10:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit10:ENABle?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit10:ENABle?
 < 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit10:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXSBit10 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する TXSBit10 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit10:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit10:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit10:PTRansition?
 < 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit10:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXSBit10 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する TXSBit10 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit10:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit10:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXCas:TXSBit10:NTRansition?
 < 2

<RXCas Status Register>

RXSBit* Status Register のサマリなどを供給します。(*=1~10)

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	RXSBit1 Status Register サマリ
2	(Bit 1)	RXSBit2 Status Register サマリ
4	(Bit 2)	RXSBit3 Status Register サマリ
8	(Bit 3)	RXSBit4 Status Register サマリ
16	(Bit 4)	RXSBit5 Status Register サマリ
32	(Bit 5)	RXSBit6 Status Register サマリ
64	(Bit 6)	RXSBit7 Status Register サマリ
128	(Bit 7)	RXSBit8 Status Register サマリ
256	(Bit 8)	RXSBit9 Status Register サマリ
512	(Bit 9)	RXSBit10 Status Register サマリ

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXCas ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:EVENT?

または :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas?

< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXCas ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:CONDition?

< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が RXCas サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に RXCas サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:ENABLE 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:ENABLE?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:ENABLE?**
< 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXCas Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する RXCas Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
> :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:PTRansition 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:PTRansition?**
< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXCas Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する RXCas Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
> :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:NTRansition 2

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:NTRansition?**
< 2

<RXSBit1 Status Register>

シグナリングビットモニタ（受信ラインの CH01～CH03）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit1[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	受信ラインの CH01 SgA が 1
2	(Bit 1)	受信ラインの CH01 SgB が 1
4	(Bit 2)	受信ラインの CH01 SgC が 1
8	(Bit 3)	受信ラインの CH01 SgD が 1
16	(Bit 4)	受信ラインの CH02 SgA が 1
32	(Bit 5)	受信ラインの CH02 SgB が 1
64	(Bit 6)	受信ラインの CH02 SgC が 1
128	(Bit 7)	受信ラインの CH02 SgD が 1
256	(Bit 8)	受信ラインの CH03 SgA が 1
512	(Bit 9)	受信ラインの CH03 SgB が 1
1024	(Bit 10)	受信ラインの CH03 SgC が 1
2048	(Bit 11)	受信ラインの CH03 SgD が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXSBit1 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit1:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit1?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit1:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXSBit1 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit1:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit1:ENABle <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が RXSBit1 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に RXSBit1 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit1:ENABle 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT1:ENABle?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT1:ENABle?**
< 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT1:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXSBiT1 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する RXSBiT1 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
> :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT1:PTRansition 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT1:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT1:PTRansition?**
< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT1:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXSBiT1 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する RXSBiT1 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
> :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT1:NTRansition 2

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT1:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT1:NTRansition?**
< 2

<RXSBit2 Status Register>

シグナリングビットモニタ（受信ラインの CH04～CH06）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit2[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	受信ラインの CH04 SgA が 1
2	(Bit 1)	受信ラインの CH04 SgB が 1
4	(Bit 2)	受信ラインの CH04 SgC が 1
8	(Bit 3)	受信ラインの CH04 SgD が 1
16	(Bit 4)	受信ラインの CH05 SgA が 1
32	(Bit 5)	受信ラインの CH05 SgB が 1
64	(Bit 6)	受信ラインの CH05 SgC が 1
128	(Bit 7)	受信ラインの CH05 SgD が 1
256	(Bit 8)	受信ラインの CH06 SgA が 1
512	(Bit 9)	受信ラインの CH06 SgB が 1
1024	(Bit 10)	受信ラインの CH06 SgC が 1
2048	(Bit 11)	受信ラインの CH06 SgD が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXSBit2 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit2:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit2?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit2:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXSBit2 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit2:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit2:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が RXSBit2 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に RXSBit2 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit2:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT2:ENABle?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT2:ENABle?**
< 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT2:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXSBiT2 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する RXSBiT2 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT2:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT2:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT2:PTRansition?**
< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT2:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXSBiT2 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する RXSBiT2 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT2:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT2:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT2:NTRansition?**
< 2

<RXSBit3 Status Register>

シグナリングビットモニタ（受信ラインの CH07～CH09）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit3[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	受信ラインの CH07 SgA が 1
2	(Bit 1)	受信ラインの CH07 SgB が 1
4	(Bit 2)	受信ラインの CH07 SgC が 1
8	(Bit 3)	受信ラインの CH07 SgD が 1
16	(Bit 4)	受信ラインの CH08 SgA が 1
32	(Bit 5)	受信ラインの CH08 SgB が 1
64	(Bit 6)	受信ラインの CH08 SgC が 1
128	(Bit 7)	受信ラインの CH08 SgD が 1
256	(Bit 8)	受信ラインの CH09 SgA が 1
512	(Bit 9)	受信ラインの CH09 SgB が 1
1024	(Bit 10)	受信ラインの CH09 SgC が 1
2048	(Bit 11)	受信ラインの CH09 SgD が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXSBit3 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit3:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit3?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit3:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXSBit3 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit3:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit3:ENABle <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が RXSBit3 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に RXSBit3 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit3:ENABle 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT3:ENABle?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT3:ENABle?**
< 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT3:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXSBiT3 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する RXSBiT3 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
> :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT3:PTRansition 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT3:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT3:PTRansition?**
< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT3:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXSBiT3 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する RXSBiT3 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
> :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT3:NTRansition 2

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT3:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT3:NTRansition?**
< 2

<RXSBit4 Status Register>

シグナリングビットモニタ（受信ラインの CH10～CH12）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit4[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	受信ラインの CH10 SgA が 1
2	(Bit 1)	受信ラインの CH10 SgB が 1
4	(Bit 2)	受信ラインの CH10 SgC が 1
8	(Bit 3)	受信ラインの CH10 SgD が 1
16	(Bit 4)	受信ラインの CH11 SgA が 1
32	(Bit 5)	受信ラインの CH11 SgB が 1
64	(Bit 6)	受信ラインの CH11 SgC が 1
128	(Bit 7)	受信ラインの CH11 SgD が 1
256	(Bit 8)	受信ラインの CH12 SgA が 1
512	(Bit 9)	受信ラインの CH12 SgB が 1
1024	(Bit 10)	受信ラインの CH12 SgC が 1
2048	(Bit 11)	受信ラインの CH12 SgD が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXSBit4 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit4:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit4?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit4:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXSBit4 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit4:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit4:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が RXSBit4 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に RXSBit4 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit4:ENABLE 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBi4:ENABle?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBi4:ENABle?**
< 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBi4:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXSBi4 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する RXSBi4 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
> :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBi4:PTRansition 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBi4:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBi4:PTRansition?**
< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBi4:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXSBi4 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する RXSBi4 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
> :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBi4:NTRansition 2

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBi4:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBi4:NTRansition?**
< 2

<RXSBit5 Status Register>

シグナリングビットモニタ（受信ラインの CH13～CH15）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit5[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	受信ラインの CH13 SgA が 1
2	(Bit 1)	受信ラインの CH13 SgB が 1
4	(Bit 2)	受信ラインの CH13 SgC が 1
8	(Bit 3)	受信ラインの CH13 SgD が 1
16	(Bit 4)	受信ラインの CH14 SgA が 1
32	(Bit 5)	受信ラインの CH14 SgB が 1
64	(Bit 6)	受信ラインの CH14 SgC が 1
128	(Bit 7)	受信ラインの CH14 SgD が 1
256	(Bit 8)	受信ラインの CH15 SgA が 1
512	(Bit 9)	受信ラインの CH15 SgB が 1
1024	(Bit 10)	受信ラインの CH15 SgC が 1
2048	(Bit 11)	受信ラインの CH15 SgD が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXSBit5 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit5:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit5?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit5:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXSBit5 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit5:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit5:ENABle <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が RXSBit5 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に RXSBit5 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit5:ENABle 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT5:ENABle?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT5:ENABle?
< 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT5:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXSBiT5 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する RXSBiT5 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 0 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT5:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT5:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT5:PTRansition?
< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT5:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXSBiT5 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する RXSBiT5 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT5:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT5:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT5:NTRansition?
< 2

<RXSBit6 Status Register>

シグナリングビットモニタ（受信ラインの CH16～CH18）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit6[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	受信ラインの CH16 SgA が 1
2	(Bit 1)	受信ラインの CH16 SgB が 1
4	(Bit 2)	受信ラインの CH16 SgC が 1
8	(Bit 3)	受信ラインの CH16 SgD が 1
16	(Bit 4)	受信ラインの CH17 SgA が 1
32	(Bit 5)	受信ラインの CH17 SgB が 1
64	(Bit 6)	受信ラインの CH17 SgC が 1
128	(Bit 7)	受信ラインの CH17 SgD が 1
256	(Bit 8)	受信ラインの CH18 SgA が 1
512	(Bit 9)	受信ラインの CH18 SgB が 1
1024	(Bit 10)	受信ラインの CH18 SgC が 1
2048	(Bit 11)	受信ラインの CH18 SgD が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXSBit6 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit6:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit6?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit6:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXSBit6 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit6:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit6:ENABle <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が RXSBit6 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に RXSBit6 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit6:ENABle 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT6:ENABle?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT6:ENABle?**
< 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT6:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXSBiT6 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する RXSBiT6 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT6:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT6:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT6:PTRansition?**
< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT6:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXSBiT6 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する RXSBiT6 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT6:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT6:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT6:NTRansition?**
< 2

<RXSBit7 Status Register>

シグナリングビットモニタ（受信ラインの CH19～CH21）の結果を示します。

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBit7[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	受信ラインの CH19 SgA が 1
2	(Bit 1)	受信ラインの CH19 SgB が 1
4	(Bit 2)	受信ラインの CH19 SgC が 1
8	(Bit 3)	受信ラインの CH19 SgD が 1
16	(Bit 4)	受信ラインの CH20 SgA が 1
32	(Bit 5)	受信ラインの CH20 SgB が 1
64	(Bit 6)	受信ラインの CH20 SgC が 1
128	(Bit 7)	受信ラインの CH20 SgD が 1
256	(Bit 8)	受信ラインの CH21 SgA が 1
512	(Bit 9)	受信ラインの CH21 SgB が 1
1024	(Bit 10)	受信ラインの CH21 SgC が 1
2048	(Bit 11)	受信ラインの CH21 SgD が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXSBit7 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBit7:EVENT?

または :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBit7?

< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBit7:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXSBit7 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBit7:CONDition?

< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBit7:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が RXSBit7 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に RXSBit7 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXCas:RXSBit7:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELecom:RXCas:RXSBiT7:ENABle?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:RXCas:RXSBiT7:ENABle?
 < 3

:STATus:QUEStionable:TELecom:RXCas:RXSBiT7:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXSBiT7 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する RXSBiT7 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
 > :STATus:QUEStionable:TELecom:RXCas:RXSBiT7:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELecom:RXCas:RXSBiT7:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:RXCas:RXSBiT7:PTRansition?
 < 1

:STATus:QUEStionable:TELecom:RXCas:RXSBiT7:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXSBiT7 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する RXSBiT7 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
 > :STATus:QUEStionable:TELecom:RXCas:RXSBiT7:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELecom:RXCas:RXSBiT7:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:RXCas:RXSBiT7:NTRansition?
 < 2

<RXSBit8 Status Register>

シグナリングビットモニタ（受信ラインの CH22～CH24）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit8[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	受信ラインの CH22 SgA が 1
2	(Bit 1)	受信ラインの CH22 SgB が 1
4	(Bit 2)	受信ラインの CH22 SgC が 1
8	(Bit 3)	受信ラインの CH22 SgD が 1
16	(Bit 4)	受信ラインの CH23 SgA が 1
32	(Bit 5)	受信ラインの CH23 SgB が 1
64	(Bit 6)	受信ラインの CH23 SgC が 1
128	(Bit 7)	受信ラインの CH23 SgD が 1
256	(Bit 8)	受信ラインの CH24 SgA が 1
512	(Bit 9)	受信ラインの CH24 SgB が 1
1024	(Bit 10)	受信ラインの CH24 SgC が 1
2048	(Bit 11)	受信ラインの CH24 SgD が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXSBit8 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit8:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit8?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit8:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXSBit8 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit8:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit8:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が RXSBit8 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に RXSBit8 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit8:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELecom:RXCas:RXSBi8:ENABle?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:RXCas:RXSBi8:ENABle?
< 3

:STATus:QUEStionable:TELecom:RXCas:RXSBi8:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXSBi8 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する RXSBi8 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 0 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELecom:RXCas:RXSBi8:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELecom:RXCas:RXSBi8:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:RXCas:RXSBi8:PTRansition?
< 1

:STATus:QUEStionable:TELecom:RXCas:RXSBi8:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXSBi8 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する RXSBi8 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELecom:RXCas:RXSBi8:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELecom:RXCas:RXSBi8:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:RXCas:RXSBi8:NTRansition?
< 2

<RXSBit9 Status Register>

シグナリングビットモニタ（受信ラインの CH25～CH27）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit9[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	受信ラインの CH25 SgA が 1
2	(Bit 1)	受信ラインの CH25 SgB が 1
4	(Bit 2)	受信ラインの CH25 SgC が 1
8	(Bit 3)	受信ラインの CH25 SgD が 1
16	(Bit 4)	受信ラインの CH26 SgA が 1
32	(Bit 5)	受信ラインの CH26 SgB が 1
64	(Bit 6)	受信ラインの CH26 SgC が 1
128	(Bit 7)	受信ラインの CH26 SgD が 1
256	(Bit 8)	受信ラインの CH27 SgA が 1
512	(Bit 9)	受信ラインの CH27 SgB が 1
1024	(Bit 10)	受信ラインの CH27 SgC が 1
2048	(Bit 11)	受信ラインの CH27 SgD が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXSBit9 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit9:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit9?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit9:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXSBit9 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit9:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit9:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が RXSBit9 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に RXSBit9 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit9:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT9:ENABle?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT9:ENABle?**
< 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT9:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXSBiT9 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する RXSBiT9 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT9:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT9:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT9:PTRansition?**
< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT9:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXSBiT9 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する RXSBiT9 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT9:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT9:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBiT9:NTRansition?**
< 2

<RXSBit10 Status Register>

シグナリングビットモニタ（受信ラインの CH28～CH30）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit10[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	受信ラインの CH28 SgA が 1
2	(Bit 1)	受信ラインの CH28 SgB が 1
4	(Bit 2)	受信ラインの CH28 SgC が 1
8	(Bit 3)	受信ラインの CH28 SgD が 1
16	(Bit 4)	受信ラインの CH29 SgA が 1
32	(Bit 5)	受信ラインの CH29 SgB が 1
64	(Bit 6)	受信ラインの CH29 SgC が 1
128	(Bit 7)	受信ラインの CH29 SgD が 1
256	(Bit 8)	受信ラインの CH30 SgA が 1
512	(Bit 9)	受信ラインの CH30 SgB が 1
1024	(Bit 10)	受信ラインの CH30 SgC が 1
2048	(Bit 11)	受信ラインの CH30 SgD が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXSBit10 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit10:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit10?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit10:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXSBit10 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit10:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit10:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が RXSBit10 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に RXSBit10 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit10:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit10:ENABle?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit10:ENABle?**
< 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit10:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXSBit10 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する RXSBit10 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit10:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit10:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit10:PTRansition?**
< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit10:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXSBit10 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する RXSBit10 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit10:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit10:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXCas:RXSBit10:NTRansition?**
< 2

<TXFas1 Status Register>

TXFBit* Status Register のサマリなどを供給します。(*=0~14)

:STATUS:QUESTionable:TELEcom:TXFas1[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	TXFBit0 Status Register サマリ
2	(Bit 1)	TXFBit1 Status Register サマリ
4	(Bit 2)	TXFBit2 Status Register サマリ
8	(Bit 3)	TXFBit3 Status Register サマリ
16	(Bit 4)	TXFBit4 Status Register サマリ
32	(Bit 5)	TXFBit5 Status Register サマリ
64	(Bit 6)	TXFBit6 Status Register サマリ
128	(Bit 7)	TXFBit7 Status Register サマリ
256	(Bit 8)	TXFBit8 Status Register サマリ
512	(Bit 9)	TXFBit9 Status Register サマリ
1024	(Bit 10)	TXFBit10 Status Register サマリ
2048	(Bit 11)	TXFBit11 Status Register サマリ
4096	(Bit 12)	TXFBit12 Status Register サマリ
8192	(Bit 13)	TXFBit13 Status Register サマリ
16384	(Bit 14)	TXFBit14 Status Register サマリ

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFas1 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATUS:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:EVENT?

または :STATUS:QUESTionable:TELEcom:TXFas1?

< 1

:STATUS:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFas1 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATUS:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:CONDition?

< 1

:STATUS:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が TXFas1 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に TXFas1 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATUS:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:ENABLE 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:ENABle?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 **Event Enable Register** の現在の **mask** の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:ENABle?**
< 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は **0** を設定します。
- 【機能】 **Positive Transition Filter** をセットします。
Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する **TXFas1 Condition Register** のビットが **0** から **1** へ変化したときに、対応する **TXFas1 Event Register** のビットへ **1** が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット **0** をセットします。
> :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:PTRansition 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 **Positive Transition Filter** の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:PTRansition?**
< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は **0** を設定します。
- 【機能】 **Negative Transition Filter** をセットします。
Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する **TXFas1 Condition Register** のビットが **1** から **0** へ変化したときに、対応する **TXFas1 Event Register** のビットへ **1** が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット **1** をセットします。
> :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:NTRansition 2

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 **Negative Transition Filter** の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:NTRansition?**
< 2

<TXFBit0 Status Register>

フレームビットモニタ（送信ラインのフレーム 0）の結果を示します。

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:TXFas1:TXFBit0[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	送信ラインのフレーム 0 ビット 1 が 1
2	(Bit 1)	送信ラインのフレーム 0 ビット 2 が 1
4	(Bit 2)	送信ラインのフレーム 0 ビット 3 が 1
8	(Bit 3)	送信ラインのフレーム 0 ビット 4 が 1
16	(Bit 4)	送信ラインのフレーム 0 ビット 5 が 1
32	(Bit 5)	送信ラインのフレーム 0 ビット 6 が 1
64	(Bit 6)	送信ラインのフレーム 0 ビット 7 が 1
128	(Bit 7)	送信ラインのフレーム 0 ビット 8 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit0 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:TXFas1:TXFBit0:EVENT?

または :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:TXFas1:TXFBit0?

< 1

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:TXFas1:TXFBit0:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit0 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:TXFas1:TXFBit0:CONDition?

< 1

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:TXFas1:TXFBit0:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が TXFBit0 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に TXFBit0 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:TXFas1:TXFBit0:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas1:TXFBit0:ENABle?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas1:TXFBit0:ENABle?
 < 3

:STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas1:TXFBit0:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXFBit0 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する TXFBit0 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
 > :STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas1:TXFBit0:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas1:TXFBit0:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas1:TXFBit0:PTRansition?
 < 1

:STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas1:TXFBit0:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXFBit0 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する TXFBit0 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
 > :STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas1:TXFBit0:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas1:TXFBit0:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas1:TXFBit0:NTRansition?
 < 2

<TXFBit1 Status Register>

フレームビットモニタ（送信ラインのフレーム 1）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit1[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	送信ラインのフレーム 1 ビット 1 が 1
2	(Bit 1)	送信ラインのフレーム 1 ビット 2 が 1
4	(Bit 2)	送信ラインのフレーム 1 ビット 3 が 1
8	(Bit 3)	送信ラインのフレーム 1 ビット 4 が 1
16	(Bit 4)	送信ラインのフレーム 1 ビット 5 が 1
32	(Bit 5)	送信ラインのフレーム 1 ビット 6 が 1
64	(Bit 6)	送信ラインのフレーム 1 ビット 7 が 1
128	(Bit 7)	送信ラインのフレーム 1 ビット 8 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit1 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit1:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit1?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit1:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit1 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit1:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit1:ENABle <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が TXFBit1 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に TXFBit1 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit1:ENABle 3

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit1:ENABLE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit1:ENABLE?
< 3

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit1:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXFBit1 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する TXFBit1 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 0 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit1:PTRansition 1

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit1:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit1:PTRansition?
< 1

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit1:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXFBit1 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する TXFBit1 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 1 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit1:NTRansition 2

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit1:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit1:NTRansition?
< 2

<TXFBit2 Status Register>

フレームビットモニタ（送信ラインのフレーム 2）の結果を示します。

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit2[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	送信ラインのフレーム 2 ビット 1 が 1
2	(Bit 1)	送信ラインのフレーム 2 ビット 2 が 1
4	(Bit 2)	送信ラインのフレーム 2 ビット 3 が 1
8	(Bit 3)	送信ラインのフレーム 2 ビット 4 が 1
16	(Bit 4)	送信ラインのフレーム 2 ビット 5 が 1
32	(Bit 5)	送信ラインのフレーム 2 ビット 6 が 1
64	(Bit 6)	送信ラインのフレーム 2 ビット 7 が 1
128	(Bit 7)	送信ラインのフレーム 2 ビット 8 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit2 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit2:EVENT?

または :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit2?

< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit2:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit2 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit2:CONDition?

< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit2:ENABle <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が TXFBit2 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に TXFBit2 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit2:ENABle 3

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit2:ENABle?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit2:ENABle?
 < 3

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit2:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXFBit2 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する TXFBit2 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
 > :STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit2:PTRansition 1

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit2:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit2:PTRansition?
 < 1

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit2:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXFBit2 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する TXFBit2 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
 > :STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit2:NTRansition 2

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit2:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit2:NTRansition?
 < 2

<TXFBit3 Status Register>

フレームビットモニタ（送信ラインのフレーム 3）の結果を示します。

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:TXFas1:TXFBit3[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	送信ラインのフレーム 3 ビット 1 が 1
2	(Bit 1)	送信ラインのフレーム 3 ビット 2 が 1
4	(Bit 2)	送信ラインのフレーム 3 ビット 3 が 1
8	(Bit 3)	送信ラインのフレーム 3 ビット 4 が 1
16	(Bit 4)	送信ラインのフレーム 3 ビット 5 が 1
32	(Bit 5)	送信ラインのフレーム 3 ビット 6 が 1
64	(Bit 6)	送信ラインのフレーム 3 ビット 7 が 1
128	(Bit 7)	送信ラインのフレーム 3 ビット 8 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit3 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:TXFas1:TXFBit3:EVENT?

または :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:TXFas1:TXFBit3?

< 1

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:TXFas1:TXFBit3:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit3 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:TXFas1:TXFBit3:CONDition?

< 1

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:TXFas1:TXFBit3:ENABle <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が TXFBit3 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に TXFBit3 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:TXFas1:TXFBit3:ENABle 3

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit3:ENABLE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit3:ENABLE?
< 3

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit3:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXFBit3 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する TXFBit3 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 0 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit3:PTRansition 1

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit3:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit3:PTRansition?
< 1

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit3:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXFBit3 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する TXFBit3 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 1 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit3:NTRansition 2

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit3:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit3:NTRansition?
< 2

<TXFBit4 Status Register>

フレームビットモニタ（送信ラインのフレーム 4）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit4[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	送信ラインのフレーム 4 ビット 1 が 1
2	(Bit 1)	送信ラインのフレーム 4 ビット 2 が 1
4	(Bit 2)	送信ラインのフレーム 4 ビット 3 が 1
8	(Bit 3)	送信ラインのフレーム 4 ビット 4 が 1
16	(Bit 4)	送信ラインのフレーム 4 ビット 5 が 1
32	(Bit 5)	送信ラインのフレーム 4 ビット 6 が 1
64	(Bit 6)	送信ラインのフレーム 4 ビット 7 が 1
128	(Bit 7)	送信ラインのフレーム 4 ビット 8 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit4 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit4:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit4?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit4:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit4 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit4:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit4:ENABle <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が TXFBit4 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に TXFBit4 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit4:ENABle 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit4:ENABLE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit4:ENABLE?
< 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit4:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXFBit4 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する TXFBit4 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 0 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit4:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit4:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit4:PTRansition?
< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit4:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXFBit4 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する TXFBit4 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit4:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit4:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit4:NTRansition?
< 2

<TXFBit5 Status Register>

フレームビットモニタ（送信ラインのフレーム 5）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit5[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	送信ラインのフレーム 5 ビット 1 が 1
2	(Bit 1)	送信ラインのフレーム 5 ビット 2 が 1
4	(Bit 2)	送信ラインのフレーム 5 ビット 3 が 1
8	(Bit 3)	送信ラインのフレーム 5 ビット 4 が 1
16	(Bit 4)	送信ラインのフレーム 5 ビット 5 が 1
32	(Bit 5)	送信ラインのフレーム 5 ビット 6 が 1
64	(Bit 6)	送信ラインのフレーム 5 ビット 7 が 1
128	(Bit 7)	送信ラインのフレーム 5 ビット 8 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit5 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit5:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit5?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit5:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit5 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit5:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit5:ENABle <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が TXFBit5 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に TXFBit5 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit5:ENABle 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit5:ENABle?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit5:ENABle?
< 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit5:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXFBit5 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する TXFBit5 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 0 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit5:PTRansition 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit5:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit5:PTRansition?
< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit5:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXFBit5 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する TXFBit5 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 1 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit5:NTRansition 2

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit5:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit5:NTRansition?
< 2

<TXFBit6 Status Register>

フレームビットモニタ（送信ラインのフレーム 6）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit6[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	送信ラインのフレーム 6 ビット 1 が 1
2	(Bit 1)	送信ラインのフレーム 6 ビット 2 が 1
4	(Bit 2)	送信ラインのフレーム 6 ビット 3 が 1
8	(Bit 3)	送信ラインのフレーム 6 ビット 4 が 1
16	(Bit 4)	送信ラインのフレーム 6 ビット 5 が 1
32	(Bit 5)	送信ラインのフレーム 6 ビット 6 が 1
64	(Bit 6)	送信ラインのフレーム 6 ビット 7 が 1
128	(Bit 7)	送信ラインのフレーム 6 ビット 8 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit6 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit6:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit6?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit6:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit6 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit6:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit6:ENABle <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が TXFBit6 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に TXFBit6 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit6:ENABle 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit6:ENABLE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit6:ENABLE?
< 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit6:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXFBit6 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する TXFBit6 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 0 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit6:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit6:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit6:PTRansition?
< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit6:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXFBit6 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する TXFBit6 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit6:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit6:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit6:NTRansition?
< 2

<TXFBit7 Status Register>

フレームビットモニタ（送信ラインのフレーム 7）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit7[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	送信ラインのフレーム 7 ビット 1 が 1
2	(Bit 1)	送信ラインのフレーム 7 ビット 2 が 1
4	(Bit 2)	送信ラインのフレーム 7 ビット 3 が 1
8	(Bit 3)	送信ラインのフレーム 7 ビット 4 が 1
16	(Bit 4)	送信ラインのフレーム 7 ビット 5 が 1
32	(Bit 5)	送信ラインのフレーム 7 ビット 6 が 1
64	(Bit 6)	送信ラインのフレーム 7 ビット 7 が 1
128	(Bit 7)	送信ラインのフレーム 7 ビット 8 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit7 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit7:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit7?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit7:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit7 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit7:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit7:ENABle <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が TXFBit7 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に TXFBit7 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit7:ENABle 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit7:ENABle?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 **Event Enable Register** の現在の **mask** の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit7:ENABle?**
< 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit7:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は **0** を設定します。
- 【機能】 **Positive Transition Filter** をセットします。
Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する **TXFBit7 Condition Register** のビットが **0** から **1** へ変化したときに、対応する **TXFBit7 Event Register** のビットへ **1** が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット **0** をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit7:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit7:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 **Positive Transition Filter** の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit7:PTRansition?**
< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit7:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は **0** を設定します。
- 【機能】 **Negative Transition Filter** をセットします。
Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する **TXFBit7 Condition Register** のビットが **1** から **0** へ変化したときに、対応する **TXFBit7 Event Register** のビットへ **1** が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット **1** をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit7:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit7:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 **Negative Transition Filter** の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit7:NTRansition?**
< 2

<TXFBit8 Status Register>

フレームビットモニタ（送信ラインのフレーム 8）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit8[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	送信ラインのフレーム 8 ビット 1 が 1
2	(Bit 1)	送信ラインのフレーム 8 ビット 2 が 1
4	(Bit 2)	送信ラインのフレーム 8 ビット 3 が 1
8	(Bit 3)	送信ラインのフレーム 8 ビット 4 が 1
16	(Bit 4)	送信ラインのフレーム 8 ビット 5 が 1
32	(Bit 5)	送信ラインのフレーム 8 ビット 6 が 1
64	(Bit 6)	送信ラインのフレーム 8 ビット 7 が 1
128	(Bit 7)	送信ラインのフレーム 8 ビット 8 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit8 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit8:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit8?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit8:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit8 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit8:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit8:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が TXFBit8 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に TXFBit8 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit8:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit8:ENABle?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit8:ENABle?
< 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit8:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXFBit8 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する TXFBit8 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 0 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit8:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit8:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit8:PTRansition?
< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit8:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXFBit8 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する TXFBit8 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit8:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit8:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit8:NTRansition?
< 2

<TXFBit9 Status Register>

フレームビットモニタ（送信ラインのフレーム 9）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas1:TXFBit9[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	送信ラインのフレーム 9 ビット 1 が 1
2	(Bit 1)	送信ラインのフレーム 9 ビット 2 が 1
4	(Bit 2)	送信ラインのフレーム 9 ビット 3 が 1
8	(Bit 3)	送信ラインのフレーム 9 ビット 4 が 1
16	(Bit 4)	送信ラインのフレーム 9 ビット 5 が 1
32	(Bit 5)	送信ラインのフレーム 9 ビット 6 が 1
64	(Bit 6)	送信ラインのフレーム 9 ビット 7 が 1
128	(Bit 7)	送信ラインのフレーム 9 ビット 8 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit9 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas1:TXFBit9:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas1:TXFBit9?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas1:TXFBit9:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit9 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas1:TXFBit9:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas1:TXFBit9:ENABle <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が TXFBit9 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に TXFBit9 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas1:TXFBit9:ENABle 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit9:ENABle?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit9:ENABle?
 < 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit9:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXFBit9 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する TXFBit9 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit9:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit9:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit9:PTRansition?
 < 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit9:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXFBit9 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する TXFBit9 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit9:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit9:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit9:NTRansition?
 < 2

<TXFBit10 Status Register>

フレームビットモニタ（送信ラインのフレーム 10）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit10[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	送信ラインのフレーム 10 ビット 1 が 1
2	(Bit 1)	送信ラインのフレーム 10 ビット 2 が 1
4	(Bit 2)	送信ラインのフレーム 10 ビット 3 が 1
8	(Bit 3)	送信ラインのフレーム 10 ビット 4 が 1
16	(Bit 4)	送信ラインのフレーム 10 ビット 5 が 1
32	(Bit 5)	送信ラインのフレーム 10 ビット 6 が 1
64	(Bit 6)	送信ラインのフレーム 10 ビット 7 が 1
128	(Bit 7)	送信ラインのフレーム 10 ビット 8 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit10 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit10:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit10?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit10:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit10 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit10:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit10:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が TXFBit10 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に TXFBit10 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit10:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit10:ENABLE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit10:ENABLE?
< 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit10:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXFBit10 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する TXFBit10 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 0 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit10:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit10:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit10:PTRansition?
< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit10:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXFBit10 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する TXFBit10 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit10:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit10:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit10:NTRansition?
< 2

<TXFBit11 Status Register>

フレームビットモニタ（送信ラインのフレーム 11）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit11[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	送信ラインのフレーム 11 ビット 1 が 1
2	(Bit 1)	送信ラインのフレーム 11 ビット 2 が 1
4	(Bit 2)	送信ラインのフレーム 11 ビット 3 が 1
8	(Bit 3)	送信ラインのフレーム 11 ビット 4 が 1
16	(Bit 4)	送信ラインのフレーム 11 ビット 5 が 1
32	(Bit 5)	送信ラインのフレーム 11 ビット 6 が 1
64	(Bit 6)	送信ラインのフレーム 11 ビット 7 が 1
128	(Bit 7)	送信ラインのフレーム 11 ビット 8 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit11 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit11:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit11?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit11:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit11 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit11:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit11:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が TXFBit11 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に TXFBit11 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit11:ENABLE 3

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit11:ENABLE?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 **Event Enable Register** の現在の **mask** の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit11:ENABLE?**
< 3

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit11:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は **0** を設定します。
- 【機能】 **Positive Transition Filter** をセットします。
Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する **TXFBit11 Condition Register** のビットが **0** から **1** へ変化したときに、対応する **TXFBit11 Event Register** のビットへ **1** が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット **0** をセットします。
> :STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit11:PTRansition 1

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit11:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 **Positive Transition Filter** の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit11:PTRansition?**
< 1

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit11:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は **0** を設定します。
- 【機能】 **Negative Transition Filter** をセットします。
Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する **TXFBit11 Condition Register** のビットが **1** から **0** へ変化したときに、対応する **TXFBit11 Event Register** のビットへ **1** が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット **1** をセットします。
> :STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit11:NTRansition 2

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit11:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 **Negative Transition Filter** の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas1:TXFBit11:NTRansition?**
< 2

<TXFBit12 Status Register>

フレームビットモニタ（送信ラインのフレーム 12）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit12[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	送信ラインのフレーム 12 ビット 1 が 1
2	(Bit 1)	送信ラインのフレーム 12 ビット 2 が 1
4	(Bit 2)	送信ラインのフレーム 12 ビット 3 が 1
8	(Bit 3)	送信ラインのフレーム 12 ビット 4 が 1
16	(Bit 4)	送信ラインのフレーム 12 ビット 5 が 1
32	(Bit 5)	送信ラインのフレーム 12 ビット 6 が 1
64	(Bit 6)	送信ラインのフレーム 12 ビット 7 が 1
128	(Bit 7)	送信ラインのフレーム 12 ビット 8 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit12 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit12:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit12?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit12:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit12 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit12:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit12:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が TXFBit12 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に TXFBit12 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit12:ENABLE 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit12:ENABLE?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit12:ENABLE?**
< 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit12:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXFBit12 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する TXFBit12 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
> :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit12:PTRansition 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit12:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit12:PTRansition?**
< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit12:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXFBit12 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する TXFBit12 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
> :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit12:NTRansition 2

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit12:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit12:NTRansition?**
< 2

<TXFBit13 Status Register>

フレームビットモニタ（送信ラインのフレーム 13）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit13[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	送信ラインのフレーム 13 ビット 1 が 1
2	(Bit 1)	送信ラインのフレーム 13 ビット 2 が 1
4	(Bit 2)	送信ラインのフレーム 13 ビット 3 が 1
8	(Bit 3)	送信ラインのフレーム 13 ビット 4 が 1
16	(Bit 4)	送信ラインのフレーム 13 ビット 5 が 1
32	(Bit 5)	送信ラインのフレーム 13 ビット 6 が 1
64	(Bit 6)	送信ラインのフレーム 13 ビット 7 が 1
128	(Bit 7)	送信ラインのフレーム 13 ビット 8 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit13 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit13:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit13?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit13:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit13 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit13:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit13:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が TXFBit13 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に TXFBit13 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit13:ENABLE 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit13:ENABLE?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit13:ENABLE?
 < 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit13:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXFBit13 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する TXFBit13 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit13:PTRansition 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit13:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit13:PTRansition?
 < 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit13:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXFBit13 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する TXFBit13 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit13:NTRansition 2

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit13:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit13:NTRansition?
 < 2

<TXFBit14 Status Register>

フレームビットモニタ（送信ラインのフレーム 14）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit14[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	送信ラインのフレーム 14 ビット 1 が 1
2	(Bit 1)	送信ラインのフレーム 14 ビット 2 が 1
4	(Bit 2)	送信ラインのフレーム 14 ビット 3 が 1
8	(Bit 3)	送信ラインのフレーム 14 ビット 4 が 1
16	(Bit 4)	送信ラインのフレーム 14 ビット 5 が 1
32	(Bit 5)	送信ラインのフレーム 14 ビット 6 が 1
64	(Bit 6)	送信ラインのフレーム 14 ビット 7 が 1
128	(Bit 7)	送信ラインのフレーム 14 ビット 8 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit14 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit14:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit14?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit14:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit14 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit14:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit14:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が TXFBit14 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に TXFBit14 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit14:ENABLE 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit14:ENABLE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit14:ENABLE?
< 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit14:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXFBit14 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する TXFBit14 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 0 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit14:PTRansition 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit14:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit14:PTRansition?
< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit14:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXFBit14 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する TXFBit14 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 1 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit14:NTRansition 2

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit14:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas1:TXFBit14:NTRansition?
< 2

<TXFas2 Status Register>

TXFBit* Status Register のサマリなどを供給します。(*=15~19)

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas2[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1 (Bit 0) TXFBit15 Status Register サマリ

2 (Bit 1) TXFBit16 Status Register サマリ

4 (Bit 2) TXFBit17 Status Register サマリ

8 (Bit 3) TXFBit18 Status Register サマリ

16 (Bit 4) TXFBit19 Status Register サマリ

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFas2 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas2:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas2?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas2:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFas2 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas2:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas2:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が TXFas2 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に TXFas2 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas2:ENABLE 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas2:ENABle?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 **Event Enable Register** の現在の **mask** の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas2:ENABle?**
< 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas2:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は **0** を設定します。
- 【機能】 **Positive Transition Filter** をセットします。
Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する **TXFas2 Condition Register** のビットが **0** から **1** へ変化したときに、対応する **TXFas2 Event Register** のビットへ **1** が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット **0** をセットします。
> :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas2:PTRansition 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas2:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 **Positive Transition Filter** の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas2:PTRansition?**
< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas2:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は **0** を設定します。
- 【機能】 **Negative Transition Filter** をセットします。
Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する **TXFas2 Condition Register** のビットが **1** から **0** へ変化したときに、対応する **TXFas2 Event Register** のビットへ **1** が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット **1** をセットします。
> :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas2:NTRansition 2

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas2:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 **Negative Transition Filter** の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas2:NTRansition?**
< 2

<TXFBit15 Status Register>

フレームビットモニタ（送信ラインのフレーム 15）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas2:TXFBit15[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	送信ラインのフレーム 15 ビット 1 が 1
2	(Bit 1)	送信ラインのフレーム 15 ビット 2 が 1
4	(Bit 2)	送信ラインのフレーム 15 ビット 3 が 1
8	(Bit 3)	送信ラインのフレーム 15 ビット 4 が 1
16	(Bit 4)	送信ラインのフレーム 15 ビット 5 が 1
32	(Bit 5)	送信ラインのフレーム 15 ビット 6 が 1
64	(Bit 6)	送信ラインのフレーム 15 ビット 7 が 1
128	(Bit 7)	送信ラインのフレーム 15 ビット 8 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit15 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas2:TXFBit15:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas2:TXFBit15?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas2:TXFBit15:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit15 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas2:TXFBit15:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas2:TXFBit15:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が TXFBit15 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に TXFBit15 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas2:TXFBit15:ENABLE 3

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas2:TXFBit15:ENABLE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas2:TXFBit15:ENABLE?
< 3

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas2:TXFBit15:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXFBit15 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する TXFBit15 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 0 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas2:TXFBit15:PTRansition 1

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas2:TXFBit15:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas2:TXFBit15:PTRansition?
< 1

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas2:TXFBit15:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXFBit15 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する TXFBit15 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 1 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas2:TXFBit15:NTRansition 2

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas2:TXFBit15:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas2:TXFBit15:NTRansition?
< 2

<TXFBit16 Status Register>

フレームビットモニタ（送信ラインのフレーム 16～24）の結果を示します。

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas2:TXFBit16[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	送信ラインのフレーム 16 ビット 1 が 1
2	(Bit 1)	送信ラインのフレーム 17 ビット 1 が 1
4	(Bit 2)	送信ラインのフレーム 18 ビット 1 が 1
8	(Bit 3)	送信ラインのフレーム 19 ビット 1 が 1
16	(Bit 4)	送信ラインのフレーム 20 ビット 1 が 1
32	(Bit 5)	送信ラインのフレーム 21 ビット 1 が 1
64	(Bit 6)	送信ラインのフレーム 22 ビット 1 が 1
128	(Bit 7)	送信ラインのフレーム 23 ビット 1 が 1
256	(Bit 8)	送信ラインのフレーム 24 ビット 1 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit16 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas2:TXFBit16:EVENT?

または :STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas2:TXFBit16?

< 1

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas2:TXFBit16:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit16 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas2:TXFBit16:CONDition?

< 1

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas2:TXFBit16:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が TXFBit16 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に TXFBit16 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas2:TXFBit16:ENABLE 3

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas2:TXFBit16:ENABLE?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas2:TXFBit16:ENABLE?
 < 3

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas2:TXFBit16:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXFBit16 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する TXFBit16 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
 > :STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas2:TXFBit16:PTRansition 1

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas2:TXFBit16:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas2:TXFBit16:PTRansition?
 < 1

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas2:TXFBit16:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXFBit16 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する TXFBit16 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
 > :STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas2:TXFBit16:NTRansition 2

:STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas2:TXFBit16:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELecom:TXFas2:TXFBit16:NTRansition?
 < 2

<TXFBit17 Status Register>

DL ビット (上位 8 ビット) モニタ (送信ライン) の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas2:TXFBit17[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	送信ラインの DL ビット (ビット 15) が 1
2	(Bit 1)	送信ラインの DL ビット (ビット 14) が 1
4	(Bit 2)	送信ラインの DL ビット (ビット 13) が 1
8	(Bit 3)	送信ラインの DL ビット (ビット 12) が 1
16	(Bit 4)	送信ラインの DL ビット (ビット 11) が 1
32	(Bit 5)	送信ラインの DL ビット (ビット 10) が 1
64	(Bit 6)	送信ラインの DL ビット (ビット 9) が 1
128	(Bit 7)	送信ラインの DL ビット (ビット 8) が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit17 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas2:TXFBit17:EVENT?
または :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas2:TXFBit17?
< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas2:TXFBit17:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit17 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas2:TXFBit17:CONDition?
< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas2:TXFBit17:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が TXFBit17 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に TXFBit17 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas2:TXFBit17:ENABLE 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas2:TXFBit17:ENABLE?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas2:TXFBit17:ENABLE?**
< 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas2:TXFBit17:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXFBit17 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する TXFBit17 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
> :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas2:TXFBit17:PTRansition 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas2:TXFBit17:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas2:TXFBit17:PTRansition?**
< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas2:TXFBit17:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXFBit17 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する TXFBit17 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
> :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas2:TXFBit17:NTRansition 2

:STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas2:TXFBit17:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUESTionable:TELEcom:TXFas2:TXFBit17:NTRansition?**
< 2

<TXFBit18 Status Register>

DL ビット (下位 8 ビット) モニタ (送信ライン) の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas2:TXFBit18[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	送信ラインの DL ビット (ビット 7) が 1
2	(Bit 1)	送信ラインの DL ビット (ビット 6) が 1
4	(Bit 2)	送信ラインの DL ビット (ビット 5) が 1
8	(Bit 3)	送信ラインの DL ビット (ビット 4) が 1
16	(Bit 4)	送信ラインの DL ビット (ビット 3) が 1
32	(Bit 5)	送信ラインの DL ビット (ビット 2) が 1
64	(Bit 6)	送信ラインの DL ビット (ビット 1) が 1
128	(Bit 7)	送信ラインの DL ビット (ビット 0) が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit18 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas2:TXFBit18:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas2:TXFBit18?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas2:TXFBit18:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit18 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas2:TXFBit18:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas2:TXFBit18:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が TXFBit18 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に TXFBit18 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:TXFas2:TXFBit18:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas2:TXFBit18:ENABLE?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas2:TXFBit18:ENABLE?
 < 3

:STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas2:TXFBit18:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXFBit18 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する TXFBit18 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
 > :STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas2:TXFBit18:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas2:TXFBit18:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas2:TXFBit18:PTRansition?
 < 1

:STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas2:TXFBit18:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXFBit18 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する TXFBit18 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
 > :STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas2:TXFBit18:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas2:TXFBit18:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas2:TXFBit18:NTRansition?
 < 2

<TXFBit19 Status Register>

TS16 Frame0 ビットモニタ（送信ライン）の結果を示します。

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:TXFas2:TXFBit19[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	送信ラインの TS16 Frame0 ビット (ビット 1) が 1
2	(Bit 1)	送信ラインの TS16 Frame0 ビット (ビット 2) が 1
4	(Bit 2)	送信ラインの TS16 Frame0 ビット (ビット 3) が 1
8	(Bit 3)	送信ラインの TS16 Frame0 ビット (ビット 4) が 1
16	(Bit 4)	送信ラインの TS16 Frame0 ビット (ビット 5) が 1
32	(Bit 5)	送信ラインの TS16 Frame0 ビット (ビット 6) が 1
64	(Bit 6)	送信ラインの TS16 Frame0 ビット (ビット 7) が 1
128	(Bit 7)	送信ラインの TS16 Frame0 ビット (ビット 8) が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit19 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:TXFas2:TXFBit19:EVENT?
または :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:TXFas2:TXFBit19?
< 1

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:TXFas2:TXFBit19:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 TXFBit19 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:TXFas2:TXFBit19:CONDition?
< 1

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:TXFas2:TXFBit19:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が TXFBit19 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に TXFBit19 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:TXFas2:TXFBit19:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas2:TXFBit19:ENABLE?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas2:TXFBit19:ENABLE?
 < 3

:STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas2:TXFBit19:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXFBit19 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する TXFBit19 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
 > :STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas2:TXFBit19:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas2:TXFBit19:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas2:TXFBit19:PTRansition?
 < 1

:STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas2:TXFBit19:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する TXFBit19 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する TXFBit19 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
 > :STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas2:TXFBit19:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas2:TXFBit19:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:TXFas2:TXFBit19:NTRansition?
 < 2

<RXFas1 Status Register>

RXFBit* Status Register のサマリなどを供給します。(*=0~14)

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas1[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	RXFBit0 Status Register サマリ
2	(Bit 1)	RXFBit1 Status Register サマリ
4	(Bit 2)	RXFBit2 Status Register サマリ
8	(Bit 3)	RXFBit3 Status Register サマリ
16	(Bit 4)	RXFBit4 Status Register サマリ
32	(Bit 5)	RXFBit5 Status Register サマリ
64	(Bit 6)	RXFBit6 Status Register サマリ
128	(Bit 7)	RXFBit7 Status Register サマリ
256	(Bit 8)	RXFBit8 Status Register サマリ
512	(Bit 9)	RXFBit9 Status Register サマリ
1024	(Bit 10)	RXFBit10 Status Register サマリ
2048	(Bit 11)	RXFBit11 Status Register サマリ
4096	(Bit 12)	RXFBit12 Status Register サマリ
8192	(Bit 13)	RXFBit13 Status Register サマリ
16384	(Bit 14)	RXFBit14 Status Register サマリ

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFas1 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas1:EVENT?

または :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas1?

< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas1:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFas1 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas1:CONDition?

< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas1:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が RXFas1 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に RXFas1 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas1:ENABLE 3

:STATus:QUESTionable:TELecom:RXFas1:ENABLE?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUESTionable:TELecom:RXFas1:ENABLE?**
< 3

:STATus:QUESTionable:TELecom:RXFas1:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFas1 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する RXFas1 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
> :STATus:QUESTionable:TELecom:RXFas1:PTRansition 1

:STATus:QUESTionable:TELecom:RXFas1:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUESTionable:TELecom:RXFas1:PTRansition?**
< 1

:STATus:QUESTionable:TELecom:RXFas1:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFas1 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する RXFas1 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
> :STATus:QUESTionable:TELecom:RXFas1:NTRansition 2

:STATus:QUESTionable:TELecom:RXFas1:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUESTionable:TELecom:RXFas1:NTRansition?**
< 2

<RXFBit0 Status Register>

フレームビットモニタ（受信ラインのフレーム 0）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit0[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	受信ラインのフレーム 0 ビット 1 が 1
2	(Bit 1)	受信ラインのフレーム 0 ビット 2 が 1
4	(Bit 2)	受信ラインのフレーム 0 ビット 3 が 1
8	(Bit 3)	受信ラインのフレーム 0 ビット 4 が 1
16	(Bit 4)	受信ラインのフレーム 0 ビット 5 が 1
32	(Bit 5)	受信ラインのフレーム 0 ビット 6 が 1
64	(Bit 6)	受信ラインのフレーム 0 ビット 7 が 1
128	(Bit 7)	受信ラインのフレーム 0 ビット 8 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBit0 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit0:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit0?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit0:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBit0 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit0:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit0:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が RXFBit0 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に RXFBit0 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit0:ENABLE 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit0:ENABle?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit0:ENABle?
< 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit0:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFBit0 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する RXFBit0 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 0 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit0:PTRansition 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit0:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit0:PTRansition?
< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit0:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFBit0 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する RXFBit0 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 1 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit0:NTRansition 2

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit0:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit0:NTRansition?
< 2

<RXFBIt1 Status Register>

フレームビットモニタ（受信ラインのフレーム 1）の結果を示します。

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:RXFas1:RXFBIt1[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	受信ラインのフレーム 1 ビット 1 が 1
2	(Bit 1)	受信ラインのフレーム 1 ビット 2 が 1
4	(Bit 2)	受信ラインのフレーム 1 ビット 3 が 1
8	(Bit 3)	受信ラインのフレーム 1 ビット 4 が 1
16	(Bit 4)	受信ラインのフレーム 1 ビット 5 が 1
32	(Bit 5)	受信ラインのフレーム 1 ビット 6 が 1
64	(Bit 6)	受信ラインのフレーム 1 ビット 7 が 1
128	(Bit 7)	受信ラインのフレーム 1 ビット 8 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBIt1 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:RXFas1:RXFBIt1:EVENT?

または :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:RXFas1:RXFBIt1?

< 1

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:RXFas1:RXFBIt1:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBIt1 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:RXFas1:RXFBIt1:CONDition?

< 1

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:RXFas1:RXFBIt1:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が RXFBIt1 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に RXFBIt1 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:RXFas1:RXFBIt1:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit1:ENABle?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit1:ENABle?**
< 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit1:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFBit1 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する RXFBit1 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit1:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit1:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit1:PTRansition?**
< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit1:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFBit1 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する RXFBit1 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit1:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit1:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit1:NTRansition?**
< 2

<RXFBit2 Status Register>

フレームビットモニタ（受信ラインのフレーム 2）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit2[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	受信ラインのフレーム 2 ビット 1 が 1
2	(Bit 1)	受信ラインのフレーム 2 ビット 2 が 1
4	(Bit 2)	受信ラインのフレーム 2 ビット 3 が 1
8	(Bit 3)	受信ラインのフレーム 2 ビット 4 が 1
16	(Bit 4)	受信ラインのフレーム 2 ビット 5 が 1
32	(Bit 5)	受信ラインのフレーム 2 ビット 6 が 1
64	(Bit 6)	受信ラインのフレーム 2 ビット 7 が 1
128	(Bit 7)	受信ラインのフレーム 2 ビット 8 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBit2 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit2:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit2?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit2:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBit2 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit2:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit2:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が RXFBit2 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に RXFBit2 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit2:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit2:ENABle?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit2:ENABle?**
< 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit2:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFBit2 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する RXFBit2 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit2:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit2:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit2:PTRansition?**
< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit2:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFBit2 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する RXFBit2 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit2:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit2:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit2:NTRansition?**
< 2

<RXFBit3 Status Register>

フレームビットモニタ（受信ラインのフレーム 3）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit3[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	受信ラインのフレーム 3 ビット 1 が 1
2	(Bit 1)	受信ラインのフレーム 3 ビット 2 が 1
4	(Bit 2)	受信ラインのフレーム 3 ビット 3 が 1
8	(Bit 3)	受信ラインのフレーム 3 ビット 4 が 1
16	(Bit 4)	受信ラインのフレーム 3 ビット 5 が 1
32	(Bit 5)	受信ラインのフレーム 3 ビット 6 が 1
64	(Bit 6)	受信ラインのフレーム 3 ビット 7 が 1
128	(Bit 7)	受信ラインのフレーム 3 ビット 8 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBit3 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit3:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit3?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit3:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBit3 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit3:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit3:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が RXFBit3 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に RXFBit3 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit3:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit3:ENABLE?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit3:ENABLE?**
< 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit3:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFBit3 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する RXFBit3 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit3:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit3:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit3:PTRansition?**
< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit3:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFBit3 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する RXFBit3 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit3:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit3:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit3:NTRansition?**
< 2

<RXFBit4 Status Register>

フレームビットモニタ（受信ラインのフレーム 4）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit4[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	受信ラインのフレーム 4 ビット 1 が 1
2	(Bit 1)	受信ラインのフレーム 4 ビット 2 が 1
4	(Bit 2)	受信ラインのフレーム 4 ビット 3 が 1
8	(Bit 3)	受信ラインのフレーム 4 ビット 4 が 1
16	(Bit 4)	受信ラインのフレーム 4 ビット 5 が 1
32	(Bit 5)	受信ラインのフレーム 4 ビット 6 が 1
64	(Bit 6)	受信ラインのフレーム 4 ビット 7 が 1
128	(Bit 7)	受信ラインのフレーム 4 ビット 8 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBit4 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit4:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit4?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit4:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBit4 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit4:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit4:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が RXFBit4 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に RXFBit4 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit4:ENABLE 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit4:ENABLE?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit4:ENABLE?**
< 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit4:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFBit4 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する RXFBit4 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
> :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit4:PTRansition 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit4:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit4:PTRansition?**
< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit4:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFBit4 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する RXFBit4 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
> :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit4:NTRansition 2

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit4:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit4:NTRansition?**
< 2

<RXFBit5 Status Register>

フレームビットモニタ（受信ラインのフレーム 5）の結果を示します。

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:RXFas1:RXFBit5[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	受信ラインのフレーム 5 ビット 1 が 1
2	(Bit 1)	受信ラインのフレーム 5 ビット 2 が 1
4	(Bit 2)	受信ラインのフレーム 5 ビット 3 が 1
8	(Bit 3)	受信ラインのフレーム 5 ビット 4 が 1
16	(Bit 4)	受信ラインのフレーム 5 ビット 5 が 1
32	(Bit 5)	受信ラインのフレーム 5 ビット 6 が 1
64	(Bit 6)	受信ラインのフレーム 5 ビット 7 が 1
128	(Bit 7)	受信ラインのフレーム 5 ビット 8 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBit5 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:RXFas1:RXFBit5:EVENT?

または :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:RXFas1:RXFBit5?

< 1

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:RXFas1:RXFBit5:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBit5 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:RXFas1:RXFBit5:CONDition?

< 1

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:RXFas1:RXFBit5:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が RXFBit5 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に RXFBit5 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:RXFas1:RXFBit5:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit5:ENABle?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit5:ENABle?**
< 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit5:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFBit5 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する RXFBit5 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit5:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit5:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit5:PTRansition?**
< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit5:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFBit5 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する RXFBit5 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit5:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit5:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit5:NTRansition?**
< 2

<RXFBit6 Status Register>

フレームビットモニタ（受信ラインのフレーム 6）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit6[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	受信ラインのフレーム 6 ビット 1 が 1
2	(Bit 1)	受信ラインのフレーム 6 ビット 2 が 1
4	(Bit 2)	受信ラインのフレーム 6 ビット 3 が 1
8	(Bit 3)	受信ラインのフレーム 6 ビット 4 が 1
16	(Bit 4)	受信ラインのフレーム 6 ビット 5 が 1
32	(Bit 5)	受信ラインのフレーム 6 ビット 6 が 1
64	(Bit 6)	受信ラインのフレーム 6 ビット 7 が 1
128	(Bit 7)	受信ラインのフレーム 6 ビット 8 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBit6 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit6:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit6?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit6:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBit6 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit6:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit6:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が RXFBit6 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に RXFBit6 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit6:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit6:ENABle?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit6:ENABle?**
< 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit6:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFBit6 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する RXFBit6 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit6:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit6:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit6:PTRansition?**
< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit6:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFBit6 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する RXFBit6 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit6:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit6:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit6:NTRansition?**
< 2

<RXFBit7 Status Register>

フレームビットモニタ（受信ラインのフレーム 7）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit7[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	受信ラインのフレーム 7 ビット 1 が 1
2	(Bit 1)	受信ラインのフレーム 7 ビット 2 が 1
4	(Bit 2)	受信ラインのフレーム 7 ビット 3 が 1
8	(Bit 3)	受信ラインのフレーム 7 ビット 4 が 1
16	(Bit 4)	受信ラインのフレーム 7 ビット 5 が 1
32	(Bit 5)	受信ラインのフレーム 7 ビット 6 が 1
64	(Bit 6)	受信ラインのフレーム 7 ビット 7 が 1
128	(Bit 7)	受信ラインのフレーム 7 ビット 8 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBit7 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit7:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit7?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit7:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBit7 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit7:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit7:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が RXFBit7 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に RXFBit7 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit7:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit7:ENABle?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit7:ENABle?**
< 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit7:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFBit7 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する RXFBit7 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit7:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit7:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit7:PTRansition?**
< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit7:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFBit7 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する RXFBit7 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit7:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit7:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit7:NTRansition?**
< 2

<RXFBit8 Status Register>

フレームビットモニタ（受信ラインのフレーム 8）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit8[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	受信ラインのフレーム 8 ビット 1 が 1
2	(Bit 1)	受信ラインのフレーム 8 ビット 2 が 1
4	(Bit 2)	受信ラインのフレーム 8 ビット 3 が 1
8	(Bit 3)	受信ラインのフレーム 8 ビット 4 が 1
16	(Bit 4)	受信ラインのフレーム 8 ビット 5 が 1
32	(Bit 5)	受信ラインのフレーム 8 ビット 6 が 1
64	(Bit 6)	受信ラインのフレーム 8 ビット 7 が 1
128	(Bit 7)	受信ラインのフレーム 8 ビット 8 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBit8 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit8:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit8?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit8:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBit8 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit8:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit8:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が RXFBit8 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に RXFBit8 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit8:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELecom:RXFas1:RXFBit8:ENABle?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:RXFas1:RXFBit8:ENABle?
 < 3

:STATus:QUEStionable:TELecom:RXFas1:RXFBit8:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFBit8 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する RXFBit8 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
 > :STATus:QUEStionable:TELecom:RXFas1:RXFBit8:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELecom:RXFas1:RXFBit8:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:RXFas1:RXFBit8:PTRansition?
 < 1

:STATus:QUEStionable:TELecom:RXFas1:RXFBit8:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFBit8 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する RXFBit8 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
 > :STATus:QUEStionable:TELecom:RXFas1:RXFBit8:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELecom:RXFas1:RXFBit8:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:RXFas1:RXFBit8:NTRansition?
 < 2

<RXFBit9 Status Register>

フレームビットモニタ（受信ラインのフレーム 9）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit9[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	受信ラインのフレーム 9 ビット 1 が 1
2	(Bit 1)	受信ラインのフレーム 9 ビット 2 が 1
4	(Bit 2)	受信ラインのフレーム 9 ビット 3 が 1
8	(Bit 3)	受信ラインのフレーム 9 ビット 4 が 1
16	(Bit 4)	受信ラインのフレーム 9 ビット 5 が 1
32	(Bit 5)	受信ラインのフレーム 9 ビット 6 が 1
64	(Bit 6)	受信ラインのフレーム 9 ビット 7 が 1
128	(Bit 7)	受信ラインのフレーム 9 ビット 8 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBit9 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit9:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit9?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit9:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBit9 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit9:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit9:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が RXFBit9 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に RXFBit9 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit9:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit9:ENABle?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit9:ENABle?**
< 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit9:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFBit9 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する RXFBit9 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit9:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit9:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit9:PTRansition?**
< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit9:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFBit9 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する RXFBit9 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit9:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit9:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit9:NTRansition?**
< 2

<RXFBit10 Status Register>

フレームビットモニタ（受信ラインのフレーム 10）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit10[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	受信ラインのフレーム 10 ビット 1 が 1
2	(Bit 1)	受信ラインのフレーム 10 ビット 2 が 1
4	(Bit 2)	受信ラインのフレーム 10 ビット 3 が 1
8	(Bit 3)	受信ラインのフレーム 10 ビット 4 が 1
16	(Bit 4)	受信ラインのフレーム 10 ビット 5 が 1
32	(Bit 5)	受信ラインのフレーム 10 ビット 6 が 1
64	(Bit 6)	受信ラインのフレーム 10 ビット 7 が 1
128	(Bit 7)	受信ラインのフレーム 10 ビット 8 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBit10 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit10:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit10?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit10:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBit10 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit10:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit10:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が RXFBit10 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に RXFBit10 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit10:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit10:ENABLE?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 **Event Enable Register** の現在の **mask** の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit10:ENABLE?**
< 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit10:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は **0** を設定します。
- 【機能】 **Positive Transition Filter** をセットします。
Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する **RXFBit10 Condition Register** のビットが **0** から **1** へ変化したときに、対応する **RXFBit10 Event Register** のビットへ **1** が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット **0** をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit10:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit10:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 **Positive Transition Filter** の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit10:PTRansition?**
< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit10:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は **0** を設定します。
- 【機能】 **Negative Transition Filter** をセットします。
Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する **RXFBit10 Condition Register** のビットが **1** から **0** へ変化したときに、対応する **RXFBit10 Event Register** のビットへ **1** が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット **1** をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit10:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit10:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 **Negative Transition Filter** の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit10:NTRansition?**
< 2

<RXFBIt11 Status Register>

フレームビットモニタ（受信ラインのフレーム 11）の結果を示します。

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:RXFas1:RXFBIt11[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	受信ラインのフレーム 11 ビット 1 が 1
2	(Bit 1)	受信ラインのフレーム 11 ビット 2 が 1
4	(Bit 2)	受信ラインのフレーム 11 ビット 3 が 1
8	(Bit 3)	受信ラインのフレーム 11 ビット 4 が 1
16	(Bit 4)	受信ラインのフレーム 11 ビット 5 が 1
32	(Bit 5)	受信ラインのフレーム 11 ビット 6 が 1
64	(Bit 6)	受信ラインのフレーム 11 ビット 7 が 1
128	(Bit 7)	受信ラインのフレーム 11 ビット 8 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBIt11 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:RXFas1:RXFBIt11:EVENT?
または :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:RXFas1:RXFBIt11?
< 1

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:RXFas1:RXFBIt11:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBIt11 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:RXFas1:RXFBIt11:CONDition?
< 1

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:RXFas1:RXFBIt11:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が RXFBIt11 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に RXFBIt11 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:RXFas1:RXFBIt11:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit11:ENABLE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit11:ENABLE?
< 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit11:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFBit11 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する RXFBit11 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 0 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit11:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit11:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit11:PTRansition?
< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit11:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFBit11 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する RXFBit11 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit11:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit11:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit11:NTRansition?
< 2

<RXFBit12 Status Register>

フレームビットモニタ（受信ラインのフレーム 12）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit12[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	受信ラインのフレーム 12 ビット 1 が 1
2	(Bit 1)	受信ラインのフレーム 12 ビット 2 が 1
4	(Bit 2)	受信ラインのフレーム 12 ビット 3 が 1
8	(Bit 3)	受信ラインのフレーム 12 ビット 4 が 1
16	(Bit 4)	受信ラインのフレーム 12 ビット 5 が 1
32	(Bit 5)	受信ラインのフレーム 12 ビット 6 が 1
64	(Bit 6)	受信ラインのフレーム 12 ビット 7 が 1
128	(Bit 7)	受信ラインのフレーム 12 ビット 8 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBit12 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit12:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit12?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit12:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBit12 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit12:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit12:ENABle <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が RXFBit12 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に RXFBit12 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit12:ENABle 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit12:ENABLE?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit12:ENABLE?**
< 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit12:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFBit12 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する RXFBit12 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit12:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit12:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit12:PTRansition?**
< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit12:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFBit12 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する RXFBit12 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit12:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit12:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit12:NTRansition?**
< 2

<RXFBit13 Status Register>

フレームビットモニタ（受信ラインのフレーム 13）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit13[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	受信ラインのフレーム 13 ビット 1 が 1
2	(Bit 1)	受信ラインのフレーム 13 ビット 2 が 1
4	(Bit 2)	受信ラインのフレーム 13 ビット 3 が 1
8	(Bit 3)	受信ラインのフレーム 13 ビット 4 が 1
16	(Bit 4)	受信ラインのフレーム 13 ビット 5 が 1
32	(Bit 5)	受信ラインのフレーム 13 ビット 6 が 1
64	(Bit 6)	受信ラインのフレーム 13 ビット 7 が 1
128	(Bit 7)	受信ラインのフレーム 13 ビット 8 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBit13 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit13:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit13?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit13:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBit13 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit13:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit13:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が RXFBit13 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に RXFBit13 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit13:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit13:ENABLE?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 **Event Enable Register** の現在の **mask** の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit13:ENABLE?**
< 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit13:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は **0** を設定します。
- 【機能】 **Positive Transition Filter** をセットします。
Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する **RXFBit13 Condition Register** のビットが **0** から **1** へ変化したときに、対応する **RXFBit13 Event Register** のビットへ **1** が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット **0** をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit13:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit13:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 **Positive Transition Filter** の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit13:PTRansition?**
< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit13:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は **0** を設定します。
- 【機能】 **Negative Transition Filter** をセットします。
Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する **RXFBit13 Condition Register** のビットが **1** から **0** へ変化したときに、対応する **RXFBit13 Event Register** のビットへ **1** が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット **1** をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit13:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit13:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 **Negative Transition Filter** の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit13:NTRansition?**
< 2

<RXFBit14 Status Register>

フレームビットモニタ（受信ラインのフレーム 14）の結果を示します。

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:RXFas1:RXFBit14[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	受信ラインのフレーム 14 ビット 1 が 1
2	(Bit 1)	受信ラインのフレーム 14 ビット 2 が 1
4	(Bit 2)	受信ラインのフレーム 14 ビット 3 が 1
8	(Bit 3)	受信ラインのフレーム 14 ビット 4 が 1
16	(Bit 4)	受信ラインのフレーム 14 ビット 5 が 1
32	(Bit 5)	受信ラインのフレーム 14 ビット 6 が 1
64	(Bit 6)	受信ラインのフレーム 14 ビット 7 が 1
128	(Bit 7)	受信ラインのフレーム 14 ビット 8 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBit14 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:RXFas1:RXFBit14:EVENT?

または :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:RXFas1:RXFBit14?

< 1

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:RXFas1:RXFBit14:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBit14 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:RXFas1:RXFBit14:CONDition?

< 1

:STATUS:QUESTIONable:TELEcom:RXFas1:RXFBit14:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が RXFBit14 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に RXFBit14 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATUS:QUESTIONable:TELEcom:RXFas1:RXFBit14:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit14:ENABLE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit14:ENABLE?
< 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit14:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFBit14 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する RXFBit14 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 0 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit14:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit14:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit14:PTRansition?
< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit14:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFBit14 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する RXFBit14 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit14:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit14:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas1:RXFBit14:NTRansition?
< 2

<RXFas2 Status Register>

RXFBIt* Status Register のサマリなどを供給します。(*=15~19)

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas2[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	RXFBIt15 Status Register	サマリ
2	(Bit 1)	RXFBIt16 Status Register	サマリ
4	(Bit 2)	RXFBIt17 Status Register	サマリ
8	(Bit 3)	RXFBIt18 Status Register	サマリ
16	(Bit 4)	RXFBIt19 Status Register	サマリ

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFas2 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas2:EVENT?

または :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas2?

< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas2:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFas2 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas2:CONDition?

< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas2:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が RXFas2 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に RXFas2 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas2:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELecom:RXFas2:ENABle?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 **Event Enable Register** の現在の **mask** の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELecom:RXFas2:ENABle?**
< 3

:STATus:QUEStionable:TELecom:RXFas2:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は **0** を設定します。
- 【機能】 **Positive Transition Filter** をセットします。
Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する **RXFas2 Condition Register** のビットが **0** から **1** へ変化したときに、対応する **RXFas2 Event Register** のビットへ **1** が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット **0** をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELecom:RXFas2:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELecom:RXFas2:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 **Positive Transition Filter** の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELecom:RXFas2:PTRansition?**
< 1

:STATus:QUEStionable:TELecom:RXFas2:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 **<numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>**
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は **0** を設定します。
- 【機能】 **Negative Transition Filter** をセットします。
Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する **RXFas2 Condition Register** のビットが **1** から **0** へ変化したときに、対応する **RXFas2 Event Register** のビットへ **1** が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット **1** をセットします。
> :STATus:QUEStionable:TELecom:RXFas2:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELecom:RXFas2:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 **<numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>**
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 **Negative Transition Filter** の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 **> :STATus:QUEStionable:TELecom:RXFas2:NTRansition?**
< 2

<RXFBit15 Status Register>

フレームビットモニタ（受信ラインのフレーム 15）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit15[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	受信ラインのフレーム 15 ビット 1 が 1
2	(Bit 1)	受信ラインのフレーム 15 ビット 2 が 1
4	(Bit 2)	受信ラインのフレーム 15 ビット 3 が 1
8	(Bit 3)	受信ラインのフレーム 15 ビット 4 が 1
16	(Bit 4)	受信ラインのフレーム 15 ビット 5 が 1
32	(Bit 5)	受信ラインのフレーム 15 ビット 6 が 1
64	(Bit 6)	受信ラインのフレーム 15 ビット 7 が 1
128	(Bit 7)	受信ラインのフレーム 15 ビット 8 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBit15 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit15:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit15?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit15:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBit15 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit15:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit15:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が RXFBit15 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に RXFBit15 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit15:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit15:ENABLE?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit15:ENABLE?
 < 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit15:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFBit15 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する RXFBit15 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit15:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit15:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit15:PTRansition?
 < 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit15:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFBit15 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する RXFBit15 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit15:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit15:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit15:NTRansition?
 < 2

<RXFBit16 Status Register>

フレームビットモニタ（受信ラインのフレーム 16～24）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit16[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	受信ラインのフレーム 16 ビット 1 が 1
2	(Bit 1)	受信ラインのフレーム 17 ビット 1 が 1
4	(Bit 2)	受信ラインのフレーム 18 ビット 1 が 1
8	(Bit 3)	受信ラインのフレーム 19 ビット 1 が 1
16	(Bit 4)	受信ラインのフレーム 20 ビット 1 が 1
32	(Bit 5)	受信ラインのフレーム 21 ビット 1 が 1
64	(Bit 6)	受信ラインのフレーム 22 ビット 1 が 1
128	(Bit 7)	受信ラインのフレーム 23 ビット 1 が 1
256	(Bit 8)	受信ラインのフレーム 24 ビット 1 が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBit16 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit16:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit16?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit16:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBit16 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit16:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit16:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が RXFBit16 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に RXFBit16 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit16:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit16:ENABLE?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit16:ENABLE?
 < 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit16:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFBit16 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する RXFBit16 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit16:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit16:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit16:PTRansition?
 < 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit16:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFBit16 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する RXFBit16 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit16:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit16:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit16:NTRansition?
 < 2

<RXFBit17 Status Register>

DL ビット (上位 8 ビット) モニタ (受信ライン) の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit17[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	受信ラインの DL ビット (ビット 15) が 1
2	(Bit 1)	受信ラインの DL ビット (ビット 14) が 1
4	(Bit 2)	受信ラインの DL ビット (ビット 13) が 1
8	(Bit 3)	受信ラインの DL ビット (ビット 12) が 1
16	(Bit 4)	受信ラインの DL ビット (ビット 11) が 1
32	(Bit 5)	受信ラインの DL ビット (ビット 10) が 1
64	(Bit 6)	受信ラインの DL ビット (ビット 9) が 1
128	(Bit 7)	受信ラインの DL ビット (ビット 8) が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBit17 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit17:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit17?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit17:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBit17 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit17:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit17:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が RXFBit17 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に RXFBit17 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit17:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit17:ENABLE?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit17:ENABLE?
 < 3

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit17:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
 Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFBit17 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する RXFBit17 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 0 をセットします。
 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit17:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit17:PTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit17:PTRansition?
 < 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit17:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
 セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
 全ビットを偽とする時は 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
 Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFBit17 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する RXFBit17 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 ビット 1 をセットします。
 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit17:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit17:NTRansition?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
 セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit17:NTRansition?
 < 2

<RXFBit18 Status Register>

DL ビット (下位 8 ビット) モニタ (受信ライン) の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit18[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	受信ラインの DL ビット (ビット 7) が 1
2	(Bit 1)	受信ラインの DL ビット (ビット 6) が 1
4	(Bit 2)	受信ラインの DL ビット (ビット 5) が 1
8	(Bit 3)	受信ラインの DL ビット (ビット 4) が 1
16	(Bit 4)	受信ラインの DL ビット (ビット 3) が 1
32	(Bit 5)	受信ラインの DL ビット (ビット 2) が 1
64	(Bit 6)	受信ラインの DL ビット (ビット 1) が 1
128	(Bit 7)	受信ラインの DL ビット (ビット 0) が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBit18 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit18:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit18?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit18:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBit18 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit18:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit18:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が RXFBit18 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に RXFBit18 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit18:ENABLE 3

:STATus:QUEStionable:TELecom:RXFas2:RXFBit18:ENABLE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:RXFas2:RXFBit18:ENABLE?
< 3

:STATus:QUEStionable:TELecom:RXFas2:RXFBit18:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFBit18 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する RXFBit18 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 0 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELecom:RXFas2:RXFBit18:PTRansition 1

:STATus:QUEStionable:TELecom:RXFas2:RXFBit18:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:RXFas2:RXFBit18:PTRansition?
< 1

:STATus:QUEStionable:TELecom:RXFas2:RXFBit18:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFBit18 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する RXFBit18 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELecom:RXFas2:RXFBit18:NTRansition 2

:STATus:QUEStionable:TELecom:RXFas2:RXFBit18:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELecom:RXFas2:RXFBit18:NTRansition?
< 2

<RXFBit19 Status Register>

TS16 Frame0 ビットモニタ（受信ライン）の結果を示します。

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit19[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	受信ラインの TS16 Frame0 ビット (ビット 1) が 1
2	(Bit 1)	受信ラインの TS16 Frame0 ビット (ビット 2) が 1
4	(Bit 2)	受信ラインの TS16 Frame0 ビット (ビット 3) が 1
8	(Bit 3)	受信ラインの TS16 Frame0 ビット (ビット 4) が 1
16	(Bit 4)	受信ラインの TS16 Frame0 ビット (ビット 5) が 1
32	(Bit 5)	受信ラインの TS16 Frame0 ビット (ビット 6) が 1
64	(Bit 6)	受信ラインの TS16 Frame0 ビット (ビット 7) が 1
128	(Bit 7)	受信ラインの TS16 Frame0 ビット (ビット 8) が 1

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBit19 ステータスレジスタにおける Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit19:EVENT?

または :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit19?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit19:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 RXFBit19 ステータスレジスタにおける Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit19:CONDition?

< 1

:STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit19:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が RXFBit19 サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になった時に RXFBit19 サマリビットが真となります。

【使用例】 ビット 0 とビット 1 をセットします。

> :STATus:QUEStionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit19:ENABLE 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit19:ENABLE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit19:ENABLE?
< 3

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit19:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFBit19 Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する RXFBit19 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 0 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit19:PTRansition 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit19:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit19:PTRansition?
< 1

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit19:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とする時は 0 を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する RXFBit19 Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する RXFBit19 Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 ビット 1 をセットします。

> :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit19:NTRansition 2

:STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit19:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:QUESTionable:TELEcom:RXFas2:RXFBit19:NTRansition?
< 2

<OPERation Status Register>

INSTRument Status Register のサマリなどを供給します。

:STATus:OPERation[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

16 (Bit 4) 測定実行中

8192 (Bit13) INSTRument Status Register サマリ

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 OPERation ステータスレジスタでの Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:OPERation:EVENT?

または :STATus:OPERation?

< 8192

:STATus:OPERation:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 OPERation ステータスレジスタでの Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:OPERation:CONDition?

< 8192

:STATus:OPERation:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が OPERation サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になったときに OPERation サマリビットが真となります。

【使用例】 Bit4 と Bit13 をセットします。

> :STATus:OPERation:ENABLE 8208

:STATus:OPERation:ENABLE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:OPERation:ENABLE?

< 8208

:STATus:OPERation:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは0を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する OPERation Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する OPERation Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 Bit4 をセットします。

> :STATus:OPERation:PTRansition 16

:STATus:OPERation:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:OPERation:PTRansition?

< 16

:STATus:OPERation:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは0を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する OPERation Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する OPERation Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。

【使用例】 Bit13 をセットします。

> :STATus:OPERation:NTRansition 8192

:STATus:OPERation:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:OPERation:NTRansition?

< 8192

<INSTRument Status Register>

BATTery サマリの供給, ログ情報などの表示を行います。

:STATus:OPERation:INSTRument[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

1	(Bit 0)	Logging ログが一杯
2	(Bit 1)	Logging ログが空
4	(Bit 2)	Histogram ログが一杯
8	(Bit 3)	Histogram ログが空
16	(Bit 4)	1 秒周期
32	(Bit 5)	セルフテストの終了
64	(Bit 6)	Print Now 印字中
128	(Bit 7)	プリンタエラー
256	(Bit 8)	プリンタ中間印字タイミングを示す
512	(Bit 9)	BATTery Status Register サマリ

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 INSTRument ステータスレジスタでの Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:OPERation:INSTRument:EVENT?
または :STATus:OPERation:INSTRument?
< 9

:STATus:OPERation:INSTRument:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 INSTRument ステータスレジスタでの Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:OPERation:INSTRument:CONDition?
< 9

:STATus:OPERation:INSTRument:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が INSTRument サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合, 対応する Event Bit が真になったときに INSTRument サマリビットが真となります。

【使用例】 Bit1 と Bit2 をセットします。
> :STATus:OPERation:INSTRument:ENABLE 6

:STATus:OPERation:INSTrument:ENABle?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:OPERation:INSTrument:ENABle?
< 6

:STATus:OPERation:INSTrument:PTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
全ビットを偽とするときは 0 を設定します。
- 【機能】 Positive Transition Filter をセットします。
Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する INSTrument Condition Register のビットが 0 から 1 へ変化したときに、対応する INSTrument Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 Bit0 と Bit1 をセットします。
> :STATus:OPERation:INSTrument:PTRansition 3

:STATus:OPERation:INSTrument:PTRansition ?

- 【パラメータ】 なし。
- 【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>
セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。
- 【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。
- 【使用例】 > :STATus:OPERation:INSTrument:PTRansition?
< 3

:STATus:OPERation:INSTrument:NTRansition <numeric>

- 【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>
セットするビットのビット桁値の総和を設定します。
全ビットを偽とするときは 0 を設定します。
- 【機能】 Negative Transition Filter をセットします。
Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する INSTrument Condition Register のビットが 1 から 0 へ変化したときに、対応する INSTrument Event Register のビットへ 1 が書き込まれます。
- 【使用例】 Bit2 と Bit3 をセットします。
> :STATus:OPERation:INSTrument:NTRansition 12

:STATus:OPERation:INSTrument:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:OPERation:INSTrument:NTRansition?

< 12

<BATtery Status Register>

バッテリーの状態の表示を行います。

:STATus:OPERation:INSTrument:BATtery[:EVENT]?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

- | | | |
|----|---------|-----------|
| 1 | (Bit 0) | バッテリーなし |
| 2 | (Bit 1) | 温度アラーム |
| 4 | (Bit 2) | バッテリー異常 |
| 8 | (Bit 3) | 充電中 |
| 16 | (Bit 4) | 要充電 |
| 32 | (Bit 5) | 放電中または満充電 |

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 BATtery ステータスレジスタでの Event レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:OPERation:INSTrument:BATtery:EVENT?

または :STATus:OPERation:INSTrument:BATtery?

< 9

:STATus:OPERation:INSTrument:BATtery:CONDition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 BATtery ステータスレジスタでの Condition レジスタの内容を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:OPERation:INSTrument:BATtery:CONDition?

< 9

:STATus:OPERation:INSTrument:BATtery:ENABLE <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは 0 を設定します。

【機能】 Event Enable Register の mask をセットします。

mask に対応する Event Enable Register の状態が BATtery サマリビットに報告されます。

Event Enable Register のビットに 1 がたっている場合、対応する Event Bit が真になったときに BATtery サマリビットが真となります。

【使用例】 Bit1 と Bit2 をセットします。

> :STATus:OPERation:INSTrument:BATtery:ENABLE 6

:STATus:OPERation:INSTrument:BATtery:ENABLE?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Event Enable Register の現在の mask の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:OPERation:INSTrument:BATtery:ENABLE?

< 6

:STATus:OPERation:INSTRument:BATTery:PTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは0を設定します。

【機能】 Positive Transition Filter をセットします。

Positive Transition Filter のビットをセットすると、対応する BATTery Condition Register のビットが0から1へ変化したときに、対応する BATTery Event Register のビットへ1が書き込まれます。

【使用例】 Bit0 と Bit1 をセットします。

> :STATus:OPERation:INSTRument:BATTery:PTRansition 3

:STATus:OPERation:INSTRument:BATTery:PTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Positive Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:OPERation:INSTRument:BATTery:PTRansition?
< 3

:STATus:OPERation:INSTRument:BATTery:NTRansition <numeric>

【パラメータ】 <numeric>=<DECIMAL NUMERIC PROGRAM DATA>

セットするビットのビット桁値の総和を設定します。

全ビットを偽とするときは0を設定します。

【機能】 Negative Transition Filter をセットします。

Negative Transition Filter のビットをセットすると、対応する BATTery Condition Register のビットが1から0へ変化したときに、対応する BATTery Event Register のビットへ1が書き込まれます。

【使用例】 Bit2 と Bit3 をセットします。

> :STATus:OPERation:INSTRument:BATTery:NTRansition 12

:STATus:OPERation:INSTRument:BATTery:NTRansition?

【パラメータ】 なし。

【レスポンス】 <numeric>=<NR1 NUMERIC RESPONSE DATA>

セットされたビットのビット桁値の総和がレスポンスとなります。

【機能】 Negative Transition Filter の現在の設定を問い合わせます。

【使用例】 > :STATus:OPERation:INSTRument:BATTery:NTRansition?
< 12

(空白)

7章 ステータス報告

7.1 MD6430A のステータスレジスタの構成

SCPI ではステータスレジスタの構成について IEEE488.2 で規定される構成を持つことと、SCPI 固有の OPERation ステータスレジスタと、QUEStionable ステータスレジスタを持つことを規定しています。

下記は本器が装備しているステータスレジスタの簡単な構成図です。
(ビット位置、ビット幅については後述)

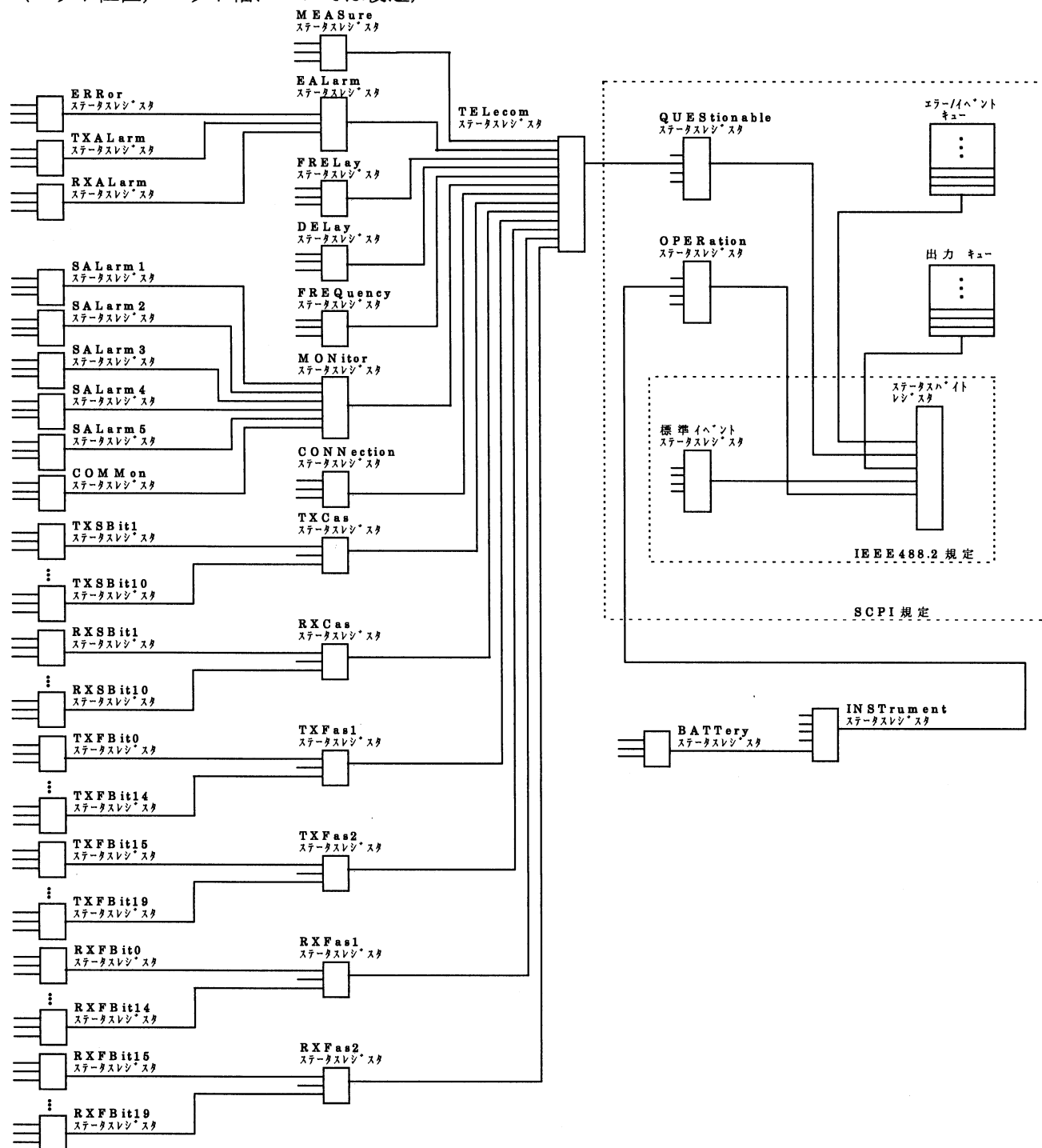


図 7.1-1 MD6430A ステータスレジスタ構成図

IEEE488.2 規定レジスタ …… 標準イベントレジスタ, ステータスパイトレジスタ

SCPI 規定レジスタ …… QUESTIONable ステータスレジスタ,
OPERation ステータスレジスタ

装置固有レジスタ …… TELecom, INSTRument, MEASure, EALarm, ERRor,
TXALarm, RXALarm, TXALarm2, RXALarm2, FRELay,
DELAy, FREQuency, MONitor, SALarm1, SALarm2,
SALarm3, SALarm4, SALarm5, COMMon, SALarm6,
SALarm7, TXCas, TXSbit1~10, RXCas, RXSbit1~10,
TXFas1, TXFBit0~14, TXFas2, TXFBit15~19, RXFas1,
RXFBit0~14, RXFas2, RXFBit15~19, CONNecTion,
BATTeRy

また, SCPI 規定ステータスレジスタ及び, 装置固有ステータスレジスタはそれぞれ下記のような構成になっています。

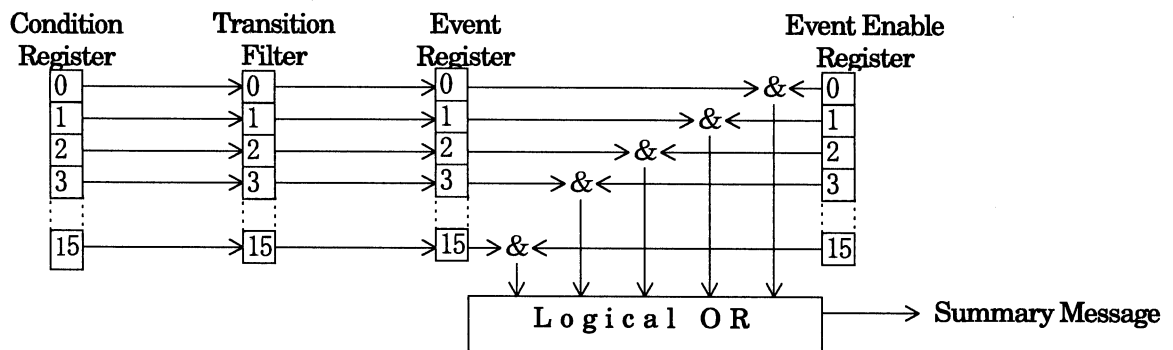


図 7.1-2 ステータスレジスタの構成

表 7.1-1 レジスタ・ファイルの内容

レジスタ・フィルタ	内容
Condition Register	デバイス状態をモニタし、デバイスの状態に応じてリアルタイムに変化します。そのため、このレジスタは状態の記憶を行いません。
Transition Filter	Condition Register の内容を Event Register に設定します。 Transition Filter には Condition Register のいずれの変化を評価するかによって下記の3通りがあります。 正方向変化：対応する条件が偽から真に変化した時のみイベントが真になります。 負方向変化：対応する条件が真から偽に変化した時のみイベントが真になります。 両方向変化：正／負いずれかの方向の変化が生じた時にイベントが真になります。
Event Register	Transition Filter の出力を記憶します。
Event Enable Register	対応する Event Register のどのビットがセットされた時にサマリメッセージを真にするかを選択します。

7.2 IEEE488.2 規定ステータスレジスタ

IEEE488.2 では下記の 2 つのステータスレジスタを規定しています。

表 7.2-1 レジスタ・ファイルの内容

ステータスパイトレジスタ	RQS および 7 個のサマリメッセージビットをセットできるレジスタです。 サービスリクエストイネーブルレジスタと組で使用され、両者の OR が 0 でないとき SRQ を ON にします。RQS は Bit6 にシステム予約されており、このビットによって外部コントローラにサービス要求のあることを報告します。
標準イベントステータスレジスタ	標準事象としてデバイスが遭遇する 8 種類の事象をレジスタにたてます。論理 OR 出力ビットは、ESB(Event Status Bit)サマリメッセージとして、ステータスパイトレジスタの Bit5 に要約表示されます。

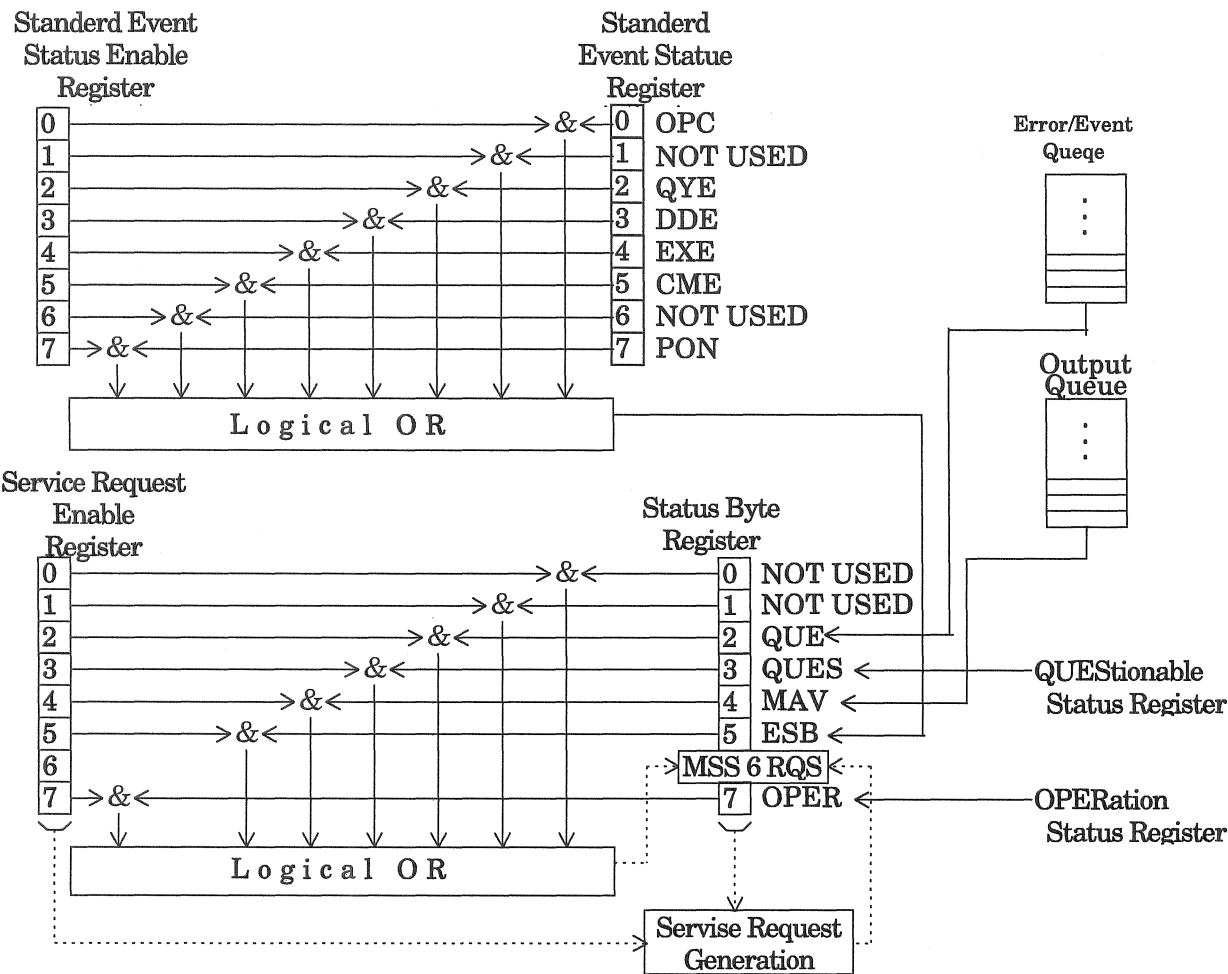


図 7.2-1 IEEE488.2 ステータスレジスタ

表 7.2-2 ステータスバイトレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB2	QUE (Error/Event QUEue)	エラー, イベントキューが空でないことを示します。
DB3	QUES (QUESTionable status register summary)	QUESTionable ステータスレジスタサマリです。
DB4	MAV (Message Available)	出力キューが空でないことを示します。
DB5	ESB (Event Summary Bit)	標準イベントステータスサマリ
DB6	RQS (ReQuest Service) MSS (Master Summary Status)	RQS メッセージ デバイスに少なくとも 1 つのサービスを要求する原因があることを示します。
DB7	OPER (OPERation status register summary)	OPERation ステータスレジスタサマリ

表 7.2-3 標準イベントステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	OPC (OPeration Complete)	指示された動作がすべて完了したことを示します。
DB2	QYE (QuerY Error)	問い合わせエラーが発生したことを示します。
DB3	DDE (Device-dependent Error)	コマンドエラー, 問い合わせエラー, 実行エラー以外のエラーが発生したことを示します。
DB4	EXE (EXecution Error)	実行エラーが発生したことを示します。
DB5	CME (CoMmand Error)	コマンドエラーが発生したことを示します。
DB7	PON (Power ON)	電源が OFF から ON に変化したことを示します。

7.3 SCPI 規定ステータスレジスタ

SCPI の規定により IEEE488.2 で規定されたステータスレジスタに加えて、下記のレジスタを含みます。

表 7.3-1 SCPI 規定ステータスレジスタの内容

OPERation ステータスレジスタ	装置の状態の一部を報告します。 Error/Alarm 測定など、時間のかかる処理が終了するのを待つ場合に使用できます。
QUEStionable ステータスレジスタ	測定結果等の信号の状態を報告します。 エラーが発生したときにコントローラーにサービス要求する場合などにしることができます。

■ QUEStionable ステータスレジスタ

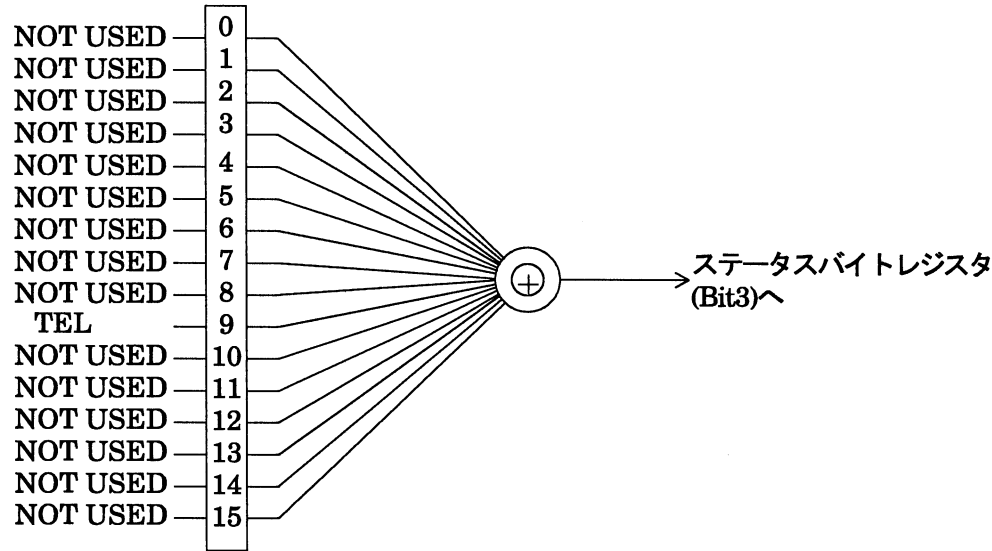


図 7.3-1 QUEStionable ステータスレジスタ

表 7.3-2 QUEStionable ステータスバイトレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB9	TEL (TELEcom status register summary)	TELEcom ステータスレジスタサマリです。

■ OPERation ステータスレジスタ

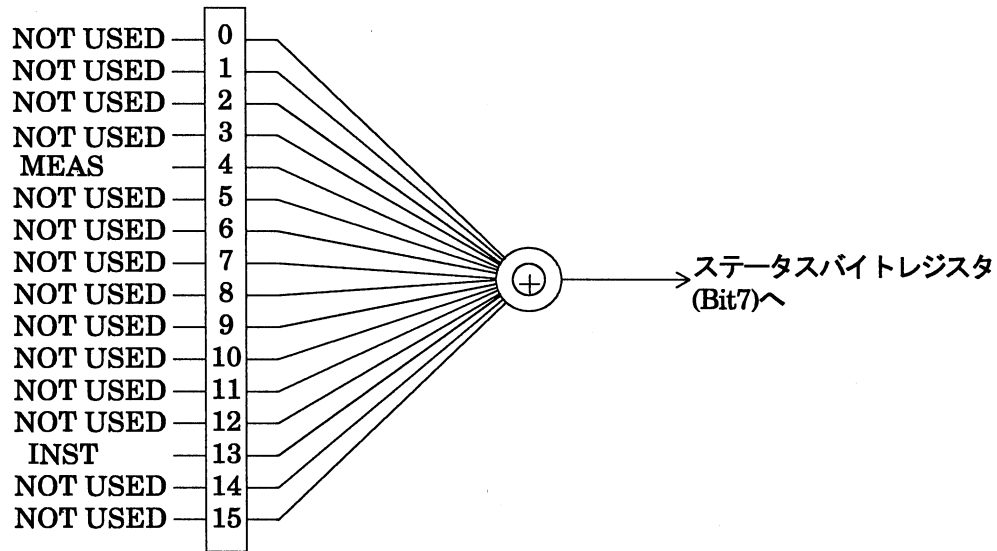


図 7.3-2 OPERation ステータスレジスタ

表 7.3-3 OPERation ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB4	MEAS (MEASuring)	測定実行中であることを示します。
DB13	INST (INSTrument status register summary)	INSTrument ステータスレジスタサマリです。

7.4 MD6430A 固有ステータスレジスタ

前述した IEEE488.2 規定のステータスレジスタや SCPI 規定のステータスレジスタの他に、下記に本器固有のステータスレジスタを持っています。

表 7.4-1 MD6430A 固有ステータスレジスタの内容 (1/2)

TELEcom ステータスレジスタ	信号の状態を報告し、下層のサマリメッセージを含みます。
MEASure ステータスレジスタ	測定の状態を報告します。
EALarm ステータスレジスタ	信号の Alarm 状態を報告し、下層のサマリメッセージを含みます。
ERRor ステータスレジスタ	信号の Error 状態を報告します。
TXALarm ステータスレジスタ	送信ラインの Alarm 状態を報告します。
RXALarm ステータスレジスタ	受信ラインの Alarm 状態を報告します。
TXALarm2 ステータスレジスタ	送信ラインの Alarm 状態を報告します。
RXALarm2 ステータスレジスタ	受信ラインの Alarm 状態を報告します。
FRELay	Frame Relay の測定状態を報告します。
DElay	Delay 測定の測定状態を報告します。
FREQuency	Frequency 測定の測定状態を報告します。
MONitor	信号線/アラームのモニタ状態を報告し、下層のサマリメッセージを含みます。
SALarm1	Vシリーズの信号線モニタ状態を報告します。
SALarm2	Xシリーズの信号線モニタ状態を報告します。
SALarm3	I.430 の信号線モニタ状態を報告します。
SALarm4	G.704, 2M CMI の信号線モニタ状態を報告します。
SALarm5	Alarm モニタ状態を報告します。
COMMon	Alarm モニタ状態を報告します。
SALarm6	G.704, 2M CMI の信号線モニタ状態を報告します。
SALarm7	Alarm モニタ状態を報告します。
CONNexion ステータスレジスタ	ISDN の接続状態を報告します。
TXCas ステータスレジスタ	送信ラインのシグナリングビットモニタ状態を報告し、下層のサマリメッセージを含みます。
TXSBit1~10 ステータスレジスタ	送信ラインのシグナリングビットモニタ状態を報告します。
RXCas ステータスレジスタ	受信ラインのシグナリングビットモニタ状態を報告し、下層のサマリメッセージを含みます。
RXSBit1~10 ステータスレジスタ	受信ラインのシグナリングビットモニタ状態を報告します。
TXFas1~2 ステータスレジスタ	送信ラインのフレームビットモニタ状態を報告し、下層のサマリメッセージを含みます。
TXFBit0~19 ステータスレジスタ	送信ラインのフレームビットモニタ状態を報告します。

表 7.4-1 MD6430A 固有ステータスレジスタの内容 (1/2)

RXFa s1~2 ステータスレジスタ	受信ラインのフレームビットモニタ状態を報告し、下層のサマリメッセージを含みます。
RXF Bit0~19 ステータスレジスタ	受信ラインのフレームビットモニタ状態を報告します。
INST rument ステータスレジスタ	装置の状態を報告し、下層のサマリメッセージを含みます。
BAT Tery ステータスレジスタ	バッテリーの状態を報告します。

以降に上記のレジスタの構成図を示します。

■ TELEcom ステータスレジスタ

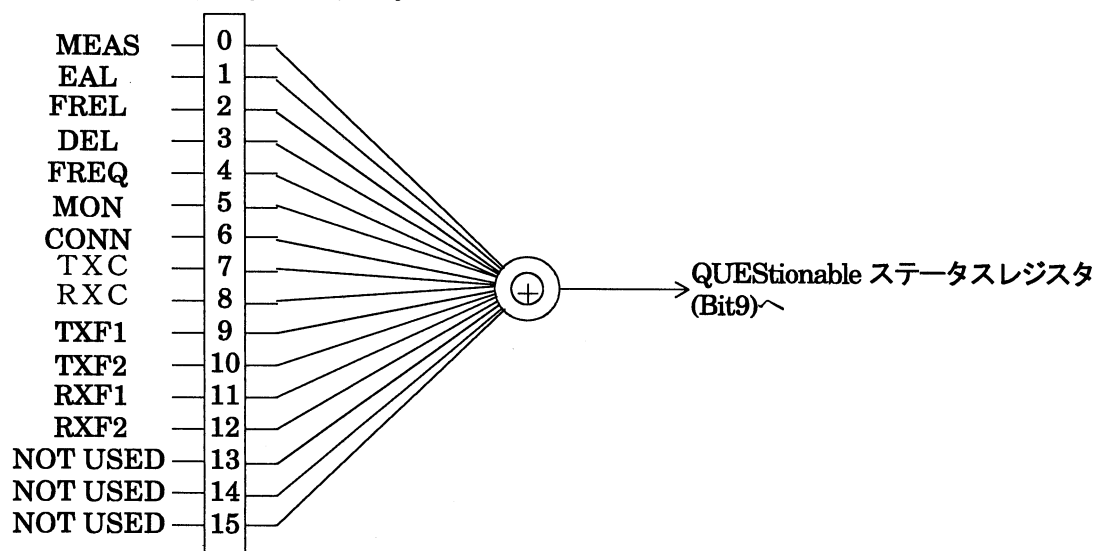


図 7.4-1 TELEcom ステータスレジスタ

表 7.4-2 TELEcom ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	MEAS (MEASure status register summary)	MEASure ステータスレジスタサマリです。
DB1	EAL (EALarm status register summary)	EALarm ステータスレジスタサマリです。
DB2	FREL (FRELay status register summary)	FRELay ステータスレジスタサマリです。
DB3	DEL (DELay status register summary)	DELay ステータスレジスタサマリです。
DB4	FREQ (FREQuency status register summary)	FREQuency ステータスレジスタサマリです。
DB5	MON (MONitor status register summary)	MONitor ステータスレジスタサマリです。
DB6	CONN (CONNection status register summary)	CONNection ステータスレジスタサマリです。
DB7	TXC (TXCas status register summary)	TXCas ステータスレジスタサマリです。
DB8	RXC (RXCas status register summary)	RXCas ステータスレジスタサマリです。
DB9	TXF1 (TXFas1 status register summary)	TXFas1 ステータスレジスタサマリです。
DB10	TXF2 (TXFas2 status register summary)	TXFas2 ステータスレジスタサマリです。
DB11	RXF1 (RXFas1 status register summary)	RXFas1 ステータスレジスタサマリです。
DB12	RXF2 (RXFas2 status register summary)	RXFas2 ステータスレジスタサマリです。

■ MEASure ステータスレジスタ

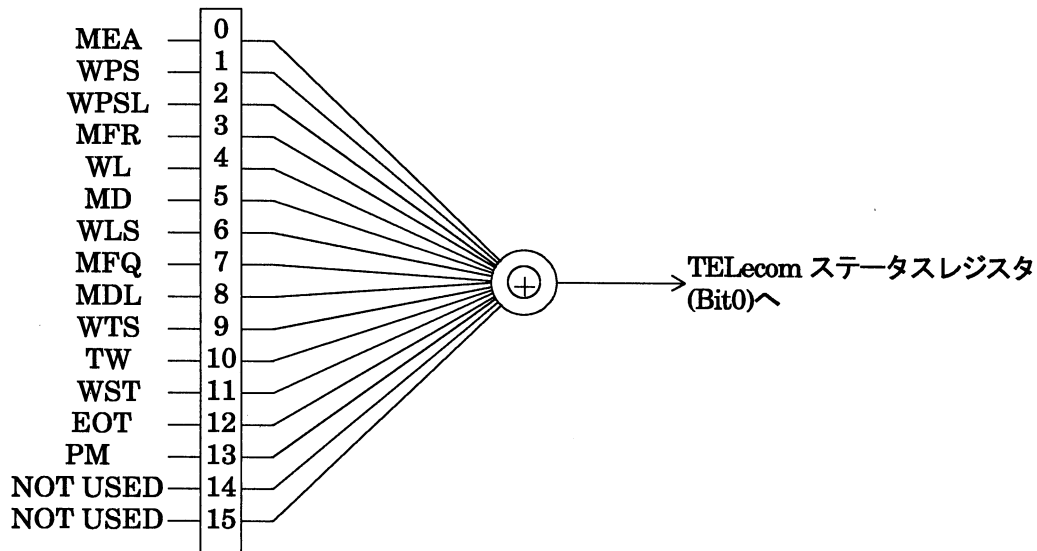


図 7.4-2 MEASure ステータスレジスタ

表 7.4-3 MEASure ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	MEA (Measuring Error/Alarm)	Error/Alarm 測定中であることを示します。
DB1	WPS (Waiting Program Start)	Error/Alarm プログラムスタート待ちであることを示します。
DB2	WPSL (Waiting PSL)	Error/AlarmPSL 同期確立待ちであることを示します。
DB3	MFR (Measuring Frame Relay)	Frame Relay 測定中であることを示します。
DB4	WL (Waiting Link)	Frame Relay リンク待ちであることを示します。
DB5	MD (Measuring Delay)	Delay 測定中であることを示します。
DB6	WLS (Waiting Line interval Start trigger)	Delay 測定の Line Interval スタートトリガ待ちであることを示します。
DB7	MFQ (Measuring FreQuency)	Frequency 測定中であることを示します。
DB8	MDL (Measuring Digital Level)	Digital level 測定中であることを示します。
DB9	WTS (Word Trace Start)	Word Trace 送信中であることを示します。
DB10	TW (Tracing Word)	Word Trace トレース中であることを示します。
DB11	WST (Waiting Start Trigger)	Word Trace スタートトリガ待ちであることを示します。
DB12	EOM (End Of Measure Period)	リピート測定のリピート周期が終了したことを示します。 ($\neg$ パルス状に発生)
DB13	PM (Protocol Monitor)	プロトコルモニタ中であることを示します。

■ EALarm ステータスレジスタ

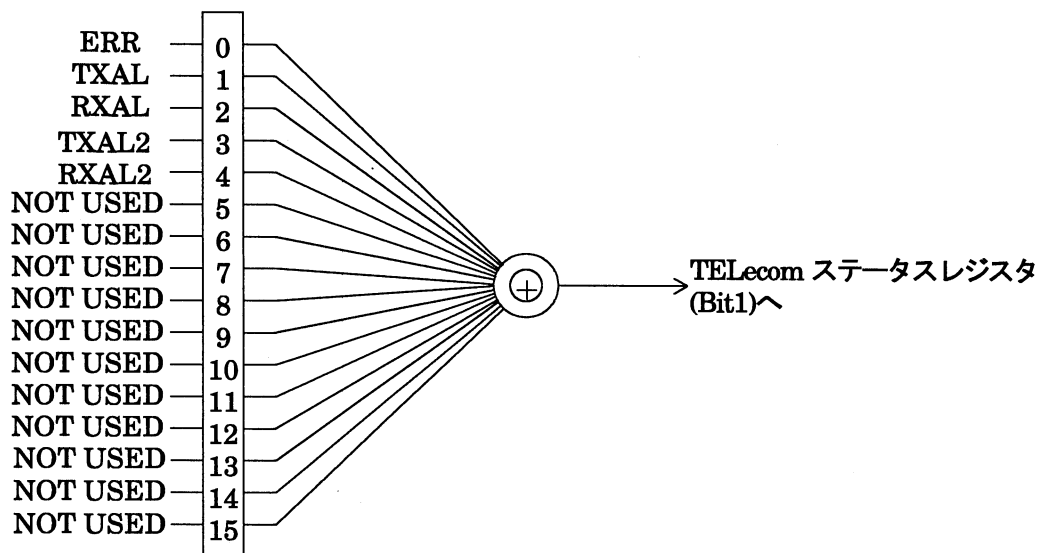


図 7.4-3 EALarm ステータスレジスタ

表 7.4-4 EALarm ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	ERR (ERRor status register summary)	ERRor ステータスレジスタサマリです。
DB1	TXAL (TXALarm status register summary)	TXALarm ステータスレジスタサマリです。
DB2	RXAL (RXALarm status register summary)	RXALarm ステータスレジスタサマリです。
DB3	TXAL2 (TXALarm2 status register summary)	TXALarm2 ステータスレジスタサマリです。
DB4	RXAL2 (RXALarm2 status register summary)	RXALarm2 ステータスレジスタサマリです。

■ ERRor ステータスレジスタ

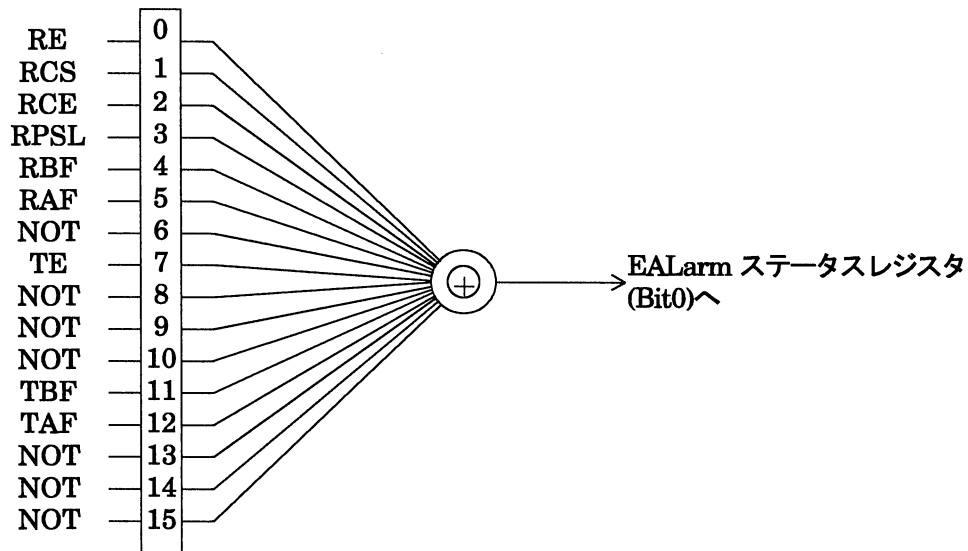


図 7.4-4 ERRor ステータスレジスタ

表 7.4-5 ERRor ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	RE (Rx Error)	受信ラインでエラーが発生したことを示します。 ($\neg$ パルス状に発生)
DB1	RCS (Rx Clock Slip)	受信ラインでクロックスリップが発生したことを示します。 ($\neg$ パルス状に発生)
DB2	RCE (Rx Charactor Error)	受信ラインでキャラクタ誤りが発生したことを示します。 ($\neg$ パルス状に発生)
DB3	RPSL (Rx PSL)	受信ラインで PSL が発生したことを示します。
DB4	RBF (Rx Bad Frame)	受信ラインで Bad Frame が発生したことを示します。 ($\neg$ パルス状に発生)
DB5	RAF (Rx Abort Frame)	受信ラインで Abort Frame が発生したことを示します。 ($\neg$ パルス状に発生)
DB7	TE (Tx Error)	送信ラインでエラーが発生したことを示します。 ($\neg$ パルス状に発生)
DB11	TBF (Tx Bad Frame)	送信ラインで Bad Frame が発生したことを示します。 ($\neg$ パルス状に発生)
DB12	TAF (Tx Abort Frame)	送信ラインで Abort Frame が発生したことを示します。 ($\neg$ パルス状に発生)

■ TX(Rx)ALarm ステータスレジスタ

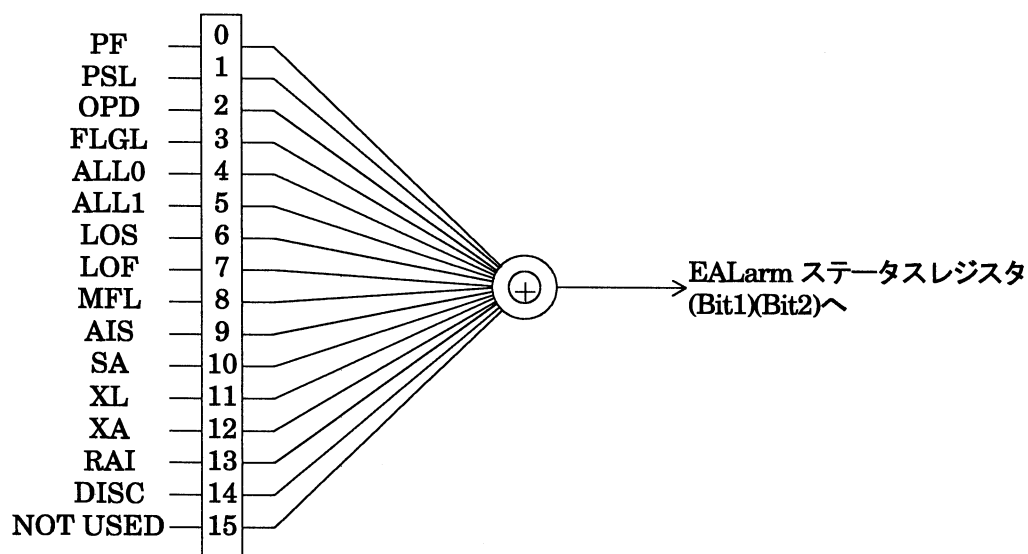


図 7.4-5 Tx(Rx)ALarm ステータスレジスタ

表 7.4-6 Tx(Rx)ALarm ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	PF (Power Fail)	送信 (受信) ラインで Power Fail を発生します。
DB1	PSL	送信 (受信) ラインで PSL を発生します。
DB2	OPD	送信 (受信) ラインで OPD を発生します。
DB3	FLGL	送信 (受信) ラインで FLGL を発生します。
DB4	ALL0	送信 (受信) ラインで ALL0 を発生します。
DB5	ALL1	送信 (受信) ラインで ALL1 を発生します。
DB6	LOS	送信 (受信) ラインで LOS を発生します。
DB7	LOF	送信 (受信) ラインで LOF を発生します。
DB8	MFL (MF Loss)	送信 (受信) ラインで MF Loss を発生します。
DB9	AIS	送信 (受信) ラインで AIS を発生します。
DB10	SA	送信 (受信) ラインで SA を発生します。
DB11	XL	送信 (受信) ラインで XL を発生します。
DB12	XA	送信 (受信) ラインで XA を発生します。
DB13	RAI	送信 (受信) ラインで RAI を発生します。
DB14	DISC (DISConnection)	送信 (受信) ラインで DISConnection を発生します。

■ TX(RX)Alarm2 ステータスレジスタ

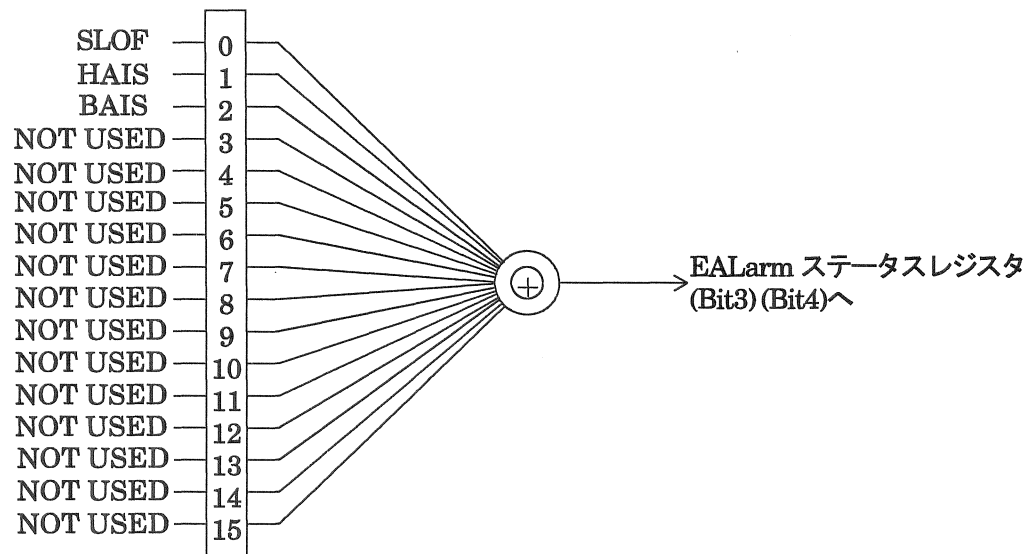


図 7.4-6 TX(RX)Alarm2 ステータスレジスタ

表 7.4-7 TX(RX)Alarm2 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	SLOF(ST LOF)	送信 (受信) ラインで ST LOF を発生します。
DB1	HAIS(HG AIS)	送信 (受信) ラインで HG AIS を発生します。
DB2	BAIS	送信 (受信) ラインで BAIS を発生します。

■ FRELAY ステータスレジスタ

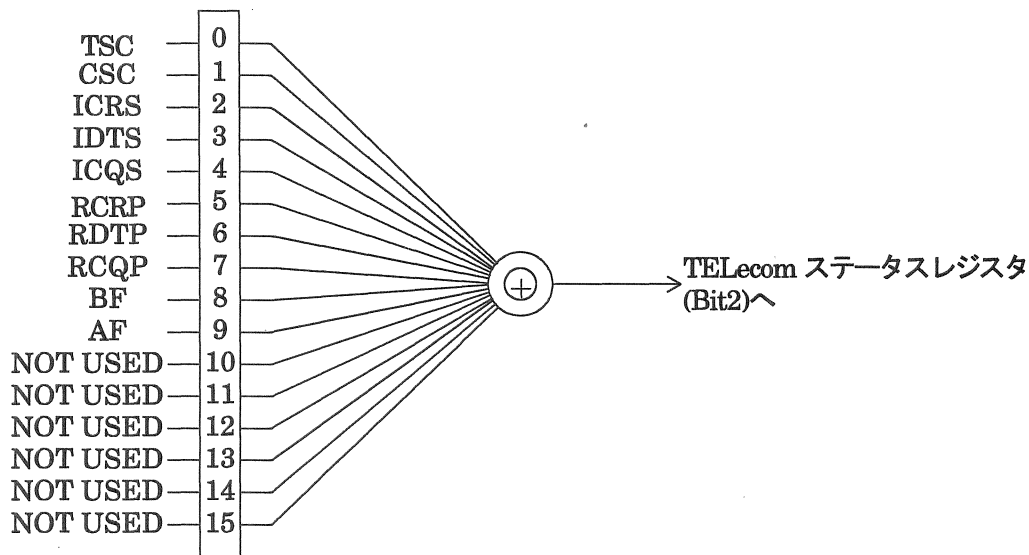


図 7.4-7 FRELAY ステータスレジスタ

表 7.4-8 FRELAY ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	TSC (Test Sequence Count)	Test Sequence Count が発生したことを示します。 ($\neg 1 \wedge 1$ パルス状に発生)
DB1	CSC (Complete Sequence Count)	Complete Sequence Count が発生したことを示します。 ($\neg 1 \wedge 1$ パルス状に発生)
DB2	ICRS (Incomplete CR Sequence count)	Incomplete CR Sequence count が発生したことを示します。 ($\neg 1 \wedge 1$ パルス状に発生)
DB3	IDTS (Incomplete DT Sequence count)	Incomplete DT Sequence count が発生したことを示します。 ($\neg 1 \wedge 1$ パルス状に発生)
DB4	ICQS (Incomplete CQ Sequence count)	Incomplete CQ Sequence count が発生したことを示します。 ($\neg 1 \wedge 1$ パルス状に発生)
DB5	RCRP (Receive CR Packec count)	Receive CR Packec count が発生したことを示します。 ($\neg 1 \wedge 1$ パルス状に発生)
DB6	RDTP (Receive DT Packec count)	Receive DT Packec count が発生したことを示します。 ($\neg 1 \wedge 1$ パルス状に発生)
DB7	RCQP (Receive CQ Packec count)	Receive CQ Packec count が発生したことを示します。 ($\neg 1 \wedge 1$ パルス状に発生)
DB8	BF (Bad Frame)	Bad Frame が発生したことを示します。 ($\neg 1 \wedge 1$ パルス状に発生)
DB9	AF (Abort Frame)	Abort Frame が発生したことを示します。 ($\neg 1 \wedge 1$ パルス状に発生)

■ DELay ステータスレジスタ

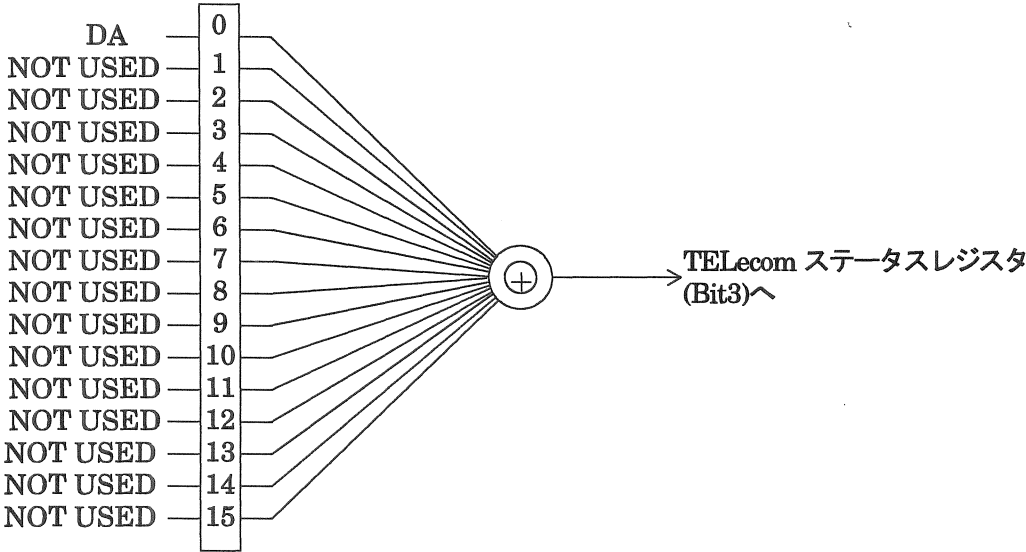


図 7.4-8 DELay ステータスレジスタ

表 7.4-9 DELay ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	DA (Data Arrived)	データが到着したことを示します。 ($\neg$ パルス状に発生)

■ FREQuency ステータスレジスタ

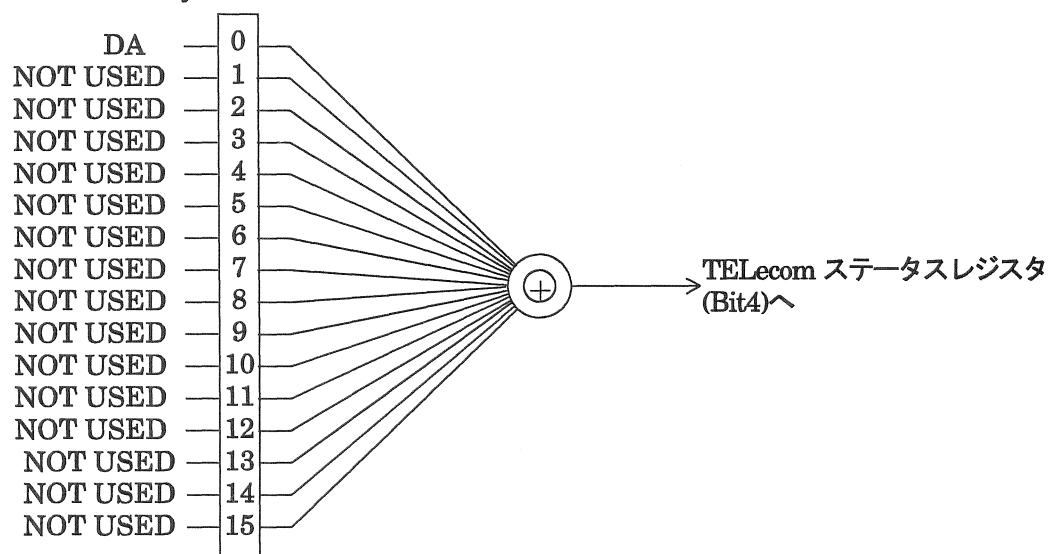


図 7.4-9 FREQuency ステータスレジスタ

表 7.4-10 FREQuency ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	DA (Data Arrived)	データが到着したことを示します。 (_I^I_パルス状に発生)

■ MONitor ステータスレジスタ

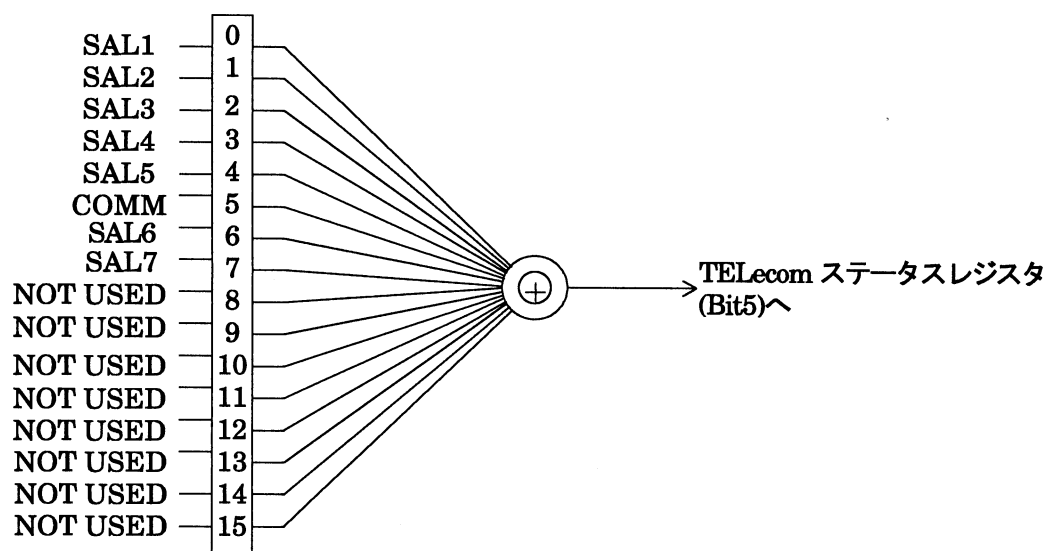


図 7.4-10 MONitor ステータスレジスタ

表 7.4-11 MONitor ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	SAL1 (SALarm1 status register summary)	SALarm1 ステータスレジスタサマリです。
DB1	SAL2 (SALarm2 status register summary)	SALarm2 ステータスレジスタサマリです。
DB2	SAL3 (SALarm3 status register summary)	SALarm3 ステータスレジスタサマリです。
DB3	SAL4 (SALarm4 status register summary)	SALarm4 ステータスレジスタサマリです。
DB4	SAL5 (SALarm5 status register summary)	SALarm5 ステータスレジスタサマリです。
DB5	COMM (COMMOn status register summary)	COMMOn ステータスレジスタサマリです。
DB6	SAL6 (SALarm6 status register summary)	SALarm6 ステータスレジスタサマリです。
DB7	SAL7 (SALarm7 status register summary)	SALarm7 ステータスレジスタサマリです。

■ SALarm1 ステータスレジスタ

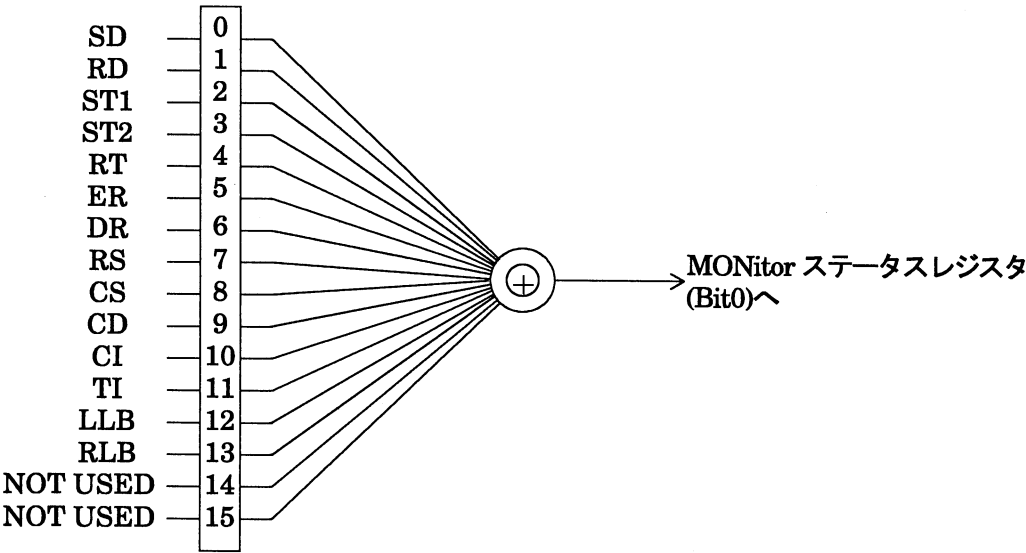


図 7.4-11 SALarm1 ステータスレジスタ

表 7.4-12 SALarm1 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	SD (SD)	SD が 1 であることを示します。
DB1	RD (RD)	RD が 1 であることを示します。
DB2	ST1 (ST1)	ST1 が ON であることを示します。
DB3	ST2 (ST2)	ST2 が ON であることを示します。
DB4	RT (RT)	RT が ON であることを示します。
DB5	ER (ER)	ER が ON であることを示します。
DB6	DR (DR)	DR が ON であることを示します。
DB7	RS (RS)	RS が ON であることを示します。
DB8	CS (CS)	CS が ON であることを示します。
DB9	CD (CD)	CD が ON であることを示します。
DB10	CI (CI)	CI が ON であることを示します。
DB11	TI (TI)	TI が ON であることを示します。
DB12	LLB (LLB)	LLB が ON であることを示します。
DB13	RLB (RLB)	RLB が ON であることを示します。

■ SALarm2 ステータスレジスタ

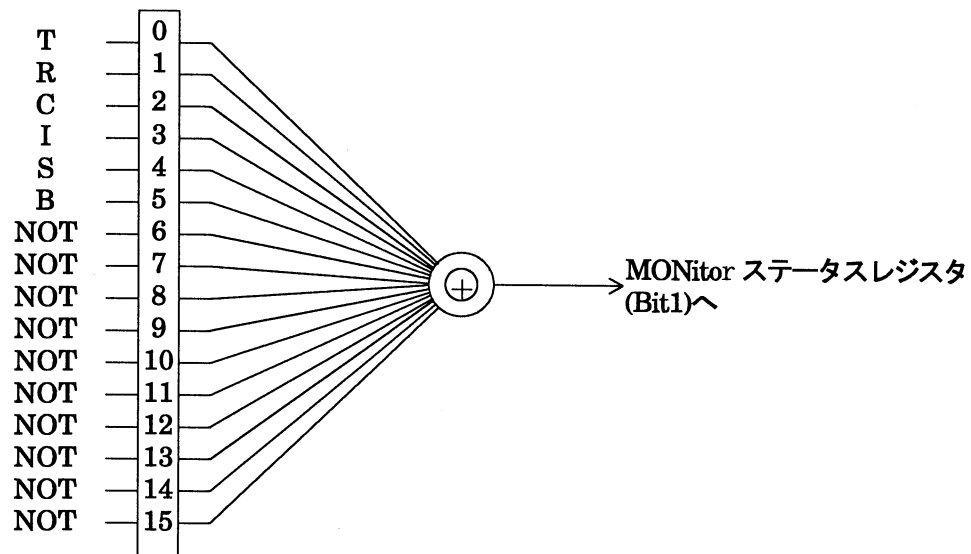


図 7.4-12 SALarm2 ステータスレジスタ

表 7.4-13 SALarm2 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	T (T)	T が ON であることを示します。
DB1	R (R)	R が ON であることを示します。
DB2	C (C)	C が ON であることを示します。
DB3	I (I)	I が ON であることを示します。
DB4	S (S)	S が ON であることを示します。
DB5	B (B)	B が ON であることを示します。

■ SALarm3 ステータスレジスタ

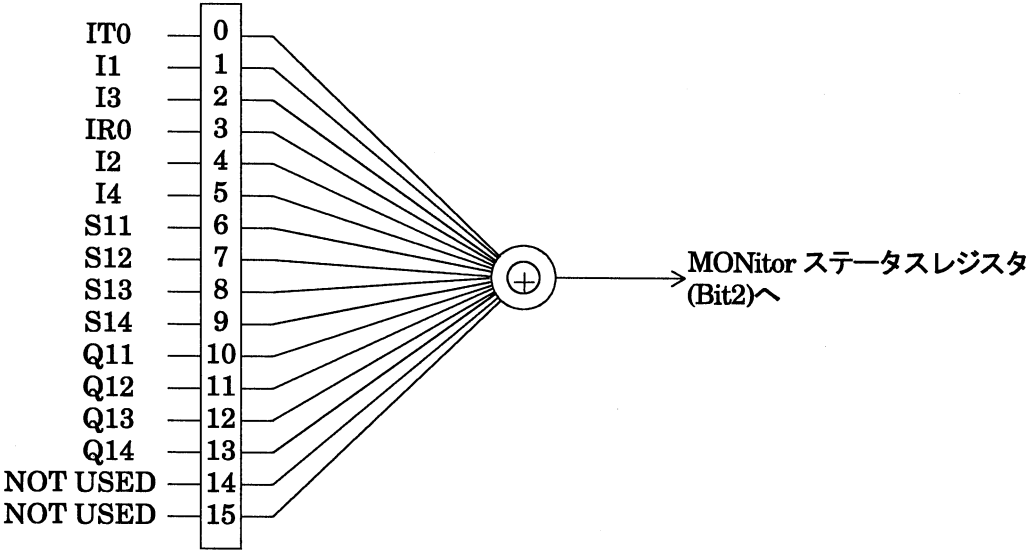


図 7.4-13 SALarm3 ステータスレジスタ

表 7.4-14 SALarm3 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	IT0 (INFO 0T)	INFO 0T の状態を示します。
DB1	I1 (INFO 1)	INFO 1 の状態を示します。
DB2	I3 (INFO 3)	INFO 3 の状態を示します。
DB3	IR0 (INFO 0R)	INFO 0R の状態を示します。
DB4	I2 (INFO 2)	INFO 2 の状態を示します。
DB5	I4 (INFO 4)	INFO 4 の状態を示します。
DB6	S11 (S11)	S11 が 1 であることを示します。
DB7	S12 (S12)	S12 が 1 であることを示します。
DB8	S13 (S13)	S13 が 1 であることを示します。
DB9	S14 (S14)	S14 が 1 であることを示します。
DB10	Q11 (Q11)	Q11 が 1 であることを示します。
DB11	Q12 (Q12)	Q12 が 1 であることを示します。
DB12	Q13 (Q13)	Q13 が 1 であることを示します。
DB13	Q14 (Q14)	Q14 が 1 であることを示します。

■ SALarm4 ステータスレジスタ

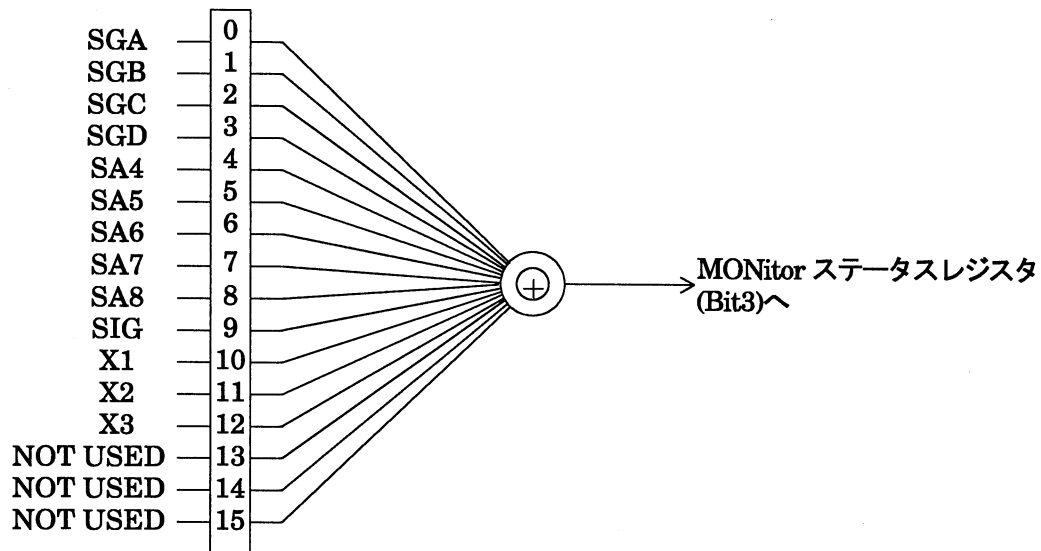


図 7.4-14 SALarm4 ステータスレジスタ

表 7.4-15 SALarm4 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	SGA (SGA)	SGA が 1 であることを示します。
DB1	SGB (SGB)	SGB が 1 であることを示します。
DB2	SGC (SGC)	SGC が 1 であることを示します。
DB3	SGD (SGD)	SGD が 1 であることを示します。
DB4	SA4 (SA4)	SA4 が 1 であることを示します。
DB5	SA5 (SA5)	SA5 が 1 であることを示します。
DB6	SA6 (SA6)	SA6 が 1 であることを示します。
DB7	SA7 (SA7)	SA7 が 1 であることを示します。
DB8	SA8 (SA8)	SA8 が 1 であることを示します。
DB9	SIG (SIG)	SIG が 1 であることを示します。
DB10	X1 (X1)	X1 が 1 であることを示します。
DB11	X2 (X2)	X2 が 1 であることを示します。
DB12	X3 (X3)	X3 が 1 であることを示します。

■ SALarm5 ステータスレジスタ

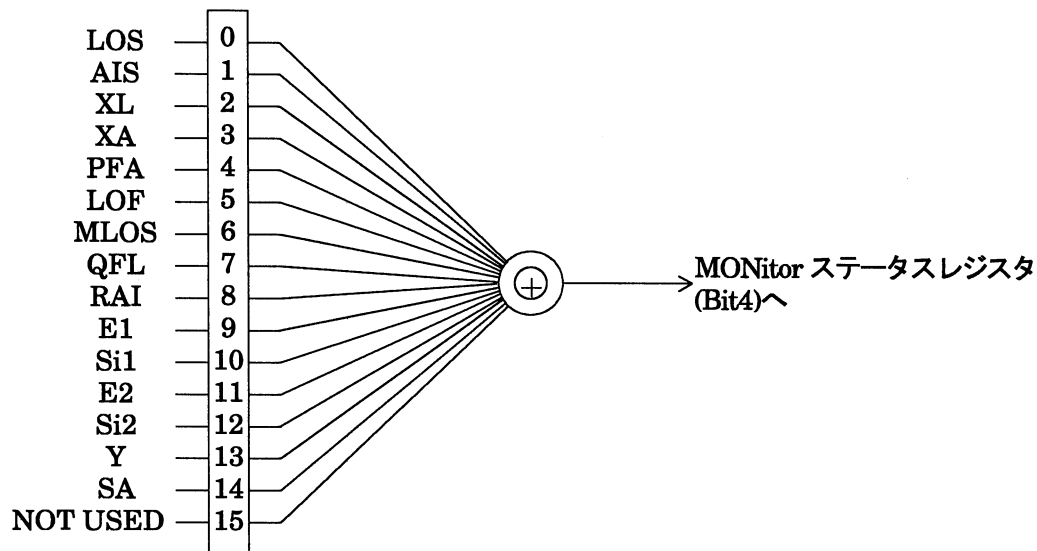


図 7.4-15 SALarm5 ステータスレジスタ

表 7.4-16 SALarm5 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	LOS (LOS)	LOS が発生したことを示します。
DB1	AIS (AIS)	AIS が発生したことを示します。
DB2	XL (XL)	XL が発生したことを示します。
DB3	XA (XA)	XA が発生したことを示します。
DB4	PFA (PFA)	PFA が発生したことを示します。
DB5	LOF (LOF)	LOF が発生したことを示します。
DB6	MLOSs (MF Loss)	MF Loss が発生したことを示します。
DB7	QFL (QFL)	FA ビットの状態を示します。
DB8	RAI (RAI)	RAI が発生したことを示します。
DB9	E1 (E1)	E1 が 1 であることを示します。
DB10	SI1 (Si1)	SI1 が 1 であることを示します。
DB11	E2 (E2)	E2 が 1 であることを示します。
DB12	SI2 (Si2)	SI2 が 1 であることを示します。
DB13	Y (Y)	Y が 1 であることを示します。
DB14	SA (SA)	SA が発生したことを示します。

■ COMMon ステータスレジスタ

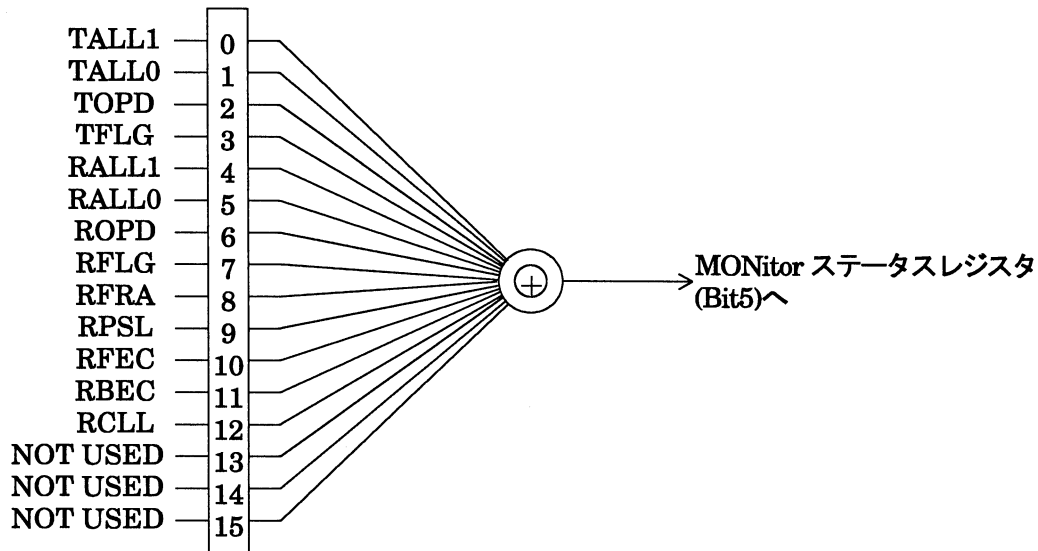


図 7.4-16 COMMon ステータスレジスタ

表 7.4-17 COMMon ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	TALL1 (Tx All1)	送信ラインの指定タイムスロットが ALL1 であることを示します。
DB1	TALL0 (Tx All0)	送信ラインの指定タイムスロットが ALL1 であることを示します。
DB2	TOPD (Tx OPD)	送信ラインで OPD が発生したことを示します。
DB3	TFLG1 (Tx FLG1)	送信ラインで FLGL が発生したことを示します。
DB4	RALL1 (Rx All1)	受信ラインの指定タイムスロットが ALL1 であることを示します。
DB5	RALL0 (Rx All0)	受信ラインの指定タイムスロットが ALL1 であることを示します。
DB6	ROPD (Rx OPD)	受信ラインで OPD が発生したことを示します。
DB7	RFLG1 (Rx FLG1)	受信ラインで FLGL が発生したことを示します。
DB8	RFRA1 (Rx FRA1)	PVC 確認手順確立待ちであることを示します。
DB9	RPSL (Rx PSL)	受信ラインで PSL が発生したことを示します。
DB10	RFECn (Rx FECn)	受信ラインで FECN が発生したことを示します。
DB11	RBECn (Rx BECn)	受信ラインで BECN が発生したことを示します。
DB12	RCLLm (Rx CLLm)	受信ラインで CLLM が発生したことを示します。

■ SALarm6 ステータスレジスタ

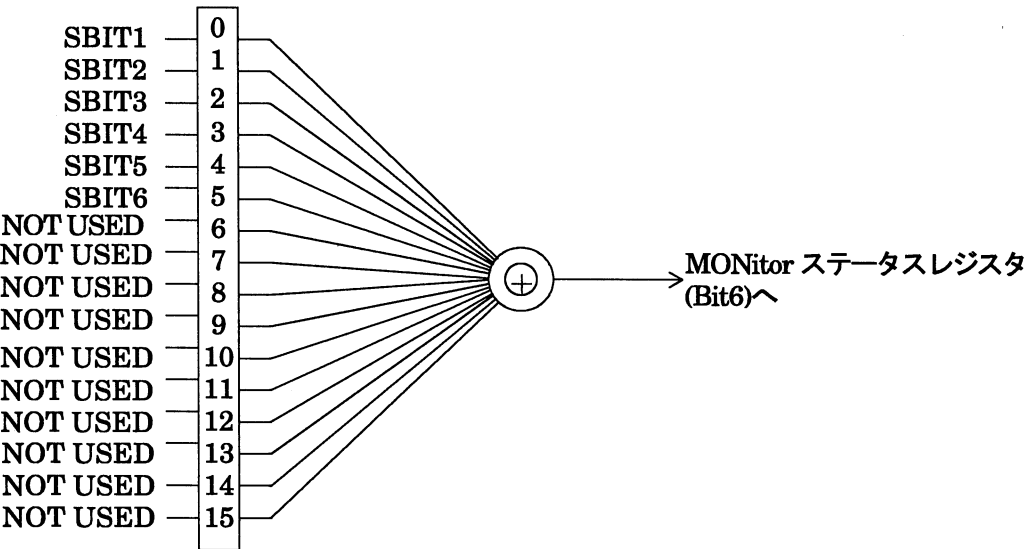


図 7.4-17 SALarm6 ステータスレジスタ

表 7.4-18 SALarm6 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	SBIT1(ST bit1)	ST bit1 が 1 であることを示します。
DB1	SBIT2(ST bit2)	ST bit2 が 1 であることを示します。
DB2	SBIT3(ST bit3)	ST bit3 が 1 であることを示します。
DB3	SBIT4(ST bit4)	ST bit4 が 1 であることを示します。
DB4	SBIT5(ST bit5)	ST bit5 が 1 であることを示します。
DB5	SBIT6(ST bit6)	ST bit6 が 1 であることを示します。

■ SALarm7 ステータスレジスタ

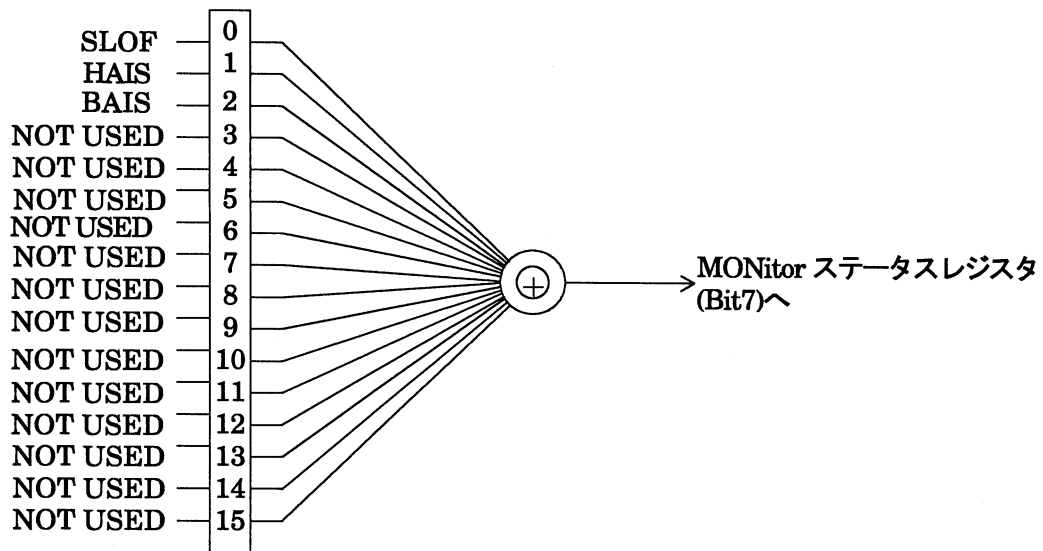


図 7.4-18 SALarm7 ステータスレジスタ

表 7.4-19 SALarm7 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	SLOF (ST LOF)	ST LOF が発生したことを示します。
DB1	HAIS (HG AIS)	HG AIS が発生したことを示します。
DB2	BAIS (BAIS)	BAIS が発生したことを示します。

■ CONNecTion ステータスレジスタ

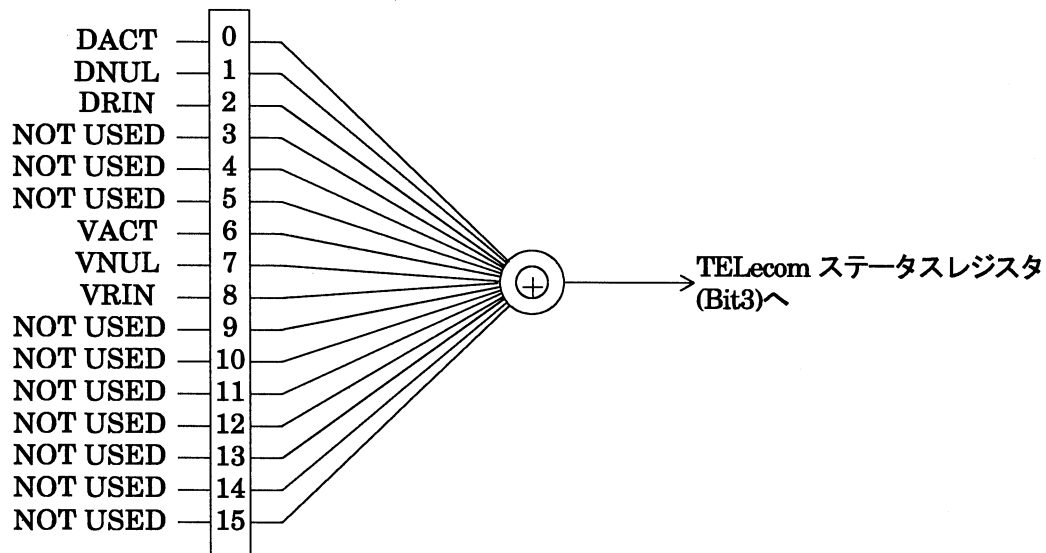


図 7.4-19 CONNecTion ステータスレジスタ

表 7.4-20 CONNecTion ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	DACT (Data ACTive)	データ接続中であることを示します。
DB1	DNUL (Data NULl)	データ非接続中であることを示します。
DB2	DRIN (Data RINging)	データ接続途中であることを示します。
DB6	VACT (Voice ACTive)	音声接続中であることを示します。
DB7	VNUL (Voice NULl)	音声非接続中であることを示します。
DB8	VRIN (Voice RINging)	音声接続途中であることを示します。

■ TXCas ステータスレジスタ

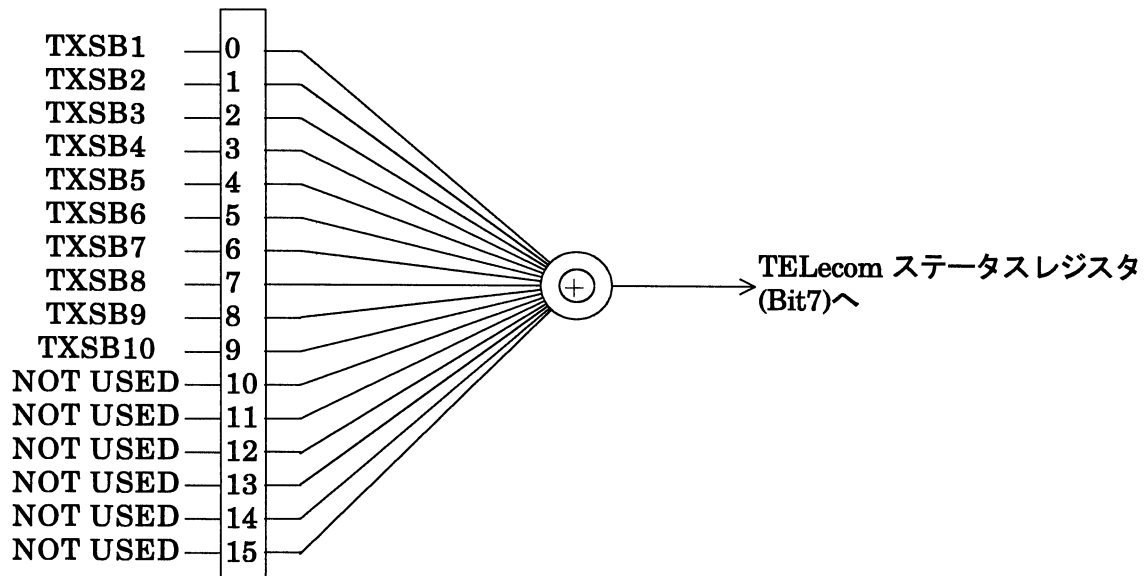


図 7.4-20 TXCas ステータスレジスタ

表 7.4-21 TXCas ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	TXSB1 (TXSBit1 status register summary)	TXSBit1 ステータスレジスタサマリです。
DB1	TXSB2 (TXSBit2 status register summary)	TXSBit2 ステータスレジスタサマリです。
DB2	TXSB3 (TXSBit3 status register summary)	TXSBit3 ステータスレジスタサマリです。
DB3	TXSB4 (TXSBit4 status register summary)	TXSBit4 ステータスレジスタサマリです。
DB4	TXSB5 (TXSBit5 status register summary)	TXSBit5 ステータスレジスタサマリです。
DB5	TXSB6 (TXSBit6 status register summary)	TXSBit6 ステータスレジスタサマリです。
DB6	TXSB7 (TXSBit7 status register summary)	TXSBit7 ステータスレジスタサマリです。
DB7	TXSB8 (TXSBit8 status register summary)	TXSBit8 ステータスレジスタサマリです。
DB8	TXSB9 (TXSBit9 status register summary)	TXSBit9 ステータスレジスタサマリです。
DB9	TXSB10 (TXSBit10 status register summary)	TXSBit10 ステータスレジスタサマリです。

■ TXSBit1 ステータスレジスタ

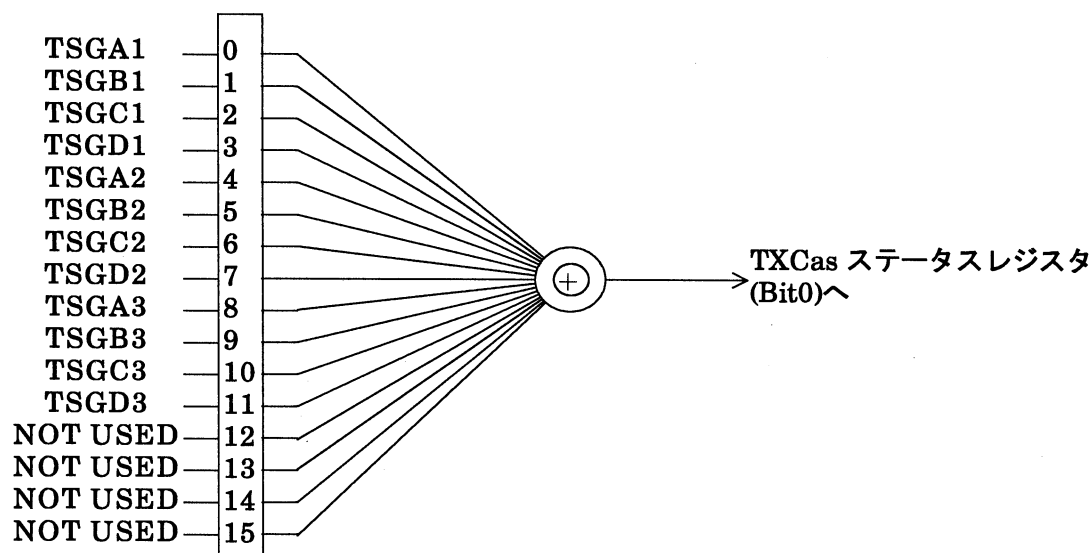


図 7.4-21 TXSBit1 ステータスレジスタ

表 7.4-22 TXSBit1 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic		Description
DB0	TSGA1	(Tx SGA ch1)	送信ラインの CH01 SgA が 1 であることを示します。
DB1	TSGB1	(Tx SGB ch1)	送信ラインの CH01 SgB が 1 であることを示します。
DB2	TSGC1	(Tx SGC ch1)	送信ラインの CH01 SgC が 1 であることを示します。
DB3	TSGD1	(Tx SGD ch1)	送信ラインの CH01 SgD が 1 であることを示します。
DB4	TSGA2	(Tx SGA ch2)	送信ラインの CH02 SgA が 1 であることを示します。
DB5	TSGB2	(Tx SGB ch2)	送信ラインの CH02 SgB が 1 であることを示します。
DB6	TSGC2	(Tx SGC ch2)	送信ラインの CH02 SgC が 1 であることを示します。
DB7	TSGD2	(Tx SGD ch2)	送信ラインの CH02 SgD が 1 であることを示します。
DB8	TSGA3	(Tx SGA ch3)	送信ラインの CH03 SgA が 1 であることを示します。
DB9	TSGB3	(Tx SGB ch3)	送信ラインの CH03 SgB が 1 であることを示します。
DB10	TSGC3	(Tx SGC ch3)	送信ラインの CH03 SgC が 1 であることを示します。
DB11	TSGD3	(Tx SGD ch3)	送信ラインの CH03 SgD が 1 であることを示します。

■ TXSBit2 ステータスレジスタ

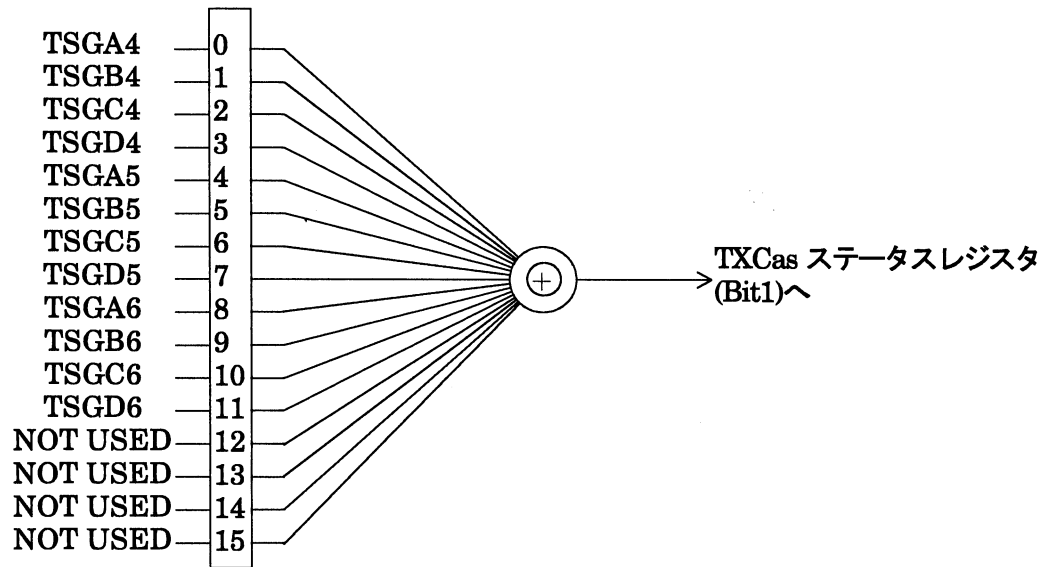


図 7.4-22 TXSBit2 ステータスレジスタ

表 7.4-23 TXSBit2 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	TSGA4 (Tx SGA ch4)	送信ラインの CH04 SgA が 1 であることを示します。
DB1	TSGB4 (Tx SGB ch4)	送信ラインの CH04 SgB が 1 であることを示します。
DB2	TSGC4 (Tx SGC ch4)	送信ラインの CH04 SgC が 1 であることを示します。
DB3	TSGD4 (Tx SGD ch4)	送信ラインの CH04 SgD が 1 であることを示します。
DB4	TSGA5 (Tx SGA ch5)	送信ラインの CH05 SgA が 1 であることを示します。
DB5	TSGB5 (Tx SGB ch5)	送信ラインの CH05 SgB が 1 であることを示します。
DB6	TSGC5 (Tx SGC ch5)	送信ラインの CH05 SgC が 1 であることを示します。
DB7	TSGD5 (Tx SGD ch5)	送信ラインの CH05 SgD が 1 であることを示します。
DB8	TSGA6 (Tx SGA ch6)	送信ラインの CH06 SgA が 1 であることを示します。
DB9	TSGB6 (Tx SGB ch6)	送信ラインの CH06 SgB が 1 であることを示します。
DB10	TSGC6 (Tx SGC ch6)	送信ラインの CH06 SgC が 1 であることを示します。
DB11	TSGD6 (Tx SGD ch6)	送信ラインの CH06 SgD が 1 であることを示します。

■ TXSBit3 ステータスレジスタ

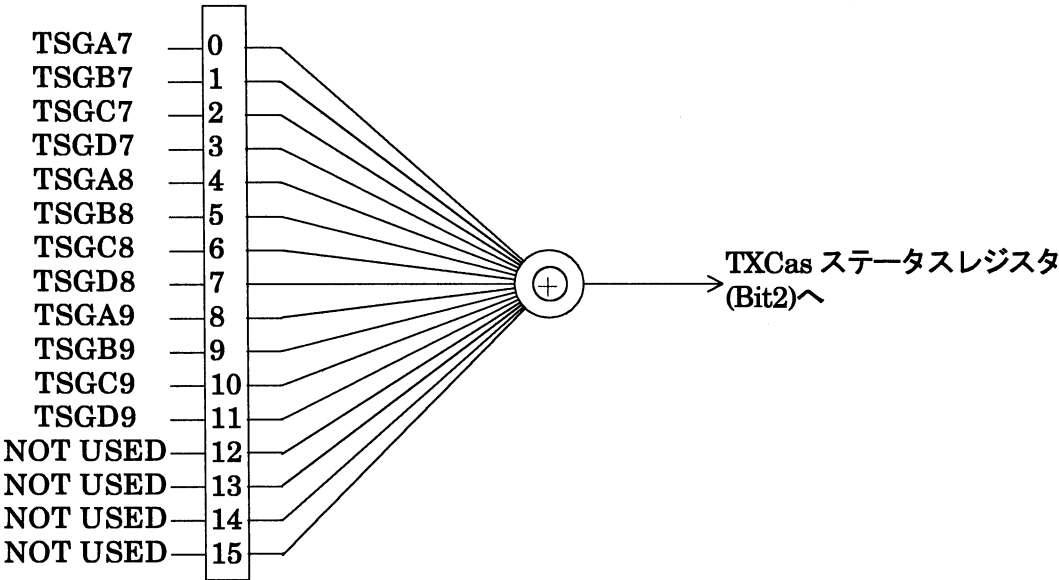


図 7.4-23 TXSBit3 ステータスレジスタ

表 7.4-24 TXSBit3 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic		Description
DB0	TSGA7	(Tx SGA ch7)	送信ラインの CH07 SgA が 1 であることを示します。
DB1	TSGB7	(Tx SGB ch7)	送信ラインの CH07 SgB が 1 であることを示します。
DB2	TSGC7	(Tx SGC ch7)	送信ラインの CH07 SgC が 1 であることを示します。
DB3	TSGD7	(Tx SGD ch7)	送信ラインの CH07 SgD が 1 であることを示します。
DB4	TSGA8	(Tx SGA ch8)	送信ラインの CH08 SgA が 1 であることを示します。
DB5	TSGB8	(Tx SGB ch8)	送信ラインの CH08 SgB が 1 であることを示します。
DB6	TSGC8	(Tx SGC ch8)	送信ラインの CH08 SgC が 1 であることを示します。
DB7	TSGD8	(Tx SGD ch8)	送信ラインの CH08 SgD が 1 であることを示します。
DB8	TSGA9	(Tx SGA ch9)	送信ラインの CH09 SgA が 1 であることを示します。
DB9	TSGB9	(Tx SGB ch9)	送信ラインの CH09 SgB が 1 であることを示します。
DB10	TSGC9	(Tx SGC ch9)	送信ラインの CH09 SgC が 1 であることを示します。
DB11	TSGD9	(Tx SGD ch9)	送信ラインの CH09 SgD が 1 であることを示します。

■ TXSBit4 ステータスレジスタ

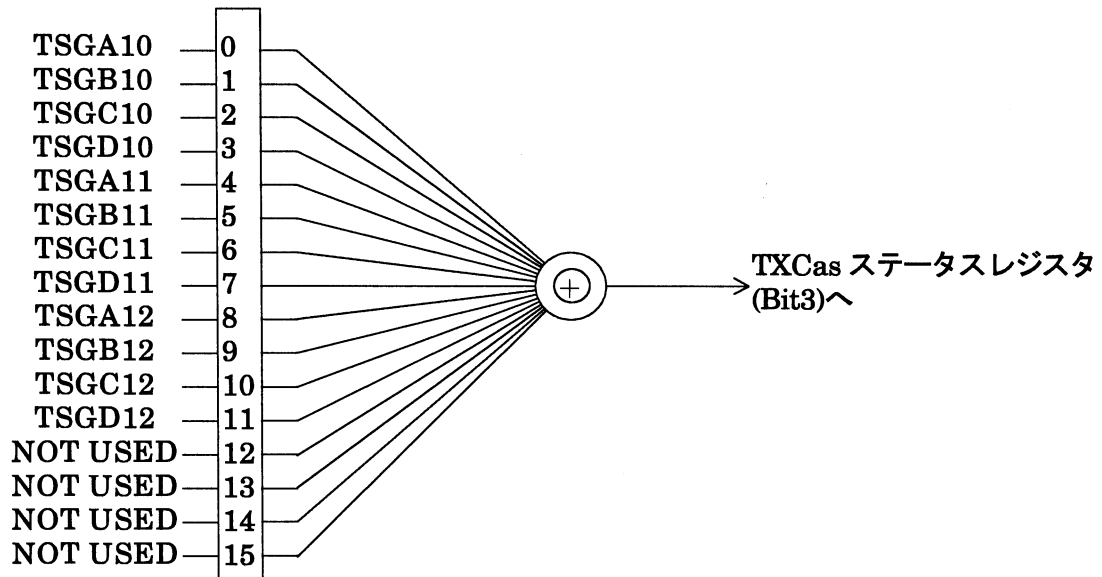


図 7.4-24 TXSBit4 ステータスレジスタ

表 7.4-25 TXSBit4 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	TSGA10 (Tx SGA ch10)	送信ラインの CH10 SgA が 1 であることを示します。
DB1	TSGB10 (Tx SGB ch10)	送信ラインの CH10 SgB が 1 であることを示します。
DB2	TSGC10 (Tx SGC ch10)	送信ラインの CH10 SgC が 1 であることを示します。
DB3	TSGD10 (Tx SGD ch10)	送信ラインの CH10 SgD が 1 であることを示します。
DB4	TSGA11 (Tx SGA ch11)	送信ラインの CH11 SgA が 1 であることを示します。
DB5	TSGB11 (Tx SGB ch11)	送信ラインの CH11 SgB が 1 であることを示します。
DB6	TSGC11 (Tx SGC ch11)	送信ラインの CH11 SgC が 1 であることを示します。
DB7	TSGD11 (Tx SGD ch11)	送信ラインの CH11 SgD が 1 であることを示します。
DB8	TSGA12 (Tx SGA ch12)	送信ラインの CH12 SgA が 1 であることを示します。
DB9	TSGB12 (Tx SGB ch12)	送信ラインの CH12 SgB が 1 であることを示します。
DB10	TSGC12 (Tx SGC ch12)	送信ラインの CH12 SgC が 1 であることを示します。
DB11	TSGD12 (Tx SGD ch12)	送信ラインの CH12 SgD が 1 であることを示します。

■ TXSBit5 ステータスレジスタ

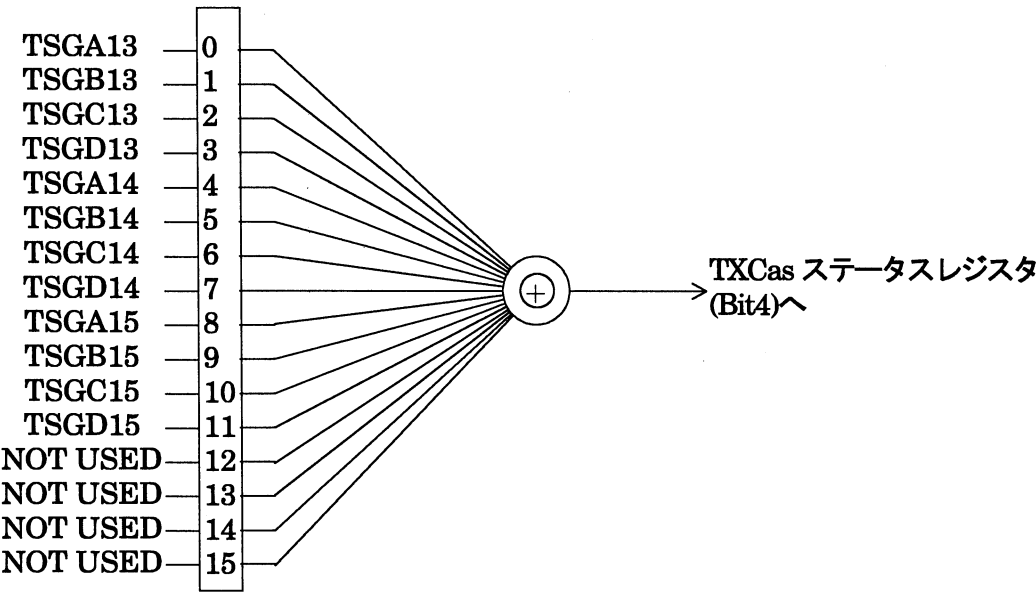


図 7.4-25 TXSBit5 ステータスレジスタ

表 7.4-26 TXSBit5 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	TSGA13 (Tx SGA ch13)	送信ラインの CH13 SgA が 1 であることを示します。
DB1	TSGB13 (Tx SGB ch13)	送信ラインの CH13 SgB が 1 であることを示します。
DB2	TSGC13 (Tx SGC ch13)	送信ラインの CH13 SgC が 1 であることを示します。
DB3	TSGD13 (Tx SGD ch13)	送信ラインの CH13 SgD が 1 であることを示します。
DB4	TSGA14 (Tx SGA ch14)	送信ラインの CH14 SgA が 1 であることを示します。
DB5	TSGB14 (Tx SGB ch14)	送信ラインの CH14 SgB が 1 であることを示します。
DB6	TSGC14 (Tx SGC ch14)	送信ラインの CH14 SgC が 1 であることを示します。
DB7	TSGD14 (Tx SGD ch14)	送信ラインの CH14 SgD が 1 であることを示します。
DB8	TSGA15 (Tx SGA ch15)	送信ラインの CH15 SgA が 1 であることを示します。
DB9	TSGB15 (Tx SGB ch15)	送信ラインの CH15 SgB が 1 であることを示します。
DB10	TSGC15 (Tx SGC ch15)	送信ラインの CH15 SgC が 1 であることを示します。
DB11	TSGD15 (Tx SGD ch15)	送信ラインの CH15 SgD が 1 であることを示します。

■ TXSBit6 ステータスレジスタ

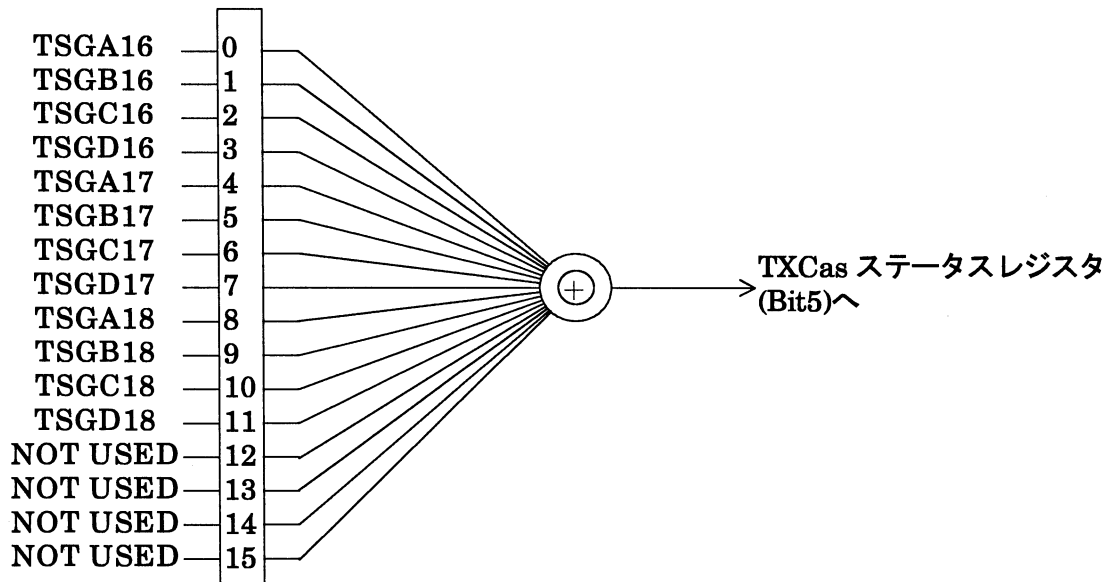


図 7.4-26 TXSBit6 ステータスレジスタ

表 7.4-27 TXSBit6 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	TSGA16 (Tx SGA ch16)	送信ラインの CH16 SgA が 1 であることを示します。
DB1	TSGB16 (Tx SGB ch16)	送信ラインの CH16 SgB が 1 であることを示します。
DB2	TSGC16 (Tx SGC ch16)	送信ラインの CH16 SgC が 1 であることを示します。
DB3	TSGD16 (Tx SGD ch16)	送信ラインの CH16 SgD が 1 であることを示します。
DB4	TSGA17 (Tx SGA ch17)	送信ラインの CH17 SgA が 1 であることを示します。
DB5	TSGB17 (Tx SGB ch17)	送信ラインの CH17 SgB が 1 であることを示します。
DB6	TSGC17 (Tx SGC ch17)	送信ラインの CH17 SgC が 1 であることを示します。
DB7	TSGD17 (Tx SGD ch17)	送信ラインの CH17 SgD が 1 であることを示します。
DB8	TSGA18 (Tx SGA ch18)	送信ラインの CH18 SgA が 1 であることを示します。
DB9	TSGB18 (Tx SGB ch18)	送信ラインの CH18 SgB が 1 であることを示します。
DB10	TSGC18 (Tx SGC ch18)	送信ラインの CH18 SgC が 1 であることを示します。
DB11	TSGD18 (Tx SGD ch18)	送信ラインの CH18 SgD が 1 であることを示します。

■ TXSBit7 ステータスレジスタ

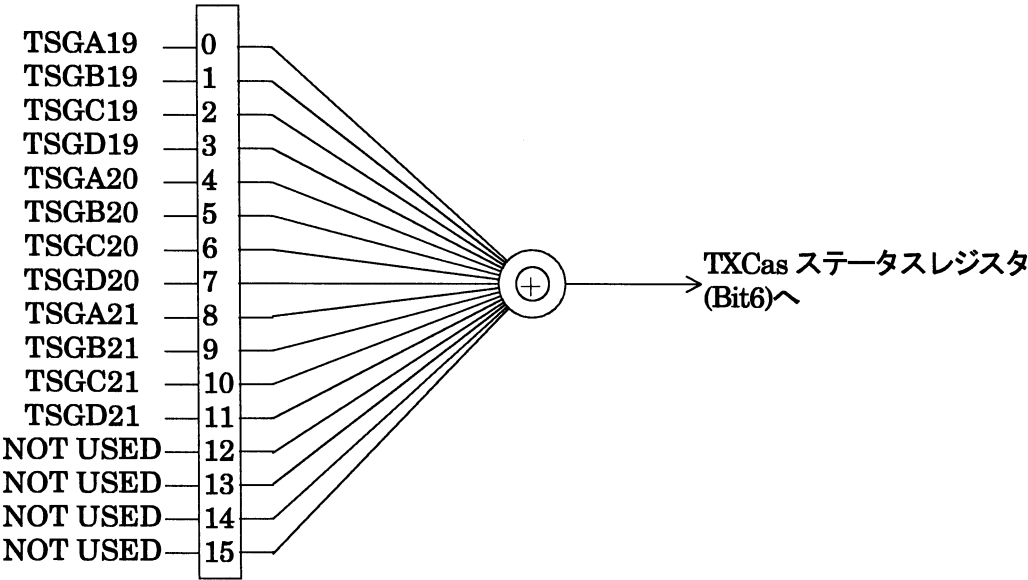


図 7.4-27 TXSBit7 ステータスレジスタ

表 7.4-28 TXSBit7 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	TSGA19 (Tx SGA ch19)	送信ラインの CH19 SgA が 1 であることを示します。
DB1	TSGB19 (Tx SGB ch19)	送信ラインの CH19 SgB が 1 であることを示します。
DB2	TSGC19 (Tx SGC ch19)	送信ラインの CH19 SgC が 1 であることを示します。
DB3	TSGD19 (Tx SGD ch19)	送信ラインの CH19 SgD が 1 であることを示します。
DB4	TSGA20 (Tx SGA ch20)	送信ラインの CH20 SgA が 1 であることを示します。
DB5	TSGB20 (Tx SGB ch20)	送信ラインの CH20 SgB が 1 であることを示します。
DB6	TSGC20 (Tx SGC ch20)	送信ラインの CH20 SgC が 1 であることを示します。
DB7	TSGD20 (Tx SGD ch20)	送信ラインの CH20 SgD が 1 であることを示します。
DB8	TSGA21 (Tx SGA ch21)	送信ラインの CH21 SgA が 1 であることを示します。
DB9	TSGB21 (Tx SGB ch21)	送信ラインの CH21 SgB が 1 であることを示します。
DB10	TSGC21 (Tx SGC ch21)	送信ラインの CH21 SgC が 1 であることを示します。
DB11	TSGD21 (Tx SGD ch21)	送信ラインの CH21 SgD が 1 であることを示します。

■ TXSBit8 ステータスレジスタ

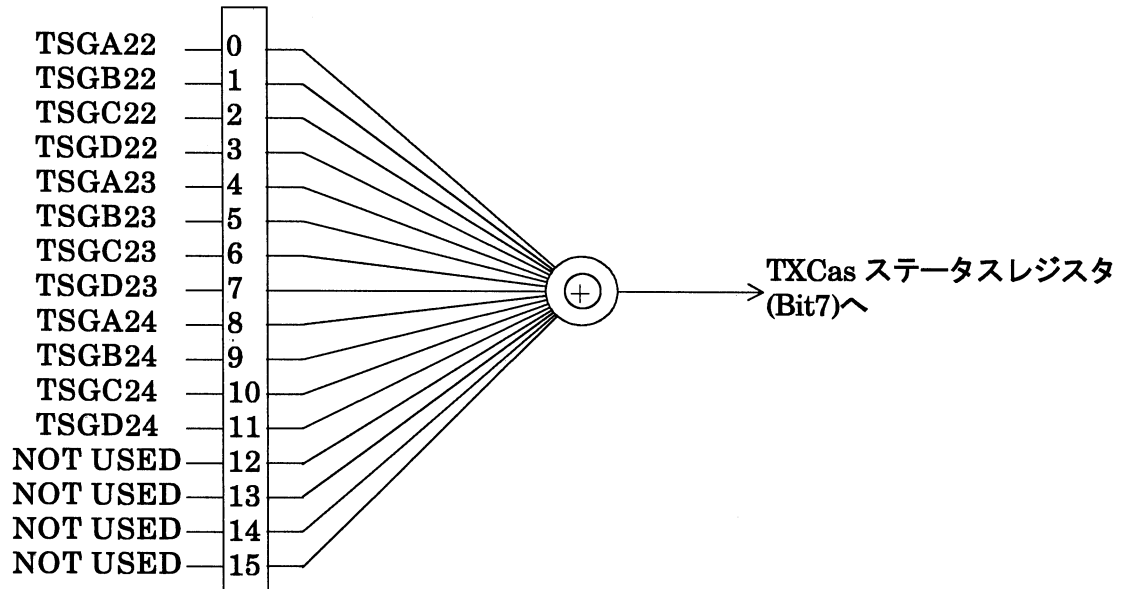


図 7.4-28 TXSBit8 ステータスレジスタ

表 7.4-29 TXSBit8 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic		Description
DB0	TSGA22	(Tx SGA ch22)	送信ラインの CH22 SgA が 1 であることを示します。
DB1	TSGB22	(Tx SGB ch22)	送信ラインの CH22 SgB が 1 であることを示します。
DB2	TSGC22	(Tx SGC ch22)	送信ラインの CH22 SgC が 1 であることを示します。
DB3	TSGD22	(Tx SGD ch22)	送信ラインの CH22 SgD が 1 であることを示します。
DB4	TSGA23	(Tx SGA ch23)	送信ラインの CH23 SgA が 1 であることを示します。
DB5	TSGB23	(Tx SGB ch23)	送信ラインの CH23 SgB が 1 であることを示します。
DB6	TSGC23	(Tx SGC ch23)	送信ラインの CH23 SgC が 1 であることを示します。
DB7	TSGD23	(Tx SGD ch23)	送信ラインの CH23 SgD が 1 であることを示します。
DB8	TSGA24	(Tx SGA ch24)	送信ラインの CH24 SgA が 1 であることを示します。
DB9	TSGB24	(Tx SGB ch24)	送信ラインの CH24 SgB が 1 であることを示します。
DB10	TSGC24	(Tx SGC ch24)	送信ラインの CH24 SgC が 1 であることを示します。
DB11	TSGD24	(Tx SGD ch24)	送信ラインの CH24 SgD が 1 であることを示します。

■ TXSBit9 ステータスレジスタ

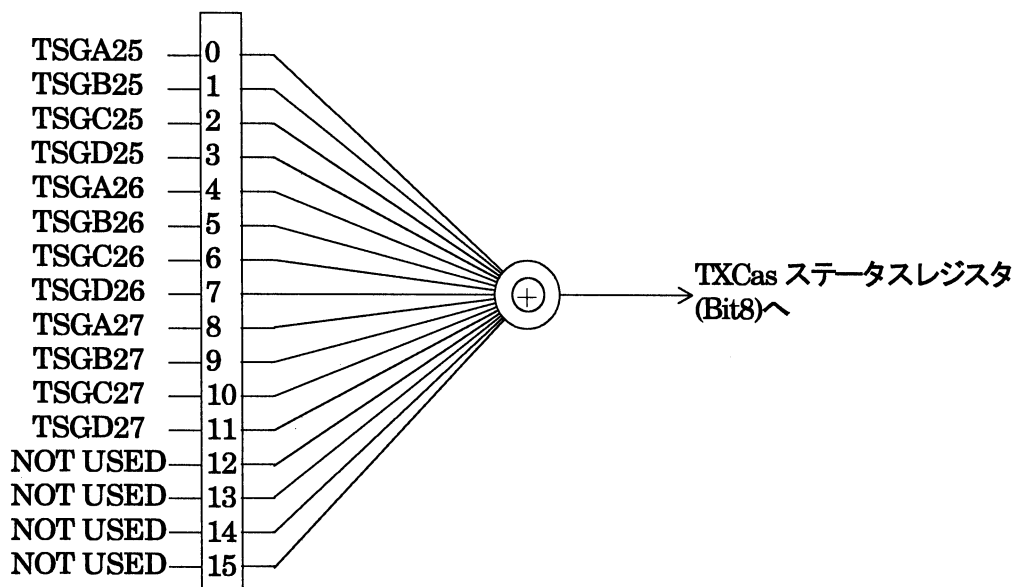


図 7.4-29 TXSBit9 ステータスレジスタ

表 7.4-30 TXSBit9 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	TSGB25 (Tx SGB ch25)	送信ラインの CH25 SgA が 1 であることを示します。
DB1	TSGB26 (Tx SGB ch26)	送信ラインの CH26 SgB が 1 であることを示します。
DB2	TSGB27 (Tx SGB ch27)	送信ラインの CH27 SgC が 1 であることを示します。
DB3	TSGC25 (Tx SGC ch25)	送信ラインの CH25 SgD が 1 であることを示します。
DB4	TSGC26 (Tx SGC ch26)	送信ラインの CH26 SgA が 1 であることを示します。
DB5	TSGC27 (Tx SGC ch27)	送信ラインの CH27 SgB が 1 であることを示します。
DB6	TSGD25 (Tx SGD ch25)	送信ラインの CH25 SgC が 1 であることを示します。
DB7	TSGD26 (Tx SGD ch26)	送信ラインの CH26 SgD が 1 であることを示します。
DB8	TSGD27 (Tx SGD ch27)	送信ラインの CH27 SgA が 1 であることを示します。
DB9	TSGB25 (Tx SGB ch25)	送信ラインの CH25 SgB が 1 であることを示します。
DB10	TSGB26 (Tx SGB ch26)	送信ラインの CH26 SgC が 1 であることを示します。
DB11	TSGB27 (Tx SGB ch27)	送信ラインの CH27 SgD が 1 であることを示します。

■ TXSBit10 ステータスレジスタ

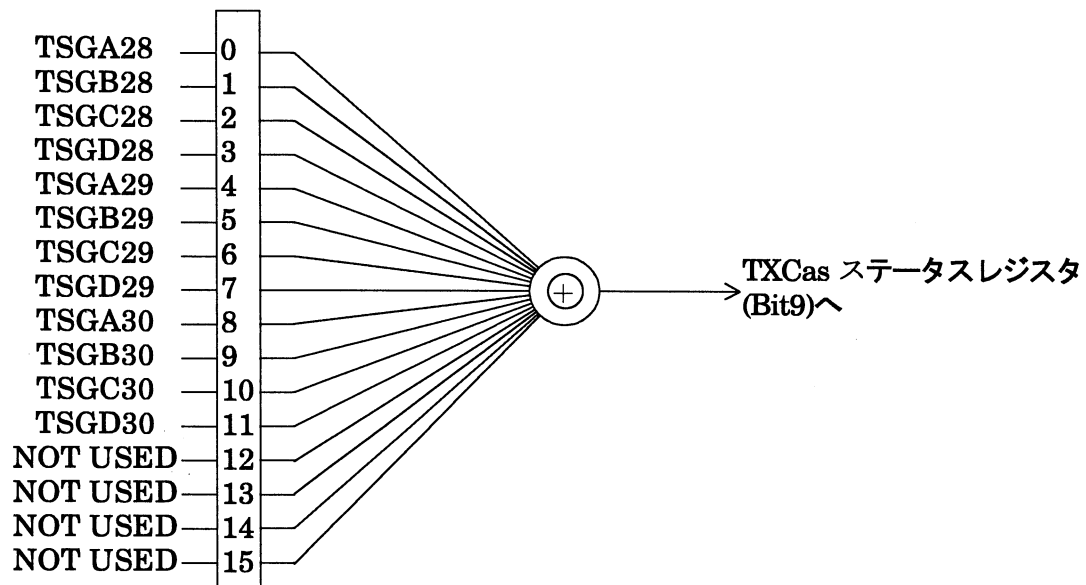


図 7.4-30 TXSBit10 ステータスレジスタ

表 7.4-31 TXSBit10 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	TSGA28 (Tx SGA ch28)	送信ラインの CH28 SgA が 1 であることを示します。
DB1	TSGB28 (Tx SGB ch28)	送信ラインの CH28 SgB が 1 であることを示します。
DB2	TSGC28 (Tx SGC ch28)	送信ラインの CH28 SgC が 1 であることを示します。
DB3	TSGD28 (Tx SGD ch28)	送信ラインの CH28 SgD が 1 であることを示します。
DB4	TSGA29 (Tx SGA ch29)	送信ラインの CH29 SgA が 1 であることを示します。
DB5	TSGB29 (Tx SGB ch29)	送信ラインの CH29 SgB が 1 であることを示します。
DB6	TSGC29 (Tx SGC ch29)	送信ラインの CH29 SgC が 1 であることを示します。
DB7	TSGD29 (Tx SGD ch29)	送信ラインの CH29 SgD が 1 であることを示します。
DB8	TSGA30 (Tx SGA ch30)	送信ラインの CH30 SgA が 1 であることを示します。
DB9	TSGB30 (Tx SGB ch30)	送信ラインの CH30 SgB が 1 であることを示します。
DB10	TSGC30 (Tx SGC ch30)	送信ラインの CH30 SgC が 1 であることを示します。
DB11	TSGD30 (Tx SGD ch30)	送信ラインの CH30 SgD が 1 であることを示します。

■ RXCas ステータスレジスタ

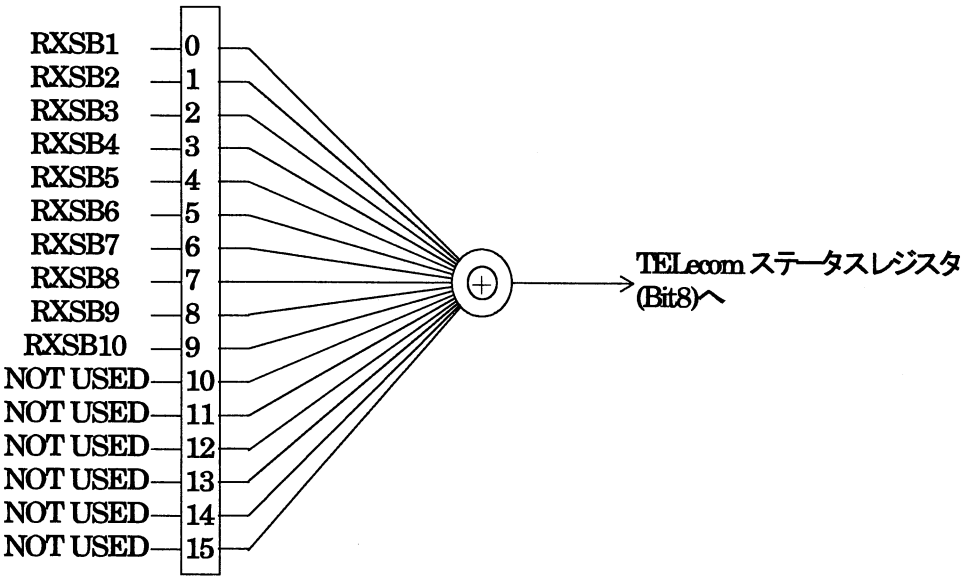


図 7.4-31 RXCas ステータスレジスタ

表 7.4-332 RXCas ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	RXSB1 (RXSB1 status register summary)	RXSB1 ステータスレジスタサマリです。
DB1	RXSB2 (RXSB2 status register summary)	RXSB2 ステータスレジスタサマリです。
DB2	RXSB3 (RXSB3 status register summary)	RXSB3 ステータスレジスタサマリです。
DB3	RXSB4 (RXSB4 status register summary)	RXSB4 ステータスレジスタサマリです。
DB4	RXSB5 (RXSB5 status register summary)	RXSB5 ステータスレジスタサマリです。
DB5	RXSB6 (RXSB6 status register summary)	RXSB6 ステータスレジスタサマリです。
DB6	RXSB7 (RXSB7 status register summary)	RXSB7 ステータスレジスタサマリです。
DB7	RXSB8 (RXSB8 status register summary)	RXSB8 ステータスレジスタサマリです。
DB8	RXSB9 (RXSB9 status register summary)	RXSB9 ステータスレジスタサマリです。
DB9	RXSB10 (RXSB10 status register summary)	RXSB10 ステータスレジスタサマリです。

■ RXSBit1 ステータスレジスタ

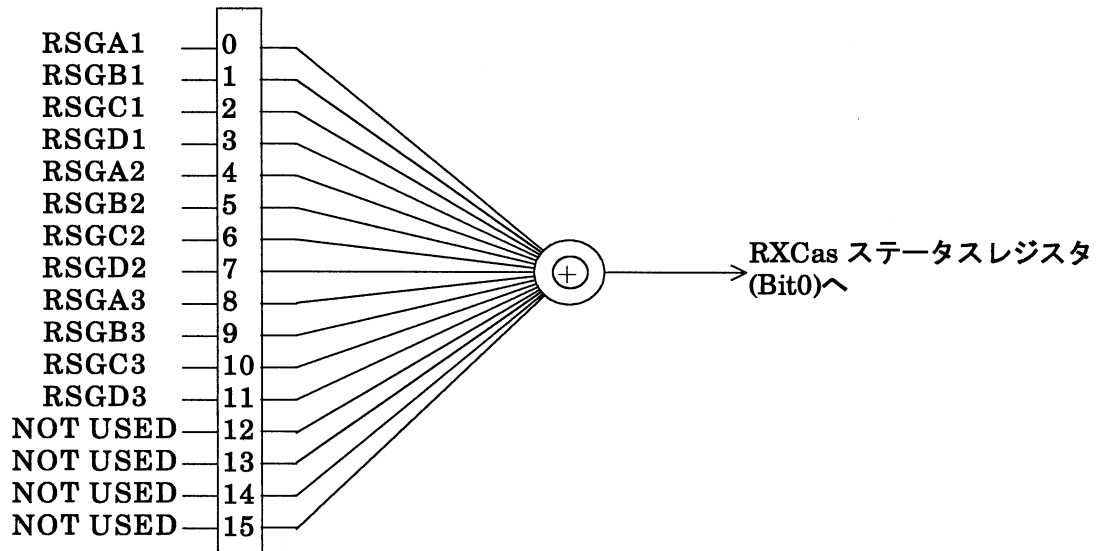


図 7.4-332 RXSBit1 ステータスレジスタ

表 7.4-33 RXSBit1 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic		Description
DB0	RSGA1	(Rx SGA ch1)	受信ラインの CH01 SgA が 1 であることを示します。
DB1	RSGB1	(Rx SGB ch1)	受信ラインの CH01 SgB が 1 であることを示します。
DB2	RSGC1	(Rx SGC ch1)	受信ラインの CH01 SgC が 1 であることを示します。
DB3	RSGD1	(Rx SGD ch1)	受信ラインの CH01 SgD が 1 であることを示します。
DB4	RSGA2	(Rx SGA ch2)	受信ラインの CH02 SgA が 1 であることを示します。
DB5	RSGB2	(Rx SGB ch2)	受信ラインの CH02 SgB が 1 であることを示します。
DB6	RSGC2	(Rx SGC ch2)	受信ラインの CH02 SgC が 1 であることを示します。
DB7	RSGD2	(Rx SGD ch2)	受信ラインの CH02 SgD が 1 であることを示します。
DB8	RSGA3	(Rx SGA ch3)	受信ラインの CH03 SgA が 1 であることを示します。
DB9	RSGB3	(Rx SGB ch3)	受信ラインの CH03 SgB が 1 であることを示します。
DB10	RSGC3	(Rx SGC ch3)	受信ラインの CH03 SgC が 1 であることを示します。
DB11	RSGD3	(Rx SGD ch3)	受信ラインの CH03 SgD が 1 であることを示します。

■ RXSBit2 ステータスレジスタ

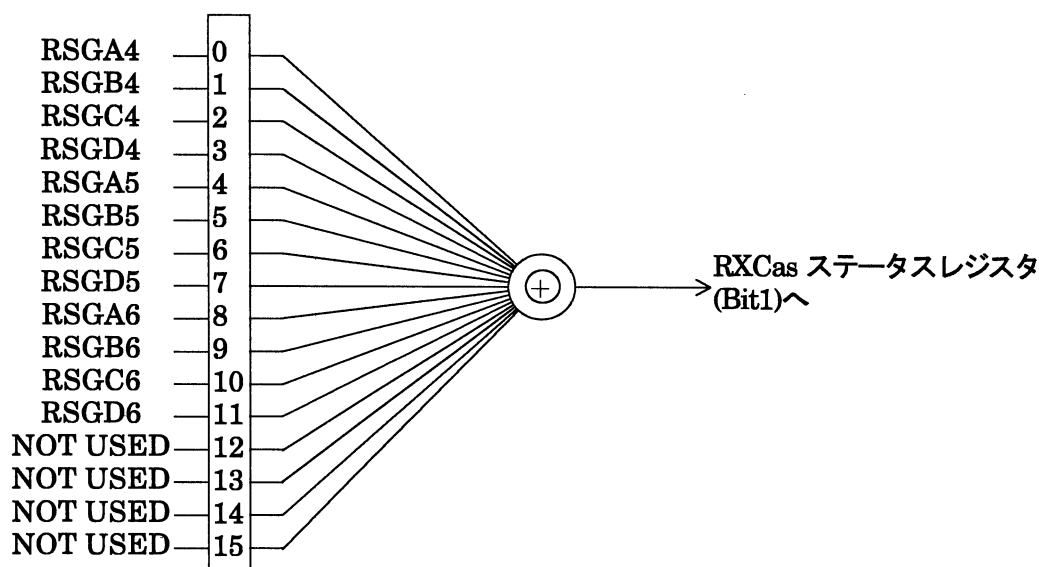


図 7.4-33 RXSBit2 ステータスレジスタ

表 7.4-34 RXSBit2 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic		Description
DB0	RSGA4	(Rx SGA ch4)	受信ラインの CH04 SgA が 1 であることを示します。
DB1	RSGB4	(Rx SGB ch4)	受信ラインの CH04 SgB が 1 であることを示します。
DB2	RSGC4	(Rx SGC ch4)	受信ラインの CH04 SgC が 1 であることを示します。
DB3	RSGD4	(Rx SGD ch4)	受信ラインの CH04 SgD が 1 であることを示します。
DB4	RSGA5	(Rx SGA ch5)	受信ラインの CH05 SgA が 1 であることを示します。
DB5	RSGB5	(Rx SGB ch5)	受信ラインの CH05 SgB が 1 であることを示します。
DB6	RSGC5	(Rx SGC ch5)	受信ラインの CH05 SgC が 1 であることを示します。
DB7	RSGD5	(Rx SGD ch5)	受信ラインの CH05 SgD が 1 であることを示します。
DB8	RSGA6	(Rx SGA ch6)	受信ラインの CH06 SgA が 1 であることを示します。
DB9	RSGB6	(Rx SGB ch6)	受信ラインの CH06 SgB が 1 であることを示します。
DB10	RSGC6	(Rx SGC ch6)	受信ラインの CH06 SgC が 1 であることを示します。
DB11	RSGD6	(Rx SGD ch6)	受信ラインの CH06 SgD が 1 であることを示します。

■ RXSBit3 ステータスレジスタ

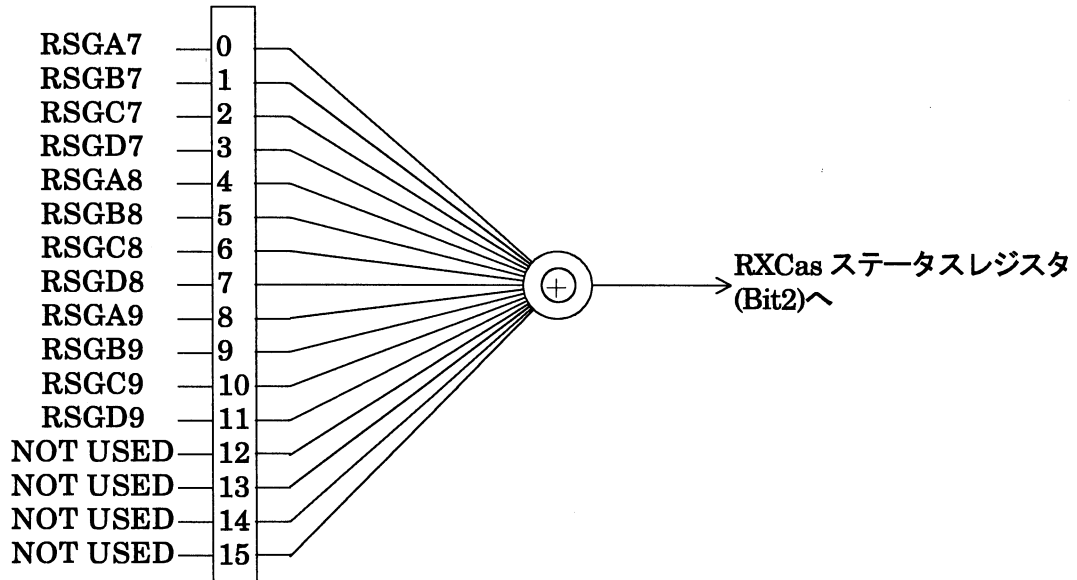


図 7.4-34 RXSBit3 ステータスレジスタ

表 7.4-35 RXSBit3 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	RSGA7 (Rx SGA ch7)	受信ラインの CH07 SgA が 1 であることを示します。
DB1	RSGB7 (Rx SGB ch7)	受信ラインの CH07 SgB が 1 であることを示します。
DB2	RSGC7 (Rx SGC ch7)	受信ラインの CH07 SgC が 1 であることを示します。
DB3	RSGD7 (Rx SGD ch7)	受信ラインの CH07 SgD が 1 であることを示します。
DB4	RSGA8 (Rx SGA ch8)	受信ラインの CH08 SgA が 1 であることを示します。
DB5	RSGB8 (Rx SGB ch8)	受信ラインの CH08 SgB が 1 であることを示します。
DB6	RSGC8 (Rx SGC ch8)	受信ラインの CH08 SgC が 1 であることを示します。
DB7	RSGD8 (Rx SGD ch8)	受信ラインの CH08 SgD が 1 であることを示します。
DB8	RSGA9 (Rx SGA ch9)	受信ラインの CH09 SgA が 1 であることを示します。
DB9	RSGB9 (Rx SGB ch9)	受信ラインの CH09 SgB が 1 であることを示します。
DB10	RSGC9 (Rx SGC ch9)	受信ラインの CH09 SgC が 1 であることを示します。
DB11	RSGD9 (Rx SGD ch9)	受信ラインの CH09 SgD が 1 であることを示します。

■ RXSBit4 ステータスレジスタ

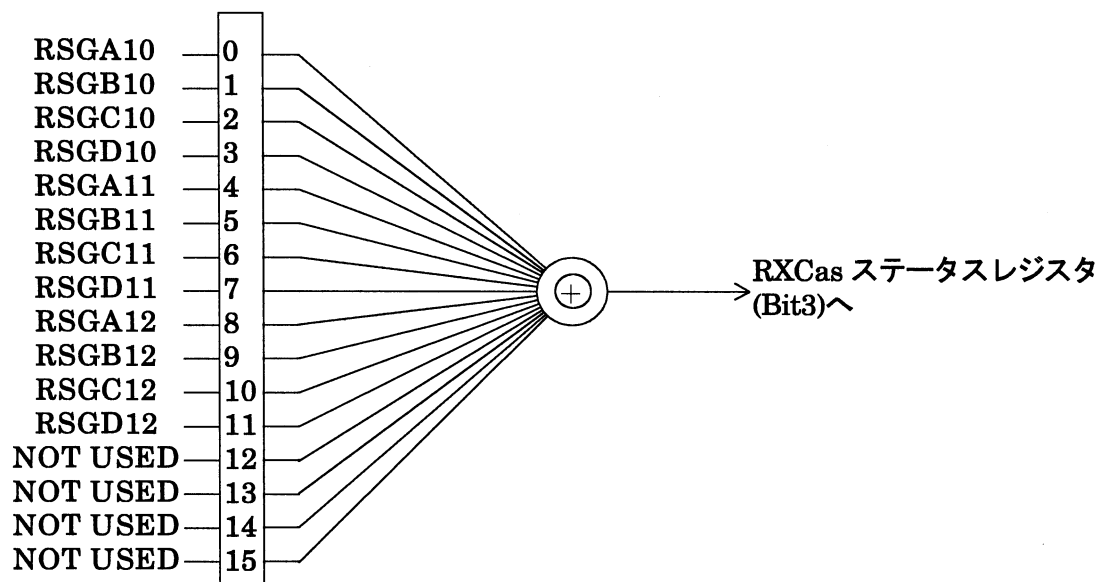


図 7.4-35 RXSBit4 ステータスレジスタ

表 7.4-36 RXSBit4 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	RSGA10 (Rx SGA ch10)	受信ラインの CH10 SgA が 1 であることを示します。
DB1	RSGB10 (Rx SGB ch10)	受信ラインの CH10 SgB が 1 であることを示します。
DB2	RSGC10 (Rx SGC ch10)	受信ラインの CH10 SgC が 1 であることを示します。
DB3	RSGD10 (Rx SGD ch10)	受信ラインの CH10 SgD が 1 であることを示します。
DB4	RSGA11 (Rx SGA ch11)	受信ラインの CH11 SgA が 1 であることを示します。
DB5	RSGB11 (Rx SGB ch11)	受信ラインの CH11 SgB が 1 であることを示します。
DB6	RSGC11 (Rx SGC ch11)	受信ラインの CH11 SgC が 1 であることを示します。
DB7	RSGD11 (Rx SGD ch11)	受信ラインの CH11 SgD が 1 であることを示します。
DB8	RSGA12 (Rx SGA ch12)	受信ラインの CH12 SgA が 1 であることを示します。
DB9	RSGB12 (Rx SGB ch12)	受信ラインの CH12 SgB が 1 であることを示します。
DB10	RSGC12 (Rx SGC ch12)	受信ラインの CH12 SgC が 1 であることを示します。
DB11	RSGD12 (Rx SGD ch12)	受信ラインの CH12 SgD が 1 であることを示します。

■ RXSBit5 ステータスレジスタ

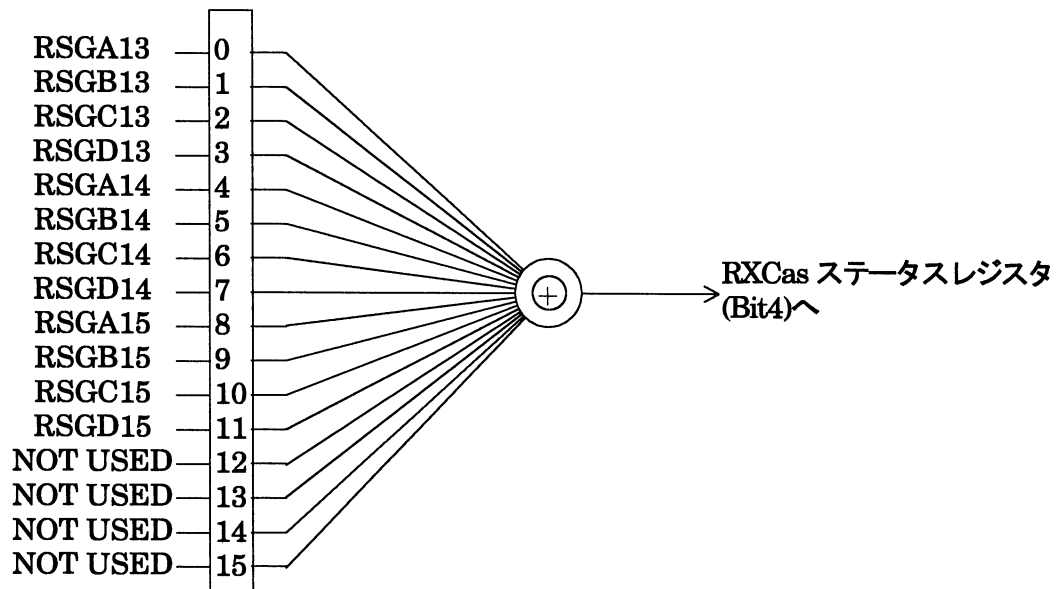


図 7.4-36 RXSBit5 ステータスレジスタ

表 7.4-37 RXSBit5 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	RSGA13 (Rx SGA ch13)	受信ラインの CH13 SgA が 1 であることを示します。
DB1	RSGB13 (Rx SGB ch13)	受信ラインの CH13 SgB が 1 であることを示します。
DB2	RSGC13 (Rx SGC ch13)	受信ラインの CH13 SgC が 1 であることを示します。
DB3	RSGD13 (Rx SGD ch13)	受信ラインの CH13 SgD が 1 であることを示します。
DB4	RSGA14 (Rx SGA ch14)	受信ラインの CH14 SgA が 1 であることを示します。
DB5	RSGB14 (Rx SGB ch14)	受信ラインの CH14 SgB が 1 であることを示します。
DB6	RSGC14 (Rx SGC ch14)	受信ラインの CH14 SgC が 1 であることを示します。
DB7	RSGD14 (Rx SGD ch14)	受信ラインの CH14 SgD が 1 であることを示します。
DB8	RSGA15 (Rx SGA ch15)	受信ラインの CH15 SgA が 1 であることを示します。
DB9	RSGB15 (Rx SGB ch15)	受信ラインの CH15 SgB が 1 であることを示します。
DB10	RSGC15 (Rx SGC ch15)	受信ラインの CH15 SgC が 1 であることを示します。
DB11	RSGD15 (Rx SGD ch15)	受信ラインの CH15 SgD が 1 であることを示します。

■ RXSBit6 ステータスレジスタ

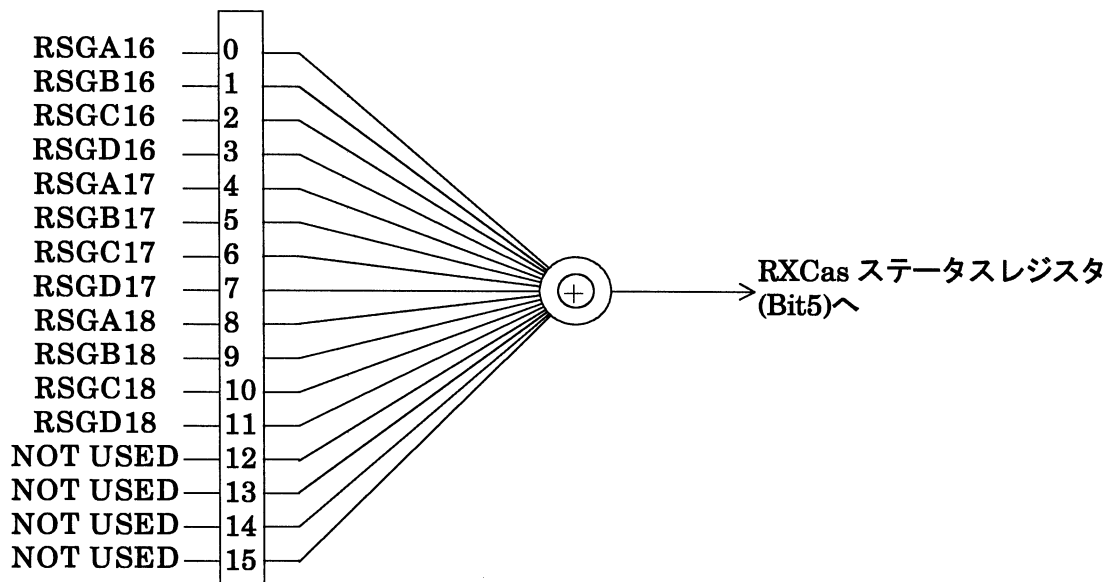


図 7.4-37 RXSBit6 ステータスレジスタ

表 7.4-38 RXSBit6 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	RSGA16 (Rx SGA ch16)	受信ラインの CH16 SgA が 1 であることを示します。
DB1	RSGB16 (Rx SGB ch16)	受信ラインの CH16 SgB が 1 であることを示します。
DB2	RSGC16 (Rx SGC ch16)	受信ラインの CH16 SgC が 1 であることを示します。
DB3	RSGD16 (Rx SGD ch16)	受信ラインの CH16 SgD が 1 であることを示します。
DB4	RSGA17 (Rx SGA ch17)	受信ラインの CH17 SgA が 1 であることを示します。
DB5	RSGB17 (Rx SGB ch17)	受信ラインの CH17 SgB が 1 であることを示します。
DB6	RSGC17 (Rx SGC ch17)	受信ラインの CH17 SgC が 1 であることを示します。
DB7	RSGD17 (Rx SGD ch17)	受信ラインの CH17 SgD が 1 であることを示します。
DB8	RSGA18 (Rx SGA ch18)	受信ラインの CH18 SgA が 1 であることを示します。
DB9	RSGB18 (Rx SGB ch18)	受信ラインの CH18 SgB が 1 であることを示します。
DB10	RSGC18 (Rx SGC ch18)	受信ラインの CH18 SgC が 1 であることを示します。
DB11	RSGD18 (Rx SGD ch18)	受信ラインの CH18 SgD が 1 であることを示します。

■ RXSBit7 ステータスレジスタ

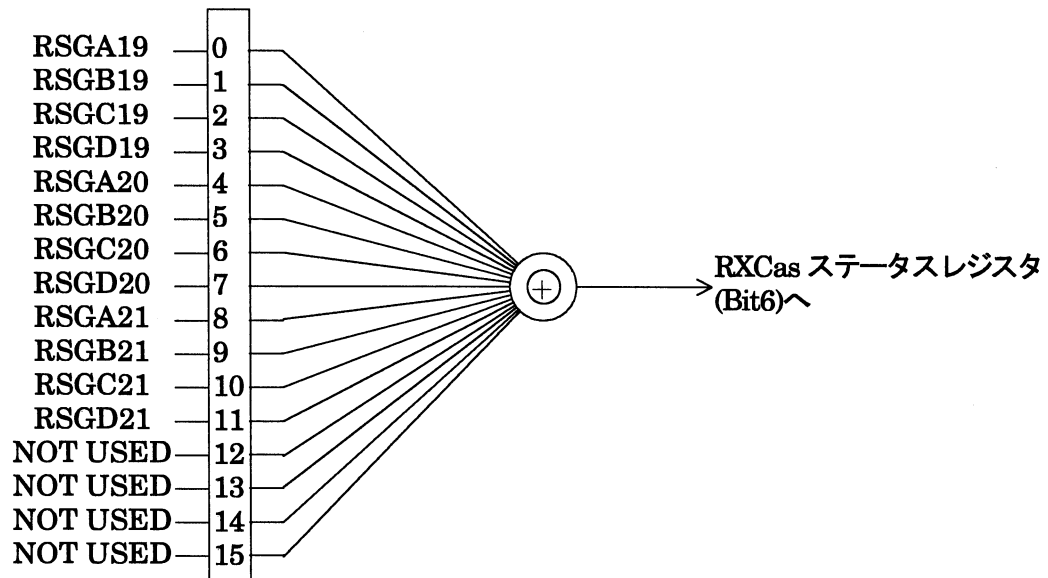


図 7.4-38 RXSBit7 ステータスレジスタ

表 7.4-39 RXSBit7 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	RSGA19 (Rx SGA ch19)	受信ラインの CH19 SgA が 1 であることを示します。
DB1	RSGB19 (Rx SGB ch19)	受信ラインの CH19 SgB が 1 であることを示します。
DB2	RSGC19 (Rx SGC ch19)	受信ラインの CH19 SgC が 1 であることを示します。
DB3	RSGD19 (Rx SGD ch19)	受信ラインの CH19 SgD が 1 であることを示します。
DB4	RSGA20 (Rx SGA ch20)	受信ラインの CH20 SgA が 1 であることを示します。
DB5	RSGB20 (Rx SGB ch20)	受信ラインの CH20 SgB が 1 であることを示します。
DB6	RSGC20 (Rx SGC ch20)	受信ラインの CH20 SgC が 1 であることを示します。
DB7	RSGD20 (Rx SGD ch20)	受信ラインの CH20 SgD が 1 であることを示します。
DB8	RSGA21 (Rx SGA ch21)	受信ラインの CH21 SgA が 1 であることを示します。
DB9	RSGB21 (Rx SGB ch21)	受信ラインの CH21 SgB が 1 であることを示します。
DB10	RSGC21 (Rx SGC ch21)	受信ラインの CH21 SgC が 1 であることを示します。
DB11	RSGD21 (Rx SGD ch21)	受信ラインの CH21 SgD が 1 であることを示します。

■ RXSBit8 ステータスレジスタ

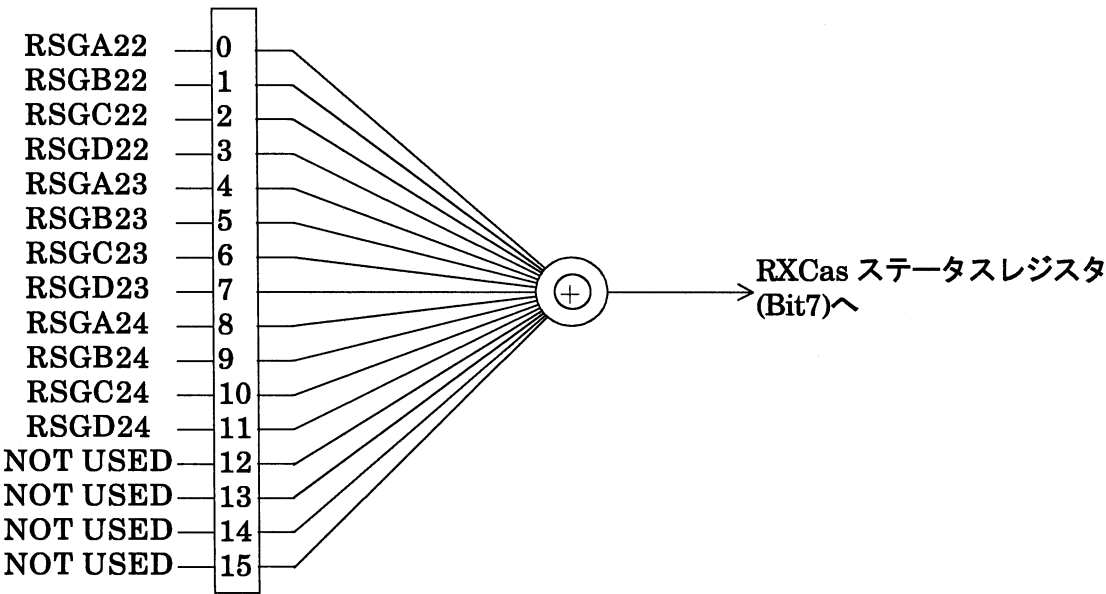


図 7.4-39 RXSBit8 ステータスレジスタ

表 7.4-40 RXSBit8 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic		Description
DB0	RSGA22	(Rx SGA ch22)	受信ラインの CH22 SgA が 1 であることを示します。
DB1	RSGB22	(Rx SGB ch22)	受信ラインの CH22 SgB が 1 であることを示します。
DB2	RSGC22	(Rx SGC ch22)	受信ラインの CH22 SgC が 1 であることを示します。
DB3	RSGD22	(Rx SGD ch22)	受信ラインの CH22 SgD が 1 であることを示します。
DB4	RSGA23	(Rx SGA ch23)	受信ラインの CH23 SgA が 1 であることを示します。
DB5	RSGB23	(Rx SGB ch23)	受信ラインの CH23 SgB が 1 であることを示します。
DB6	RSGC23	(Rx SGC ch23)	受信ラインの CH23 SgC が 1 であることを示します。
DB7	RSGD23	(Rx SGD ch23)	受信ラインの CH23 SgD が 1 であることを示します。
DB8	RSGA24	(Rx SGA ch24)	受信ラインの CH24 SgA が 1 であることを示します。
DB9	RSGB24	(Rx SGB ch24)	受信ラインの CH24 SgB が 1 であることを示します。
DB10	RSGC24	(Rx SGC ch24)	受信ラインの CH24 SgC が 1 であることを示します。
DB11	RSGD24	(Rx SGD ch24)	受信ラインの CH24 SgD が 1 であることを示します。

■ RXSBit9 ステータスレジスタ

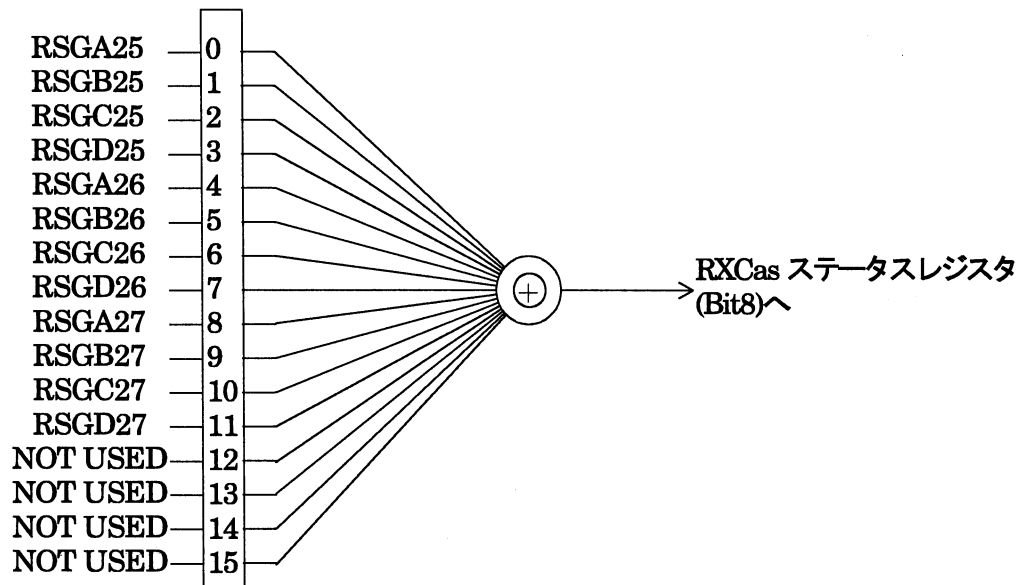


図 7.4-40 RXSBit9 ステータスレジスタ

表 7.4-41 RXSBit9 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	RSGA25 (Rx SGA ch25)	受信ラインの CH25 SgA が 1 であることを示します。
DB1	RSGB25 (Rx SGB ch25)	受信ラインの CH25 SgB が 1 であることを示します。
DB2	RSGC25 (Rx SGC ch25)	受信ラインの CH25 SgC が 1 であることを示します。
DB3	RSGD25 (Rx SGD ch25)	受信ラインの CH25 SgD が 1 であることを示します。
DB4	RSGA26 (Rx SGA ch26)	受信ラインの CH26 SgA が 1 であることを示します。
DB5	RSGB26 (Rx SGB ch26)	受信ラインの CH26 SgB が 1 であることを示します。
DB6	RSGC26 (Rx SGC ch26)	受信ラインの CH26 SgC が 1 であることを示します。
DB7	RSGD26 (Rx SGD ch26)	受信ラインの CH26 SgD が 1 であることを示します。
DB8	RSGA27 (Rx SGA ch27)	受信ラインの CH27 SgA が 1 であることを示します。
DB9	RSGB27 (Rx SGB ch27)	受信ラインの CH27 SgB が 1 であることを示します。
DB10	RSGC27 (Rx SGC ch27)	受信ラインの CH27 SgC が 1 であることを示します。
DB11	RSGD27 (Rx SGD ch27)	受信ラインの CH27 SgD が 1 であることを示します。

RXSBit10 ステータスレジスタ

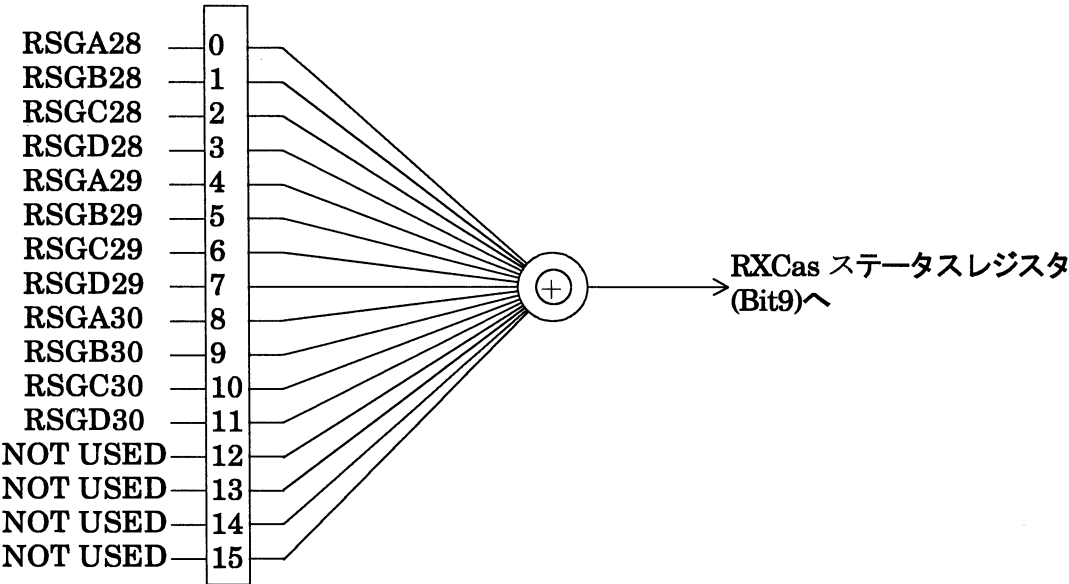


図 7.4-41 RXSBit10 ステータスレジスタ

表 7.4-42 RXSBit10 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic		Description
DB0	RSGA28	(Rx SGA ch28)	受信ラインの CH28 SgA が 1 であることを示します。
DB1	RSGB28	(Rx SGB ch28)	受信ラインの CH28 SgB が 1 であることを示します。
DB2	RSGC28	(Rx SGC ch28)	受信ラインの CH28 SgC が 1 であることを示します。
DB3	RSGD28	(Rx SGD ch28)	受信ラインの CH28 SgD が 1 であることを示します。
DB4	RSGA29	(Rx SGA ch29)	受信ラインの CH29 SgA が 1 であることを示します。
DB5	RSGB29	(Rx SGB ch29)	受信ラインの CH29 SgB が 1 であることを示します。
DB6	RSGC29	(Rx SGC ch29)	受信ラインの CH29 SgC が 1 であることを示します。
DB7	RSGD29	(Rx SGD ch29)	受信ラインの CH29 SgD が 1 であることを示します。
DB8	RSGA30	(Rx SGA ch30)	受信ラインの CH30 SgA が 1 であることを示します。
DB9	RSGB30	(Rx SGB ch30)	受信ラインの CH30 SgB が 1 であることを示します。
DB10	RSGC30	(Rx SGC ch30)	受信ラインの CH30 SgC が 1 であることを示します。
DB11	RSGD30	(Rx SGD ch30)	受信ラインの CH30 SgD が 1 であることを示します。

■ TXFas1 ステータスレジスタ

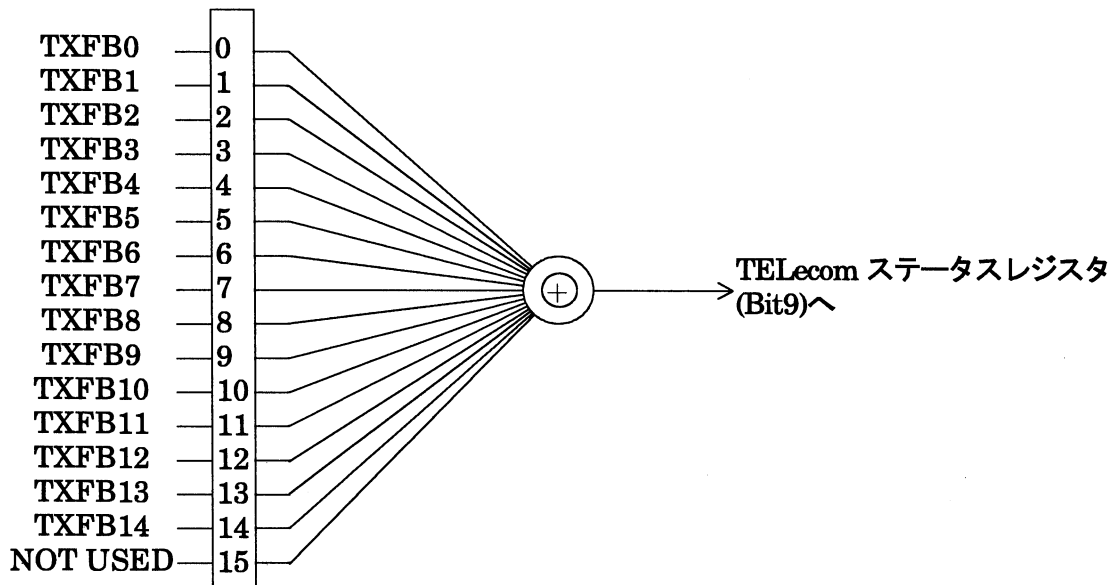


図 7.4-42 TXFas1 ステータスレジスタ

表 7.4-43 TXFas1 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	TXFB0 (TXFBit0 status register summary)	TXFBit0 ステータスレジスタサマリです。
DB1	TXFB1 (TXFBit1 status register summary)	TXFBit1 ステータスレジスタサマリです。
DB2	TXFB2 (TXFBit2 status register summary)	TXFBit2 ステータスレジスタサマリです。
DB3	TXFB3 (TXFBit3 status register summary)	TXFBit3 ステータスレジスタサマリです。
DB4	TXFB4 (TXFBit4 status register summary)	TXFBit4 ステータスレジスタサマリです。
DB5	TXFB5 (TXFBit5 status register summary)	TXFBit5 ステータスレジスタサマリです。
DB6	TXFB6 (TXFBit6 status register summary)	TXFBit6 ステータスレジスタサマリです。
DB7	TXFB7 (TXFBit7 status register summary)	TXFBit7 ステータスレジスタサマリです。
DB8	TXFB8 (TXFBit8 status register summary)	TXFBit8 ステータスレジスタサマリです。
DB9	TXFB9 (TXFBit9 status register summary)	TXFBit9 ステータスレジスタサマリです。
DB10	TXFB10 (TXFBit10 status register summary)	TXFBit10 ステータスレジスタサマリです。
DB11	TXFB11 (TXFBit11 status register summary)	TXFBit11 ステータスレジスタサマリです。
DB12	TXFB12 (TXFBit12 status register summary)	TXFBit12 ステータスレジスタサマリです。
DB13	TXFB13 (TXFBit13 status register summary)	TXFBit13 ステータスレジスタサマリです。
DB14	TXFB14 (TXFBit14 status register summary)	TXFBit14 ステータスレジスタサマリです。

■ TXFBit0 ステータスレジスタ

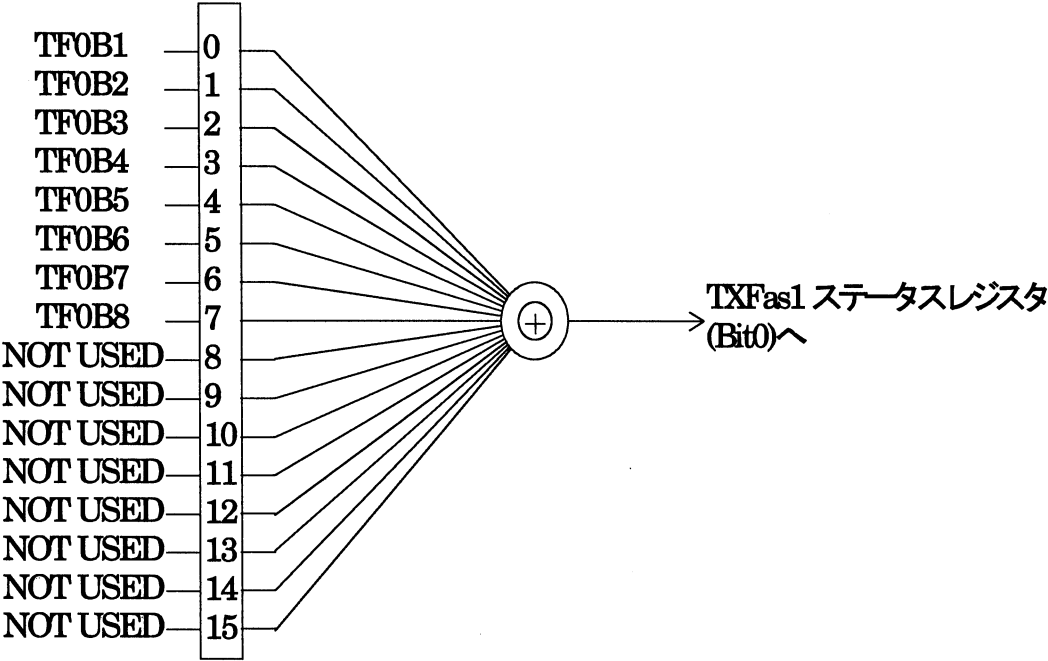


図 7.4-43 TXFBit0 ステータスレジスタ

表 7.4-44 TXFBit0 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic		Description
DB0	TF0B1	(Tx Frame0 Bit1)	送信ラインのフレーム0ビット1が1であることを示します。
DB1	TF0B2	(Tx Frame0 Bit2)	送信ラインのフレーム0ビット2が1であることを示します。
DB2	TF0B3	(Tx Frame0 Bit3)	送信ラインのフレーム0ビット3が1であることを示します。
DB3	TF0B4	(Tx Frame0 Bit4)	送信ラインのフレーム0ビット4が1であることを示します。
DB4	TF0B5	(Tx Frame0 Bit5)	送信ラインのフレーム0ビット5が1であることを示します。
DB5	TF0B6	(Tx Frame0 Bit6)	送信ラインのフレーム0ビット6が1であることを示します。
DB6	TF0B7	(Tx Frame0 Bit7)	送信ラインのフレーム0ビット7が1であることを示します。
DB7	TF0B8	(Tx Frame0 Bit8)	送信ラインのフレーム0ビット8が1であることを示します。

■ TXFBit1 ステータスレジスタ

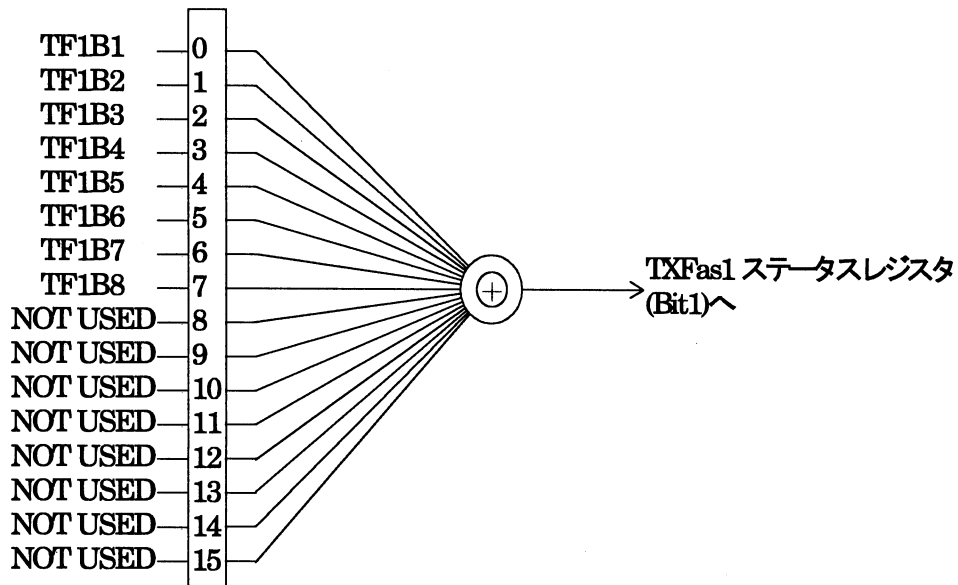


図 7.4-44 TXFBit1 ステータスレジスタ

表 7.4-45 TXFBit1 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	TF1B1 (Tx Frame1 Bit1)	送信ラインのフレーム1ビット1が1であることを示します。
DB1	TF1B2 (Tx Frame1 Bit2)	送信ラインのフレーム1ビット2が1であることを示します。
DB2	TF1B3 (Tx Frame1 Bit3)	送信ラインのフレーム1ビット3が1であることを示します。
DB3	TF1B4 (Tx Frame1 Bit4)	送信ラインのフレーム1ビット4が1であることを示します。
DB4	TF1B5 (Tx Frame1 Bit5)	送信ラインのフレーム1ビット5が1であることを示します。
DB5	TF1B6 (Tx Frame1 Bit6)	送信ラインのフレーム1ビット6が1であることを示します。
DB6	TF1B7 (Tx Frame1 Bit7)	送信ラインのフレーム1ビット7が1であることを示します。
DB7	TF1B8 (Tx Frame1 Bit8)	送信ラインのフレーム1ビット8が1であることを示します。

■ TXFBit2 ステータスレジスタ

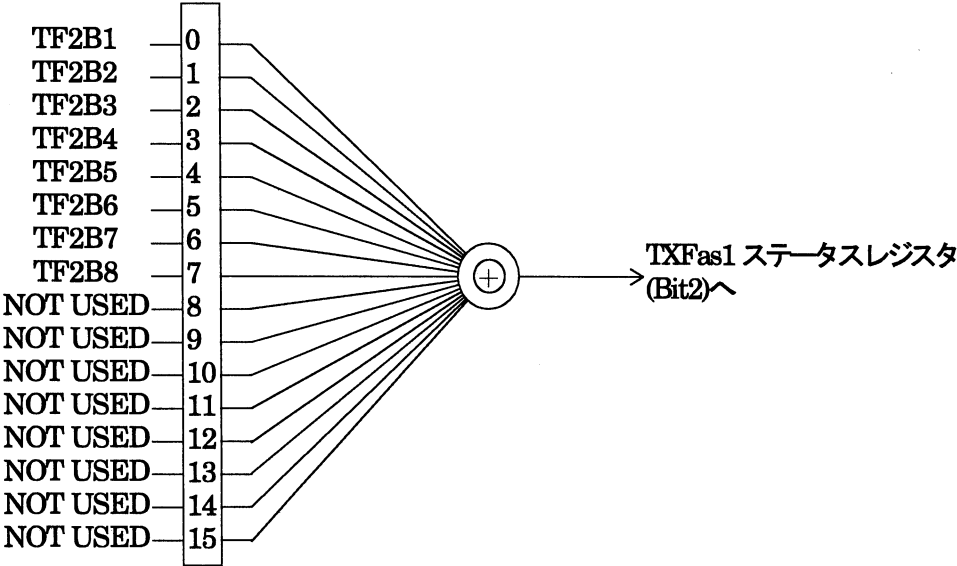


図 7.4-45 TXFBit2 ステータスレジスタ

表 7.4-46 TXFBit2 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	TF2B1 (Tx Frame2 Bit1)	送信ラインのフレーム 2 ビット 1 が 1 であることを示します。
DB1	TF2B2 (Tx Frame2 Bit2)	送信ラインのフレーム 2 ビット 2 が 1 であることを示します。
DB2	TF2B3 (Tx Frame2 Bit3)	送信ラインのフレーム 2 ビット 3 が 1 であることを示します。
DB3	TF2B4 (Tx Frame2 Bit4)	送信ラインのフレーム 2 ビット 4 が 1 であることを示します。
DB4	TF2B5 (Tx Frame2 Bit5)	送信ラインのフレーム 2 ビット 5 が 1 であることを示します。
DB5	TF2B6 (Tx Frame2 Bit6)	送信ラインのフレーム 2 ビット 6 が 1 であることを示します。
DB6	TF2B7 (Tx Frame2 Bit7)	送信ラインのフレーム 2 ビット 7 が 1 であることを示します。
DB7	TF2B8 (Tx Frame2 Bit8)	送信ラインのフレーム 2 ビット 8 が 1 であることを示します。

■ TXFBit3 ステータスレジスタ

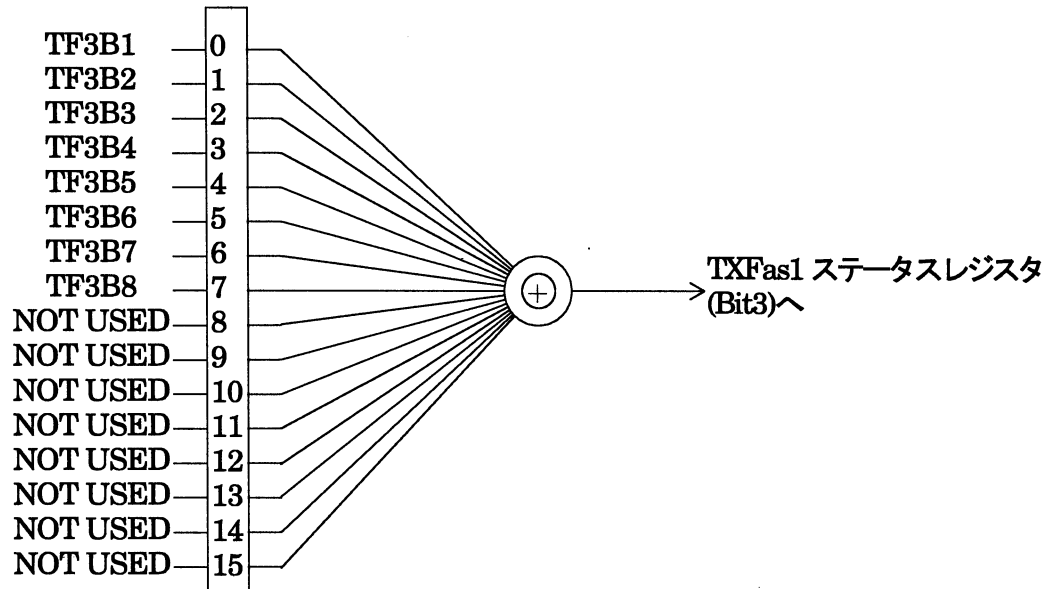


図 7.4-46 TXFBit3 ステータスレジスタ

表 7.4-47 TXFBit3 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	TF3B1 (Tx Frame3 Bit1)	送信ラインのフレーム 3 ビット 1 が 1 であることを示します。
DB1	TF3B2 (Tx Frame3 Bit2)	送信ラインのフレーム 3 ビット 2 が 1 であることを示します。
DB2	TF3B3 (Tx Frame3 Bit3)	送信ラインのフレーム 3 ビット 3 が 1 であることを示します。
DB3	TF3B4 (Tx Frame3 Bit4)	送信ラインのフレーム 3 ビット 4 が 1 であることを示します。
DB4	TF3B5 (Tx Frame3 Bit5)	送信ラインのフレーム 3 ビット 5 が 1 であることを示します。
DB5	TF3B6 (Tx Frame3 Bit6)	送信ラインのフレーム 3 ビット 6 が 1 であることを示します。
DB6	TF3B7 (Tx Frame3 Bit7)	送信ラインのフレーム 3 ビット 7 が 1 であることを示します。
DB7	TF3B8 (Tx Frame3 Bit8)	送信ラインのフレーム 3 ビット 8 が 1 であることを示します。

■ TXFBit4 ステータスレジスタ

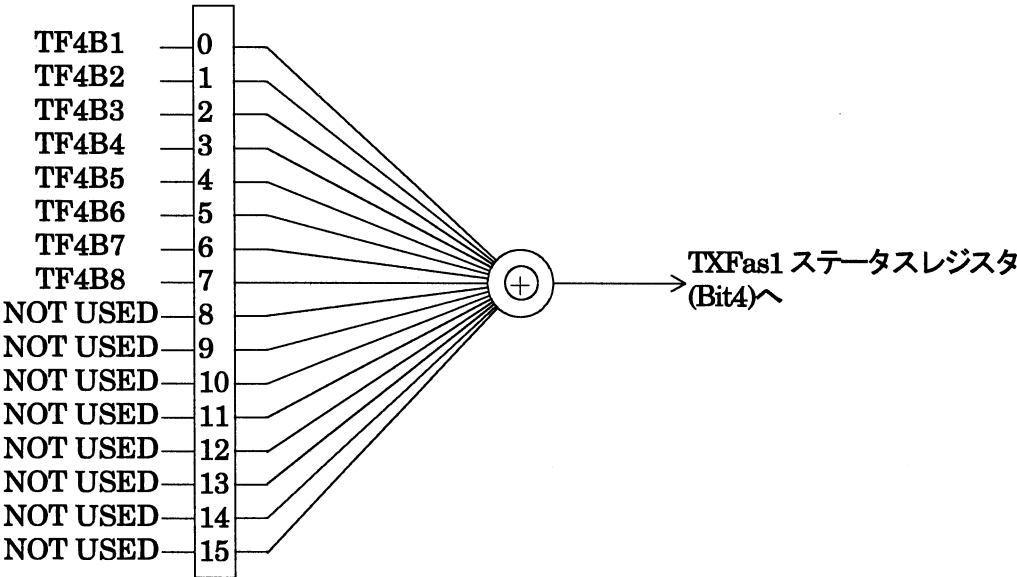


図 7.4-47 TXFBit4 ステータスレジスタ

表 7.4-48 TXFBit4 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	TF4B1 (Tx Frame4 Bit1)	送信ラインのフレーム4ビット1が1であることを示します。
DB1	TF4B2 (Tx Frame4 Bit2)	送信ラインのフレーム4ビット2が1であることを示します。
DB2	TF4B3 (Tx Frame4 Bit3)	送信ラインのフレーム4ビット3が1であることを示します。
DB3	TF4B4 (Tx Frame4 Bit4)	送信ラインのフレーム4ビット4が1であることを示します。
DB4	TF4B5 (Tx Frame4 Bit5)	送信ラインのフレーム4ビット5が1であることを示します。
DB5	TF4B6 (Tx Frame4 Bit6)	送信ラインのフレーム4ビット6が1であることを示します。
DB6	TF4B7 (Tx Frame4 Bit7)	送信ラインのフレーム4ビット7が1であることを示します。
DB7	TF4B8 (Tx Frame4 Bit8)	送信ラインのフレーム4ビット8が1であることを示します。

■ TXFBit5 ステータスレジスタ

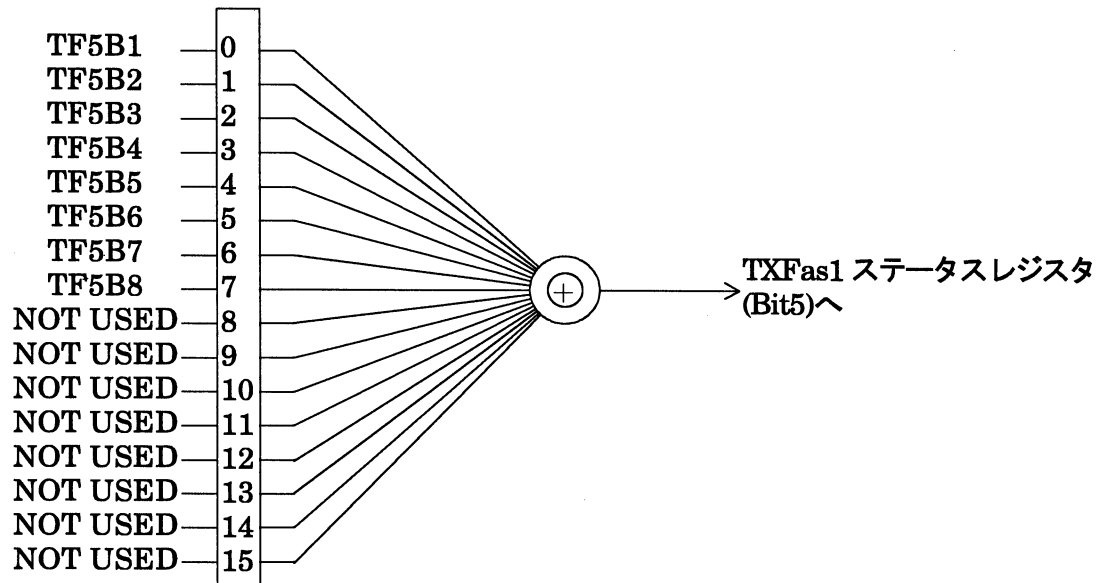


図 7.4-48 TXFBit5 ステータスレジスタ

表 7.4-49 TXFBit5 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	TF5B1 (Tx Frame5 Bit1)	送信ラインのフレーム5ビット1が1であることを示します。
DB1	TF5B2 (Tx Frame5 Bit2)	送信ラインのフレーム5ビット2が1であることを示します。
DB2	TF5B3 (Tx Frame5 Bit3)	送信ラインのフレーム5ビット3が1であることを示します。
DB3	TF5B4 (Tx Frame5 Bit4)	送信ラインのフレーム5ビット4が1であることを示します。
DB4	TF5B5 (Tx Frame5 Bit5)	送信ラインのフレーム5ビット5が1であることを示します。
DB5	TF5B6 (Tx Frame5 Bit6)	送信ラインのフレーム5ビット6が1であることを示します。
DB6	TF5B7 (Tx Frame5 Bit7)	送信ラインのフレーム5ビット7が1であることを示します。
DB7	TF5B8 (Tx Frame5 Bit8)	送信ラインのフレーム5ビット8が1であることを示します。

■ TXFBit6 ステータスレジスタ

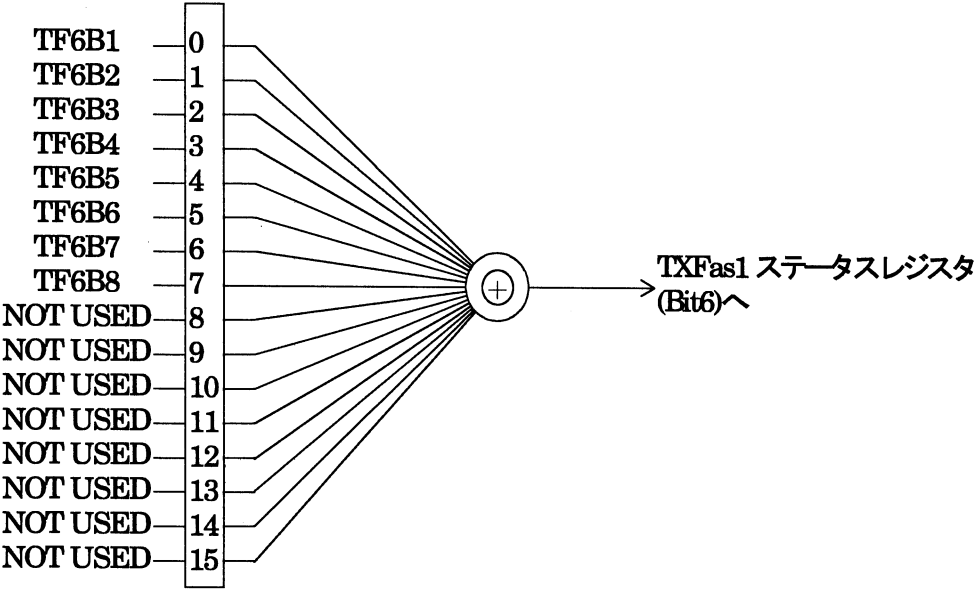


図 7.4-49 TXFBit6 ステータスレジスタ

表 7.4-50 TXFBit6 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic		Description
DB0	TF6B1	(Tx Frame6 Bit1)	送信ラインのフレーム 6 ビット 1 が 1 であることを示します。
DB1	TF6B2	(Tx Frame6 Bit2)	送信ラインのフレーム 6 ビット 2 が 1 であることを示します。
DB2	TF6B3	(Tx Frame6 Bit3)	送信ラインのフレーム 6 ビット 3 が 1 であることを示します。
DB3	TF6B4	(Tx Frame6 Bit4)	送信ラインのフレーム 6 ビット 4 が 1 であることを示します。
DB4	TF6B5	(Tx Frame6 Bit5)	送信ラインのフレーム 6 ビット 5 が 1 であることを示します。
DB5	TF6B6	(Tx Frame6 Bit6)	送信ラインのフレーム 6 ビット 6 が 1 であることを示します。
DB6	TF6B7	(Tx Frame6 Bit7)	送信ラインのフレーム 6 ビット 7 が 1 であることを示します。
DB7	TF6B8	(Tx Frame6 Bit8)	送信ラインのフレーム 6 ビット 8 が 1 であることを示します。

■ TXFBit7 ステータスレジスタ

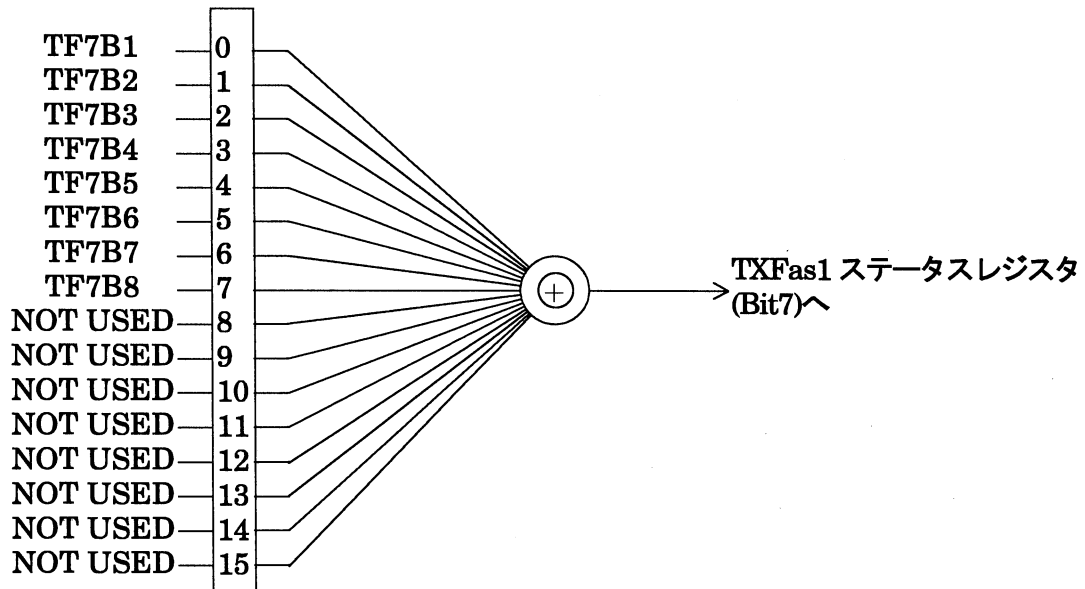


図 7.4-50 TXFBit7 ステータスレジスタ

表 7.4-51 TXFBit7 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	TF7B1 (Tx Frame7 Bit1)	送信ラインのフレーム7ビット1が1であることを示します。
DB1	TF7B2 (Tx Frame7 Bit2)	送信ラインのフレーム7ビット2が1であることを示します。
DB2	TF7B3 (Tx Frame7 Bit3)	送信ラインのフレーム7ビット3が1であることを示します。
DB3	TF7B4 (Tx Frame7 Bit4)	送信ラインのフレーム7ビット4が1であることを示します。
DB4	TF7B5 (Tx Frame7 Bit5)	送信ラインのフレーム7ビット5が1であることを示します。
DB5	TF7B6 (Tx Frame7 Bit6)	送信ラインのフレーム7ビット6が1であることを示します。
DB6	TF7B7 (Tx Frame7 Bit7)	送信ラインのフレーム7ビット7が1であることを示します。
DB7	TF7B8 (Tx Frame7 Bit8)	送信ラインのフレーム7ビット8が1であることを示します。

■ TXFBit8 ステータスレジスタ

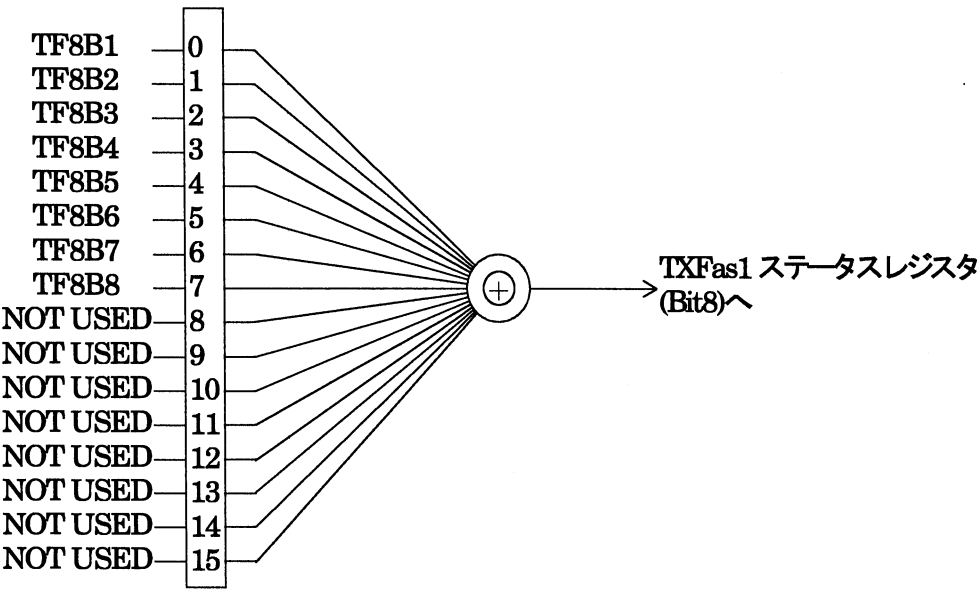


図 7.4-51 TXFBit8 ステータスレジスタ

表 7.4-52 TXFBit8 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic		Description
DB0	TF8B1	(Tx Frame8 Bit1)	送信ラインのフレーム 8 ビット 1 が 1 であることを示します。
DB1	TF8B2	(Tx Frame8 Bit2)	送信ラインのフレーム 8 ビット 2 が 1 であることを示します。
DB2	TF8B3	(Tx Frame8 Bit3)	送信ラインのフレーム 8 ビット 3 が 1 であることを示します。
DB3	TF8B4	(Tx Frame8 Bit4)	送信ラインのフレーム 8 ビット 4 が 1 であることを示します。
DB4	TF8B5	(Tx Frame8 Bit5)	送信ラインのフレーム 8 ビット 5 が 1 であることを示します。
DB5	TF8B6	(Tx Frame8 Bit6)	送信ラインのフレーム 8 ビット 6 が 1 であることを示します。
DB6	TF8B7	(Tx Frame8 Bit7)	送信ラインのフレーム 8 ビット 7 が 1 であることを示します。
DB7	TF8B8	(Tx Frame8 Bit8)	送信ラインのフレーム 8 ビット 8 が 1 であることを示します。

■ TXFBit9 ステータスレジスタ

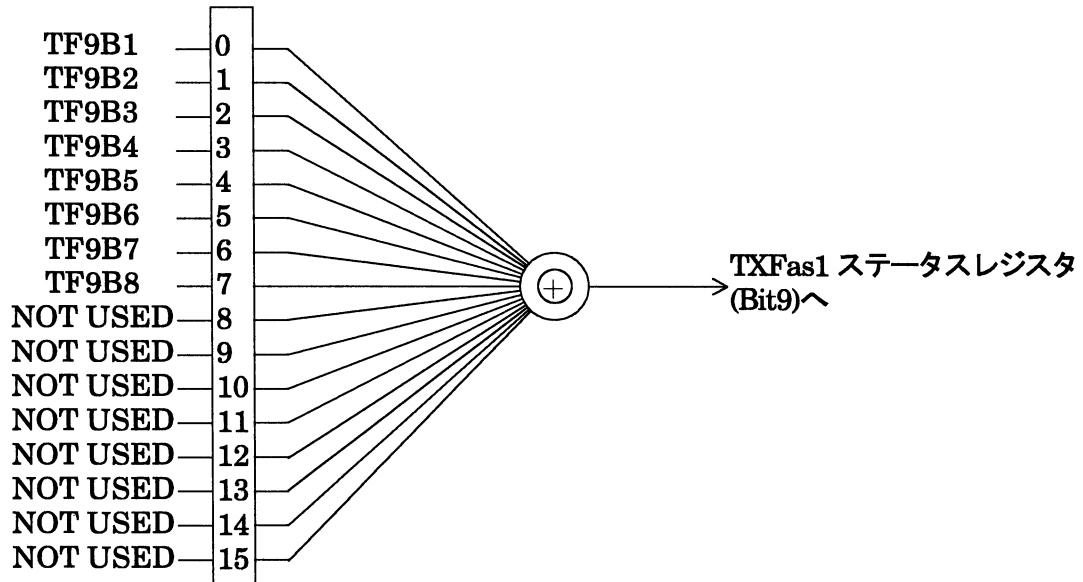


図 7.4-52 TXFBit9 ステータスレジスタ

表 7.4-53 TXFBit9 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	TF9B1 (Tx Frame9 Bit1)	送信ラインのフレーム 9 ビット 1 が 1 であることを示します。
DB1	TF9B2 (Tx Frame9 Bit2)	送信ラインのフレーム 9 ビット 2 が 1 であることを示します。
DB2	TF9B3 (Tx Frame9 Bit3)	送信ラインのフレーム 9 ビット 3 が 1 であることを示します。
DB3	TF9B4 (Tx Frame9 Bit4)	送信ラインのフレーム 9 ビット 4 が 1 であることを示します。
DB4	TF9B5 (Tx Frame9 Bit5)	送信ラインのフレーム 9 ビット 5 が 1 であることを示します。
DB5	TF9B6 (Tx Frame9 Bit6)	送信ラインのフレーム 9 ビット 6 が 1 であることを示します。
DB6	TF9B7 (Tx Frame9 Bit7)	送信ラインのフレーム 9 ビット 7 が 1 であることを示します。
DB7	TF9B8 (Tx Frame9 Bit8)	送信ラインのフレーム 9 ビット 8 が 1 であることを示します。

■ TXFBit10 ステータスレジスタ

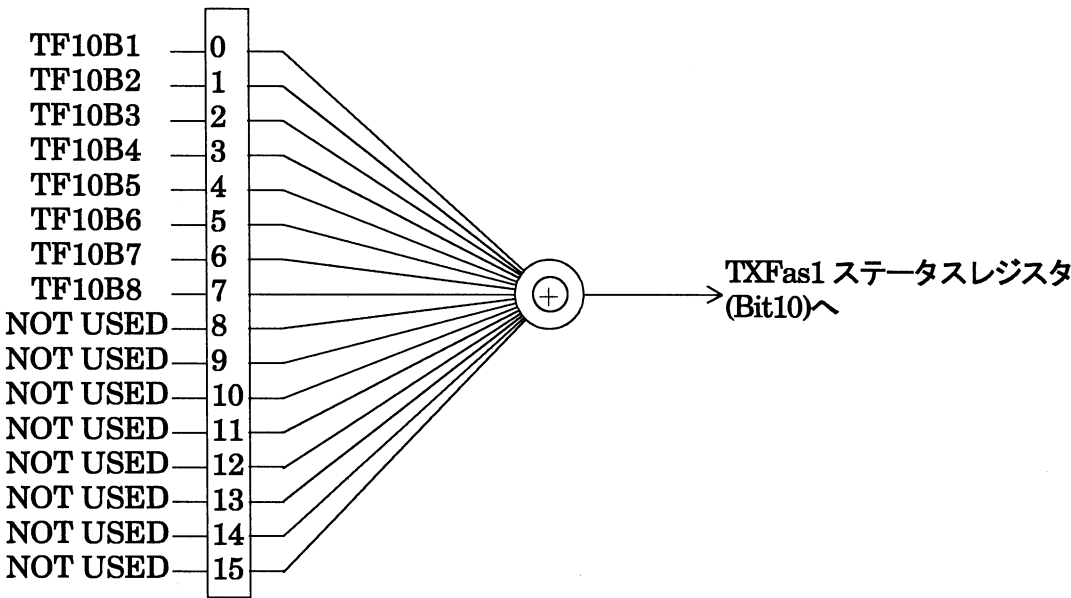


図 7.4-53 TXFBit10 ステータスレジスタ

表 7.4-54 TXFBit10 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	TF10B1 (Tx Frame10 Bit1)	送信ラインのフレーム10ビット1が1であることを示します。
DB1	TF10B2 (Tx Frame10 Bit2)	送信ラインのフレーム10ビット2が1であることを示します。
DB2	TF10B3 (Tx Frame10 Bit3)	送信ラインのフレーム10ビット3が1であることを示します。
DB3	TF10B4 (Tx Frame10 Bit4)	送信ラインのフレーム10ビット4が1であることを示します。
DB4	TF10B5 (Tx Frame10 Bit5)	送信ラインのフレーム10ビット5が1であることを示します。
DB5	TF10B6 (Tx Frame10 Bit6)	送信ラインのフレーム10ビット6が1であることを示します。
DB6	TF10B7 (Tx Frame10 Bit7)	送信ラインのフレーム10ビット7が1であることを示します。
DB7	TF10B8 (Tx Frame10 Bit8)	送信ラインのフレーム10ビット8が1であることを示します。

■ TXFBit11 ステータスレジスタ

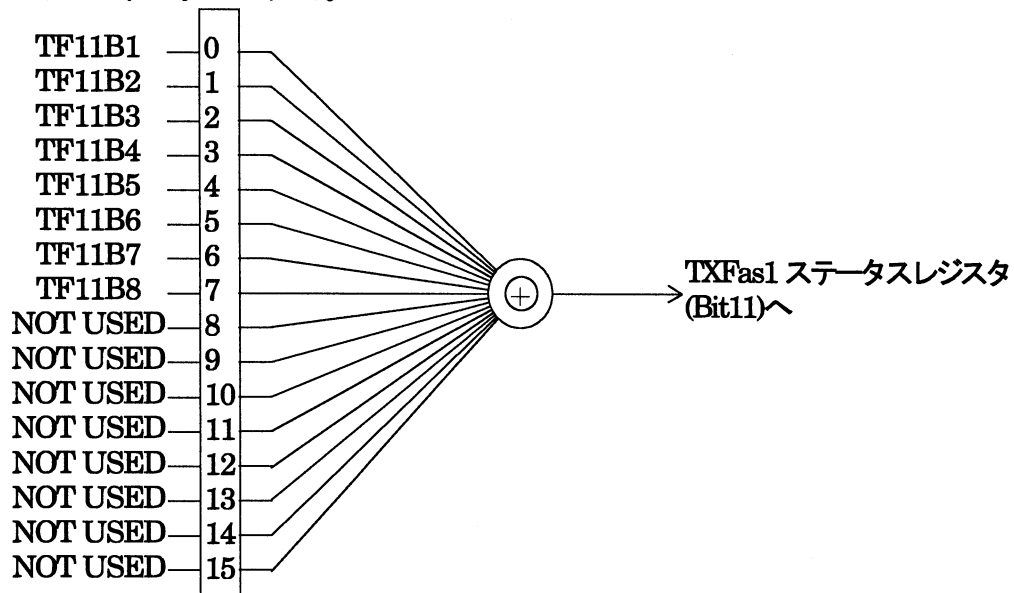


図 7.4-54 TXFBit11 ステータスレジスタ

表 7.4-55 TXFBit11 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	TF11B1 (Tx Frame11 Bit1)	送信ラインのフレーム 1 1 ビット 1 が 1 であることを示します。
DB1	TF11B2 (Tx Frame11 Bit2)	送信ラインのフレーム 1 1 ビット 2 が 1 であることを示します。
DB2	TF11B3 (Tx Frame11 Bit3)	送信ラインのフレーム 1 1 ビット 3 が 1 であることを示します。
DB3	TF11B4 (Tx Frame11 Bit4)	送信ラインのフレーム 1 1 ビット 4 が 1 であることを示します。
DB4	TF11B5 (Tx Frame11 Bit5)	送信ラインのフレーム 1 1 ビット 5 が 1 であることを示します。
DB5	TF11B6 (Tx Frame11 Bit6)	送信ラインのフレーム 1 1 ビット 6 が 1 であることを示します。
DB6	TF11B7 (Tx Frame11 Bit7)	送信ラインのフレーム 1 1 ビット 7 が 1 であることを示します。
DB7	TF11B8 (Tx Frame11 Bit8)	送信ラインのフレーム 1 1 ビット 8 が 1 であることを示します。

■ TXFBit12 ステータスレジスタ

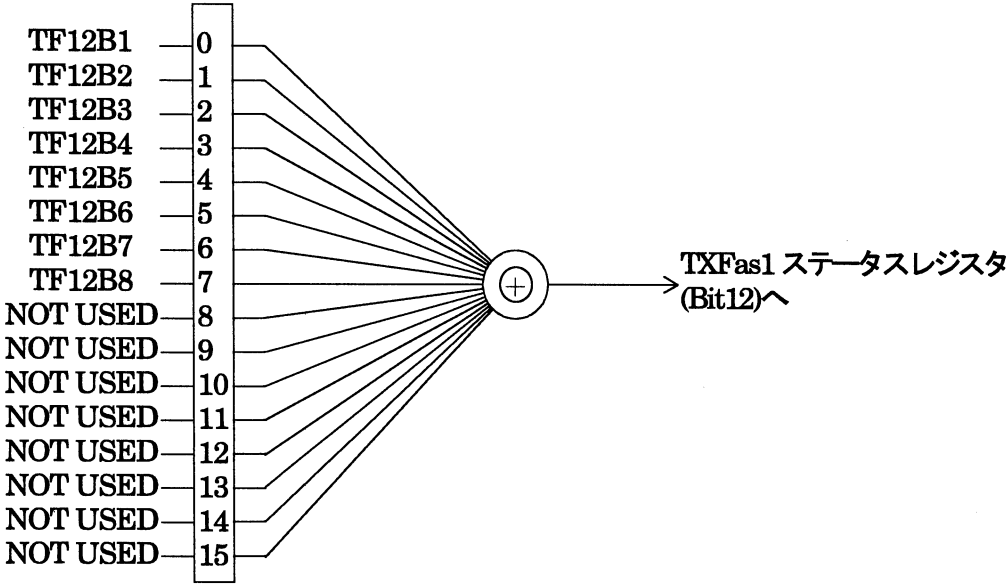


図 7.4-55 TXFBit12 ステータスレジスタ

表 7.4-56 TXFBit12 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic		Description
DB0	TF12B1	(Tx Frame12 Bit1)	送信ラインのフレーム 1 2 ビット 1 が 1 であることを示します。
DB1	TF12B2	(Tx Frame12 Bit2)	送信ラインのフレーム 1 2 ビット 2 が 1 であることを示します。
DB2	TF12B3	(Tx Frame12 Bit3)	送信ラインのフレーム 1 2 ビット 3 が 1 であることを示します。
DB3	TF12B4	(Tx Frame12 Bit4)	送信ラインのフレーム 1 2 ビット 4 が 1 であることを示します。
DB4	TF12B5	(Tx Frame12 Bit5)	送信ラインのフレーム 1 2 ビット 5 が 1 であることを示します。
DB5	TF12B6	(Tx Frame12 Bit6)	送信ラインのフレーム 1 2 ビット 6 が 1 であることを示します。
DB6	TF12B7	(Tx Frame12 Bit7)	送信ラインのフレーム 1 2 ビット 7 が 1 であることを示します。
DB7	TF12B8	(Tx Frame12 Bit8)	送信ラインのフレーム 1 2 ビット 8 が 1 であることを示します。

■ TXFBit13 ステータスレジスタ

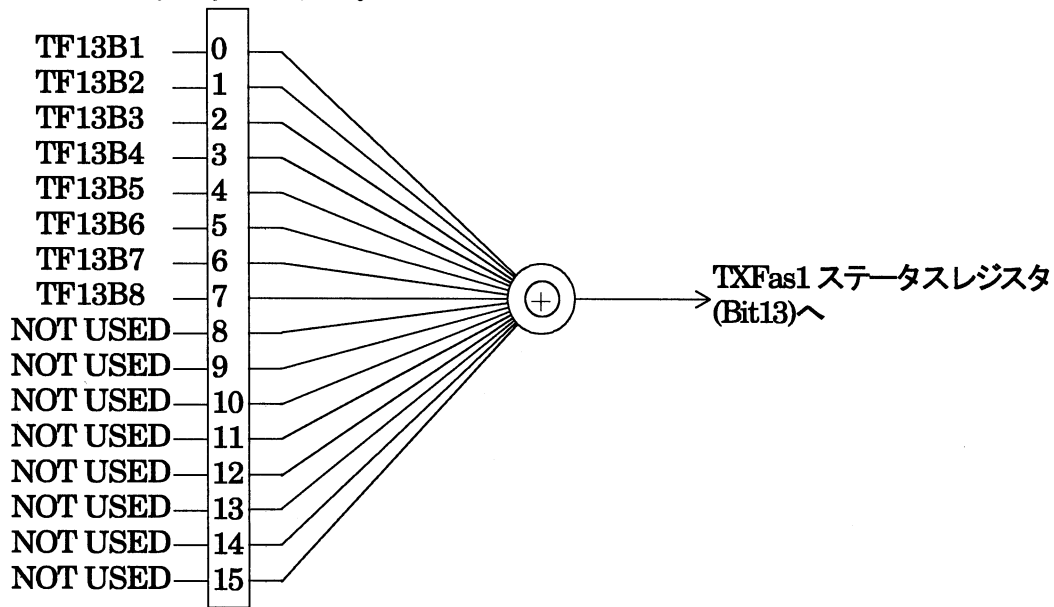


図 7.4-56 TXFBit13 ステータスレジスタ

表 7.4-57 TXFBit13 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	TF13B1 (Tx Frame13 Bit1)	送信ラインのフレーム 1 3 ビット 1 が 1 であることを示します。
DB1	TF13B2 (Tx Frame13 Bit2)	送信ラインのフレーム 1 3 ビット 2 が 1 であることを示します。
DB2	TF13B3 (Tx Frame13 Bit3)	送信ラインのフレーム 1 3 ビット 3 が 1 であることを示します。
DB3	TF13B4 (Tx Frame13 Bit4)	送信ラインのフレーム 1 3 ビット 4 が 1 であることを示します。
DB4	TF13B5 (Tx Frame13 Bit5)	送信ラインのフレーム 1 3 ビット 5 が 1 であることを示します。
DB5	TF13B6 (Tx Frame13 Bit6)	送信ラインのフレーム 1 3 ビット 6 が 1 であることを示します。
DB6	TF13B7 (Tx Frame13 Bit7)	送信ラインのフレーム 1 3 ビット 7 が 1 であることを示します。
DB7	TF13B8 (Tx Frame13 Bit8)	送信ラインのフレーム 1 3 ビット 8 が 1 であることを示します。

■ TXFBit14 ステータスレジスタ

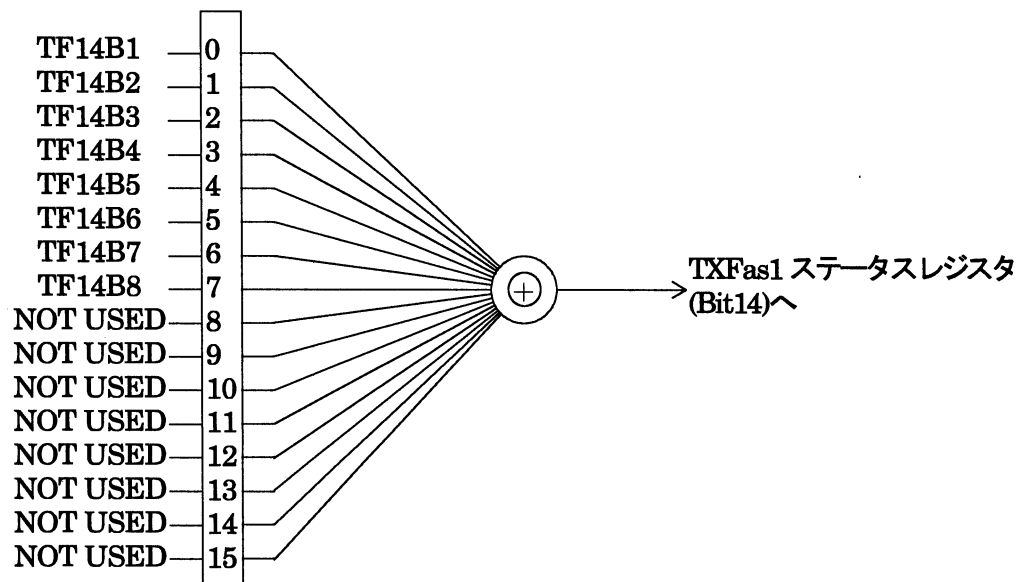


図 7.4-57 TXFBit14 ステータスレジスタ

表 7.4-58 TXFBit14 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	TF14B1 (Tx Frame14 Bit1)	送信ラインのフレーム 1 4 ビット 1 が 1 であることを示します。
DB1	TF14B2 (Tx Frame14 Bit2)	送信ラインのフレーム 1 4 ビット 2 が 1 であることを示します。
DB2	TF14B3 (Tx Frame14 Bit3)	送信ラインのフレーム 1 4 ビット 3 が 1 であることを示します。
DB3	TF14B4 (Tx Frame14 Bit4)	送信ラインのフレーム 1 4 ビット 4 が 1 であることを示します。
DB4	TF14B5 (Tx Frame14 Bit5)	送信ラインのフレーム 1 4 ビット 5 が 1 であることを示します。
DB5	TF14B6 (Tx Frame14 Bit6)	送信ラインのフレーム 1 4 ビット 6 が 1 であることを示します。
DB6	TF14B7 (Tx Frame14 Bit7)	送信ラインのフレーム 1 4 ビット 7 が 1 であることを示します。
DB7	TF14B8 (Tx Frame14 Bit8)	送信ラインのフレーム 1 4 ビット 8 が 1 であることを示します。

■ TXFas2 ステータスレジスタ

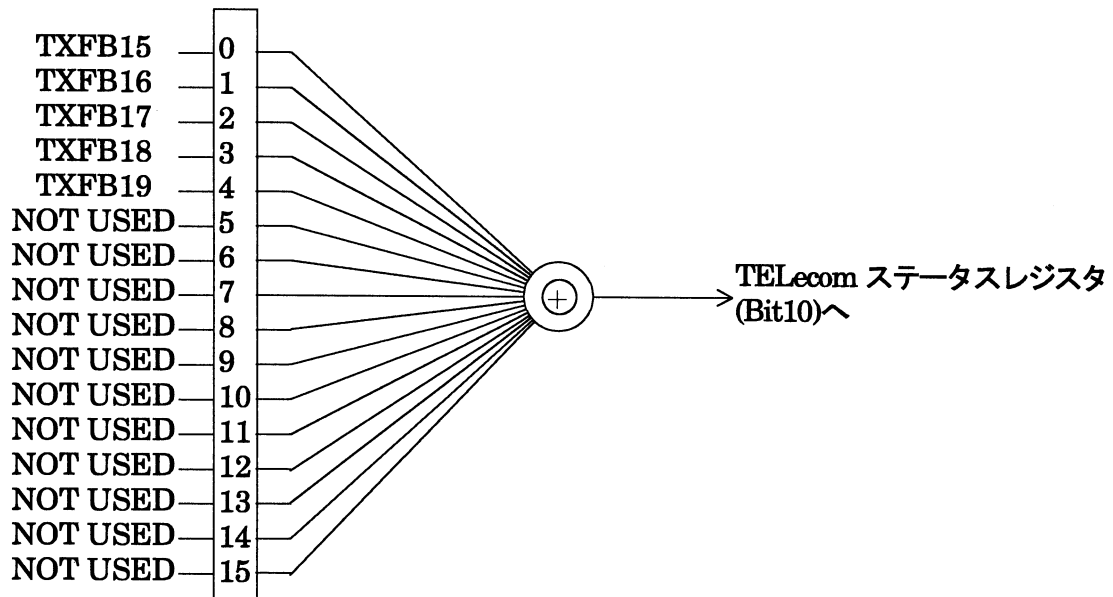


図 7.4-58 TXFas2 ステータスレジスタ

表 7.4-59 TXFas2 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	TXFB15 (TXFBit15 status register summary)	TXFBit15 ステータスレジスタサマリです。
DB1	TXFB16 (TXFBit16 status register summary)	TXFBit16 ステータスレジスタサマリです。
DB2	TXFB17 (TXFBit17 status register summary)	TXFBit17 ステータスレジスタサマリです。
DB3	TXFB18 (TXFBit18 status register summary)	TXFBit18 ステータスレジスタサマリです。
DB4	TXFB19 (TXFBit19 status register summary)	TXFBit19 ステータスレジスタサマリです。

■ TXFBit15 ステータスレジスタ

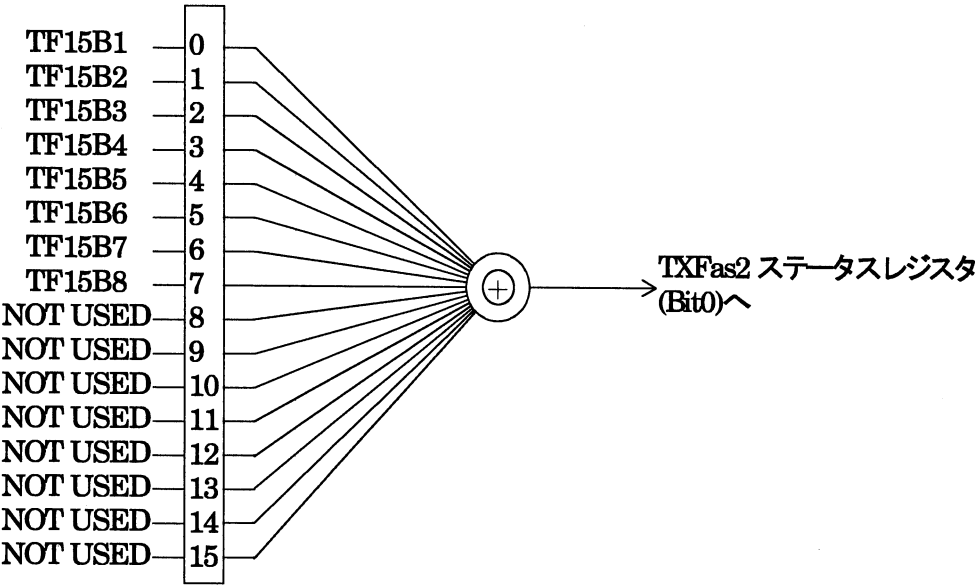


図 7.4-59 TXFBit15 ステータスレジスタ

表 7.4-60 TXFBit15 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic		Description
DB0	TF15B1	(Tx Frame15 Bit1)	送信ラインのフレーム 1 5 ビット 1 が 1 であることを示します。
DB1	TF15B2	(Tx Frame15 Bit2)	送信ラインのフレーム 1 5 ビット 2 が 1 であることを示します。
DB2	TF15B3	(Tx Frame15 Bit3)	送信ラインのフレーム 1 5 ビット 3 が 1 であることを示します。
DB3	TF15B4	(Tx Frame15 Bit4)	送信ラインのフレーム 1 5 ビット 4 が 1 であることを示します。
DB4	TF15B5	(Tx Frame15 Bit5)	送信ラインのフレーム 1 5 ビット 5 が 1 であることを示します。
DB5	TF15B6	(Tx Frame15 Bit6)	送信ラインのフレーム 1 5 ビット 6 が 1 であることを示します。
DB6	TF15B7	(Tx Frame15 Bit7)	送信ラインのフレーム 1 5 ビット 7 が 1 であることを示します。
DB7	TF15B8	(Tx Frame15 Bit8)	送信ラインのフレーム 1 5 ビット 8 が 1 であることを示します。

■ TXFBit16 ステータスレジスタ

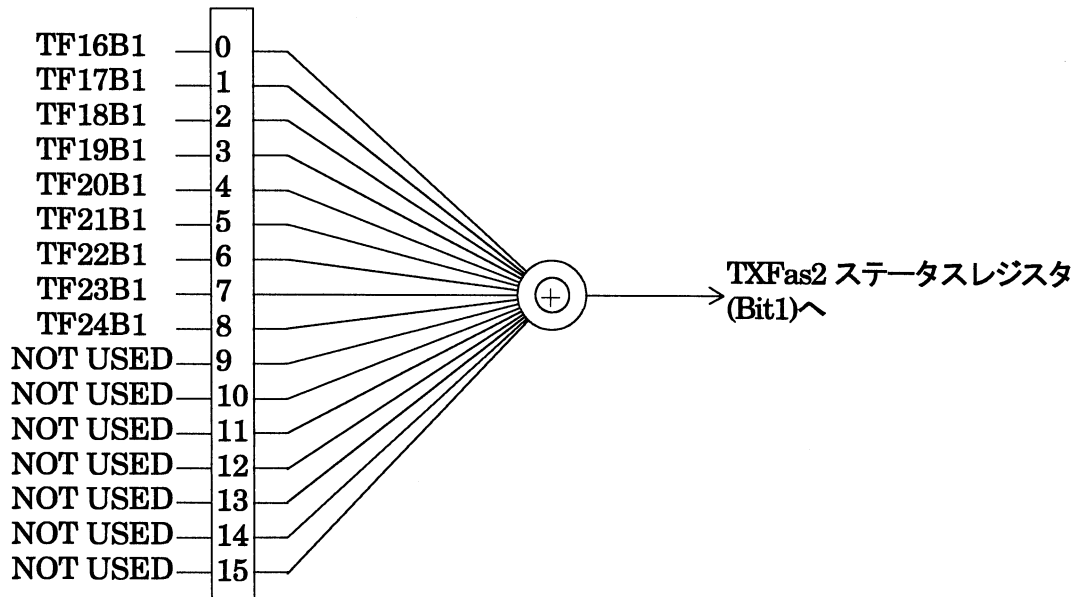


図 7.4-60 TXFBit16 ステータスレジスタ

表 7.4-61 TXFBit16 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	TF16B1 (Tx Frame16 Bit1)	送信ラインのフレーム 1 6 ビット 1 が 1 であることを示します。
DB1	TF17B1 (Tx Frame17 Bit1)	送信ラインのフレーム 1 7 ビット 1 が 1 であることを示します。
DB2	TF18B1 (Tx Frame18 Bit1)	送信ラインのフレーム 1 8 ビット 1 が 1 であることを示します。
DB3	TF19B1 (Tx Frame19 Bit1)	送信ラインのフレーム 1 9 ビット 1 が 1 であることを示します。
DB4	TF20B1 (Tx Frame20 Bit1)	送信ラインのフレーム 2 0 ビット 1 が 1 であることを示します。
DB5	TF21B1 (Tx Frame21 Bit1)	送信ラインのフレーム 2 1 ビット 1 が 1 であることを示します。
DB6	TF22B1 (Tx Frame22 Bit1)	送信ラインのフレーム 2 2 ビット 1 が 1 であることを示します。
DB7	TF23B1 (Tx Frame23 Bit1)	送信ラインのフレーム 2 3 ビット 1 が 1 であることを示します。
DB8	TF24B1 (Tx Frame24 Bit1)	送信ラインのフレーム 2 4 ビット 1 が 1 であることを示します。

■ TXFBit17 ステータスレジスタ

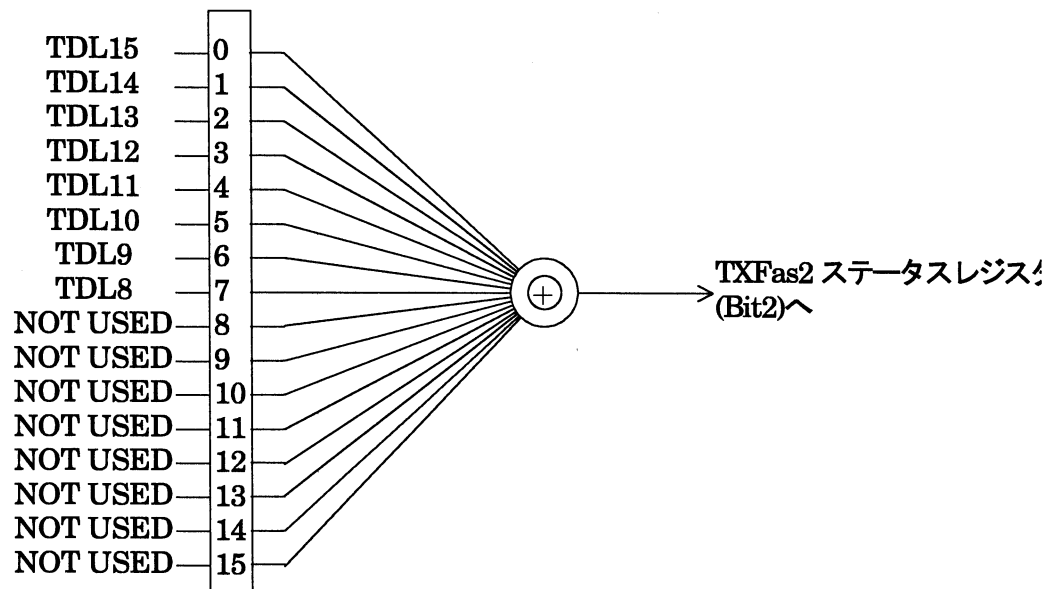


図 7.4-61 TXFBit17 ステータスレジスタ

表 7.4-62 TXFBit17 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic		Description
DB0	TDL15	(Tx DL bit 15)	送信ラインの DL ビット (ビット 15) が 1 であることを示します。
DB1	TDL14	(Tx DL bit 14)	送信ラインの DL ビット (ビット 14) が 1 であることを示します。
DB2	TDL13	(Tx DL bit 13)	送信ラインの DL ビット (ビット 13) が 1 であることを示します。
DB3	TDL12	(Tx DL bit 12)	送信ラインの DL ビット (ビット 12) が 1 であることを示します。
DB4	TDL11	(Tx DL bit 11)	送信ラインの DL ビット (ビット 11) が 1 であることを示します。
DB5	TDL10	(Tx DL bit 10)	送信ラインの DL ビット (ビット 10) が 1 であることを示します。
DB6	TDL9	(Tx DL bit 9)	送信ラインの DL ビット (ビット 9) が 1 であることを示します。
DB7	TDL8	(Tx DL bit 8)	送信ラインの DL ビット (ビット 8) が 1 であることを示します。

■ TXFBit18 ステータスレジスタ

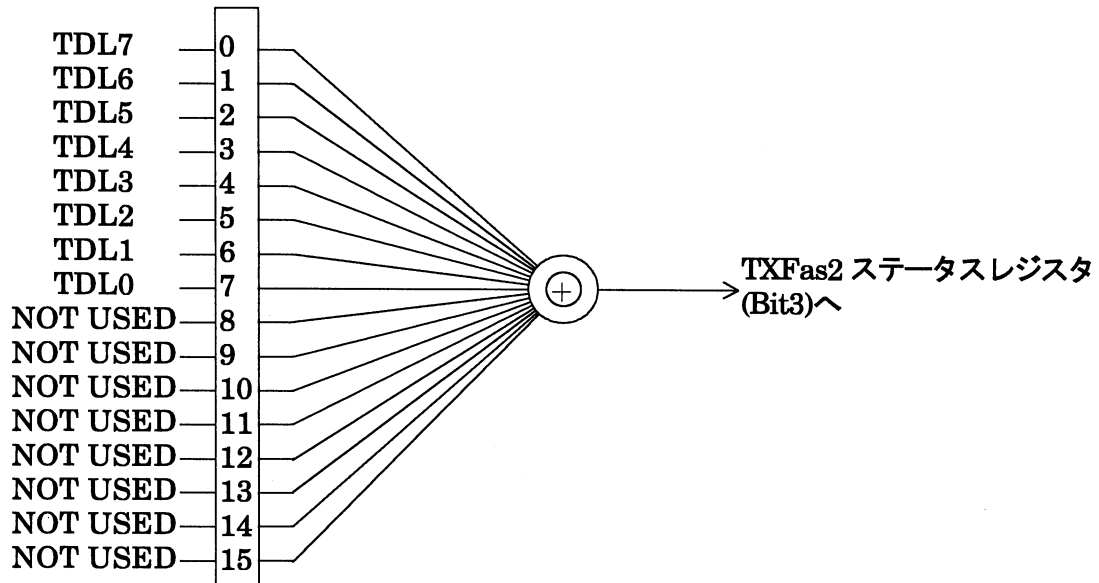


図 7.4-62 TXFBit18 ステータスレジスタ

表 7.4-63 TXFBit18 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	TDL7 (Tx DL bit 7)	送信ラインの DL ビット (ビット 7) が 1 であることを示します。
DB1	TDL6 (Tx DL bit 6)	送信ラインの DL ビット (ビット 6) が 1 であることを示します。
DB2	TDL5 (Tx DL bit 5)	送信ラインの DL ビット (ビット 5) が 1 であることを示します。
DB3	TDL4 (Tx DL bit 4)	送信ラインの DL ビット (ビット 4) が 1 であることを示します。
DB4	TDL3 (Tx DL bit 3)	送信ラインの DL ビット (ビット 3) が 1 であることを示します。
DB5	TDL2 (Tx DL bit 2)	送信ラインの DL ビット (ビット 2) が 1 であることを示します。
DB6	TDL1 (Tx DL bit 1)	送信ラインの DL ビット (ビット 1) が 1 であることを示します。
DB7	TDL0 (Tx DL bit 0)	送信ラインの DL ビット (ビット 0) が 1 であることを示します。

■ TXFBit19 ステータスレジスタ

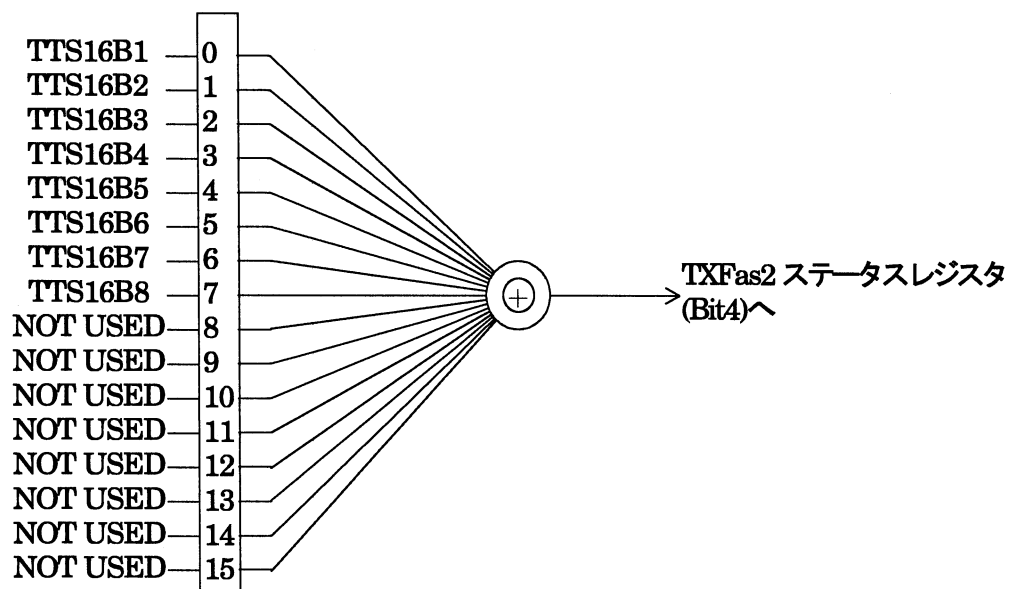


図 7.4-63 TXFBit19 ステータスレジスタ

表 7.4-64 TXFBit19 ステータスレジスタのビット定義

DB0	TTS16B1 (Tx TS16 frame0 Bit 1)	送信ラインの TS16 Frame0 ビット (ビット 1) が 1 であることを示します。
DB1	TTS16B2 (Tx TS16 frame0 Bit 2)	送信ラインの TS16 Frame0 ビット (ビット 2) が 1 であることを示します。
DB2	TTS16B3 (Tx TS16 frame0 Bit 3)	送信ラインの TS16 Frame0 ビット (ビット 3) が 1 であることを示します。
DB3	TTS16B4 (Tx TS16 frame0 Bit 4)	送信ラインの TS16 Frame0 ビット (ビット 4) が 1 であることを示します。
DB4	TTS16B5 (Tx TS16 frame0 Bit 5)	送信ラインの TS16 Frame0 ビット (ビット 5) が 1 であることを示します。
DB5	TTS16B6 (Tx TS16 frame0 Bit 6)	送信ラインの TS16 Frame0 ビット (ビット 6) が 1 であることを示します。
DB6	TTS16B7 (Tx TS16 frame0 Bit 7)	送信ラインの TS16 Frame0 ビット (ビット 7) が 1 であることを示します。
DB7	TTS16B8 (Tx TS16 frame0 Bit 8)	送信ラインの TS16 Frame0 ビット (ビット 8) が 1 であることを示します。

■ RXFas1 ステータスレジスタ

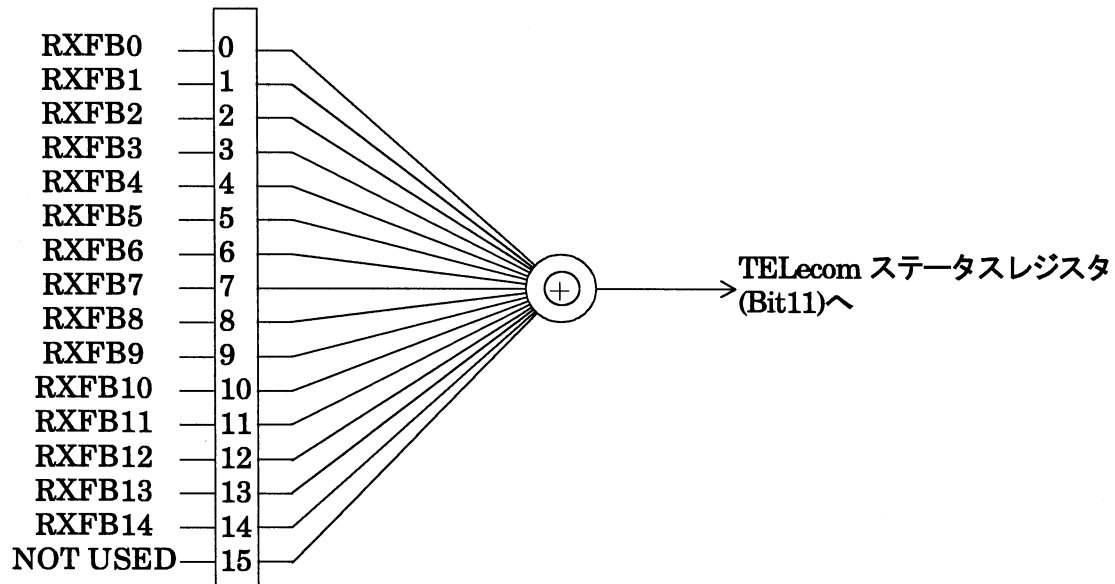


図 7.4-64 RXFas1 ステータスレジスタ

表 7.4-65 RXFas1 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	RXFB0 (RXFBit0 status register summary)	RXFBit0 ステータスレジスタサマリです。
DB1	RXFB1 (RXFBit1 status register summary)	RXFBit1 ステータスレジスタサマリです。
DB2	RXFB2 (RXFBit2 status register summary)	RXFBit2 ステータスレジスタサマリです。
DB3	RXFB3 (RXFBit3 status register summary)	RXFBit3 ステータスレジスタサマリです。
DB4	RXFB4 (RXFBit4 status register summary)	RXFBit4 ステータスレジスタサマリです。
DB5	RXFB5 (RXFBit5 status register summary)	RXFBit5 ステータスレジスタサマリです。
DB6	RXFB6 (RXFBit6 status register summary)	RXFBit6 ステータスレジスタサマリです。
DB7	RXFB7 (RXFBit7 status register summary)	RXFBit7 ステータスレジスタサマリです。
DB8	RXFB8 (RXFBit8 status register summary)	RXFBit8 ステータスレジスタサマリです。
DB9	RXFB9 (RXFBit9 status register summary)	RXFBit9 ステータスレジスタサマリです。
DB10	RXFB10 (RXFBit10 status register summary)	RXFBit10 ステータスレジスタサマリです。
DB11	RXFB11 (RXFBit11 status register summary)	RXFBit11 ステータスレジスタサマリです。
DB12	RXFB12 (RXFBit12 status register summary)	RXFBit12 ステータスレジスタサマリです。
DB13	RXFB13 (RXFBit13 status register summary)	RXFBit13 ステータスレジスタサマリです。
DB14	RXFB14 (RXFBit14 status register summary)	RXFBit14 ステータスレジスタサマリです。

■ RXFBit0 ステータスレジスタ

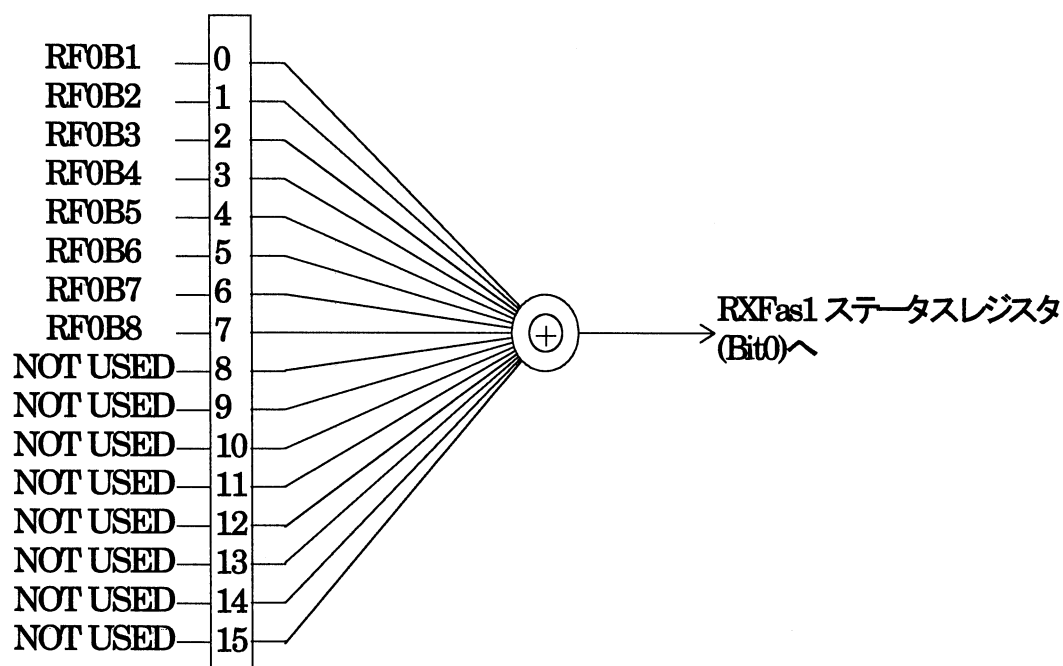


図 7.4-65 RXFBit0 ステータスレジスタ

表 7.4-66 RXFBit0 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	RF0B1 (Rx Frame0 Bit1)	受信ラインのフレーム0ビット1が1であることを示します。
DB1	RF0B2 (Rx Frame0 Bit2)	受信ラインのフレーム0ビット2が1であることを示します。
DB2	RF0B3 (Rx Frame0 Bit3)	受信ラインのフレーム0ビット3が1であることを示します。
DB3	RF0B4 (Rx Frame0 Bit4)	受信ラインのフレーム0ビット4が1であることを示します。
DB4	RF0B5 (Rx Frame0 Bit5)	受信ラインのフレーム0ビット5が1であることを示します。
DB5	RF0B6 (Rx Frame0 Bit6)	受信ラインのフレーム0ビット6が1であることを示します。
DB6	RF0B7 (Rx Frame0 Bit7)	受信ラインのフレーム0ビット7が1であることを示します。
DB7	RF0B8 (Rx Frame0 Bit8)	受信ラインのフレーム0ビット8が1であることを示します。

■ RXFBit1 ステータスレジスタ

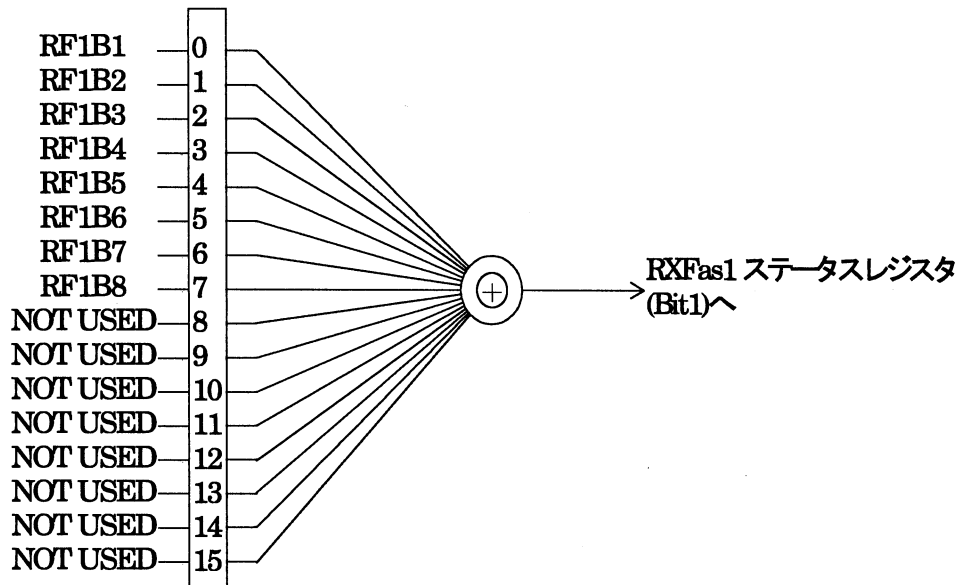


図 7.4-66 RXFBit1 ステータスレジスタ

表 7.4-67 RXFBit1 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	RF1B1 (Rx Frame1 Bit1)	受信ラインのフレーム 1 ビット 1 が 1 であることを示します。
DB1	RF1B2 (Rx Frame1 Bit2)	受信ラインのフレーム 1 ビット 2 が 1 であることを示します。
DB2	RF1B3 (Rx Frame1 Bit3)	受信ラインのフレーム 1 ビット 3 が 1 であることを示します。
DB3	RF1B4 (Rx Frame1 Bit4)	受信ラインのフレーム 1 ビット 4 が 1 であることを示します。
DB4	RF1B5 (Rx Frame1 Bit5)	受信ラインのフレーム 1 ビット 5 が 1 であることを示します。
DB5	RF1B6 (Rx Frame1 Bit6)	受信ラインのフレーム 1 ビット 6 が 1 であることを示します。
DB6	RF1B7 (Rx Frame1 Bit7)	受信ラインのフレーム 1 ビット 7 が 1 であることを示します。
DB7	RF1B8 (Rx Frame1 Bit8)	受信ラインのフレーム 1 ビット 8 が 1 であることを示します。

■ RXFBit2 ステータスレジスタ

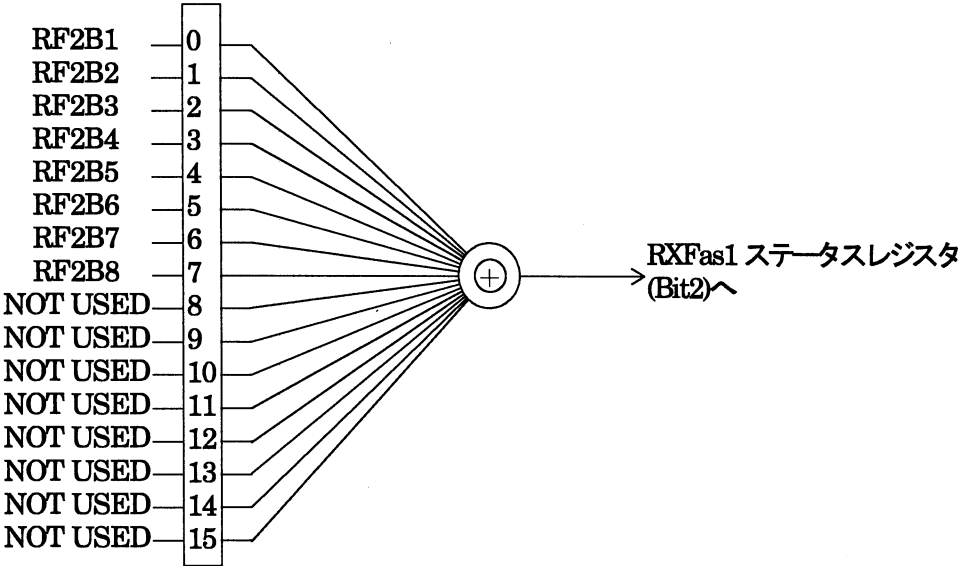


図 7.4-67 RXFBit2 ステータスレジスタ

表 7.4-68 RXFBit2 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	RF2B1 (Rx Frame2 Bit1)	受信ラインのフレーム 2 ビット 1 が 1 であることを示します。
DB1	RF2B2 (Rx Frame2 Bit2)	受信ラインのフレーム 2 ビット 2 が 1 であることを示します。
DB2	RF2B3 (Rx Frame2 Bit3)	受信ラインのフレーム 2 ビット 3 が 1 であることを示します。
DB3	RF2B4 (Rx Frame2 Bit4)	受信ラインのフレーム 2 ビット 4 が 1 であることを示します。
DB4	RF2B5 (Rx Frame2 Bit5)	受信ラインのフレーム 2 ビット 5 が 1 であることを示します。
DB5	RF2B6 (Rx Frame2 Bit6)	受信ラインのフレーム 2 ビット 6 が 1 であることを示します。
DB6	RF2B7 (Rx Frame2 Bit7)	受信ラインのフレーム 2 ビット 7 が 1 であることを示します。
DB7	RF2B8 (Rx Frame2 Bit8)	受信ラインのフレーム 2 ビット 8 が 1 であることを示します。

■ RXFBit3 ステータスレジスタ

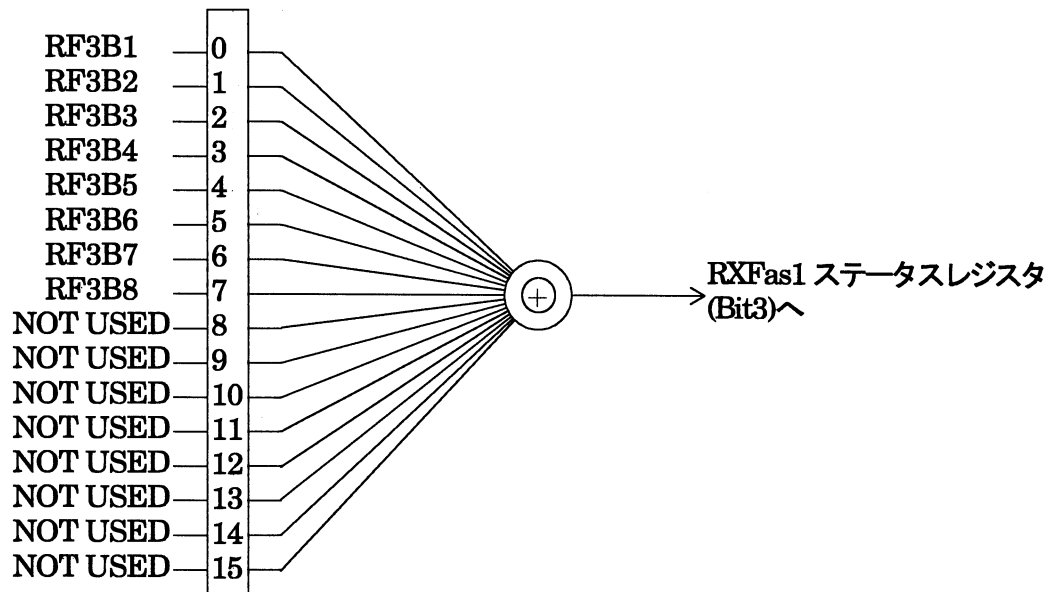


図 7.4-68 RXFBit3 ステータスレジスタ

表 7.4-69 RXFBit3 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	RF3B1 (Rx Frame3 Bit1)	受信ラインのフレーム3ビット1が1であることを示します。
DB1	RF3B2 (Rx Frame3 Bit2)	受信ラインのフレーム3ビット2が1であることを示します。
DB2	RF3B3 (Rx Frame3 Bit3)	受信ラインのフレーム3ビット3が1であることを示します。
DB3	RF3B4 (Rx Frame3 Bit4)	受信ラインのフレーム3ビット4が1であることを示します。
DB4	RF3B5 (Rx Frame3 Bit5)	受信ラインのフレーム3ビット5が1であることを示します。
DB5	RF3B6 (Rx Frame3 Bit6)	受信ラインのフレーム3ビット6が1であることを示します。
DB6	RF3B7 (Rx Frame3 Bit7)	受信ラインのフレーム3ビット7が1であることを示します。
DB7	RF3B8 (Rx Frame3 Bit8)	受信ラインのフレーム3ビット8が1であることを示します。

■ RXFBit4 ステータスレジスタ

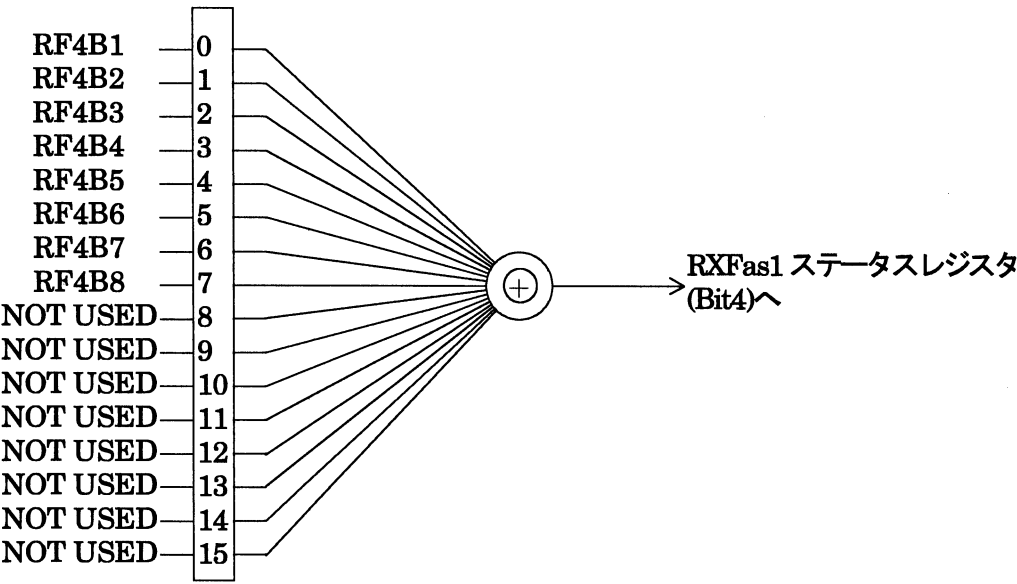


図 7.4-69 RXFBit4 ステータスレジスタ

表 7.4-70 RXFBit4 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic		Description
DB0	RF4B1	(Rx Frame4 Bit1)	受信ラインのフレーム4ビット1が1であることを示します。
DB1	RF4B2	(Rx Frame4 Bit2)	受信ラインのフレーム4ビット2が1であることを示します。
DB2	RF4B3	(Rx Frame4 Bit3)	受信ラインのフレーム4ビット3が1であることを示します。
DB3	RF4B4	(Rx Frame4 Bit4)	受信ラインのフレーム4ビット4が1であることを示します。
DB4	RF4B5	(Rx Frame4 Bit5)	受信ラインのフレーム4ビット5が1であることを示します。
DB5	RF4B6	(Rx Frame4 Bit6)	受信ラインのフレーム4ビット6が1であることを示します。
DB6	RF4B7	(Rx Frame4 Bit7)	受信ラインのフレーム4ビット7が1であることを示します。
DB7	RF4B8	(Rx Frame4 Bit8)	受信ラインのフレーム4ビット8が1であることを示します。

■ RXFBit5 ステータスレジスタ

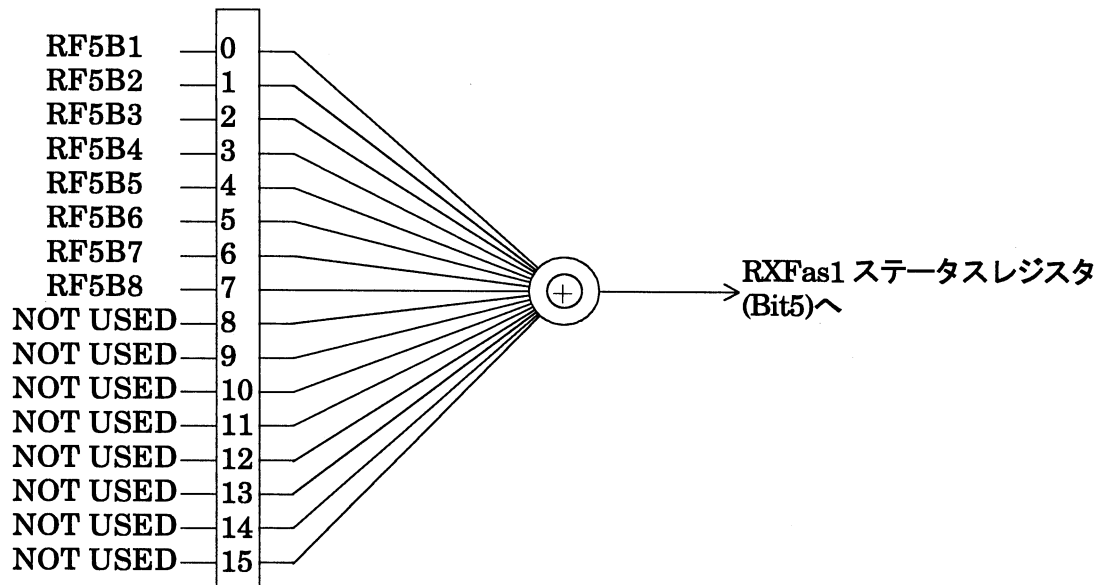


図 7.4-70 RXFBit5 ステータスレジスタ

表 7.4-71 RXFBit5 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	RF5B1 (Rx Frame5 Bit1)	受信ラインのフレーム 5 ビット 1 が 1 であることを示します。
DB1	RF5B2 (Rx Frame5 Bit2)	受信ラインのフレーム 5 ビット 2 が 1 であることを示します。
DB2	RF5B3 (Rx Frame5 Bit3)	受信ラインのフレーム 5 ビット 3 が 1 であることを示します。
DB3	RF5B4 (Rx Frame5 Bit4)	受信ラインのフレーム 5 ビット 4 が 1 であることを示します。
DB4	RF5B5 (Rx Frame5 Bit5)	受信ラインのフレーム 5 ビット 5 が 1 であることを示します。
DB5	RF5B6 (Rx Frame5 Bit6)	受信ラインのフレーム 5 ビット 6 が 1 であることを示します。
DB6	RF5B7 (Rx Frame5 Bit7)	受信ラインのフレーム 5 ビット 7 が 1 であることを示します。
DB7	RF5B8 (Rx Frame5 Bit8)	受信ラインのフレーム 5 ビット 8 が 1 であることを示します。

■ RXFBit6 ステータスレジスタ

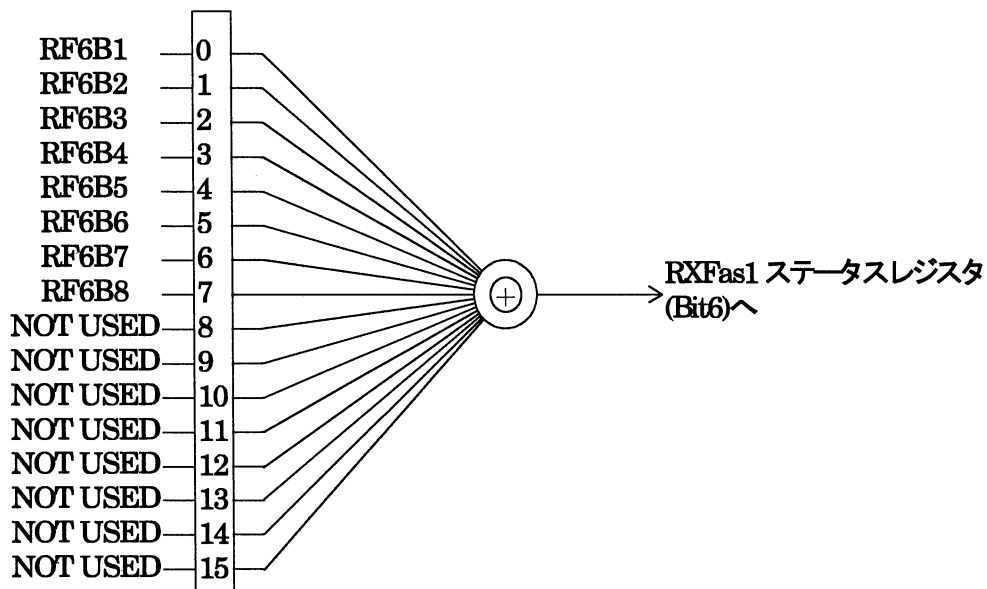


図 7.4-71 RXFBit6 ステータスレジスタ

表 7.4-72 RXFBit6 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	RF6B1 (Rx Frame6 Bit1)	受信ラインのフレーム 6 ビット 1 が 1 であることを示します。
DB1	RF6B2 (Rx Frame6 Bit2)	受信ラインのフレーム 6 ビット 2 が 1 であることを示します。
DB2	RF6B3 (Rx Frame6 Bit3)	受信ラインのフレーム 6 ビット 3 が 1 であることを示します。
DB3	RF6B4 (Rx Frame6 Bit4)	受信ラインのフレーム 6 ビット 4 が 1 であることを示します。
DB4	RF6B5 (Rx Frame6 Bit5)	受信ラインのフレーム 6 ビット 5 が 1 であることを示します。
DB5	RF6B6 (Rx Frame6 Bit6)	受信ラインのフレーム 6 ビット 6 が 1 であることを示します。
DB6	RF6B7 (Rx Frame6 Bit7)	受信ラインのフレーム 6 ビット 7 が 1 であることを示します。
DB7	RF6B8 (Rx Frame6 Bit8)	受信ラインのフレーム 6 ビット 8 が 1 であることを示します。

■ RXFBit7 ステータスレジスタ

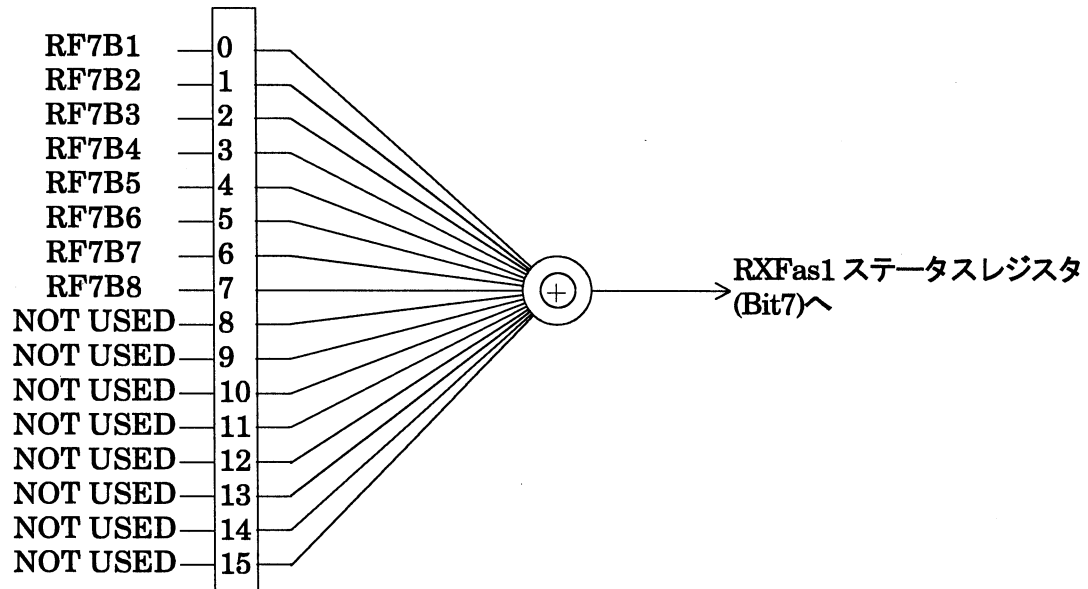


図 7.4-72 RXFBit7 ステータスレジスタ

表 7.4-73 RXFBit7 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	RF7B1 (Rx Frame7 Bit1)	受信ラインのフレーム7ビット1が1であることを示します。
DB1	RF7B2 (Rx Frame7 Bit2)	受信ラインのフレーム7ビット2が1であることを示します。
DB2	RF7B3 (Rx Frame7 Bit3)	受信ラインのフレーム7ビット3が1であることを示します。
DB3	RF7B4 (Rx Frame7 Bit4)	受信ラインのフレーム7ビット4が1であることを示します。
DB4	RF7B5 (Rx Frame7 Bit5)	受信ラインのフレーム7ビット5が1であることを示します。
DB5	RF7B6 (Rx Frame7 Bit6)	受信ラインのフレーム7ビット6が1であることを示します。
DB6	RF7B7 (Rx Frame7 Bit7)	受信ラインのフレーム7ビット7が1であることを示します。
DB7	RF7B8 (Rx Frame7 Bit8)	受信ラインのフレーム7ビット8が1であることを示します。

■ RXFBit8 ステータスレジスタ

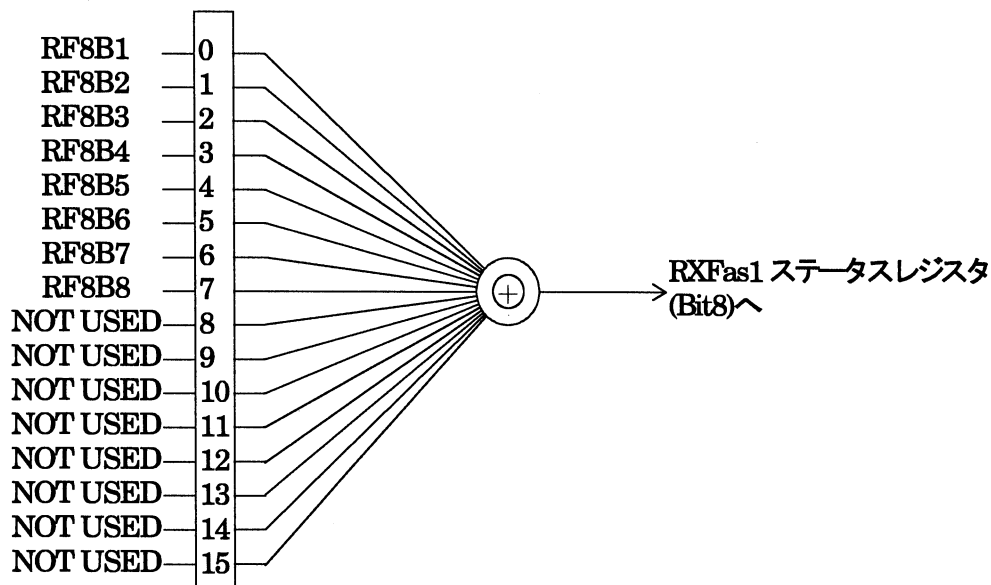


図 7.4-73 RXFBit8 ステータスレジスタ

表 7.4-74 RXFBit8 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	RF8B1 (Rx Frame8 Bit1)	受信ラインのフレーム8ビット1が1であることを示します。
DB1	RF8B2 (Rx Frame8 Bit2)	受信ラインのフレーム8ビット2が1であることを示します。
DB2	RF8B3 (Rx Frame8 Bit3)	受信ラインのフレーム8ビット3が1であることを示します。
DB3	RF8B4 (Rx Frame8 Bit4)	受信ラインのフレーム8ビット4が1であることを示します。
DB4	RF8B5 (Rx Frame8 Bit5)	受信ラインのフレーム8ビット5が1であることを示します。
DB5	RF8B6 (Rx Frame8 Bit6)	受信ラインのフレーム8ビット6が1であることを示します。
DB6	RF8B7 (Rx Frame8 Bit7)	受信ラインのフレーム8ビット7が1であることを示します。
DB7	RF8B8 (Rx Frame8 Bit8)	受信ラインのフレーム8ビット8が1であることを示します。

■ RXFBit9 ステータスレジスタ

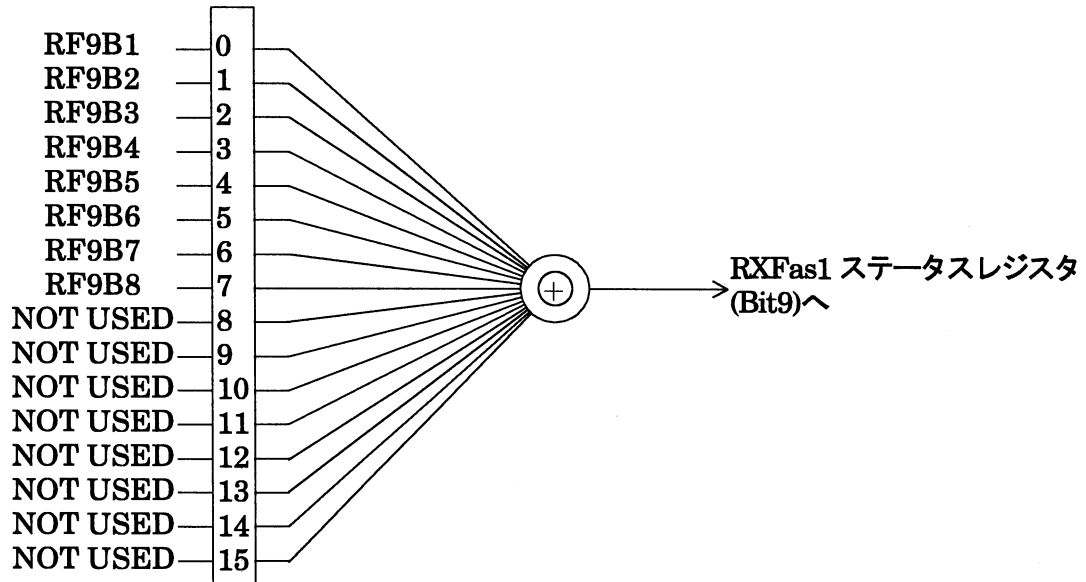


図 7.4-74 RXFBit9 ステータスレジスタ

表 7.4-75 RXFBit9 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	RF9B1 (Rx Frame9 Bit1)	受信ラインのフレーム 9 ビット 1 が 1 であることを示します。
DB1	RF9B2 (Rx Frame9 Bit2)	受信ラインのフレーム 9 ビット 2 が 1 であることを示します。
DB2	RF9B3 (Rx Frame9 Bit3)	受信ラインのフレーム 9 ビット 3 が 1 であることを示します。
DB3	RF9B4 (Rx Frame9 Bit4)	受信ラインのフレーム 9 ビット 4 が 1 であることを示します。
DB4	RF9B5 (Rx Frame9 Bit5)	受信ラインのフレーム 9 ビット 5 が 1 であることを示します。
DB5	RF9B6 (Rx Frame9 Bit6)	受信ラインのフレーム 9 ビット 6 が 1 であることを示します。
DB6	RF9B7 (Rx Frame9 Bit7)	受信ラインのフレーム 9 ビット 7 が 1 であることを示します。
DB7	RF9B8 (Rx Frame9 Bit8)	受信ラインのフレーム 9 ビット 8 が 1 であることを示します。

■ RXFBit10 ステータスレジスタ

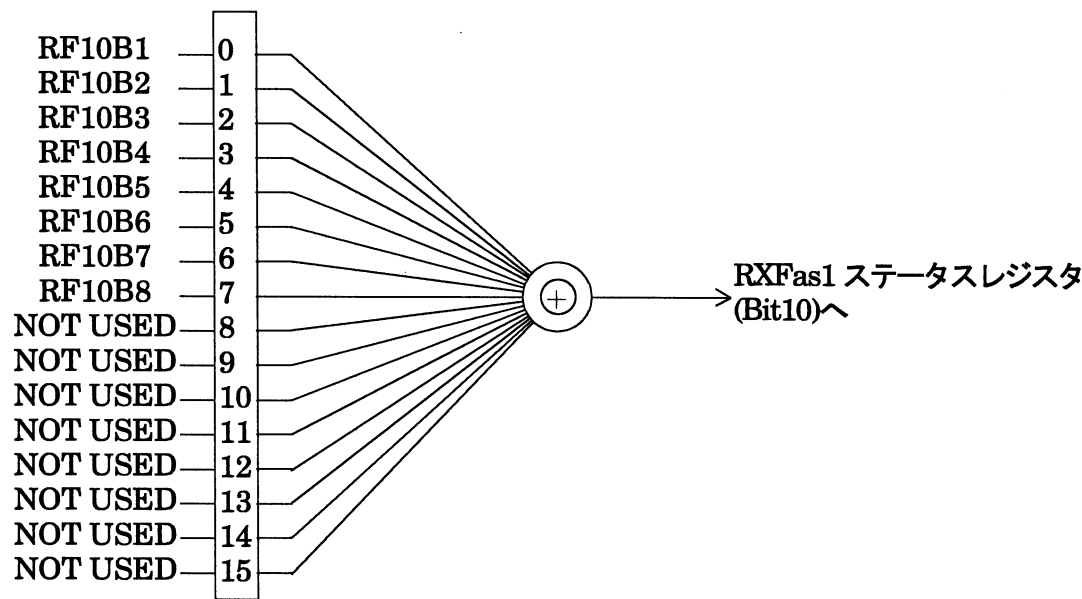


図 7.4-75 RXFBit10 ステータスレジスタ

表 7.4-76 RXFBit10 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic		Description
DB0	RF10B1	(Rx Frame10 Bit1)	受信ラインのフレーム10ビット1が1であることを示します。
DB1	RF10B2	(Rx Frame10 Bit2)	受信ラインのフレーム10ビット2が1であることを示します。
DB2	RF10B3	(Rx Frame10 Bit3)	受信ラインのフレーム10ビット3が1であることを示します。
DB3	RF10B4	(Rx Frame10 Bit4)	受信ラインのフレーム10ビット4が1であることを示します。
DB4	RF10B5	(Rx Frame10 Bit5)	受信ラインのフレーム10ビット5が1であることを示します。
DB5	RF10B6	(Rx Frame10 Bit6)	受信ラインのフレーム10ビット6が1であることを示します。
DB6	RF10B7	(Rx Frame10 Bit7)	受信ラインのフレーム10ビット7が1であることを示します。
DB7	RF10B8	(Rx Frame10 Bit8)	受信ラインのフレーム10ビット8が1であることを示します。

■ RXFBit11 ステータスレジスタ

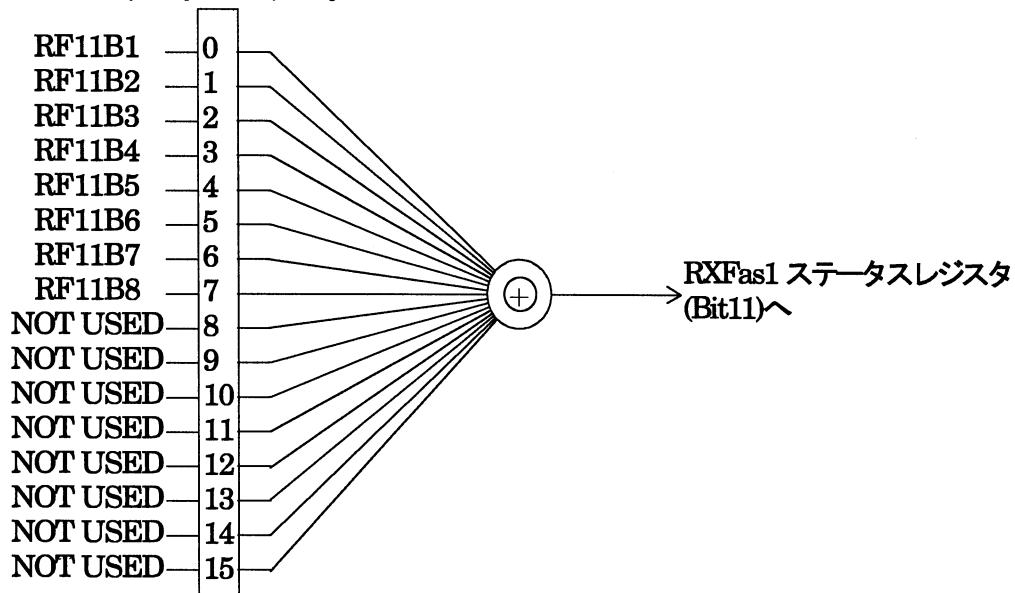


図 7.4-76 RXFBit11 ステータスレジスタ

表 7.4-77 RXFBit11 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	RF11B1 (Rx Frame11 Bit1)	受信ラインのフレーム 1 1 ビット 1 が 1 であることを示します。
DB1	RF11B2 (Rx Frame11 Bit2)	受信ラインのフレーム 1 1 ビット 2 が 1 であることを示します。
DB2	RF11B3 (Rx Frame11 Bit3)	受信ラインのフレーム 1 1 ビット 3 が 1 であることを示します。
DB3	RF11B4 (Rx Frame11 Bit4)	受信ラインのフレーム 1 1 ビット 4 が 1 であることを示します。
DB4	RF11B5 (Rx Frame11 Bit5)	受信ラインのフレーム 1 1 ビット 5 が 1 であることを示します。
DB5	RF11B6 (Rx Frame11 Bit6)	受信ラインのフレーム 1 1 ビット 6 が 1 であることを示します。
DB6	RF11B7 (Rx Frame11 Bit7)	受信ラインのフレーム 1 1 ビット 7 が 1 であることを示します。
DB7	RF11B8 (Rx Frame11 Bit8)	受信ラインのフレーム 1 1 ビット 8 が 1 であることを示します。

■ RXFBit12 ステータスレジスタ

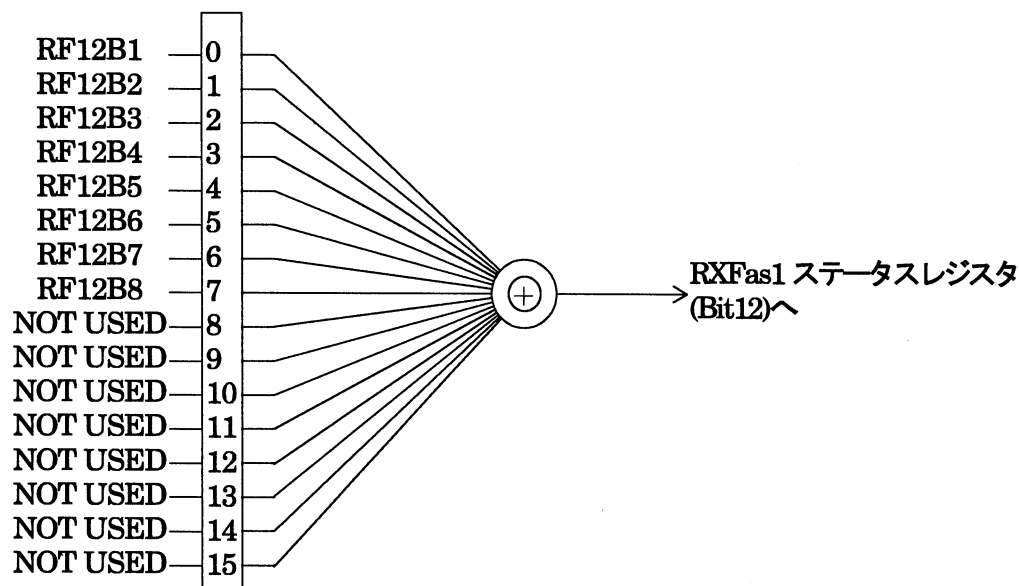


図 7.4-77 RXFBit12 ステータスレジスタ

表 7.4-78 RXFBit12 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	RF12B1 (Rx Frame12 Bit1)	受信ラインのフレーム 1 2 ビット 1 が 1 であることを示します。
DB1	RF12B2 (Rx Frame12 Bit2)	受信ラインのフレーム 1 2 ビット 2 が 1 であることを示します。
DB2	RF12B3 (Rx Frame12 Bit3)	受信ラインのフレーム 1 2 ビット 3 が 1 であることを示します。
DB3	RF12B4 (Rx Frame12 Bit4)	受信ラインのフレーム 1 2 ビット 4 が 1 であることを示します。
DB4	RF12B5 (Rx Frame12 Bit5)	受信ラインのフレーム 1 2 ビット 5 が 1 であることを示します。
DB5	RF12B6 (Rx Frame12 Bit6)	受信ラインのフレーム 1 2 ビット 6 が 1 であることを示します。
DB6	RF12B7 (Rx Frame12 Bit7)	受信ラインのフレーム 1 2 ビット 7 が 1 であることを示します。
DB7	RF12B8 (Rx Frame12 Bit8)	受信ラインのフレーム 1 2 ビット 8 が 1 であることを示します。

■ RXFBit13 ステータスレジスタ

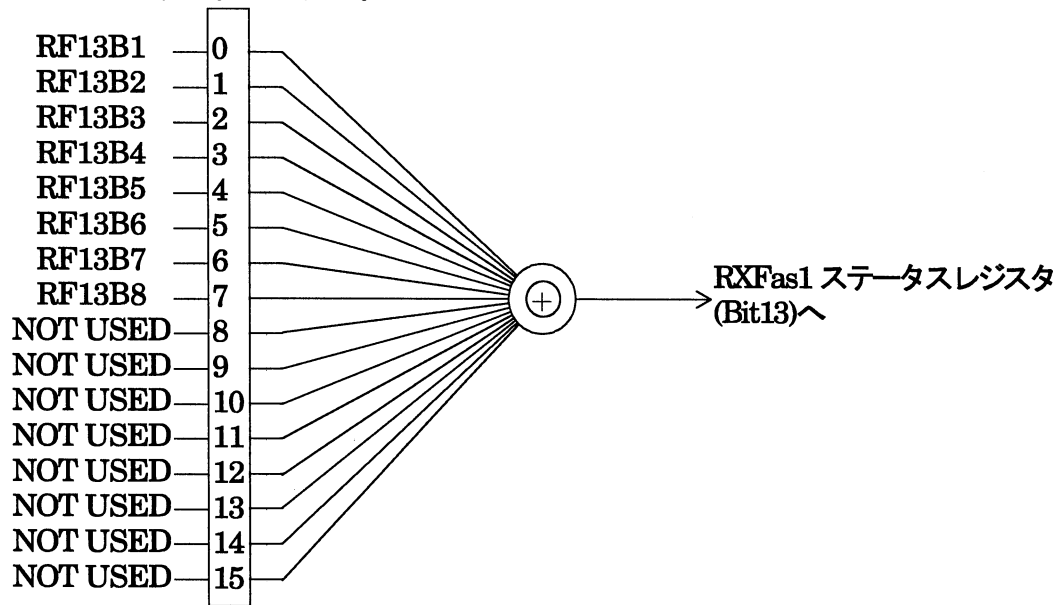


図 7.4-78 RXFBit13 ステータスレジスタ

表 7.4-79 RXFBit13 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	RF13B1 (Rx Frame13 Bit1)	受信ラインのフレーム 1 3 ビット 1 が 1 であることを示します。
DB1	RF13B2 (Rx Frame13 Bit2)	受信ラインのフレーム 1 3 ビット 2 が 1 であることを示します。
DB2	RF13B3 (Rx Frame13 Bit3)	受信ラインのフレーム 1 3 ビット 3 が 1 であることを示します。
DB3	RF13B4 (Rx Frame13 Bit4)	受信ラインのフレーム 1 3 ビット 4 が 1 であることを示します。
DB4	RF13B5 (Rx Frame13 Bit5)	受信ラインのフレーム 1 3 ビット 5 が 1 であることを示します。
DB5	RF13B6 (Rx Frame13 Bit6)	受信ラインのフレーム 1 3 ビット 6 が 1 であることを示します。
DB6	RF13B7 (Rx Frame13 Bit7)	受信ラインのフレーム 1 3 ビット 7 が 1 であることを示します。
DB7	RF13B8 (Rx Frame13 Bit8)	受信ラインのフレーム 1 3 ビット 8 が 1 であることを示します。

■ RXFBit14 ステータスレジスタ

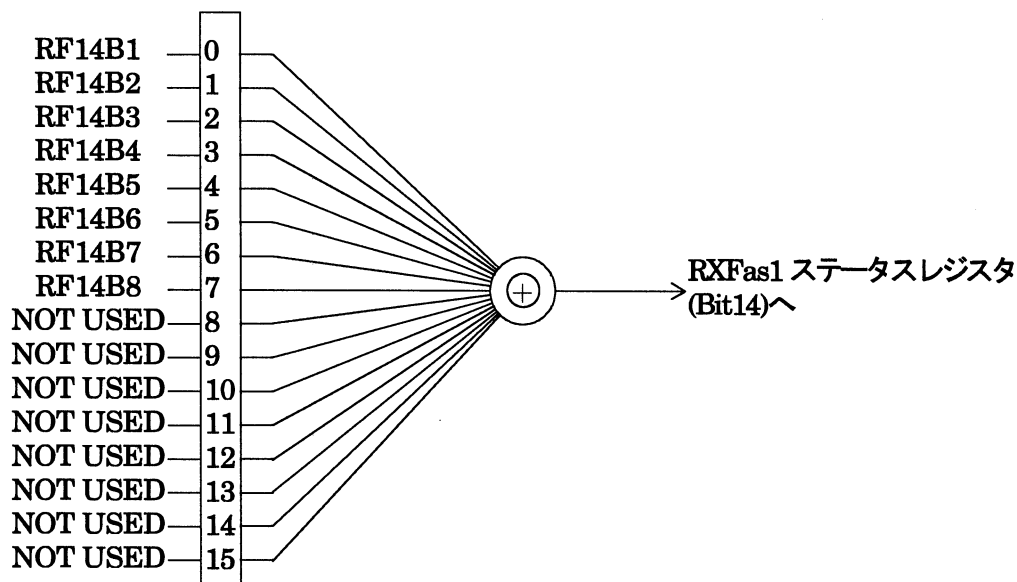


図 7.4-79 RXFBit14 ステータスレジスタ

表 7.4-80 RXFBit14 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	RF14B1 (Rx Frame14 Bit1)	受信ラインのフレーム 1 4 ビット 1 が 1 であることを示します。
DB1	RF14B2 (Rx Frame14 Bit2)	受信ラインのフレーム 1 4 ビット 2 が 1 であることを示します。
DB2	RF14B3 (Rx Frame14 Bit3)	受信ラインのフレーム 1 4 ビット 3 が 1 であることを示します。
DB3	RF14B4 (Rx Frame14 Bit4)	受信ラインのフレーム 1 4 ビット 4 が 1 であることを示します。
DB4	RF14B5 (Rx Frame14 Bit5)	受信ラインのフレーム 1 4 ビット 5 が 1 であることを示します。
DB5	RF14B6 (Rx Frame14 Bit6)	受信ラインのフレーム 1 4 ビット 6 が 1 であることを示します。
DB6	RF14B7 (Rx Frame14 Bit7)	受信ラインのフレーム 1 4 ビット 7 が 1 であることを示します。
DB7	RF14B8 (Rx Frame14 Bit8)	受信ラインのフレーム 1 4 ビット 8 が 1 であることを示します。

■ RxFas2 ステータスレジスタ

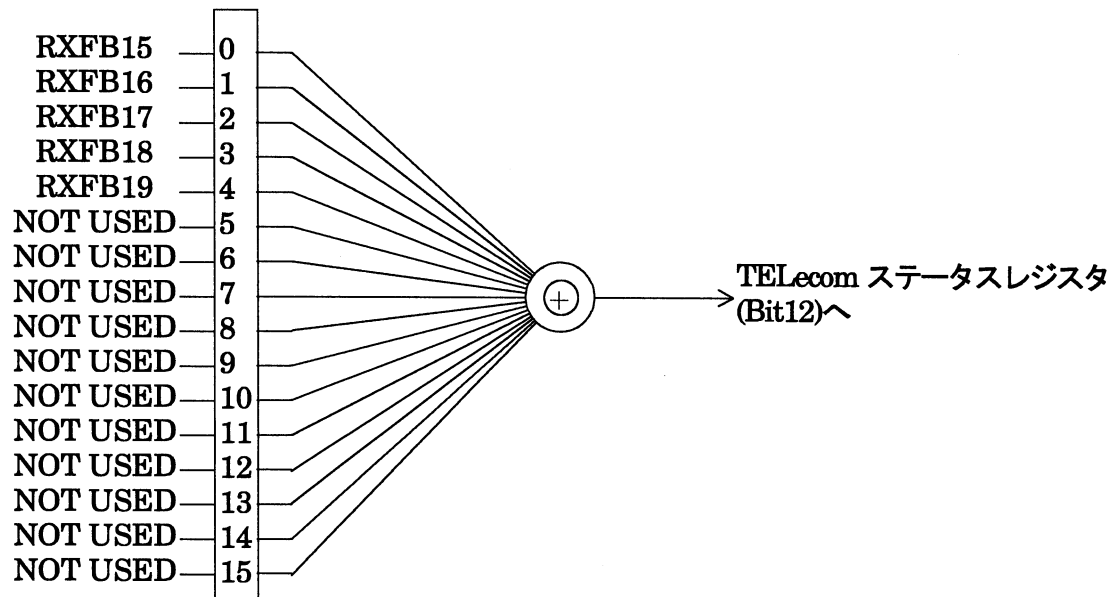


図 7.4-80 RxFas2 ステータスレジスタ

表 7.4-81 RxFas2 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	RXFB15 (RXFBit15 status register summary)	RXFBit15 ステータスレジスタサマリです。
DB1	RXFB16 (RXFBit16 status register summary)	RXFBit16 ステータスレジスタサマリです。
DB2	RXFB17 (RXFBit17 status register summary)	RXFBit17 ステータスレジスタサマリです。
DB3	RXFB18 (RXFBit18 status register summary)	RXFBit18 ステータスレジスタサマリです。
DB4	RXFB19 (RXFBit19 status register summary)	RXFBit19 ステータスレジスタサマリです。

■ RXFBit15 ステータスレジスタ

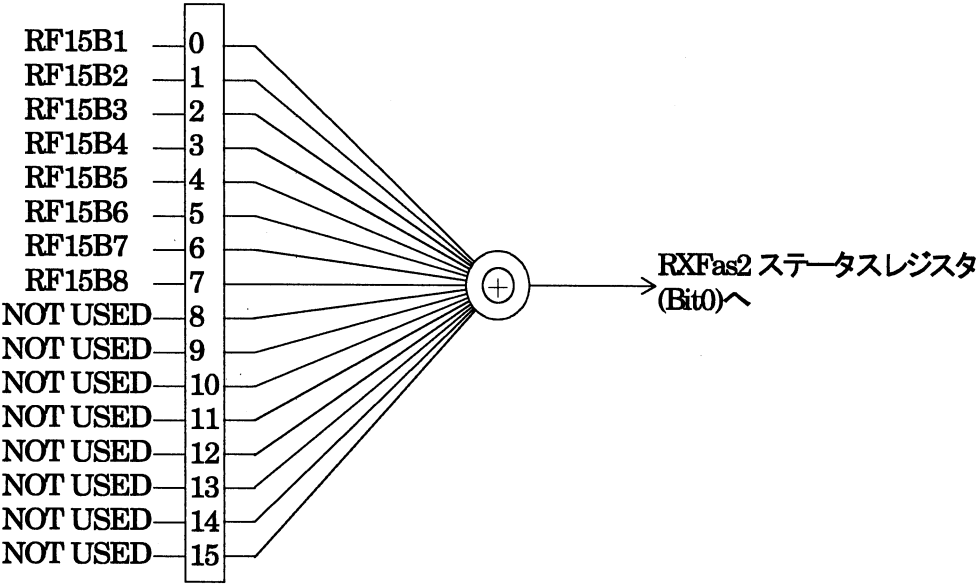


図 7.4-81 RXFBit15 ステータスレジスタ

表 7.4-82 RXFBit15 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic		Description
DB0	RF15B1	(Rx Frame15 Bit1)	受信ラインのフレーム 1 5 ビット 1 が 1 であることを示します。
DB1	RF15B2	(Rx Frame15 Bit2)	受信ラインのフレーム 1 5 ビット 2 が 1 であることを示します。
DB2	RF15B3	(Rx Frame15 Bit3)	受信ラインのフレーム 1 5 ビット 3 が 1 であることを示します。
DB3	RF15B4	(Rx Frame15 Bit4)	受信ラインのフレーム 1 5 ビット 4 が 1 であることを示します。
DB4	RF15B5	(Rx Frame15 Bit5)	受信ラインのフレーム 1 5 ビット 5 が 1 であることを示します。
DB5	RF15B6	(Rx Frame15 Bit6)	受信ラインのフレーム 1 5 ビット 6 が 1 であることを示します。
DB6	RF15B7	(Rx Frame15 Bit7)	受信ラインのフレーム 1 5 ビット 7 が 1 であることを示します。
DB7	RF15B8	(Rx Frame15 Bit8)	受信ラインのフレーム 1 5 ビット 8 が 1 であることを示します。

■ RXFBit16 ステータスレジスタ

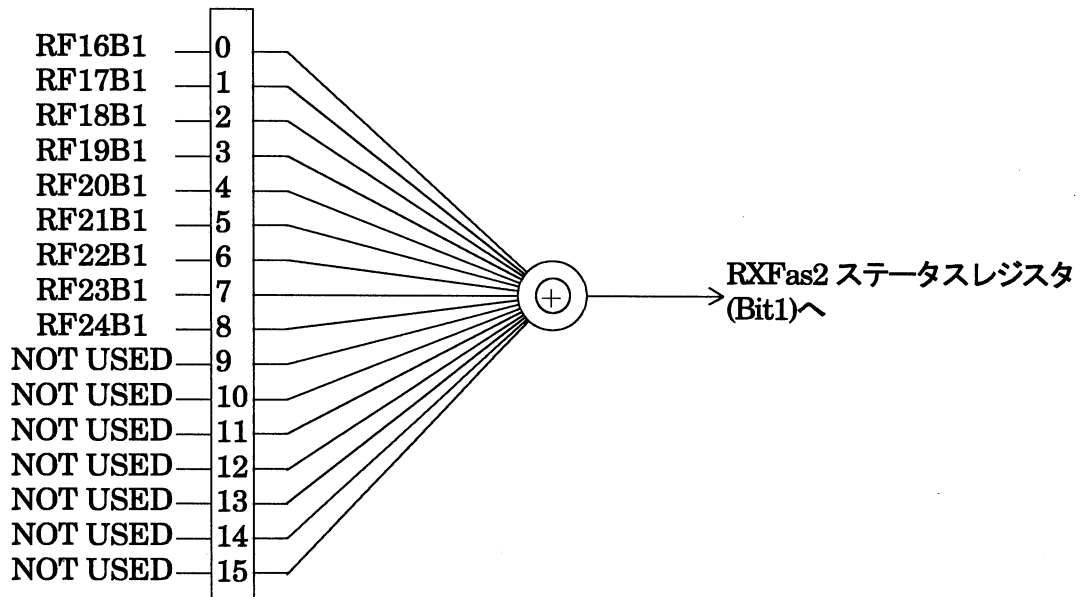


図 7.4-82 RXFBit16 ステータスレジスタ

表 7.4-83 RXFBit16 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	RF16B1 (Rx Frame16 Bit1)	受信ラインのフレーム16ビット1が1であることを示します。
DB1	RF17B1 (Rx Frame17 Bit1)	受信ラインのフレーム17ビット1が1であることを示します。
DB2	RF18B1 (Rx Frame18 Bit1)	受信ラインのフレーム18ビット1が1であることを示します。
DB3	RF19B1 (Rx Frame19 Bit1)	受信ラインのフレーム19ビット1が1であることを示します。
DB4	RF20B1 (Rx Frame20 Bit1)	受信ラインのフレーム20ビット1が1であることを示します。
DB5	RF21B1 (Rx Frame21 Bit1)	受信ラインのフレーム21ビット1が1であることを示します。
DB6	RF22B1 (Rx Frame22 Bit1)	受信ラインのフレーム22ビット1が1であることを示します。
DB7	RF23B1 (Rx Frame23 Bit1)	受信ラインのフレーム23ビット1が1であることを示します。
DB8	RF24B1 (Rx Frame24 Bit1)	受信ラインのフレーム24ビット1が1であることを示します。

■ RXFBit17 ステータスレジスタ

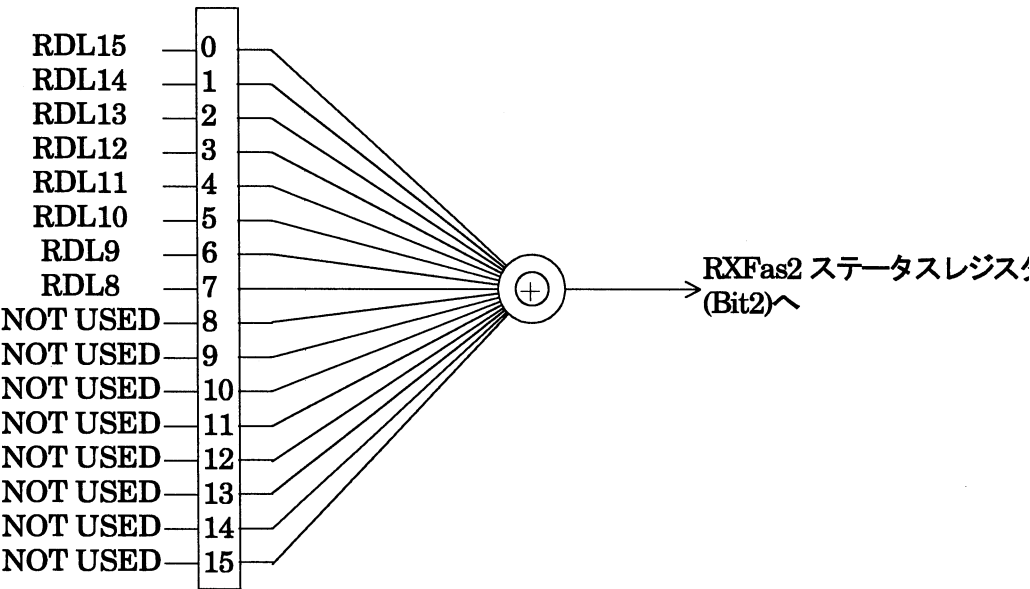


図 7.4-83 RXFBit17 ステータスレジスタ

表 7.4-84 RXFBit17 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic		Description
DB0	RDL15	(Rx DL bit 15)	受信ラインの DL ビット (ビット 15) が 1 であることを示します。
DB1	RDL14	(Rx DL bit 14)	受信ラインの DL ビット (ビット 14) が 1 であることを示します。
DB2	RDL13	(Rx DL bit 13)	受信ラインの DL ビット (ビット 13) が 1 であることを示します。
DB3	RDL12	(Rx DL bit 12)	受信ラインの DL ビット (ビット 12) が 1 であることを示します。
DB4	RDL11	(Rx DL bit 11)	受信ラインの DL ビット (ビット 11) が 1 であることを示します。
DB5	RDL10	(Rx DL bit 10)	受信ラインの DL ビット (ビット 10) が 1 であることを示します。
DB6	RDL9	(Rx DL bit 9)	受信ラインの DL ビット (ビット 9) が 1 であることを示します。
DB7	RDL8	(Rx DL bit 8)	受信ラインの DL ビット (ビット 8) が 1 であることを示します。

■ RXFBit18 ステータスレジスタ

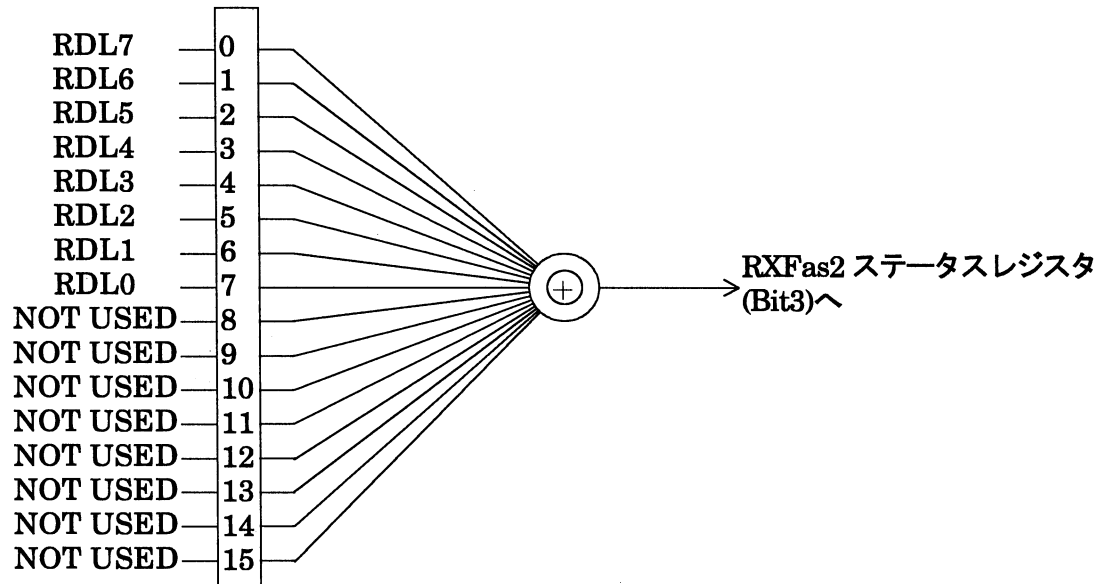


図 7.4-84 RXFBit18 ステータスレジスタ

表 7.4-85 RXFBit18 ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic		Description
DB0	RDL7	(Rx DL bit 7)	受信ラインの DL ビット (ビット 7) が 1 であることを示します。
DB1	RDL6	(Rx DL bit 6)	受信ラインの DL ビット (ビット 6) が 1 であることを示します。
DB2	RDL5	(Rx DL bit 5)	受信ラインの DL ビット (ビット 5) が 1 であることを示します。
DB3	RDL4	(Rx DL bit 4)	受信ラインの DL ビット (ビット 4) が 1 であることを示します。
DB4	RDL3	(Rx DL bit 3)	受信ラインの DL ビット (ビット 3) が 1 であることを示します。
DB5	RDL2	(Rx DL bit 2)	受信ラインの DL ビット (ビット 2) が 1 であることを示します。
DB6	RDL1	(Rx DL bit 1)	受信ラインの DL ビット (ビット 1) が 1 であることを示します。
DB7	RDL0	(Rx DL bit 0)	受信ラインの DL ビット (ビット 0) が 1 であることを示します。

■ RXFBit19 ステータスレジスタ

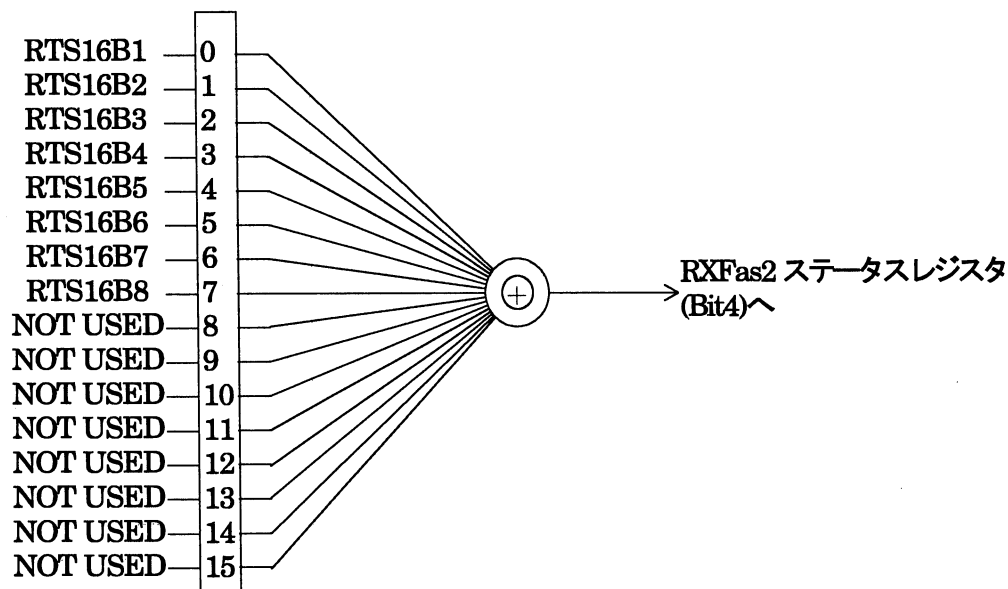


図 7.4-85 RXFBit19 ステータスレジスタ

表 7.4-86 RXFBit19 ステータスレジスタのビット定義

DB0	RTS16B1	(Rx TS16 frame0 Bit 1)	受信ラインの TS16 Frame0 ビット (ビット 1) が 1 であることを示します。
DB1	RTS16B2	(Rx TS16 frame0 Bit 2)	受信ラインの TS16 Frame0 ビット (ビット 2) が 1 であることを示します。
DB2	RTS16B3	(Rx TS16 frame0 Bit 3)	受信ラインの TS16 Frame0 ビット (ビット 3) が 1 であることを示します。
DB3	RTS16B4	(Rx TS16 frame0 Bit 4)	受信ラインの TS16 Frame0 ビット (ビット 4) が 1 であることを示します。
DB4	RTS16B5	(Rx TS16 frame0 Bit 5)	受信ラインの TS16 Frame0 ビット (ビット 5) が 1 であることを示します。
DB5	RTS16B6	(Rx TS16 frame0 Bit 6)	受信ラインの TS16 Frame0 ビット (ビット 6) が 1 であることを示します。
DB6	RTS16B7	(Rx TS16 frame0 Bit 7)	受信ラインの TS16 Frame0 ビット (ビット 7) が 1 であることを示します。
DB7	RTS16B8	(Rx TS16 frame0 Bit 8)	受信ラインの TS16 Frame0 ビット (ビット 8) が 1 であることを示します。

■ INSTRument ステータスレジスタ

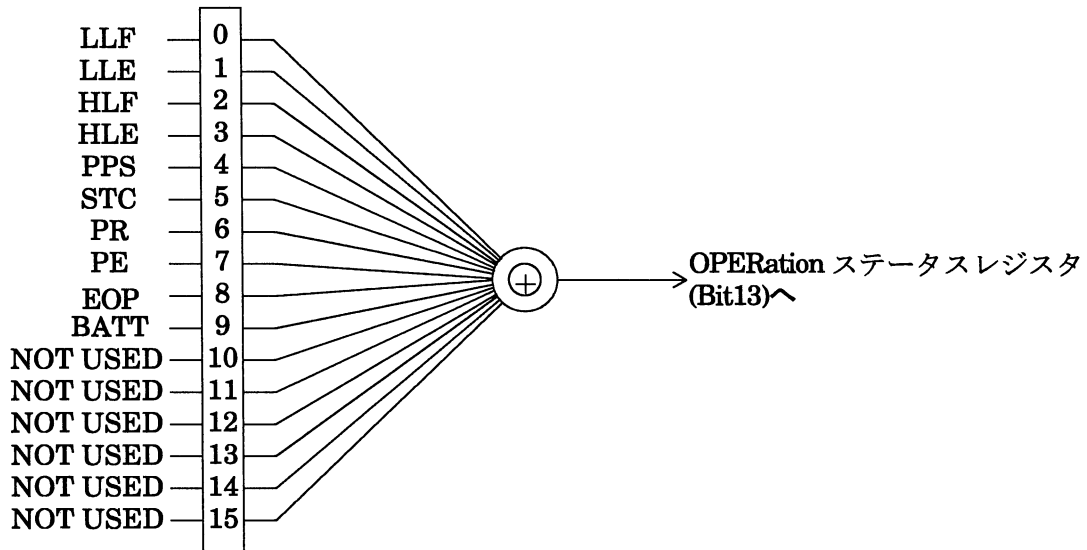


図 7.4-86 INSTRument ステータスレジスタ

表 7.4-87 INSTRument ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	LLF (Logging Log Full)	Logging ログがいっぱいになったことを示します。 ($\neg$ パルス状に発生)
DB1	LLE (Logging Log Empty)	Logging ログが空であることを示します。
DB2	HLF (Histogram Log Full)	Histogram ログがいっぱいになったことを示します。 ($\neg$ パルス状に発生)
DB3	HLE (Histogram Log Empty)	Histogram ログが空であることを示します。
DB4	PPS (Period Per Second)	1 秒周期タイミングを示します。 ($\neg$ パルス状に発生)
DB5	STC (Self Test Complete)	セルフテストが終了したことを示します。 ($\neg$ パルス状に発生)
DB6	PR (Print Now)	Print Now による印字中であることを示します。
DB7	PE (Printer Error)	プリンタエラーが発生したことを示します。 ($\neg$ パルス状に発生)
DB8	EOP (End Of Printer Period)	プリンタ中間印字タイミングを示します。 ($\neg$ パルス状に発生)
DB9	BATT (BATTery status register summary)	BATTery ステータスレジスタサマリです。

■ BATTery ステータスレジスタ

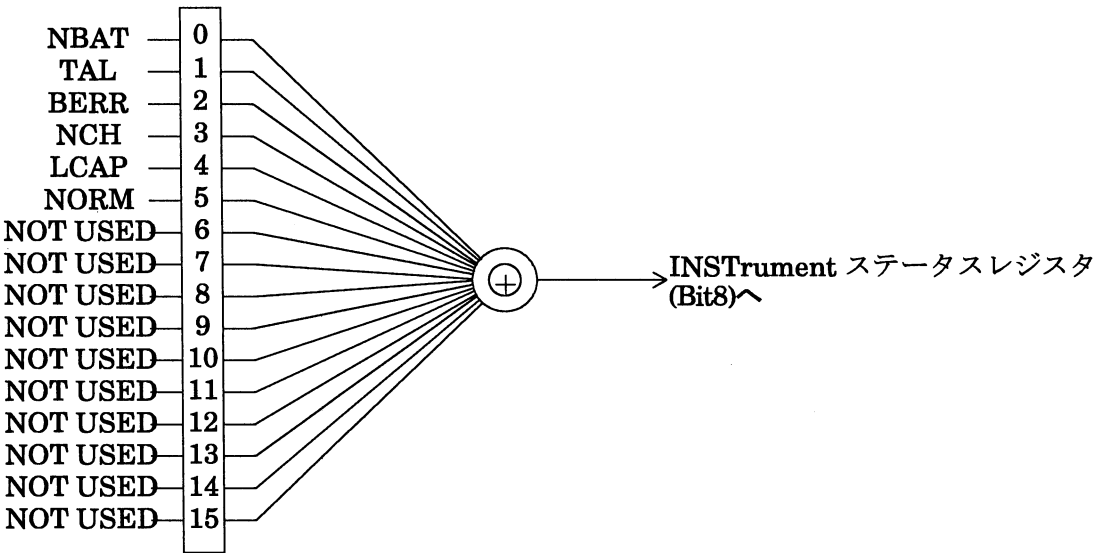


図 7.4-87 BATTery ステータスレジスタ

表 7.4-88 BATTery ステータスレジスタのビット定義

Bit	Mnemonic	Description
DB0	NBAT (No BATTery)	バッテリーなしであることを示します。
DB1	TAL (Temperature ALarm)	温度アラームであることを示します。
DB2	BERR (Battery ERRor)	バッテリー異常であることを示します。
DB3	NCH (Now CHarging)	充電中であることを示します。
DB4	LCAP (Low CAPacity)	要充電であることを示します。
DB5	NORM (NORMal)	放電中また満充電であることを示します。

8章 エラーメッセージ

8.1 コマンドエラー

エラーコード [-199, -100] は IEEE488.2 のシンタックスエラーが発生したことを示します。このとき、装置のイベントステータスレジスタの Bit5 がセットされます。

エラーは次のイベントがおこったとき発生します。

- IEEE488.2 の標準に反したメッセージを装置が受け取った場合
- 装置固有コマンド、共通コマンドの規定に従わないヘッダーを受け取った場合
- GET(Group Execute Trigger)がプログラムメッセージ内に送られた場合

表 8.1-1 コマンドエラーのエラーメッセージ

コード	メッセージ	エラー検出条件
-101	Invalid character	ヘッダやパラメータに無効な文字が含まれています。 例：ヘッダに#が含まれている場合。 :SENSe:TELEcom:#INTerface K192 パラメータに\$が含まれている場合。 :SENSe:TELEcom:INTerface K\$192
-104	Data type error	パラメータのタイプが指定されたタイプと異なっています。 例：パラメータが numeric データのコマンドにキャラクタデータを送った場合。 :SENSe:TELEcom:TSN B2
-105	GET not allowed	Group Execute Trigger がプログラムメッセージ内に送られました。(RS-232C では無視)
-108	Parameter not allowed	パラメータの数が指定された(必要な)数と異なります。 例：パラメータが1つのコマンドに2つ送った場合。 :SENSe:TELEcom:INTerface K192,V24 パラメータが必要なコマンドにパラメータを付けなかった場合。 :CALCulate:MDATa:SET
-112	Program mnemonic too long	プログラムニーモニックが12文字以上あります。 例：ヘッダのコロンが抜けていた場合。 :SENSe:TELEcomINTerface K192
-113	Undefined header	ヘッダの文法は正しいが、装置で定義されていません。 例：ヘッダを書き間違えた場合。 :SENSe:TELEcom:INTorface K192 呼制御オプションが無いのに、以下のコマンドを送った場合。 :SYSTem:DCONnect:START
-120	Numeric data error	numeric データ内にエラーがあります。
-121	Invalid character in number	numeric データの中に不適切な文字が含まれています。 例：numeric データの中に記号が含まれている場合。 :SENSe:TELEcom:TSN 3\$
-130	Suffix error	suffix 内にエラーがあります。 例：パラメータが numeric データのときに、間違えてデータの一部をローマ字にした場合。 :SENSe:TELEcom:TSN 3I
-144	Character data too long	キャラクタデータが12文字以上あります。
-150	String data error	ストリングデータが規定外です。 例：シングルクォーテーションとダブルクォーテーションが混ざっている場合。 :SENSe:TELEcom:BRATe 'BPS9600"

8.2 実行エラー

エラーコード [-299, -200] は装置の実行制御部でエラーが発生したことを示します。エラーが発生すると、イベントステータスレジスタの bit4 がセットされます。

エラーは次のイベントが起こったとき発生します。

- ヘッダに続く<PROGRAM DATA>が装置の規定外の場合
- プログラムメッセージが装置の状態により実行できない場合

表 8.2-1 実行エラーのエラーメッセージ

コード	メッセージ	エラー検出条件
-220	Parameter error	パラメータ内にエラーがあります。
-221	Setting conflict	パラメータとしては正しいが、装置の状態により、設定できません。
-222	Data out of range	数値データが装置の規定を越えています。 例： :SENSe:TELEcom:TSN 256 :SENSe:TELEcom:TSLot:TSASsign 0,1,2
-223	Too much data	ストリングデータの長さが規定長を越えています。 例：ストリングの長さが 8bit のパラメータに下のような設定をした場合。 :SOURce:TELEcom:ITSLot "010101010"
-224	Illegal parameter value	受け取ったパラメータは使用不可能です。 例：キャラクタデータが規定外の場合。 :SENSe:TELEcom:INTerface K191
-241	Hardware missing	オプションが未実装のため、コマンドが実行できません。
-250	Mass storage error	Floppy disk のエラーが発生しました。 Floppy disk に関する下記以外のエラーは本体エラーとなります。
-252	Missing media	Floppy disk が挿入されていません。
-254	Media full	Floppy disk の空き容量が足りません。
-258	Media protected	Floppy disk にライトプロテクトがされているため、書き込めません。

8.3 装置固有エラー

エラーコード [-399, -300] は装置がコマンドエラー，問い合わせエラー，実行エラー以外のエラーが発生したことを示します。ハードウェア，ファームウェアの故障や自己診断のエラーなどが含まれます。装置固有エラーが発生するとイベントステータスレジスタの Bit3 がセットされます。

表 8.3-1 装置固有エラーのエラーメッセージ

コード	メッセージ	エラー検出条件
-310	System error	システムのエラーが起きました。
-314	Save/recall memory lost	ローカルメモリが失われました。
-315	Configuration memory lost	リジュームメモリが失われました。
-330	Self-test failed	セルフテストに異常がありました。

8.4 問い合わせエラー

エラーコード [-499, -400] は装置の出力キュー制御でメッセージ交換制御プロトコルに関するエラーが発生したことを示します。このエラーが発生するとイベントステータスレジスタの Bit2 がセットされます。

エラーは次のイベントが起こったときに発生します。

- 出力が無いのに出力キューから読み込みを行おうとした場合
- 出力キューのデータが失われた場合

表 8.4-1 問い合わせエラーのエラーメッセージ

コード	メッセージ	エラー検出条件
-410	Query INTERRUPTED	装置が応答メッセージを送り終える前に，新しいコマンドによって割り込みが発生しました。 例：返答を完全にする前に*TRG が送られた場合。
-420	Query UNTERMINATED	読み込もうとする応答メッセージに対応した問い合わせが送られていません。また，問い合わせが完全に送信されていません。
-430	Query DEADLOCKED	格納空エリアより多くのデータの読み込みを行おうとしています。 例：入力，出力格納エリア共にいっぱい装置が測定を継続できない場合。

9章 サンプルプログラム

9.1 作成環境・概要

本章では、本器でのプログラム作成例を示します。

ホストコントローラとして、**IBM-PC/AT** またはその互換機を想定して作成しました。また、本サンプルプログラムは **Windows95®** 上で動作します。

記述言語は **Microsoft® Visual Basic® Version 4.0 Professional Edition** です。

本サンプルプログラムは、**RS-232C** または **GPIOB** のリモートインタフェースを介して本器を制御し、下記の機能を操作することができます。

- **Error/Alarm 測定**
テストパターンを送受信を行い、誤り測定を行います。同時に、アラーム状態を監視し、アラームの発生状況も取得します。測定結果取得周期は、1 秒間隔に設定されています。
- **Error 挿入**
エラーを挿入します。
- **Alarm 送出**
アラームを挿入します。**AIS** アラームおよび **RAI** アラームを挿入することができます。

本サンプルプログラムは、ナショナルインスツルメンツ社製 **GPIOB** ボード(**AT-GPIB/TNT(PNP)**)を使用しています。あらかじめ、**GPIOB** ボードの各種設定を以下のように行って下さい。

Interface Name	: GPIB0
GPIB Primary Address	: 0
GPIB Secondary Address	: NONE
I/O Timeout	: 10sec
System Controller	: Enable
Send EOI at end of Write	: Enable
Terminate Read on EOS	: Disable
Set EOI with EOS on Write	: Disable
8-bit EOS Compare	: Disable
EOS Byte	: 0
Bus Timing	: 2usec
Parallel Poll Duration	: Default
Cable Length for HS488	: Off
Automatic Serial Polling	: Enable
Assert REN when SC	: Enable
CIC Protocol	: Disable
Demand Mode DMA	: Disable

また、**GPIOB** のリモートインタフェースを使う場合、**GPIOB** ボード付属のダイナミックリンクライブラリ(**gpib-32.dll**)が必要です。

RS-232C のリモートインタフェースのみを使用する場合は、初期起動画面(「9.4 サンプルプログラムの実行」参照)において、**Comm1**~**Comm3** を選択してください。

注： 通常動作において本器からのレスポンスメッセージは、リモートコントローラからのクエリコマンドを受信するとすぐに返されます。しかし、通信環境によってはレスポンスメッセージが返ってこない場合があります。

そのため、リモートコントロール用のプログラムを開発する場合は、このような状況を想定する必要があります。

(たとえば、**time-out** のような経過時間監視機能を持たせます。)

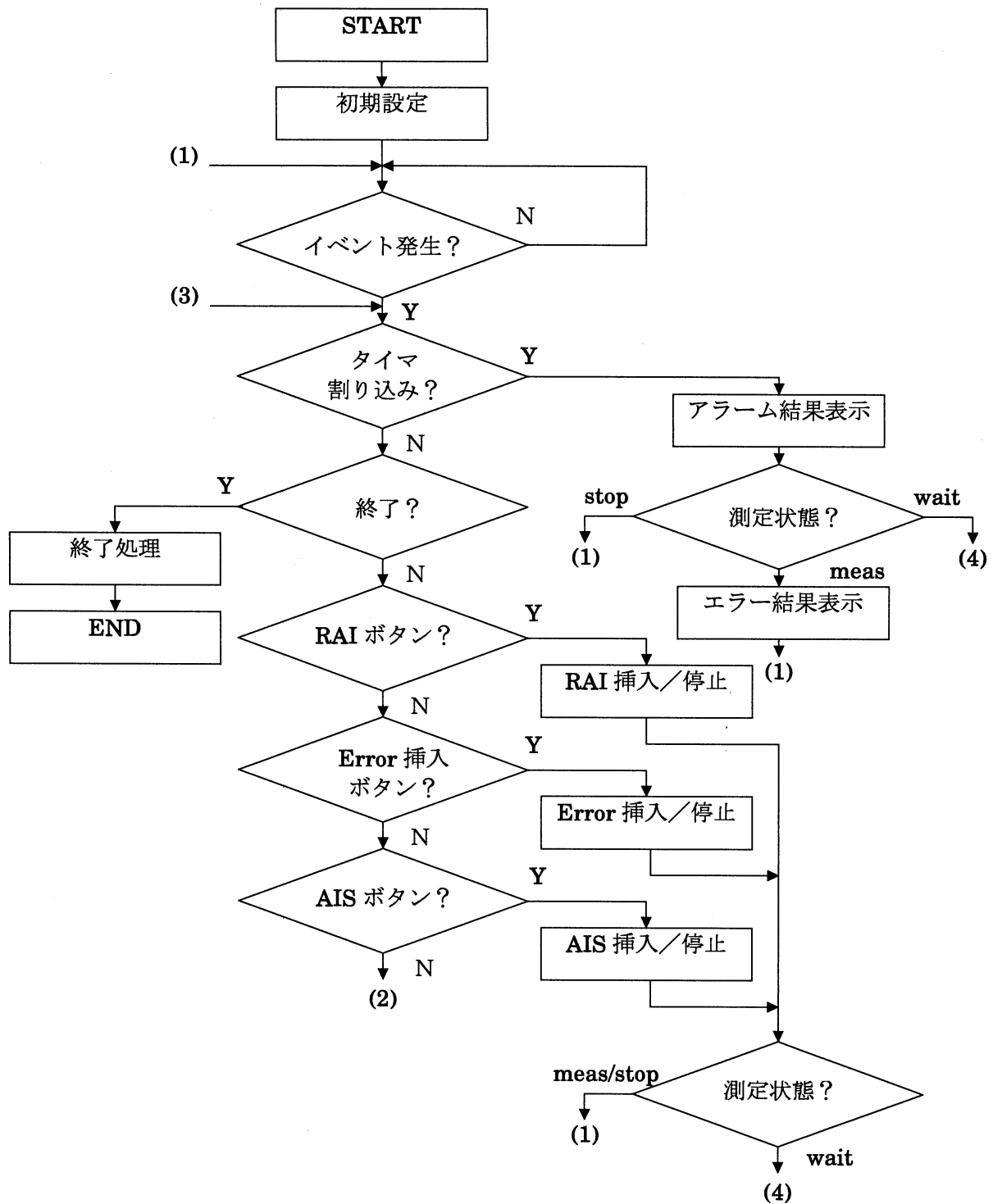
9.2 サンプルプログラム動作詳細

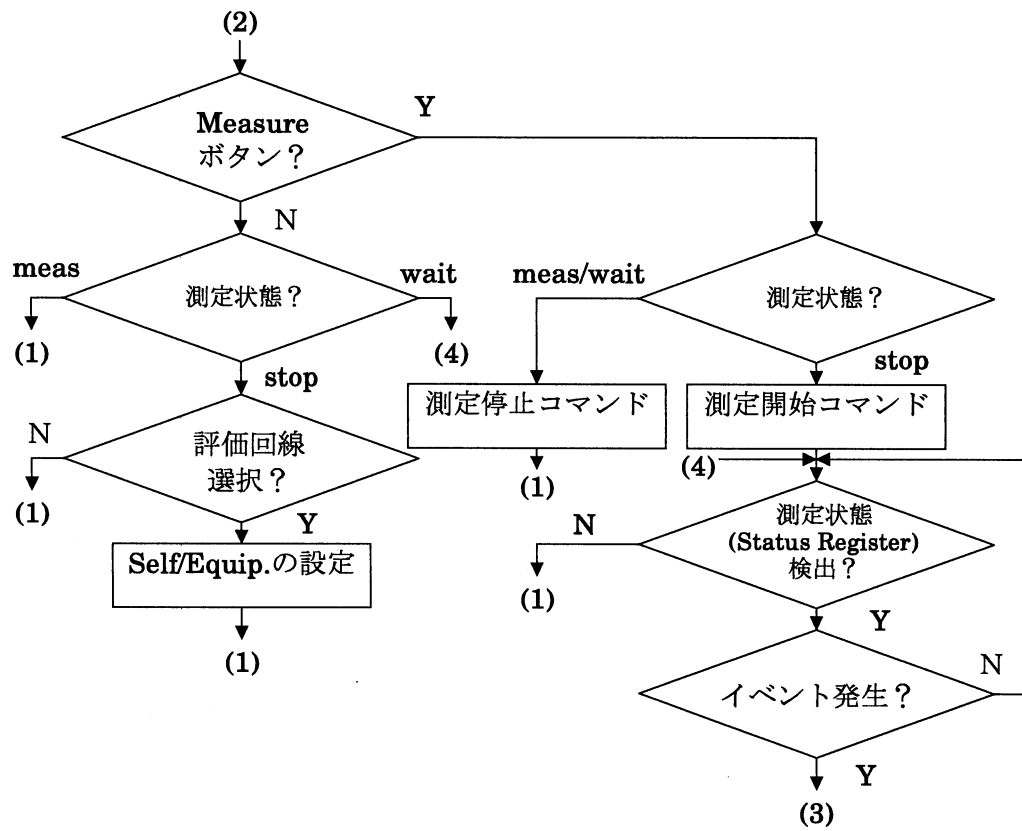
本サンプルプログラムは、大きく3つの状態をとります。

- (1) 本サンプルプログラムを起動すると、初期設定を経て、ボタン・タイマー割り込み・終了の各イベント待ち状態になります。タイマー割り込みの発生は周期的に行われ、共通アラームモニタ・信号線アラームモニタを監視し、フォーム上に配置されているランプに反映します。**Error/Alarm** 測定ボタンを押すと、(2)の状態に移ります。他のイベントが発生すると、各処理に移り終了するとボタン・タイマー割り込み・終了の各イベント待ち状態となります。
- (2) **Error/Alarm** 測定開始を行い測定状態を監視します。同時に、タイマー割り込み・ボタン・終了の各イベント待ち状態になります。
各処理を終了の後に測定状態を監視し、測定が停止していれば(1)に、PSL 確立待ち状態であれば(2)に、測定が開始されていれば(3)の状態に移ります。
- (3) **Error/Alarm** 測定が開始すると同時に、イベント・割り込み・終了の各イベント待ち状態に入ります。イベント待ち状態では、割り込みにより周期的にエラーカウント・エラーレート of 測定結果を取得と共通アラームモニタ・信号線アラームモニタを監視し、フォーム上の表示部に結果を反映します。
Error/Alarm 測定ボタンを押すと、測定を停止し(1)の状態に移ります。他のイベントが発生すると、各処理に移り終了するとボタン・タイマー割り込み・終了の各イベント待ち状態となります。

本サンプルプログラムが有する機能は、次ページのフローチャートで示されます。

9.2.1 フローチャート





9.3 サンプルプログラム及びサンプルプログラム・ソースのセットアップ

コントローラ上で、以下の手順に従ってサンプルプログラムおよびソースファイルをインストールしてください。

- (1) 他のアプリケーションを終了させてから、ウインドウズを再起動してください。
- (2) 添付の **Remote Sample Disk** を FDD に挿入してください。
- (3) スタートメニューから「ファイル名を指定して実行...」を選び、「A:¥SETUP.EXE」と入力して、「OK」ボタンを押してください。
- (4) 以下、画面の指示に従ってください。

正常にインストールが終了しますと、指定されたディレクトリに下記のファイルがコピーされます。

SAMPLE.EXE	FRMMAIN.FRM	FRMMAIN.FRX	SAMPLE.VBP
COMMON.BAS	RS232C.BAS	FRMSPORT.FRX	FRMSPORT.FRM
GPIB.BAS	GPIB_DEF.BAS		

これらのファイルのうち **SAMPLE.EXE** はサンプルプログラムの実行形式のファイルです。
また、**SAMPLE.VBP** は Visual Basic® Version 4.0 において、サンプルプログラムのソースファイルを管理するためのファイルです。ソースコードを参照する場合は **SAMPLE.VBP** を Visual Basic® Version 4.0 の「プロジェクトファイルを開く」から開いてください。

9.4 サンプルプログラムの実行

ここでは、サンプルプログラムの実行方法について述べます。
各画面の説明は「9.5画面の説明」に示します。

- (1) 「エクスプローラ」や「ファイル名を指定して実行」によりサンプルプログラムを実行すると、RS-232C または GPIB のポートを選択する画面が表示されます。

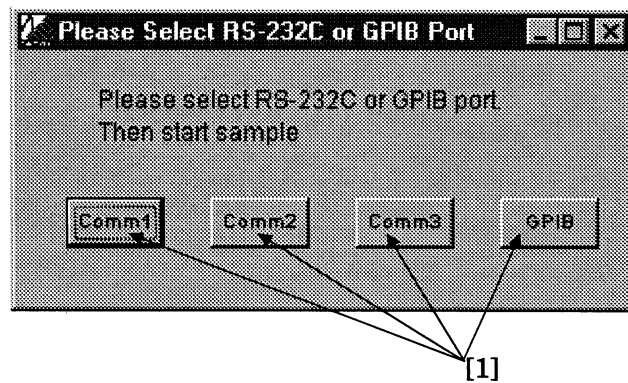


図 9.4-1 初期起動画面

- (2) リモートコントローラで使用するポートを[1]ポート選択ボタンから選び、ボタンをクリックします。
- (3) RS-232C/GPIB ポート選択画面が消え、サンプルプログラムメイン画面が表示されます。画面が表示された時点で、本器とのリモート制御が開始され、初期設定が始まります。初期設定として設定される項目は、「9.7サンプルプログラム本器設定条件」に示します。

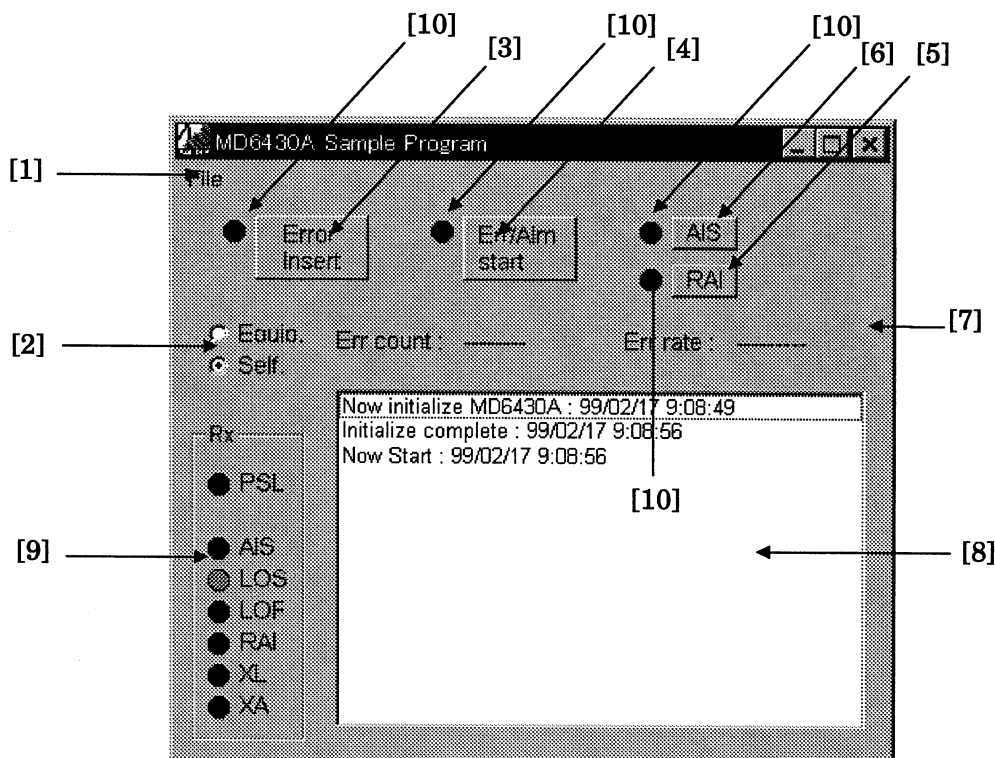


図 9.4-2 サンプルプログラムメイン画面

(4) 評価回線選択項目より，本器と被測定対象を決めます。初期設定が済み，測定開始待ち状態になります。

(5) エラー挿入，アラーム挿入を開始するには，以下の各ボタンをクリックします。

- ・ [3]Error Insert ボタン : エラー挿入・停止
- ・ [5]RAI ボタンと[6]AIS ボタン : アラーム挿入・停止

Error/Alarm 測定を開始・停止するには[4]ボタンをクリックしますが，ボタンは次の3つの状態を取ります。

- ・ **Err/Alm stop** ボタン : **Error/Alarm** 測定開始
- ・ **Err/Alm start** ボタン : **Error/Alarm** 測定停止
- ・ **wait** ボタン : **Error/Alarm** 測定開始の為の PSL 確立待ち状態

各状態のボタンをクリックすると次の状態に移ります。

- ・ **Err/Alm start** ボタン : **Error/Alarm** 測定開始
- ・ **Err/Alm stop** ボタン : **Error/Alarm** 測定停止
- ・ **wait** ボタン : **Error/Alarm** 測定停止

(6) 測定の開始・停止，エラー・アラームの挿入・停止による各動作は，[8]動作状態表示領域と[10]状態表示ランプ部に表示されます。

(7) **Error/Alarm** 測定による測定結果は[7]エラー測定結果表示部に示されます。

共通アラームモニタ及び信号線アラームモニタの各結果は[9]アラーム表示部に表示されます。

- (8) リモートの RS-232C または GPIB で Time out が発生した場合，その旨を伝えるエラーメッセージ画面が現れ，現在行われていた測定は無効となります。

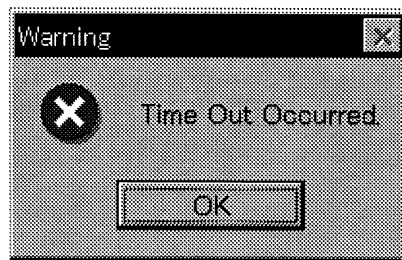


図 9.4-3 エラーメッセージ画面

- (9) 本サンプルプログラムを終了するには，[1]Exit 項目を選択します。

9.5 画面の説明

ここでは、サンプルプログラムの実行による各画面の説明をします。

- 初期起動画面

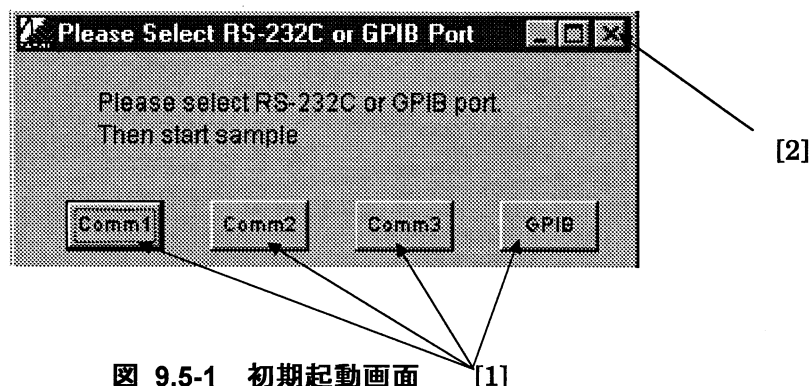


図 9.5-1 初期起動画面 [1]

NO.	項目	説明
[1]	ポート選択ボタン	本器をリモート制御するさいに用いる RS-232C/GPIB のポートを選択します。
[2]	閉じるボタン	初期起動画面を終了し、本サンプルプログラムを終了するためのボタンです。

● メインプログラム画面

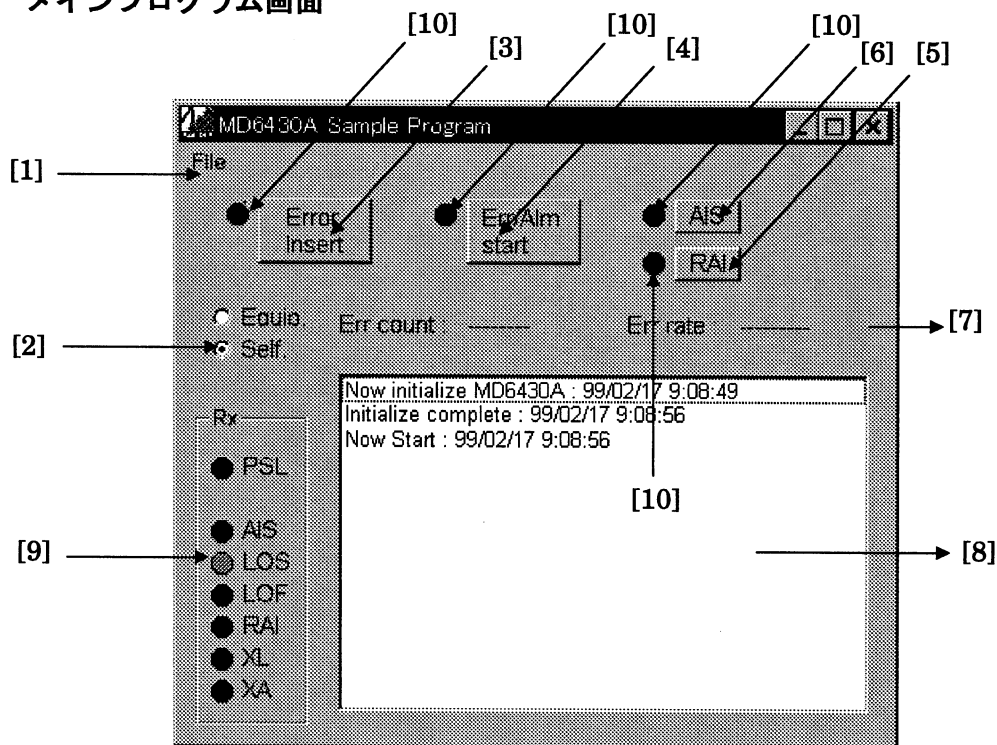


図 9.5-2 メインプログラム画面

NO.	項目	説明
[1]	メニューバー	「File」メニューの中に「Exit」項目があり、これを選択するとサンプルプログラムが終了します。
[2]	評価回線選択項目	本器の被測定対象として、 ・ 本器内部において送信から受信へと折り返す Self Loop (図中 Self .) ・ DSU などの被測定器と対向で接続する Equipment (図中 Equip .) の二つの方法から評価します。
[3]	Error Insert ボタン	Error の挿入もしくは停止を設定します。 ボタン左横のランプが 緑： Error 挿入中 黒：挿入停止 を示します。 ボタンをクリックするたびに、 Error 挿入／停止を交互に繰り返します。

NO.	項目	説明
[4]	Err/Alm start ボタン wait ボタン Err/Alm stop ボタン	<p>Error/Alarm 測定の開始, 停止を設定します。 ボタン上に配置されている文字により測定状態を示します。 Err/Alm start : 測定の停止中 wait : Error/Alarm 測定の PSL 確立待ち Err/Alm stop : 1 秒間隔で測定中</p> <p>Err/Alm start ボタンのときにクリックすると, 測定が開始待ちとなり wait ボタンになります。測定が始まると Err/Alm stop ボタンになります。wait ボタン及び Err/Alm stop ボタンのときにクリックすると, 測定が終了します。 また, ボタン上の文字によりボタン左横のランプは, Err/Alm start : 黒 wait : 緑 Err/Alm stop : 緑 を示します。</p>
[5]	RAI ボタン	<p>RAI アラームを送出もしくは停止を設定します。 ボタン左横のランプが 緑 : RAI アラームの送出 黒 : 挿入停止 を示します。 ボタンをクリックするたびに, RAI アラーム送出の開始/停止を交互に繰り返します。</p>
[6]	AIS ボタン	<p>AIS アラームを送出もしくは停止を設定します。 ボタン左横のランプが, 緑 : AIS アラームの送出 黒 : 挿入停止 を示します。 ボタンをクリックするたびに, AIS アラーム送出の開始/停止を交互に繰り返します。</p>
[7]	Error/Alarm 測定結果表示部	Error/Alarm 測定中の Error count , Error rate を表示します。
[8]	動作状態表示領域	現在の進行状況を示します。
[9]	アラーム表示部	<p>Error/Alarm 測定の PSL 確立待ち状態以外のときに, タイマ割り込みによって得られた共通アラームモニタ・信号線アラームモニタの情報を表示します。 更新は, 約 1 秒の周期で行われます。</p>
[10]	状態表示ランプ	現在の測定状態, Error もしくは Alarm の挿入・停止状態を示します。

● エラーメッセージ画面

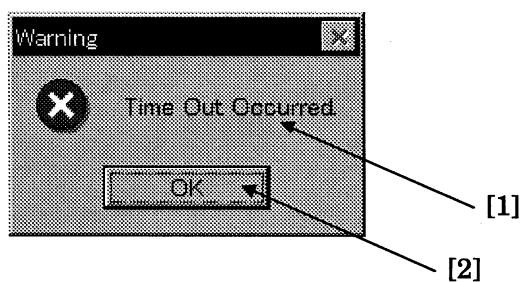


図 9.5-3 エラーメッセージ画面

NO.	項目	説明
[1]	メッセージ表示部	エラーメッセージとして、 ・ Time Out occurred.. ・ GPIB error!! iberr = xx 等が表示されます。
[2]	OK ボタン	メッセージ画面を閉じ、本プログラムを終了します。

9.6 プログラムの構成

本サンプルプログラムは2つのフォームモジュールと2つのコードモジュールから成ります。以下に各モジュールの概要を述べます。

- **frmSelectPort**

リモートインタフェースの選択・設定をするためのフォームです。本フォーム上に存在するコントロールとその概要を以下に述べます。

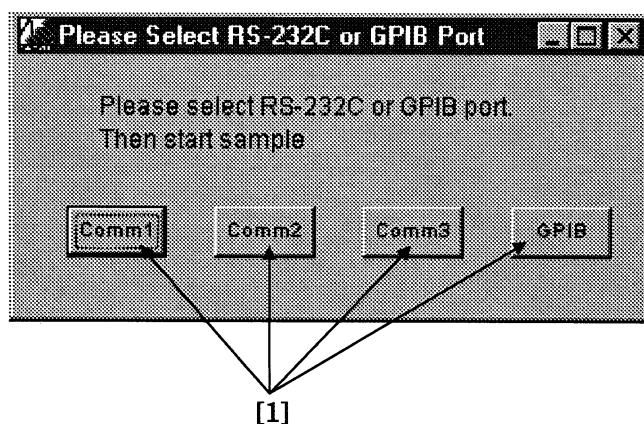


図 9.6-1 frmSelectPort フォーム（デザイン時）

表 9.6-1 frmSelectPort 上のコントロール

	種別	コントロール名	概要
[1]	ボタン	Port(1)～Port(3)	RS-232C のポート選択用のボタンです。
		Port(4)	GPIB のポート選択用のボタンです。

表 9.6-2 frmSelectPort のイベントハンドラ

イベントハンドラ名	概要
frmSelectPort_Load	プログラム実行時に一度だけ発生します。
Port(1)_Click	RS-232C のポートを Comm1 に設定し、フォームを終了します。終了後は、frmMain フォームに実行が移ります。
Port(2)_Click	RS-232C のポートを Comm2 に設定し、フォームを終了します。終了後は、frmMain フォームに実行が移ります。
Port(3)_Click	RS-232C のポートを Comm3 に設定し、フォームを終了します。終了後は、frmMain フォームに実行が移ります。
Port(4)_Click	GPIB のポートを設定し、フォームを終了します。終了後は、frmMain フォームに実行が移ります。

- **frmMain.frm**

本器に対してリモート制御を行い、結果を表示するためのフォームです。また、ユーザのメニュー選択により、サンプルプログラムの終了を行います。本フォーム上に存在するコントロールとその概要を以下に述べます。

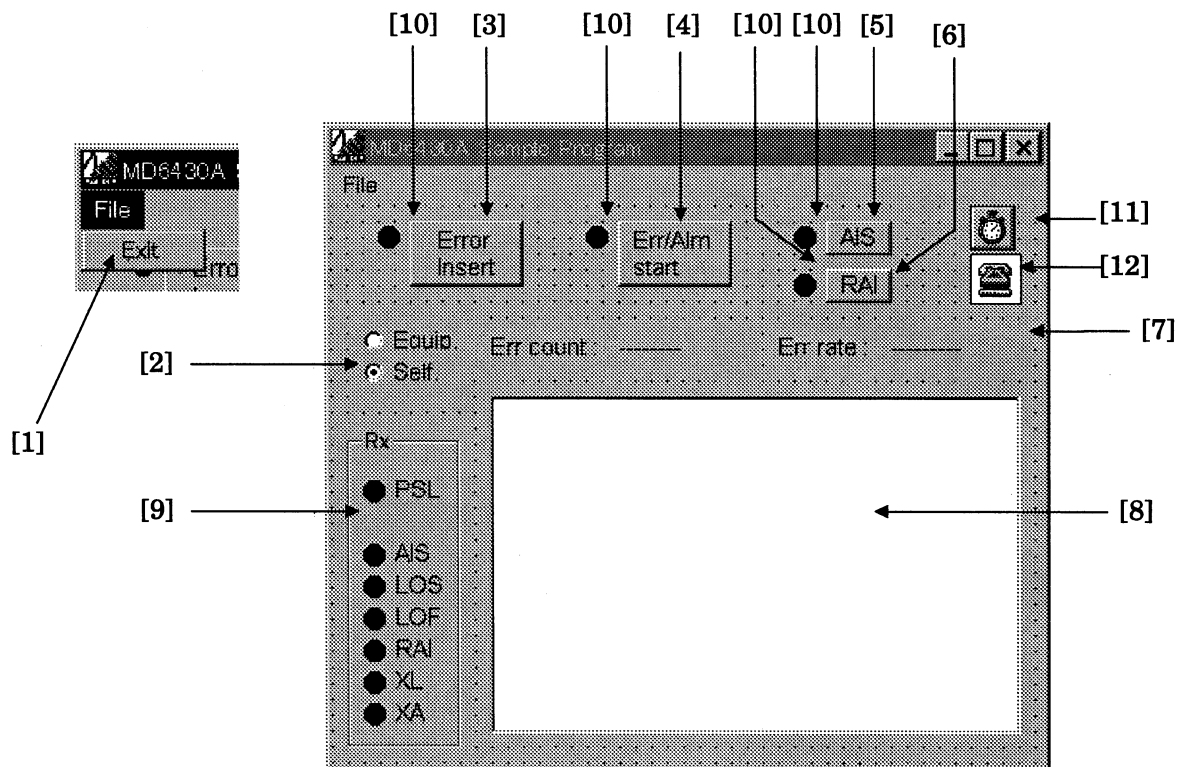


図 9.6-2 frmMain フォーム（デザイン時）

表 9.6-3 frmMain 上のコントロール

	種類	コントロール名	概要
[1]	メニュー	mnuExit	プログラムを終了させます。
[2]	オプションボタン	MObj(0)~MObj(1)	送信信号, 受信信号を本器内部で折り返す Self Loop か, モデム等の被測定器と対向で接続する Equipment のどちらかを選択します。
[3]	ボタン	CmdErrIns	Error 挿入/停止をします。
[4]	ボタン	CmdMeasure	Error/Alarm 測定を開始/停止します。
[5]	ボタン	CmdRAI	RAI アラームを送出/停止します。
[6]	ボタン	CmdAIS	AIS アラームを送出/停止します。
[7]	ラベル	LabelErrCount, LabelErrRate, ErrCount, ErrRate	Error/Alarm 測定中の Error Count, Error Rate を表示します。
[8]	リストボックス	lstRCmdRsp	現在の進行状況を示します。
[9]	ラベル	LmpPLS, LmpLOS, LmpLOF, LmpAIS, LmXA, LmpRAI, LmpXL	アラームの状況を表示します。
[10]	ラベル	LmpErrIns, LmpErrAlmmeas, LmpAISIns, LmpRAIIns	Error/Alarm 測定, アラーム挿入・停止, エラー挿入・停止の各状態を示します。
[11]	タイマー	Timer	測定結果, 共通アラームモニタ, 信号線アラームモニタを周期的に取得します。
[12]	コミュニケーション	Comm1	RS-232C のインタフェースです。

本フォームで発生するイベントを処理するイベントハンドラを以下の表にまとめます。

表 9.6-4 frmMain のイベントハンドラ

イベントハンドラ	概要
frmMain_Load	プログラム実行直後に一度だけ発生します。 フォームの初期化, RS-232C の初期化, 本器の初期化を行います。
mnuExit_Click	File メニューにて Exit が選択されたときに発生します。 本プログラムを終了します。
cmdErrIns_Click	[3]Error Ins. ボタンが押されたときに発生し, リモート制御を行います。
cmdErrAlmM_Click	[4]Error/Alarm measure ボタンが押されたときに発生し, リモート制御を行います。
cmdRAI_Click	[5]RAI ボタンが押されたときに発生し, リモート制御を行います。
cmdAIS_Click	[6]AIS ボタンが押されたときに発生し, リモート制御を行います。
Timer_Timer	Error/Alarm 測定結果, 共通アラームモニタと信号線アラームモニタの状態を周期的に取得するための割り込みにより発生します。

本フォームで使用する関数・手続きを以下の表にまとめます。

関数・手続き名	概要
Init_frmMain	本フレーム上で使用されている各コンポーネントの初期化を行います。
Init_MD6430A	リモート制御により MD6430A の初期化，初期設定を行います。
ErrAlmGet	Error/Alarm 測定結果，共通アラームモニタの状態，信号線アラームモニタの状態を取得します。
ErrAlmMstart	Error/Alarm 測定を開始
LmpAL	共通アラームモニタ，信号線アラームモニタの結果を本フォーム上に配置されているアラーム表示部に反映します。
MaskBottums	フォーム上のボタンをマスクします。
LogShow	現在の進行状況を示します。

- **Comm.bas**

リモートコマンドを送受信するための関数・手続きを定義しています。

関数・手続き名	概要
ReceiveResponse	リモートインタフェースから受信します。
SendCommand	リモートインタフェースへコマンドを送信します。
QuesCommand	クエリコマンドを送信し，レスポンスを受信します。
SYSTERR	設定コマンドを送信後に":SYST:ERR?"コマンドを送信し，そのエラーメッセージを返します。

- **RS232C.bas**

RS-232C インタフェースでリモートコマンドを送受信するための関数・手続きを定義しています。

関数・手続き	概要
Open_232C	RS-232C インタフェースを開きます。
Close_232C	RS-232C インタフェースを閉じます。
Out_232C	RS-232C インタフェースの送信バッファに文字列を格納します。
IN_232C	RS-232C インタフェースの受信バッファより文字列を取得します。

- **GPIB.bas**

GPIB インタフェースでリモートコマンドを送受信するための関数・手続きを定義しています。

関数・手続き	概要
Open_GPIB	GPIB インタフェースを開きます。
Close_GPIB	GPIB インタフェースを閉じます。
Out_GPIB	GPIB インタフェースの送信バッファに文字列を格納します。
IN_GPIB	GPIB インタフェースの受信バッファより文字列を取得します。
Error_Msg	GPIB インタフェースに関するエラーメッセージを表示します。

- **GPIB_Def.bas**

GPIB ボードを使用するための各種定義を記述しています。

9.7 サンプルプログラム本器設定条件

本サンプルプログラムは、実行後に本器を以下の状態に設定します。

この設定は、本器内部での **SelfLoop** を基準にした記述となっています。DSU 等を対向としたネットワーク網への接続による試験を行う場合等においては、本器もしくは各機器を、測定環境に合った条件で設定を行ってください。

- 本器の設定条件
使用インタフェース : G. 704 / I.431 1.544M
インタフェース入出力 : lout / lin

表 9.7-1 Setup Interface G.704 / I.431 1.544M 設定

項目	Test Mode
設定	Lease

表 9.7-2 インタフェース条件

項目	Interface	code	Frame	Internal Freq. source	Time slot	Data bit rate
Tx	G. 704 / I.431 1.544M	B8ZS	24MFP(G.704)	Self	TSn=1	64k×24 =1536k
Rx	*1	B8ZS	24MFP(G.704)		TSn=1	64k×24 =1536k

*1) 測定環境により、Self Loop もしくは Same

項目	bit steal	Voice channel	Idle time slot	Input level
Tx	off	off	11111111	
Rx	off	off		Main

表 9.7-3 測定条件 : Error / Alarm 測定

項目	Test Pattern	PRBS Invert	PSL Threshold	Error Detect	Block length	Mode	Program Start
設定	PRBS20	off	Auto	Bit	1.0E01	Repeat : 1 秒	off

項目	Master/ Slave	Octet pattern	Logging line	Histogram line	Histogram resolution	Performance	HDLC Frame Detect
設定		11111111	off	off	off	off	off

項目	Frame relay detect
設定	

表 9.7-4 Error 挿入

項目	ERR Type	Ins. rate
設定	bit	1.0E-03

表 9.7-5 RS-232C リモート設定

項目	Speed	Character length	Parity	Stop bit	Flow Control
設定	9600bit/s	8 bit	None	1 bit	XOn/XOff

表 9.7-6 GPIB リモート設定

項目	Address
設定	1

9.8 ソースプログラム

- frmSelectPort.frm

```
Private Sub Command1_Click()  
    'RS-232C Port1  
    frmMain.Tag = "RS232C_1"  
    Unload Me  
End Sub  
  
Private Sub Command2_Click()  
    'RS-232C Port2  
    frmMain.Tag = "RS232C_2"  
    Unload Me  
End Sub  
  
Private Sub Command3_Click()  
    'RS-232C Port3  
    frmMain.Tag = "RS232C_3"  
    Unload Me  
End Sub  
  
Private Sub Command4_Click()  
    'GPIB  
    frmMain.Tag = "GPIB"  
    Unload Me  
End Sub  
  
Private Sub Form_Load()  
    frmMain.Tag = ""  
End Sub  
  
Private Sub Form_Unload(Cancel As Integer)  
    If frmMain.Tag = "" Then  
        End  
    End If  
End Sub
```

- frmMain.frm

```

Private Sub cmdAIS_Click()
    Dim Rsp$
    MaskButtons (False)
    'Insert AIS Alarm
    If LmpAISIns.FillColor = QBColor(0) Then
        Rsp$ = SendCommand(":SOUR:TEL:ALAR:AIS 1")
        Do
            Rsp$ = QuesCommand(":SOUR:TEL:ALAR:AIS?")
        Loop While Val(Rsp$) = 0
        LmpAISIns.FillColor = QBColor(10)
        LogShow ("AIS : On")
    Else
        Rsp$ = SendCommand(":SOUR:TEL:ALAR:AIS 0")
        Do
            Rsp$ = QuesCommand(":SOUR:TEL:ALAR:AIS?")
        Loop While Val(Rsp$) = 1
        LmpAISIns.FillColor = QBColor(0)
        LogShow ("AIS : Off")
    End If
    MaskButtons (True)
End Sub

Private Sub cmdErrIns_Click()
    Dim Rsp$
    MaskButtons (False)
    'Insert Error set or reliece
    If LmpErrIns.FillColor = QBColor(0) Then
        Rsp$ = SendCommand(":SOUR:TEL:ERR:STAR")
        Do
            Rsp$ = QuesCommand(":SOUR:TEL:ERR:STAT?")
        Loop While Val(Rsp$) = 0
        LmpErrIns.FillColor = QBColor(12)
        LogShow ("Error Insert : On")
    Else
        Rsp$ = SendCommand(":SOUR:TEL:ERR:STOP")
        Do
            Rsp$ = QuesCommand(":SOUR:TEL:ERR:STAT?")
        Loop While Val(Rsp$) = 1
        LmpErrIns.FillColor = QBColor(0)
        LogShow ("Error Insert : Off")
    End If
    MaskButtons (True)
End Sub

```

```

Private Sub CmdMeasure_Click()
    Dim Rsp$
    MaskButtons (False)
    'Measure Error/Alarm periodical
    If CmdMeasure.Caption = "Err/Alm start" Then
        Rsp$ = SendCommand(":SENS:MEAS:EAL:STAR")
        Do
            Rsp$ = QuesCommand(":SENS:MEAS:EAL:STAT?")
        Loop While Rsp$ = "STOP"
        LogShow ("Measure start")
        CmdMeasure.Caption = "Wait"
        LmpErrAlmmeas.FillColor = QBColor(10)
        ErrCount.Caption = "-----"
        ErrRate.Caption = "-----"
        MaskButtons (True)
        ErrAlmMstart 'Ready for measuring Error/Alarm
    Else
        Rsp$ = SendCommand(":SENS:MEAS:EAL:STOP")
        Do
            Rsp$ = QuesCommand(":SENS:MEAS:EAL:STAT?")
        Loop While Rsp$ <> "STOP"
        CmdMeasure.Caption = "Err/Alm start"
        LmpErrAlmmeas.FillColor = QBColor(0)
        LogShow ("Measure stop")
        Rsp$ = QuesCommand(":SENS:MEAS:EAL:STAT?")
        ErrAlmGet ' Get Error Count, Error Rate and Alarm Monitor
    End If
    MaskButtons (True)
End Sub

Private Sub cmdRAI_Click()
    Dim Rsp$
    MaskButtons (False)
    'Insert RAI Alarm
    If LmpRAIIns.FillColor = QBColor(0) Then
        Rsp$ = SendCommand(":SOUR:TEL:ALAR:RAI 1")
        Do
            Rsp$ = QuesCommand(":SOUR:TEL:ALAR:RAI?")
        Loop While Val(Rsp$) = 0
        LmpRAIIns.FillColor = QBColor(10)
        LogShow ("RAI : On")
    Else
        Rsp$ = SendCommand(":SOUR:TEL:ALAR:RAI 0")
        Do
            Rsp$ = QuesCommand(":SOUR:TEL:ALAR:RAI?")
        Loop While Val(Rsp$) = 1
        LmpRAIIns.FillColor = QBColor(0)
        LogShow ("RAI : Off")
    End If
    MaskButtons (True)
End Sub

```



```
Private Sub Form_Load()  
    'initial  
    MaskButtons (False)  
    Init_frmMain  
    'Open RS-232C or GPIB Port  
    frmSelectPort.Show 1  
    frmMain.Show  
    Select Case frmMain.Tag  
    Case "RS232C_1"  
        Comm1.CommPort = 1  
        Open_232C  
    Case "RS232C_2"  
        Comm1.CommPort = 2  
        Open_232C  
    Case "RS232C_3"  
        Comm1.CommPort = 3  
        Open_232C  
    Case "GPIB"  
        Open_GPIB  
    End Select  
    'Init_MD6430A  
    Init_MD6430A  
    LogShow ("Now Start")  
    Timer.Interval = 200  
    Timer.Enabled = True  
    MaskButtons (True)  
End Sub  
  
Public Sub Init_frmMain()  
    'form clear  
    lstLog.Text = Chr(0)  
    MObj(1).Value = True  
End Sub
```

```

Public Sub Init_MD6430A()
    Dim Rsp$
    LogShow ("Now initialize MD6430A")
    'Set first condition
    Rsp$ = SendCommand("*CLS")
    Rsp$ = SendCommand("*RST")
    Rsp$ = SendCommand(":SYST:MEM:REC 0")
    'set to watch measurement timing
    Rsp$ = SendCommand(":STAT:OPER:INST:PTR 16") 'PTRanstion bit 4 set to 1
    Rsp$ = SendCommand(":STAT:OPER:INST:NTR 0") 'NTRanstion bit 4 set to 0
    Rsp$ = SendCommand(":STAT:OPER:INST:ENAB 16") 'ENABLE bit 4 set
    'set interface, measure/alarm and ErrIns
    Rsp$ = SendCommand(":SOUR:TEL:INT M1_5")
    Rsp$ = SendCommand(":SOUR:TEL:TSL:DBRN 24")
    Rsp$ = SendCommand(":SENS:TEL:INT SLO")
    Rsp$ = SendCommand(":SENS:TEL:TSL:DBRN 24")
    Rsp$ = SendCommand(":SOUR:TEL:ERR:ERAT CYCL")
    Rsp$ = SendCommand(":SOUR:TEL:ERR:ERAT:RATE '1,3")
    Rsp$ = SendCommand(":SENS:MEAS:EAL:TPAT 'PRBS20")
    Rsp$ = SendCommand(":SENS:MEAS:EAL:TYPE MAN")
    Rsp$ = SendCommand(":SENS:MEAS:EAL:LLIN OFF")
    Rsp$ = SendCommand(":SENS:MEAS:EAL:HLIN OFF")
    'set Err&Alarm monitoring
    Rsp$ = SendCommand(":CALC:MDAT:SET 'RX:ERR")

    LogShow ("Initialize complete")
End Sub

Private Sub Form_Unload(Cancel As Integer)
    Select Case frmMain.Tag
        Case "RS232C_1"
            Close_232C
        Case "RS232C_2"
            Close_232C
        Case "RS232C_3"
            Close_232C
        Case "GPIB"
            Close_GPIB
    End Select
End Sub

Private Sub mnuExit_Click()
    Unload Me
End Sub

```

```

Private Sub MObj_Click(Index As Integer)
    Dim Rsp$
    MaskButtons (False)
    'Select Selfloop or Same Interface that Rx Interface
    MObj(Index).Value = True
    If Index = 0 Then
        Rsp$ = SendCommand(":SENS:TEL:INT SAME")
        Do
            Rsp$ = QuesCommand(":SENS:TEL:INT?")
        Loop While Rsp$ = "SLO"
    Else
        Rsp$ = SendCommand(":SENS:TEL:INT SLO")
        Do
            Rsp$ = QuesCommand(":SENS:TEL:INT?")
        Loop While Rsp$ <> "SLO"
    End If
    MaskButtons (True)
End Sub

```

```

Private Sub Timer_Timer()
    Dim Rsp$
    Dim StatusFlag As Integer

    If CmdMeasure.Caption = "Err/Alm stop" Then
        Rsp$ = QuesCommand(":STAT:OPER:INST?")
        StatusFlag = Val(Rsp$) And 16
        If StatusFlag <> 0 Then
            ErrAlmGet
        End If
    End If
    LmpAL
End Sub

```

```

Public Sub LogShow(msg$)
    Dim MsgBuf$
    Dim lstcount
    lstLog.AddItem msg$ + " : " + Str(Now)
    lstcount = lstLog.ListCount
    lstLog.TopIndex = lstcount - 1
End Sub

```

```

Sub LmpAL()
    Dim Rsp$
    Dim LmpStat

    'Alarm Lump Status
    Rsp$ = QuesCommand(":STAT:QUES:TEL:MON:SAL5:COND?")
    LmpStat = Val(Rsp$)
    LmpLOS.FillColor = QBColor((LmpStat And 1) * 10) 'LOS
    LmpAIS.FillColor = QBColor((LmpStat And 2) / 2 * 10) 'AIS
    LmpXL.FillColor = QBColor((LmpStat And 4) / 4 * 10) 'XL
    LmpXA.FillColor = QBColor((LmpStat And 8) / 8 * 10) 'XA
    LmpLOF.FillColor = QBColor((LmpStat And 32) / 32 * 10) 'LOF
    LmpRAI.FillColor = QBColor((LmpStat And 256) / 256 * 10) 'RAI

    Rsp$ = QuesCommand(":STAT:QUES:TEL:MON:COMM:COND?")
    LmpStat = Val(Rsp$)
    LmpPSL.FillColor = QBColor((LmpStat And 512) / 512 * 10) 'PSL
End Sub

Public Sub ErrAlmGet()
    Dim Rsp$
    Dim RspLen
    Dim ushiro, mae, count
    Dim itemNo
    count = 1
    mae = 1
    itemNo = 1

    'Get Error Count and Error Rate
    Rsp$ = QuesCommand(":CALC:MDAT? CURR")
    RspLen = Len(Rsp$)
    If Rsp$ <> "" Then
        Do
            buf = Mid(Rsp$, count, 1)
            If buf = "," Then
                ushiro = count
                buf = Mid(Rsp$, mae + 1, ushiro - mae - 1)
                Select Case itemNo
                    Case 11      'Error Count
                        ErrCount.Caption = Mid(buf, 2, 9)
                    Case 12      'Error Rate
                        ErrRate.Caption = Mid(buf, 2, 9)
                End Select
                mae = ushiro
                itemNo = itemNo + 1
            End If
            count = count + 1
        Loop While count < RspLen - 1
    End If
End Sub

```

```

Public Sub ErrAlmMstart()
    Dim Rsp$
    Dim dummy

    'Ready for measuring Error/Alarm
    Do
        Rsp$ = QuesCommand(":SENS:MEAS:EAL:STAT?")
        If Rsp$ = "STAR" Then 'Start to Measure Error/Alarm
            CmdMeasure.Caption = "Err/Alm stop"
            LmpErrAlmmeas.FillColor = QBColor(10)
        End If
        dummy = DoEvents()
    Loop While Rsp$ = "PSLW"
    Timer.Interval = 0
    Timer.Interval = 200
End Sub

Public Function MaskButtons(MaskEnable As Boolean)
    Dim MObj_v As Boolean
    cmdErrIns.Enabled = MaskEnable
    cmdRAI.Enabled = MaskEnable
    cmdAIS.Enabled = MaskEnable
    CmdMeasure.Enabled = MaskEnable
    If CmdMeasure.Caption = "Err/Alm start" Then
        MObj_v = MObj(0).Value
        MObj(0).Enabled = MaskEnable
        MObj(1).Enabled = MaskEnable
        MObj(0).Value = MObj_v
    End If
End Function

```

● COMMON.bas

```

Function ReceiveResponse() As String
    Dim buf
    If frmMain.Tag <> "GPIB" Then
        ReceiveResponse = IN_232C()
    Else
        ReceiveResponse = IN_GPIB()
    End If
    If ReceiveResponse = "" Then
        buf = "Time Out Occurred."
        MsgBox (buf), vbOKOnly + vbCritical, "Warning"
        If frmMain.Tag <> "GPIB" Then
            Close_232C
        Else
            Close_GPIB
        End If
    End If
End Function

Function SendCommand(Cmd As String) As String
    Dim Rsp$
    Dim dummy

    'Send Set Command and Receive Error Query
    If frmMain.Tag <> "GPIB" Then
        Out_232C (Cmd)
        Out_232C (":SYST:ERR?")
        Rsp$ = ReceiveResponse()
        If Rsp$ <> "0," & Chr$(34) & "No error" & Chr$(34) Then
            frmMain.LogShow (Cmd)
            frmMain.LogShow (Rsp$)
        End If
        SendCommand = SYSTERR(Rsp$) 'Error Code
    Else
        Out_GPIB (Cmd)
    End If
    dummy = DoEvents()
End Function

Public Function SYSTERR(ErrMsg)
    Dim ErrMsgLen As Integer
    For ErrMsgLen = 1 To 5
        If Mid(ErrMsg, ErrMsgLen) = "," Then
            SYSTERR = Val(Mid(ErrMsg, 1, ErrMsgLen - 1))
        End If
    Next ErrMsgLen
End Function

```

```
Public Function QuesCommand(Cmd) As String
    Dim dummy

    'Send Query Command and Receive Response Message
    If frmMain.Tag <> "GPIB" Then
        Out_232C (Cmd)
    Else
        Out_GPIB (Cmd)
    End If
    QuesCommand = ReceiveResponse()
    dummy = DoEvents()
End Function
```

● RS232C.bas

```

Sub Open_232C()
    If frmMain.Comm1.PortOpen = True Then Exit Sub
    frmMain.Comm1.Settings = "9600,n,8,1" '9600bps, none, 8bit, 1bit
    frmMain.Comm1.Handshaking = comXOnXoff 'flow control
    frmMain.Comm1.PortOpen = True
End Sub

Sub Out_232C(outstr$)

    'Put on the output buffer
    frmMain.Comm1.Output = outstr$ & Chr(10)

End Sub

Function IN_232C() As String
    Dim receive_str$
    Dim timeout&
    Dim i%
    Dim Nowtime

    'Initilize Values
    receive_str$ = ""
    i% = 0

    'Input Response Input Buffer
    Nowtime = Val(Second(Time))
    While i% = 0
        While frmMain.Comm1.InBufferCount <> 0
            receive_str$ = receive_str$ + frmMain.Comm1.Input
            If Err Then Error Err
        Wend
        i% = InStr(receive_str$, Chr$(10)) 'Termination: LF(&H0A)
        timeout& = Val(Second(Time))
        If (timeout& - Nowtime) > 5 Then Exit Function
        If (timeout& - Nowtime) < 0 Then
            If (timeout& + 60 - Nowtime) > 5 Then Exit Function
        End If
    Wend
    IN_232C = Left$(receive_str$, i - 1)

End Function

Sub Close_232C()
    If frmMain.Comm1.PortOpen = False Then Exit Sub
    frmMain.Comm1.PortOpen = False
End Sub

```


● GPIB.bas

```

Public gpib0 As Integer
Public Const BordNum = 0
Public Const GAdd = 1

Sub Open_GPIB()
    'Open device for GPIB
    Call ibdev(BordNum, 0, 0, T10s, 1, 0, gpib0%)
    If ibsta% < 0 Then Call Error_Msg
    Call SendIFC(BordNum)
    If ibsta% < 0 Then Call Error_Msg

End Sub

Sub Out_GPIB(outstr$)
    ReDim addr_list%(2)

    'Put on the output buffer
    addr_list%(0) = GAdd
    addr_list%(1) = NOADDR
    Call Send(BordNum, addr_list%(0), ostr$, NLen)
    If ibsta% < 0 Then Call Error_Msg

End Sub

Function IN_GPIB() As String
    Dim receive_str$
    Dim i%
    ReDim addr_list%(2)

    'Initilize Values
    receive_str$ = ""

    'Input Response Input Buffer
    addr_list%(0) = GAdd
    addr_list%(1) = NOADDR
    receive_str$ = Space$(256)
    Call Receive(BordNum, addr_list%(0), receive_str$, STOPend)
    If ibsta% < 0 Then Call Error_Msg

    'CR/LF detect
    i% = InStr(receive_str$, Chr$(13))
    If i% = 0 Then i% = InStr(receive_str$, Chr$(10))
    IN_GPIB = Left$(receive_str$, i% - 1)

End Function

Sub Close_GPIB()
    Call ibonl(BordNum, 0)
End Sub

```

9章 サンプルプログラム

```
Sub Error_Msg()  
    Dim err_msg$  
  
    err_msg$ = "GPIB error !!" & Chr$(&HA)  
    err_msg$ = err_msg$ & "iberr = " & Str$(iberr%)  
    MsgBox (err_msg$), vbCritical, "Warning"  
    Close_GPIB  
End  
End Sub
```

付 録

付録

(空白)

付録 A コマンドの一覧表

本器のコマンドを画面ごとに一覧表の形で説明します。ここでは、問い合わせコマンドの記述はしません。（対応するプログラムコマンドが存在しない場合は問い合わせコマンドを記述します。）パラメータタイプや内容についても詳細は、6章を参照してください。

A.1 MD6430A 画面

表 A.1-1 MD6430A 画面のコマンドの一覧表

設定項目		コマンド
Setup 主画面	Input/Output 副画面	:DISPlay:DSElect[:NAME]
	Memory 副画面	
	System 副画面	
	Print 副画面	
	Floppy disk 副画面	
	Option/Revision 副画面	
Measure 主画面	Error/Alarm 副画面	
	Frame relay 副画面	
	Delay 副画面	
	Frequency 副画面	
	Digital level 副画面	
	Word trace 副画面	
Analyze 主画面	Error/Alarm 副画面	
	Trace data 副画面	
	Protocol monitor 副画面	
	Recall 副画面	

A.2 Setup 主画面

■ Input/Output 副画面

表 A.2-1 Input/Output 副画面のコマンド一覧表

設定項目	コマンド
Input/Output	:SYSTem:IOUtpuT[:TYPE]

■ Memory 副画面

表 A.2-2 Memory 副画面のコマンド一覧表

設定項目	コマンド
Measurement condition	:SYSTem:MEMory:RECall
	:SYSTem:MEMory:STORe
	:SYSTem:MEMory:RESTore
	:SYSTem:MEMory:CLear
	:SYSTem:MEMory:LABel
	:SYSTem:MEMory:INITial
Analyze&Programmable data	:SYSTem:MEMory:ANALysis:RECall
	:SYSTem:MEMory:ANALysis:CLear
	:SYSTem:MEMory:ANALysis:LABel
	:SYSTem:MEMory:ANALysis:AClear

■ System 副画面

表 A.2-3 System 副画面のコマンド一覧表(1/3)

設定項目		コマンド
Common/Interface		:DISPlay:SYSTem[:NAME]
Buzzer	Touch key	:SYSTem:BUZZer:TKEY
	Operation error	:SYSTem:BUZZer:OERRor
	Error & Alarm	:SYSTem:BUZZer:EALarm
Date & Time adjust	(Date)	:SYSTem:DATE
	(Time)	:SYSTem:TIME
Remote Interface	RS-232C Function	RS-232C/GPIB インタフェース設定のための シーケンシャルコマンドはありません。
	Speed	
	Character length	
	Parity	
	Stop bit	
	Flow control	
	Adress	
CODEC	Speaker & Headset Vol.	:SYSTem:CODeC:SVOLume
	Speaker enable	:SYSTem:CODeC:SENable
	PCM Code	:SYSTem:CODeC:PCODE
	Power save	:SYSTem:PSAVe[:SET]
	min	:SYSTem:PSAVe:PERiod
Error count condition	Bit EC with clock slip	:SYSTem:ECOut:BCLock
	Bit EC with PSL	:SYSTem:ECOut:BPSL
ISDN	signaling protocol	:SYSTem:ISDN:SPRotocol
Frame relay	PVC	:SYSTem:FRELay:PVC
Interface type		:DISPlay:SYSTem:ITYPE
V/X Interface	to DTE/DCE	:SYSTem:INTErface:VXTCmos:DTCE
TTL/CMOS Interface	Term impedance	:SYSTem:INTErface:VXTCmos:TIMPedance
G.703 64k Interface	Type of interface	:SYSTem:INTErface:K64:TINTer

表 A.2-4 System 副画面のコマンド一覧表(2/3)

設定項目			コマンド
I.430/I.340-a 192k Interface	Test mode		:SYSTem:INTerface:K192:TMODe
	Connection		:SYSTem:INTerface:K192:CONNection
	TEI		:SYSTem:INTerface:K192:TEI
	TEI Value		:SYSTem:INTerface:K192:TVALue
	Term impedance		:SYSTem:INTerface:K192:TIMPedance
	Power feed threshold		:SYSTem:INTerface:K192:PFEed
	Call loop		:SYSTem:INTerface:K192:CLOOp
	ISDN Data	Remote	Number :SYSTem:INTerface:K192:IDATa:RNUMber
			Subaddress :SYSTem:INTerface:K192:IDATa:RSUBaddress
			Channel :SYSTem:INTerface:K192:IDATa:RCHannel
		Local	Subaddress :SYSTem:INTerface:K192:IDATa:LSUBaddress
			Channel :SYSTem:INTerface:K192:IDATa:LCHannel
	ISDN Voice	Remote	Number :SYSTem:INTerface:K192:IVOice:RNUMber
			Subaddress :SYSTem:INTerface:K192:IVOice:RSUBaddress
			Channel :SYSTem:INTerface:K192:IVOice:RCHannel
		Local	Subaddress :SYSTem:INTerface:K192:IVOice:LSUBaddress
			Channel :SYSTem:INTerface:K192:IVOice:LCHannel

表 A.2-5 System 副画面のコマンド一覧表(3/3)

設定項目				コマンド
G. 704/I.431 1.544M Interface	Test mode			:SYSTem:INTerface:M1_5:TMODe
	Call loop			:SYSTem:INTerface:M1_5:CLOOp
	ISDN Data	Remote	Number	:SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:RNUMber
			Subaddress	:SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa :RSUBaddress
			Channel	:SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:RCHannel
			H0 Channel	:SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa :RHCHannel0
		Local	Subaddress	:SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa :LSUBaddress
			Channel	:SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa:LCHannel
			H0 Channel	:SYSTem:INTerface:M1_5:IDATa :LHCHannel0
	ISDN Voice	Remote	Number	:SYSTem:INTerface:M1_5:IVOice:RNUMber
			Subaddress	:SYSTem:INTerface:M1_5:IVOice :RSUBaddress
			Channel	:SYSTem:INTerface:M1_5:IVOice:RCHannel
		Local	Subaddress	:SYSTem:INTerface:M1_5:IVOice :LSUBaddress
			Channel	:SYSTem:INTerface:M1_5:IVOice:LCHannel
G. 704/I.431 2.048M Interface	Test mode			:SYSTem:INTerface:M2:TMODe
	Impedance			:SYSTem:INTerface:M2:IMPedance
	Call loop			:SYSTem:INTerface:M2:CLOOp
	ISDN Data	Remote	Number	:SYSTem:INTerface:M2:IDATa:RNUMber
			Subaddress	:SYSTem:INTerface:M2:IDATa:RSUBaddress
			Channel	:SYSTem:INTerface:M2:IDATa:RCHannel
			H0 Channel	:SYSTem:INTerface:M2:IDATa:RHCHannel0
		Local	Subaddress	:SYSTem:INTerface:M2:IDATa:LSUBaddress
			Channel	:SYSTem:INTerface:M2:IDATa:LCHannel
			H0 Channel	:SYSTem:INTerface:M2:IDATa:LHCHannel0
	ISDN Voice	Remote	Number	:SYSTem:INTerface:M2:IVOice:RNUMber
			Subaddress	:SYSTem:INTerface:M2:IVOice:RSUBaddress
			Channel	:SYSTem:INTerface:M2:IVOice:RCHannel
		Local	Subaddress	:SYSTem:INTerface:M2:IVOice:LSUBaddress
Channel			:SYSTem:INTerface:M2:IVOice:LCHannel	

■ Print 副画面

表 A.2-6 Print 副画面のコマンド一覧表

設定項目			コマンド
Print OUT			:SYSTem:PRINT:POUT
Intermediate data		印字設定	:SYSTem:PRINT:IDATa[:TYPE]
		印字周期	:SYSTem:PRINT:IDATa:PERiod
Print Items	Measuring condition		:SYSTem:PRINT:MCONdition
	Error occurrence	ON/OFF 設定	:SYSTem:PRINT:ERRor:SET
		Unit	:SYSTem:PRINT:ERRor:UNIT
		Threshold(Count)	:SYSTem:PRINT:ERRor:THReshold:EC
		Threshold (Rate)	:SYSTem:PRINT:ERRor:THReshold:ER
	Alarm occurrence		:SYSTem:PRINT:ALARm:SET
	Print save		:SYSTem:PRINT:SQUelch
	Last data	ON/OFF 設定	:SYSTem:PRINT:LDATa:SET
		Error	:SYSTem:PRINT:ILDCondition:ERRor
		Alarm	:SYSTem:PRINT:ILDCondition:ALARm
		Performance	:SYSTem:PRINT:ILDCondition:PERFormance
		HDLc Frame error	:SYSTem:PRINT:ILDCondition:HDLc

■ Floppy disk 副画面

表 A.2-7 Floppy disk 副画面のコマンド一覧表

設定項目	コマンド
Load	:SYSTem:MMEMory:RECall
Save	:SYSTem:MMEMory:STORe
Delete	:SYSTem:MMEMory:DELeTe
Makedir	:SYSTem:MMEMory:MDIRectory
Rename	:SYSTem:MMEMory:REName
Format	:SYSTem:MMEMory:INITialize
FD 情報の問い合わせ	:SYSTem:MMEMory:CATalog?
ディレクトリの移動	:SYSTem:MMEMory:CDIRectory
スクロール	:DISPlay:FDISk:SCRoll

■ Selftest 副画面

表 A.2-8 Selftest 副画面のコマンドの一覧表

設定項目	コマンド
Test mode	:TEST:TMODe
Test Item	:TEST:TITem
自己診断テスト	:TEST:STATe?
	:TEST:STARt
	:TEST:STOP
エラーコード	:TEST:ECODE?
テスト結果	:TEST:RESult?

A.3 Interface 主画面

表 A.3-1 Interface 主画面のコマンド一覧表

設定項目	コマンド
Tx 低速画面	:DISPlay:INTErface:TX:STATe?
Tx 高速画面	
Rx 低速画面	:DISPlay:INTErface:RX:STATe?
Rx 高速画面	

■ Interface 副画面（低速 Tx/Rx 画面）

表 A.3-2 Interface 副画面（低速 Tx/Rx 画面）のコマンド一覧表

設定項目		コマンド
Tx	Interface	:SOURce:TELEcom:INTErface
	Timing	:SOURce:TELEcom:TIMing
	Internal Frag. source	:SOURce:TELEcom:IFSource
	Start/Stop bit	:SOURce:TELEcom:SSBit
	Bit rete	:SOURce:TELEcom:BRATe
	Data length	:SOURce:TELEcom:DLENgth
	Parity	:SOURce:TELEcom:PARity
	Stop bit	:SOURce:TELEcom:STBit
	Byte sync	:SOURce:TELEcom:BSYNc
	Send control	:SOURce:TELEcom:SCONtrol
	Back page	:DISPlay:INTErface:TX:BPAGe
	Next page	:DISPlay:INTErface:TX:NPAGe
Rx	Interface	:SENSe:TELEcom:INTErface
	Timing	:SENSe:TELEcom:TIMing
	Start/Stop bit	:SENSe:TELEcom:SSBit
	Bit rate	:SENSe:TELEcom:BRATe
	Data length	:SENSe:TELEcom:DLENgth
	Parity	:SENSe:TELEcom:PARity
	Byte sync	:SENSe:TELEcom:BSYNc
	Back page	:DISPlay:INTErface:RX:BPAGe
	Next page	:DISPlay:INTErface:RX:NPAGe

■ Interface 副画面（高速 Tx/Rx 画面）

表 A.3-3 Interface 副画面（高速 Tx/Rx 画面）のコマンド一覧表(1/2)

設定項目		コマンド
Tx	Interface	:SOURce:TELEcom:INTerface
	Code	:SOURce:TELEcom:CODE
	Frame	:SOURce:TELEcom:FRAMe
	Internal Freq. source	:SOURce:TELEcom:IFSource
	8k Byte sync	:SOURce:TELEcom:SKB8
	Time slot	:SOURce:TELEcom:TSLot[:TYPE]
		:SOURce:TELEcom:TSLot:TSN
		:SOURce:TELEcom:TSLot:HGN
	Data channel	:SOURce:TELEcom:TSLot:DCHannel
	Channel	:SOURce:TELEcom:CHANnel
	Data bit rate	:SOURce:TELEcom:TSLot:DBRate
		:SOURce:TELEcom:TSLot:DBRN
	H0 Channel	:SOURce:TELEcom:TSLot:HCHannel0
	Time slot assign	:SOURce:TELEcom:TSLot:TSASsign
		:SOURce:TELEcom:TSLot:ATSassign
		:SOURce:TELEcom:TSLot:CTSassign
	Data Frame	:SOURce:TELEcom:DFrame[:TYPE]
	MUX	:SOURce:TELEcom:MUX
	Bit assign	:SOURce:TELEcom:BASSign
	X.50 Data channel	:SOURce:TELEcom:DFrame:XCHannel50
	E/Si bit	:SOURce:TELEcom:ESIBit
	Bit steal	:SOURce:TELEcom:BSTeal
	TS16 Frame0 xxyx	:SOURce:TELEcom:TSFRame16
	Sig. bit	:SOURce:TELEcom:SIGBit
	1st bit	:SOURce:TELEcom:BIT1
	8th Bit	:SOURce:TELEcom:BIT8
	Q bit	:SOURce:TELEcom:QBIT
	Sa bit	:SOURce:TELEcom:SABit
	SP bit	:SOURce:TELEcom:SPBit
	ST bit	:SOURce:TELEcom:SBIT
	X.50 Assign	:SOURce:TELEcom:DFrame:XASSign50
		:SOURce:TELEcom:DFrame:AXASSign50
		:SOURce:TELEcom:DFrame:CXASSign50
	Voice channel	:SOURce:TELEcom:VCHannel1
		:SOURce:TELEcom:VCHannel2
	Idle Time slot	:SOURce:TELEcom:ITSLOT
	TSn	:SOURce:TELEcom:VTSLOT
	Back page	:DISPlay:INTerface:TX:BPAGe
	Next page	:DISPlay:INTerface:TX:NPAGe

表 A.3.4 Interface 副画面（高速 Tx/Rx 画面）のコマンド一覧表(2/2)

設定項目		コマンド
Rx	Interface	:SENSe:TELEcom:INTerface
	Code	:SENSe:TELEcom:CODE
	Frame	:SENSe:TELEcom:FRAMe
	8k Byte sync	:SENSe:TELEcom:SKB8
	Time slot	:SENSe:TELEcom:TSLot[:TYPE]
		:SENSe:TELEcom:TSLot:TSN
		:SENSe:TELEcom:TSLot:HGN
	Data channel	:SENSe:TELEcom:TSLot:DCHannel
	Channel	:SENSe:TELEcom:CHANnel
	Data bit rate	:SENSe:TELEcom:TSLot:DBRate
		:SENSe:TELEcom:TSLot:DBRN
	H0 Channel	:SENSe:TELEcom:TSLot:HCHannel0
	Time slot assign	:SENSe:TELEcom:TSLot:TSASsign
		:SENSe:TELEcom:TSLot:ATSassign
		:SENSe:TELEcom:TSLot:CTSassign
	Data frame	:SENSe:TELEcom:DFRame[:TYPE]
	DEMUX	:SENSe:TELEcom:DEMux
	Bit assign	:SENSe:TELEcom:BASSign
	X.50 Data channel	:SENSe:TELEcom:DFRame:XCHannel50
	Bit steal	:SENSe:TELEcom:BSTeal
	1st bit	:SENSe:TELEcom:BIT1
	8th bit	:SENSe:TELEcom:BIT8
	X.50 Assign	:SENSe:TELEcom:DFRame:XASSign50
		:SENSe:TELEcom:DFRame:AXASSign50
		:SENSe:TELEcom:DFRame:CXASSign50
	Voice channel	:SENSe:TELEcom:VCHannel1
		:SENSe:TELEcom:VCHannel2
	Input level	:SENSe:TELEcom:ILEVel
	TSn	:SENSe:TELEcom:TSN
	Back page	:DISPlay:INTerface:RX:BPAGe
	Next page	:DISPlay:INTerface:RX:NPAGe

A.4 Measure 主画面

■ Error/Alarm 副画面

表 A.4-1 Error/Alarm 副画面のコマンド一覧表

設定項目	コマンド
Cond.1	:DISPlay:EALarm[:NAME]
Cond.2	
Result	
Character	
CAS	
FAS	

■ Error/Alarm 副画面 (Cond.1)

表 A.4-2 Error/Alarm 副画面 (Cond.1) のコマンド一覧表

設定項目		コマンド
Start time		:DISPlay:EALarm:MTIME
FECN Reset		:SENSe:MEASure:ELAPsed?
BECN Reset		:SENSe:MEASure:BRSet
Error Insert	Error type	:SOURce:TELEcom:ERRor:TYPE
	Insert rate	:SOURce:TELEcom:ERRor:ERATe
		:SOURce:TELEcom:ERRor:ERATe:RATE
Test Pattern		:SENSe:MEASure:EALarm:TPATtern
		:SENSe:MEASure:EALarm:WORD8
PRBS Invert		:SENSe:MEASure:EALarm:PINVert
PSL Threshold		:SENSe:MEASure:EALarm:PTHReshold
Error detect		:SENSe:MEASure:EALarm:EDETECT
Block length		:SENSe:MEASure:EALarm:BLENgtH
Mode		:SENSe:MEASure:EALarm:TYPE
		:SENSe:MEASure:EALarm:PERiod
Program start		:SENSe:MEASure:EALarm:BTIME:SET
		:SENSe:MEASure:EALarm:BTIME:STArT
Master/Slave		:SENSe:MEASure:EALarm:BTIME:MSLave
Alarm/Signal Ins.	AIS	:SOURce:TELEcom:ALARm:AIS
	SA	:SOURce:TELEcom:ALARm:SA
	RAI	:SOURce:TELEcom:ALARm:RAI
	XA	:SOURce:TELEcom:ALARm:XA
	HG AIS	:SOURce:TELEcom:ALARm:HAIS
	BAIS	:SOURce:TELEcom:ALARm:BAIS
	ER	:SOURce:TELEcom:SIGNal:ER
	RS	:SOURce:TELEcom:SIGNal:RS
	LLB	:SOURce:TELEcom:SIGNal:LLB
	RLB	:SOURce:TELEcom:SIGNal:RLB
	C	:SOURce:TELEcom:SIGNal:C
	IFOT	:SOURce:TELEcom:SIGNal:IFT0
	More	:DISPlay:EALarm:ASINs:MORe
Octet pattern		:SENSe:MEASure:EALarm:OPATtern
Logging line		:SENSe:MEASure:EALarm:LLINe
Histogram line		:SENSe:MEASure:EALarm:HLINe
Histogram resolution		:SENSe:MEASure:EALarm:HRESolution
HDLC Frame detect		:SENSe:MEASure:EALarm:HFDetect
Frame relay detect		:SENSe:MEASure:EALarm:FRDetect

■ Error/Alarm 副画面 (Cind.2)

表 A.4-3 Error/Alarm 副画面 (Cond.2) のコマンド一覧表

設定項目			コマンド
Start time			:DISPlay:EALarm:MTIME
Alarm/Signal Ins.	AIS		:SOURce:TELEcom:ALARm:AIS
	SA		:SOURce:TELEcom:ALARm:SA
	RAI		:SOURce:TELEcom:ALARm:RAI
	XA		:SOURce:TELEcom:ALARm:XA
	HG AIS		:SOURce:TELEcom:ALARm:HAIS
	BAIS		:SOURce:TELEcom:ALARm:BAIS
	ER		:SOURce:TELEcom:SIGNal:ER
	RS		:SOURce:TELEcom:SIGNal:RS
	LLB		:SOURce:TELEcom:SIGNal:LLB
	RLB		:SOURce:TELEcom:SIGNal:RLB
	C		:SOURce:TELEcom:SIGNal:C
	IFOT		:SOURce:TELEcom:SIGNal:IFT0
	More		:DISPlay:EALarm:ASINs:MORe
Performance			:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TYPE
Tx Threshold	ES	ON/OFF	:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:ES:SET
		S2	:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:ES:S2
		S2	:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:ES:S2
	SES	ON/OFF	:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:SES:SET
		S1	:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:SES:S1
		S2	:CALCulate:TELEcom:PERFormance:TTHReshold:SES:S2
Rx Threshold	ES	ON/OFF	:CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:ES:SET
		S1	:CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:ES:S1
		S2	:CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:ES:S2
	SES	ON/OFF	:CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:SES:SET
		S1	:CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:SES:S1
		S2	:CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:SES:S2
	US	ON/OFF	:CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:US:SET
		S1	:CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:US:S1
		S2	:CALCulate:TELEcom:PERFormance:RTHReshold:US:S2

Error/Alarm 副画面 (Result)

表 A.4-4 Error/Alarm 副画面 (Result) のコマンド一覧表

設定項目	コマンド
Start time	:DISPlay:EALarm:MTIMe
Type	:DISPlay:EALarm:RESult[:TYPE]
FECN Reset	:SENSe:MEASure:FRESet
BECN Reset	:SENSe:MEASure:BRESet
Display data	:DISPlay:EALarm:RESult:MODE
Tx Error/Tx Alarm/Rx Error/Rx Alarm	:DISPlay:EALarm:RESult:RDISplay
Error performance	:DISPlay:EALarm:RESult:MORE
Alarm performance	
Zoom の設定	:DISPlay:EALarm:RESult:ZOOM
測定結果	:CALCulate:DATA?

Error/Alarm 副画面 (Character)

表 A.4-5 Error/Alarm 副画面 (Character) のコマンド一覧表

設定項目	コマンド
Print	:SYSTem:PRINt:EALarm:CHARacter:PRINt
All1 の ON/OFF	:SOURce:TELEcom:CHARacter:ALL1
All0 の ON/OFF	:SOURce:TELEcom:CHARacter:ALL0
Store	:SYSTem:MEMory:ANALysis:STORe
キャラクタパターンの設定	:SOURce:TELEcom:CHARacter:DATA
	:SOURce:TELEcom:CHARacter:MDATa
表示開始アドレス	:DISPlay:EALarm:CHARacter:ADDReSS
Edit mode	:DISPlay:EALarm:CHARacter:EMODe
Display mode	:DISPlay:EALarm:CHARacter:DMODe
Start address	:SOURce:TELEcom:CHARacter:STADdress
Stop address	:SOURce:TELEcom:CHARacter:SPADdress
Boundary	:SOURce:TELEcom:CHARacter:BOUNdary
Shift	:SOURce:TELEcom:CHARacter:SHIFt
Invert	:SOURce:TELEcom:CHARacter:INVert
Reverse	:SOURce:TELEcom:CHARacter:REVerse
スクロール	:DISPlay:EALarm:CHARacter:SCRoll

■ Error/Alarm 副画面 (CAS)

表 A.4-6 Error/Alarm 副画面 (CAS) のコマンド一覧表

設定項目	コマンド
Signaling bit sending	:SOURce:TELEcom:CAS:SIGBit

■ Error/Alarm 副画面 (FAS)

表 A.4-7 Error/Alarm 副画面 (FAS) のコマンド一覧表

設定項目			コマンド
DL bit			:SOURce:TELEcom:FAS:DLBit
			:SOURce:TELEcom:FAS:DLBit:PATtern
SSM	SMF1	Sa4	:SOURce:TELEcom:FAS:SMF1:SA4
		Sa5	:SOURce:TELEcom:FAS:SMF1:SA5
		Sa6	:SOURce:TELEcom:FAS:SMF1:SA6
		Sa7	:SOURce:TELEcom:FAS:SMF1:SA7
		Sa8	:SOURce:TELEcom:FAS:SMF1:SA8
	SMF2	Sa4	:SOURce:TELEcom:FAS:SMF2:SA4
		Sa5	:SOURce:TELEcom:FAS:SMF2:SA5
		Sa6	:SOURce:TELEcom:FAS:SMF2:SA6
		Sa7	:SOURce:TELEcom:FAS:SMF2:SA7
		Sa8	:SOURce:TELEcom:FAS:SMF2:SA8
Sa bit			:SOURce:TELEcom:FAS:SABit

■ Frame relay 副画面

表 A.4-8 Frame relay 副画面のコマンド一覧表

設定項目		コマンド
Start time		:DISPlay:FRELay:MTIME
FECN Reset		:SENSe:MEASure:FRESet
BECN Reset		:SENSe:MEASure:BRESet
DLCI		:SOURce:TELEcom:FRELay:DLCI
Interval time		:SOURce:TELEcom:FRELay:ITIME
Alarm/Signal Ins.	AIS	:SOURce:TELEcom:ALARm:AIS
	SA	:SOURce:TELEcom:ALARm:SA
	RAI	:SOURce:TELEcom:ALARm:RAI
	XA	:SOURce:TELEcom:ALARm:XA
	HG AIS	:SOURce:TELEcom:ALARm:HAIS
	BAIS	:SOURce:TELEcom:ALARm:BAIS
	ER	:SOURce:TELEcom:SIGNal:ER
	RS	:SOURce:TELEcom:SIGNal:RS
	LLB	:SOURce:TELEcom:SIGNal:LLB
	RLB	:SOURce:TELEcom:SIGNal:RLB
	C	:SOURce:TELEcom:SIGNal:C
	IFOT	:SOURce:TELEcom:SIGNal:IFT0
	More	:DISPlay:FRELay:ASINs:MORE
測定結果		:CALCulate:DATA?

■ Delay 副画面

表 A.4-9 Delay 副画面のコマンド一覧表

設定項目		コマンド
Type		:SENSe:MEASure:DELAy:TYPE
Interval		:SENSe:MEASure:DELAy:INTerval
Start trigger		:SENSe:MEASure:DELAy:STTRigger
Stop trigger		:SENSe:MEASure:DELAy:SPTRigger
Alarm/Signal Ins.	AIS	:SOURce:TELEcom:ALARm:AIS
	SA	:SOURce:TELEcom:ALARm:SA
	RAI	:SOURce:TELEcom:ALARm:RAI
	XA	:SOURce:TELEcom:ALARm:XA
	HG AIS	:SOURce:TELEcom:ALARm:HAIS
	BAIS	:SOURce:TELEcom:ALARm:BAIS
	ER	:SOURce:TELEcom:SIGNal:ER
	RS	:SOURce:TELEcom:SIGNal:RS
	LLB	:SOURce:TELEcom:SIGNal:LLB
	RLB	:SOURce:TELEcom:SIGNal:RLB
	C	:SOURce:TELEcom:SIGNal:C
	IFOT	:SOURce:TELEcom:SIGNal:IFT0
	More	:DISPlay:DELAy:ASINs:MORE
測定結果		:CALCulate:DATA?

■ Frequency 副画面

表 A.4-10 Frequency 副画面のコマンドの一覧表

設定項目		コマンド
Line		:SENSe:MEASure:FREQuency:LINE
Gate time		:SENSe:MEASure:FREQuency:GTIMe
Interval		:SENSe:MEASure:FREQuency:INTerval
Alarm/Signal Ins.	AIS	:SOURce:TELEcom:ALARm:AIS
	SA	:SOURce:TELEcom:ALARm:SA
	RAI	:SOURce:TELEcom:ALARm:RAI
	XA	:SOURce:TELEcom:ALARm:XA
	HG AIS	:SOURce:TELEcom:ALARm:HAIS
	BAIS	:SOURce:TELEcom:ALARm:BAIS
	ER	:SOURce:TELEcom:SIGNAL:ER
	RS	:SOURce:TELEcom:SIGNAL:RS
	LLB	:SOURce:TELEcom:SIGNAL:LLB
	RLB	:SOURce:TELEcom:SIGNAL:RLB
	C	:SOURce:TELEcom:SIGNAL:C
	IFOT	:SOURce:TELEcom:SIGNAL:IFT0
	More	:DISPlay:FREQuency:ASINs:MORe
測定結果		:CALCulate:DATA?

■ Digital level 副画面

表 A.4-11 Digital level 副画面のコマンド一覧表

設定項目		コマンド
Line select		:SENSe:MEASure:DLEVel:LSElect
PCM Code		:SENSe:MEASure:DLEVel:PCODE
Alarm/Signal Ins.	AIS	:SOURce:TELEcom:ALARm:AIS
	SA	:SOURce:TELEcom:ALARm:SA
	RAI	:SOURce:TELEcom:ALARm:RAI
	XA	:SOURce:TELEcom:ALARm:XA
	HG AIS	:SOURce:TELEcom:ALARm:HAIS
	BAIS	:SOURce:TELEcom:ALARm:BAIS
	ER	:SOURce:TELEcom:SIGNAL:ER
	RS	:SOURce:TELEcom:SIGNAL:RS
	LLB	:SOURce:TELEcom:SIGNAL:LLB
	RLB	:SOURce:TELEcom:SIGNAL:RLB
	C	:SOURce:TELEcom:SIGNAL:C
	IFOT	:SOURce:TELEcom:SIGNAL:IFT0
	More	:DISPlay:DLEVel:ASINs:MORe
測定結果		:CALCulate:DATA?

Word trace 副画面

表 A.4-12 Word trace 副画面のコマンド一覧表

設定項目		コマンド
Word trace	Condition	:DISPlay:WTRace[:NAME]
	PRGM Data	

Word trace 副画面 (Condition)

表 A.4-13 Word trace 副画面 (Condition) のコマンド一覧表

設定項目		コマンド
Idle code		:SOURce:TELeCom:WTRace:ICODE
Send data		:SOURce:TELeCom:WTRace:SDATa
Send method		:SOURce:TELeCom:WTRace:SMETHod
Trace Line		:SENSe:MEASure:WTRace:TLINE
Start trigger		:SENSe:MEASure:WTRace:STTRigger
	Pattern	:SENSe:MEASure:WTRace:STPattern
Stop trigger		:SENSe:MEASure:WTRace:SPTTrigger
	Pattern	:SENSe:MEASure:WTRace:SPPattern
	Trace byte	:SENSe:MEASure:WTRace:TBYTe
Stop delay		:SENSe:MEASure:WTRace:SDELay
Alarm/Signal Ins.	AIS	:SOURce:TELeCom:ALARm:AIS
	SA	:SOURce:TELeCom:ALARm:SA
	RAI	:SOURce:TELeCom:ALARm:RAI
	XA	:SOURce:TELeCom:ALARm:XA
	HG AIS	:SOURce:TELeCom:ALARm:HAIS
	BAIS	:SOURce:TELeCom:ALARm:BAIS
	ER	:SOURce:TELeCom:SIGNAL:ER
	RS	:SOURce:TELeCom:SIGNAL:RS
	LLB	:SOURce:TELeCom:SIGNAL:LLB
	RLB	:SOURce:TELeCom:SIGNAL:RLB
	C	:SOURce:TELeCom:SIGNAL:C
	IFOT	:SOURce:TELeCom:SIGNAL:IFT0
	More	:DISPlay:WTRace:ASINs:MORE

■ Word trace 副画面 (PRGM data)

表 A.4-14 Word trace 副画面 (PRGM data) のコマンド一覧表

設定項目	コマンド
Print	:SYSTem:PRINT:WTRace:PDATa:PRINT
A111	:SOURce:TELEcom:WTRace:ALL1
A110	:SOURce:TELEcom:WTRace:ALL0
Trace data->	:SOURce:TELEcom:WTRace:TDATa
Store	:SYSTem:MEMory:ANALysis:STORe
表示開始アドレス	:DISPlay:WTRace:PRGMdata:ADDReSS
Edit mode	:DISPlay:WTRace:PRGMdata:EMODe
Display mode	:DISPlay:WTRace:PRGMdata:DMODe
Start address	:SOURce:TELEcom:WTRace:STADdress
Stop address	:SOURce:TELEcom:WTRace:SPADdress
Boundary	:SOURce:TELEcom:WTRace:BOUNDary
Shift	:SOURce:TELEcom:WTRace:SHIFt
Invert	:SOURce:TELEcom:WTRace:INVert
Revese	:SOURce:TELEcom:WTRace:REVerse
ワードパターン	:SOURce:TELEcom:WTRace:DATA
	:SOURce:TELEcom:WTRace:MDATa
スクロール	:DISPlay:WTRace:PRGMdata:SCRoll
測定結果	:CALCulate:DATA?

A.5 Analyze 主画面

■ Error/Alarm 副画面

表 A.5-1 Error/Alarm 副画面のコマンド一覧表

設定項目		コマンド
Logging/Histogram		:DISPlay:ANALysis[:NAME]
Logging	Print	:SYSTem:PRINt:ANALyze:EALogging:PRINt
	データ	:CALCulate:ANALysis:EALogging:DATA?
Histogram	Print	:SYSTem:PRINt:ANALyze:EAHistogram:PRINt
	データ	:CALCulate:ANALysis:EAHistogram:DATA?
Alarm1		:DISPlay:ANALysis:EAHistogram:ALARm1
Alarm2		:DISPlay:ANALysis:EAHistogram:ALARm2
Alarm3		:DISPlay:ANALysis:EAHistogram:ALARm3
Count/Rate		:DISPlay:ANALysis:EAHistogram:UNIT
Store		:SYSTem:MEMory:ANALysis:STORe
Marker		:DISPlay:ANALysis:EAHistogram:MDISplay
Serch		:DISPlay:ANALysis:EAHistogram:SEARch
Start time/day		:DISPlay:ANALysis:EAHistogram:GSTime
Interval		:DISPlay:ANALysis:EAHistogram:INTerval
スクロール		:DISPlay:ANALysis:EAHistogram:SCRoll

■ Trace data 副画面

表 A.5-2 Trace data 副画面のコマンド一覧表

設定項目	コマンド
Print	:SYSTem:PRINt:ANALyze:TDATa:PRINt
Store	:SYSTem:MEMory:ANALysis:STORe
表示開始アドレス	:DISPlay:ANALysis:TDATa:ADDRess
Display mode1	:DISPlay:ANALysis:TDATa:DMODE1
Display mode2	:DISPlay:ANALysis:TDATa:DMODE2
Boundary	:DISPlay:ANALysis:TDATa:BOUNDary
Invert	:DISPlay:ANALysis:TDATa:INVert
Reverse	:DISPlay:ANALysis:TDATa:REVerse
Shift	:DISPlay:ANALysis:TDATa:SHIFt
Trigger Serch	:DISPlay:ANALysis:TDATa:TSEarch
Stop Serch	:DISPlay:ANALysis:TDATa:SSEarch
スクロール	:DISPlay:ANALysis:TDATa:SCRoll
トレースデータ	:CALCulate:ANALysis:TDATa:DATA?
トレースバイト数	:CALCulate:ANALysis:TDATa:NUMBer?
ストップトリガ数	:CALCulate:ANALysis:TDATa:STRigger?

■ Protocol monitor 副画面

表 A.5-3 Protocol monitor 副画面のコマンド一覧表

設定項目	コマンド
Print	:SYSTem:PRINT:ANALyze:PMONitor:PRINT
Store	:SYSTem:MEMory:ANALysis:STORe
スクロール	:DISPlay:ANALysis:PMONitor:SCRoll
プロトコルモニタデータ	:CALCulate:ANALysis:PMONitor:DATA?

■ Recall 副画面

表 A.5-4 Recall 副画面のコマンド一覧表

設定項目	コマンド
Name	:DISPlay:ANALysis:RECall:NAME?

■ Recall 副画面 (Error/Alarm)

表 A.5-5 Recall 副画面 (Error/Alarm) のコマンド一覧表

設定項目			コマンド
Error/Alarm	Logging	Print	:SYSTem:PRINt:ANALyze:RECall:EALogging:PRINt
		データ	:CALCulate:ANALysis:RECall:EALogging:DATA?
	Histogram	Print	:SYSTem:PRINt:ANALyze:RECall:EAHistogram:PRINt
		データ	:CALCulate:ANALysis:RECall:EAHistogram:DATA?
Trace data	Print		:SYSTem:PRINt:ANALyze:RECall:TDATa:PRINt
Alarm1			:DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:ALARm1
Alarm2			:DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:ALARm2
Alarm3			:DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:ALARm3
Count/Rate			:DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:UNIT
Marker			:DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:MDISplay
Serch			:DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:SEARch
Start time/day			:DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:GSTime
Interval			:DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:INTerval
スクロール			:DISPlay:ANALysis:RECall:EAHistogram:SCRoll

■ Recall 副画面 (Trace data)

表 A.5-6 Recall 副画面 (Trace data) のコマンド一覧表

設定項目	コマンド
Print	:SYSTem:PRINt:ANALyze:RECall:TDATa:PRINt
表示開始アドレス	:DISPlay:ANALysis:RECall:TDATa:ADDRess
Display mode1	:DISPlay:ANALysis:RECall:TDATa:DMODE1
Display mode2	:DISPlay:ANALysis:RECall:TDATa:DMODE2
Boundary	:DISPlay:ANALysis:RECall:TDATa:BOUNDary
Invert	:DISPlay:ANALysis:RECall:TDATa:INVert
Reverse	:DISPlay:ANALysis:RECall:TDATa:REVerse
Shift	:DISPlay:ANALysis:RECall:TDATa:SHIFt
Trigger Search	:DISPlay:ANALysis:RECall:TDATa:TSEarch
Stop Search	:DISPlay:ANALysis:RECall:TDATa:SSEarch
スクロール	:DISPlay:ANALysis:RECall:TDATa:SCRoll
トレースデータ	:CALCulate:ANALysis:RECall:TDATa:DATA?
トレースバイト数	:CALCulate:ANALysis:RECall:TDATa:NUMBER?
ストップトリガアドレス	:CALCulate:ANALysis:RECall:TDATa:STRigger?

■ Recall 副画面

表 A.5-7 Recall 副画面 (Protocol monitor) のコマンド一覧表

設定項目	コマンド
Print	:SYSTem:PRINt:ANALyze:RECall :PMONitor:PRINt
スクロール	:DISPlay:ANALySis:RECall:PMONitor :SCRoll
プロトコルモニタデータ	:CALCulate:ANALySis:RECall:PMONitor :DATA?

A.6 正面パネル・その他

表 A.6-1 正面パネル・その他のコマンド一覧表

設定項目	コマンド
Print Now キー	:SYSTem:PRINt:COPIY:STARt
	:SYSTem:PRINt:COPIY:STOP
	:SYSTem:PRINt:COPIY:STATe?
ISDN データ用	:SYSTem:DCONnect:ISStart
	:SYSTem:DCONnect:STOP
	:SYSTem:DCONnect:STATe?
ISDN 音声用	:SYSTem:VCONnect:ISStart
	:SYSTem:VCONnect:PStart
	:SYSTem:VCONnect:STOP
	:SYSTem:VCONnect:STATe?
エラーステータス	:SYSTem:ERRor?
SCPI のバージョン	:SYSTem:VERSion?
バッテリー	:SYSTem:BATTery
Word Trace 測定	:SOURce:TELEcom:WTRace:STARt
	:SOURce:TELEcom:WTRace:STOP
	:SOURce:TELEcom:WTRace:STATe?
Error/Alarm 測定	:SENSe:MEASure:BRSet
	:SENSe:MEASure:EALarm:STOP
	:SENSe:MEASure:EALarm:STATe?
Frame relay 測定	:SENSe:MEASure:FRELay:STARt
	:SENSe:MEASure:FRELay:STOP
	:SENSe:MEASure:FRELay:STATe?
Delay 測定	:SENSe:MEASure:DELay:STARt
	:SENSe:MEASure:DELay:STO
	:SENSe:MEASure:DELay:STATe?
Frequency 測定	:SENSe:MEASure:FREQuency:STARt
	:SENSe:MEASure:FREQuency:STOP
	:SENSe:MEASure:FREQuency:STATe?
Digital level 測定	:SENSe:MEASure:DLEVel:STARt
	:SENSe:MEASure:DLEVel:STOP
	:SENSe:MEASure:DLEVel:STATe?
Word Trace 測定	:SENSe:MEASure:WTRace:STARt
	:SENSe:MEASure:WTRace:STOP
	:SENSe:MEASure:WTRace:STATe?
Protocol monitor	:SENSe:MEASure:PMONitor:STARt
	:SENSe:MEASure:PMONitor:STOP
	:SENSe:MEASure:PMONitor:STATe?
信号線/アラームモニタ	:DISPlay:MONitor:SElect
スクリーンオフ	:DISPlay:SCROff:STARt
	:DISPlay:SCROff:STOP
	:DISPlay:SCROff:STATe?
測定開始時間	:SENSe:MEASure:STIme?
測定経過時間	:SENSe:MEASure:ELAPsed?